

# 郡山遺跡第243次調査 西台畠遺跡第11次調査

—仙台市あすと長町17街区・商業施設建設に伴う発掘調査報告書—

2016年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会

イオンタウン 株式会社





郡山遺跡第243次調査区から郡山Ⅱ期官衙中心部(↓)を望む(北西から)



郡山遺跡第 243 次調査 SI50 全景（南から）



郡山遺跡第 243 次調査 SI55 遺物出土状況（南から）



郡山遺跡第243次調査SI48出土遺物



郡山遺跡第243次調査SI67出土遺物



西台烟遺跡第11次調査SI208 全景（南から）



西台烟遺跡第11次調査SI209 炭化材出土状況（南から）



西台烟遺跡第 11 次調査 SI190 出土遺物



西台烟遺跡第 11 次調査 SI202 出土遺物



畿内系土師器環（郡山遺跡第243次調査SI50出土）



弥生土器（西台畠遺跡第11次調査出土）

## 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された、郡山遺跡第243次発掘調査と西台畠遺跡第11次発掘調査の成果をまとめたものです。区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から始まり、これまで継続して行われ、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。

今回の調査地点は、郡山遺跡と西台畠遺跡の北西部にあたり、官衙が営まれた時期の竪穴住居跡が密集して確認されました。また、下層からは弥生時代の遺物包含層が確認され、良好な資料が出土しました。ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者であるイオンタウン株式会社様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、5年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ 仙台」を掲げて、復興5か年計画を進めてまいりました。昨年12月には、被災した東部と中心部を結ぶ地下鉄東西線が営業を開始するなど、復興に向けた動きが一層進むものと思います。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成28年3月

仙台市教育委員会

教育長 大越 裕光



## 例　　言

1. 本書は、仙台市あすと長町 17 街区地内の商業施設建設に伴う郡山遺跡第 243 次調査・西台畠遺跡第 11 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。
3. 本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが行った。
4. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 工藤 信一郎、小泉 博明、結城 慎一の監理の下、遺構トレス、出土遺物の登録・実測及びトレス・写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を、株式会社シン技術コンサルが担当した。
5. 本書の執筆・図版作成は、第 1 章第 1 節・第 8 章第 3 節を工藤 信一郎、第 1 章第 2 節～第 5 章・第 6 章第 3 節(1)・(2)・第 7 章・第 8 章第 1・4 節を小川 長導（株式会社シン技術コンサル）、第 6 章第 1・2 節・第 3 節(3)・第 8 章第 2 節を桑宮 慶一（株式会社シン技術コンサル）が担当した。また、遺物写真撮影は山際 哲章（株式会社シン技術コンサル）、編集は小川が担当し、坂本 勝一・大和 律子（株式会社シン技術コンサル）の協力を得た。
6. 陶磁器の年代・産地の確認は仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤 洋の協力を得た。
7. 石器・石製品の石材同定は、小川が行った。
8. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、イオンタウン株式会社にご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
9. 本書の調査成果については、これまでに宮城県考古学会などにおいて、その内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
10. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 第 1・2 図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台」1:25,000 を使用した。
2. 遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標第 X 系」を基準としている。図中及び本文記載の方位北は全て座標北（真北）を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2000 年版・2005 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
4. 断面図中の標高の数値は、海拔高度（T・P）を示す。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構毎に番号を付した。  
SA : 材木列跡 SB : 掘立柱建物跡 SD : 溝跡 SE : 井戸跡 SI : 積穴住居跡 SK : 土坑  
SM : 小溝状遺構 SX : 性格不明遺構 Pit : ピット
6. 積穴住居跡における主軸方位の算出及び壁面呼称の基準については、『西台畠遺跡第 1・2 次調査』（仙台市教育委員会 2010）に準じた。
7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。



8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたり K のあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

A : 繩文土器 B : 弥生土器 C : 土師器（非ロクロ調整） D : 土師器（ロクロ調整）  
E : 須恵器 G : 平瓦 I : 陶器 J : 磁器 Ka : 打製石器 Kc : 碾石器 Kd : 石製品  
L : 木製品 N : 金属製品 P : 土製品

9. 遺物実測図の縮尺は 1/3 を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

10. 土器・土製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。



## 黑色範圍



#### 溶解物付着範囲



自然軸付着範囲

11. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、「西台畠遺跡第1・2次調査」(前掲)に準じた。  
 12. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



節理



四



敲打



敲打痕（中）



敲打痕（弱）

13. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畠遺跡第1・2次調査』(前掲)に準じた。
  14. 土器・石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。
  15. 遺構・遺物の観察表内における（）付きの計測値は、土器類の各径について推定値、その他については残存値を示す。
  16. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。
  17. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄司 1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中心部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。  
山田一郎・庄司貞雄 1980『宮城県に分布する灰白色火山灰』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』  
仙台市教育委員会 2000『招向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集  
小口雅史 2003『古代東北の広域テフラをめぐる問題 - 十和田aと白頭山(長白山)を中心に - 』『日本律令の展開』吉川弘文館
  18. 本書で用いた時期区分は、『西台畠遺跡第4・5・7次調査』(仙台市教育委員会 2013)に準じた。その詳細については下記の通りである。

時期区分		時代・時期	土器型式・産地	土地利用 (自然観)	西台原	
大別	細別				第1・2次 (第359集)	第3・4次 (第388集)
1期	a	Ⅰ	後期	中型 安ヶ峯式	畠地	変なし
		Ⅱ		金剛寺式(楕円腹式)		
	b	Ⅰ	初期～前葉	大師B1, B2, BC式		
		Ⅱ Ⅲ Ⅳ	中期	大師C1, C2式		
2期	a	—	後葉	大師A1, A2式	水田地 (水田跡)	—
	b	—	前葉	大師A式		
	c	—	中期	今下岡式(井手行 桶形)、圓筒式		
3期	—	—	中葉	中葉(古段路) 中葉(中段路)	水田地 (水田跡)	—
4期	a	—	後葉	中在家式		
	b	—	前葉	堀田式	畠地	3a畠
	c	—	後葉	—		3b畠
5期	b	Ⅰ	古段時代	—	官衙の区画施設 畠地	1期
		Ⅱ	終木原	社日式(新)		2期
		Ⅲ	終木原	栗原式		3期
6期	—	—	終木原	—	官衙の区画施設 畠地	4期
		—	奈良時代	国分寺下屋式		4a期
		—	平安時代	高井ノ式		4b期
7期	—	—	中葉	望月(白石山)式	畠地	5期
8期	—	—	近葉	望月・大師相應	畠地	6期

# 目 次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査事由	1
第2節 調査要項	1
(1) 平成25年度 郡山遺跡第243次調査体制	1
(2) 平成26年度 西台畠遺跡第11次調査体制	2
(3) 平成27年度 調査報告書作成体制	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 郡山遺跡・西台畠遺跡の立地と地形	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第3章 調査の方法と概要	6
第1節 調査区の設定	6
第2節 調査概要	7
(1) 調査経過	7
(2) 測量基準・図面の作成	8
(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成	8
(4) 遺構登録番号	8
(5) 調査報告書作成作業	8
第4章 基本層序	9
第5章 郡山遺跡第243次調査	13
第1節 中世以降の遺構と遺物	13
(1) 小溝状遺構群	13
(2) 溝跡	17
第2節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物	24
(1) 積穴住居跡	25
(2) 掘立柱建物跡	95
(3) 区画施設	109
(4) 土坑	115
(5) ピット	121
(6) 遺構外出土遺物	138
(7) 河川跡	139
第3節 下層調査	139
第6章 西台畠遺跡第11次調査	144
第1節 中世以降の遺構と遺物	144

(1) 溝跡	144
(2) 井戸跡	149
第2節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物	175
(1) 積穴住居跡	176
(2) 掘立柱建物跡	290
(3) 区画施設	293
(4) 溝跡	299
(5) 土坑	300
(6) 性格不明遺構	308
(7) ピット	309
(8) 遺構外出土遺物	334
(9) 河川跡	336
第3節 弥生時代の遺構と遺物	338
(1) 下層調査A区	338
(2) 下層調査B区	354
(3) 下層調査C区	357
第7章 河川跡	360
第8章 総括	363
第1節 出土遺物	363
(1) 1期：縄文時代	364
(2) 2期：弥生時代	364
(3) 4a～5bii期：古墳時代後期～奈良時代	367
(4) 7・8期：中世～近世	382
第2節 古代の遺構について	388
(1) 積穴住居跡	388
(2) 掘立柱建物跡	393
(3) 郡山遺跡・西台畠遺跡における古墳時代～古代の集落	400
第3節 西台畠遺跡集落の区画施設について	406
第4節まとめ	407

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第 1 図 郡山遺跡・西台畠遺跡の位置と調査地点	2	第 35 図 SI50竪穴住居跡出土遺物	50
第 2 図 郡山遺跡・西台畠遺跡と周辺の遺跡	5	第 36 図 SI51竪穴住居跡(1)	52
第 3 図 郡山遺跡第243次調査区・西台畠遺跡 第11次調査区と周辺の調査	7	第 37 図 SI51竪穴住居跡(2)	53
第 4 図 郡山遺跡第243次調査・西台畠遺跡 第11次調査 グリッド配置図	9	第 38 図 SI51竪穴住居跡出土遺物	54
第 5 図 基本層序	11・12	第 39 図 SI52竪穴住居跡	56
第 6 図 小溝状遺構群配置図	14	第 40 図 SI52竪穴住居跡出土遺物	57
第 7 図 小溝状遺構群(1)	15	第 41 図 SI53竪穴住居跡	58
第 8 図 小溝状遺構群(2)	16	第 42 図 SI53竪穴住居跡出土遺物(1)	60
第 9 図 小溝状遺構群出土遺物	17	第 43 図 SI53竪穴住居跡出土遺物(2)	61
第 10 図 溝跡配置図	19・20	第 44 図 SI54竪穴住居跡(1)	62
第 11 図 溝跡	21	第 45 図 SI54竪穴住居跡(2)	63
第 12 図 溝跡出土遺物	23	第 46 図 SI54竪穴住居跡出土遺物	64
第 13 図 主要遺構配置図	24	第 47 図 SI55竪穴住居跡(1)	67
第 14 図 竪穴住居跡配置図	25	第 48 図 SI55竪穴住居跡(2)	68
第 15 図 SI44竪穴住居跡・出土遺物	27	第 49 図 SI55竪穴住居跡出土遺物(1)	69
第 16 図 SI45竪穴住居跡	28	第 50 国 SI55竪穴住居跡出土遺物(2)	70
第 17 国 SI45竪穴住居跡出土遺物	29	第 51 国 SI56竪穴住居跡	71
第 18 国 SI46竪穴住居跡(1)	31	第 52 国 SI56竪穴住居跡出土遺物	72
第 19 国 SI46竪穴住居跡(2)	32	第 53 国 SI57竪穴住居跡(1)	72
第 20 国 SI46竪穴住居跡出土遺物(1)	33	第 54 国 SI57竪穴住居跡(2)	73
第 21 国 SI46竪穴住居跡出土遺物(2)	34	第 55 国 SI57竪穴住居跡出土遺物	74
第 22 国 SI47竪穴住居跡(1)	35	第 56 国 SI58竪穴住居跡	76
第 23 国 SI47竪穴住居跡(2)	36	第 57 国 SI58竪穴住居跡出土遺物	77
第 24 国 SI47竪穴住居跡出土遺物	37	第 58 国 SI59竪穴住居跡	78
第 25 国 SI48竪穴住居跡	39	第 59 国 SI60竪穴住居跡(1)	79
第 26 国 SI48竪穴住居跡出土遺物(1)	40	第 60 国 SI60竪穴住居跡(2)	80
第 27 国 SI48竪穴住居跡出土遺物(2)	41	第 61 国 SI60竪穴住居跡出土遺物	81
第 28 国 SI48竪穴住居跡出土遺物(3)	42	第 62 国 SI61竪穴住居跡	83
第 29 国 SI49竪穴住居跡	44	第 63 国 SI61竪穴住居跡出土遺物	84
第 30 国 SI49竪穴住居跡出土遺物(1)	45	第 64 国 SI62竪穴住居跡	84
第 31 国 SI49竪穴住居跡出土遺物(2)	46	第 65 国 SI63竪穴住居跡	85
第 32 国 SI49竪穴住居跡出土遺物(3)	47	第 66 国 SI64竪穴住居跡	87
第 33 国 SI50竪穴住居跡(1)	48	第 67 国 SI64竪穴住居跡出土遺物	88
第 34 国 SI50竪穴住居跡(2)	49	第 68 国 SI65竪穴住居跡・出土遺物	89
		第 69 国 SI66竪穴住居跡	90
		第 70 国 SI67竪穴住居跡	91
		第 71 国 SI67竪穴住居跡出土遺物	93

第 72 図 SI68竪穴住居跡	94	第111図 河川跡	139
第 73 図 挖立柱建物跡配置図	95	第112図 1~4トレチ 平・断面図	141・142
第 74 図 SB3挖立柱建物跡	96	第113図 下層調査出土遺物	143
第 75 図 SB19挖立柱建物跡	98	第114図 溝跡・井戸跡配置図	145・146
第 76 図 SB19挖立柱建物跡出土遺物	99	第115図 溝跡・溝跡出土遺物	147
第 77 図 SB20挖立柱建物跡	100	第116図 SE1~3井戸跡	150
第 78 図 SB21挖立柱建物跡(1)	101	第117図 SE1~3井戸跡出土遺物	151
第 79 図 SB21挖立柱建物跡(2)	102	第118図 SE2・3井戸跡出土遺物	152
第 80 図 SB21挖立柱建物跡出土遺物	103	第119図 SE4・5井戸跡	153
第 81 図 SB22挖立柱建物跡(1)	103	第120図 SE4井戸跡出土遺物(1)	154
第 82 図 SB22挖立柱建物跡(2)	104	第121図 SE4井戸跡出土遺物(2)	155
第 83 図 SB23挖立柱建物跡	105	第122図 SE5井戸跡出土遺物	156
第 84 図 SB24挖立柱建物跡(1)	106	第123図 SE6井戸跡	156
第 85 図 SB24挖立柱建物跡(2)	107	第124図 SE6井戸跡出土遺物	157
第 86 図 SB25挖立柱建物跡	108	第125図 SE7井戸跡	157
第 87 図 SD11溝跡配置図	109	第126図 SE7井戸跡出土遺物	158
第 88 図 SD11溝跡(区画施設)	111・112	第127図 SE8・9井戸跡・SE8井戸跡出土遺物	159
第 89 図 SD11溝跡(区画施設)出土遺物(1)	113	第128図 SE9井戸跡出土遺物(1)	160
第 90 図 SD11溝跡(区画施設)出土遺物(2)	114	第129図 SE9井戸跡出土遺物(2)	161
第 91 図 SK1~4土坑	116	第130図 SE10井戸跡	162
第 92 図 SK1土坑出土遺物	117	第131図 SE10井戸跡出土遺物	163
第 93 図 SK2土坑出土遺物(1)	117	第132図 SE11井戸跡	164
第 94 図 SK2土坑出土遺物(2)	118	第133図 SE12・13井戸跡・ SE12井戸跡出土遺物	165
第 95 図 SK4土坑出土遺物	118	第134図 SE14・15井戸跡	166
第 96 図 土坑・ピット配置図	119・120	第135図 SE15井戸跡出土遺物	167
第 97 図 ピット(1)	121	第136図 SE16井戸跡	167
第 98 図 ピット(2)	122	第137図 SE17井戸跡・出土遺物(1)	168
第 99 図 ピット(3)	123	第138図 SE17井戸跡出土遺物(2)	169
第100図 ピット(4)	124	第139図 SE18・19井戸跡・ SE19井戸跡出土遺物	170
第101図 ピット(5)	125	第140図 SE20・21井戸跡	171
第102図 ピット(6)	126	第141図 SE20井戸跡出土遺物	172
第103図 ピット(7)	127	第142図 SE22・24井戸跡	173
第104図 ピット(8)	128	第143図 SE25・26井戸跡	174
第105図 ピット(9)	129	第144図 主要遺構配置図	175
第106図 ピット(10)	130	第145図 竪穴住居跡・掘立柱建物跡配置図	176
第107図 ピット(11)	131	第146図 SI179竪穴住居跡(1)	178
第108図 ピット(12)	132	第147図 SI179竪穴住居跡(2)	179
第109図 ピット(13)・ピット出土遺物	133		
第110図 遺構外出土遺物	138		

第148図 SI179竪穴住居跡出土遺物	180	第187図 SI195竪穴住居跡(1)	223
第149図 SI180竪穴住居跡(1)	181	第188図 SI195竪穴住居跡(2)	224
第150図 SI180竪穴住居跡(2)	182	第189図 SI195竪穴住居跡出土遺物	225
第151図 SI180竪穴住居跡出土遺物	183	第190図 SI196竪穴住居跡・出土遺物	226
第152図 SI181竪穴住居跡	185	第191図 SI197竪穴住居跡	227
第153図 SI182竪穴住居跡(1)	186	第192図 SI198竪穴住居跡	228
第154図 SI182竪穴住居跡(2)	187	第193図 SI198竪穴住居跡出土遺物	229
第155図 SI182竪穴住居跡出土遺物	188	第194図 SI199竪穴住居跡	230
第156図 SI183竪穴住居跡(1)	189	第195図 SI199竪穴住居跡出土遺物(1)	231
第157図 SI183竪穴住居跡(2)・出土遺物	190	第196図 SI199竪穴住居跡出土遺物(2)	232
第158図 SI184竪穴住居跡	192	第197図 SI200竪穴住居跡(1)	234
第159図 SI184竪穴住居跡出土遺物	193	第198図 SI200竪穴住居跡(2)	235
第160図 SI185竪穴住居跡(1)	194	第199図 SI200竪穴住居跡出土遺物	237
第161図 SI185竪穴住居跡(2)	195	第200図 SI201竪穴住居跡	238
第162図 SI185竪穴住居跡出土遺物(1)	196	第201図 SI202竪穴住居跡(1)	239
第163図 SI185竪穴住居跡出土遺物(2)	197	第202図 SI202竪穴住居跡(2)	240
第164図 SI186A竪穴住居跡(1)	199	第203図 SI202竪穴住居跡出土遺物(1)	241
第165図 SI186A竪穴住居跡(2)	200	第204図 SI202竪穴住居跡出土遺物(2)	242
第166図 SI186A竪穴住居跡出土遺物	201	第205図 SI202竪穴住居跡出土遺物(3)	243
第167図 SI186B竪穴住居跡	202	第206図 SI203竪穴住居跡	244
第168図 SI187竪穴住居跡(1)	203	第207図 SI203竪穴住居跡出土遺物	245
第169図 SI187竪穴住居跡(2)	204	第208図 SI204竪穴住居跡・出土遺物	246
第170図 SI187竪穴住居跡出土遺物	205	第209図 SI205竪穴住居跡	247
第171図 SI188竪穴住居跡	206	第210図 SI206竪穴住居跡・出土遺物	248
第172図 SI189竪穴住居跡	207	第211図 SI207竪穴住居跡	249
第173図 SI189竪穴住居跡出土遺物	208	第212図 SI208竪穴住居跡(1)	250
第174図 SI190竪穴住居跡(1)	209	第213図 SI208竪穴住居跡(2)	251
第175図 SI190竪穴住居跡(2)	210	第214図 SI208竪穴住居跡出土遺物(1)	253
第176図 SI190竪穴住居跡出土遺物(1)	211	第215図 SI208竪穴住居跡出土遺物(2)	255
第177図 SI190竪穴住居跡出土遺物(2)	212	第216図 SI208竪穴住居跡出土遺物(3)	256
第178図 SI190竪穴住居跡出土遺物(3)	213	第217図 SI209竪穴住居跡(1)	257
第179図 SI191竪穴住居跡(1)	214	第218図 SI209竪穴住居跡(2)	258
第180図 SI191竪穴住居跡(2)	215	第219図 SI209竪穴住居跡(3)	259
第181図 SI191竪穴住居跡出土遺物	216	第220図 SI209竪穴住居跡出土遺物(1)	260
第182図 SI192竪穴住居跡・出土遺物	217	第221図 SI209竪穴住居跡出土遺物(2)	261
第183図 SI193竪穴住居跡	218	第222図 SI209竪穴住居跡出土遺物(3)	262
第184図 SI193竪穴住居跡出土遺物(1)	219	第223図 SI210竪穴住居跡(1)	264
第185図 SI193竪穴住居跡出土遺物(2)	220	第224図 SI210竪穴住居跡(2)	265
第186図 SI194竪穴住居跡	221	第225図 SI210竪穴住居跡(3)	267

第226図 SI210竪穴住居跡(4) .....	268	第264図 ピット(3) .....	311
第227図 SI210竪穴住居跡出土遺物(1) .....	269	第265図 ピット(4) .....	312
第228図 SI210竪穴住居跡出土遺物(2) .....	270	第266図 ピット(5) .....	313
第229図 SI211竪穴住居跡(1) .....	271	第267図 ピット(6) .....	314
第230図 SI211竪穴住居跡(2) .....	272	第268図 ピット(7) .....	315
第231図 SI212竪穴住居跡(1) .....	273	第269図 ピット(8) .....	316
第232図 SI212竪穴住居跡(2) .....	274	第270図 ピット(9) .....	317
第233図 SI212竪穴住居跡出土遺物 .....	276	第271図 ピット(10) .....	318
第234図 SI242竪穴住居跡 .....	277	第272図 ピット(11) .....	319
第235図 SI243竪穴住居跡 .....	278	第273図 ピット(12) .....	320
第236図 SI248竪穴住居跡 .....	279	第274図 ピット(13) .....	321
第237図 SI248竪穴住居跡出土遺物 .....	280	第275図 ピット(14) .....	322
第238図 SI249竪穴住居跡 .....	280	第276図 ピット(15) .....	323
第239図 SI251竪穴住居跡 .....	281	第277図 ピット(16) .....	324
第240図 SI252A竪穴住居跡 .....	282	第278図 ピット(17) .....	325
第241図 SI252A竪穴住居跡出土遺物 .....	284	第279図 ピット出土遺物 .....	326
第242図 SI252B竪穴住居跡 .....	285	第280図 遺構外出土遺物(1) .....	334
第243図 SI252B竪穴住居跡出土遺物 .....	286	第281図 遺構外出土遺物(2) .....	335
第244図 SI253竪穴住居跡 .....	287	第282図 河川跡(1) .....	336
第245図 SI254竪穴住居跡 .....	288	第283図 河川跡(2) .....	337
第246図 SI255竪穴住居跡 .....	289	第284図 下層調査A区 平・断面図 .....	339・340
第247図 SI255竪穴住居跡出土遺物 .....	290	第285図 基本層IVd層弥生土器 出土状況図 .....	341・342
第248図 SB13掘立柱建物跡(1) .....	291	第286図 下層調査A区出土遺物(1) .....	344
第249図 SB13掘立柱建物跡(2) .....	292	第287図 下層調査A区出土遺物(2) .....	345
第250図 SB14掘立柱建物跡 .....	294	第288図 下層調査A区出土遺物(3) .....	346
第251図 区画施設・溝跡配置図 .....	295・296	第289図 下層調査A区出土遺物(4) .....	347
第252図 SD82溝跡(区画施設) .....	297	第290図 下層調査A区出土遺物(5) .....	348
第253図 SD82溝跡(区画施設)出土遺物 .....	298	第291図 下層調査A区出土遺物(6) .....	349
第254図 SA3材木列跡(区画施設) .....	299	第292図 下層調査A区出土遺物(7) .....	350
第255図 SD110溝跡 .....	299	第293図 下層調査A区出土遺物(8) .....	352
第256図 SD110溝跡出土遺物 .....	300	第294図 下層調査A区出土遺物(9) .....	353
第257図 土坑・性格不明遺構・ ピット配置図 .....	301・302	第295図 下層調査B区平面図 .....	354
第258図 SK179～187土坑 .....	305	第296図 下層調査B区断面図 .....	355・356
第259図 SK188～194土坑 .....	306	第297図 下層調査C区平面図 .....	357
第260図 土坑出土遺物 .....	307	第298図 下層調査C区断面図 .....	358
第261図 性格不明遺構 .....	308	第299図 下層調査C区出土遺物 .....	359
第262図 ピット(1) .....	309	第300図 河川跡(1) .....	360
第263図 ピット(2) .....	310	第301図 河川跡(2) .....	361・362

第302図 西台烟遺跡第11次調査 弥生土器集成図(1) .....	365
第303図 西台烟遺跡第11次調査 弥生土器集成図(2) .....	366
第304図 郡山遺跡第243次調査 主要遺構重複関係模式図 .....	368
第305図 西台烟遺跡第11次調査 主要遺構重複関係模式図 .....	369
第306図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(1) .....	370
第307図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(2) .....	371
第308図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(3) .....	372
第309図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(4) .....	373
第310図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(5) .....	374
第311図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山I期官衙期(1) .....	376
第312図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山I期官衙期(2) .....	377
第313図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山I期官衙期(3) .....	378
第314図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山I期官衙期(4) .....	379
第315図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山I期官衙期(5) .....	380
第316図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山II期官衙期(1) .....	381
第317図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 郡山II期官衙期(2) .....	382
第318図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 奈良時代(1) .....	383
第319図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 奈良時代(2)・その他(1) .....	384
第320図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 その他(2) .....	385
第321図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 その他(3) .....	386
第322図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡出土遺物 その他(4) .....	387
第323図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡集成図(1) .....	389
第324図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡集成図(2) .....	390
第325図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡集成図(3) .....	391
第326図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡集成図(4) .....	392
第327図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 竪穴住居跡集成図(5) .....	393
第328図 郡山遺跡第243次・西台烟遺跡第11次調査 掘立柱建物跡集成図 .....	398
第329図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (塙釜式期) .....	400
第330図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (住社式期新段階) .....	401
第331図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (栗園式期) .....	402
第332図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (郡山I期官衙期) .....	403
第333図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (郡山II期官衙期) .....	404
第334図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図 (奈良時代) .....	405

## 郡山遺跡第243次調査 写真図版目次

- 写真図版 1 調査区全景  
写真図版 2 穴穴住居跡(1)  
写真図版 3 穴穴住居跡(2)  
写真図版 4 穴穴住居跡(3)  
写真図版 5 穴穴住居跡(4)  
写真図版 6 穴穴住居跡(5)  
写真図版 7 穴穴住居跡(6)  
写真図版 8 穴穴住居跡(7)  
写真図版 9 穴穴住居跡(8)  
写真図版10 穴穴住居跡(9)  
写真図版11 挖立柱建物跡  
写真図版12 区画施設・溝跡(1)  
写真図版13 溝跡(2)・小溝状遺構群  
写真図版14 土坑・ピット  
写真図版15 下層調査・基本層序(1)  
写真図版16 下層調査・基本層序(2)  
写真図版17 小溝状遺構群出土遺物・溝跡出土遺物  
写真図版18 穴穴住居跡出土遺物(2)  
写真図版19 穴穴住居跡出土遺物(3)  
写真図版20 穴穴住居跡出土遺物(4)  
写真図版21 穴穴住居跡出土遺物(5)  
写真図版22 穴穴住居跡出土遺物(6)  
写真図版23 穴穴住居跡出土遺物(7)  
写真図版24 穴穴住居跡出土遺物(8)  
写真図版25 穴穴住居跡出土遺物(9)  
写真図版26 穴穴住居跡出土遺物(10)  
写真図版27 穴穴住居跡出土遺物(11)・掘立柱建物跡  
出土遺物・区画施設出土遺物(1)  
写真図版28 区画施設出土遺物(2)・土坑出土遺物(1)  
写真図版29 土坑出土遺物(2)・ピット出土遺物・  
遺構外出土遺物・X層出土遺物

## 西台畠遺跡第11次調査 写真図版目次

- 写真図版 1 調査区全景  
写真図版 2 穴穴住居跡(1)  
写真図版 3 穴穴住居跡(2)  
写真図版 4 穴穴住居跡(3)  
写真図版 5 穴穴住居跡(4)  
写真図版 6 穴穴住居跡(5)  
写真図版 7 穴穴住居跡(6)  
写真図版 8 穴穴住居跡(7)  
写真図版 9 穴穴住居跡(8)  
写真図版10 穴穴住居跡(9)  
写真図版11 穴穴住居跡(10)  
写真図版12 挖立柱建物跡・区画施設(1)・溝跡(1)  
写真図版13 区画施設(2)・溝跡(2)  
写真図版14 井戸跡(1)  
写真図版15 井戸跡(2)  
写真図版16 井戸跡(3)  
写真図版17 井戸跡(4)・土坑(1)  
写真図版18 土坑(2)  
写真図版19 土坑(3)・性格不明遺構・ピット  
写真図版20 下層調査(1)  
写真図版21 下層調査(2)  
写真図版22 下層調査(3)  
写真図版23 下層調査(4)  
写真図版24 下層調査(5)  
写真図版25 溝跡出土遺物・井戸跡出土遺物(1)  
写真図版26 井戸跡出土遺物(2)  
写真図版27 井戸跡出土遺物(3)・穴穴住居跡  
出土遺物(1)  
写真図版28 穴穴住居跡出土遺物(2)  
写真図版29 穴穴住居跡出土遺物(3)  
写真図版30 穴穴住居跡出土遺物(4)  
写真図版31 穴穴住居跡出土遺物(5)  
写真図版32 穴穴住居跡出土遺物(6)  
写真図版33 穴穴住居跡出土遺物(7)  
写真図版34 穴穴住居跡出土遺物(8)  
写真図版35 穴穴住居跡出土遺物(9)  
写真図版36 穴穴住居跡出土遺物(10)  
写真図版37 穴穴住居跡出土遺物(11)  
写真図版38 穴穴住居跡出土遺物(12)  
写真図版39 穴穴住居跡出土遺物(13)  
写真図版40 穴穴住居跡出土遺物(14)・区画施設  
出土遺物  
写真図版41 溝跡出土遺物・土坑出土遺物・ピット  
出土遺物・遺構外出土遺物(1)  
写真図版42 遺構外出土遺物(2)・下層調査A区  
出土遺物(1)  
写真図版43 下層調査A区出土遺物(2)  
写真図版44 下層調査A区出土遺物(3)  
写真図版45 下層調査A区出土遺物(4)・下層調査C区  
出土遺物

# 第1章 調査に至る経過

## 第1節 調査事由

仙台市南部の太白区長町地区では、旧国鉄長町貨物ヤード跡地一帯に計画された副都心整備事業である「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）が本事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業地内の計画路線にかかる長町駅東遺跡・西台畠遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として発掘調査を行ってきた。

また、郡山遺跡では、区画整理事業とは別に、昭和54年以來継続して発掘調査が行われ、陸奥国府である多賀城に先行する二時期の官衙（I期官衙→II期官衙）があったことが明らかになっている。

あすと長町土地区画整理事業に伴う道路等の公共用地を対象とした発掘調査（野外調査）は、平成21年度に終了したが、その後は供用が開始された事業用地での開発計画に伴い、事業者と協議の上発掘調査を行ってきた。事業地内の発掘調査は、平成10年の西台畠遺跡から現在まで継続して行われているが、7世紀中頃から8世紀初めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数600軒以上発見されている。

今回の調査は、あすと長町土地区画整理事業地内17街区においてイオンタウン株式会社により計画された商業施設建設に伴い、平成25年3月25日付けて仙台市教育委員会に事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出されたことに始まる。

開発予定地は、既存の道路により区画され、北半部は郡山遺跡に、南半部は西台畠遺跡として登録されている。平成16・17年に、土地区画整理事業に伴い行われた郡山遺跡第167次調査区の南西と、西台畠遺跡第3次調査区の西に隣接している。平成24年度当初から、事業者から建築計画に伴う発掘調査の実施について問合せがあり、その後いくつかの建築計画に基づいた協議を続けていたが、最終的な建築計画が固まつたことから協議書の提出となつた。

教育委員会と事業者の協議の結果、発掘調査は3年計画で行うこととなり、初年度は郡山遺跡第243次調査として、2年次は西台畠遺跡第11次調査として計画された建物部分を対象に実施し、発掘調査報告書の作成は3年次に行うこととした。

## 第2節 調査要項

### (1) 平成25年度 郡山遺跡第243次調査体制

遺跡名：郡山遺跡（宮城県遺跡地名番号01003 仙台市遺跡登録番号C-104）

所在地：仙台市太白区あすと長町4丁目-2

調査原因：あすと長町17街区（イオンタウン）建設に伴う埋蔵文化財の事前調査

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主任 工藤 信一郎 主事 水野 一夫

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 赤堀 岳人 調査員 桑宮 康一 調査補助員 川鍋 知秋

調査期間：平成25（2013）年10月1日～平成26（2014）年1月31日

調査面積：約 1,800m<sup>2</sup>

(2) 平成 26 年度 西台畠遺跡第 11 次調査体制

遺跡名：西台畠遺跡（宮城県遺跡地名番号 01005 仙台市遺跡登録番号 C-105）

所在地：仙台市太白区あすと長町 4 丁目 -2

調査原因：あすと長町 17 街区（イオンタウン）建設に伴う埋蔵文化財の事前調査

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主任 工藤 信一郎 主事 水野 一夫

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 小川 長導 調査員 桑宮 康一 調査補助員 坂口 一 糸川 淳子

調査期間：平成 26（2014）年 4 月 28 日～平成 26（2014）年 11 月 7 日

調査面積：約 2,300m<sup>2</sup>

(3) 平成 27 年度 調査報告書作成体制

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主任 工藤 信一郎 主事 小泉 博明 結城 慎一

整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 小川 長導 調査員 桑宮 康一 調査補助員 竹越 亜希子

整理期間：平成 27（2015）年 4 月 28 日～平成 28（2016）年 3 月 18 日



第 1 図 郡山遺跡・西台畠遺跡の位置と調査地点

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 郡山遺跡・西台烟遺跡の立地と地形（第1・2図）

郡山遺跡（1）・西台烟遺跡（2）は仙台市南東部、太白区郡山二丁目から六丁目付近に亘る遺跡で、南西側には長町駅東遺跡（3）が隣接している。遺跡の北方及び南方にそれぞれ東流する広瀬川・名取川の変流によって形成された自然堤防や後背湿地が入り組む郡山低地に位置し、遺跡は標高8～11m前後の自然堤防と後背湿地上に立地している。遺跡内からは旧広瀬川やその支流と考えられる河川跡が多数確認されており、遺跡南側には地表面に1～1.5m程度の段差が残る河川跡がみられる。

郡山遺跡は、昭和54（1979）年に実施された開発行為に伴う発掘調査を契機とし、昭和55（1980）年から遺跡の範囲や性格の解明を目的とした国庫補助事業による発掘調査が実施されている。これらの調査成果から、郡山遺跡は7世紀中頃から8世紀初頭の官衙であることが明らかになり、平成18（2006）年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山麻寺跡」として国史跡の指定を受けている。

西台烟遺跡は、昭和32（1957）年の煉瓦工場の粘土採掘中に弥生土器が発見されたことを契機として登録された遺跡であり、弥生時代中期の土器編年や葬制を考える上で学史的に注目されてきた。その後、平成10（1998）年から区画整理事業の施行に伴い、現在までに第1～13次調査が実施されている。

### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

郡山遺跡・西台烟遺跡周辺には、旧石器時代から近代にかけての遺跡が数多く分布しており、ここでは広瀬川及び名取川下流域、特に郡山低地を中心に概観する。なお、周辺の遺跡と歴史的環境の詳細については、『郡山遺跡発掘調査報告書一総括編一』（仙台市教育委員会2005）、『西台烟遺跡第1・2次調査』（仙台市教育委員会2010）を参照していただきたい。

旧石器時代 富沢遺跡（5）で約2万年前の後期旧石器時代の湿地林とともに焚火跡や石器が発見されている。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された遺跡は世界的にも希少であり、仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）として保存公開されている。

縄文時代 笹川流域の自然堤防上に多くの遺跡が確認されている。早期には低地への進出が始まり、下ノ内浦遺跡（8）では早期の竪穴住居跡が検出されている。前期から中期にかけては、富沢一帯が沼湿地化により人々の生活圏は上流域の丘陵地に移ったと考えられ、低地での活動痕跡が希薄となる。中期末から後期になると、再び低地における遺跡数が増加する。下ノ内浦遺跡（13）では中期末葉の敷石住居跡、下ノ内浦遺跡や大野田遺跡（10）では後期前半の配石遺構等が検出されている。後期後葉から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土しているほか、西台烟遺跡でも縄文時代後期から晩期の遺物が遺物包含層から出土している。

弥生時代 前期は調査事例が少なく詳細は不明だが、郡山遺跡から前期前半の土器が出土しており注目される。中期以降については郡山低地で多くの遺跡から水田跡が検出されているほか、当時の集落景観や生活様式を窺い知ることができる遺構・遺物が報告されている。富沢遺跡では中期前半から後期にかけての水田跡と共に木製農耕具が出土しているほか、長町駅東遺跡では中期中葉の水田跡や水路跡、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土壤墓等が検出されている。このほか、西台烟遺跡で中期の土壤墓と土器埋設遺構、南小泉遺跡（29）で中期の土器埋設遺構、下ノ内浦遺跡で後期の土壤墓と土器埋設遺構が検出されている。

古墳時代 前期末頃になると広瀬川の北側に当該地域の首長墓としては最古の前方後円墳である遠見塚古墳（28）が造られ、その周囲に広がる南小泉遺跡では前期から終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。中期

後半以降は郡山低地でも数多くの古墳が造られるようになり、兜塚古墳（32）、一塚古墳（33）、二塚古墳（34）、砂押古墳（35）等が造営されている。名取川の北側に拡がる大野田古墳群（43）は、中型の帆立貝形古墳である鳥居塚古墳（15）や春日社古墳（44）を中心とし、中期後半から後期にかけて造墓活動が行われている。近年調査された春日社古墳からは、2基の埋葬施設が検出され、革盾や鉄矛、鉄鎌等が出土している。郡山遺跡・西台畠遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されているが、続く中期については遺構・遺物は発見されておらず、後期になると再び集落が営まれ始め、I期官衙の造営を契機に活発化する。

古代 7世紀中頃になると、東北地方南部に陸奥国が設置され、仙台平野には宮城・名取評（郡）が置かれる。この地域も律令的支配体制下に組み込まれ、地域支配の拠点としての官衙と寺院が造られることになる。郡山遺跡は7世紀中頃から8世紀初頭にかけての官衙であり、「I期官衙」と「II期官衙」の二時期の変遷が確認されている。I期官衙は、7世紀中頃から末葉にかけて造られた古代陸奥国の建国に関わった重要な柵跡である。II期官衙は、多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられ、付属寺院（郡山廐寺）が併設されている。II期官衙には二重の外溝が巡り、その一辺の長さが藤原京の条坊区画線の1単位分と同等になることから、藤原京造営時の設計思想が関わっていたと考えられている。郡山遺跡の西側に隣接する西台畠遺跡と長町駅東遺跡は、郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられ、その盛衰は官衙と連動しており、多賀城成立以降の遺構・遺物の検出は激減する。長町駅東遺跡では、これまでに多数の竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期には通路状遺構を作り大溝と材木列による区画施設に取り替えが行われている。郡山遺跡の南西約1.5kmにある大野田官衙遺跡（42）では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡6棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土土器の年代幅や建物配置等から郡山遺跡II期官衙に関連する官衙跡と考えられている。大年寺山周辺には、愛宕山横穴墓群（37）、大年寺山横穴墓群（38）、宗禪寺横穴墓群（39）、茂ヶ崎横穴墓群（40）等が造られ、その多くは副葬品等の出土遺物から郡山I・II期官衙との関連が指摘されている。富沢遺跡や山口遺跡（7）からは真北方向を基準とした水田跡が確認されており、条里制地割との関わりが考えられている。下ノ内遺跡では大溝と柵列で区画された遺構が発見され、馬匹生産に関連する遺構と推定されている。

中世 交通の要衝に大規模な屋敷や城館が造られるようになる。王ノ壇遺跡（16）では、堀に囲まれた武士層の屋敷跡や阿弥陀堂と推定される仏堂跡が検出されている。このほか、波板状遺構と側溝を伴う路幅2.8~4.2mの道路跡が検出され、中世の基幹道路である奥大道と推定されている。南小泉遺跡では、大規模な堀と土塁を伴う城館跡を中心として、周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。北目城跡（4）は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を奮った栗野大膳の居城で、関ヶ原の合戦の際に伊達政宗が入城し、仙台城の完成まで居住したとされている。郡山遺跡と西台畠遺跡では、遺構に伴う遺物の出土が少ないとから詳細は不明であるが、竪穴状遺構や掘立柱建物跡、井戸跡、屋敷の区画溝としての性格が考えられる溝跡が検出されている。

近世 奥州街道沿いに位置する長町は、宿駅として機能していたことが知られている。『名取郡北方根岸村・平岡村入会絵図』にみられる長町宿の景観は、街道の両側に屋敷を計画的に配置し、宿駅全体を囲うかたちで居久根が見受けられる。若林城跡（30）は、土塁と幅約20mの堀で囲まれた平城で、伊達政宗が晩年を過ごしたとされる。南小泉遺跡では、若林城下町の武家屋敷跡と考えられる遺構が検出されている。

近代・現代 明治20（1887）年の東北本線開通後、明治29（1896）年に長町駅が営業を開始する。その後、大正11（1922）年に駅舎の改築と同時に操車場の建設が開始され、大正13（1924）年に長町操車場として開業した。その後、1980年代後半に貨物駅としての機能を停止するまで、北日本最大の貨物の操車場として物流の重要な拠点となった。西台畠遺跡の範囲には国鉄仙台資材センターや民間の煉瓦工場が位置していたことから、煉瓦の原料となる粘土の採掘坑等によって遺構面が影響を受けている地点もある。



国土地理院発行 数値地図 1/25,000 「仙台」巻一部改定

No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	郡山遺跡	古墳跡・寺跡	自然堤防	平安～中世	23	河原遺跡	古墳地	自然堤防	古墳～平安
2	西台御陵跡	古墳跡・集落跡	自然堤防	平安～中世	24	押木島跡	古墳地	自然堤防	古墳～平安
3	長町聖母遺跡	古墳跡・集落跡	自然堤防の後背湿地	平安～中世	25	中幡六丁目跡	古墳地	自然堤防	平安～中世
4	北日城跡	城跡・集落跡	自然堤防	平安～中世	26	神幡遺跡	古墳地	自然堤防	平安～中世
5	高堤遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	27	砂押1号跡	古墳地	自然堤防	古墳～平安
6	泉岡遺跡	台地跡	自然堤防	平安	28	道見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
7	山王1号跡	集落跡・水田跡	自然堤防	平安・奈良・平安・平安	29	南小畠遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	平安～中世
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	平安～平安	30	若林城跡	城跡	自然堤防	中世・近世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	31	茂ヶ崎跡	城跡	丘陵	中世
10	大野田遺跡	墓地	自然堤防	平安	32	伊豫古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
11	袋前遺跡	集落跡・古墳	自然堤防	平安	33	一峰古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	八反田遺跡	集落跡	自然堤防	平安	34	塙古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	大野田内浦跡	集落跡	自然堤防	平安	35	四押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊佐野遺跡	墓地	自然堤防	平安	36	中幡二丁目跡	古墳地	自然堤防	中世
15	猪崎等々寺跡	古墳	自然堤防	古墳	37	砂押2号跡	横穴墓	丘陵斜面	古墳
16	玉ノ瀬遺跡	集落跡・居住跡	自然堤防の後背湿地	平安～中世	38	大字・河原6丁目跡	横穴墓	丘陵斜面	古墳
17	の頭遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	39	三隈寺横穴墓跡	横穴墓	丘陵斜面	古墳
18	道ノ東遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	40	茂ヶ崎古墳	横穴墓	丘陵斜面	古墳
19	矢ノ上1号跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	41	二ツ塙6丁目跡	横穴墓	丘陵斜面	古墳
20	矢ノ上2号跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	42	大野田古墳群	古墳・集落跡	自然堤防	古墳
21	矢ノ上3号跡	古墳地	自然堤防	古墳～平安	43	大野田古墳群	古墳・集落跡・貯藏	自然堤防	古墳
22	末来遺跡	古墳地	自然堤防	古墳	44	44番社古墳	古墳	自然堤防	古墳

第2図 郡山遺跡・西台畠遺跡と周辺の遺跡

## 第3章 調査の方法と概要

### 第1節 調査区の設定（第3回）

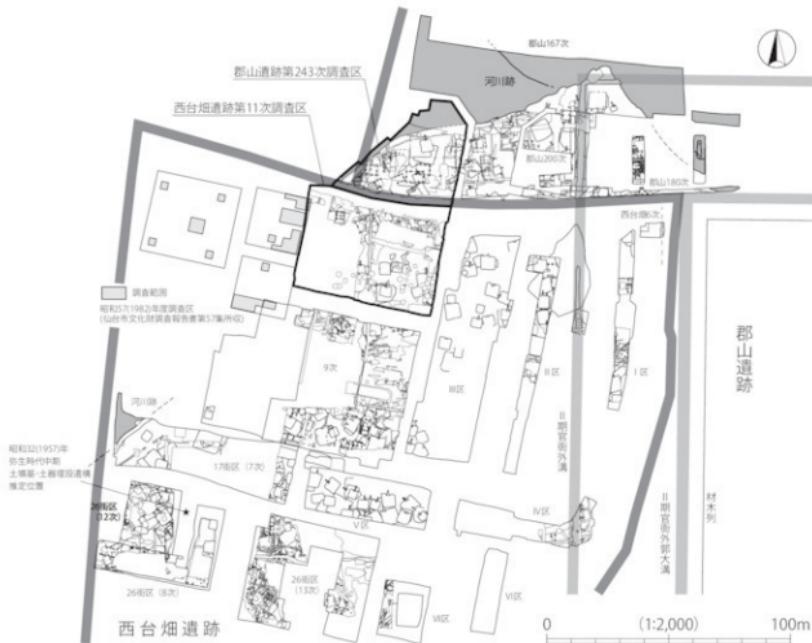
今回の調査は、商業施設建設に伴う事前調査として2ヶ年計画で実施した。調査対象地は、郡山遺跡と西台烟遺跡に跨ることから、平成25（2013）年度は敷地北半部の郡山遺跡を対象とした郡山遺跡第243次調査を実施し、平成26（2014）年度には南半部の西台烟遺跡を対象とした西台烟遺跡第11次調査を実施した。調査区周辺には、北東側に郡山遺跡第167次調査区、東側に西台烟遺跡Ⅲ区（第3次調査）、南側に西台烟遺跡第9次調査区、西側に昭和57（1982）年度調査区がそれぞれ隣接している。

郡山遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
平成13年 (2001)	144次調査	22～25街区内蔵道路	Ⅰ期住居跡溝跡、溝跡、木生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第358集 2010年3月
平成16年 (2004)	167次調査	郡市計画道路折立原・霞状原	Ⅱ期住居跡18軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡9条、土坑、河川跡（広瀬川） 道構築測量調査	
平成17年 (2005)	167次調査	郡市計画道路長町・八木山原	Ⅱ期住居跡6軒、掘立柱建物跡2棟、土坑、Ⅱ期古物外溝北西コーン一部、 河川跡（広瀬川）	仙台市文化財調査報告書第412集 2013年3月
平成18年 (2006)	180次調査	21街区南北透垣幅	Ⅱ期住居跡10軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡6条、河川跡（広瀬川）	
平成20・21年 (2008・09)	190次調査	郡市計画道路長町・八木山原	Ⅱ期住居跡17軒、Ⅲ期透垣基1基、掘立柱建物跡7棟、木材例1束、 河川跡	仙台市文化財調査報告書第389集 2011年12月
平成20・21年 (2008・09)	196次調査	霞状原東	Ⅱ期住居跡10軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡、河川跡、 佐生時代中期古物跡	仙台市文化財調査報告書第412集 2013年3月
平成22年 (2010)	200次調査	21街区店舗建設	Ⅱ期住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡5条、区画溝1条、 木材例1束	仙台市文化財調査報告書第391集 2011年3月
平成25年 (2013)	243次調査	17街区・商業施設建設に伴う調査	Ⅱ期住居跡25軒、掘立柱建物跡8棟、区画溝1条、溝跡10条、土坑4基、 ビット145基、小溝状透垣跡、河川跡（広瀬川）	本書

西台烟遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
昭和57年 (1982)	—	遺跡北西部	河川跡	仙台市文化財調査報告書第57集 1983年3月
平成10年 (1998)	第1次調査	I・II・IV・V・VI・VII区 道構築測量調査	Ⅱ期住居跡31軒、掘立柱建物跡4棟、溝跡、土坑 中規模透堀跡、井戸跡、佐生時代遺物包含層	
平成11年 (1999)	第2次調査	II区南・IV区西 I区・II区南・IV区下層調査 道構築測量調査	Ⅱ期住居跡3軒、溝跡、土坑 佐生時代遺物包含層、上部厚泥過橋、土礫塗 Ⅱ期住居跡1軒、溝跡、ビット	仙台市文化財調査報告書第359集 2010年3月
平成12年 (2000)	第3次調査	I区北・IV区東 II区北抵張跡・III区 V区東	Ⅱ期住居跡4軒、溝跡、土坑 Ⅱ期住居跡2軒、溝跡、土坑、 Ⅱ期住居跡8軒、溝跡、井戸跡、土坑、佐生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第388集 2011年3月
平成13年 (2001)	第4次調査	V区西	Ⅱ期住居跡18軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡	仙台市文化財調査報告書第411集 2013年3月
平成17年 (2005)	第5次調査	V区下層調査 17街区道構築測量調査	溝跡、佐生時代水田跡 Ⅱ期住居跡16軒、溝跡	
平成19年 (2007)	第6次調査 第7次調査	個人住宅建設 17街区南側IC周辺道路	Ⅱ期住居跡2軒、溝跡2条、土坑 Ⅱ期住居跡3軒、溝跡3棟、木材例1束、溝跡、土坑、 佐生時代水田跡、道構築	仙台市文化財調査報告書第326集 2008年3月 仙台市文化財調査報告書第411集 2013年3月
平成24年 (2012)	第8次調査	20街区・高崎駅前施設建設に伴う調査	Ⅱ期住居跡3軒、溝跡、土坑、佐生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第409集 2013年1月
平成25年 (2013)	第9次調査 第10次調査	17街区・共同住宅建設に伴う調査 26街区・共同住宅・駐車場建設に伴う調査	Ⅱ期住居跡41軒、掘立柱建物跡11棟、区画溝1条、井戸跡、土坑、 溝跡、河川跡、佐生時代水田跡、佐生時代溝跡	仙台市文化財調査報告書第441集 2016年3月 仙台市文化財調査報告書第427集 2014年3月
平成26年 (2014)	第11次調査 第12次調査	17街区・商業施設建設に伴う調査 26街区・商業施設建設に伴う調査	Ⅱ期住居跡45軒、掘立柱建物跡2棟、区画溝1条、木材例1束、溝跡10条、 井戸跡25基、土坑16基、ビット205基、河川跡（広瀬川） Ⅱ期住居跡34軒、一本柱跡1条、溝跡6条、土坑、 佐生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第433集 2015年3月
平成27年 (2015)	第13次調査	26街区共同住宅建設に伴う調査	Ⅱ期住居跡28軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑23基、 溝跡33条、ビット560基	本書



第3図 都山遺跡第243次調査区・西台烟遺跡第11次調査区と周辺の調査

## 第2節 調査概要（第3・4図）

### （1）調査経過

#### 平成25年度 都山遺跡第243次調査

調査は、調査区北東側から重機を用いて表土を除去し、その後人力によって遺構検出、精査を行った。粘土採掘やレンガ・石炭ガラの廃棄等による影響を受けているものの、古代の遺構検出面が残存していることが確認され、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡8棟、区画溝1条、溝跡10条、土坑4基、ピット145基、小溝状遺構群、河川跡等の遺構と土器師・須恵器等の遺物が出土した。古代の遺構精査を終えた段階で、ラジコンヘリによる調査区全景の写真撮影を行った。その後、河川跡の堆積状況や縄文・弥生時代の遺構や遺物包含層の有無を確認するため、トレチを4ヶ所設定し、重機による掘り下げを行った。トレチ1では弥生時代以前の地形が南側に向かって低くなることを確認したほか、トレチ1・2では縄文時代の遺物包含層を検出した。トレチ2～4では断面観察による河川跡の確認を行い、1月31日に野外調査を終了した。その後、3月に調査区の埋め戻しと次年度調査予定の西台烟遺跡第11次調査区の表土掘削を行った。

#### 平成26年度 西台烟遺跡第11次調査

前年度に表土掘削を行ったため、人力による遺構検出、精査から開始した。調査区の西半分は、擾乱による影響を大きく受けしており、古代の遺構検出面は残存していないかったが、中世の井戸跡を検出した。東半部は旧国鉄時代

の建物基礎等による影響を受けており、古代の遺構検出面は上面が削平されているものの、竪穴住居跡 45 軒、掘立柱建物跡 2 棟、区画溝 1 条、材木列跡 1 条、井戸跡 25 基、土坑 16 基、溝跡 10 条等の遺構と土師器・須恵器等の遺物が出土した。調査区南側の井戸跡等から弥生土器が出土していることから、調査区南側の古代面の遺構調査が終了した段階で、下層調査 A・B 区の 2 ヶ所を設定し、縄文・弥生時代の調査を行った。A 区では弥生時代以前の河川跡が検出され、弥生土器・石器等の遺物が出土し、B 区では縄文時代の遺物包含層を検出した。その後、縄文・弥生時代の遺物包含層の有無及び郡山遺跡第 243 次調査との基本層序を確認するため、調査区北東側に下層調査 C 区を新たに設定し調査を行った。また、前年度の郡山遺跡第 243 次調査で確認されていた河川跡の南西側延長部分を確認するために調査区北西側に下層調査 D 区を設定し、断面観察により河川跡の存在を確認し、11 月 7 日に野外調査を終了した。

## (2) 測量基準・図面の作成

測量は、日本測地系「平面直角座標系第 X 系」を基準として、調査対象地である郡山遺跡第 243 次調査区及び西台畠遺跡第 11 次調査区全体を網羅するように、南北 5m × 東西 10m を単位とする平面区配図を作成した。平面区配図は北西端を 1 とし、南東端の 106 までの番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

## (3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

## (4) 遺構登録番号

遺構登録番号は、あすと長町土地区画整理事業関連発掘調査開始時からの通し番号としたが、井戸跡や性格不明遺構、小ピットについてはそれぞれ 1 番から番号を付した。また、隣接する郡山遺跡第 167 次調査や西台畠遺跡第 9 次調査で検出された遺構と同一遺構と判断した場合は、同じ遺構番号を使用した。なお、西台畠遺跡では、隣接する地点で第 9・12 次調査が並行して行われていたことから、遺構番号については調査時点で相互に調整して使用している。

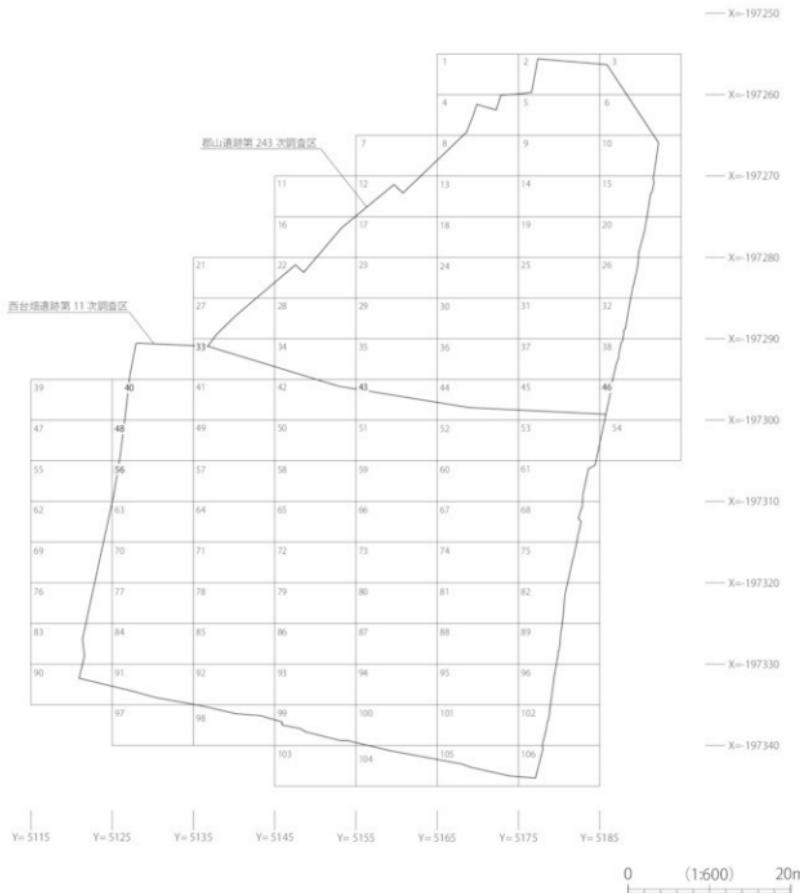
## (5) 調査報告書作成作業

報告書作成に向けた整理作業は、2 ヶ年にわたり作業を行った。

平成 26 年度 西台畠遺跡第 11 次調査の野外調査と並行して、郡山遺跡第 243 次調査出土遺物の基礎整理（水洗・バインダー処理・註記）を現地調査事務所で行った。野外調査終了後は、宮城県仙台市太白区に所在する株式会社シン技術コンサル東北支店で、郡山遺跡第 243 次調査の実測対象遺物の抽出・遺物登録・実測図作成及び西台畠遺跡第 11 次調査の基礎整理（水洗・バインダー処理・註記）・実測対象遺物の抽出・遺物登録を行った。

平成 27 年度 株式会社シン技術コンサル東北支店で、実測図作成・遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆等を行った。

整理作業中は必要に応じて作業内容の確認・協議を行っている。特に、遺構図及び縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・鉄製品・石器・石製品・土製品の実測図・デジタルトレースについては、株式会社シン技術コンサル東北支店または仙台市向田埋蔵文化財整理室において調査資料や実測図と遺物を搬入し、点検を行った。



第4図 都山遺跡第243次調査・西台烟遺跡第11次調査 グリッド配置図

## 第4章 基本層序

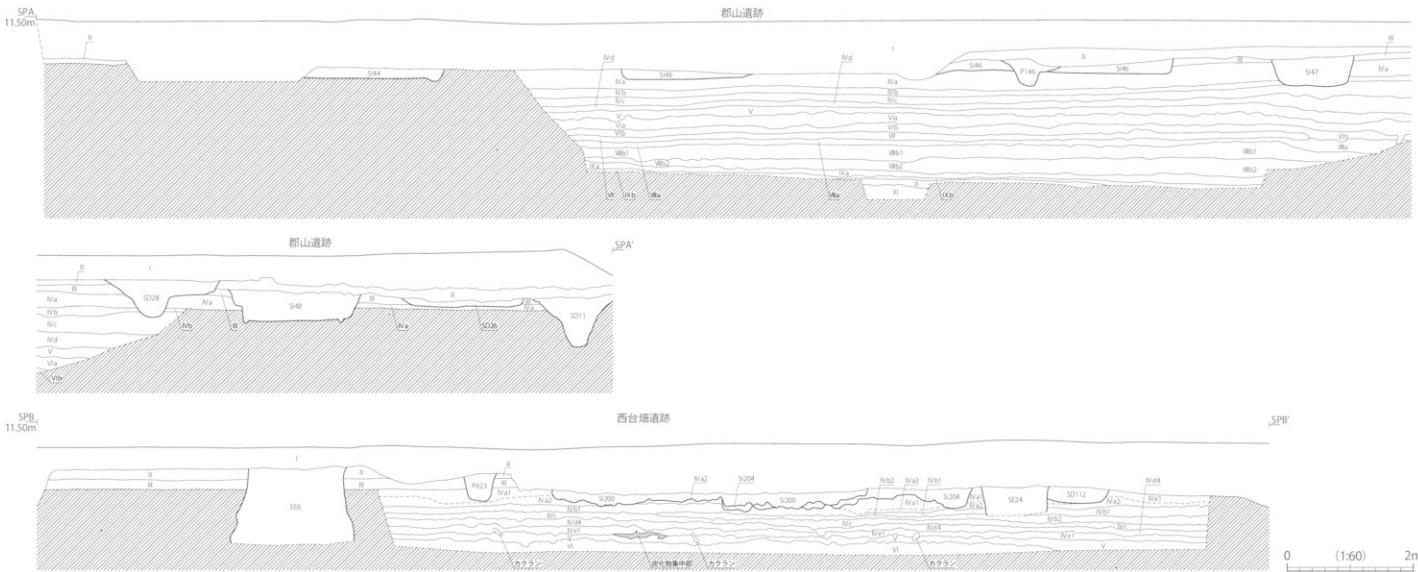
西台烟遺跡と都山遺跡の一部は、旧国鉄仙台資材センターや民間の煉瓦工場跡地内に所在し、大規模な削平及び盛土・整地が行われていたことが確認されている。今回の調査地点においても全域で盛土層が認められ、都山遺跡第243次調査区の西端から西台烟遺跡第11次調査区の西半部は大きな搅乱を受けており、古代の遺構検出面は残存していない。また、遺構検出面が残存している範囲においても、部分的に搅乱や削平が遺構検出面まで達しており、遺構上面が大きく失われている。このため、全体的に遺構の残存状況が悪く、新旧関係や性格が不明な遺構も存在する。

基本層序は、調査区東壁及び下層調査の壁面にて観察した。周辺調査区の基本層序と照合し、I～XI層までの土層を確認したが、IV層より下層については調査地点毎に様相が異なる。これは西台畠遺跡第11次調査の下層調査A・B区で検出された弥生時代以前の河川跡の影響を受けているものと考えられる。

I層は近・現代の盛土層である。II層は中世から近世にかけての堆積土で、西台畠遺跡第1・2次調査では、中世から近世にかけての耕作土・水田土壤であることが確認されている。今回の調査区では、本層上面から掘り込まれている遺構を確認した。III層は古代の遺構掘り込み面である。IV層は黄褐色系のシルト層を主体とする。今回の調査では本層上面を遺構検出面とした。IV層は弥生時代中期中葉の遺物包含層であり、西台畠遺跡第11次調査では、IV d層から遺物が出土している。V・VI層は、周辺の調査区では弥生時代中期前葉～中葉の遺物包含層だが、今回の調査区では出土していない。X・XI層は縄文時代後期中葉から晩期中葉の遺物包含層で、郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査において、X層から縄文時代後期後葉の遺物が僅かに出土している。

以下、基本層序について記載する。なお、下層調査の詳細については、各遺跡の報告で記載する。

- I層 近・現代の盛土層で現表土である。層厚は37～94cmである。
- II層 郡山遺跡第243次調査区及び西台畠遺跡第11次調査区の東端で部分的に確認された。暗褐色を基調とするシルト層で、層厚は8～32cmを測る。調査区断面の観察から、本層上面から中世以降の遺構が掘り込まれていることを確認した。
- III層 郡山遺跡第243次調査区及び西台畠遺跡第11次調査区の東端で部分的に確認された。暗褐色ないし黒褐色を基調とするシルト層で、IV層土ブロックや炭化物、焼土粒を含む。層厚は4～16cmを測る。調査区断面の観察から、本層上面から古代の遺構が掘り込まれていることを確認した。
- IV層 今回の調査では、本層上面を遺構検出面とした。褐色ないし黄褐色・にぶい黄褐色を基調とするシルトないし砂質シルト層を主体とする。層厚は52～98cmを測る。調査地点毎に様相が異なり、色調と土性から大別5層・細別12層に細分され、部分的に炭化物が集中する箇所がある。IV層は弥生時代中期中葉の遺物包含層で、今回の調査では西台畠遺跡第11次調査のIV d層から当該期の遺物が出土している。西台畠遺跡第11次調査の下層調査B区では、壁面の観察から、IV層土中に数条の小河川跡を確認した。
- V層 褐色ないし黄褐色・にぶい黄褐色を基調とする粘土質シルトないしシルト層を主体とし、層厚は6～22cmを測る。弥生時代中期以前の自然堆積層である。西台畠遺跡第11次調査では、本層上面に炭化物が集中する箇所がある。
- VI層 黄褐色ないし褐色・暗褐色を基調とする砂質シルトないしシルト層を主体とし、層厚は16～34cmを測る。
- VII層 褐色ないし灰褐色・暗褐色を基調とする粘土質シルト層で、層厚は10～20cmを測る。色調と土性から2層に細分される。
- VIII層 にぶい黄褐色砂質シルトまたは黄褐色ないし明黄褐色細砂層で、層厚は2～10cmを測る。
- IX層 褐色ないしにぶい黄褐色を基調とする細砂ないし砂質シルト層で、層厚は28～78cmを測る。色調と土性から大別4層・細別5層に細分される。
- X層 黒色ないし黒褐色と黄褐色系の粘土ないし粘土質シルト層で、層厚24～56cmを測る。色調と土性から大別2層・細別5層に細分される。今回の調査では、郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査で、縄文時代後期末葉と考えられる遺物が出土している。
- XI層 灰白色ないし明青灰色粘土質シルトまたは暗灰黄色ないし黄褐色細砂層で、層厚38cm以上を測る。色調と土性から2層に細分される。



都山遺跡 東望組本層序

層位	上色	土性	備考
I	—	近・現代の地上・整地層。	
II	10R3/4 黄褐色	シルト	
III	10R3/3 黄褐色	シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、炭化物類・埴土類 微量含む。
N	a 10V8/6 黄褐色 b 10V8/6 黄褐色 c 10V8/6 黄褐色 d 10V8/6 黄褐色	砂質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	粘土色上ブロック(5mm程度)少量含む。 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。
V	a 10V8/4 黄褐色 b 10V8/4 黄褐色	シルト シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。
VI	b 10V8/4 黄褐色	砂質シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。
VII	a 10V8/4 黄褐色 b1 10V8/6 明黄褐色 b2 10V8/6 明黄褐色	シルト 砂質シルト 砂質シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。 古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。
IX	a 10V8/4 黄褐色 b 10V8/4 に近い黄褐色	シルト シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物微量含む。
X	10V8/2 黑褐色	粘土質シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物少量含む。
XI	10V8/1 黄褐色	粘土質シルト	古墳上ブロック(10~20mm)少量、 灰白色を帯びて、炭化物少量含む。

西台畠遺跡 東壁基本層序

層位	上色	土性	備考
I	—	近・現代の地上・整地層。	
II	10R3/4 黄褐色	シルト	
III	10V8/2 黄褐色	シルト	古墳上ブロック(5~10mm)少量含む。部分的に炭化物。 埴土含む。
N	a1 10V8/4 黄褐色 a2 10V8/4 黄褐色	シルト シルト	古墳上ブロック(5~30mm)・マンガン粉多量 含む。 古墳上ブロック(5~30mm)・マンガン粉多量 含む。古1帶よりやや多い。
b	10V8/5 黄褐色	シルト	古墳上ブロック(5~30mm)・古1帶よりやや多い。
b2	10V8/5 黄褐色	シルト	古墳上ブロック(5~30mm)・古1帶よりやや多い。
c	10V8/5 に近い黄褐色	シルト	古墳上ブロック(5~30mm)・古1帶よりやや多い。
d4	10V8/4 黄褐色	粘土質シルト	古墳上砂質土多量、炭化物少量含む。
e1	10V8/6 黄褐色	砂質シルト	古1帶黄砂質土多量、炭化物少量含む。
V	10V8/4 黄褐色	粘土質シルト	古1帶黄砂質土多量、炭化物少量含む。
VI	10V8/8 黄褐色	砂質シルト	古1帶黄土質土を幾Gに含む。

第5図 基本層序





## 第5章 郡山遺跡第243次調査

第243次調査は基本層IV層上面を遺構検出面として実施した。前章でも触れたように、本調査区は近・現代の搅乱を受けており、自然堆積層や遺構・遺物の残存状況が悪い。検出された遺構は、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡8棟、区画溝1条、溝跡10条、土坑4基、ピット145基、小溝状遺構群、河川跡である。遺構の時期は、概ね中世以降、古墳時代後期～古代、縄文時代後期末葉の三時期に分けられる。遺物は、土師器・須恵器を主体として、鉄製品・石製品・土製品などコンテナ55箱程度が出土している。

以下、時期毎に記載する。

### 第1節 中世以降の遺構と遺物（第6～12図）

本節では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、重複関係や出土遺物から当該期と考えられる小溝状遺構群と溝跡10条について記載する。いずれも時期決定できる遺物がなく、詳細な時期が不明なものが多い。

#### (1) 小溝状遺構群（第6～9図）

調査区中央から南西部にかけて小溝状遺構48条（SM97～144）を検出した。これらは主軸方向や堆積土が類似しており、配置や平面形状、断面形状により4群に分けられる。いずれも時期決定できる遺物はないが、小溝状遺構A・D群から近世陶磁器が出土している。

#### 小溝状遺構A群（第6～9図）

調査区北西部の8・12・13・17・18グリッドに位置する。概ね南北方向に延びるSM97～116・141の21条で構成される。SI50・53・62・63・64・66、SD29、Pit5より新しい。主軸方向はN-2～10°-Eである。検出した規模は、長さ75～857cm、幅18～72cm、深さ2～40cmを測る。平面形状は幅に均一性はなく歪で、断面形状は逆台形ないし「U」字状を呈する。底面は起伏が激しく、深くピット状に落ち込む部分が多くみられた。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。なお、東半部と西半部では平面形状や断面形状が異なり、別の一群を形成する可能性も考えられる。遺物は土師器・須恵器・近世陶磁器・鉄製品が出土している。SM107から出土した須恵器壺を掲載した（第9図-1）。外縁部と体部の境に、沈線状の段を持つ。平底の底部から体部が外反して立ち上がり、口縁部は直線的に内傾する。底部には回転ヘラ切りの痕跡がみられる。色調は、外面が灰色、内面が褐灰色を呈し、胎土には砂粒や黑色粒子、海綿骨針を含む。

時期決定できる遺物はないが、出土遺物から8期（近世）以降と考えられる。

#### 小溝状遺構B群（第6～8図）

調査区南西部の28・29グリッドに位置する。概ね南北方向に延びるSM117～122の6条で構成される。SM117以外は南側が搅乱により失われている。SB20・23、Pit93・135より新しい。主軸方向はN-0～3°-Eである。検出した規模は、長さ130～255cm、幅20～43cm、深さ5～9cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、堆積土が小溝状遺構A・D群と類似しており8期（近世）以降と考えられる。

## 小溝状遺構C群（第6～9図）

調査区中央部の23・24・29・30グリッドに位置する。概ね南北方向に延びるSM123～140の18条で構成される。削平により南端部の大半が失われている。SI52・54・55、SB19・21・24、SK1、Pit13・60～63・127・134・145より新しい。主軸方向はN-7°-W-N-13°-Eである。検出した規模は、長さ75～783cm、幅20～52cm、深さ3～7cmを測る。断面形状は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦で、一部に工具痕とみられる痕跡が認められた。堆積土は褐色ないし灰黃褐色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロックを微量含む。SM140にはマンガン・酸化鉄の集積がみられた。遺物はSM124～135・137～140から土師器・須恵器が出土している。SM129から出土した土師器高壺を掲載した（第9図-2）。壺部の破片資料で、口縁部と体部の境は、外面に明瞭な段、内面に棱を持ち、体部から口縁部にかけて大きく開く。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、堆積土が小溝状遺構A・D群と類似しており8期（近世）以降と考えられる。

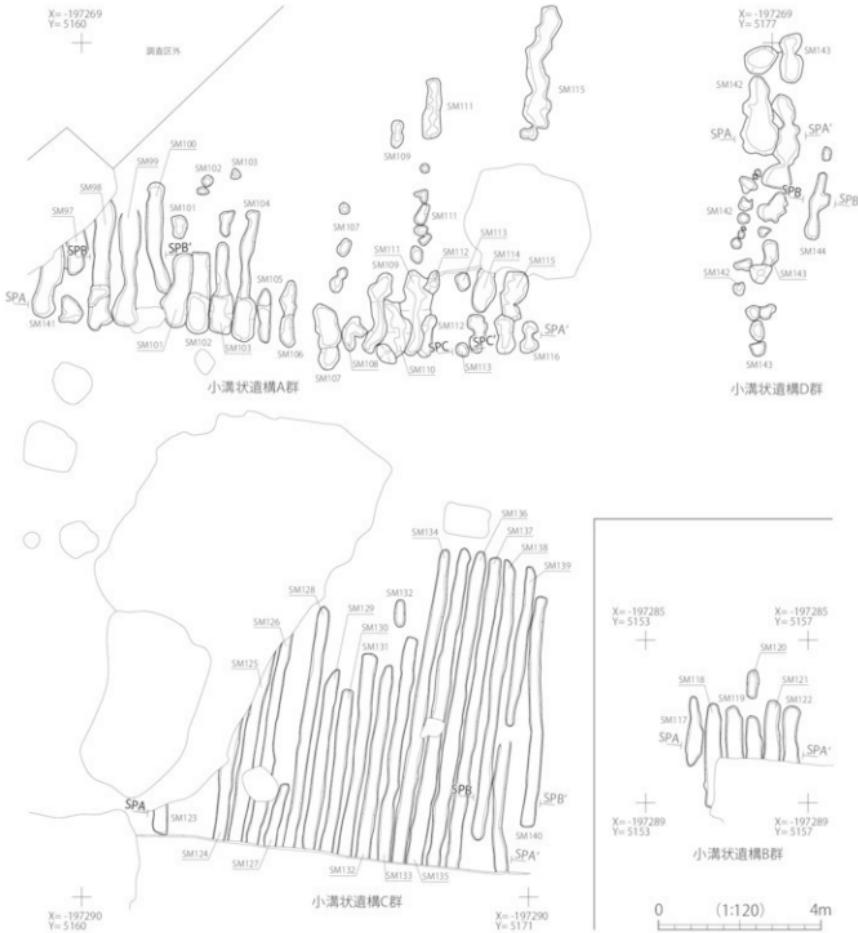


第6図 小溝状遺構群配置図

## 小溝状遺構D群（第6～8図）

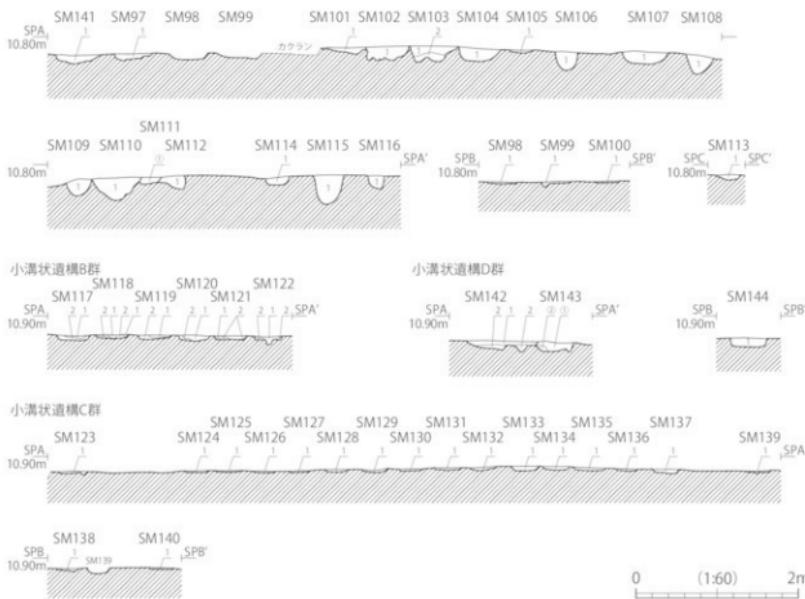
調査区中央部の9・14・19グリッドに位置する。概ね南北方向に延びるSM142～144の3条で構成される。SI49・50、SD29より新しい。主軸方向はN-6～11°-Eである。検出した規模は、長さ232～734cm、幅20～95cm、深さ21～45cmを測る。小溝状遺構A群とは、500cm前後離れているが、主軸方向や断面形状など類似しており、一連の遺構である可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器・近世陶磁器・鉄製品が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、出土遺物から8期（近世）以降と考えられる。



第7図 小溝状遺構群（1）

## 小溝状遺構A群



## 小溝状遺構C群

遺構名	Y'方向	方面	幅員 (m)	層位	土色	土性	備考	重複
SM97	12・17	N・T'E	(21.0) × 40 ~ 50	7	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD62, SD29より新しい。
SM98	12・17	N・T'E	(30.0) × 40 ~ 61	14	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD29より新しい。
SM99	12・17	N・T'E	(27.0) × 27 ~ 60	5	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD29より新しい。
SM100	12・17	N・3'E	(27.0) × 30 ~ 42	4	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD101より古く, SD29, Pb5
SM101	12・17	N・9'E	(27.5) × 30 ~ 66	8	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SM100・102, SD29より新しい。
SM102	12・17	N・2'E	(38.0) × 28 ~ 54	17	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD101より古く, SM3・64, SD29より新しい。
SM103	12・17	N・3'E	(40.5) × 22 ~ 58	31	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD3, SD29より新しい。
SM104	12・17	N・6'E	(32.0) × 28 ~ 53	15	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SD3, SD29より新しい。
SM105	17	N・4'E	(33.0) × 22 ~ 33	15	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	MS3より新しい。
SM106	13・17	N・3'E	(16.4) × 24 ~ 38	29	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3より新しい。
SM107	13・18	N・7'E	(41.0) × 25 ~ 55	29	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3, SD29より新しい。
SM108	18	N・10'E	(87.7) × 25 ~ 61	23	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3より新しい。
SM109	13・18	N・8'E	(57.3) × 23 ~ 57	20	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SM110より古く, SM3より新しい。
SM110	18	N・8'E	(15.0) × 40 ~ 68	27	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3, SM109-111より新しい。
SM111	8・13	N・5'E	(86.0) × 23 ~ 72	20	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	SM110より古く, SM3・66, SM112, SD29より新しい。
SM112	13・18	N・8'E	(21.2) × 25 ~ 33	36	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SM111より古く, SM3より新しい。
SM113	13・18	N・2'E	(20.4) × 30 ~ 33	14	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3より新しい。
SM114	13・18	N・7'E	(20.0) × 29 ~ 56	20	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SE3より新しい。
SM115	8・13	N・7'E	(85.7) × 32 ~ 67	40	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	SE3・66より新しい。
SM116	18	N・8'E	(7.0) × 20 ~ 45	25	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	SE3より新しい。
SM117	12・17	N・8'E	(17.0) × 43 ~ 56	10	1	TOYRA/3 に赤い黄褐色	砂質シルト / V面土ブロック (5 ~ 10mm) 濃量含む。	SM62・63より新しい。

第8図 小溝状遺構群(2)

小溝状遺構B群縦観表

遺構名	方向	幅緯(cm)	層位	土色		土性	備考	重複
				長さ×幅	深さ			
SM117	28	N-Z-E	(172) × 20 × 43	5	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Pt69より新しい。
SM118	28	N-O'	(255) × 20 × 42	5	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Sb23より新しい。
SM119	28-29	N-O'	(130) × 35 × 40	6	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Sb23より新しい。
SM120	29	N-O'	(217) × 23 × 43	7	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Sb23より新しい。
SM121	29	N-Z-E	(148) × 35 × 39	6	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Sb23より新しい。
SM122	29	N-Z-E	(137) × 32 × 43	9	1 5Y4/1 黄色 2 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。 N/崩土ブロック(5～30mm) 多量含む。	Sb20, Pt135より新しい。

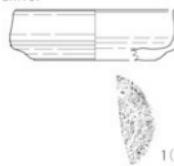
小溝状遺構C群縦観表

遺構名	方向	幅緯(cm)	層位	土色		土性	備考	重複
				長さ×幅	深さ			
SM123	29	N-1'-E	(75) × 34 × 37	4	1 5Y4/1 黄色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb54, Pt13より新しい。
SM124	29	N-6'-E	(305) × 28 × 35	3	1 2.5Y4/1 赤褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb54, Pt13より新しい。
SM125	23-29	N-9'-E	(475) × 28 × 37	6	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb54, Sb24, Pt13より新しい。
SM126	23-24	N-10'-E	(525) × 24 × 35	4	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb54, Sb24より新しい。
SM127	29-30	N-13'-E	(147) × 22 × 37	3	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	SK1, Pt145より新しい。
SM128	24-29	N-8'-E	(596) × 27 × 31	3	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb54, Sb24, SK1より新しい。
SM129	24-29	N-10'-E	(445) × 27 × 35	4	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb24, SK1より新しい。
SM130	24-30	N-8'-E	(4000) × 28 × 34	4	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb24, Pt6より新しい。
SM131	24-30	N-7'-E	(500) × 27 × 37	4	1 10YR4/4 褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb24, Pt6より新しい。
SM132	24-30	N-9'-E	(638) × 25 × 37	5	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb21・24, Pt62より新しい。
SM133	23-30	N-7'-E	(553) × 27 × 36	5	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb21, Pt127より新しい。
SM134	24-30	N-9'-E	(775) × 25 × 52	5	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb21, Pt61・127より新しい。
SM135	24-30	N-9'-E	(783) × 26 × 48	5	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb22, Pt62より新しい。
SM136	24-30	N-9'-E	(778) × 25 × 42	6	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb22, Pt62より新しい。
SM137	24-30	N-8'-E	(768) × 25 × 35	5	1 10YR6/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb22, Pt134より新しい。
SM138	24-30	N-7'-E	(6900) × 25 × 34	6	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb22・55, Pt60より新しい。
SM139	24-30	N-7'-W	(758) × 20 × 34	7	1 10YR4/2 赤黄褐色	砂質シルト	グライ化したN/崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。	Sb22・55, Pt60+63より新しい。
SM140	24-30	N-3'-E	546 × 25 × 33	5	1 10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト	マンガン・鉻化鉄が集積。	Sb55, Sb19, Pt63より新しい。

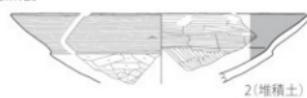
小溝状遺構D群縦観表

遺構名	方向	幅緯(cm)	層位	土色		土性	備考	重複
				長さ×幅	深さ			
SM142	9-14	N-6'-E	(25) × 25 × 95	45	1 10YR5/3に赤い黄褐色	砂質シルト	N/崩土ブロック(5～20mm)・炭化物多量含む。	Sb49・50, SD29, SM143より新しい。
SM143	9-14	N-6'-E	(734) × 30 × 73	40	① 10YR5/3に赤い黄褐色 ② 10YR5/3に赤い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	N/崩土ブロック(5～10mm) 少量含む。 N/崩土ブロック(5～50mm) 多量含む。	SM142より古く、Sb49・50, SD29より新しい。
SM144	14	N-11'-E	(232) × 20 × 50	21	1 10YR5/3に赤い黄褐色	砂質シルト	N/崩土ブロック(5～20mm)・炭化物多量含む。	Sb49より新しい。

SM107



SM129



0 (1:3) 10cm

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	部種	法量(cm)			外混調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	E-043	SM107	堆積土	土壌器	坪	0.98	(7.6)	3.1	0.03調整 底部・内側の切り	0.03調整		17
2	C-150	SM129	堆積土	土壌器	高坪	(18.4)	—	(4.3)	0.03 底部・内側の切り	0.03 内面黒色処理		17

第9図 小溝状遺構群出土遺物

## (2) 溝跡 (第10～12図)

溝跡10条(SD26～35)を検出した。いずれも時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明であるが、古墳時代後期～古代の竪穴住居跡より新しく、基本層II層上面から掘り込まれている溝跡もある。

#### SD26 溝跡（第10～12図）

調査区東部の10・15・20・26・32・38グリッドに位置する。北側は擾乱により失われ、南側は調査区外へ延びる。SI45～48・59、SB3、SD27・28、SK2、Pit18より新しく。検出した規模は、長さ25.04m、上端幅36～68cm、下端幅13～48cm、深さ6～10cmを測る。方向はN～0～4°～Eで、直線的に延びる。断面形状は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。暗褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器・須恵器が出土している。土師器壺1点、土師器甕1点の計2点を掲載した（第12図-1・2）。1は土師器壺で、内外面の口縁部と体部の境に棱を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキである。2は土師器甕である。胴部が長胴形を呈し、口縁部は緩やかに外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。

時期決定できる遺物はないが、SD27より新しいことから、8期（近世）以降と考えられる。

#### SD27 溝跡（第10～12図）

調査区中央部の27・28・35～38グリッドに位置する。東側は調査区外へ延び、西側は擾乱により失われている。また、上面は削平を受けており、部分的に途切れている。SI48・60・67・68、SB20より新しく、SD26より古い。検出した規模は、長さ42.82m、上端幅18～42cm、下端幅8～19cm、深さ5～27cmを測る。方向はN～85～86°～Eで、直線的に延びる。断面形状は「U」字状を呈し、上部はやや開きながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色ないしにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器・近世陶器が出土している。須恵器高壺1点と須恵器甕1点の計2点を掲載した（第12図-3・4）。3は須恵器高壺の脚部である。内面に明瞭な輪積痕がみられる。色調は、にぶい赤褐色を呈し、胎土には多量の海綿骨針を含む。4は須恵器甕の口縁部である。口縁端部に平坦面を持ち、下端が垂下する。口縁端部及び口縁部には櫛描き波状文が施される。色調は、灰色～暗灰色を呈し、胎土は5～8mm程度の砂粒を含む。

時期決定できる遺物はないが、堆積土から近世陶器が出土していることから8期（近世）以降と考えられる。

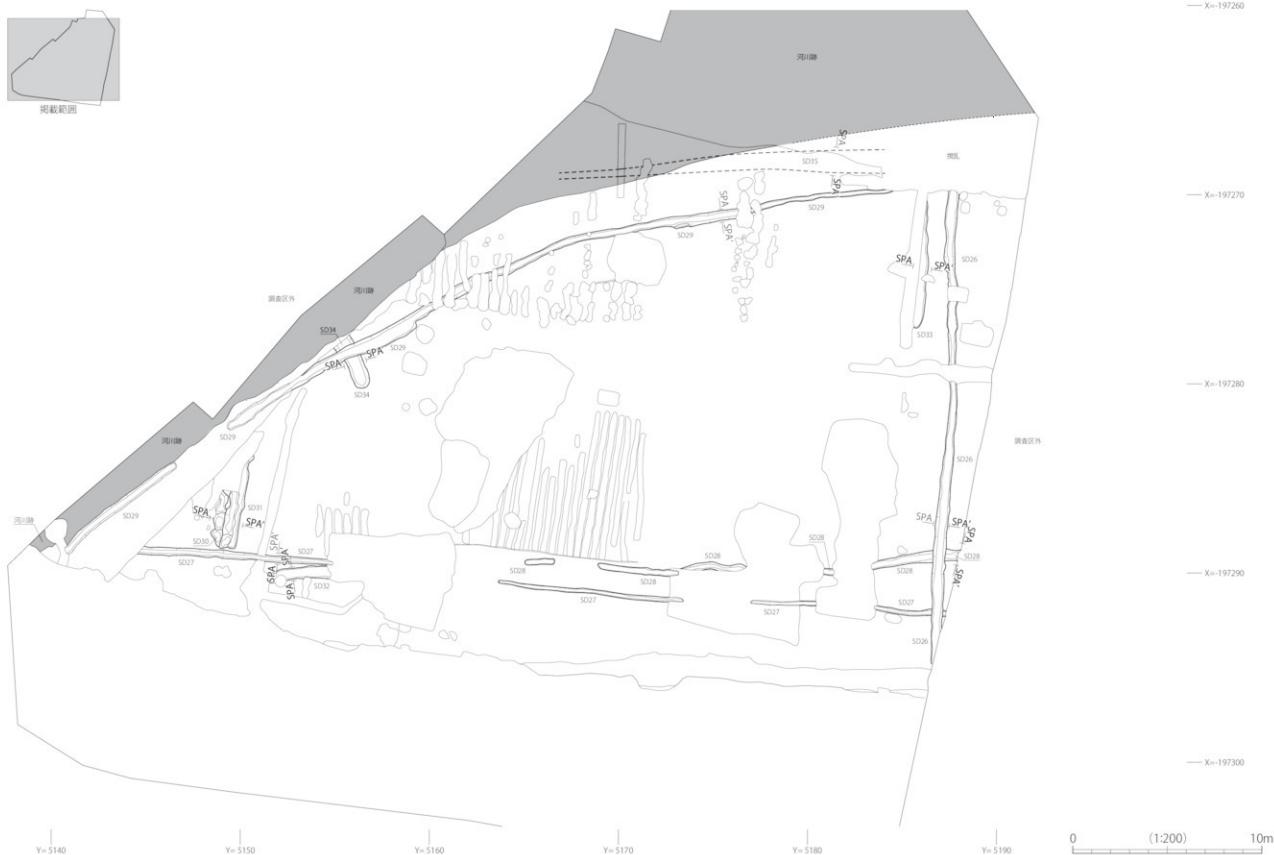
#### SD28 溝跡（第10～12図）

調査区中央部の30～32グリッドに位置する。第167次調査区で検出されたSD7の西側延長部分に相当する。東側は調査区外へ延び、擾乱や削平を受けており、部分的に途切れている。SI48・55・67、SB21・24より新しく、SD26、Pit10より古い。検出した規模は、長さ22.96m、上端幅18～95cm、下端幅8～32cm、深さ4～28cmを測る。方向はN～88～97°～Wで、僅かに湾曲しながら延び、30・31グリッドではSD27とほぼ並行する。断面形状は逆台形を呈し、底面から直線的に立ち上がり、上部が開く。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層した。暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土師器高壺1点を掲載した（第12図-5）。壺底部から脚部上半部が残存している。梢円形の透かしを3窓持つ。調整は、外面が脚部ヘラケズリ、裾部ヘラナデ、内面は脚部ヘラミガキ、脚部ヘラナデで、壺部内面には黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、基本層II層上面から掘り込まれていることから、7期（中世）以降と考えられる。

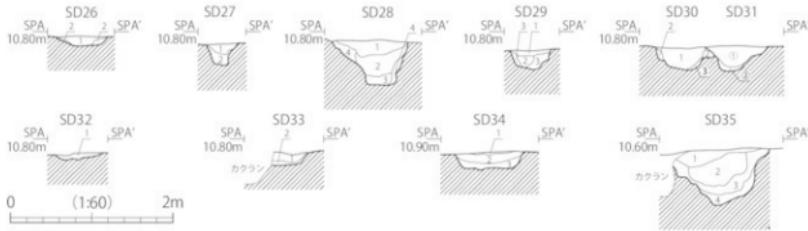
#### SD29 溝跡（第10～12図）

調査区北部の9・12～14・16・17・22・27・28グリッドに位置する。第167次調査区で検出されたSD1の西側延長部分に相当する。東側は調査区外へ延び、西側は擾乱により失われている。SI49・50・63、SB25、



第10図 溝跡配置図





溝跡解説表

遺構名	方向	規模 [m]			層位	土色	土性	備考	重複
		全長	上端幅	下端幅					
SD26 10.80m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.15~ 20.26~ 27.28~	36~ 68~ 18~	13~ 48~ 8~	6~ 10~ 5~	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SI45~48・59, SB3, SI47~49, SK2, PW18 より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	
SD27 10.80m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.80m	SPA	SPA'	10.80m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26より古く、SI48~ 60~67~68, SB20より 新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD28 10.80m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.80m	SPA	SPA'	10.80m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26, PW10より古く、 SI48~55~57, SB21~ 24より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD29 10.80m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.80m	SPA	SPA'	10.80m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SI44~45~48~59, SB3, SI47~49, SK2, PW18 より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD30 10.60m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.60m	SPA	SPA'	10.60m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26, PW10より古く、 SI48~55~57, SB21~ 24より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD31 10.60m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.60m	SPA	SPA'	10.60m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26, PW10より古く、 SI48~55~57, SB21~ 24より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD32 10.80m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.80m	SPA	SPA'	10.80m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26より古く、SI48~ 60~67~68, SB20より 新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD33 10.90m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.90m	SPA	SPA'	10.90m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26より古く、SI48~ 60~67~68, SB20より 新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD34 10.60m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.60m	SPA	SPA'	10.60m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26, PW10より古く、 SI48~55~57, SB21~ 24より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
SD35 10.60m	N-E 20°26'~ 32°38'	10.60m	SPA	SPA'	10.60m	1	10YR3/4灰褐色	シルト	SD26, PW10より古く、 SI48~55~57, SB21~ 24より新しく。
						2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	

第11図 溝跡

SD34, Pit105・137より新しく、小溝状遺構A・D群、Pit142より古い。検出した規模は、長さ48.80m、上端幅21~85cm、下端幅10~60cm、深さ4~28cmを測る。方向はN=59~82°-Eで、河川跡に沿うように湾曲しながら延びる。断面形状は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。灰黃褐色ないしにぶい黄褐色砂質シルトを主体とし、IV層上ブロック・炭化物を微量含む。遺物は土師器・須恵器・瓦・礫石器などが出土している。このうち、土師器壺1点、土師器甕1点、須恵器壺1点、須恵器擂鉢1点の計4点を掲載した（第12図-6~9）。6は土師器壺である。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾し、口縁部は短く外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。8は須恵器壺で、体部は底部から丸みを持って立ち上がり外傾する。外面の体部下端から底部にはヘラケゼリによる再調整が施されている。色調は、灰色~灰黃褐色を呈し、胎土には海綿骨針を僅かに含む。9は須恵器擂鉢である。底部は厚い円盤状で、体部は外傾して立ち上がる。底部にヘラ状工具による刺突痕がみられる。色調は、褐灰色を呈し、胎土には海綿骨針を僅かに含む。

時期決定できる遺物はないが、SI49より新しいことから、5bii期（奈良時代）以降と考えられる。

#### SD30 溝跡（第10・11図）

調査区西部の28グリッドに位置する。北側は擾乱により失われ、南端部付近のみが残存している。SI60、Pit31より新しく、SD31より古い。検出した規模は、長さ2.97m、上端幅33～63cm、下端幅16～38cm、深さ20～25cmを測る。方向はN-15°-Eで、直線的に延びる。平面形状はかなり歪で、断面形状は「U」字状を呈する。底面は深く掘り込まれており、起伏が激しい。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロック・炭化物を微量含む。遺物は土師器・須恵器・鉄製品が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI60より新しいことから、4a期（住社式期新段階）以降と考えられる。

#### SD31 溝跡（第10・11図）

調査区西部の22・28グリッドに位置する。北側は擾乱により失われ、南端部付近のみが残存している。SI60、SB23、SD30より新しい。検出した規模は、長さ5.14m、上端幅76～83cm、下端幅22～32cm、深さ25～30cmを測る。方向はN-13°-Eで直線的に延びる。平面形状はやや歪で、断面形状は逆台形を呈し、緩やかに外傾する。底面は深く掘り込まれており、起伏が激しい。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロック・炭化物を微量含む。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI60より新しいことから、4a期（住社式期新段階）以降と考えられる。

#### SD32 溝跡（第10・11図）

調査区西部の28・34グリッドに位置する。東西両端部は擾乱により失われている。SB20より新しい。検出した規模は、長さ3.31m、上端幅43～68cm、下端幅30～52cm、深さ7～12cmを測る。方向はN-83°-Eで、やや湾曲しながら延びる。断面形状は皿状を呈し、底面は緩やかな凹凸を持つ。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層で、IV層土ブロックを少量含む。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

#### SD33 溝跡（第10・11図）

調査区東部の14・15・19・20グリッドに位置する。擾乱により西側から北側にかけてが失われている。SI46、SK4より新しい。検出した規模は、長さ6.81m、上端幅50cm、下端幅44cm、深さ9～15cmを測る。方向はN-4°-Eで、直線的に延びる。断面形状は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。褐灰色ないしにぶい黄橙色シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI46より新しいことから、5a期（郡山1期官衙）以降と考えられる。

#### SD34 溝跡（第10・11図）

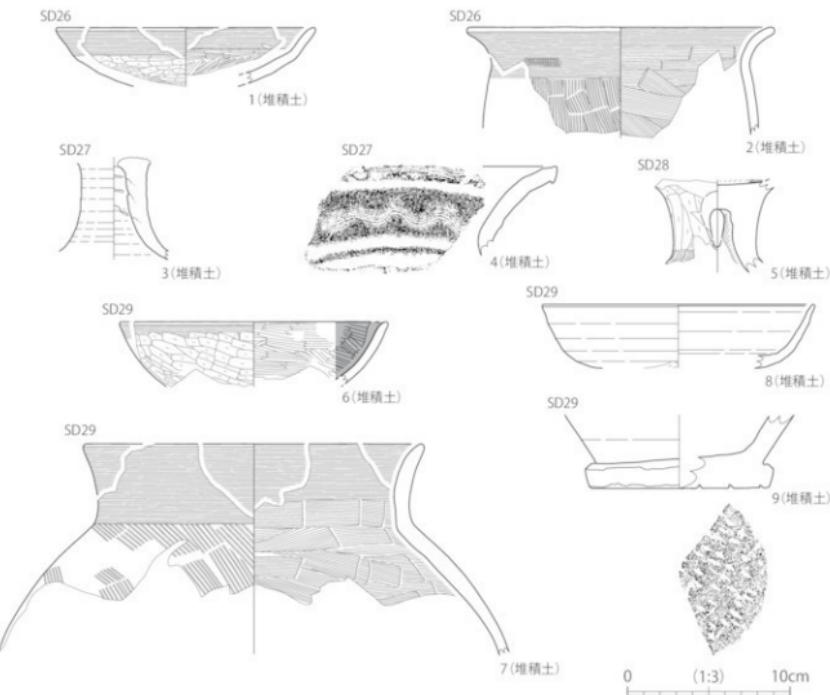
調査区西部の17・23グリッドに位置する。北側は擾乱と河川跡により失われ、南端部付近のみが残存している。SI58、Pit112より新しく、SD29、Pit28、河川跡より古い。検出した規模は、長さ2.90m、上端幅85～105cm、下端幅52～67cm、深さ12～22cmを測る。方向はN-25°-Wで、やや湾曲して伸びる。断面形状は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、河川跡より古いことから、6期（平安時代）以前と考えられる。

## SD35 溝跡（第10・11図）

調査区北部の8・9グリッドに位置する。河川跡・下層調査の2・3トレンチの壁面で確認された。河川跡より古い。検出した規模は、上端幅116cm、下端幅45cm、深さ66cmを測る。方向は東西溝と推定されるが、断面観察のみであるため詳細は不明である。断面形状は逆台形を呈する。堆積土は4層に分層した。にぶい黄褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

時期決定できる遺物はないが、河川跡より古いことから、6期（平安時代）以前と考えられる。



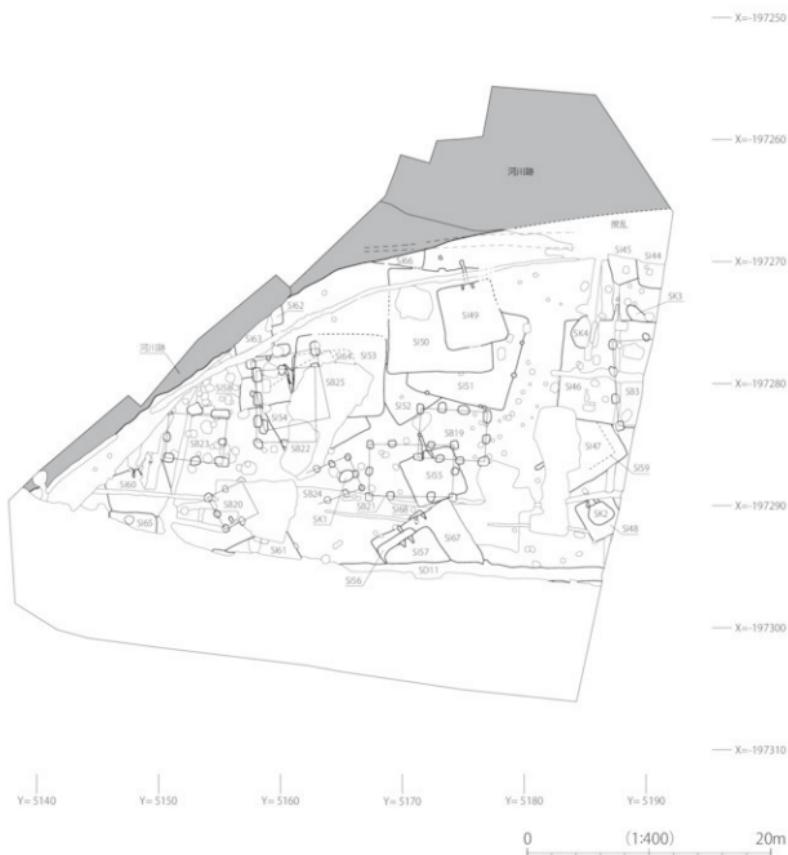
回収番号	発見番号	出土地点	層位	種別	断面	法面 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 (4枚)
						口径	底径	高さ				
1	C-154	SD26	堆積土	土師器	环	(15.8)	—	(3.6)	口縁: 2.2cm 底盤: 5.4cm 側面: 5.4cm	口縁: 2.2cm 底盤: 5.4cm 側面: 5.4cm	—	17
2	C-155	SD26	堆積土	土師器	甕	(18.6)	—	(6.8)	口縁: 5.1cm~2.2cm 底盤: 5.4cm	口縁: 2.2cm 底盤: 5.4cm	—	17
3	E-038	SD27	堆積土	須恵器	高環	—	—	(0.3)	口縁: 調整 底盤: 調整	口縁: 調整 底盤: 調整	—	17
4	E-039	SD27	堆積土	須恵器	甕	—	—	(5.5)	口縁: 調整~側縁引き波状文 底盤: 調整	口縁: 調整 底盤: 調整	—	17
5	C-156	SD28	堆積土	土師器	高環	—	—	(5.7)	脚部: 小穴孔 底盤: 5.4cm	脚部: 小穴孔 底盤: 5.4cm	—	17
6	C-158	SD29	堆積土	土師器	环	(16.4)	—	(4.0)	口縁: 3.2cm 底盤: 5.4cm	口縁: 3.2cm 底盤: 5.4cm	内面黑色處理	17
7	C-157	SD29	堆積土	土師器	甕	(21.0)	—	(13.0)	口縁: 3.2cm 底盤: 5.4cm	口縁: 3.2cm 底盤: 5.4cm	—	17
8	E-042	SD29	堆積土	須恵器	环	(16.8)	—	(3.8)	口縁: 調整 底下端~底部: 5.4cm	口縁: 調整	—	17
9	E-040	SD29	堆積土	須恵器	底盤	—	(0.8)	(4.5)	口縁: 調整 底部: 小伏工具による刺空痕	厚底	底部摩滅 内面自然接着	17

第12図 溝跡出土遺物

## 第2節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物（第13～110図）

本節では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、重複関係や出土遺物から当該期と考えられる遺構について記載する。検出された遺構は、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡8棟、区画溝1条、土坑4基、ピット145基である。このうち、SI44、SB3、SD11、河川跡は、北側から東側にかけて隣接する郡山遺跡第167次調査で検出された遺構と同一遺構と考えられ、SB3とSD11については、同一番号を使用している。当該期の遺構は擾乱や削平の影響を受けており残存状況は良好とはいはず、竪穴住居跡同士の重複も激しいことから、具体的な構造が明らかにできなかったものも存在する。

以下、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、区画溝、土坑、ピットの順で記載する。



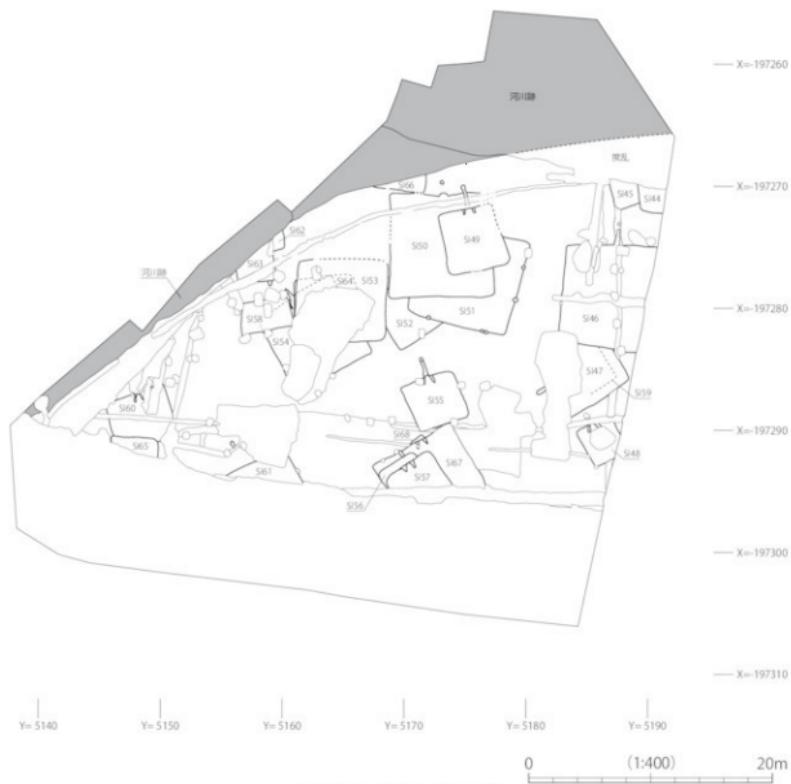
第13図 主要遺構配置図

## (1) 竪穴住居跡(第14~72図)

竪穴住居跡25軒(SI44~68)を検出した。調査区内における分布は、中央及び東側、西側に集中し、特に中央部北側と南側では重複が激しい。また、調査区内は大きく削平を受けており、床面で検出した住居跡や掘り方のみ残存していた住居跡がある。このため、平面形状やカマドの有無が確認できなかった住居跡も多い。

竪穴住居跡の平面形状を把握できたものは、方形ないし隅丸方形を主体とする。主軸方向は、N=28°~43°-Wと西側に大きく傾く一群(SI47・48・52・54・56・57・59・61・67・68)とN=6°-E~N=8°-Wと真北方向を指向する一群(SI44・46・50・53・58・62~66)、その中間のN=12°~23°-Wの一群(SI45・49・55・60)がある。このほか、N=16°-Eと東側へ傾くSI51がある。規模は、一辺420~580cm程度のものを中心に、一辺850cm前後の大型のもの(SI44・46・50・51)、一辺730cm前後の比較的大型のもの(SI53・

— X=197250



第14図 竪穴住居跡配置図

54・67)、一辺 340cm 程度の小型のもの (SI48) がある。カマド及びその痕跡は 16 軒 (SI46～51・53～55・57～61・64・67) から検出された。カマドの付設位置は北壁を基本とし、SI47 は西壁側に煙道部が検出され、SI51 では東側にカマドの痕跡が認められた。燃焼部は壁内に位置し、SI50・55 は僅かに壁外へ張り出す。袖が残存しているものは少ないが、いずれも基本層IV 層上を主体として構築され、SI57 では袖の先端部から芯材と考えられる礫が出土している。煙道部の全体を把握できるものは、いずれも狭長で、煙出し部がピット状に落ち込むものや緩やかに上がるものの、緩やかに下がるもの、平坦なものなど多様な形態がみられる。柱穴は、主柱穴を対角線上に 4 基配置するものが基本で、SI48 のような小型の竪穴住居跡からは、主柱穴が検出されていない。その他の施設としては、周溝や貯蔵穴、カマドに関連する土坑などがある。出土遺物は、土師器環・甕を主体として、須恵器・鉄製品・石製品・土製品などが出土している。これらの竪穴住居跡の時期は、4a 期（住社式期新段階）から 5bii 期（奈良時代）にかけて構築されたものと考えられる。

#### SI44 竪穴住居跡（第 15 図）

【位置・確認】 調査区北東部の 10・15 グリッドに位置する。擾乱により北側の大半が失われ、南西コーナー付近のみ検出した。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。郡山遺跡第 167 次調査で検出された SI8 竪穴住居跡と同一遺構と考えられる（仙台市教育委員会 2013）。

【重複】 SI45 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 235cm、短軸 208cm を測り、郡山遺跡第 167 次調査 SI8 竪穴住居跡を含めた規模は東西約 820cm である。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N-6°-W である。

【堆積土】 2 層に分層した。1 层は周溝堆積土、2 層は掘り方理土である。

【柱穴】 掘り方残存部上面から 2 基 (P1・2) 検出した。P1・2 は重複して検出され、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 56～117cm、深さ 50～54cm を測る。共に柱の抜き取り痕跡ないし切り取り痕跡が認められた。また、郡山遺跡第 167 次調査 SI8 の主柱穴にも重複が認められることから、建て替えが行われていた可能性が考えられる。

【周溝】 残存部分では、壁面に沿って全周する。断面形状は南西コーナーでは「V」字状ないし逆台形を呈する。規模は幅 14～30cm、深さ 9～15cm を測る。

【掘り方】 深さ 5～22cm を測る。底面には起伏がみられる。

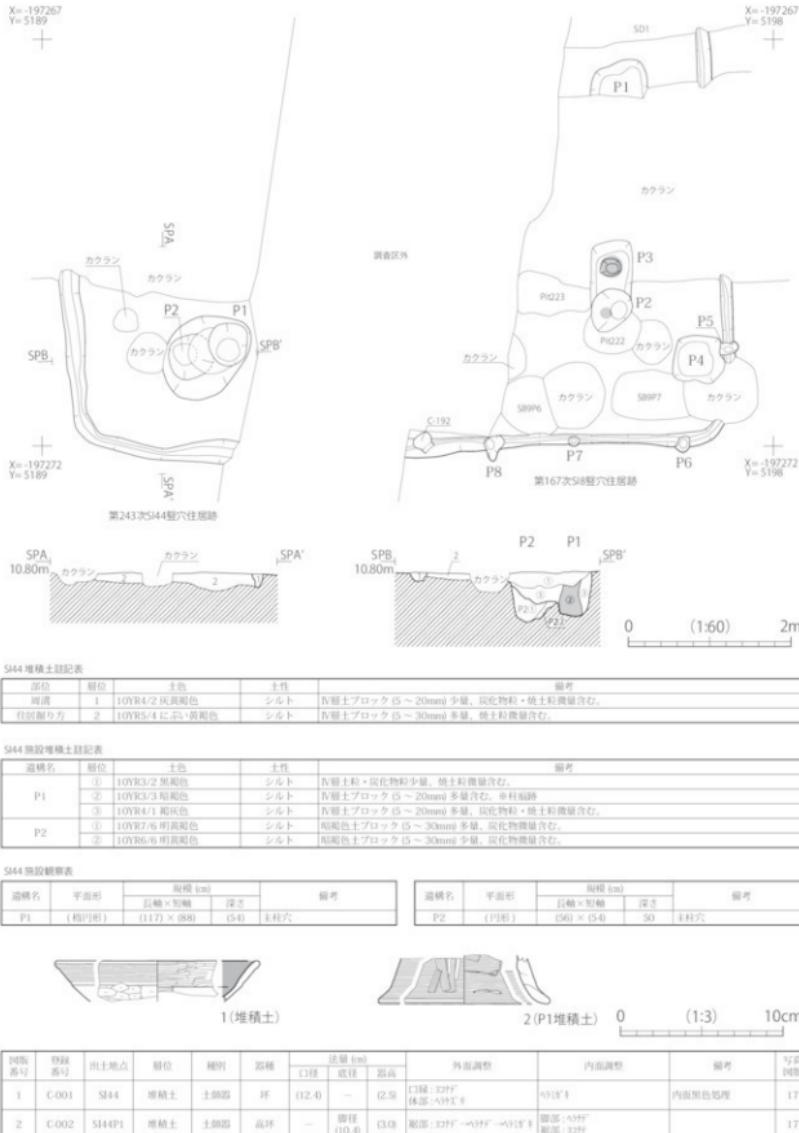
【出土遺物】 床面施設及び堆積土から土師器・須恵器が出土している。土師器環 1 点と土師器高环 1 点の計 2 点を掲載した（第 15 図-1・2）。1 は住居堆積土、2 は P1 堆積土からの出土である。1 は土師器環で、口縁部と体部の境は外面に緩い段、内面に稜を持つ。口縁部は直線的に外傾し、口縁端部が外側に肥厚する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2 は土師器高环の脚部で、裾部が「ハ」字状に屈曲する。調整は、外面が裾部ヨコナデ後ヘラナデないしヘラミガキ、内面は脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデである。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI45 より新しいことから、4a 期（住社式期新段階）以降と考えられる。

#### SI45 竪穴住居跡（第 16・17 図）

【位置・確認】 調査区北東部の 10・15 グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により北側及び東側の大半が失われ、南西コーナー付近のみ検出した。

【重複】 SI44、SD26 より古い。



第15図 SI44 穴内住居跡・出土遺物

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸330cm、短軸260cmを測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。

**【方向】** 西壁を基準としてN-12°-Wである。

**【堆積土】** 7層に分層した。1~4層は黒褐色ないし灰黃褐色シルトを主体とする住居堆積土で、5層は周溝堆積土である。6・7層は掘り方理土で、6層が貼り床土である。

**【壁面】** 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は7~18cmを測る。

**【床面】** 残存部分では、P2周辺は貼り床土である6層上面を床面とし、その他は掘り方理土である7層上面を床面とする。僅かに起伏がみられる。

**【柱穴】** 床面から2基(P1・2)検出した。P1は西壁面に位置し、壁柱穴や出入り口に関連する施設の可能性が考えられる。規模は長軸37cm、深さ26cmを測り、径21cmの柱痕跡を確認した。

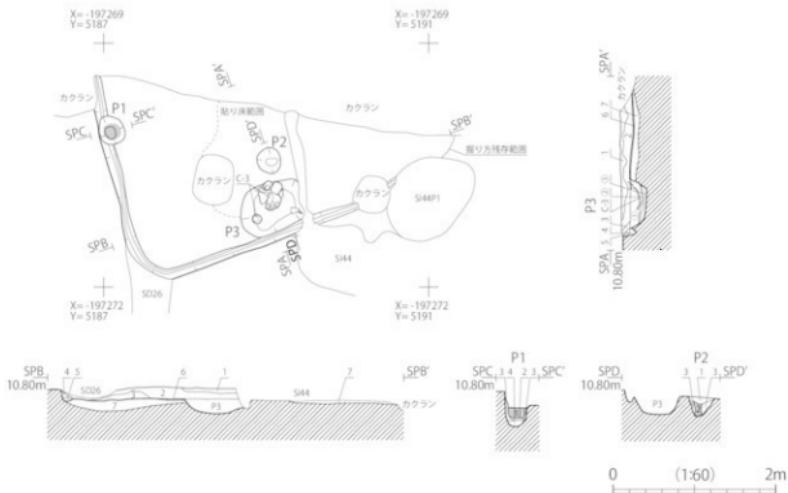
**【周溝】** 残存部分では、壁面に沿って全周する。断面形状は「V」字状ないし「U」字状を呈する。規模は幅8~15cm、深さ3~12cmを測る。

**【その他の施設】** 南壁際の床面から土坑1基(P3)を検出した。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸76cm以上、短軸61cm、深さ17cmを測る。堆積土から土師器甕が潰れた状態で出土しており、貯蔵穴と考えられる。

**【掘り方】** 深さ3~15cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられ、南西コーナー付近に向かって低くなる。

**【出土遺物】** 床面施設及び堆積土から土師器・須恵器・土製品が出土している。土師器甕1点と土製紡錘車1点の計2点を掲載した(第17図-1・2)。1はP3堆積土、2は住居堆積土からの出土である。1は土師器甕で、胴部が球形を呈し、胴部の最大径は中位に位置する。外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は緩やかに外反し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。2は土製紡錘車で、断面形状は台形を呈する。

**【時期】** P3から出土した土師器甕(第17図-1)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。



第16図 SI45 穫穴住跡

SI45 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	粘質土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5 ~ 10mm)、炭化物少額含む。
	3	10YR3/4 黑褐色	シルト	炭化物微量含む。
	4	10YR4/4 闇褐色	シルト	粘質土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。
廻溝	5	10YR3/4 灰褐色	シルト	粘質土ブロック (5mm程度) 多量含む。
住居廻り方	6	10YR5/1 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5mm程度)、粘質土ブロック (5mm程度)・砂粒少額含む。※貼り底土
	7	10YR7/6 明顯褐色	シルト	明顯褐色土ブロック (5mm程度) 微量含む。

SI45 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR7/3 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物微量含む。※柱頭部
	2	10YR7/6 明顯褐色	シルト	明顯褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。
	3	10YR3/4 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	4	10YR3/3 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物微量含む。
P2	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	粘質土少額、粘質土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	粘質土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR7/6 明顯褐色	シルト	明顯褐色土少額含む。
P3	①	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘質土多量、炭化物・砂粒少額含む。
	②	10YR2/1 黒色	シルト	明顯褐色土少額含む。
	③	10YR7/1 黑褐色	シルト	炭化物少額含む。

SI45 施設鍵織表

施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考	施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸	短軸				長軸×短軸	深さ	
P1	円形	37	31	26	壁柱穴	(楕円形)	(7.6)	61	17
P2	円形	31	29	24					



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	底径	高さ				
1	C-003	SI45P3	堆積土	土器部	甕	(22.2)	6.6	31.1	口径: 33.0cm 脚部: 6.0cm 底部: 5.0cm	口径: 33.0cm 脚部: 5.0cm 底部: 5.0cm		17
2	P-001	SI45	堆積土下層	土器部	研鉗車	4.0	4.0	2.5	29.5	口径: 完形、孔径 0.7cm		17

第 17 図 SI45 積穴住跡出土遺物

### SI46 竪穴住居跡（第18～21図）

【位置・確認】 調査区北東部の14・15・19・20・25・26グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により、南西コーナーなどが失われ、東側は調査区外へ延びる。また、上面は削平を受けており、南壁際の一部を除き床面は残存していない。

【重複】 SI47・59、SK3・4、Pit85より新しく、SB3、SD26・33、Pit18・20～25・27・75より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸879cm、短軸734cmを測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-6°-Eである。

【堆積土】 6層に分層した。1層は周溝堆積土、2～5層はカマド関連の堆積土、6層は掘り方埋土である。

【床面】 残存部分では、掘り方埋土である6層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 掘り方残存部上面から4基（P1～4）、掘り方底面から3基（P6・9・10）、総数7基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸50～88cm、深さ25～70cmを測る。P2で径22cm、P6・9で径15cm程度の柱痕跡が確認され、P2・3の底面には径22～24cmの変色範囲が認められた。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って周囲する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅10～24cm、深さ1～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部底面と煙道部のみが残存している。燃焼部の規模は奥行き78cm以上、幅30cm以上、奥壁高5cmを測り、壁内に位置する。底面には長軸55cm程度の焼面がみられる。煙道部は基部が広く、先端に向かい細くなる。規模は長さ187cm、幅38～44cm、深さ11～16cmを測る。底面は先端に向かって緩やかに下がり、煙出し部分は深さ5cm程度のピット状に掘り込まれている。

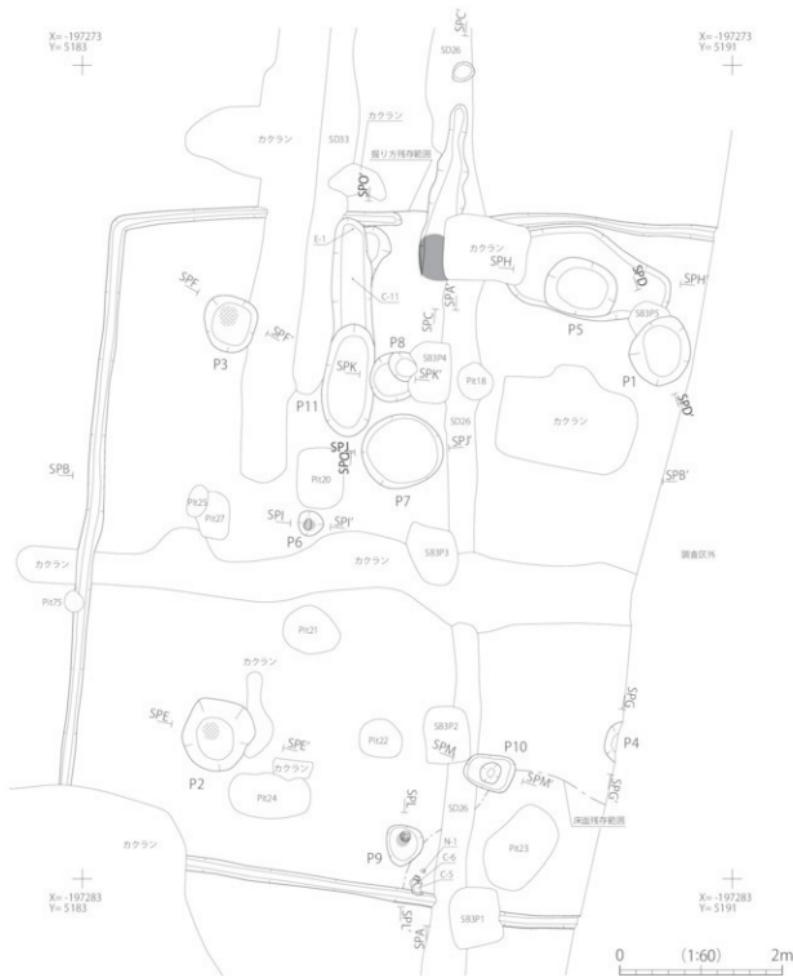
【その他の施設】 掘り方残存部上面から土坑1基（P5）、掘り方底面から土坑3基（P7・8・11）、総数4基を検出した。P5はカマドの右脇に位置し、堆積土上層には多量の焼土が含まれることから貯蔵穴の可能性が考えられる。P7・8はカマド前方に位置し、いずれも人為的に埋め戻されており、堆積土上層には多量の焼土が含まれる。P11はカマドの左脇に位置し、溝状に掘り込まれている。

【掘り方】 深さ1～18cmを測る。底面は概ね平坦で、南壁際が低くなる。

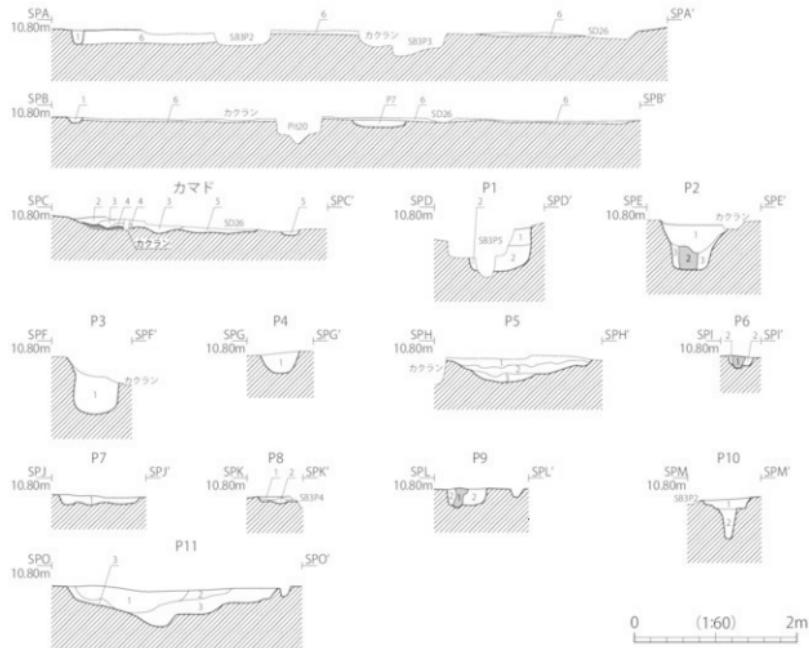
【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、堆積土から土師器・須恵器・鉄製品が出土している。土師器環4点、土師器鉢1点、土師器甕3点、須恵器甕1点、鉄製品1点の計10点を掲載した（第20図-1～9、第21図-10）。1・5～7はP4堆積土、2・4・9は床面、3は住居堆積土、8はP11堆積土、10はP6堆積土からの出土である。1～4は土師器環である。1・2は北武藏型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つものである。1は緩やかに内湾する体部から口縁部が「S」字状に短く直立し、2は半球状の体部から口縁部にかけて内湾し、外面の口縁部と体部の境に沈線状の段を持つ。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面は1が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、2がヘラナデ後ヘラミガキが施される。色調は、1が橙色、2が橙色～浅黄褐色を呈し、共に胎土には砂粒を多く含み、2には少量の赤色粒子がみられる。3は扁平な体部から口縁部が外反気味に直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。4は外面の口縁部と体部の境に段、内面に稜を持つ。口縁部は直線的に外傾し、口縁端部が内側に屈曲する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。5は土師器鉢で、外面の体部と口縁部の境に段を持つ。口縁部の復元径は26.8cmと比較的大型である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。6～8は土師器甕である。7は外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は直立気味に立ち上がり、中位から大きく外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は摩滅により不明である。10は須恵器甕の胴部である。調整は、外面が平行タタキ目、内面は同心円文の当て具痕による青海波文がみられる。色調は、外面が暗赤灰色、内面が青灰色を呈し、胎土には微量の海綿骨針を含む。

9は鉄鑓である。無頸長三角形鑓で、断面形は片丸造である。

【時期】 床面から出土した土師器環（第20図-2）から、5a期（郡山I期官衙期）と考えられる。



第18図 SI46 竪穴住居跡（1）



SI46 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆溝	1 10YR4/4 にぶ・黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5mm ~ 10mm) 多量含む。	
	2 10YR3/1 黒褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5mm ~ 10mm) 少量含む。炭化物微量含む。	
	3 10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (20mm 程度) 少量、炭化物微量含む。	
	4 10YR3/4 褐褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5mm 程度) 多量、他土粒微量含む。	
	5 10YR3/4 褐褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5mm 程度) 多量含む。	
住居脛り方	6 10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	

SI46 旋削堆積土柱記表

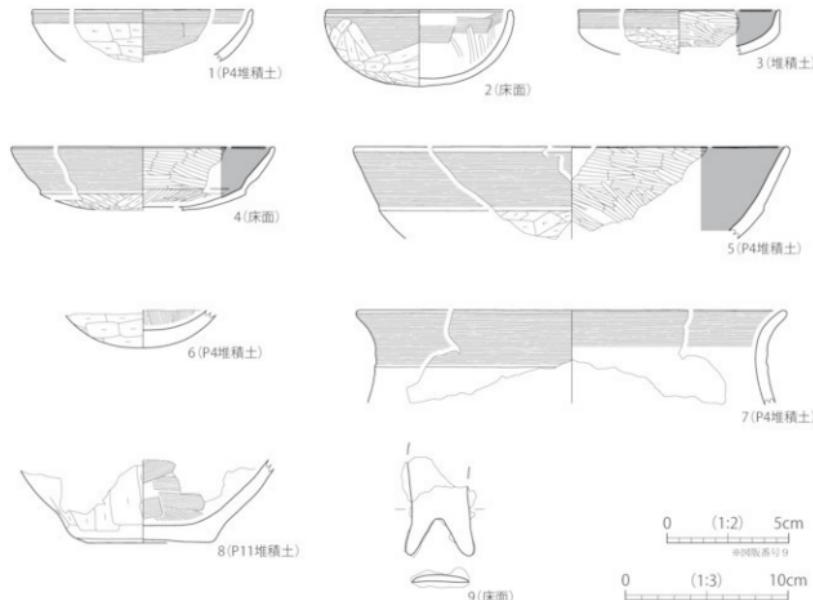
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1 10YR7/6 明黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
	2 10YR4/4 褐灰色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。	
P2	1 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。	
	2 10YR3/2 褐褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、他土粒微量含む。半柱痕跡	
	3 10YR5/4 にぶ・黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	
P3	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
P4	1 10YR7/6 明黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
P5	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	他土粒ブロック (5 ~ 10mm) 多量、灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
P6	2 10YR6/2 黄褐色	粘土	他褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、他土粒微量含む。	
	3 10YR6/6 明黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	
P7	1 10YR7/6 にぶ・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 微量含む。半柱痕跡	
	2 10YR7/6 明黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
P8	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。	
P9	2 10YR7/6 明黄褐色	シルト	他土粒ブロック (10 ~ 20mm) 多量、灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。	
	3 10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物微量含む。半柱痕跡	
P10	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色土ブロック (20 ~ 30mm) 多量含む。	
P11	2 10YR7/3 にぶ・黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
	1 10YR5/2 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
	2 10YR3/2 黑褐色	シルト	他土粒ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
	3 10YR4/1 褐灰色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	

第19図 SI46 穴住居跡 (2)

SI46 穫穴住居跡表

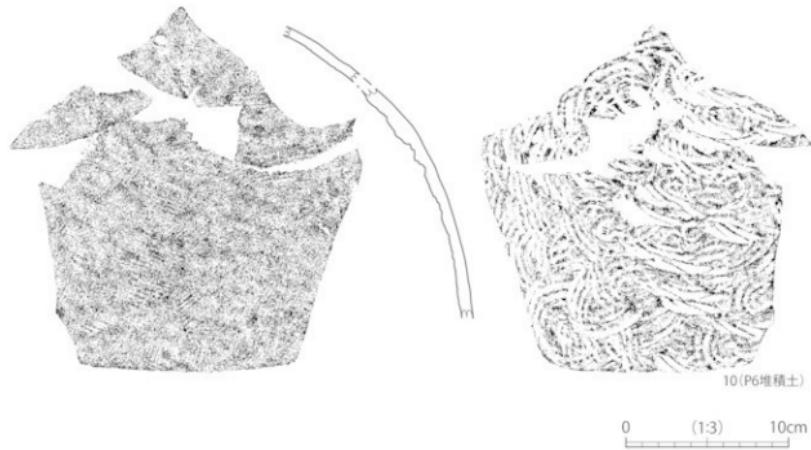
遺構名	平面形	面積 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P1	(格円形)	(84) × (75)	(61)	土柱穴
P2	(円形)	(88) × (88)	(59)	土柱穴 底面重ね
P3	(円形)	(63) × (62)	(70)	土柱穴 底面重ね
P4	(円形)	(50) × (15)	(25)	土柱穴
P5	(不規則円形)	(195) × (110)	(38)	鉢形穴
P6	円形	31 × 30	11	掘り方検出

遺構名	平面形	面積 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P7	円形	100	91	13 掘り方検出
P8	(円形)	61	(52)	9 掘り方検出
P9	円形	50	45	20 掘り方検出
P10	楕円長方形	59	42	49 掘り方検出
P11	長楕円形	268	48	43 掘り方検出



回数 番号	目録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	C-008	SI46P4	堆積土	土師器	环	(13.4)	—	(3.2)	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	開口系	18
2	C-005	SI46	床面	土師器	环	(11.2)	—	4.7	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	底部: 内径 → 53mm 手	開口系	18
3	C-004	SI46	堆積土	土師器	环	(12.4)	—	(2.7)	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	内径: 53mm 手	内面黒色處理	18
4	C-006	SI46	床面	土師器	环	(16.2)	—	(3.9)	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	内径: 53mm 手	内面黒色處理	18
5	C-007	SI46P4	堆積土	土師器	鉢	(26.8)	—	(3.7)	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	内径: 53mm 手	内面黒色處理	18
6	C-009	SI46P4	堆積土	土師器	甕	—	—	(2.3)	底部: 5-6mm 手	底部: 5-6mm 手	18	
7	C-010	SI46P4	堆積土	土師器	甕	(26.4)	—	(3.7)	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	口縁: 32mm 底部: 5-6mm 手	内面摩滅	18
8	C-011	SI46P11	堆積土	土師器	甕	—	8.0	(5.1)	内径: 53mm 手	内径: 53mm 手	18	
回数 番号	目録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真 回数	
						全長	幅	厚さ				
9	N-001	SI46	床面	鉢形品	鉢	(4.3)	2.4	0.1	(7.5)	無柄、刃部欠損		18

第20図 SI46 穫穴住居跡出土遺物 (1)



調査 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口徑	底径	高さ				
SI46	E-002	SI46P6	堆積土	須恵器	瓶	—	—	(18.1)	平行(33)	当面其頃		18

第21図 SI46 穫穴住居跡出土遺物（2）

## SI47 穫穴住居跡（第22～24図）

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・31・32グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により西半部と北東コーナーが失われている。本住居跡の掘り方調査時に、掘り方底面から焼面及び柱穴、周溝を検出した（SI59）。このことから本住居跡は、SI59の東壁側を拡張した建て替え後の住居跡と考えられる。

【重複】 SI59より新しく、SI46、SD26、Pit24より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸579cm、短軸540cmを測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-122°-Wである。

【堆積土】 6層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周溝堆積土、4層はカマド煙道部の堆積土、5・6層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は10～21cmを測る。

【床面】 掘り方埋土である5層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から5基（P2～6）、搅乱底面から1基（P1）、総数6基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸57～82cm以上、深さ23～74cmを測る。いずれの柱穴からも径18～26cmの柱痕跡が確認され、底面には径18～23cmの変色範囲が認められた。P5は南壁際の中央に位置し、出入り口に関連する施設の可能性を考えられる。

【周溝】 残存部分では、東壁を除いた壁面に沿って周る。東壁は南東コーナーから60cm程の位置で終息する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅13～28cm、深さ8～20cmを測る。

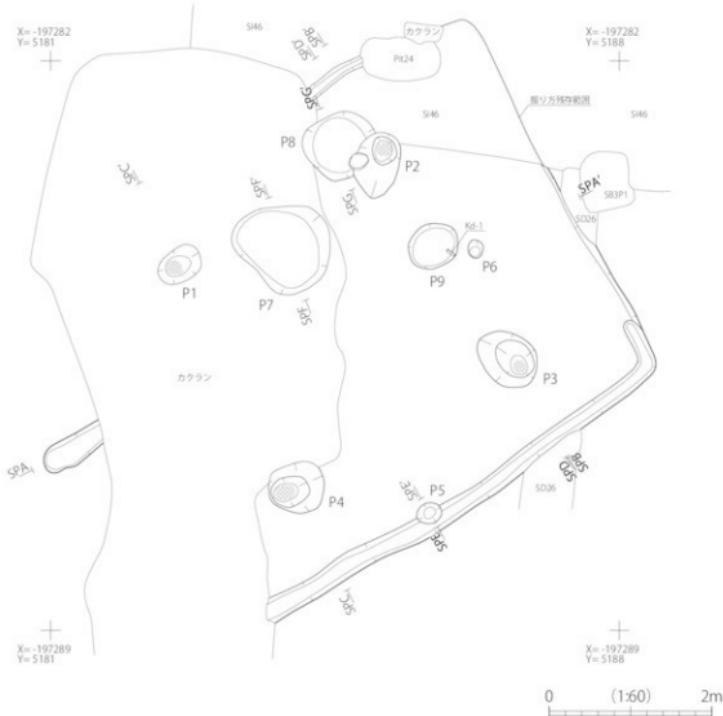
【カマド】 西壁に位置し、煙道部のみ残存している。規模は長さ76cm以上、幅28～36cm、深さ6～11cmを測る。底面は先端が僅かに窪む。

【その他の施設】 挖り方底面から土坑2基(P8・9)、擾乱底面から土坑1基(P7)を検出した。いずれも人为的に埋め戻されているものと考えられる。

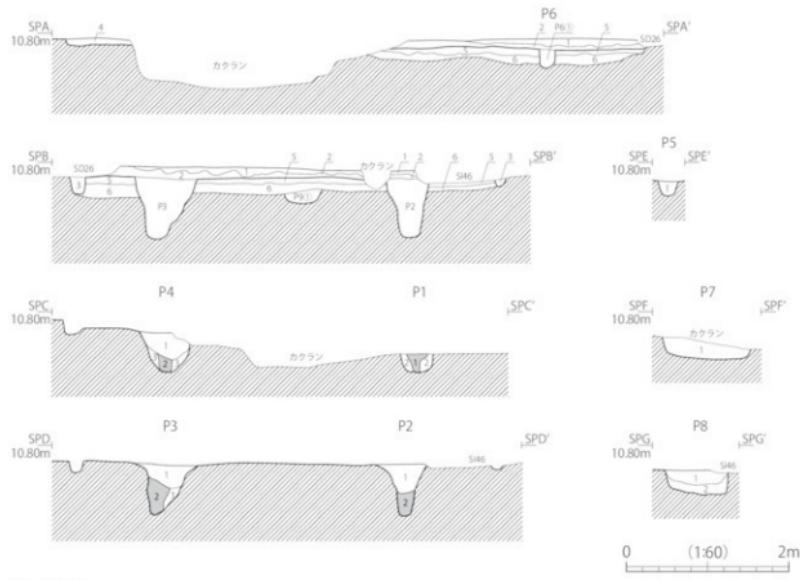
【掘り方】 深さ8~26cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられ、南壁及び東壁際では僅かに低くなる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器、須恵器、鉄製品、石製品が出土している。土師器甕3点、土師器壺1点、砥石1点、鉄鎌1点の計6点を掲載した(第24図-1~6)。1・6は住居堆積土、2はP9堆積土、3・4は掘り方、5は床面からの出土である。1~3は土師器甕である。1は内傾する頸部から口縁部が短く外傾し、2は直立気味の胴部から口縁部が外反気味に大きく外傾する。3は外面の口縁部と胴部の境に段を持って内傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。調整は、いずれも口縁部が内外面ヨコナデで、1は外面ヨコナデ後にヘラナデ、3は外面ハケメ後ヨコナデ、内面ヨコナデ後ヘラナデが施される。胴部外面は1がヘラナデ、3がハケメ、胴部内面はヘラナデが施される。4は単孔の土師器壺である。調整は、外面が胴部ヘラケズリ、内面は胴部から孔部にかけてヘラナデである。5は砥石で、残存する各面に筋条痕がみられる。石材は緑色片岩である。6は有茎鉄鎌で、鎌身部に逆刺を持つ。鎌身部の断面形態は、片丸造である。

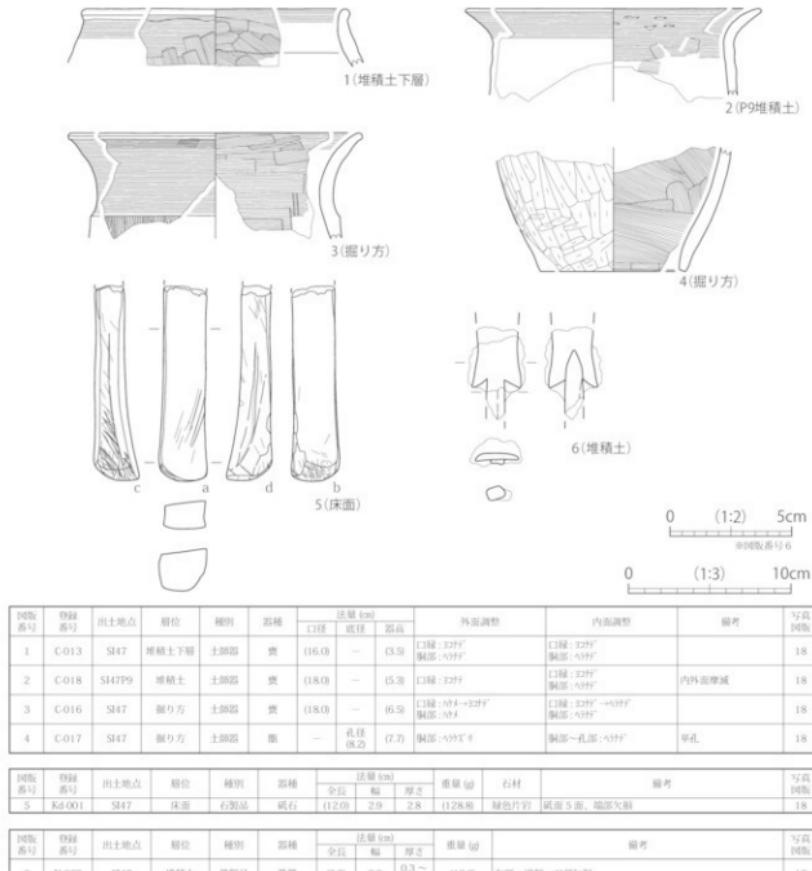
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI46より古いことから、5a期(郡山1期官衙期)以前と考えられる。



第22図 SI47 竪穴住居跡 (1)



第23図 SI47 積穴住居跡 (2)



第24図 SI47 穫穴住居跡出土遺物

## SI48 穫穴住居跡（第25～28図）

【位置・確認】 調査区東部の31・32・37・38グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により床面中央及び北東コーナー、カマドの一部などが失われ、南東コーナーは調査区外へ延びる。

【重複】 SD26～28、SK2、Pit2より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸340cm、短軸310cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-28°Wである。

【堆積土】 11層に分層した。1～3層は灰黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土である。4層は暗褐色土ブロックを多量に含む明黄褐色シルトで、壁面に貼り付くように堆積していることから、壁面の補強などを

行っていた可能性が考えられる。5層は周溝堆積土、6～8層はカマド関連の堆積土、9・10層はカマド袖の構築土、11層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は23～30cmを測る。

【床面】掘り方埋土である11層上面を床面とし、僅かに起伏がみられる。

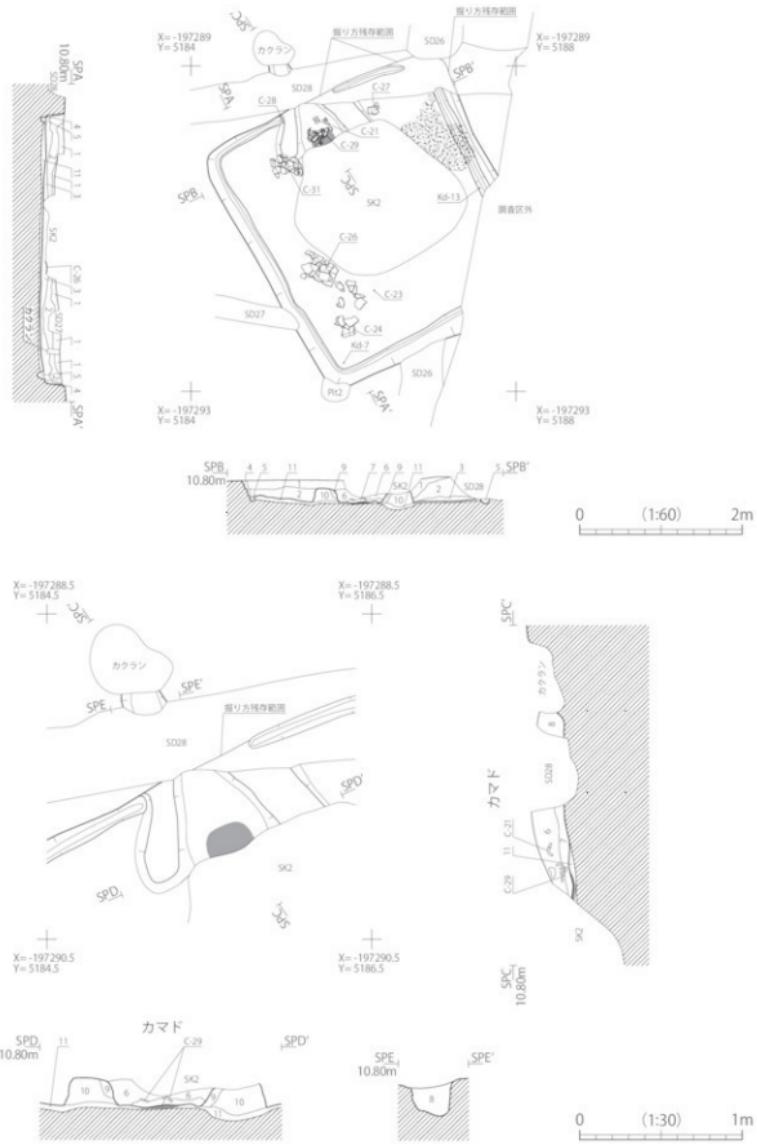
【周溝】カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。東壁では、壁面から4～8cm程度内側に位置する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅7～28cm、深さ3～10cmを測る。

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。重複造構や擾乱により、東袖の先端と奥壁が失われ、煙道部は中央付近のみ残存している。袖の規模は、東袖が長さ37cm以上、幅37cm、西袖が長さ59cm、幅26～35cmを測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設されている。燃焼部の規模は奥行き59cm以上、幅47cmを測る。底面には長軸30cm程度の焼面がみられ、焼面中央付近は強い被熱による変色や硬化が認められた。煙道部の規模は、壁からの長さ60cm以上、幅26cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】深さ1～5cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、堆積土から土師器・須恵器・石製品が出土している。土師器環2点、土師器蓋1点、土師器鉢1点、土師器甕9点、須恵器鉢1点の計14点（第26図-1～7、第27図-8～11、第28図-12～14）を掲載した。1・7・10はカマド堆積土、2・4・5・8・9・11・12は床面、3・6・13・14は住居堆積土からの出土である。1・2は土師器環で、共に鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものである。共に緩やかに内湾する体部で、口縁部は1が外反気味に直立し、2が短く直立する。口縁部と体部の境は、1は外面に段、内面に稜、2は内外面共に稜を持つ。調整は、口縁部が外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、2はヘラナデ後に放射状のヘラミガキが施され、外面が黒色塗仕上げされている。色調は、1が暗褐色～褐色、2が暗褐色～橙色を呈する。胎土は、1は多量の砂粒や赤色粒子、海綿骨針を含み、2は比較的に密で粉っぽい。3は形状から蓋としたが、壺類の口縁部の可能性も考えられる。内面には口縁に沿って1条の沈線が施され、その内側には斜位の短沈線を施している。4は土師器鉢である。平底風の丸底で、胴部は球胴形を呈し、胴部中位に最大径を持つ。調整は、内外面とも体部ヘラミガキで、内面に黒色処理が施される。5～13は土師器甕である。5は胴部の張りが弱い小型の甕で、口縁部が外反気味に外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部内面がヘラナデである。6～10は胴部が長胴形を呈する。口縁部と胴部の境は、いずれも外面に段ないし稜を持ち、8・9の内面には強い稜がみられる。口縁部は外反ないし外反気味に外傾し、8は口縁端部が外側に強く屈曲する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデで、8・10の外面にはヨコナデ前にハケメが施されている。胴部外面は6・10がハケメ、7・9がヘラケズリ、8がハケメ後ヘラナデで、10はハケメが施された後に下半にヘラケズリが施される。胴部内面は全てヘラナデである。10の底部には木葉痕がみられる。11・12は胴部が球胴形を呈し、胴部の最大径は11が胴部中位のやや下、12が胴部中位に位置する。11は外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は直線的に外傾し、口縁端部が外側に屈曲する。12は外反する口縁部で、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、口縁部が内外面ヨコナデで、11にはヨコナデ前にハケメが施されている。胴部は外面がハケメ後にヘラケズリ、内面がヘラナデである。13はラッパ状に開く器形を呈し、懸の可能性も考えられる。外面の口縁部と胴部の境に稜を持つ。調整は、外面は口縁部がハケメ後ヨコナデ、胴部上半がハケメ、胴部下半がハケメ後ヘラケズリで、内面は口縁部がヨコナデ、胴部ヘラナデである。14は須恵器鉢である。内湾する体部を持ち、口縁部は粘土を折り曲げて肥厚させ、縁帶状を呈する。外面の体部上端にカギ目が施される。色調は、黄灰色ないし灰色～にぶい黄褐色を呈し、胎土には砂粒や海綿骨針を含む。

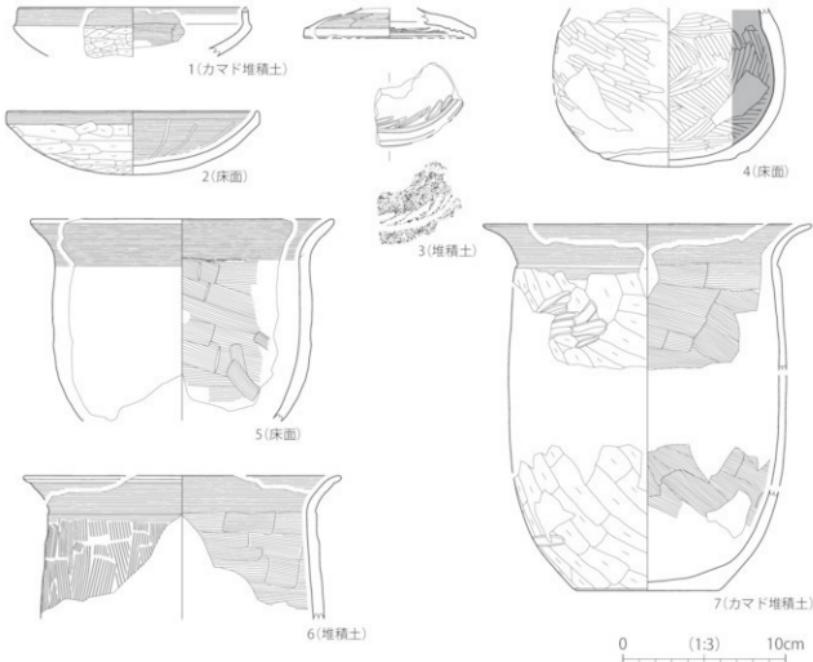
【時期】床面及びカマド堆積土から出土した土師器環（第26図-2）、土師器鉢（第26図-4）、土師器甕（第26図-5・7、第27図-8～11、第28図-12）から、4a期（住社式期新段階）と考えられる。



第25図 SI48 穏穴住居跡

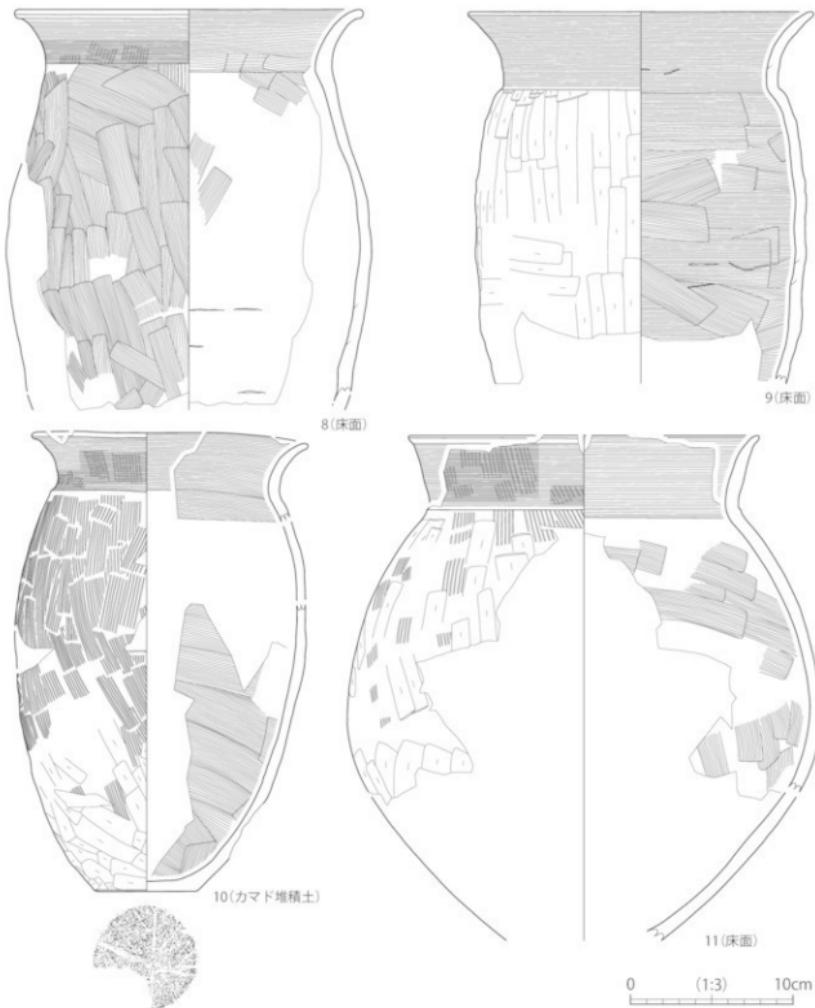
SI48 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10Y4/4 灰黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。
	2	10Y3/3 嫌褐色	シルト	古層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量。炭化物微量含む。
	3	10Y5/2 灰黃褐色	シルト	古層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量。炭化物微量含む。
	4	10Y4/2 に少し黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
床溝	5	10Y3/2 黑褐色	シルト	古層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	6	10Y3/2 黑褐色	シルト	地土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
カマド	7	2.5Y4/8 嫌褐色	シルト	地土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	8	10Y3/3 黑褐色	シルト	炭化物少量含む。
カマド焰	9	10Y6/6 明黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 多量含む。
	10	10Y7/6 明黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 多量含む。
	11	10Y7/6 明黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 少量。炭化物微量含む。
住居掘り方	12	10Y7/6 明黃褐色	シルト	



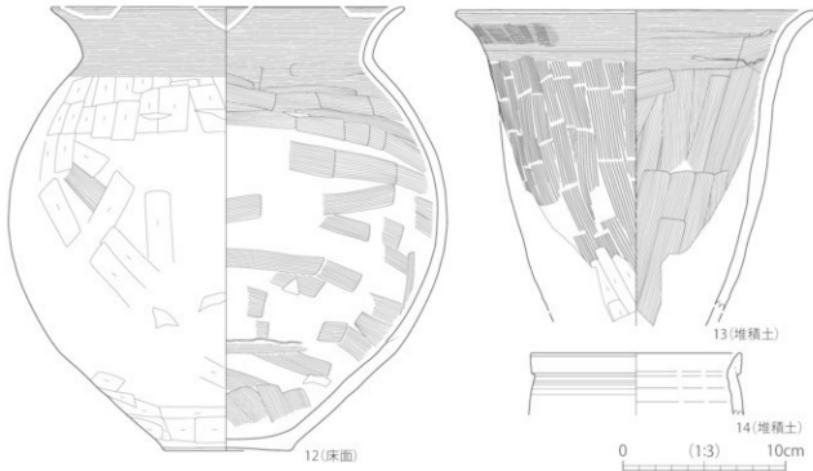
回数 登録 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			背面調整	内面調整	備考	写真 番號
						口縁	底径	器高				
1	C-030	SI48 カマド	堆積土	土師器	环	(14.0)	—	(3.0)	口縁: 32mm 体部: 54mm	口縁: 32mm 体部: 54mm	側束系	18
2	C-027	SI48	床面	土師器	环	15.4	—	3.9	口縁: 32mm 体部: 54mm	口縁: 32mm 体部: 54mm → 腹斜長(33mm)	側束系 内外面番仕上げ SKZ出工具物と複合	18
3	C-022	SI48	堆積土	土師器	蓋?	(10.4)	—	(1.8)	体部: 56mm	体部: 深波文		18
4	C-025	SI48	床面	土師器	鉢	—	4.5	(9.6)	体部: 53mm	体部: 53mm	内面黒色処理 SI49 堆積土上層出土遺物と複合	20
5	C-028	SI48	床面	土師器	蓋	(18.4)	—	(12.4)	口縁: 32mm 体部: 54mm	口縁: 32mm 体部: 54mm	側束外周摩滅	18
6	C-019	SI48	堆積土	土師器	蓋	(19.6)	—	(8.8)	口縁: 32mm 体部: 54mm	口縁: 32mm 体部: 54mm		18
7	C-029	SI48 カマド	堆積土	土師器	蓋	(19.6)	8.6	(22.5)	口縁: 32mm 体部: 54mm	口縁: 32mm 体部: 54mm		20

第26図 SI48 積石住居跡出土遺物（1）



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
8	C-024	SI48	床面	土師器	甕	21.0	—	(24.7)	口縁: 5.4~7.2cm 胴部: 5.4~7.2cm	口縁: 3.2cm 胴部: 5.4cm		19
9	C-026	SI48	床面	土師器	甕	21.0	—	(22.9)	口縁: 3.2cm 胴部: 5.4cm	口縁: 3.2cm 胴部: 5.4cm		19
10	C-021	SI48 カマド	堆積土	土師器	甕	16.6	6.2	28.2	口縁: 5.4~7.2cm 胴部: 5.4~7.2cm	口縁: 3.2cm 胴部: 5.4cm	底部: 木炭痕 SK2出土物と接合	19
11	C-023	SI48	床面	土師器	甕	(21.6)	—	(31.0)	口縁: 5.4~7.2cm 胴部: 5.4~7.2cm	口縁: 3.2cm 胴部: 5.4cm	SK2出土物と接合	19

第27図 SI48 穫穴住居跡出土遺物 (2)



第28図 SI48 穫穴住居跡出土遺物(3)

## SI49 穫穴住居跡(第29～32図)

【位置・確認】 調査区北部の13・14・18・19 グリッドに位置する。重複遺構により北東コーナーやカマド煙道部の一部などが失われている。

【重複】 SI50・51より新しく、小溝状遺構D群、SD29、Pit1より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 522cm、短軸 455cm を測る。平面形状は南東部がやや広がる隅丸方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N - 13° - W である。

【堆積土】 14層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土である。3層は壁面に沿って堆積することから、壇板痕跡の可能性が考えられる。4層は周囲堆積土、5～9層はカマド関連の堆積土、10・11層はカマド袖の構築土、12層はカマド掘り方埋土、13・14層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は 5～15cm を測る。

【床面】 掘り方埋土である 13 層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基 (P1～4)、掘り方底面から 1 基 (P5)、総数 5 基を検出した。P1～4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 47～86cm、深さ 47～68cm を測る。いずれの柱穴からも径 18～33cm の柱痕跡が確認され、底面には径 10cm 程度の変色範囲が認められた。P5 は人為的に埋め戻されているものと考えられる。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規

模は幅10～23cm、深さ2～11cmを測る。壠板痕の可能性が考えられる3層が僅かに床面より下まで堆積土していることが認められた。

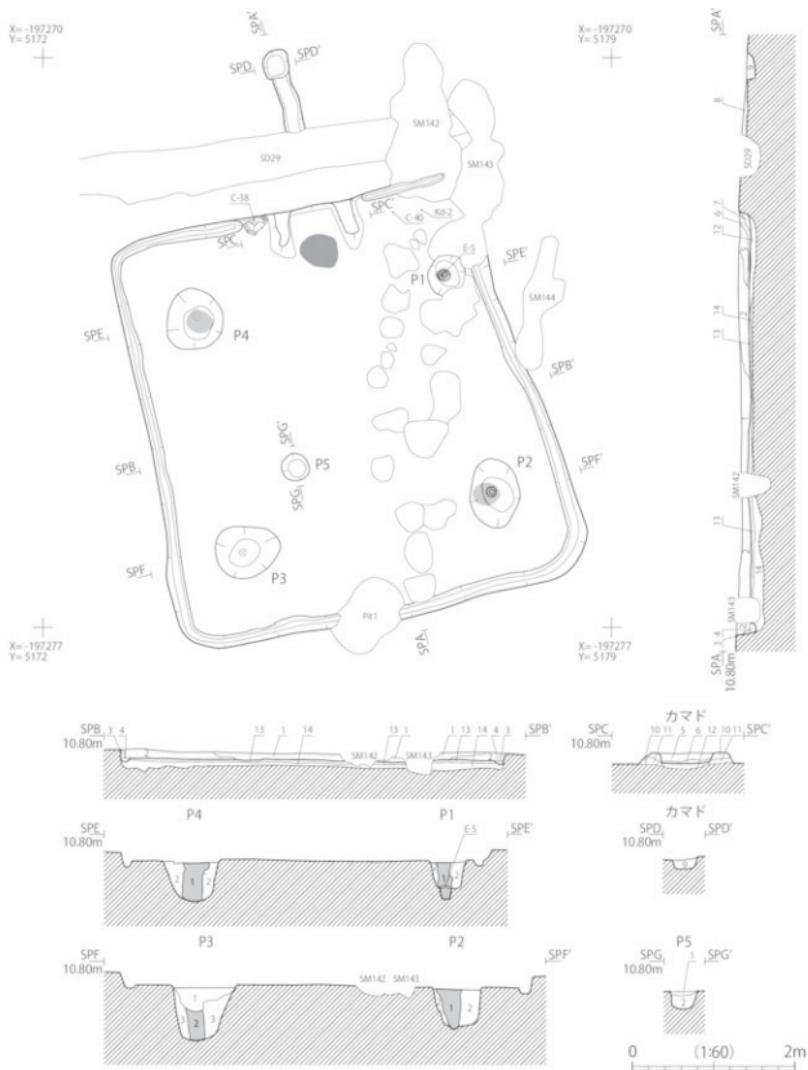
**【カマド】** 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。削平やSD29との重複により煙道基部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ60cm、幅27～31cm、西袖が長さ58cm、幅27～28cmを測る。袖は壁面に直交して付設されている。燃焼部の規模は奥行き79cm以上、幅60～69cm以上、奥壁高12cmを測り、壁内に位置する。底面には長軸48cm程度の焼面がみられる。煙道部の規模は、燃焼部奥壁からの長さ196cm、幅20～31cm、深さ3～16cmを測る。底面は概ね平坦で、煙出し部分は深さ10cm程度のピット状に掘り込まれている。

**【掘り方】** 深さ3～22cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられ、壁際が僅かに低くなる。

**【出土遺物】** 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・石製品などが出土している。土師器壺5点、土師器鉢1点、土師器高环1点、土師器甕5点、須恵器壺2点、須恵器蓋1点、須恵器瓶類1点、鉄製品2点、石製品1点の計19点を掲載した（第30図-1～7、第31図-8～16、第32図-17～19）。1～3・7・9・11・12・18・19は住居堆積土、4～6・10・13は掘り方、8・17は床面、14はカマド堆積土、15・16はP1堆積土からの出土である。1～5は土師器壺である。1・2は北武藏型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持ち、1は緩やかに内湾する体部から口縁部が「S」字形に短く直立し、2は張りの強い半球状の体部から口縁部が内傾して立ち上がり、口縁端部が短く外傾する。調整は、共に口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。色調は、1が橙色、2が褐灰へにぶい褐色を呈する。胎土は、1が多量の砂粒と赤色粒子を含み、2が少量の砂粒と海綿骨針を含む。3は緩やかに内湾する体部から口縁部が外反気味に短く直立する。北武藏型土師器（清水型関東系土器）に類似する器形を呈するが、1・2と比べると器壁が全体的に厚い。調整は、口縁部が外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキである。4・5は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持ち、4は身が深く口径10cm程の小型品、5は身が浅く口径13cm程の中型品である。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。6は外面の口縁部と体部の境に段を持つ土師器鉢で、全体的に器壁が厚い。調整は、外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。7は土師器高环で、脚部は中空である。調整は、外面が環部と脚部共にヘラケズリ、環部内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。8～12は土師器甕である。8は胴部の張りが弱い小型の甕で、外面の口縁部と胴部の境に稜を持つ。口縁部はやや内傾気味に立ち上がり外反し、口縁端部が肥厚する。調整は口縁部が外面ヨコナデ、胴部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。9は中型の甕で、外面の口縁部と体部の境に太い沈線の段を持つ。張りの弱い胴部から口縁部が直立し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、外面は口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。10～12は大型の甕で、いずれも外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は10が直線的に外傾、11が外反、12が直立気味に立ち上がり外傾する。胴部は10が直立気味で、12は胴部中位のやや上位に最大径を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデとヘラケズリがある。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。13・14は須恵器壺である。13は外面の口縁部と体部の境に段を持つ小型の壺で、14は平底の底部から内湾気味に外傾する体部へと立ち上がる器形を呈する。14の底部には静止糸切り痕がみられ、外面の体部下端から底部周縁には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、13がにぶい黄橙色、14が黄灰色を呈する。胎土は、13は海綿骨針を含み、14は黑色粒子を多く含む。15は須恵器蓋である。内面に退化したカエリを持ち、口縁端部が下方に屈曲する。色調は、灰色～灰黄色を呈し、胎土に海綿骨針を含む。16は提瓶の胴部と考えられる。調整は、外面回転ヘラケズリ、内面はユビナデで、外面に渦巻き状のカギ目が施される。色調は、灰色を呈し、焼成は堅く締まる。胎土には海綿骨針と砂粒を多量に含む。17は砂岩製の台石である。形状は五角形を呈し、磨面や溝状痕のほか、a面には研磨孔がある。18・19は鉄製品である。18は鉄鎌で、無頭長三角

形鑓である、断面形は片丸造である。19は鉸具で、形状は角の丸い「口」字状を呈する。

【時期】 カマド堆積土から出土した須恵器環（第31図-14）から5bii期（奈良時代）と考えられる。



第29図 SI49 積穴住居跡

## SI49 堆積土記表

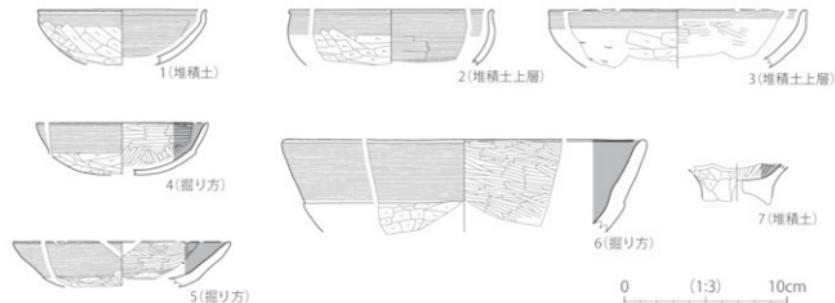
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、粘土粒微量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、粘土粒・炭化物微量含む。
	3	10YR2/2 黄褐色	シルト	炭化物微量含む。多層板道路？
面溝	4	10YR3/4 黄褐色	シルト	表面土・底土共に粘土粒微量含む。
カマド	5	10YR4/1 黄褐色	シルト	砂土ブロック (5 ~ 20mm) 炭化物多量含む。
	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂土ブロック (5mm程度) 灰多量含む。
	7	10YR3/3 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。
カマド廻り方	8	10YR2/2 黑褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 炭化物・炭化物粘少量含む。
	9	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物微量、表面土ブロック (5mm程度) 灰少量含む。
	10	10YR4/4 黑色	シルト	砂土ブロック (5mm程度) 炭化物微量含む。
カマド廻り方	11	10YR3/6 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 砂土・砂土ブロック (5mm程度) 炭化物微量含む。
	12	10YR4/1 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
住居廻り方	13	10YR3/1 黑褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 多量、粘土粒少量、砂土粒微量含む。
	14	10YR2/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。

## SI49 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。※柱廻跡
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒・砂土粒微量含む。※柱廻跡
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒・砂土粒微量含む。
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。※柱廻跡
	3	10YR7/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。
P4	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。※柱廻跡
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒・砂土粒微量含む。
P5	1	10YR7/4/1 黄褐色	シルト	表面土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	2	10YR7/1 白灰色	粘土質シルト	粘土質表面土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。

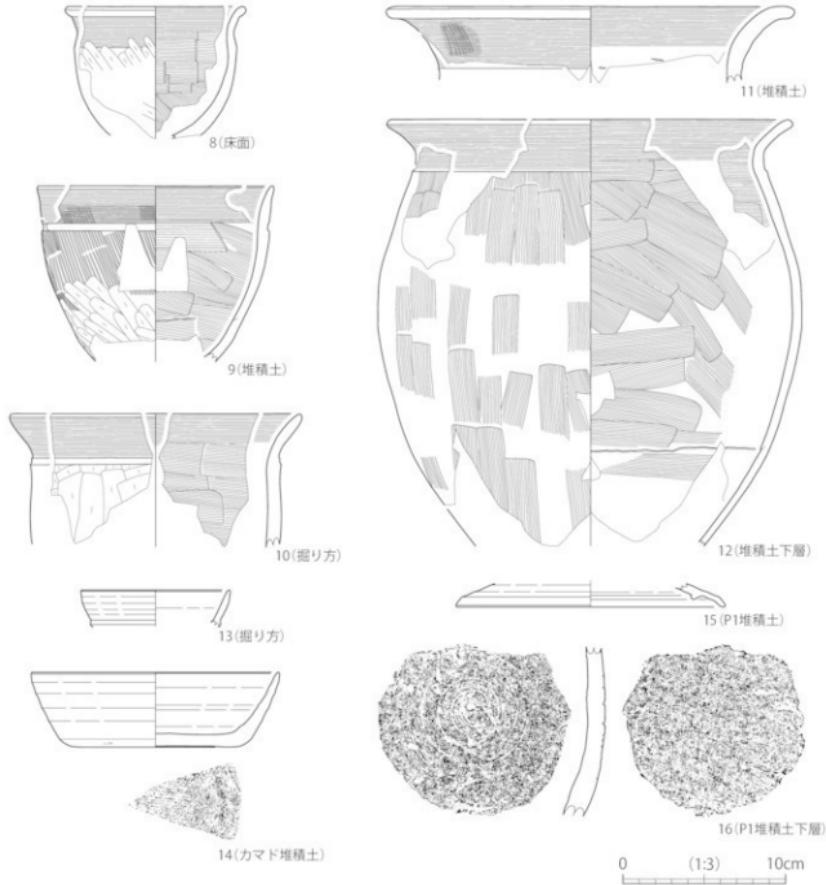
## SI49 施設觀察表

施設名	平面形	断面 (cm)	備考	施設名	平面形	断面 (cm)	備考
		右側×左側	深さ			右側×左側	深さ
P1 (円形)	47 × 42	51	主柱穴、底面黒色	P4	円形	74 × 74	51
P2 楕円形	86 × 62	47	主柱穴、底面黒色	P5	円形	34 × 33	21 廻り方廻出
P3 楕円形	80 × 64	68	主柱穴、底面黒色				



回収番号	試録番号	出土地点	層位	種別	断面	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	往復	路高				
1	C-033	SI49	堆積土	土顕器	坪	(10.4)	—	(3.4)	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	開口系	20
2	C-032	SI49	堆積土上層	土顕器	坪	(12.4)	—	(3.3)	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	開口系	20
3	C-034	SI49	堆積土上層	土顕器	坪	(15.8)	—	(3.6)	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	内面黒色処理?	20
4	C-041	廻り方	土顕器	坪	(10.6)	—	3.2	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	内面黒色処理	20	
5	C-039	廻り方	土顕器	坪	(13.2)	—	(2.8)	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	内面黒色処理 内面水平基準	20	
6	C-042	廻り方	土顕器	鉢	(22.2)	—	(5.7)	口縁: 32cm 体部: 54cm	口縁: 32cm 体部: 54cm	内面黒色処理	20	
7	C-036	SI49	堆積土	土顕器	高坪	—	—	(2.5)	環部~脚部: 54cm	脚部: 54cm	内面内面黒色処理	20

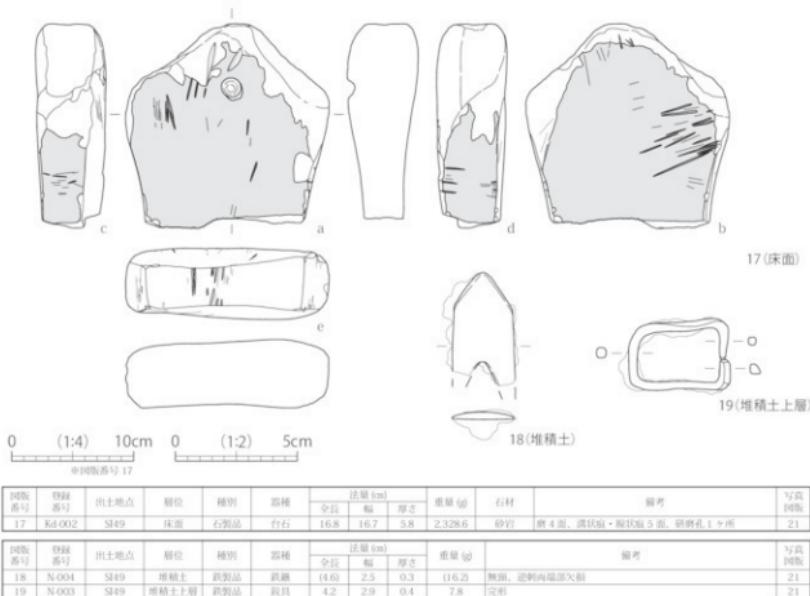
第30図 SI49 穫穴住居跡出土遺物 (1)



0 (1:3) 10cm

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 番號
						口径	底径	高さ				
8	C-040	SI49	床面	土師器	甕	(11.0)	—	(7.0)	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	20	
9	C-035	SI49	堆積土	土師器	甕	(14.4)	—	(10.8)	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	20	
10	C-043	SI49	削り方	土師器	甕	(18.0)	—	(8.2)	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	口縁: 32mm 脚部: 6mm 脚部: 1mm	20	
11	C-037	SI49	堆積土下層	土師器	甕	(25.0)	—	(4.7)	口縁: 32mm 底部: 6mm	口縁: 32mm	20	
12	C-038	SI49	堆積土下層	土師器	甕	(25.0)	—	(26.2)	口縁: 32mm 脚部: 6mm	口縁: 32mm 脚部: 6mm	21	
13	E-007	SI49	削り方	須恵器	环	(9.0)	—	(2.2)	口縁調整	口縁調整	20	
14	E-006	SI49 カマド	堆積土	須恵器	环	(15.2)	(10.4)	4.6	口縁調整 底部: 静止系取り一休下端~ 底部調査: 口縁: 6mm	口縁調整	20	
15	E-004	SI49P1	堆積土	須恵器	蓋	(16.6)	—	(1.6)	口縁調整	口縁調整	20	
16	E-005	SI49P1	堆積土下層	須恵器	環	—	—	(10.3)	脚部: 6mm 脚部: 1mm	脚部: 6mm 脚部: 1mm	21	

第31図 SI49 穴式住居跡出土遺物 (2)



第32図 SI49 穫穴住居跡出土遺物（3）

## SI50 穫穴住居跡（第33～35図）

【位置・確認】 調査区北部の13・14・18・19グリッドに位置する。重複遺構と攪乱により中央付近から東壁の大半及び西壁の一部などが失われている。また、上面は削平を受けており、北半部は床面が残存していない。

【重複】 SI51・52より新しく、SI49、SD29、小溝状遺構A・D群、Pit1より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸856cm、短軸850cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-2°-Wである。

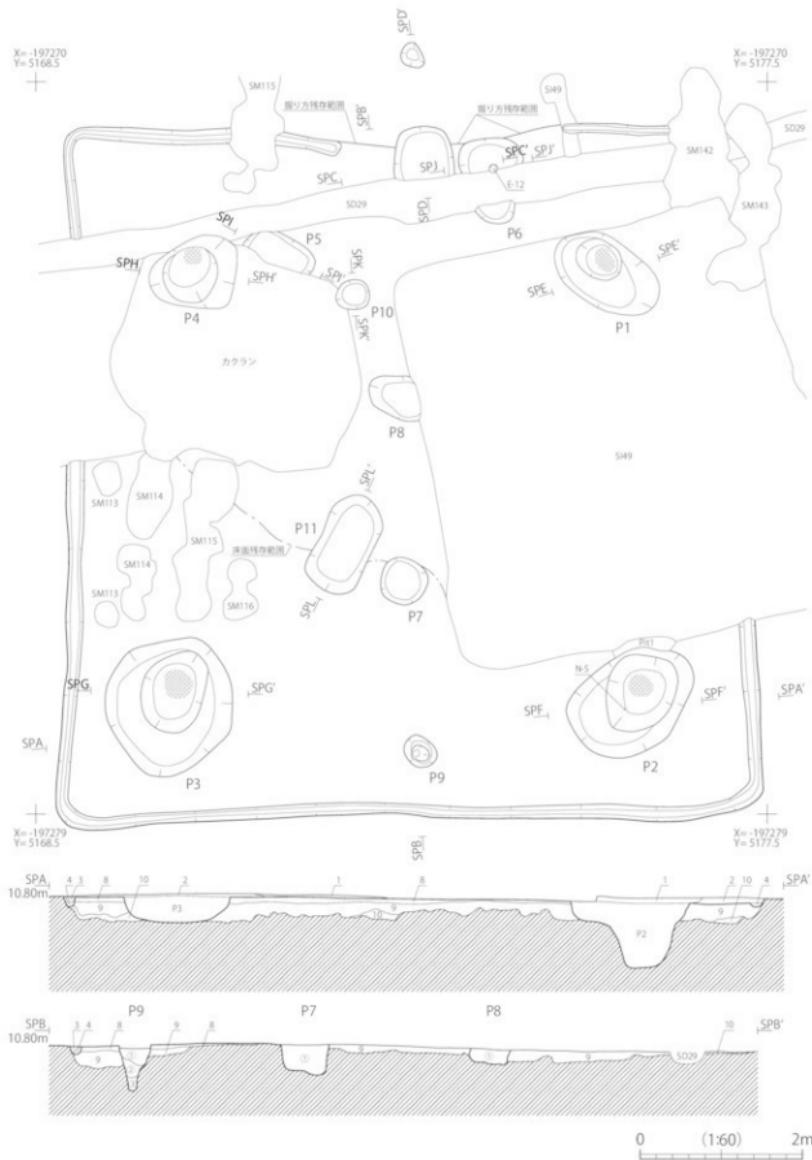
【堆積土】 10層に分層した。1・2層は暗褐色砂質シルトないしシルトを主体とする住居堆積土で、3・4層は周溝堆積土である。5層はカマド関連の堆積土、6・7層はカマド掘り方理土、8～10層は掘り方理土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は3～8cmを測る。

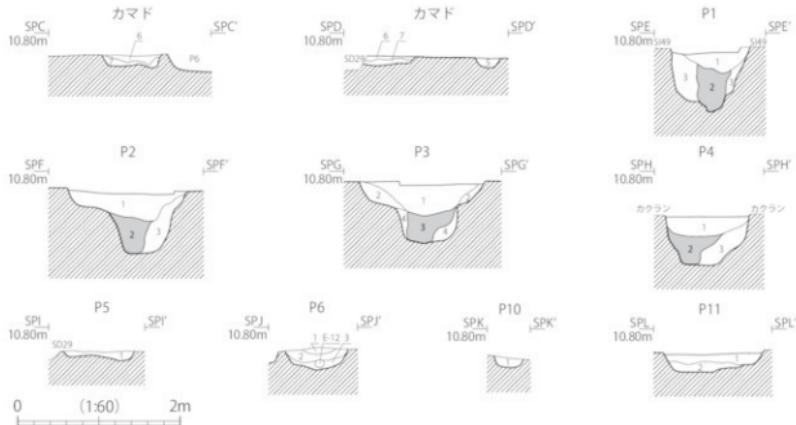
【床面】 残存部分では、掘り方理土である8層上面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面及び掘り方理土上面から8基（P1～4・7～10）検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸104～176cm、深さ60～86cmを測る。いずれの柱穴からも径44～56cmの柱痕跡が確認され、底面には径22～34cmの変色範囲が認められた。P9は南壁際の中央に位置しており、出入り口に関連する施設の可能性が考えられる。P10の堆積土中には多量の焼土ブロックや灰、炭化物、骨片が含まれており、カマドに関連する施設と考えられる。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅10～20cm、深さ1～15cmを測る。



第33図 SI50 竪穴住居跡 (1)



SI50 垂積土跡記表

部位	層位	土性	土性	備考
直埋堆積土	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	粘着土ブロック(5mm程度) 少量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～20mm) 少量、焼土と微量含む。
	3	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量含む。
削溝	4	10YR6/3 に深い黄褐色	シルト	粘着土ブロック(20～40mm) 多量含む。
カマド	5	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～20mm) 少量、炭化物類微量含む。
カマド掘り方	6	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量含む。
	7	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量含む。
移転掘り方	8	10YR5/3 に深い黄褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 多量含む。
	9	10YR4/3 に深い黄褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 多量、炭化物類微量含む。
	10	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘着土と少量含む。

SI50 施設堆積土跡記表

遺構名	層位	土性	土性	備考
P1	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 炭化物類微量含む。串状孔隙。
	3	10YR6/6 明灰褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量含む。
P2	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 炭化物類微量含む。串状孔隙。
	3	10YR6/6 明灰褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量含む。
P3	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR6/6 明灰褐色	シルト	明灰褐色土ブロック(5～10mm) 多量含む。
	3	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 炭化物類微量含む。串状孔隙。
P4	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 炭化物類微量含む。串状孔隙。
	3	10YR6/6 明灰褐色	シルト	明灰褐色土ブロック(5～10mm) 多量含む。
P5	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～20mm) 少量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR6/6 明灰褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 少量、炭化物類・焼土と微量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土と炭化物類微量含む。
P6	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(10mm程度) 多量、炭化物類微量含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 多量含む。
	4	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 多量含む。
P7	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類・焼土と微量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 炭化物類微量含む。串状孔隙。
	3	10YR6/6 明灰褐色	シルト	明灰褐色土ブロック(5～10mm) 多量含む。
P8	①	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 多量、炭化物類微量含む。
	②	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘着土ブロック(10～20mm) 少量、炭化物類微量含む。
	③	10YR3/1 黑褐色	シルト	粘着土ブロック(5～10mm) 多量、炭化物類微量含む。
P9	①	10YR3/3 黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト
	②	10YR5/4 に深い黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト
	③	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	粘土質シルト
P10	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	粘土質シルト
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類微量含む。
	3	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(10～40mm) 多量、炭化物類微量含む。
P11	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘着土ブロック(5～30mm) 多量、炭化物類微量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘着土ブロック(10～40mm) 多量、炭化物類微量含む。

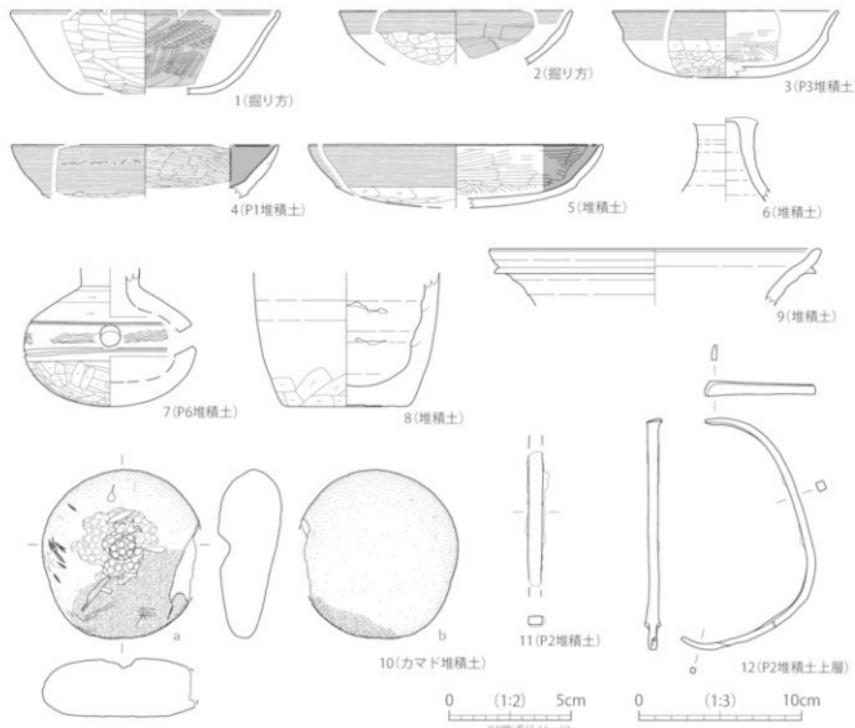
SI50 施設細胞表

遺構名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1 (楕円形)	(140) × (82)	(79)	主柱穴 底面黒褐色	
P2 (円形)	164 × 118	82	主柱穴 底面黒褐色	
P3 (円形)	176 × 160	86	主柱穴 底面黒褐色	
P4 (不整方形)	(104) × (84)	660	主柱穴 底面黒褐色	
P5 (楕丸形)	(86) × (40)	11.0		
P6 (不整方形)	(107) × (76)	(2.7)	剪裁穴	

遺構名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7 (円形)		60 × (59)	34	
P8 (楕円形)		(63) × (54)	(17)	
P9 (楕円形)		42 × 34	56	
P10 (円形)		(42) × (36)	(32)	
P11 (楕丸形)		(125) × 65	24	掘り方細出

第34図 SI50 積穴住居跡 (2)



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	背面調整			内部調整	備考	写真 脚本
							全径	幅	厚さ			
1	C-049	S150	握り方	土顎器	环	(16.6)(7.8)	5.1	口縁・底部・内側溝	平行→2段の放射状明文	鍍内系	21	
2	C-048	S150	握り方	土顎器	环	(14.2)	—	(3.3)	口縁・口内・体部	口縁・口内・体部・内側溝	面内系	21
3	C-046	S150P3	堆積土	土顎器	环	(13.8)	—	4.1	口縁・口内・体部	口縁・内側溝	内面磨滅 内面黒色処理?	21
4	C-045	S150P1	堆積土	土顎器	环	(16.4)	—	(3.3)	口縁・口内・体部	口縁・内側溝	内面黒色処理	21
5	C-047	S150	堆積土	土顎器	环	(18.0)	—	(3.0)	口縁・口内・体部	口縁	内面黒色処理 13.3 ?出土遺物と接合	21
6	E-009	S150	堆積土	消泡器	高環	—	—	(5.2)	口縁	口縁	—	21
7	E-012	S150P6	堆積土	消泡器	瓶	(3.6)	—	(8.5)	強部・口縁調整 瓶下端・底部・内側溝	口縁・内側溝 瓶下端・内側溝	注口径 1.3cm	21
8	E-035	S150	堆積土	消泡器	壺 or 酢瓶	—	7.2	(8.2)	口縁調整 瓶下端・底部・内側溝	口縁調整	—	21
9	E-010	S150	堆積土	消泡器	壺	(20.4)	—	(3.5)	口縁調整	口縁調整	—	21

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)			石材	備考	写真 脚本
							全長	幅	厚さ			
10	Kc-001	S150 かゞ	堆積土	礫石器	砾石	10.4 (9.4)	3.9	(328.0)	凝灰岩	敲打痕・溝状痕(上面)、被熱による黒変一部欠損	—	21

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)			石材	備考	写真 脚本
							全径	幅	厚さ			
11	N-006	S150P2	堆積土	鉄製品	棒状鉄製品	(5.5) 0.5 0.3	(5.1)	角柱状。内面部欠損	—	—	—	21
12	N-005	S150P2	堆積土上層	鉄製品	鐵鑼	9.5 0.4~0.6 0.3	9.9	完形、長頭、刃形開	—	—	—	21

第35図 S150 穫穴住居跡出土遺物

**【カマド】** 北壁中央部に位置する。削平やSD29との重複により、燃焼部の掘り方と煙出し部分のみが残存している。燃焼部の規模は奥行き65cm以上、幅58cm、奥壁高10cm程度で、23cm程度壁外に張り出している。煙出し部分はピット状に掘り込まれており、規模は長軸30cm、深さ12cmを測る。壁からの長さは約104cmである。

**【その他の施設】** 掘り方残存部上面から土坑2基(P5・6)、掘り方底面から土坑1基(P11)、総数3基を検出した。いずれも人為的に埋め戻されており、P6はカマドの右脇に位置することから貯蔵穴の可能性が考えられる。P5の堆積土中には多量の焼土ブロックが含まれており、カマドに関連する施設と考えられる。

**【掘り方】** 深さ3~32cmを測る。底面には起伏がみられ、中央の南側が高く、壁面に向かって低くなる。

**【出土遺物】** 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。土師器壺5点、須恵器高杯1点、須恵器甕1点、須恵器壺ないし瓶類1点、須恵器甕1点、礫石器1点、鉄製品2点の計12点を掲載した(第35図-1~12)。1・2は掘り方、5・6・8・9は住居堆積土、3はP3堆積土、4はP1堆積土、7はP6堆積土、10はカマド堆積土、11・12はP2堆積土からの出土である。1~5は土師器壺である。1は畿内系土師器の特徴を持つものである。平底と推定される底部から直線的に外傾する体部へ丸みを持って立ち上がり、口縁部は僅かに外傾し、口縁端部が内側に屈曲する。調整は、外面が幅の広いヘラミガキで、内面にはヘラナデ後に上下2段の放射状暗文を施している。色調は、胎土が黄褐色で、器表面が橙色を呈し、胎土は精製され、混入物は少ない。2は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。緩やかに内湾する体部から口縁部が短く外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。色調は、にぶい橙色へ褐灰色を呈し、胎土には砂粒をやや多く含み、微量の赤色粒子がみられる。3~5は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は3が外反気味に外傾、4が直線的に外傾、5が内湾気味に外傾する。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキで、4・5は黒色処理が施される。3は色調が橙色を呈し、4・5とは異なる。6は須恵器高杯である。透かしや文様は施されていない。色調は、灰色を呈し、胎土には砂粒を多く含む。7は須恵器甕である。体部は扁平な球状で、肩部は直線的な撫で肩である。注口は体部中位にあり、孔径は1.3cmを測る。注口を挟んで上下に1条ずつ横位の沈線が刻まれ、その間に3条1組の櫛描き波状文が施される。色調は、灰色~暗灰色を呈し、胎土には砂粒や海綿骨針を含む。外面の調整は、頸部ロクロ調整、肩部回転ヘラケズリ、体部下半ヘラケズリである。内面の調整はロクロ調整である。8は須恵器壺ないし瓶類である。底部は平底で、胴部は内湾気味に立ち上がる。色調は、にぶい黄褐色を呈し、胎土には多量の砂粒を含む。外側の胴部下端から底部にはヘラケズリによる再調整が施されている。9は須恵器甕である。口縁部端面は水平で、直下に1条の突帯が巡る。色調は、外側が赤灰色、内側は灰褐色を呈し、胎土には多量の砂粒や海綿骨針を含む。10は凝灰岩製の敲石である。外側は被熱により黒変している。11は棒状鉄製品で、断面形状は方形を呈する。12は長頸の鐵鑑であるが、出土時には「C」字状に大きく湾曲していた。鑑身部の形状は片刃の整箭鑑で、頸部の闊は台形闊である。断面形状は頸部・茎部共に方形を呈する。

**【時期】** 時期決定できる遺物はないが、SI49より古く、掘り方から出土した土師器壺(第35図-1)は畿内系土師器と考えられ、飛鳥IVに比定されることから、5a期(郡山I期官衙期)~5bii期(奈良時代)と考えられる。

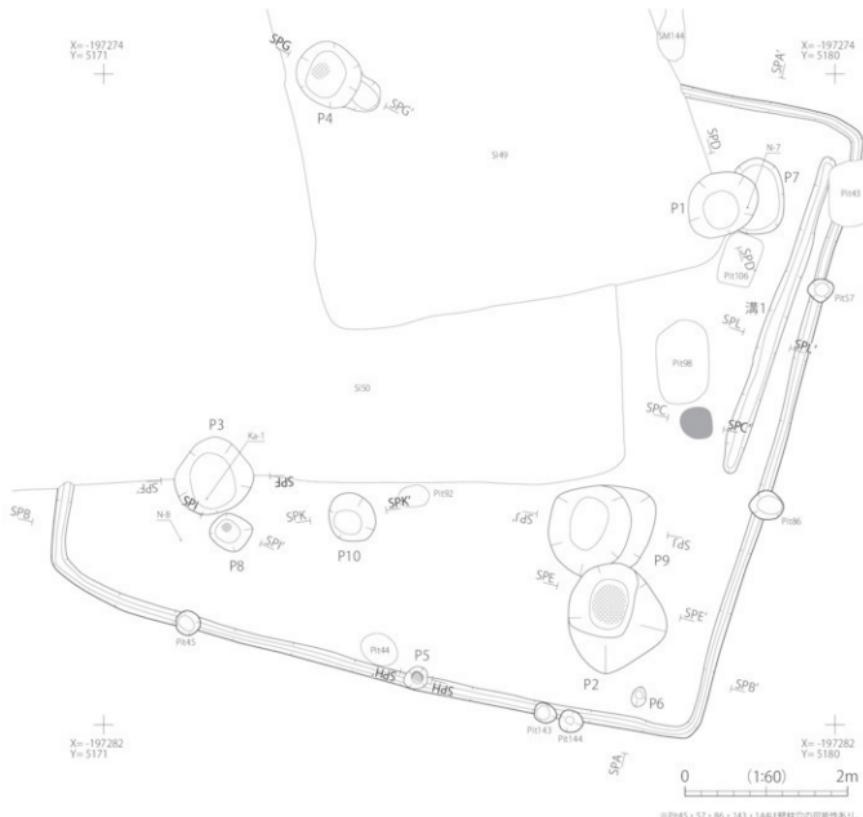
#### SI51 穂穴住居跡(第36~38図)

**【位置・確認】** 調査区北東部の14・18・19・24・25グリッドに位置する。重複遺構により中央部から北西部の大半が失われている。

**【重複】** SI52より新しく、SI49・50、Pit43~45・57・86・92・98・106・143・144より古い。

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸838cm、短軸790cmを測る。平面形状は方形を呈する。

**【方向】** 東壁を基準としてN-16°-Eである。



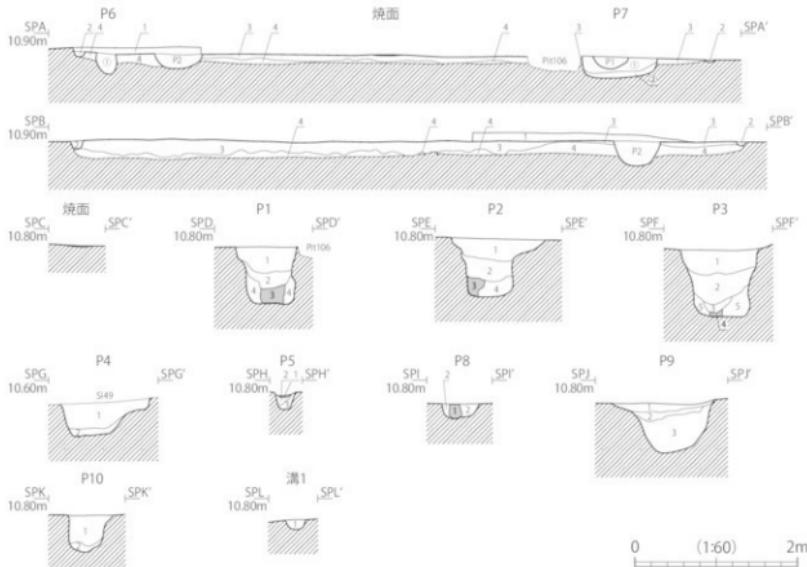
第36図 SIS1 穫穴住居跡（1）

【堆積土】4層に分層した。1層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土、3・4層は掘り方埋土である。

【壁面】残存部分では、直線的に外傾して立ち上がる。壁高は6cmを測る。

【床面】掘り方埋土である3・4層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】床面及び重複遺構底面から7基（P1～7）、掘り方底面から3基（P8～10）、総数10基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸92～136cm、深さ40～82cmを測る。P1～3では径16～29cmの柱痕跡が確認され、いずれも抜き取り痕跡ないし切り取り痕跡が認められた。また、P2・4の底面には径23～45cmの変色範囲が認められた。P5は壁柱穴と考えられ、径15cm程度の柱痕跡が確認された。本住居跡検出時に重複遺構として調査を行ったPt45・57・86・143・144も、位置関係から壁柱穴の可能性が考えられる。



SI51 堆積土記録表

部位	層位	土色	土性	参考
柱基堆積土	1	TOYR4/3に似る・黃褐色	シルト	柱崩土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。
潤滑	2	TOYR3/3 黄褐色	シルト	柱崩土少量、炭化物微量含む。
柱基掘り方	3	TOYR5/4に似る・黃褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 少量、炭化物・植土微量含む。
	4	TOYR4/6 黄褐色	シルト	柱崩土少量。

SI51 施設堆積土記録表

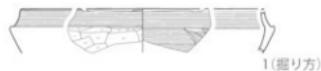
施設名	層位	土色	土性	参考
P1	1	TOYR4/3に似る・黃褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。
	2	TOYR3/3 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。
	3	TOYR4/2 黄褐色	シルト	下部に柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。※柱崩跡
	4	TOYR4/4に似る・黃褐色	シルト	黄褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P2	1	TOYR4/3に似る・黃褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。
	2	TOYR4/1 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱崩跡
	3	TOYR4/2 黄褐色	シルト	下部に柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱崩跡
	4	TOYR4/4に似る・黃褐色	シルト	黄褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P3	1	TOYR3/3 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。
	2	TOYR3/2 黒褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。
	3	TOYR4/2 黄褐色	粘土質シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。
	4	2.5YT/4 黄褐色	粘土質シルト	柱崩土微量含む。※柱崩跡
P4	5	TOYR6/6 明顯黒褐色	シルト	黄褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
	1	TOYR3/3 黄褐色	砂質シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物・植土微量含む。
	2	TOYR6/6 明顯黒褐色	粘土質シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 少量含む。
	3	TOYR3/3 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。※柱崩跡
P5	2	TOYR7/1 黑褐色	粘土質シルト	柱崩土微量含む。
	3	TOYR4/2 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
P6	①	TOYR4/2 黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
P7	①	TOYR4/3に似る・黃褐色	シルト	柱崩土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物・植土微量含む。
	②	TOYR5/4に似る・黃褐色	シルト	柱崩土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P8	1	TOYR5/4に似る・黃褐色	シルト	炭化物微量含む。※柱崩跡
	2	TOYR4/2 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 少量含む。
	3	TOYR5/6 黄褐色	シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。
P9	2	TOYR3/6 黄褐色	シルト	柱崩土微量含む。
	3	TOYR3/4 始期色	シルト	柱崩土微量含む。
	1	TOYR4/1 黑褐色	シルト	柱崩土微量含む。
P10	2	TOYR7/4に似る・黃褐色	粘土質シルト	炭化物微量含むブロック (10mm 程度) 多量含む。
	1	TOYR3/4 始期色	シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。
溝1	1	TOYR3/4 始期色	シルト	柱崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。

第37図 SI51 穫穴住居跡 (2)

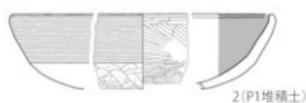
SIS1 烟灰觀察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(9.2) × 7.6	7.1	土柱穴
P2	不整円形	136 × 121	7.3	土柱穴、底面変色
P3	(円形)	(9.8) × (9.5)	8.2	土柱穴
P4	(不整形)	(11.2) × (7.3)	4.0	土柱穴、底面変色
P5	(円形)	30 × 26	1.7	
P6	楕円形	25 × 17	3.3	

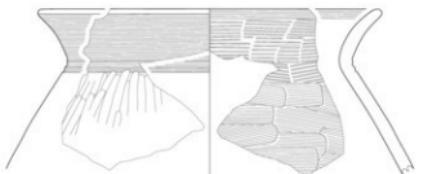
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	(楕丸丘方形)	(9.2) × (5.0)	2.7	
P8	楕丸方形	4.8 × 4.7	2.2	掘り方検出
P9	(不整円形)	13.8 × (12.3)	6.4	掘り方検出
P10	円形	5.9 × 5.6	4.5	掘り方検出
溝1	—	40.8 × 17 ~ 26	1.2	掘り方検出



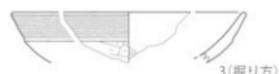
1(掘り方)



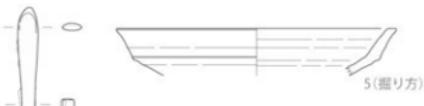
2(P1堆積土)



4(掘り方)



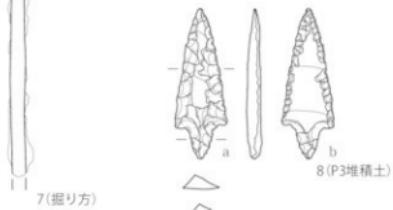
3(掘り方)



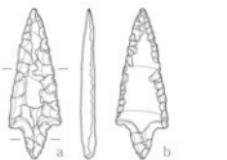
5(掘り方)



6(P1堆積土)



7(掘り方)



8(P3堆積土)

0 (1:1) 3cm 0 (1:2) 5cm 0 (1:3) 10cm  
@国版番号 8 @国版番号 6・7

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
						口徑	底径	高さ				
1	C-052	SIS1	掘り方	土顎器	环	(14.8)	—	(2.7)	口縁: 32.9mm 体部: 49.8mm 底部: 55.8mm	口縁上平: 32.9mm 内外面赤土上げ 底部: 55.8mm	削痕系 内外面赤土上げ	22
2	C-051	SIS1P1	堆積土	土顎器	环	(15.8)	—	(4.6)	口縁: 32.9mm 体部: 49.8mm 底部: 55.8mm	口縁上平: 32.9mm 内外面赤土上げ	内面削痕處理 外側中空摩滅	22
3	C-054	SIS1	掘り方	土顎器	环	(14.2)	—	(3.1)	口縁: 32.9mm 体部: 49.8mm 底部: 55.8mm	口縁上平: 32.9mm 内外面赤土上げ	内面削痕 内外面赤土上げ?	22
4	C-055	SIS1	掘り方	土顎器	環	(21.2)	—	(10.2)	口縁: 32.9mm 体部: 49.8mm 底部: 55.8mm	口縁上平: 32.9mm 内外面赤土上げ	口縁下平: 内外面赤土上げ	22
5	E-014	SIS1	掘り方	須恵器	高环	(17.2)	—	(2.9)	口縁: 32.9mm	口縁調整	内外面自然地付着	22

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
6	N-007	SIS1P1	堆積土	鉄製品	刀子	0.94	0.7~1.2	0.3~0.4	(13.1)	刃部	月~葉部	22
7	N-008	SIS1	掘り方	鉄製品	鉄鏪	(11.8)	0.5~0.8	0.4	(13.9)	ほぼ完形、長柄、難识别		22

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
8	Ka-001	SIS1P3	堆積土	打製石器	石鏪	3.1	1.1	0.3	0.9	玉砂	有茎、厚扁比0.27、先端角25°、穿孔	22

第38図 SIS1 竪穴住居跡出土遺物

**【周溝】** 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅11～19cm、深さ2～13cmを測る。

**【焼面】** 東壁際の中央付近から長軸45cm程度の焼面を検出した。削平によりカマド燃焼部底面の焼面のみが残存しているものと考えられる。

**【その他の施設】** 挖り方底面で東壁に平行する溝1を検出した。規模は長さ408cm、幅17～26cm、深さ12cmを測る。重複する住居跡の周溝や建て替えの可能性が考えられるが、詳細は不明である。

**【掘り方】** 深さ2～25cmを測る。底面は概ね平坦である。

**【出土遺物】** 床面施設及び掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・打製石器が出土している。土師器環3点、土師器甕1点、須恵器高环1点、鉄製品2点、石礫1点の計8点を掲載した（第38図-1～8）。2・6はP1堆積土、8はP3堆積土、その他は掘り方からの出土である。1～3は土師器環である。1は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものである。口縁部は外反気味に内傾し、内外面が黒色漆仕上げされている。色調は、胎土が橙色で、器表面が黒色～灰褐色を呈する。胎土は比較的に密で粉っぽく、微細な砂粒や海綿骨針、赤色粒子を僅かに含む。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。2・3は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は2が内湾気味に外傾し口縁端部が内側に屈曲し、3が直線的に外傾する。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されるが、3は摩滅が激しく判別できない。4は土師器甕である。外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、内面は口縁部上半がヨコナデ、下半がハケメ、胴部ヘラナデである。5は須恵器高环である。外面の口縁部と体部の境に明瞭な段を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。口縁端部は水平である。色調は、黄灰色～灰色を呈し、内外面に自然釉が付着する。胎土には砂粒や海綿骨針、黑色粒子を少量含む。鉄製品は6が刀子、7が鉄鎌である。6の刀子は茎端部が欠損する以外はほぼ完形である。刀身部は並行背で、刀身の幅は間に向かうにつれ大きくなり、身元で最大幅となる。切先にふくらを有し、闊は両側で、刃闊・背闊とともに撫闊である。茎はスグ莖で、茎尻の形状は欠損しているため不明である。7は長頭の両刃鑿筒鎌である。鎌身部の断面形状は両丸造で、頸部は方形である。莖部は残存していない。8は玉飾製の石礫である。凸基有莖鎌で鎌身基部は直線的に広がる。表裏両面の縁辺に沿って連続的に押圧剥離が施される。

**【時期】** 時期決定できる遺物はないが、SI49より古く、掘り方から鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）（第38図-1）が出土していることから、4a期（住社式期新段階）～5bii期（奈良時代）と考えられる。

#### S152 穩穴住居跡（第39・40回）

**【位置・確認】** 調査区北部の18・24グリッドに位置する。重複遺構により南西部のみ検出した。

**【重複】** SI50・51・53、SB19、小溝状遺構C群、Pit45・109より古い。

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸487cm、短軸416cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

**【方向】** 西壁を基準としてN-33°-Wである。

**【堆積土】** 6層に分層した。1～4層は黒褐色ないし灰黃褐色シルトを主体とする住居堆積土で、5層は周溝堆積土、6層は掘り方埋土である。

**【壁面】** 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は9～21cmを測る。

**【床面】** 挖り方埋土である6層上面を床面とし、概ね平坦である。

**【柱穴】** 床面及び重複遺構底面から7基（P1～5・7・8）を検出した。P1～3は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸81～98cm、深さ20～27cmを測る。P2で径18cm程度の柱痕跡を確認した。

**【周溝】** 残存部分では、北壁を除き壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅12～19cm、

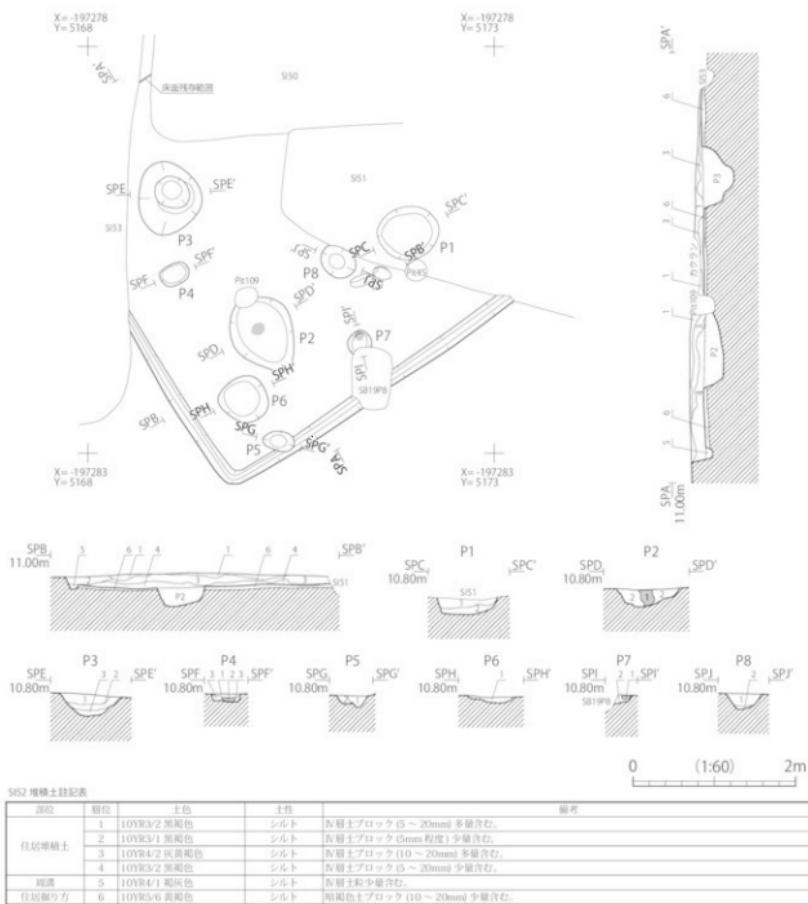
深さ1~6cmを測る。

【その他の施設】 南西コーナーの床面から土坑1基(P6)を検出した。

【掘り方】 深さ2~6cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土から土器・鉄製品・石製品が出土している。このうち、住居堆積土から出土した鉄製品1点を掲載した(第40図-1)。刀子の刀身部である。背と刃のラインが並行し、切先はふくらを有するが、背側は丸みを帯びている。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



第39図 SI52 穫穴住居跡

SI52 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
	2	10YR3/3 に淡い黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ~ 20mm) 微量含む。
P2	1	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱跡跡
	2	10YR8/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
P3	1	10YR7/8 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30mm 程度) 少量含む。
	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30mm 程度) 微量含む。
	3	10YR6/6 明るい褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
P4	1	10YR4/3 に淡い黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ~ 20mm) 微量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土と微量含む。※柱跡跡
	3	10YR6/6 明るい褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
P5	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土と少額含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土と微量含む。
P6	1	10YR6/2 淡い褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
P7	1	10YR2/1 黑色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱跡跡
	2	10YR7/6 明るい褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
P8	1	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ~ 30mm) 多量含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ層土と微量含む。

SI52 施設網羅表

遺構名	平面形	面積 (m)		備考	遺構名	平面形	面積 (m)		備考
		長軸 × 短軸	深さ				長軸 × 短軸	深さ	
P1	(円形)	(73) × (66)	(20)	※柱穴	P5	椭円形	38 × 24	11	
P2	椭円形	98 × 78	23	※柱穴	P6	椭丸方形	57 × 56	8	
P3	椭円形	81 × 78	27	※柱穴	P7	(円形)	30 × (24)	11	
P4	楕丸長方形	36 × 26	6		P8	(円形)	46 × (38)	19	



第40図 SI52 積穴住居跡出土遺物

## SI52 積穴住居跡（第41～43図）

【位置・確認】 調査区北部の17・18・23・24グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により中央部から南西コーナー付近の大半が失われている。また、上面は削平を受けており、北半部の大半は床面が残存していない。

【重複】 SI52・54・64、Pit120・121・123～125・130～133より新しく、SB22・25、小溝状遺構A群より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸741cm、短軸678cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-3°-Eである。

【堆積土】 3層に分層した。1層は暗褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、IV層土ブロックを帶状に含む。2層は周溝堆積土、3層は掘り方理上である。

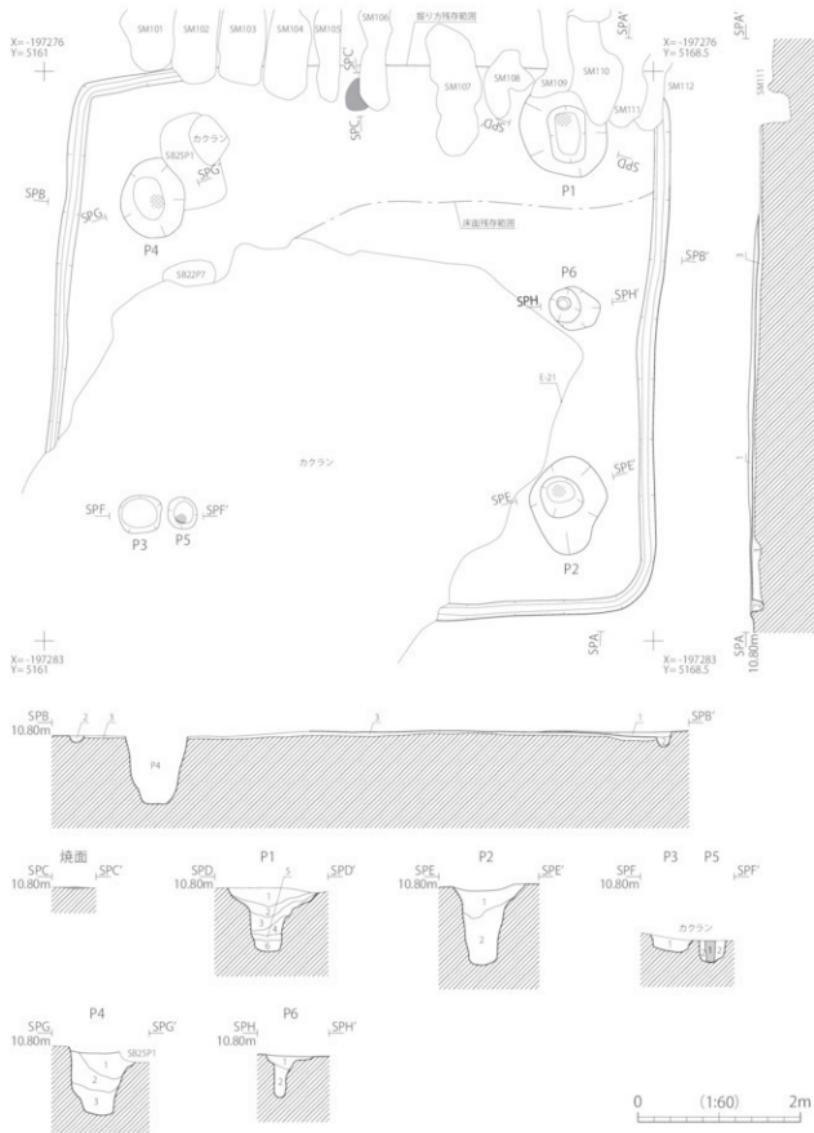
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は1～7cmを測る。

【床面】 残存部分では、掘り方埋土である3層上面を床面とし、僅かに起伏がみられる。

【柱穴】 床面及び掘り方埋存部上面・重複遺構底面から5基(P1～5)、掘り方底面から1基(P6)、総数6基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、P1・2・4の規模は長軸97～120cm、深さ79～101cmを測り、大型の柱穴である。P3は搅乱により上部が失われているが、これらに相当する規模を有していたと考えられる。いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかったが、P1・2・4の底面で径18cm程度の変色範囲が認められた。また、P5で径14cmの柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅13～23cm、深さ4～13cmを測る。

【焼面】 北壁際の中央付近から長軸40cm程度の焼面を検出した。削平によりカマド燃焼部底面の焼面のみが残



第41図 SI53 竪穴住居跡

S53堆積土鉢表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 帽褐色	砂質シルト	10層土ブロック (5 ~ 10mm) 帯状に、炭化物少、胎土粘膜量含む。
溝	2	10YR4/2 仄黃褐色	シルト	10層土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。
住居掘り方	3	10YR7/6 明黃褐色	シルト	明褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、明褐色土粘膜量含む。

S53施設堆積土鉢表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 帽褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	2	10YR4/2 仄黃褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	3	10YR4/1 黄褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	4	10YR3/3 帽褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	10層土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	6	10YR4/1 黄褐色	シルト	10層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
P2	1	10YR4/2 仄黃褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
P3	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
P4	1	10YR3/3 帽褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物少、胎土粘膜量含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	10層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。
	3	10YR6/6 明黃褐色	シルト	明褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P5	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	10層土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物微量含む。柱跡跡。
	2	10YR3/4 帽褐色	シルト	10層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
P6	1	10YR5/2 仄黃褐色	シルト	10層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 仄黃褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。

S53施設細胞表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P1	(楕円形)	(106) × (104)	(79)	主柱穴 底面赤色
P2	不規則四角形	120 × 96	101	主柱穴 底面赤色
P3	(楕丸形)	(50) × (46)	(24)	主柱穴

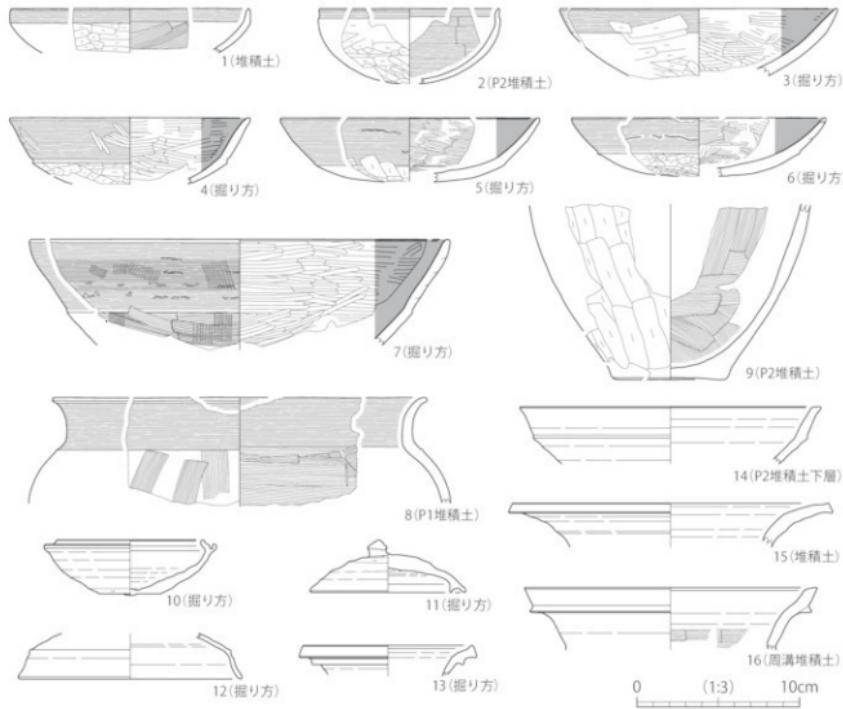
  

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P4	(楕円形)	(97) × (78)	(82)	主柱穴 底面赤色
P5	(三切形)	(38) × (30)	(39)	
P6	楕円形	62	52	掘り方掘出

存しているものと考えられる。

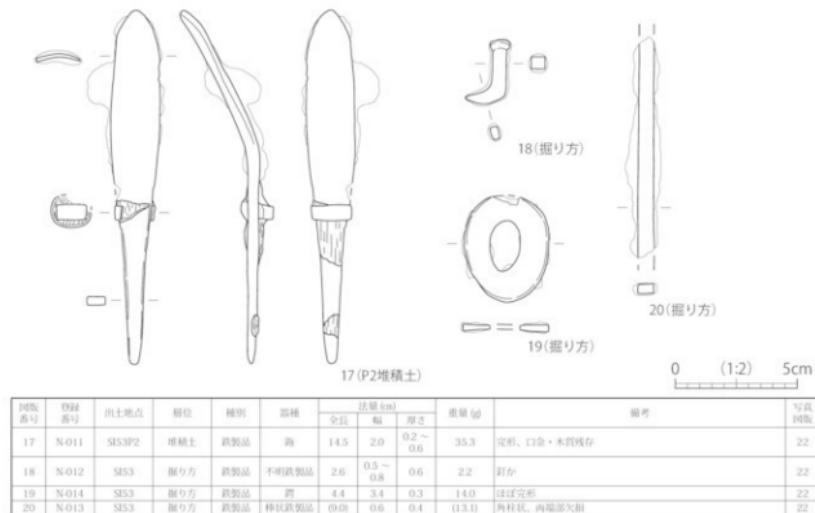
【掘り方】深さ1~19cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。土師器壺6点、土師器鉢1点、土師器甕2点、須恵器壺身1点、須恵器壺蓋1点、須恵器蓋1点、須恵器高杯1点、長頸瓶1点、須恵器甕2点、鉄製品4点の計20点を掲載した(第42図-1~16、第43図-17~20)。1・15は住居堆積土、2・9・14・17はP2堆積土、3~7・10~13・18~20は掘り方、8はP1堆積土、16は周溝堆積土からの出土である。1~6は土師器壺である。1・2は関東系土師器の壺で、1は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)、2は北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を持つものである。1は緩やかに内湾する体部から口縁部が短く直立し、2は半球状の体部から口縁部が「S」字状に短く直立する。調整は、共に口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面へラナデである。色調は、1は褐灰~橙色、2は橙色を呈し、胎土は、1は比較的に密で粉っぽく、2は砂粒をやや多く含み、赤色粒子がみられる。3~6は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は3・4が直線的に外傾、5・6が内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリで、口縁部を部分的にヘラミガキするものがある。内面は全てヘラミガキ後、黒色処理が施される。7は有段の土師器鉢で、いわゆる有段丸底杯を大型にした器形と考えられる。調整は、外面は口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部はハケメ後ヘラナデ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。8・9は土師器甕である。8は胴部が球胴形で、外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は直立して立ち上がり、中位から外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。10は受け部を持つ須恵器壺身である。受け部の立ち上がりは短く内傾し、底部は受け部径の1/3程度で狭い。外面の体部下端から底部には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、灰色を呈し、胎土は精良で、焼成は良好である。11は須恵器蓋で、天井部につまみと内面に短いカエリを持つ小型品である。つまみは宝珠と乳頭状の中間形状を呈し、天井部の中心からずれて付されている。天井部外面には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、灰白~灰色を呈し、胎土には砂粒や黒色粒子を多く含み、海綿骨針がみられる。12は須恵器壺蓋である。天井部と体部の境に明瞭な稜を持ち、口縁部は外反して「ハ」の字状に広がる。色調は、暗灰色を呈し、胎土には砂粒を多く含む。13は須恵器長



回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (m)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数																																																																																																		
						口徑	底径	高さ																																																																																																						
1	C-056	SI53	堆積土	土師器	环	(14.6)	—	(2.7)	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	周東系	22																																																																																																		
2	C-058	SI53P2	堆積土	土師器	环	(11.0)	(2.0)	4.6	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	周東系	22																																																																																																		
3	C-064	SI53	掘り方	土師器	环	(17.0)	—	(4.3)	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	913mm 側面: 54mm	内面黒色処理	22																																																																																																		
4	C-060	SI53	掘り方	土師器	环	(14.8)	—	(4.1)	口縁: 32mm → 53mm 底部: 54mm 側面: 54mm	913mm 側面: 54mm	内面黒色処理	22																																																																																																		
5	C-061	SI53	掘り方	土師器	环	(15.8)	—	3.9	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	913mm 側面: 54mm	内面黒色処理	22																																																																																																		
6	C-063	SI53	掘り方	土師器	环	(15.6)	—	3.6	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	913mm 側面: 54mm	内面黒色処理	22																																																																																																		
7	C-062	SI53	掘り方	土師器	环	(25.6)	—	(6.8)	口縁: 54 → 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	913mm 側面: 54mm	内面黒色処理	22																																																																																																		
8	C-057	SI53P1	堆積土	土師器	甕	(22.8)	—	(6.5)	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	口縁: 32mm 底部: 54mm 側面: 54mm	22	9	C-059	SI53P2	堆積土	土師器	甕	—	(7.0)	(10.8)	口縁: 54mm 底部: 54mm 側面: 54mm	946mm 側面: 54mm	22	10	E-019	SI53	掘り方	須恵器	环身	10.6	3.8	3.4	口縁調整 底部下端→底部: 54mm 側面: 54mm	口縁調整 底部下端→底部: 54mm 側面: 54mm	口の調整	22	11	E-021	SI53	掘り方	須恵器	蓋	10.4	—	3.2	口縁調整 丸井部: 54mm 側面: 54mm	口の調整	22	12	E-020	SI53	掘り方	須恵器	環器	(13.6)	—	(2.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22	13	E-018	SI53	掘り方	須恵器	長頸瓶	(10.4)	—	(1.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	内外面自然施付着	22	14	E-016	SI53P2	堆積土下層	須恵器	高环	(18.4)	—	(3.5)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	内外面自然施付着	22	15	E-015	SI53	堆積土	須恵器	甕	(20.0)	—	(2.7)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22	16	E-017	SI53周溝	堆積土	須恵器	甕	(18.0)	—	(3.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22
9	C-059	SI53P2	堆積土	土師器	甕	—	(7.0)	(10.8)	口縁: 54mm 底部: 54mm 側面: 54mm	946mm 側面: 54mm	22																																																																																																			
10	E-019	SI53	掘り方	須恵器	环身	10.6	3.8	3.4	口縁調整 底部下端→底部: 54mm 側面: 54mm	口縁調整 底部下端→底部: 54mm 側面: 54mm	口の調整	22																																																																																																		
11	E-021	SI53	掘り方	須恵器	蓋	10.4	—	3.2	口縁調整 丸井部: 54mm 側面: 54mm	口の調整	22																																																																																																			
12	E-020	SI53	掘り方	須恵器	環器	(13.6)	—	(2.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22																																																																																																			
13	E-018	SI53	掘り方	須恵器	長頸瓶	(10.4)	—	(1.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	内外面自然施付着	22																																																																																																		
14	E-016	SI53P2	堆積土下層	須恵器	高环	(18.4)	—	(3.5)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	内外面自然施付着	22																																																																																																		
15	E-015	SI53	堆積土	須恵器	甕	(20.0)	—	(2.7)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22																																																																																																			
16	E-017	SI53周溝	堆積土	須恵器	甕	(18.0)	—	(3.8)	口縁調整 側面: 54mm	口の調整	22																																																																																																			

第42図 SI53 穴室住居跡出土遺物（1）



第43図 SI53 穫穴住居跡出土遺物(2)

頸瓶である。口縁端部は肥厚し平坦面を持ち、直下に1条の突帯が巡る。胎土は黄灰色を呈し、黒色粒子を含み緻密である。内外面に自然釉が付着する。14は須恵器高環である。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部端面は水平である。色調は、灰色を呈し、胎土には砂粒や海綿骨針、黒色粒子を含む。内外面に自然釉が付着する。15・16は須恵器甕である。15は口縁部が強く外反し大きく広がり、口縁端部に平坦面を持つ。色調は、灰黄色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土には砂粒を含む。16は口縁部が内湾気味に伸び、口縁部端面は水平である。直下には1条の突帯が巡る。頸部内面にはヘラナデが施されている。色調は、外側が紫灰色、内側は褐色を呈し、焼成がやや軟質である。胎土には砂粒や海綿骨針を含む。17~20は鉄製品である。17は鉗である。口金を含む完形品で、柄の一部は土錆とともに固化し、基部に付着した状態で残存していた。身は板状で、刃部の横断面形は三日月形を呈する。基部は先端に向かって細くなる。18は釦の可能性が考えられる。19は鉗である。形状は卵形を呈し、断面の厚みは薄い。20は棒状鉄製品である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、掘り方から出土した土師器環(第42図-4~6)、須恵器蓋(第42図-11)から、5a期(郡山1期官衙期)以降と考えられる。

#### SI54 穫穴住居跡(第44~46図)

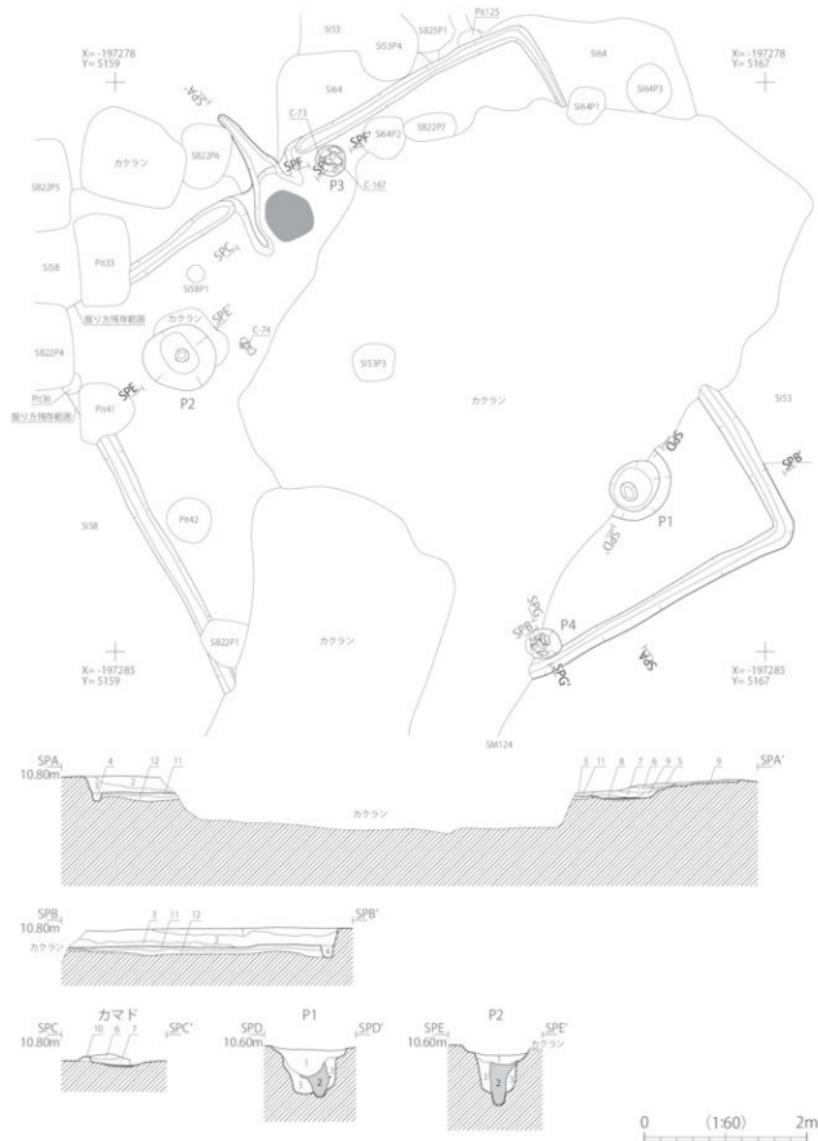
【位置・確認】 調査区北部の17・18・23・24・29グリッドに位置する。擾乱により大半が失われ、北壁と西壁付近及び南東コーナーが残存している。

【重複】 Pit13・138・139より新しく、SI53・58・64、SB22、小溝状遺構C群、Pit33・36・41・42・125より古い。

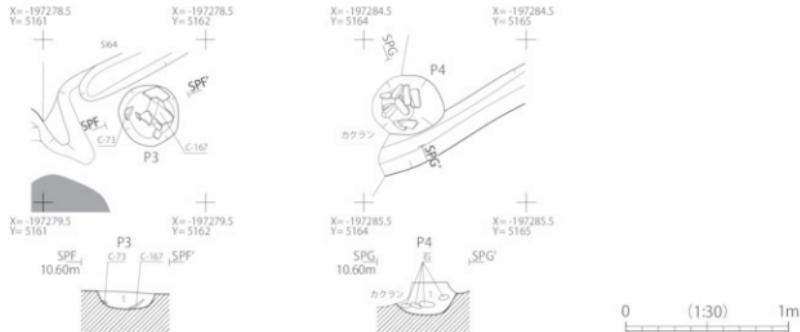
【規模・形態】 検出した規模は、長軸726cm、短軸712cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-28°-Wである。

【堆積土】 12層に分層した。1~3層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、4層は周溝堆積



第44図 SIS4 穫穴住居跡 (1)



SII54堆積土註記表

部位	層位	主性	備考
住居堆積土	1	IORY3/2 黒褐色	シルト 住居土ブロック (5mm程度)・炭化物・微量含む。
	2	IORY3/3 灰褐色	シルト 住居土ブロック (5mm程度)・炭化物・板状微量含む。
	3	IORY3/2 黑褐色	シルト 住居土ブロック (5mm程度) 多量含む。
剥離	4	IORY4/2 灰褐色	シルト 地開土ブロック (5～10mm) 少量含む。
カマド	5	IORY6/6 明黄褐色	シルト 地開土ブロック (5mm程度) 微量含む。下部被熱。
	6	IORY3/1 黑褐色	シルト 地開土ブロック (10～20mm)・炭化物多量含む。
	7	IORY4/1 灰褐色	—
	8	IORY3/1 黑褐色	シルト 住居土ブロック (5mm程度)・焼土ブロック (5mm程度)・炭化物微量含む。
	9	IORY6/6 明黄褐色	シルト 地開土ブロック (5mm程度)・炭化物微量含む。
カマド塗	10	IORY4/1 黄褐色	シルト 地開土ブロック (10～20mm) 多量含む。
住居割り方	11	IORY6/2 灰褐色	シルト 地開土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	12	IORY7/6 明黄褐色	シルト 地開土ブロック (5mm程度) 少量含む。

SII54施設堆積土註記表

遺構名	層位	主性	土性	備考
P1	1	IORY3/3 黄褐色	シルト	地開土ブロック (5～10mm)・燒土・微量含む。
	2	IORY4/2 灰褐色	シルト	地開土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。串柱痕跡。
	3	IORY7/6 明黄褐色	シルト	地開土ブロック (5mm程度) 微量含む。
P2	1	IORY3/3 黄褐色	シルト	地開土ブロック (5～10mm)・燒土・微量含む。
	2	IORY4/2 灰褐色	シルト	住居土ブロック (5mm程度) 少量。住居土・微量含む。串柱痕跡。
	3	IORY7/6 明黄褐色	シルト	地開土ブロック (5mm程度) 微量含む。
P3	1	IORY3/3 黄褐色	シルト	住居土ブロック (5mm程度) 少量含む。
P4	1	IORY3/3 黄褐色	シルト	住居土ブロック (5～10mm) 少量。炭化物微量含む。

SII54施設断面表

遺構名	断面 (cm)			備考
	平面形	長軸×短軸	深さ	
P1 (円形)	97 × (70)	63	柱穴	
P2 (円形)	86 × (83)	76	柱穴	

遺構名	断面 (cm)			備考
	平面形	長軸×短軸	深さ	
P3	円形	38 × 36	10	若窓穴
P4	円形	(41) × 38	20	割り方痕跡

第45図 SII54 穴式住居跡 (2)

土、5～9層はカマド関連の堆積土である。5層は明黄褐色シルトを主体とし、下部に被熱痕跡が認められることから、カマド天井の崩落土と考えられる。7層は灰層で、カマド燃焼部底面の焼面直上に堆積する。10層はカマド袖の構築土で、IV層土ブロックを多量に含む。11・12層は掘り方理土である。

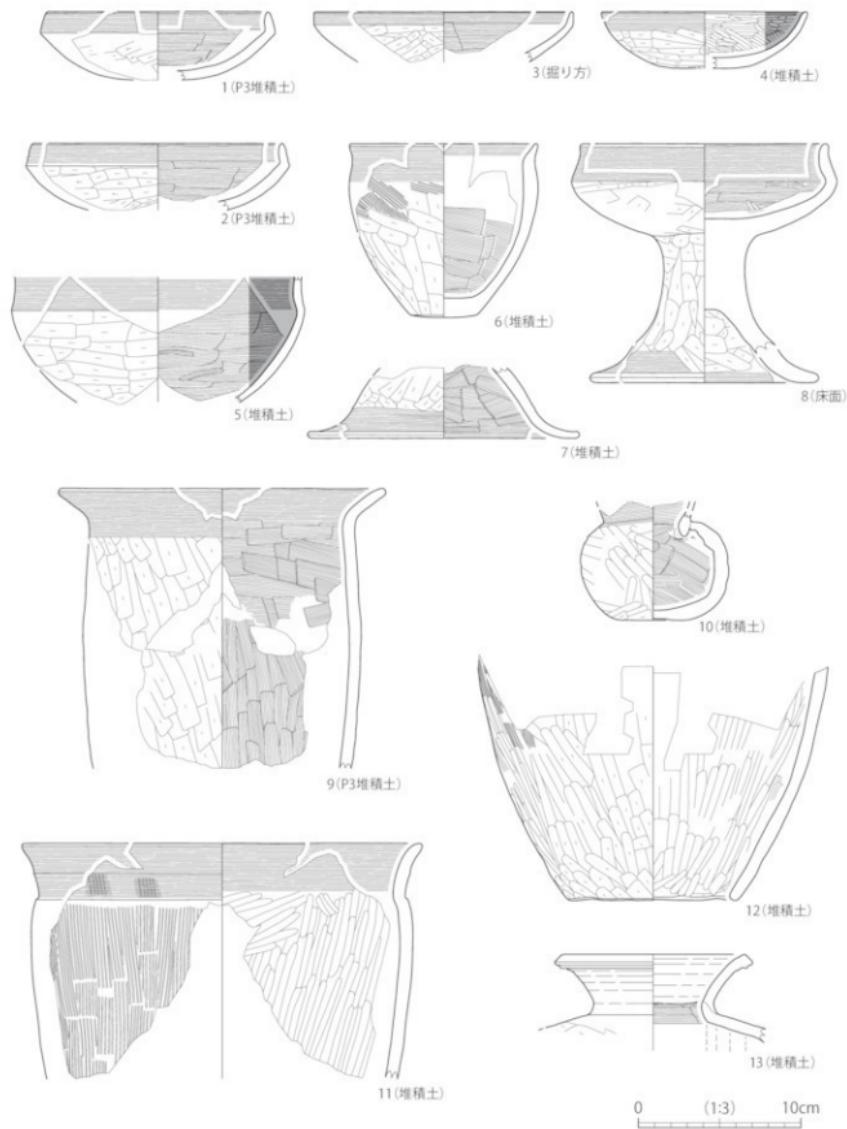
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は1～23cmを測る。

【床面】 掘り方理土である11層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基(P1・2)検出した。これらは規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸86～97cm、深さ63～76cmを測る。いずれも径35cm程度の柱痕跡が確認され、底面に柱の圧痕とみられる窪みが認められた。

【周溝】 カマド下が付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅9～28cm、深さ4～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。東袖の先端部分は失われている。袖の規模は、



第46図 SI54 穫穴住居跡出土遺物

図版 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			外部調整	内部調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	C-072	SI54P3	堆積土	土師器	环	(13.6)	—	(4.2)	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	関東系 内外面やや摩滅	23
2	C-073	SI54P3	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	(4.1)	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	関東系	23
3	C-075	SI54	掘り方	土師器	环	(15.8)	—	(3.1)	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	関東系 内外面漆仕上げ?	23
4	C-065	SI54	堆積土	土師器	环	(12.6)	—	3.5	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	内面黒色處理	23
5	C-069	SI54	堆積土	土師器	鉢	—	—	(7.8)	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	内面黒色處理	23
6	C-066	SI54	堆積土	土師器	鉢	(11.6)	4.1	10.7	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	—	23
7	C-070	SI54	堆積土	土師器	高环	—	脚部 (16.4)	(4.3)	脚部:ハラケズリ 底部:ヨコナデ	脚部:ハラケズリ 底部:ヨコナデ	—	23
8	C-074	SI54	床面	土師器	高环	(15.0)	脚部 (13.0)	14.7	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 体部:ハラケズリ	→脚部ハラケズリ 脚部:ヨコナデ	23
9	C-167	SI54P3	堆積土	土師器	鉢	(20.0)	—	(17.5)	口縁:ヨコナデ 脚部:ハラケズリ	口縁:ヨコナデ 脚部:ハラケズリ	—	23
10	C-071	SI54	堆積土	土師器	壺	—	4.2	(7.0)	口縁~胴下:ヨコナデ 胴部:ハラケズリ 脚部:ヨコナデ	口縁:ヨコナデ 胴部:ハラケズリ 脚部:ヨコナデ	—	23
11	C-067	SI54	堆積土	土師器	壺	(24.0)	—	(14.5)	口縁:ヨコナデ 胴部:ハラケズリ 脚部:ヨコナデ	口縁:ヨコナデ 胴部:ハラケズリ 脚部:ヨコナデ	—	23
12	C-068	SI54	堆積土	土師器	壺	—	(30.0)	(14.0)	脚部:ヨコナデ	脚部:ヨコナデ	単孔	23
13	E-022	SI54	堆積土	須恵器	瓶	(11.2)	—	(5.9)	口縁調整 体部:ハラケズリ	口縁調整 体部:ハラケズリ	—	23

東袖が長さ48cm以上、幅25cm、西袖が長さ85cm、幅18~36cmを測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設されている。燃焼部の規模は奥行き92cm、幅68cm、奥壁高14cm程度で、壁内に位置する。底面には長軸60cm程度の焼面がみられる。煙道部は基部が広く、先端に向かい細くなる。底面は概ね平坦である。煙道部の規模は、長さ85cm、幅9~37cm、深さ1~3cmを測る。

【その他の施設】床面から土坑1基(P3)、掘り方底面からビット1基(P4)、総数2基を検出した。P3はカマドの右脇に位置することから、貯蔵穴の可能性を考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸38cm、短軸36cm、深さ10cmを測る。P4は南壁際の中央に位置し、堆積土中からは棒状礫が11点出土している。出入り口に関連する施設や埋納坑の可能性も考えられるが、性格は不明である。

【掘り方】深さ4~24cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】床面施設及びカマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・石製品が出土している。土師器環4点、土師器鉢2点、土師器高环2点、土師器壺1点、土師器壺1点、土師器瓶2点、須恵器瓶類1点の計13点を掲載した(第46図-1~13)。1・2・9はP3堆積土、3は掘り方、4~7・10~13は住居堆積土、8は床面からの出土である。1~4は土師器環である。1~3は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。1・2は口縁部が内傾し、3は短く直立する。調整は、いずれも口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面へラナデである。胎土は、いずれも比較的に密で粉っぽく、少量の赤色粒子を含み、1には海綿骨針がみられる。4は丸底風の平底で、体部から口縁部まで緩やかに内湾する。調整は外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。5・6は土師器鉢である。5は丸みを持った体部に、直立する口縁部を持つ。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデで、黒色処理が施される。6は緩やかに内湾する体部から、口縁部が短く外傾する。底部は平底である。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。7・8は土師器高环である。7は外側の脚部と裾部の境に稜を持つ。脚部は内湾気味で、裾部が大きく開き、「ハ」字状になる。調整は、外側が脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ、内面は脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデである。8は環部の口縁部が外反気味に内傾し、脚部は上半部が中央で、裾部は「ハ」字状に開く。全体的に器壁が厚く、重量感のある作りである。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部から脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後

一部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、縫部ヨコナデである。9は土師器甕である。胴部が長胴形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。10は扁平な球形の小型の土師器甕である。調整は、外面が口縁部から胴部上端ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、胴部下端ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、頸部ユビオサエ、胴部ヘラナデ、胴部下端ユビナデである。11・12は土師器甌である。11は外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキである。12は長胴形の單孔である。調整は、外面が胴部ハケメ後ヘラケズリ、内面が胴部ヘラミガキ、孔部ヘラケズリである。13は須恵器瓶類である。口縁部は外反し、口縁端部は肥厚し、方形を呈する。色調は、灰色～褐灰色を呈し、胎土には黒色粒子を含む。

【時期】 床面から出土した土師器高坏（第46図-8）から、4a期（住社式期新段階）と考えられる。

#### S155 積穴住居跡（第47～50図）

【位置・確認】 調査区中央部の36グリッドに位置する。

【重複】 Pit38～40より新しく、SB19・21、SD28、小溝状遺構C群より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸437cm、短軸411cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-20°-Wである。

【堆積土】 12層に分層した。1～3層は暗褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、IV層土プロックを多量に含む。4層は周溝堆積土で、5～8層はカマド周辺の堆積土である。7層はカマド燃焼部底面の焼面直上に堆積し、焼土ブロックや灰を多量に含む。9・10層はカマド袖の構築土、11・12層は掘り方理土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は1～13cmを測る。

【床面】 掘り方理土である11層上面を床面とし、概ね平坦である。

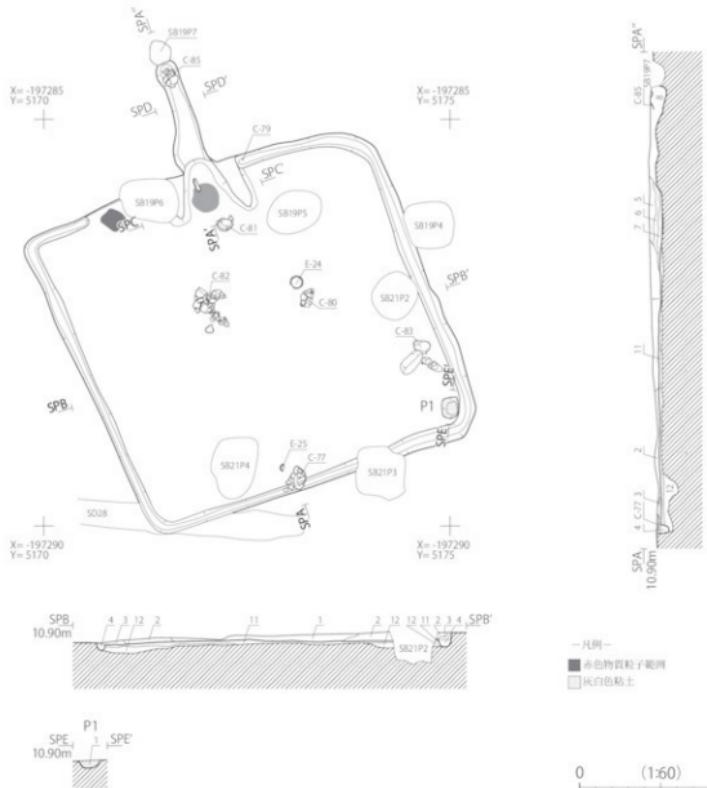
【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。北壁は北西コーナーから80cm程の位置で終息する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅11～22cm、深さ3～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。SB19との重複により、西袖の一部と煙道部の先端は失われている。袖の規模は、東袖が長さ71cm、幅23～38cm、西袖が長さ60cm、幅25cm以上を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設されている。燃焼部の規模は奥行き82cm、幅25～72cm、奥壁高13cm程度で、10cm程度壁外に張り出している。底面には長軸36cm程度の焼面がみられ、奥壁側には棒状礎の支脚が埋設されている。煙道部は基部が広く、先端に向かい細くなる。底面は先端に向かって緩やかに下がり、煙出し付近で傾斜が強くなる。規模は、長さ130cm以上、幅22～38cm、深さ8～20cmを測る。

【その他の施設】 南東コーナーの床面から土坑1基（P1）を検出した。平面形状は方形を呈し、規模は長軸26cm、短軸21cm、深さ8cmを測る。内部には灰白色粘土が詰め込まれていることから、粘土を貯蔵するような機能を持っていたものと考えられる。また、カマド左脇の床面には、径30cm前後の範囲にベンガラ状の赤色物質粒子が集中して出土している。

【掘り方】 深さ1～19cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・礎石器が出土している。土師器坏2点、土師器鉢2点、土師器高坏1点、土師器甕5点、須恵器蓋1点、須恵器盤1点、須恵器高坏1点、礎石器1点の計14点を掲載した（第49図-1～7、第50図-8～14）。1・3・4・8・12～14は住居堆積土、2は掘り方、5・6・9～11は床面、7はカマド煙道部からの出土である。1・2は土師器坏である。外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は1が外反気味に短く外傾し、2が外反気味に短く直立する。調整は、1は口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキで、黒色の付着物がみられる。2は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラ



SI55 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
柱居堆積土	1	10YR4/3 布痕褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量、炭化物少量含む。
	2	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。
	3	10YR4/4 布痕褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量、黒褐色土ブロック(5mm程度) 開量含む。
圓溝	4	10YR3/4 布痕褐色	シルト	赤褐色土・炭化物・燒土粒微量含む。
カマド	5	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物・燒土粒微量含む。
	6	10YR7/6 明黃褐色	シルト	炭化物・燒土粒微量含む。
	7	10YR3/1 黑褐色	シルト	燒土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。下部に灰が集中。
	8	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物多量、燒土粒微量含む。
カマド下箱	9	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10 ~ 20mm) 少量含む。
	10	10YR7/6 明黃褐色	シルト	
百剣割り方	11	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	炭化物粒多量、赤褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 少量含む。
	12	10YR6/6 明黃褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5mm程度) 少量、赤褐色土粒微量含む。

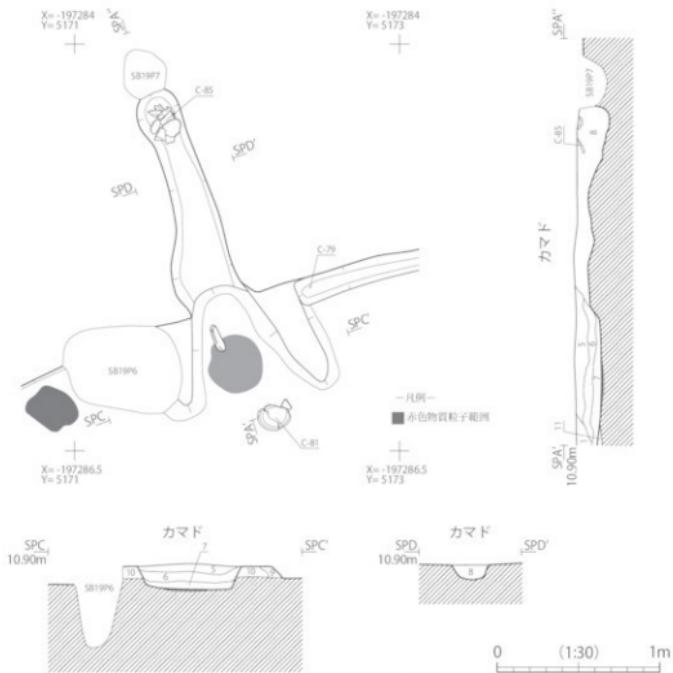
SI55 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR7/1 黄褐色	粘土	赤褐色土ブロック(5mm程度) 微量含む。

SI55 施設縫隙表

縫隙名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	方形	26 × 21	8	粘土の隙間穴か

第47図 SI55 積穴住居跡 (1)



第48図 SI55 竪穴住跡(2)

ケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3は土師器高环の环部である。外面の体部下位に稜を持ち、体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁端部が僅かに外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。4・5は土師器鉢で、4は丸底と推定され、5は丸底風の平底である。外面の口縁部と体部の境に、4は沈線状の段が巡り、5は段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部へラケズリで、4の体部外面にはヘラケズリ後一部ヘラミガキが施される。内面はヘラミガキで、5の口縁部内面にはヨコナデが施される。4は内面黒色処理が施されている。6～10は土師器甕である。6～8は胴部が長胴形を呈し、6・7は外面の口縁部と胴部の境に稜を持つ。胴部の最大径は6が上位、7・8が中位に位置する。口縁部は6が内湾気味に外傾、7が外反気味に外傾し口縁端部が外側に屈曲する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデで、7の外面にはヨコナデ前にハケメが施されている。胴部外面は6がヘラナデ、7がハケメ、8がヘラケズリで、8は胴部下端にユビナデが施される。内面はヘラナデである。8の底部には木葉痕がみられる。9・10は胴部が球胴形を呈し、胴部の最大径は中位に位置する。10は外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部が9は直線的に外傾、10は外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデで、胴部外面は9がハケメ後ヘラケズリ、10がヘラケズリで、内面はヘラナデである。9の頭部にはユビオサエがみられる。11は須恵器蓋である。内面にカエリを持ち、カエリ端部が口縁端部より下方に突出している。欠損しているが宝珠形のつまみが付くものと考えられる。外面の天井部から体部全面には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、黄褐色を帯び

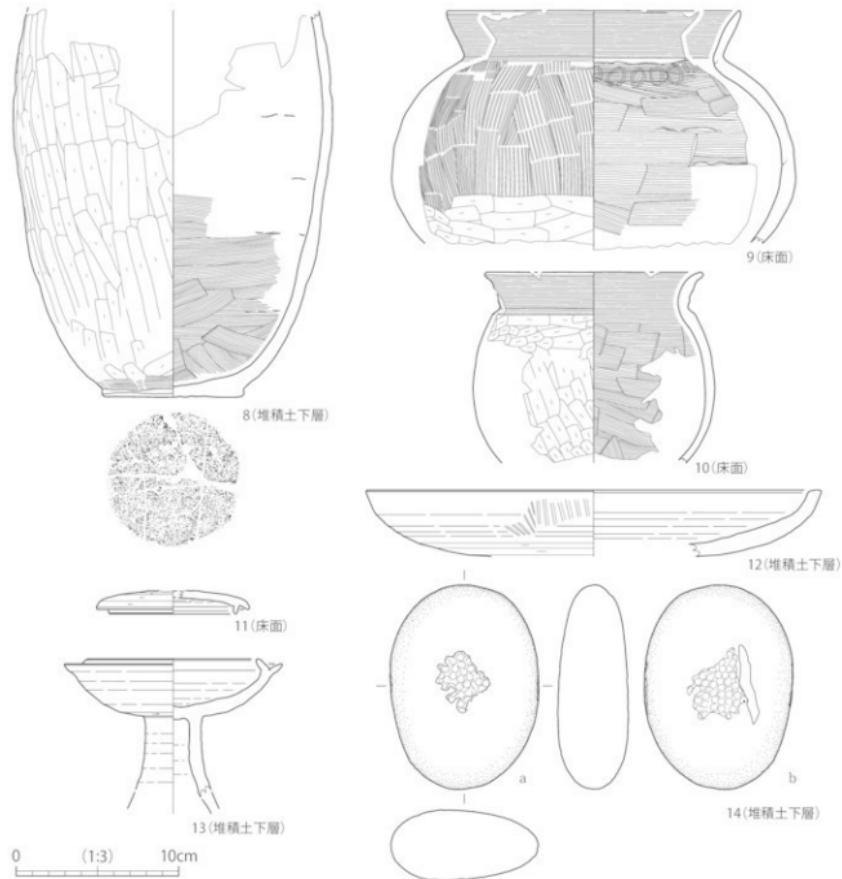
た灰色を呈し、胎土には砂粒を少量含む。12は須恵器盤で、口縁端部は水平である。体部にはタタキ目がみられる。色調は、灰白色を呈し、胎土には砂粒を多量に含み、海綿骨針を少量含む。13は須恵器の有蓋高杯である。杯部には焼け歪みがみられ、外面には自然釉が付着している。立ち上がりは短く内傾し、受け部より僅かに高い。杯部下端は回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、浅黄色を帯びた灰色を呈し、胎土には砂粒や少量の海綿骨針、黒色粒子を含む。14は安山岩製の敲石である。a・b両面の中央部分に敲打痕がみられる。

【時期】カマド煙道部から出土した土師器甕（第49図-7）と床面から出土した土師器鉢（第49図-5）、須恵器蓋（第50図-11）から、5a期（郡山I期官衙期）のものと考えられる。



回収 番号	整理 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外側調整	内側調整	備考	写真 番号
						口縁	底径	高さ				
1	C-079	SI55	堆積土下層	土師器	環	(12.2)	—	(3.4)	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> 体部: 5.6分 <sup>2</sup>	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> 体部: 5.6分 <sup>2</sup>	内面黒色付着物あり	23
2	C-084	SI55	掘り方	土師器	环	(14.8)	—	(3.9)	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> 体部: 5.6分 <sup>2</sup> → 3.0分 <sup>2</sup>	3.0分 <sup>2</sup>	内面黒色処理	23
3	C-078	SI55	堆積土下層	土師器	高杯	(17.6)	—	(5.3)	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> 体部: 8.2分 <sup>2</sup>	8.2分 <sup>2</sup>	内面黒色処理	23
4	C-076	SI55	堆積土	土師器	鉢	(18.0)	—	(7.8)	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> → 5.9分 <sup>2</sup> 体部: 9.6分 <sup>2</sup> → 12.6分 <sup>2</sup>	5.9分 <sup>2</sup>	内面黒色処理	23
5	C-081	SI55	床面	土師器	鉢	15.8	8.5	7.4	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> → 5.9分 <sup>2</sup> 体部: 8.2分 <sup>2</sup>	3.2分 <sup>2</sup> 体部: 8.2分 <sup>2</sup>		23
6	C-082	SI55	床面	土師器	甕	18.6	—	(21.3)	口縁: 3.2分 <sup>2</sup> 胴部: 8.2分 <sup>2</sup>	3.2分 <sup>2</sup> 胴部: 8.2分 <sup>2</sup>	内面摩滅	24
7	C-085	SI55 カマド 煙道	堆積土	土師器	甕	(17.6)	—	(21.3)	口縁: 5.1分 <sup>2</sup> → 3.2分 <sup>2</sup> 胴部: 10.8分 <sup>2</sup>	3.2分 <sup>2</sup> 胴部: 10.8分 <sup>2</sup>		24

第49図 SI55 穫穴住居跡出土遺物 (1)



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (㎤)			外周調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
8	C-077	S155	堆積土下層	土師器	甕	—	8.4	(23.8)	脚部: 5分円 脚下端: 2分半	脚部: 5分円	底部: 木炭斑	24
9	C-083	S155	床面	土師器	甕	(18.0)	—	(14.8)	口縁: 32分円 脚部: 5分円×4枚アリ	口縁: 32分円 脚部: 2分半	脚部: 5分円	24
10	C-080	S155	床面	土師器	甕	(13.2)	—	(11.7)	口縁: 32分円 脚部: 5分円	口縁: 32分円 脚部: 5分円	24	
11	E-025	S155	床面	陶器器	蓋	(9.4)	—	(1.4)	天井一全体: 回転5分円	均等調整	24	
12	E-023	S155	堆積土下層	陶器器	甕	(28.0)	—	(4.1)	斜持: 5分円調整 底部: 回転5分円	均等調整	24	
13	E-024	S155	堆積土下層	陶器器	高環	13.4	—	(9.5)	均等調整 底部下端: 回転5分円	均等調整	口縁部歪みあり 外周自然輪付着	24
回収 番号												
登録 番号												
出土地点												
層位												
種別												
器種												
法量 (㎤)						重量 (g)			石材		備考	
						全長	幅	厚さ				
14	Kc-002	S155	堆積土下層	陶石器	筋石	12.6	9.1	4.3	771.3	安山岩	被打痕(a・b面)、穿孔	24

第50図 S155 穴式住居跡出土遺物(2)

## SI56 穫穴住居跡（第51・52図）

【位置・確認】 調査区中央部の36グリッドに位置する。重複遺構により南半部は失われている。

【重複】 SI67より新しく、SI57、SD11より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸357cm、短軸305cmを測る。平面形状は剛丸方形ないし剛丸長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-36°-Wである。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周溝堆積土である。4層は掘り方埋土で、IV層土ブロックを多量に含む。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は3~12cmを測る。

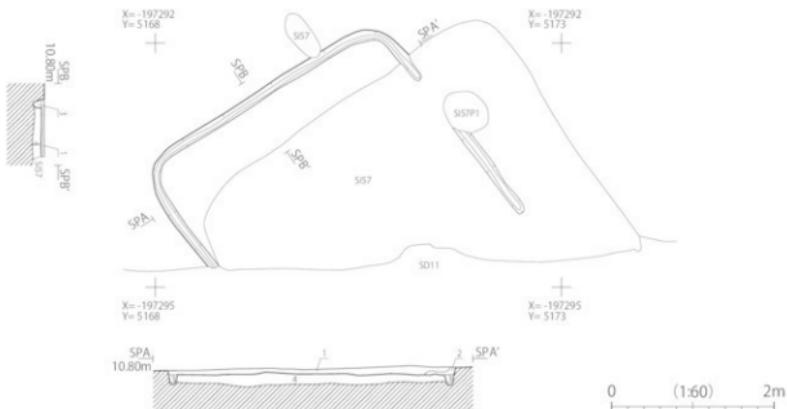
【床面】 掘り方埋土である4層上面を床面とし、僅かに起伏がみられる。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周し、重複遺構底面からも部分的に検出した。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅9~15cm、深さ2~10cmを測る。

【掘り方】 深さ4~16cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面及び堆積土から土師器が出土している。住居堆積土より出土した土師器环1点を掲載した（第52図-1）。鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものである。緩やかに内湾する部体から、口縁部が短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、内外面が黒色漆仕上げされている。色調は、外面が灰褐色、内面は橙色を呈し、胎土は比較的密で粉っぽく、微量の赤色粒子や海綿骨片を含む。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI57より古く、SI67より新しいことから、4a期（住社式期新段階）と考えられる。



SI56 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	IORY3-3暗褐色	シルト	II層土ブロック(10~20mm少量、黒褐色土ブロック(20mm程度)微量含む。
	2	IORY3-4暗褐色	シルト	II層土ブロック(10~20mm)・黒褐色土ブロック(20mm程度)多量、地土微量含む。
周溝	3	IORY3-1黒褐色	シルト	II層土ブロック(5mm程度)少量、地土ブロック(5mm程度)微量含む。
住居掘り方	4	IORY3-1黒褐色	シルト	II層土ブロック(5~20mm)多量、地土微量含む。

第51図 SI56 穫穴住居跡



測量番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法面(cm)	外面調整	内部調整	備考	写真回数
1	C-086	SI56	堆積土	土加厚	环	口徑: (15.2) 底径: (3.6) 高さ: (3.6)	口縁: 33° 体部: 59°	口縁: 22° 体部: 54°	周面系 内外面仕上げ	25

第52図 SI56 穫穴住居跡出土遺物

## SI57 穫穴住居跡（第53～55図）

【位置・確認】 調査区中央部の36グリッドに位置する。重複遺構により南半部は失われている。

【重複】 SI56・67より新しく、SD11より古い。

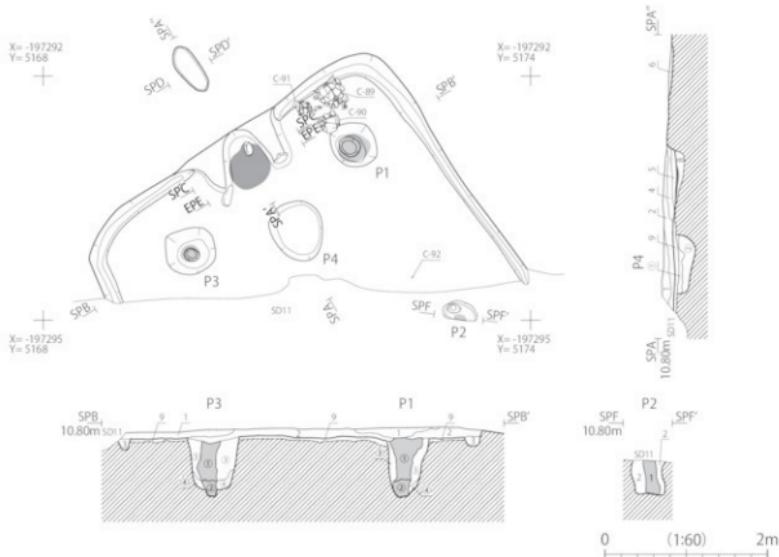
【規模・形態】 検出した規模は、長軸453cm、短軸356cmを測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準として N - 33° - W である。

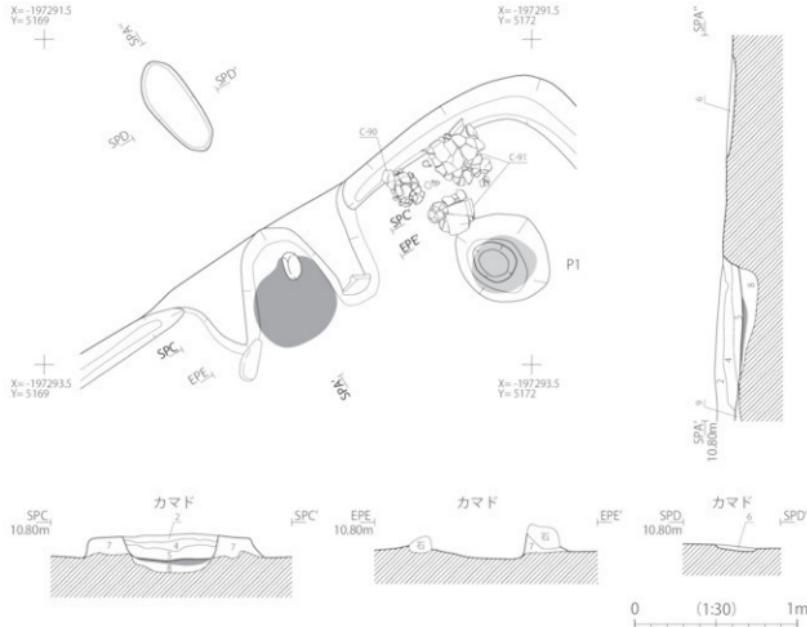
【堆積土】 9層に分層した。1・2層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周囲堆積土、4～6層はカマド関連の堆積土である。5層はカマド燃焼部底面の焼面直上に堆積し、焼土ブロックを多量に含む。7層はカマド袖の構築土、8層はカマド掘り方理土で、IV層土ブロックを多量に含む。9層は掘り方理土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は3～12cmを測る。

【床面】 掘り方理土である9層上面を床面とし、僅かに起伏がみられる。



第53図 SI57 穫穴住居跡（1）



SI57 施設地盤記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
カマド	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	崩土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。
	6	10YR3/3 順褐色	シルト	炭化物微量含む。
カマド廻	7	10YR5/2 灰褐色	シルト	炭化物微量含む。
	8	10YR4/1 順褐色	シルト	古崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。
住居廻り方	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。

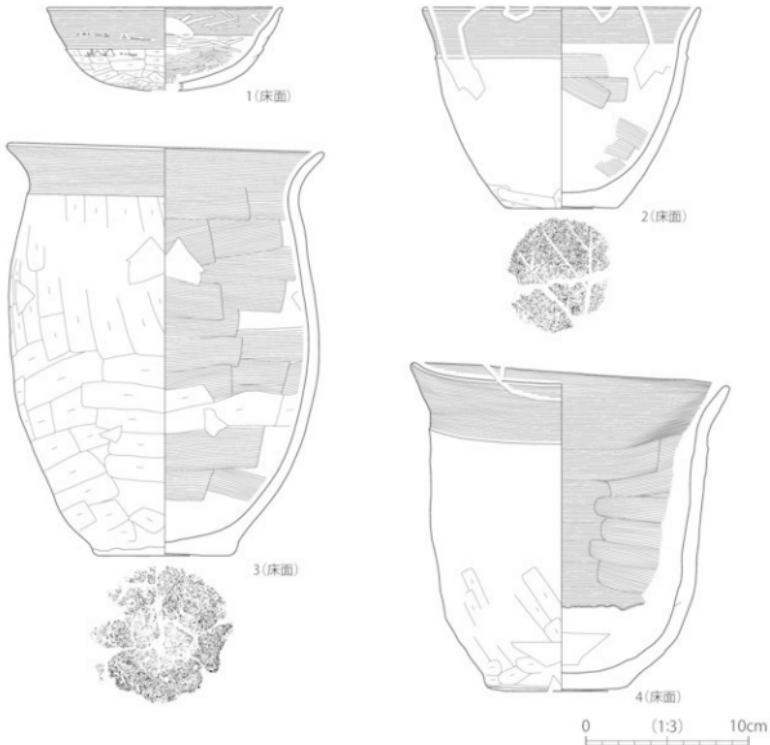
SI57 施設地盤記表

道標名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/3 順褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、地土ブロック (5mm 程度) ~ 炭化物微量含む。※柱痕跡
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物和微量含む。※柱痕跡
	③	10YR4/3 に5-4 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (20mm 程度) 多量含む。
	④	10YR5/4 に5-4 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P2	1	10YR3/3 順褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、地土ブロック (5mm 程度) ~ 炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
P3	①	10YR3/3 順褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、地土ブロック (5mm 程度) ~ 炭化物微量含む。※柱痕跡
	②	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	古崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	③	10YR6/4 に5-4 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	④	10YR5/4 に5-4 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
P4	①	10YR4/2 灰褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 50mm) 多量、炭化物和・礫土和少量含む。
	②	10YR3/4 順褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物和・礫土和少量含む。

SI57 施設縫隙表

道標名	平面形	縫隙 (mm)		備考
		長軸	短軸	
P1	円形	57 × 53	73	主柱穴
P2	(円形)	(42) × (23)	(42)	主柱穴
P3	不規円形	61 × 57	74	主柱穴
P4	楕円形	74 × 64	23	廻り方椭圆

第 54 図 SI57 積穴住跡 (2)



第55図 SIS7 穫穴住居跡出土遺物

【柱穴】床面及び重複遺構底面から3基(P1～3)検出した。P1～3は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸42～61cm、深さ42～74cmを測る。いずれの柱穴からも径16～40cmの柱痕跡を確認した。

【周溝】カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状ないし逆台形を呈する。規模は幅13～26cm、深さ3～26cmを測る。

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は煙出し部分のみ残存している。袖の規模は、東袖が長さ68cm、幅30～42cm、西袖が長さ60cm、幅22～46cmを測る。袖は壁面に直交して付設されている。東袖の先端には分割礫の芯材が埋設され、西袖の先端からは棒状礫が横位の状態で出土しており、芯材

として使用されたものと考えられる。燃焼部の規模は奥行き 71cm、幅 50 ~ 68cm、奥壁高 10cm 程度で、壁内に位置する。底面には長軸 50cm 程度の焼面がみられ、奥壁側から円碟が出土している。煙道部の規模は、壁からの長さ 124cm、幅 16 ~ 28cm、深さ 4 ~ 8cm を測る。

【その他の施設】 挖り方底面から土坑 1 基 (P4) を検出した。カマド前方に位置し、平面形状は梢円形を呈する。規模は長軸 74cm、短軸 64cm、深さ 23cm を測る。

【掘り方】 深さ 6 ~ 13cm を測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 カマド及び床面、床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器壺 1 点、土師器鉢 1 点、土師器甕 2 点の計 4 点を掲載した (第 55 図-1 ~ 4)。いずれも床面からの出土である。1 は土師器壺である。外面の口縁部と体部の境に段、内面に稜を持ち、内面の稜は外面の段より上位に位置する。口縁部は外傾し、口縁端部が僅かに外反する。口縁部内面は内湾し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ一部ヘラミガキ、体部はヘラミガキである。2 は土師器鉢で、外面の口縁部と体部の境に段を持つ。底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁部は外傾する。底部は平底で、本葉痕がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。3・4 は土師器甕で、外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜を持つ。3 の底部は輪台状を呈する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、3 はヘラナデ後ヘラケズリが施される。

【時期】 床面から出土した土師器壺 (第 55 図-1)、土師器鉢 (第 55 図-2)、土師器甕 (第 55 図-3・4) から、4a 期 (住社式期新段階) と考えられる。

#### SI58 積穴住居跡 (第 56・57 図)

【位置・確認】 調査区北西部の 17・23 グリッドに位置する。重複遺構や発乱により南半部は失われている。また、上面は削平を受けており、北半部を除き床面は残存していない。

【重複】 SI54、Pit140 より新しく、SI63、SB22・25、SD34、Pit32・33・36・41 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 425cm、短軸 267cm を測る。平面形状はやや南側に広がる方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N - 1° - E である。

【堆積土】 6 層に分層した。1 層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土、3 ~ 5 層はカマド関連の堆積土である。6 層は掘り方埋土で、IV 層土ブロックを多量に含む。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は 3 ~ 5cm を測る。

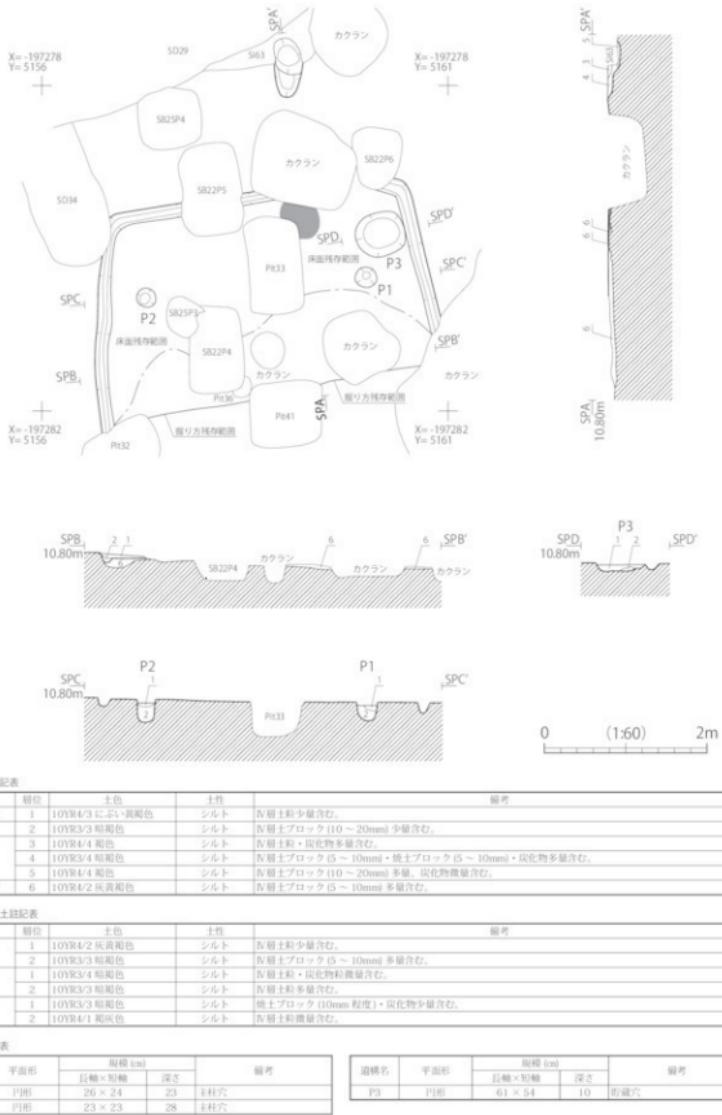
【床面】 残存部分では、掘り方埋土である 6 層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基 (P1・2) 検出した。P1・2 は位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 23 ~ 26cm、深さ 23 ~ 28cm を測る。いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 12 ~ 19cm、深さ 4 ~ 11cm を測る。

【カマド】 北壁の東寄りに位置する。燃焼部底面の焼面と煙道部の先端付近のみ残存している。焼土の規模は径 48cm 程度を測る。煙道部の規模は、壁からの長さが 180cm 程度と推定される。規模は、残存長 70cm 程度、幅 25 ~ 35cm、深さ 3 ~ 13cm を測る。底面は先端に向かって緩やかに下がり、煙出し部分は深さ 15cm 程度の階段状に掘り込まれている。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基 (P3) を検出した。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸 61cm、短軸 54cm、深さ 10cm を測る。北東コーナー付近に位置することから、貯蔵穴の可能性が考えられる。



第56図 S158 穫穴住居跡

【掘り方】 深さ4～10cmを測る。底面には緩やかな起伏がみられ、西壁側が低くなる。

【出土遺物】 カマド煙出し部及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。掘り方から出土した土師器壺1点を掲載した(第57図-1)。鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。緩やかに内湾する体部から、口縁部が内傾気味に短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面ヘラナデで、外面の一部に漆状の付着物がみられるところから、黒色漆仕上げが施されていたものと考えられる。色調は、外面が灰褐色～赤褐色、内面が橙色を呈し、胎土は比較的密で粉っぽく、海綿骨針を僅かに含む。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI54より新しいことから、4a期(住社式期新段階)以降と考えられる。



第57図 SI58 穴住居跡出土遺物

#### SI59 穴住居跡(第58図)

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・31・32グリッドに位置する。SI47の掘り方底面で検出した住居跡で、主軸方向及び主柱穴の重複関係から、SI47の建て替え前の住居跡と考えられ、拡張されているものと推定される。周溝東辺の一部及び焼面、柱穴を検出した。

【重複】 SI46・47、SD26、Pit24より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北421cm以上を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 東壁を基準としてN-30°-Wである。

【堆積土】 周溝堆積土のみ残存していた。明黄褐色シルトの単層である。

【床面】 重複造構や搅乱により失われている。

【柱穴】 3基(P1～3)検出した。SI47P2～4と重複しており、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。SI47床面施設調査時に掘り込みを行ってしまったため、堆積状況の確認が出来ていない。また、北西側の主柱穴は搅乱により失われている。規模は長軸56～100cm、深さ40～51cmを測る。いずれも底面に径18～27cmの変色範囲が認められた。

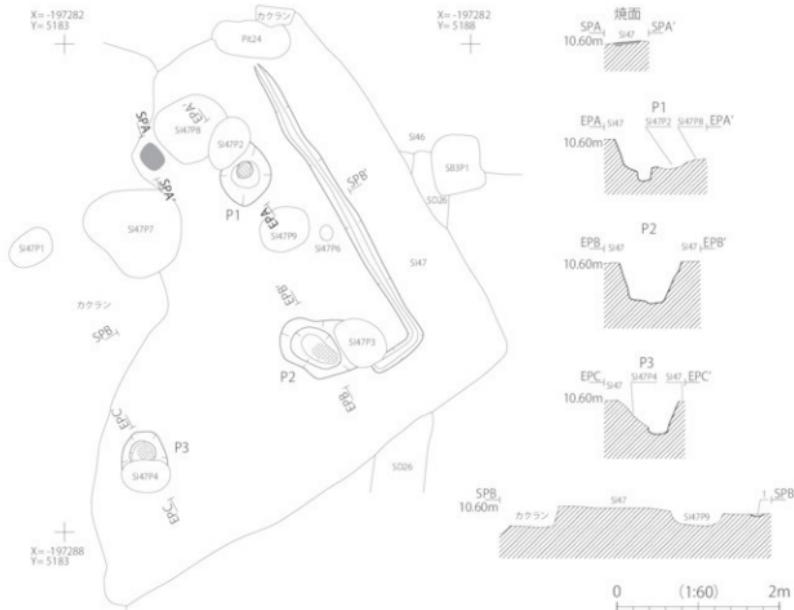
【周溝】 東辺から南東コーナー付近にかけて残存している。規模は、残存長400cm程度、幅13～22cm、深さ3～7cmを測る。

【焼面】 北壁際の東寄りに長軸35cm程度の焼面を検出した。カマド燃焼部底面の焼面のみ残存しているものと考えられる。カマド袖の基底部やカマド掘り方は確認できていない。

【掘り方】 SI47の掘り方により失われている。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI46より古いことから、5a期(郡山Ⅰ期官衙期)以前と考えられる。



SI59 堆積土柱記表

品種	層位	土色	土性	備考
堆積	1	10YR7/6 明黃褐色	シルト	黒褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。

SI59 掘取痕跡表

遺構名	平面形	掘幅 [cm]		備考
		長軸	短軸	
P1 (楕円形)		(86.0)	(31)	1柱穴、底面変色
P2 (不整楕円形)		(100)	(30)	1柱穴、底面変色

第58図 SI59 穫穴住居跡

## SI60 穫穴住居跡（第59～61図）

【位置・確認】 調査区西部の28・34グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により南半部と北壁の大半が失われている。

【重複】 SI65、SD27・30・31、Pit31より古い。

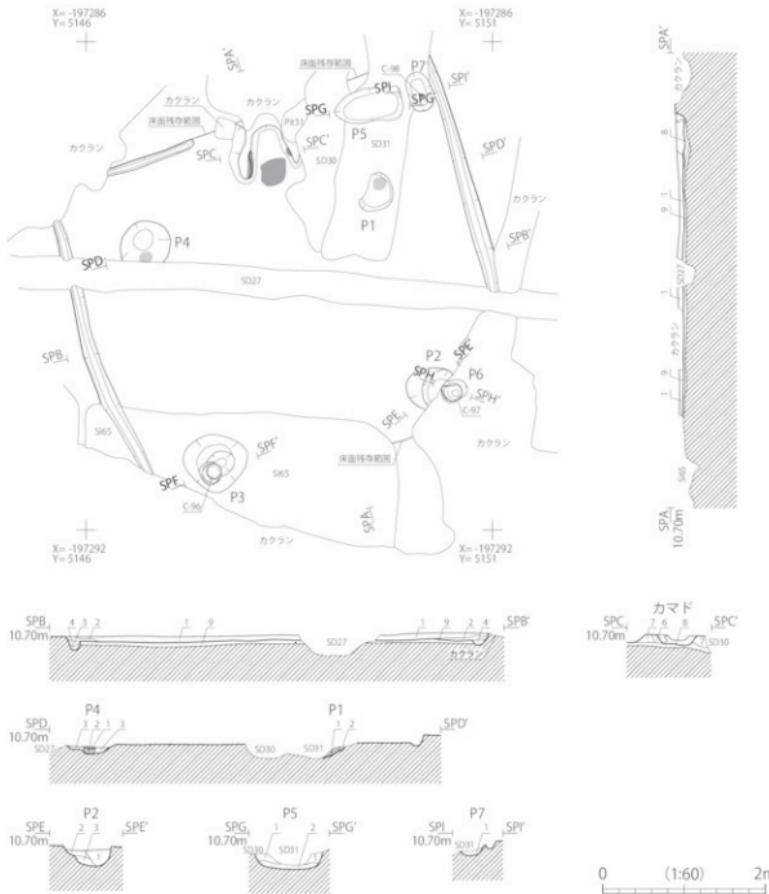
【規模・形態】 検出した規模は、長軸522cm、短軸435cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-16°-Wである。

【堆積土】 9層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3・4層は周溝堆積土である。5層はカマド関連の堆積土で、焼土ブロックを多量に含む。6・7層はカマド袖の構築土である。

8層はカマド掘り方埋土で、IV層土ブロックを多量に含む。9層は掘り方埋土である。

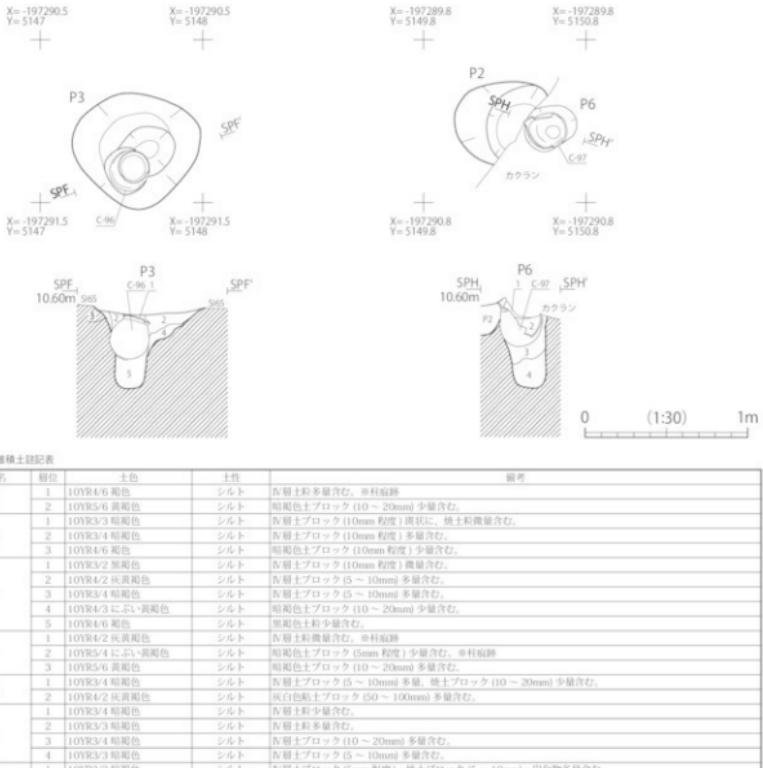
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は3~8cmを測る。



SI60堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4に5y, 黄褐色	シルト	6割土ブロック (5~10mm) 少量含む。
	2	10YR4/2灰褐色	シルト	5割土粒少額含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	細褐色土塊状に含む。
圓溝	4	10YR3/4 灰褐色	シルト	5割土ブロック (10mm程度) 少量含む。
	5	10YR3/4 灰褐色	シルト	6割土ブロック (5~10mm) 少量、住居物少額含む。
カマド	6	10YR5/4に5y, 黄褐色	シルト	6割土ブロック (10mm程度) 少量含む。
	7	10YR5/6 黄褐色	シルト	細褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。
カマド掘り方	8	10YR4/2灰褐色	シルト	6割土ブロック (10~20mm) 少量含む。
	9	10YR5/6 黄褐色	シルト	細褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。

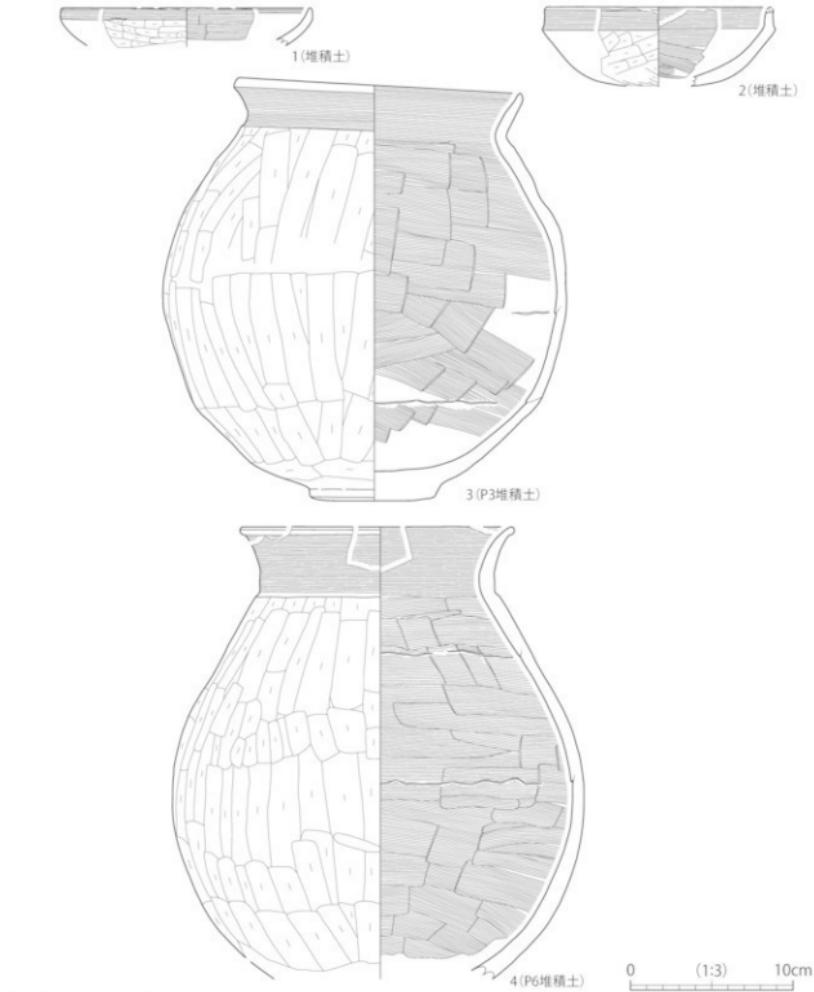
第59図 SI60竪穴住跡(1)



第 60 図 SI60 積穴住居跡 (2)

【床面】 挖り方埋土である 9 層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基 (P2・4)、重複遺構底面及び搅乱底面から 3 基 (P1・3・6)、総数 5 基を検出した。P1 ~ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 44 ~ 78cm、深さ 12 ~ 50cm を測り、P3 を除き比較的に浅い柱穴である。P1・4 では径 17cm 程度の柱痕跡を確認した。P3 底面の南西側にはピット状の掘り込みがあり、その内部に土師器甕が正位で埋設されていた。また、P6 は主柱穴と考えられる P2 より新しく、土師器甕が正位で埋設されていた。このため、土師器甕が埋設されている P3 底面のピット状の掘り込みは、P6 同様に主柱穴である P3 と重複関係にあった可能性があるが、確認することはできなかった。



圖版 番号	登錄 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外部調整	内部調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	C-095	SI60	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	(2.4)	口径: 32分 底径: 6分4厘半	口径: 32分 底径: 6分4厘半	開丸系	25
2	C-094	SI60	堆積土	土師器	环	(13.8)	—	(4.8)	口径: 32分 底径: 6分4厘半	口径: 32分 底径: 6分4厘半	開丸系 内面磨滅	25
3	C-096	SI60P3	堆積土	土師器	甕	17.8	7.8	26.0	口径: 32分 底径: 6分4厘半	口径: 32分 底径: 6分4厘半	—	25
4	C-097	SI60P6	堆積土	土師器	甕	(16.8)	—	(27.8)	口径: 32分 底径: 6分4厘半	口径: 32分 底径: 6分4厘半	—	26

第 61 図 SI60 積穴住跡出土遺物

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅9～21cm、深さ2～10cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。擾乱により、煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ73cm、幅15～26cm以上、西袖が長さ76cm、幅31～33cmを測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設されている。燃焼部の規模は奥行き70cm以上、幅42～52cm、奥壁高10cm程度で、壁内に位置する。底面には長軸30cm程度の焼面がみられる。

【その他の施設】 床面及び擾乱底面から上坑2基(P5・7)を検出した。P5はカマドの右脇に位置し、人為的に埋め戻されている。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸85cm、短軸40cm、深さ20cmを測る。P7は北東コーナーに位置し、堆積土中には多量の焼土や炭化物を含む。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸30cm、深さ13cmを測る。P7はP5に比べると小型で浅いが、いずれも貯蔵穴の可能性を考えられる。

【掘り方】 深さ1～8cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、カマド袖、堆積土、掘り方から土師器が出土している。土師器環2点、土師器甕2点の計4点を掲載した(第61図-1～4)。1・2は住居堆積土、3はP3堆積土、4はP6堆積土からの出土である。1・2は土師器環で、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。口縁部は1が短く直立、2が外反気味に直立する。2は全体的に器壁が厚い。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。色調は、1が明褐色～橙色、2は器表面がにぶい褐色～灰褐色、胎土がにぶい橙色を呈する。胎土は、1は赤色粒子を多く含み粉っぽい。2は多量の砂粒を含む粗い胎土で、海綿骨針を僅かに含む。2は他の鬼高系土師器とは器壁・色調・胎土の様相が異なる。3・4は土師器甕で、胴部が球胴形を呈し、胴部の最大径は3が中位、4が下位に位置する。外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は3が直線的に外傾して口縁端部が短く直立、4が外反して口縁端部が外側に屈曲し肥厚する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。

【時期】 P3・6から出土した土師器甕(第61図-3・4)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。

#### SI61 壓穴住居跡(第62・63図)

【位置・確認】 調査区西部の35グリッドに位置する。擾乱により大半が失われ、北東部付近のみ残存している。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 SD11より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸525cm、短軸330cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

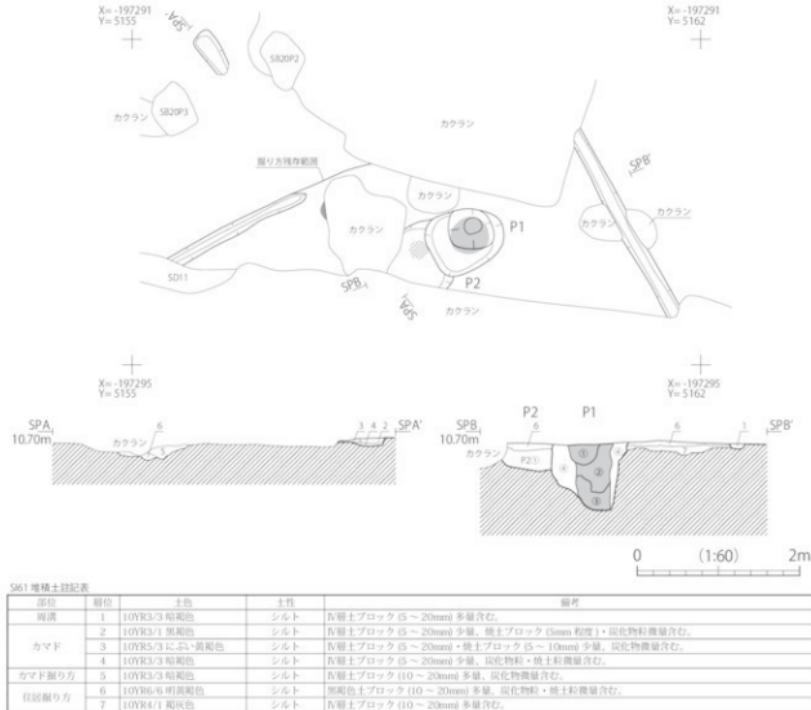
【方向】 東辺を基準としてN-29°-Wである。

【堆積土】 7層に分層した。1層は周溝堆積土で、2～4層はカマド関連の堆積土である。5層はカマド掘り方理土で、6・7層は掘り方理土である。

【柱穴】 掘り方理存部上面から1基(P1)、掘り方底面から1基(P2)、総数2基を検出した。P1は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸94cm、深さ82cmを測り、径48cmの柱痕跡を確認した。P2はP1の西側に重複することから、建て替えが行われた可能性を考えられる。規模は長軸89cm以上、深さ34cmを測り、底面には径22cmの変色範囲が認められた。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅13～20cm、深さ4～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央付近に位置する。削平により、燃焼部底面の焼面と煙道部先端のみが残存している。焼面の規模は長軸23cm以上である。煙道部は壁面に対し西側に傾いており、底面は先端に向かって緩やかに下がる。規模は、



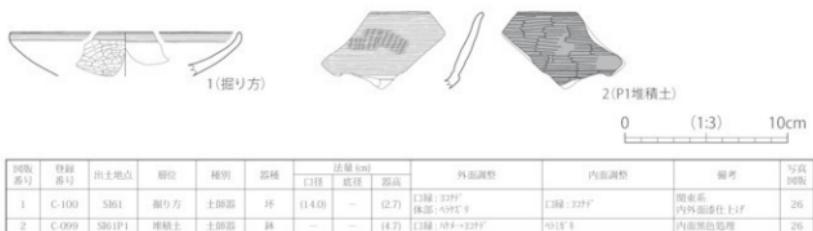
第62図 SI61 穫穴住居跡

壁からの長さ 228cm、幅 20 ~ 26cm、深さ 4 ~ 10cm を測る。

【掘り方】 深さ 4 ~ 17cm を測る。底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及びカマド煙道部、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器壺1点、土師器鉢1点の計2点を掲載した(第63図-1・2)。1は掘り方、2はP1堆積土から出土である。1は土師器壺で、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。緩やかに内湾する体部から、口縁部が短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部外面がヘラケゼリで、内外面が黒色漆仕上げされている。色調は、橙色を呈し、胎土には砂粒や赤色粒子を僅かに含む。2は土師器鉢で、いわゆる有段丸底杯を大型にした器形と考えられる。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SD11より古く、掘り方から出土した土師器壺（第63図-1）から、4a期（住社式期新段階）～5a期（郡山Ⅰ期官衙期）と考えられる。



第63図 SI61 穫穴住居跡出土遺物

#### SI62 穫穴住居跡（第64図）

【位置・確認】 調査区北西部の12・17グリッドに位置する。重複遺構や撹乱により大半が失われ、南東コーナー付近のみ検出した。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 SI63より新しく、小溝状遺構A群、河川跡より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸156cm、短軸112cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東辺を基準としてN-12°-Wである。

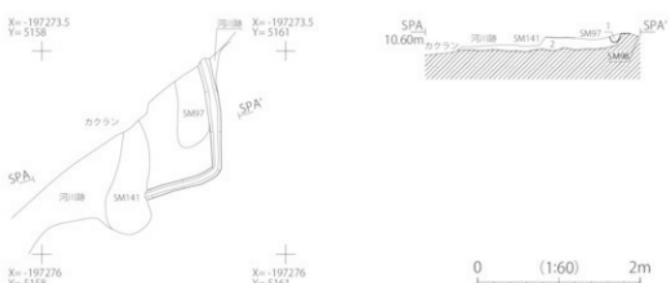
【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土で、IV層土ブロックを多量に含む。2層は掘り方埋土である。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅11～16cm、深さ2～10cmを測る。

【掘り方】 深さ16cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



#### SI62 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR3/3 棕褐色	シルト	古層土ブロック(5mm程度)多量含む。
住居掘り方	2	10YR7/6 明黃褐色	粘土質シルト	灰褐土ブロック(10～20mm)少量含む。

第64図 SI62 穫穴住居跡

## SI63 積穴住居跡（第65図）

【位置・確認】 調査区北西部の12・17グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により北西部と南半部が大きく失われている。

【重複】 SI58より新しく、SI62、SD29、小溝状遺構A群、河川跡より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸332cm、短軸320cmを測る。平面形状は長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準としてN-12°-Wである。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は暗褐色ないし褐色シルトを主体とする住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は掘り方埋土で、IV層土ブロックを多量に含む。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は3~6cmを測る。

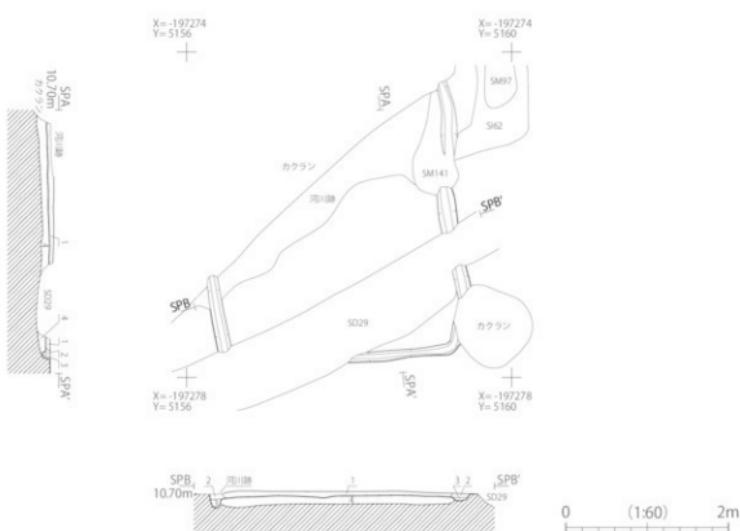
【床面】 掘り方埋土である4層上面を床面とし、概ね平坦である。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅10~23cm、深さ4~14cmを測る。

【掘り方】 深さ5~14cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・石製品・獸骨片が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SI63堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1 10YR3/3暗褐色	シルト	住居土ブロック(5mm程度)少量、砂土和微量含む。	
	2 10YR4/4褐色	シルト	褐色土ブロック(5mm程度)少量含む。	
周溝	3 10YR3/1黒褐色	砂質シルト	住居土ブロック(5~10mm)少量含む。	
住居掘り方	4 10YR3/1黒褐色	シルト	住居土ブロック(5~10mm)多量、砂土和少量含む。	

第65図 SI63 積穴住居跡

### SI64 穫穴住居跡（第 66・67 図）

【位置・確認】 調査区北部の 17・18・23 グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により大半が失われ、北壁及び西壁付近のみ残存している。

【重複】 SI54、Pit120・125・130～133 より新しく、SI53、SB22・25 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 515cm、短軸 300cm を測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N = 1° - W である。

【堆積土】 6 層に分層した。1・2 層は褐色シルトないし灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、3 層は周溝堆積土、4 層はカマド関連の堆積土、5 層はカマド袖の構築土である。6 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は 4 ～ 6cm を測る。

【床面】 掘り方埋土である 6 層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基 (P1・2) 検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 48 ～ 60cm、深さ 75 ～ 77cm を測る。P2 で径 16cm の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って周溝する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 11 ～ 24cm、深さ 1 ～ 7cm を測る。

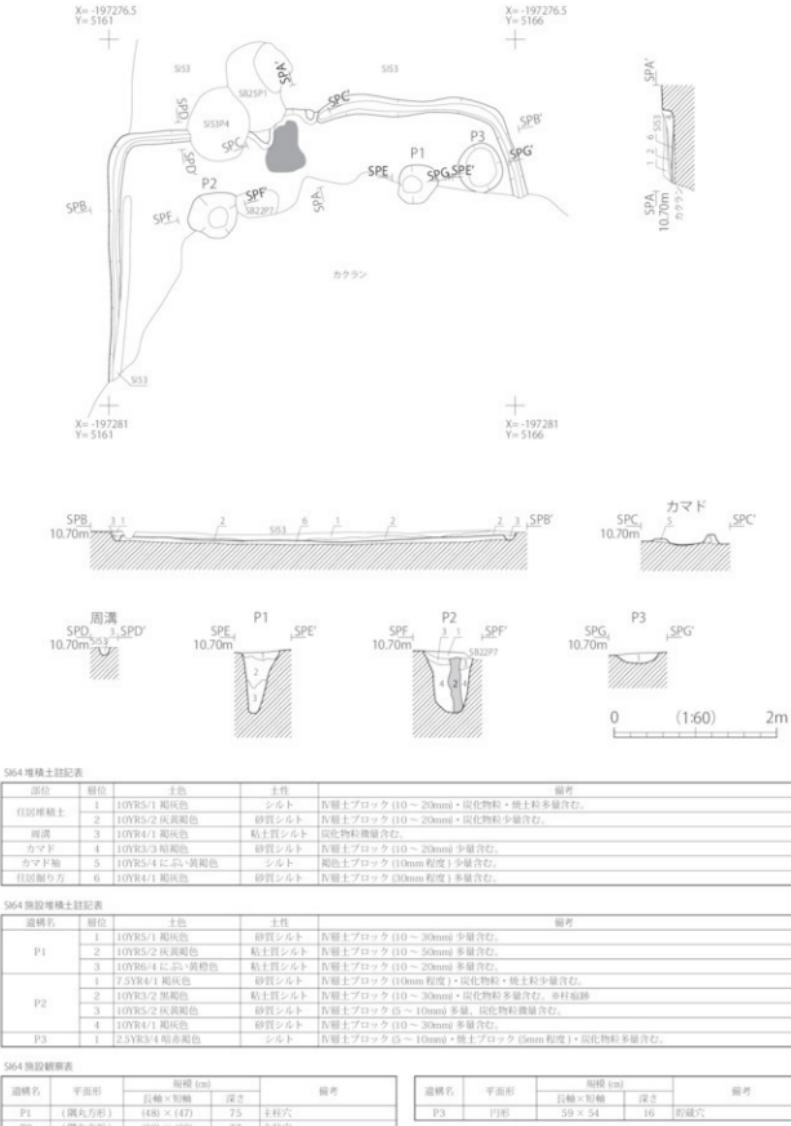
【カマド】 北壁のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は基部のみが残存しており、規模は東袖が長さ 18cm、幅 22cm、西袖が長さ 23cm、幅 29cm を測る。燃焼部の規模は、奥行き 78cm 以上、幅 47cm 以上、奥壁高 14cm を測り、壁内に位置する。底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかに下がり、奥壁は外傾して立ち上がる。底面には長軸 60cm 程度の焼面がみられる。

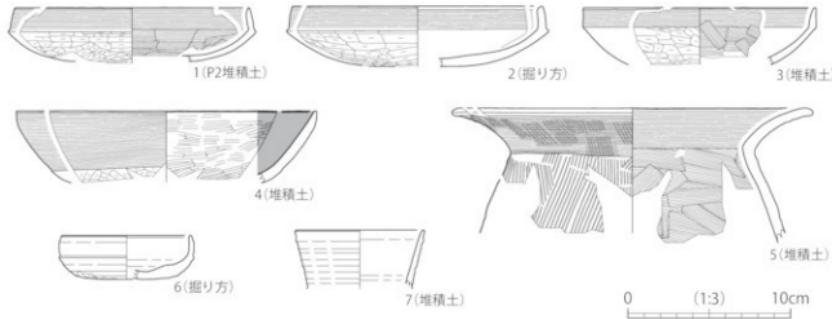
【その他の施設】 床面から土坑 1 基 (P3) を検出した。北東コーナーに位置していることから、貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 59cm、短軸 54cm、深さ 16cm を測る。

【掘り方】 深さ 1 ～ 11cm を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設及びカマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・石製品が出土している。土師器壺 4 点、土師器甕 1 点、須恵器壺 1 点、須恵器壺ないし瓶類 1 点の計 7 点を掲載した(第 67 図-1 ～ 7)。1 は P2 堆積土、2・6 は掘り方、3 ～ 5・7 は住居堆積土からの出土である。1 ～ 4 は土師器壺である。1 ～ 3 は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものである。1・2 は扁平な半球状の体部から口縁部が直線的に内傾し、3 は緩やかに内湾する体部から口縁部が外反気味に短く直立する。外面の口縁部と体部の境は、1・2 が明瞭な段、3 が稜を持つ。調整は、口縁部が外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。色調は、それぞれ異なり、1 は器表面が鮮やかな橙色、胎土がにぶい黄橙色、2 は浅黄橙色～橙色、3 はにぶい黄橙色～橙色を呈し、2 の口縁部外面には黒斑がみられる。いずれも胎土には赤色粒子を含み、1 は砂粒が少なく粉っぽい。4 は外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部が内湾気味に外傾し口縁端部が短く直立する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。5 は土師器甕である。外面の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部が外反して大きく広がる。調整は、外側が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。6 は須恵器壺である。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は内湾気味に直立する。色調は、灰色を呈し、胎土は精良で、少量の海綿骨針を含む。7 は須恵器壺ないし瓶類の口縁部である。口縁部は直線的に外傾し、端部は細く丸まる。色調は、外面が灰褐色を帯び、内面はにぶい黄橙色を呈する。胎土には砂粒を少量含む。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、掘り方から出土した須恵器壺（第 67 図-6）から、5a 期（郡山 I 期官衙期）以降と考えられる。





回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	外面調整			内面調整	備考	写真 回数
							口径	底径	器高			
1	C-104	SI64P2	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	(3.5)	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	関東系 SI54 堆積土出土遺物と接合	26
2	C-105	SI64	掘り方	土師器	环	(15.0)	—	3.7	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	口縁: 32cm	関東系 内面摩滅	26
3	C-103	SI64	堆積土	土師器	环	(14.2)	—	(3.5)	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	関東系 内外面や半摩滅	26
4	C-101	SI64	堆積土	土師器	环	(18.4)	—	(4.4)	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	内面黒色処理 内外面や半摩滅	26
5	C-102	SI64	堆積土	土師器	瓶	(21.6)	—	(7.7)	口縁: 5.5cm → 32cm 体部: 5.5cm	口縁: 32cm 体部: 5.5cm	SI53 掘り方出土遺物と接合	26
6	E-027	SI64	掘り方	須恵器	环	(8.0)	—	2.7	口縁: 5.5cm 体下端一部: 5.5cm	口縁: 調整	26	
7	E-026	SI64	堆積土	須恵器	环	(8.0)	—	(3.6)	口縁: 調整	口縁: 調整	26	

第 67 図 SI64 穫穴住居跡出土遺物

## SI65 穫穴住居跡（第 68 図）

【位置・確認】 調査区西部の34 グリッドに位置する。撹乱により大半が失われ、北壁付近のみ残存している。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 SI60 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 389cm、短軸 153cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東辺を基準として N - 4° - E である。

【堆積土】 2 層に分層した。1 層は周溝堆積土、2 層は掘り方埋土である。いずれも IV 層土ブロックを多量に含む。

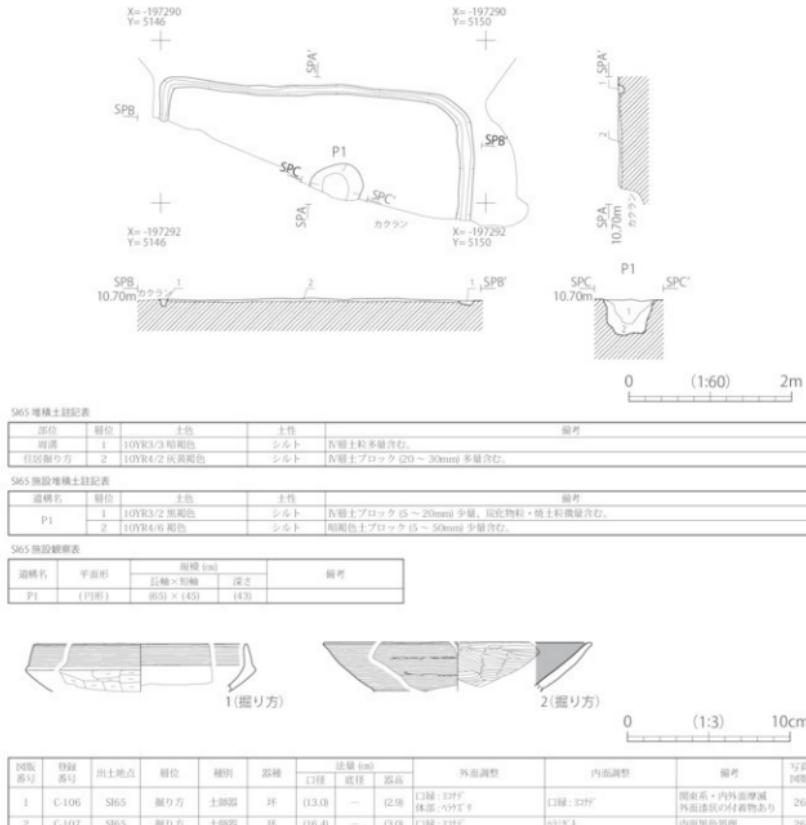
【柱穴】 掘り方残存部上面から 1 基 (P1) 検出した。規模は長軸 65cm、深さ 43cm を測る。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 10 ~ 20cm、深さ 4 ~ 7cm を測る。

【掘り方】 深さ 1 ~ 3cm を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設及び掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器環 2 点を掲載した（第 68 図- 1・2）。共に掘り方からの出土である。1 は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものである。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直線的に内傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部外面がヘラケズリである。色調は、にぶい褐色～浅黄橙色を呈し、胎土には砂粒を含みやや粗い。外面の一一部に漆状の付着物がみられる事から、黒色漆仕上げが施されていたものと考えられる。2 は外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部が外傾して大きく聞く。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面ヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI60 より新しいことから、4a 期（住社式期新段階）以降と考えられる。



第68図 SI65 穴跡・出土遺物

## SI66 穴跡・出土遺物 (第69図)

【位置・確認】 調査区北部の8・13グリッドに位置する。河川跡との重複により大半が失われ、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 小溝状遺構A群、河川跡より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸428cm、短軸155cmを測る。平面形状は隅丸長方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 東辺を基準としてN-6°-Eである。

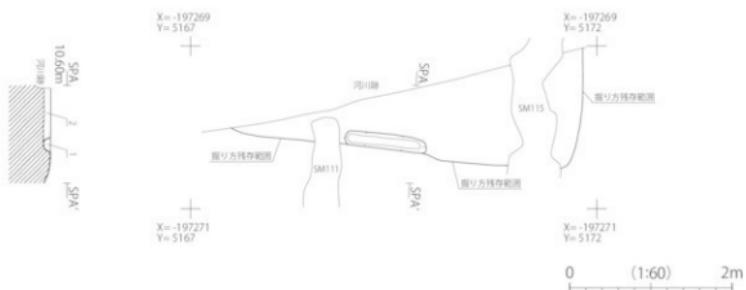
【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土である。2層は掘り方埋土で、IV層土ブロックを多量に含む。

【周溝】 南辺際の一部に残存している。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅19cm、深さ6~9cmを測る。

【掘り方】 深さ2~15cmを測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SI66 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆溝	1	10YR3/3灰褐色	シルト	赤褐色ブロック(5mm程度)微量含む。
住居掘り方	2	10YR4/2灰褐色	シルト	赤褐色ブロック(10~20mm)多量含む。

第69図 SI66 穫穴住居跡

#### SI67 穫穴住居跡（第70・71図）

【位置・確認】 調査区中央部の30・36・37グリッドに位置する。重複遺構や損壊により、南西部が失われている。

【重複】 SI68より新しく、SI56・57、SB21、SD11・27・28、Pit34・37より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸724cm、短軸630cmを測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-32°-Wである。

【堆積土】 8層に分層した。1・2層は灰褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周溝堆積土である。4~6層はカマド関連の堆積土で、6層はカマド燃焼部底面の焼面直上に堆積し、焼土ブロックや灰を多量に含む。7・8層はカマド袖の構築土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は6~14cmを測る。

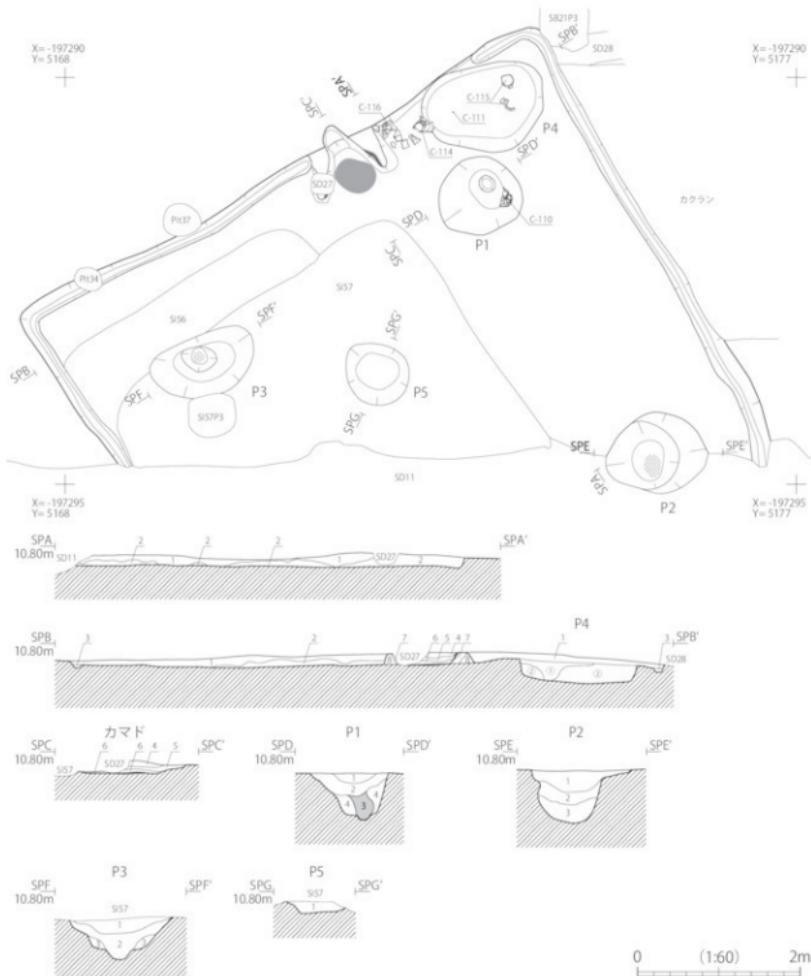
【床面】 基本層IV層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基(P1・2)、重複遺構底面から1基(P3)、総数3基を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸103~132cm、深さ50~69cmを測る。P1で径19cmの柱痕跡が確認され、P2・3の底面では径13~27cmの変色範囲が認められた。

【周溝】 カマドからP4にかけての北壁の一部を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅13~30cm、深さ1~11cmを測る。

【カマド】 北壁の東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ59cm、幅28~29cm、西袖が長さ66cm、幅21~25cmを測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設されている。燃焼部の規模は、奥行き72cm、幅40~77cm、奥壁高10cm程度で、壁内に位置する。底面には長軸50cm程度の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ20cm、幅27cm、深さ4cmを測る。

【その他の施設】 床面から土坑1基(P4)、重複遺構底面から土坑1基(P5)、総数2基を検出した。北東コー



S167 堆積土跡表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 底灰褐色	シルト	古層土和微量含む。
	2	10YR5/2 底灰褐色	シルト	古層土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	古層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
カマド	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	古層土ブロック (5mm 程度)・黒褐色土・焼化物・植生土微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	古層土ブロック (5mm 程度)・焼化物・植生土和少量含む。
	6	10YR6/1 黒褐色	シルト	植生土ブロック (5mm 程度)・焼化物・植生土微量含む。
カマド脇	7	10YR6/6 明暗褐色	シルト	暗褐色土和微量含む。
	8	10YR7/6 明暗褐色	シルト	暗褐色土和微量含む。

第 70 図 S167 積穴住居跡

S67 旅館堆積土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3にぶい・黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	上部に炭化物粒・鐵土粒・灰白色粘土粒多量含む。
	3	10YS5/1褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。※柱洞跡
	4	10YR4/1褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5~10mm)少量含む。
P2	1	10YR4/1褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/1褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5~10mm)多量含む。
	3	10YR4/1褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(30~40mm)多量含む。
P3	1	10YR7/4Cにぶい・黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3にぶい・黄褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/6褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
P4	⑤	10YR6/2灰黄褐色	シルト	下部:地土上微量含む。
	⑥	10YR4/1褐色	シルト	N粘土ブロック(10~20mm)多量含む。
P5	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5mm程度)少量含む。

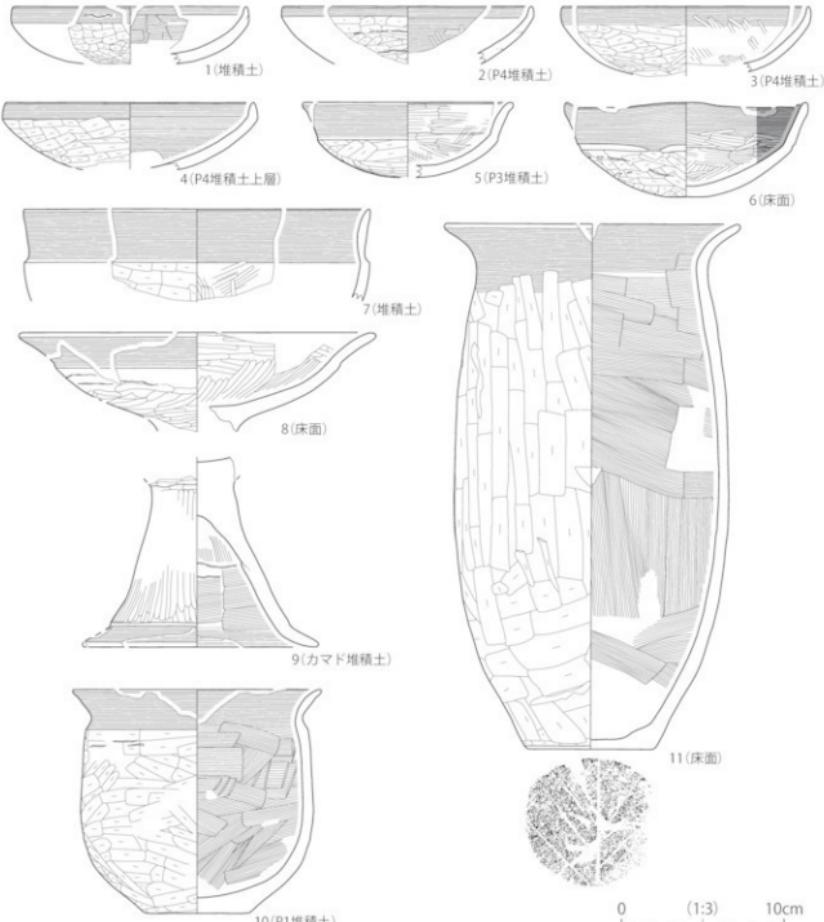
S67 旅館廻廊表

遺構名	平面形	規模(cm)	備考	規模(cm)			備考
				長軸×短軸	深さ	長軸×短軸	
P1	円形	103×93	53	土柱穴			
P2	(楕円形)	(127)×(100)	89	土柱穴	底面変色		
P3	(楕円形)	(132)×(76)	90	土柱穴	底面変色		
P4	楕円形	148×108	30				防風穴
P5	(円形)	(84)×(75)	130				

ナーに位置するP4は、貯蔵穴の可能性が考えられる。堆積土中層には焼土粒が集中し、土師器痕が出土している。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸148cm、短軸108cm、深さ30cmを測る。P5は中央付近に位置するが、性格は不明である。

【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、カマド袖、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器壺6点、土師器鉢1点、土師器高杯2点、土師器甕2点の計11点を掲載した(第71図-1~11)。1~7は住居堆積土、2~4はP4堆積土、5はP3堆積土、6~8~11は床面、9はカマド堆積土、10はP1堆積土からの出土である。1~6は土師器壺である。1~4は鬼高系土師器(南小屋型関東系土器)の特徴を持つものである。1は体部が扁平な半球状を呈し、2~4は緩やかに内湾する。いずれも口縁部は短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面へラナデで、2~3は体部内面の最終調整にヘラミガキが施されている。2は内外面に黒色漆仕上げを施しており、3~4は内面の一部に漆状の付着物がみられることから、黒色漆仕上げが施されていたものと考えられる。色調は、外面が灰褐色~暗褐色、内面が橙色~にぶい橙色を呈し、胎土に砂粒や赤色粒子を僅かに含み、1~4には海綿骨針がみられる。5~6は口縁部と体部の境に、外面に段ないし沈線状の段、内面に稜を持つ。口縁部は5が外反、6が直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、内面はヘラミガキで、6は口縁部内面にヨコナデ、内面黒色処理が施されている。7は土師器鉢で、外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面へラミガキで、一部に漆状の付着物がみられることから、黒色漆仕上げが施されていたものと考えられる。8~9は土師器高杯で、8は壺部のみ、9は脚部から裾部にかけて残存している。8は壺部外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、壺部底部から体部が緩やかに内湾し、口縁部は外反して大きく開く。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラミガキ、内面はヘラミガキである。9は外面の脚部と裾部の境に段を持ち、裾部は屈曲して開く。調整は、外面が脚部へラミガキ、裾部ヨコナデ、内面は壺部へラミガキ、脚部へラナデ、裾部ヨコナデである。10~11は土師器甕である。10は外面の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部が外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部が外面へラケズリ、内面へラナデである。11は胴部が長胴形を呈し、胴部の最大径は中位に位置する。口縁部は大きく外反する。調整は、外面が口縁部から胴部上端がヨコナデ、胴部へラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部へラナデである。底部には木葉痕がみられる。

【時期】床面及びカマド堆積土から出土した土師器壺(第71図-6)、土師器高杯(第71図-8~9)、土師器甕(第71図-11)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。



回収 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	形態	法量 (cm) 口径 底径 高さ	外周調整		内面調整		写真 図版
							口縁	底径	高さ	口縁	
1	C-108	SI67	堆積土	土器部	环	(14.4) -	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm		口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	開口系	26
2	C-112	SI67P4	堆積土	土器部	环	(15.4) -	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm		口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	開口系 内外面漆仕上げ	26
3	C-118	SI67P4	堆積土	土器部	环	(15.2) -	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm		口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	開口系 内面漆状の付着物あり	26
4	C-111	SI67P4	堆積土上層	土器部	环	(15.2) -	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm		口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	開口系 内面漆状の付着物あり	26
5	C-117	SI67P3	堆積土	土器部	环	(12.0) -	4.6	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm		26
6	C-115	SI67	床面	土器部	环	(14.8) -	5.8	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	口縁: 32.0mm 底部: 5.4mm	内面黑色處理	26

第 71 図 SI67 積穴住居跡出土遺物

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	外面調整			内部調整	備考	写真 番号
							白壁	底盤	器高			
7	C-109	SI67	堆積土	土師器	鉢	(21.2)	—	(5.7)	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	直状の付着物あり	26
8	C-116	SI67	床面	土師器	高环	(22.0)	—	(6.1)	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	—	26
9	C-113	SI67 カマF	堆積土	土師器	高环	—	圓盤 (14.5)	(11.7)	縁部:59mm 底盤:32mm 體部:32mm	縁部:59mm 底盤:32mm 體部:32mm	—	27
10	C-110	SI67P1	堆積土	土師器	甕	15.0	6.4	13.8	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	—	27
11	C-114	SI67	床面	土師器	甕	(18.2)	8.0	32.3	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	口縁:32mm 底盤:59mm 体部:59mm	底部:木葉痕 SI57 堆積土下層出土遺物と複合	27

## SI68 穫穴住居跡（第72図）

【位置・確認】 調査区中央部の36 グリッドに位置する。SI67 との重複により北東コーナーのみ残存している。

【重複】 SI67、SD27より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 126cm、短軸 46cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準として N - 43° - W である。

【堆積土】 3 層に分層した。1 層は褐灰色シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は 6 ~ 9cm を測る。

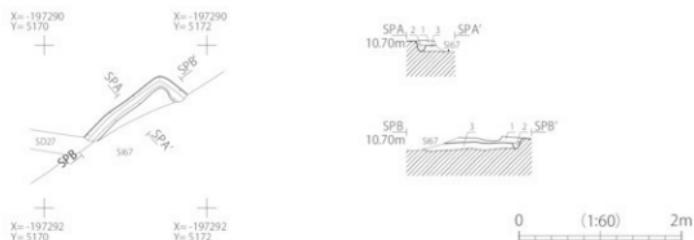
【床面】 掘り方埋土である 3 層上面を床面とし、概ね平坦である。

【周溝】 残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 12 ~ 17cm、深さ 4 ~ 6cm を測る。

【掘り方】 深さ 5 ~ 7cm を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土及び掘り方から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI67 より古いことから、4a 期（住社式期新段階）以前と考えられる。



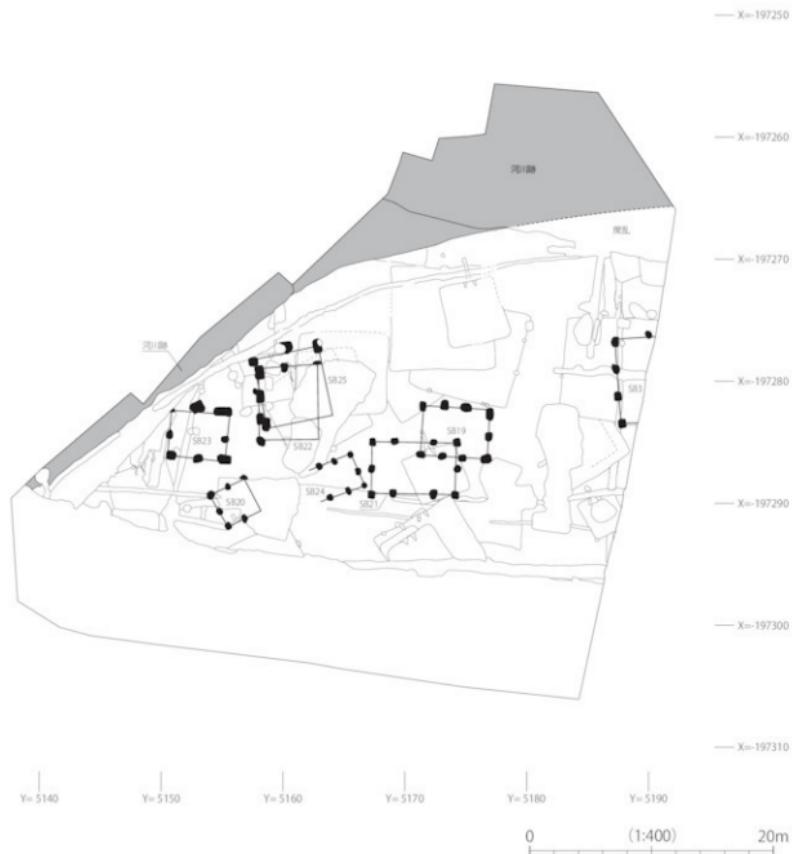
SI68 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	赤褐色土和少量、炭化物類、他土色微量含む。
周溝	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	赤褐色土和少量、炭化物類微量含む。
住居掘り方	3	10YS5/4 にじい黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック(10 ~ 20mm) 少量含む。

第72図 SI68 穫穴住居跡

## (2) 掘立柱建物跡 (第73~86図)

掘立柱建物跡8棟 (SB3・19~25) を検出した。調査区内における分布は、中央付近に集中し、重複関係を持つものがある。このほか、東端では隣接する郡山遺跡第167次調査区で検出されたSB3 掘立柱建物跡の西半部を検出した。主軸方向は、N-0°~12°-Wと真北方向を指向する一群 (SB3・22・25) と、それに直交し東西南北を指向する一群 (SB19・21・23)、その中間のN-65°~68°-Eの一群 (SB20・24) がある。規模は桁行総長が680cm前後の大型、560cm前後の中型、320~465cmの小型がみられる。重複関係が確認できたものは、いずれも古墳時代後期~郡山I期官衙期にかけての竪穴住居跡より新しく、概ね郡山I期官衙期以降に難局するものと考えられる。

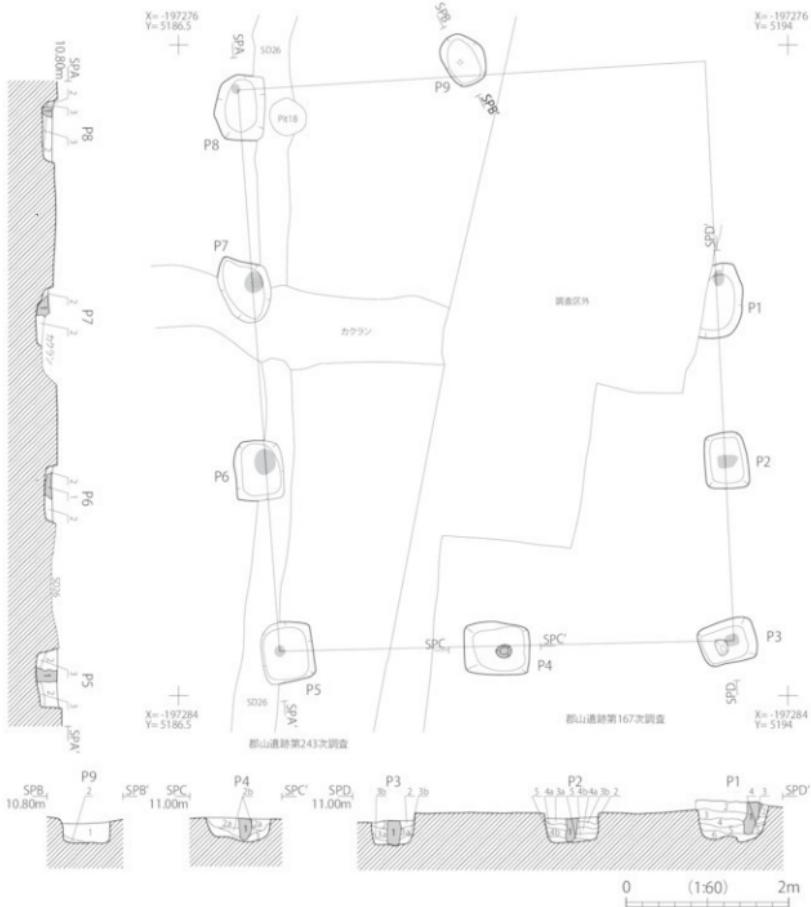


第73図 掘立柱建物跡配置図

## SB3 挖立柱建物跡（第74図）

調査区北東部の20・26グリッドに位置する。郡山遺跡第167次調査で検出されたSB3 挖立柱建物跡の西半部と考えられ（仙台市教育委員会2013）、総数9基の柱穴を検出した。SI46より新しく、SD26より古い。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、西側桁行を基準とした主軸方向はN=4°-Wである。規模は桁行総長690cm、梁行総長560cm、床面積は約38m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、西側柱列が北から235cm、221cm、234cm、南側柱列が西から276cm、284cmを測る。柱穴の平面形状はP7が不整形で、その他は長方形ないし隅丸長方形を基調とする。規模は長軸64～96cm、短軸47～63cm、深さ15～45cmを測る。P5～8で径12



第74図 SB3 挖立柱建物跡

SB3 挖立柱建物跡調査表

遺構名	アリ'')	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	重複
P1 郡山 167次	調査丸長方形	96 × (47)	45	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。 (柱軸跡)	
				2	10YR4/6 黄褐色	粘土質シルト	古削土多量含む。	
				3	7.5YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5～10mm程度)・焼土ブロック (3～10mm程度)・炭化物多量含む。	郡山167次SM63より 古い。
				4	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料多量、炭化物含む。	
				5	7.5YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料多量、炭化物含む。	
				6	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料ブロック (10～15mm程度) 多量、炭化物少 量含む。	
P2 郡山 167次	長方形	69 × 50	38	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。 (柱軸跡)	
				2	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	古削土多量含む。	
				3a	7.5YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5～10mm程度)・焼土ブロ ック (3～10mm程度)・炭化物多量含む。	郡山167次SI4より新 しい。
				3b	10YR5/4 にへく黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック (5mm程度) 多量含む。	
				4a	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料多量、炭化物含む。	
				4b	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック (10～15mm程度) 多量、炭化物少 量含む。	
P3 郡山 167次	長方形	69 × 50	44	5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	古削土赤茶、暗褐色土料少量含む。	
				1	10YR4/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。 (柱軸跡)	
				2	7.5YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5～10mm程度)・焼土ブロ ック (3～10mm程度)・炭化物多量含む。	郡山167次SM5より 古い。
				3a	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料多量、炭化物含む。	
				3d	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック (10～15mm程度) 多量、炭化物少 量含む。	
P4 郡山 167次	長方形	80 × 51	33	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。 (柱軸跡)	
				2a	10YR5/4 にへく黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック (5mm程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	淡灰褐色土料多量、炭化物含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	古削土赤茶、暗褐色土料少量含む。	
P5 26	(長方形)	74 × (63)	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～10mm)・炭化物微量含む。 (柱軸跡)	
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～20mm)・炭化物少量含む。	SD26より古く、SI46よ り新しい。
				3	10YR6/4 にへく黄褐色	シルト	淡黄白色ブロック (5～10mm) 雜量含む。	
P6 26	(長方形)	74 × (59)	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～10mm)・炭化物微量含む。	SD26より古く、SI46よ り新しい。
				2	10YR6/4 にへく黄褐色	シルト	暗褐色ブロック (5～10mm) 雜量含む。	
P7 20	(不整形)	(74) × (60)	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～10mm) 雜量含む。	SD26より古く、SI46よ り新しい。
				2	10YR6/4 にへく黄褐色	シルト	暗褐色ブロック (5～10mm) 雜量含む。	
P8 20	(長方形)	80 × (62)	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～10mm)・炭化物微量含む。 (柱軸跡)	SD26より古く、SI46よ り新しい。
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～20mm)・炭化物少量含む。	
				3	10YR6/4 にへく黄褐色	シルト	暗褐色ブロック (5～10mm) 雜量含む。	
P9 20	調査丸長方形	64 × 51	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古削土ブロック (5～10mm)・炭化物微量含む。	SD46より新しい。
				2	10YR6/4 にへく黄褐色	シルト	暗褐色ブロック (5～10mm) 雜量含む。	

~32cmの柱痕跡が確認され、P7・9の底面には径8~14cmの変色範囲がみられた。

遺物はP2・6から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI46より新しいことから、5a期(郡山I期官衙街)以降と考えられる。

### SB19 挖立柱建物跡 (第75・76図)

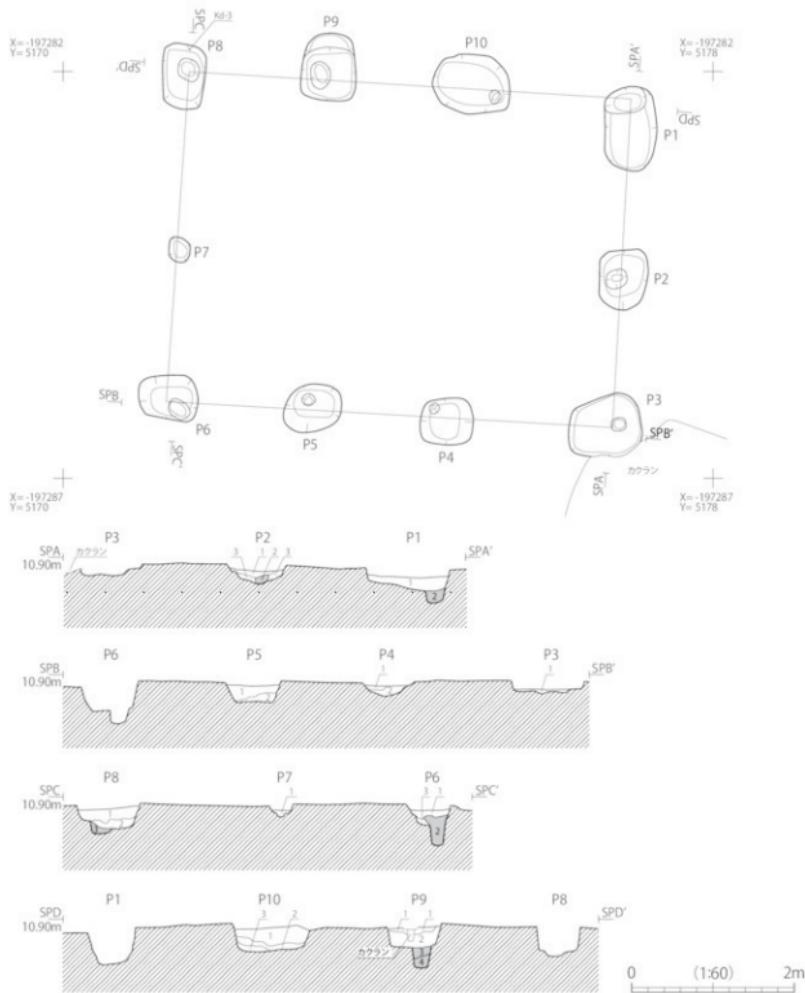
調査区中央部の24・25・30・31グリッドに位置し、10基の柱穴を検出した。SI52・55、Pit51・63より新しく、小溝状遺構C群より古い。範囲的にはSB21とも重複するが、新旧関係は不明である。

南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、南側桁行を基準とした主軸方向はN-87°-Wである。規模は桁行長総550cm、梁行長総405cm、床面積は約22m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、南側柱列が西から180cm、165cm、205cm、東側柱列が北から220cm、185cmを測る。柱穴の平面形状は多様で、P7は長軸33cm、深さ14cmと他の柱穴に比べ小規模で浅い。P7を除いた柱穴の規模は長軸65~103cm、短軸53~78cm、深さ16~54cmを測る。P1・2・6・8・9で径16~26cm程度の柱痕跡が確認され、P7を除く全ての柱穴の底面に窪みがみられた。

遺物はP7を除く全てのピットから土師器・須恵器・石製品が出土している。P3堆積土から出土した須恵器1点、P5堆積土から出土した土師器1点、P8堆積土から出土した石製品1点の計3点を掲載した(第76図-1~3)。1は土師器環である。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は須恵器環で、体部外面に沈線を持つ。

色調は、外面が褐色、内面は灰白色～灰黄色を呈し、胎土には海綿骨針を少量含む。3は瑪瑙製の勾玉で、全体の1/2程が残存する。表裏両面は平坦で、側面は丸みを帯びる。

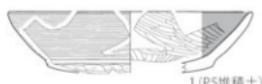
時期決定できる遺物はないが、SI55より新しいことから、5a期（郡山1期官衙期）以降と考えられる。



第75図 SB19 堀立柱建物跡

SB19 捩立柱建物跡 破痕表

遺構名	アリド <sup>1)</sup>	平面形	面積 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
P1	25	隅丸長方形	103 × 64	42	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm)・炭化物少量含む。	
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	
P2	25	隅丸長方形	73 × 58	26	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm)・炭化物少量含む。	
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5mm 程度)・少量含む。※柱痕跡	
P3	31	隅丸長方形	90 × 78	16	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	Pw51 より新しい。
					2	10YR4/6 明褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
P4	30	隅丸長方形	65 × 57	17	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	SI55 より新しい。
					2	10YR4/6 明褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
P5	30	箱形門	68 × 58	25	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	SI55 より新しい。
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。	
P6	30	隅丸長方形	73 × 54	50	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。※柱痕跡	SM140 より古く、SI55 より新しい。
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
P7	24	円形	33 × 27	14	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。	SI55 より新しい。
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
P8	24	隅丸長方形	80 × 53	37	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物有。※柱痕跡含む。	
					2	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	Pw52, Pw53 より新しい。
					3	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。※柱痕跡	
P9	24	隅丸長方形	83 × 65	54	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 明褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
					3	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	
					4	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。※柱痕跡	
P10	24+25	箱形門	95 × 73	37	1	10YR4/4 和色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
					2	10YR4/6 和色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。	
					3	10YR4/6 明褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	



1 (P5堆積土)



2 (P3堆積土)



3 (P8堆積土)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部構	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真図版
						口幅	底径	高さ				
1	C-123	SB19P5	堆積土	土師器	环	(15.0)	—	3.38	口幅・エッジ 底面・内分岐	内面	内面黒色処理	27
2	E-028	SB19P3	堆積土	須恵器	环	(9.8)	6.80	2.1	口幅調整 底部・内分岐	口幅調整		27

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kd-003	SB19P8	堆積土	石製品	勾玉	(1.7)	1.5	0.8	(2.8)	瑪瑙	上部平頭	27

第 76 図 SB19 捩立柱建物跡出土遺物

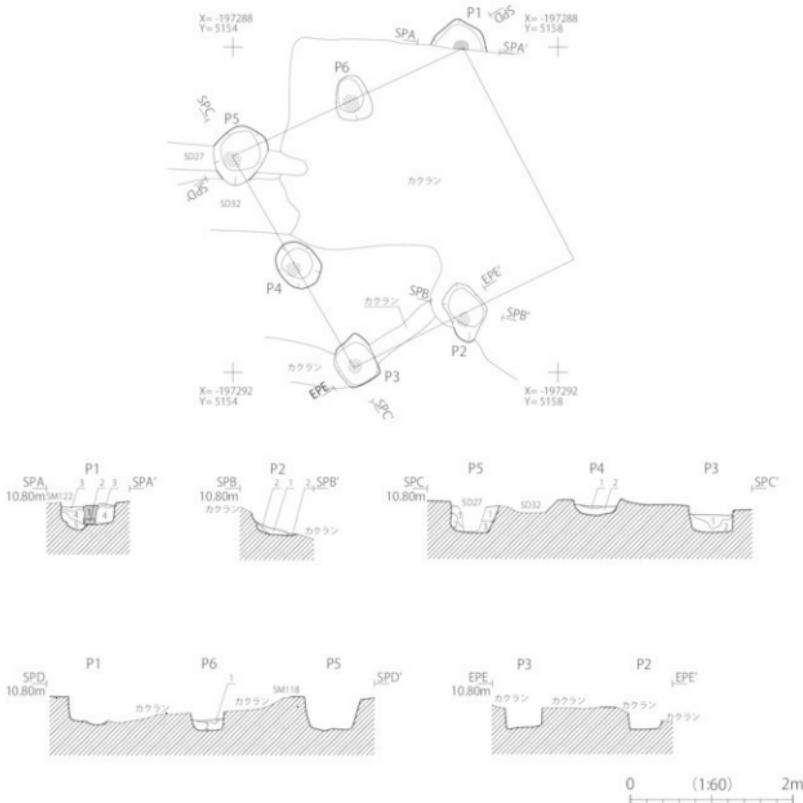
## SB20 捩立柱建物跡（第 77 図）

調査区西部の 28・29・34・35 グリッドに位置し、6 基の柱穴を検出した。搅乱により東半部が失われている。SD27・32・33、小溝状遺構 B 群より古い。範囲的には SI61 とも重複するが、新旧関係は不明である。

南北 2 間、東西 2 間の方形柱側柱建物跡で、北辺柱列を基準とした主軸方向は N - 65° - E である。規模は北辺総長 320cm、西辺総長 300cm を測る。柱間寸法は、北側柱列が西から 160cm、160cm 西側柱列が北から 150cm、150cm を測る。柱穴の平面形状は梢円形ないし卵丸長方形を基調とする。柱穴の規模は長軸 55 ~ 73cm、短軸 41 ~ 62cm、深さ 20 ~ 40cm を測る。P1 で径 20cm の柱痕跡が確認され、P2 ~ 6 の底面には径 18 ~ 22cm の変色範囲がみられた。

遺物は P6 から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SB20 矩立柱建物跡 総表

遺構名	Y (m)	平面形	断面 (cm)		層位	土色	土性	備考	重視
			長軸	短軸					
P1	29	(円形) (55) × (45)	34	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (20 ~ 30mm)・炭化物軽少量含む。 中柱直隣		
				2	10YR4/2 从黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。中柱直隣	SM122より古い。	
				3	10YR6/4 に赤・黃褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。		
				4	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。		
				5	10YR6/4 に赤・黃褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。		
P2	35	(不整形) (72) × (47)	40	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (20 ~ 30mm)・炭化物軽少量含む。		
				2	10YR4/2 从黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。		
P3	35	(楕丸方形)	57 × (49)	32	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
P4	34・35	楕円形	60 × 50	20	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (20 ~ 30mm)・炭化物軽少量含む。	
					2	10YR4/2 从黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
					3	10YR6/4 に赤・黃褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
P5	28	(楕丸方形)	(73) × (62)	40	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
					2	10YR4/2 从黄褐色	粘土質シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SD27・32より古い。
					3	10YR6/4 に赤・黃褐色	シルト	N刷毛土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
P6	29	(楕円形)	(56) × (41)	(22)	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	N刷毛土ブロック (20 ~ 30mm)・炭化物軽少量含む。	

第 77 図 SB20 矩立柱建物跡

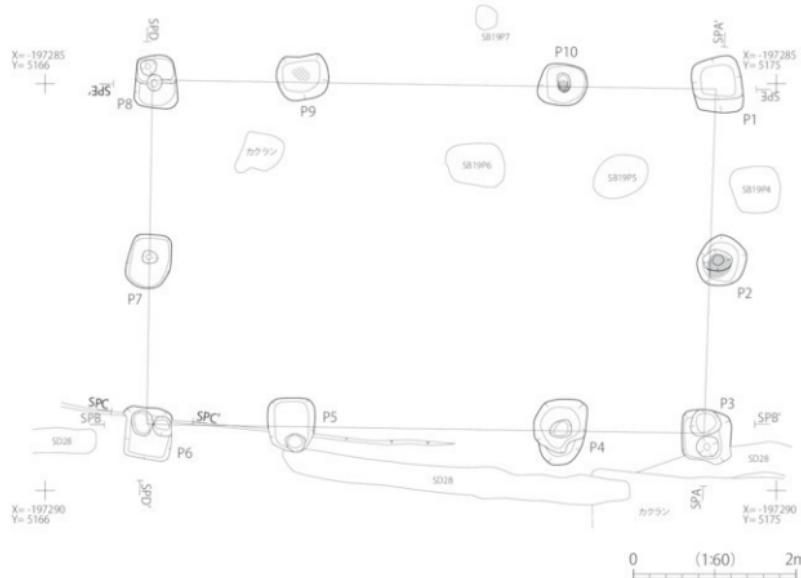
## SB21 掘立柱建物跡（第78～80図）

調査区中央部の24・25・30グリッドに位置し、10基の柱穴を検出した。西側にはSB24が隣接する。SI55・67より新しく、SD28、小溝状遺構C群より古い。位置的にはSB19とも重複するが、新旧関係は不明である。

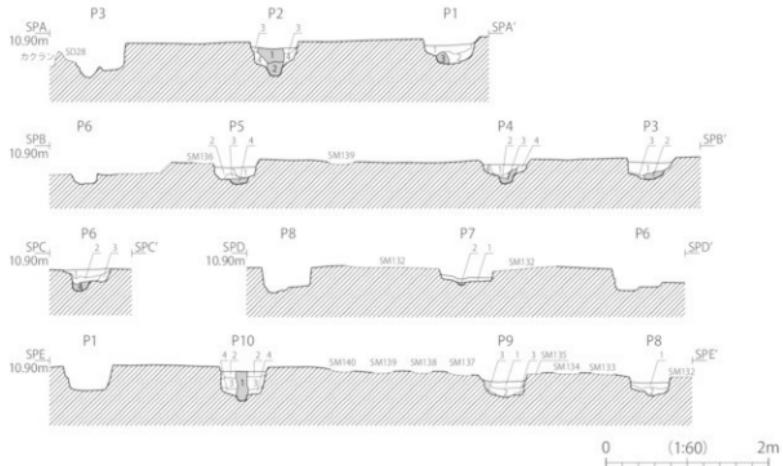
南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方向はN-89°-Wである。規模は桁行総長680cm、梁行総長450cm、床面積は約30m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、南側柱列が西から180cm、320cm、190cm、東側柱列が北から225cm、225cmを測る。桁部分は中央の柱間が他の2倍近くもの間隔を持つ。柱穴の平面形状はP2が円形で、その他は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とする。柱穴の規模は長軸59～80cm、短軸50～63cm、深さ21～43cmを測る。P1～7・10で径12～31cmの柱痕跡が確認され、P9の底面には径20cmの変色範囲がみられた。またP1・9を除く柱穴の底面に窪みがみられ、P3・6・8には2ヶ所の窪みが認められた。のことから、建て替えが行われたものと考えられる。

遺物はP2・3・4から土師器が出土している。このうち、P2から出土した土師器壺1点を掲載した(第80図-1)。鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つものである。緩やかに内湾する体部から口縁部が短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。色調は、にぶい黄橙色～褐灰色を呈し、胎土には海綿骨針を僅かに含む。

時期決定できる遺物はないが、SI55より新しいことから、5a期(郡山I期官衙期)以降と考えられる。



第78図 SB21 掘立柱建物跡（1）



SB21 堀立柱建跡 紹介表

遺構名	形状	平面形	幅員 (cm)	層位	土色	土性	参考		重視
							層位	層位	
P1	24・30	圓丸方形	69 × 60	34	1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土と少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR3/2 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					3 IOYR2/1 黒色	シルト	N層土と、炭化物類微量含む。※柱軸跡		
P2	30	円形	62 × 58	43	1 IOYR3/4 に赤い黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR2/2 黒色	シルト	N層土粉、炭化物類微量含む。※柱軸跡		
					3 IOYR6/4 に赤い黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 50mm) 少量、炭化物類微量含む。	SD55 より新しい。	
P3	30	(圓丸方形)	62) × 61	28	1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土と少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR3/2 黒褐色	シルト	N層土粉、少量、炭化物類・埴土微量含む。	SD28 より古く、S15・67 より新しい。	
					3 IOYR6/6 明淡褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。		
P4	30	圓丸長方形	80 × 63	30	1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR6/6 明淡褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 微量含む。	SD55 より新しい。	
					3 IOYR3/3 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					4 IOYR6/6 明淡褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。		
P5	30	(圓丸方形)	65) × 57	31	1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR5/4 に赤い 黑褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 50mm) 多量、炭化物類微量含む。	SD28・SM136・137 より古い。	
					3 IOYR2/1 黒色	シルト	炭化物類多量、N層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。		
					4 IOYR3/3 黒褐色	シルト	N層土粉多量、※柱軸跡		
P6	30	(圓丸方形)	62) × 57	26	1 IOYR2/1 黒色	シルト	N層土粉、炭化物類微量含む。		
					2 IOYR3/1 黑褐色	シルト	N層土と少量、炭化物類・埴土微量含む。	SM132・133 より古い。	
					3 IOYR2/1 黒色	シルト	N層土粉微量含む。		
P7	30	圓丸長方形	68 × 53	21	1 5GY6/1 オリーブグリーン	シルト	黒褐色土ブロック含む。		
					2 5GY5/1 オリーブグリーン	シルト	黒褐色土粉微量含む。	SM132 より古い。	
					3 7SY5/1 灰色	シルト	灰オリーブ色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		
P8	24・25	圓丸方形	64 × 50	24	2 7GY2/2 オリーブ黒色	シルト	灰オリーブ色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類微量含む。	SM131・132 より古い。	
					1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類・埴土微量含む。		
					2 IOYR3/2 黒褐色	シルト	N層土と少量、炭化物類・埴土微量含む。	SM135・136 より古い。	
P9	24・25	圓丸方形	64 × 50	28	1 IOYR6/6 明淡褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。		
					2 IOYR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。		
					3 IOYR6/6 明淡褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量、炭化物類微量含む。		
					4 IOYR5/4 に赤い 黑褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 50mm) 多量、炭化物類微量含む。		
P10	24・25	圓丸方形	59 × 50	42	1 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 20mm) 少量、炭化物類微量含む。		
					2 IOYR5/4 に赤い 黑褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		
					3 IOYR3/3 黒褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		
					4 IOYR5/4 に赤い 黑褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 50mm) 多量、炭化物類微量含む。		

第79図 SB21 堀立柱建跡 (2)

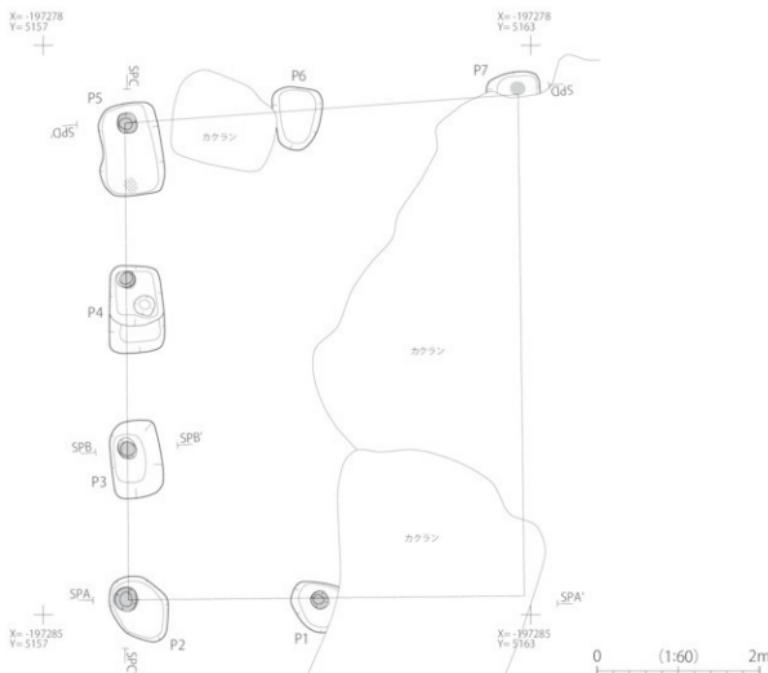
回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真回数
1	C-125	SB21P2	埋積土	土器	环	口径(15.6) 深(4.4)	口部:32mm 体部:54mm	口部:33mm 体部:54mm	内外面摩滅 開口系	27

第80図 SB21 掘立柱建物跡出土遺物

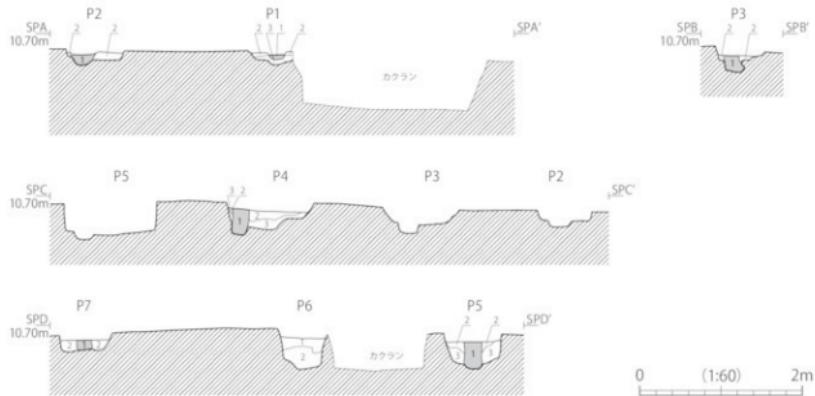
## SB22 掘立柱建物跡（第81・82図）

調査区北部の17・23・29グリッドに位置し、7基の柱穴を検出した。擾乱により東半部分が失われている。SI53・54・58・64、SB25、Pit36より新しい。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、西側桁行を基準とした主軸方向はN=0°である。規模は桁行総長585cm、梁行総長485cmを測る。柱間寸法は、北側柱列が西から209cm、276cm、西側柱列が北から192cm、210cm、183cmを測る。柱穴の平面形状は橢円形ないし隅丸長方形を基調とする。柱穴の規模は長軸61～113cm、短軸31～72cm、深さ17～48cmを測る。P6を除き径19～28cmの柱痕跡が確認され、P5の底面には径18cmの変色範囲もみられた。また、P1～5の底面に窪みがみられ、P4には2ヶ所の窪みが認められた。



第81図 SB22 掘立柱建物跡（1）



SB22 挖立柱建物跡 総索表

遺構名	アーチ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	層位	土色	土性	参考		重複
							幅	厚さ	
P1	23・29	(楕円形)	61 × (55)	17	1 IOYR4/2 灰黄褐色 2 IOYR5/1 和灰色 3 IOYR4/2 灰黄褐色	シルト シルト シルト	炭化物粒少量含む。※柱痕跡 炭化物粒微量含む。		SE54 より新しい。
					1 IOYR4/2 灰黄褐色 2 IOYR4/2 从灰褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(10mm程度)多量含む。 炭化物粒微量含む。※柱痕跡		
					1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR5/1 和灰色	シルト シルト	IV層上ブロック(10～20mm)少量含む。 炭化物粒、健士鉢微量含む。※柱痕跡		
P2	23・29	楕円形	90 × 65	19	1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR5/1 和灰色	シルト シルト	炭化物粒微量含む。 炭化物粒微量含む。※柱痕跡		SE25 より新しい。
					1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR5/1 和灰色	シルト シルト	炭化物粒微量含む。※柱痕跡		
P3	23	隅丸長方形	95 × 61	31	1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR5/1 和灰色	粘土質シルト シルト	IV層上少量含む。※柱痕跡		SE25 より新しい。
P4	23	隅丸長方形	107 × 65	40	1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR4/2 从灰褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量含む。 IV層上ブロック(10～20mm)多量含む。		SE54・58、SE25、PC30 より新しい。
P5	17	隅丸長方形	113 × 72	42	1 IOYR4/2 从灰褐色 2 IOYR4/1 和灰色 3 IOYR4/4 从灰褐色	シルト シルト シルト	炭化物粒、健士鉢微量含む。※柱痕跡 IV層上ブロック(5～10mm)微量含む。 IV層上ブロック(10～20mm)少量含む。		SE58 より新しい。
					1 IOYR4/3 黒褐色	シルト	IV層上ブロック(5mm程度)多量、炭化物と微量含む。		
					1 IOYR4/1 和灰色 2 IOYR4/2 从灰褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(30～50mm)多量含む。 IV層上ブロック(5mm程度)少量含む。※柱痕跡		
P6	17	楕円形	77 × 60	48	1 IOYR4/1 和灰色 2 IOYR4/2 从灰褐色	シルト シルト	IV層上多量含む。		SE54・58 より新しい。
P7	17	(隅丸長方形)	66 × (31)	23	1 IOYR4/1 和灰色 2 IOYR5/2 从灰褐色	シルト シルト	IV層上多量含む。		SE53・54・64 より新しい。

第82図 SB22 挖立柱建物跡（2）

遺物はP2・4から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、重複関係から5a期（郡山1期官衙期）以降と考えられる。

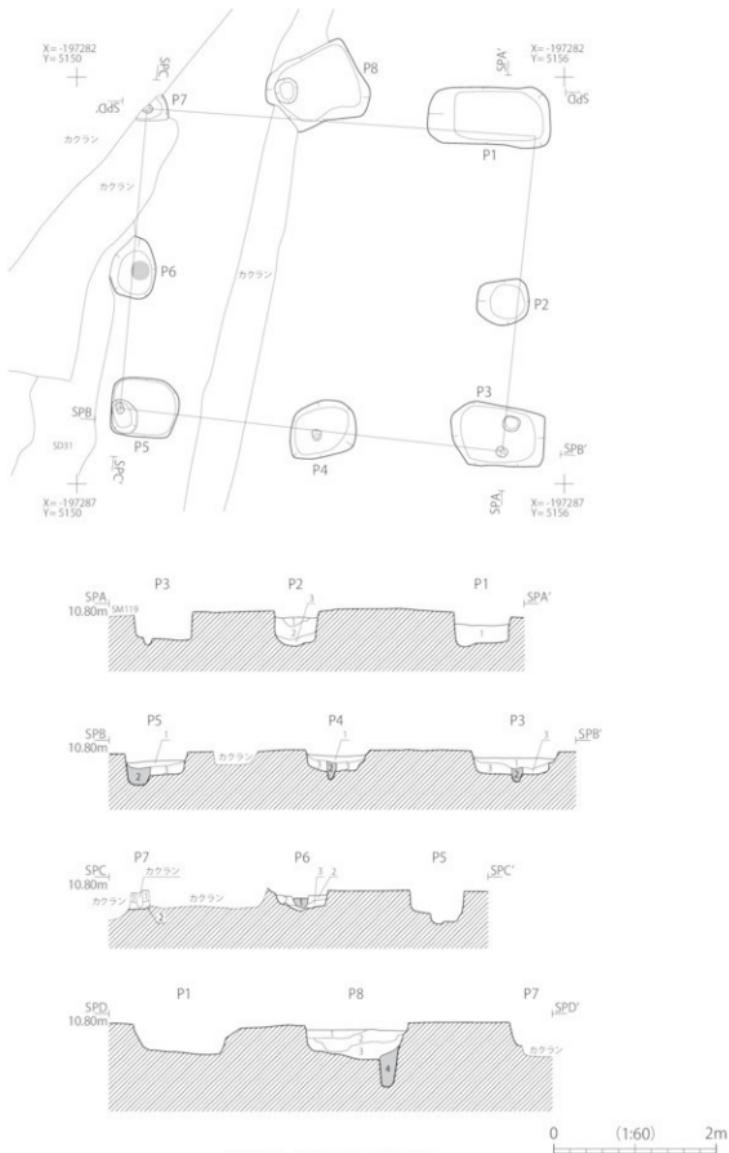
### SB23 挖立柱建物跡（第83図）

調査区北西部の22・23・28・29グリッドに位置し、8基の柱穴を検出した。擾乱や重複遺構により部分的に失われている。Pit8・91・94・96・103・107・111・119・136より新しく、SD31、小溝状遺構B群より古い。

南北2間、東西2間の東西棟側柱建物跡で、南側桁行を基準とした主軸方向はN-83°-Wである。規模は桁行総長465cm、梁行総長410cmを測る。柱間寸法は、南側柱列が西から240cm、225cm、東側柱列が南から180cm、230cmを測る。柱穴の平面形状はP6が楕円形で、その他は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とする。柱穴の規模は長軸40～150cm、短軸30～85cm、深さ22～78cmを測る。P3～6・8で径12～28cmの柱痕跡が確認された。またP3～5、7・8の底面に窪みがみられ、P3には2ヶ所の窪みが認められた。

遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



第83図 SB23 掘立柱建物跡

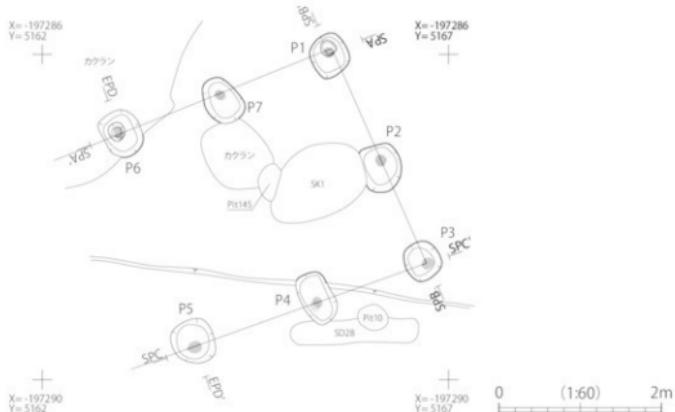
SB23 挖立柱建物跡 観察表

遺構名 P1	平面形 楕丸長方形	面積 (cm) 150 × 70	深さ 40	層位 1	主色 10YR4/1 和灰色	土性 シルト	観察 IV崩土ブロック (10 ~ 50mm) 多量含む。 炭化物粒少額。IV崩土ブロック (20 ~ 30mm) 多量 含む。	産状 Pr103+107より新しい。
P2	22×23	楕丸方形	63 × 55	41	2 10YR5/2 黄褐色	シルト	IV崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。 炭化物粒少額。IV崩土ブロック (20 ~ 30mm) 多量 含む。	Pr91より新しい。
					3 7.5YS5/3 和灰色	シルト	IV崩土ブロック (20 ~ 40mm) 多量含む。	
P3	28×29	楕丸長方形	116 × 73	38	1 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV崩土粒少額含む。	SM118 ~ 120より古く、 Pr119+136より新しい。
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV崩土粒少額含む。※柱痕跡	
P4	28	楕丸長方形	81 × 67	35	1 10YR4/1 和灰色	シルト	IV崩土粒少額含む。	SM118 ~ 120より古く、 Pr119+136より新しい。
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV崩土ブロック (5mm程度) 微量含む。※柱痕跡	Pr94より新しい。
P5	28	楕丸方形	83 × 72	40	2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV崩土粒少額含む。(5mm程度) 少量含む。	Pr111より新しい。
					3 10YR4/1 和灰色	シルト	IV崩土ブロック (5mm程度) 微量含む。	
P6	22	(楕円形)	76 × (56)	27	1 10YR4/1 和灰色	シルト	IV崩土粒少額含む。※柱痕跡	SD01より古い。
					2 10YB7/2 黄褐色	シルト	IV崩土ブロック (5 ~ 10mm) 微量含む。	
P7	22	—	(40) × (30)	22	1 10YR4/1 和灰色	シルト	IV崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	Pr96より新しい。
					2 10YR4/4 和灰色	シルト	IV崩土粒少額含む。	
P8	22	(楕丸長 方形)	116 × (85)	78	1 10YR4/1 和灰色	シルト	IV崩土粒少額含む。炭化物粒微量含む。	SD01より古い。
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	Pr8より新しい。
					3 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV崩土粒少額含む。※柱痕跡	
					4 10YR3/1 黑褐色	シルト	IV崩土粒少額含む。※柱痕跡	

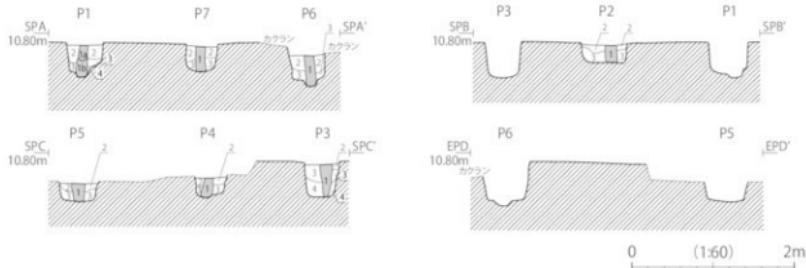
SB24 挖立柱建物跡 (第84・85図)

調査区中央部の29・30グリッドに位置し、7基の柱穴を検出した。東側にはSB21が隣接する。SD28、SK1、小溝状遺構C群より古い。

南北2間、東西2間以上の側柱建物跡で、北側柱列を基準とした主軸方向はN-68°-Eである。規模は南北総長295cm、東西総長290cm以上を測る。検出した柱穴の柱間寸法は、東側柱列が北から145cm、150cm、南側柱列が西から150cm、135cmを測る。柱穴の平面形状は楕丸形ないし椭丸長方形を基調とする。柱穴の規模は長軸46~65cm、短軸38~52cm、深さ23~49cmを測る。全ての柱穴で径13~18cmの柱痕跡が確認され、P2・4・7の底面では径15cm程度の変色範囲がみられた。



第84図 SB24 挖立柱建物跡 (1)



SB24 捜査柱建物跡 縦断表

遺構名	チャイ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	30	隅丸方形	50 × 45	42	1a	SY5/1 灰色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	SM128より古い。
					1b	SY5/2 オリーブ色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
					2	SY5/2 灰オリーブ色	シルト	灰土ブロック(10mm程度)多量。炭化物少含む。	
					3	SY4/1 灰色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
P2	30	(隅丸方形)	58 × (45)	23	4	SY5/3 灰オリーブ色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	SM129・130、SK1より古い。
					5	SY5/1 灰色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
					2	SY5/2 灰オリーブ色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
P3	30	隅丸方形	46 × 44	43	3	SY5/1 灰色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	SM131・132より古い。
					1	HOY4/2 黄褐色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
					2	HOY4/1 黄褐色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	
P4	30	(隅丸長方形)	(65) × (38)	28	3	HOY5/6 黄褐色	シルト	炭化物少含む。柱痕跡	SD28、SM128・129より古い。
					1	HOY4/3 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。	
					2	HOY4/3c 黄褐色	シルト	柱痕土ブロック(20～30mm)少量含む。	
P5	29	(円形)	(55) × (52)	25	1	HOY4/3c 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	SM131・132より古い。
					2	HOY5/6 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	
					3	HOY4/4 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	
P6	29	(隅丸長方形)	(58) × (47)	49	1	HOY4/3 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	SD28、SM128・129より古い。
					2	HOY4/6 黄褐色	シルト	炭化物少含む。	
					3	HOY4/4 黄褐色	シルト	炭化物少含む。	
P7	29	相円形	60 × 43	34	1	HOY4/3 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	SM125・126より古い。
					2	HOY4/1 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。炭化物少含む。柱痕跡	
					3	HOY4/2 黄褐色	シルト	柱痕土少含む。	

第 85 図 SB24 捜査柱建物跡 (2)

遺物は P4 から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である

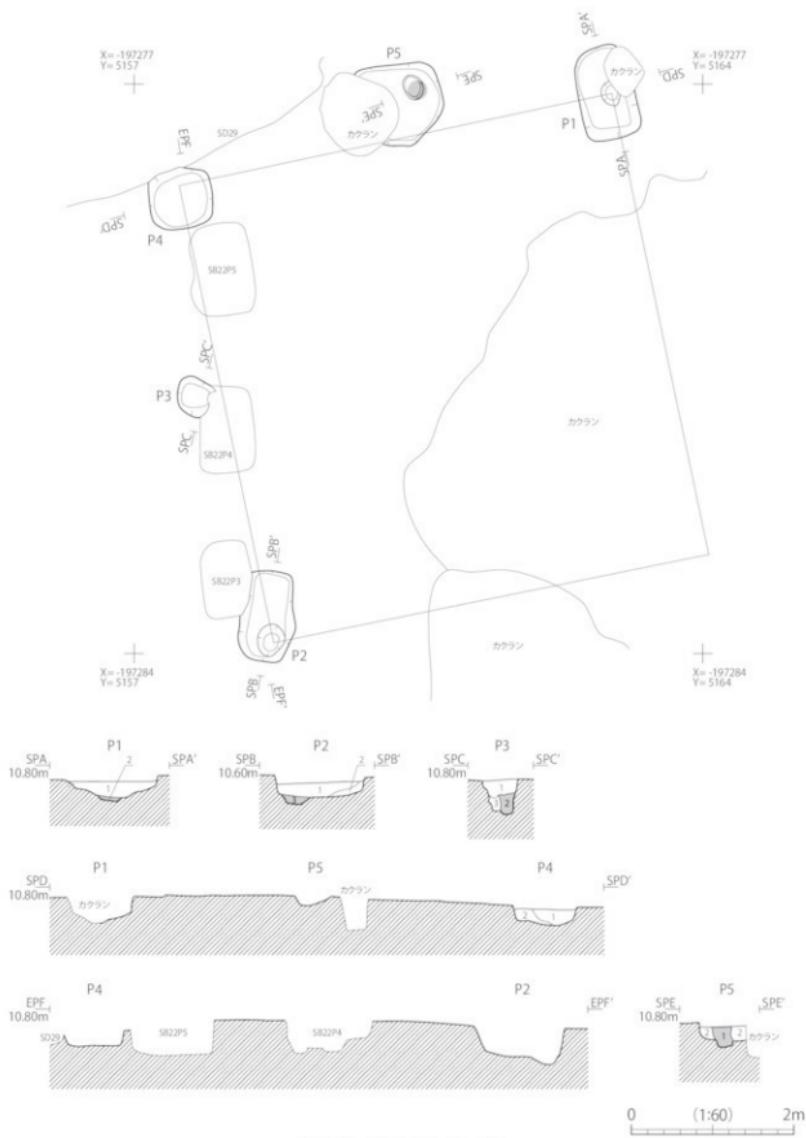
#### SB25 捜査柱建物跡 (第 86 図)

調査区北部の 17・23 グリッドに位置し、5 基の柱穴を検出した。擾乱により東半部が失われている。SI53・58・64、Pit125・133 より新しく、SB22、SD29 より古い。

南北 2 間、東西 2 間の側柱建物跡で、西側行を基準とした主軸方向は N - 12° - W である。規模は北辺総長 560cm、西辺総長 555cm を測る。柱間寸法は、北側柱列が西から 320cm、240cm、西側柱列が北から 245cm、310cm を測る。柱穴の平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とする。P3 は長軸 47cm と他の柱穴と比べて極端に小さい。P3 を除いた柱穴の規模は長軸 78～114cm、短軸 56～75cm、深さ 26～43cm を測る。P1～3・5 で径 20～25cm の柱痕跡が確認された。

遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、重複関係から 5a 期（郡山 I 期官衙期）以降と考えられる。



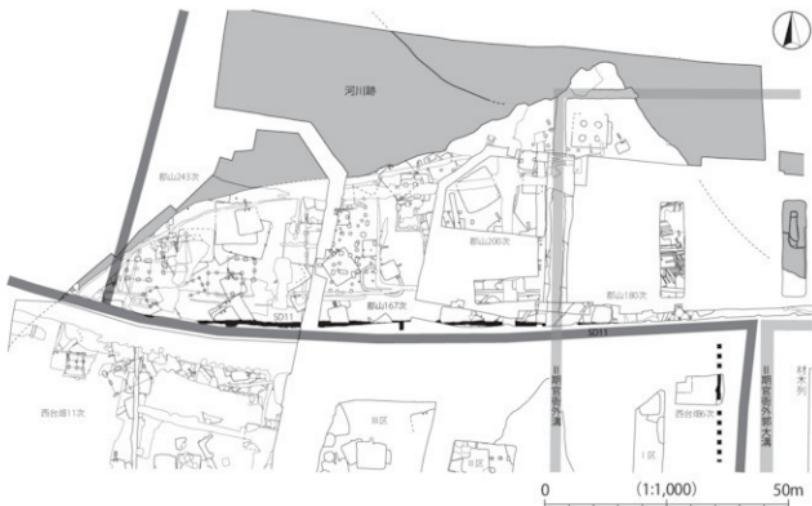
第86図 SB25 振立柱建物跡

SB25 堀立柱建物跡 観察表

遺構名	アリド'	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	寸法 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
				長軸	短軸					
P1	17	楕円長方形	114 × 70	32		1	10YR3/3 姫麗色	シルト	古墳土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。 古墳土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡	SD53・64、PR125・133 より新しい。
						2	10YR3/2 黒褐色	シルト		
P2	23	楕円長方形	111 × 69	36		1	10YR3/4 姫麗色	シルト	古墳土ブロック (10 ~ 30mm)・K 塵土和少量、埴土 ブロック (5mm 程度) 多量含む。	SB22 より古い。
						2	10YR7/6 明瞭褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	
P3	23	(楕円方形)	(47) × 43	43		3	10YR3/4 姫麗色	シルト	古墳土ブロック (10 ~ 30mm) 多量、古墳土和少量、 埴土ブロック (5mm 程度) 混在含む。※柱痕跡	SR22 より古い。
						1	10YR3/4 姫麗色	シルト	古墳土ブロック (10 ~ 30mm)・K 塵土和少量、埴土 ブロック (5mm 程度) 多量含む。	
P4	17	(楕円方形)	78 × (75)	26		2	10YR5/1 姫麗色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm 程度) 少量、埴土和微量含む。	SD22 より古い。
						3	10YR5/3 にじ・黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	
P5	17	(楕円方形)	(100) × 56	30		1	10YR4/1 姫麗色	シルト	古墳土ブロック (5mm 程度)・埴土ブロック (5mm 程度)・K 塵土和微量含む。	SD29 より古く、SD58 より新しい。
						2	10YR4/2 広黄褐色	シルト	古墳土ブロック (10 ~ 30mm) 多量、埴土ブロック (5mm 程度)・K 塘物微量含む。	

### (3) 区画施設 (第 87 ~ 90 図)

溝跡 1 条 (SD11) を検出した。SD11 は郡山遺跡第 167・180 次調査区 (仙台市教育委員会 2013) で検出された区画施設の西側延長部で、郡山 II 期官衙の外溝である SD13 より古く、古墳時代後期～郡山 I 期官衙間にかけての堅穴住居跡より新しいことが確認されている。また、西台烟遺跡第 6 次調査 (仙台市教育委員会 2008) では、南側に屈曲する可能性が指摘されている。いずれの調査区においても、土層観察から掘り直しが行われている可能性が考えられている。



第 87 図 SD11 溝跡配置図

## SD11 溝跡（第87～90図）

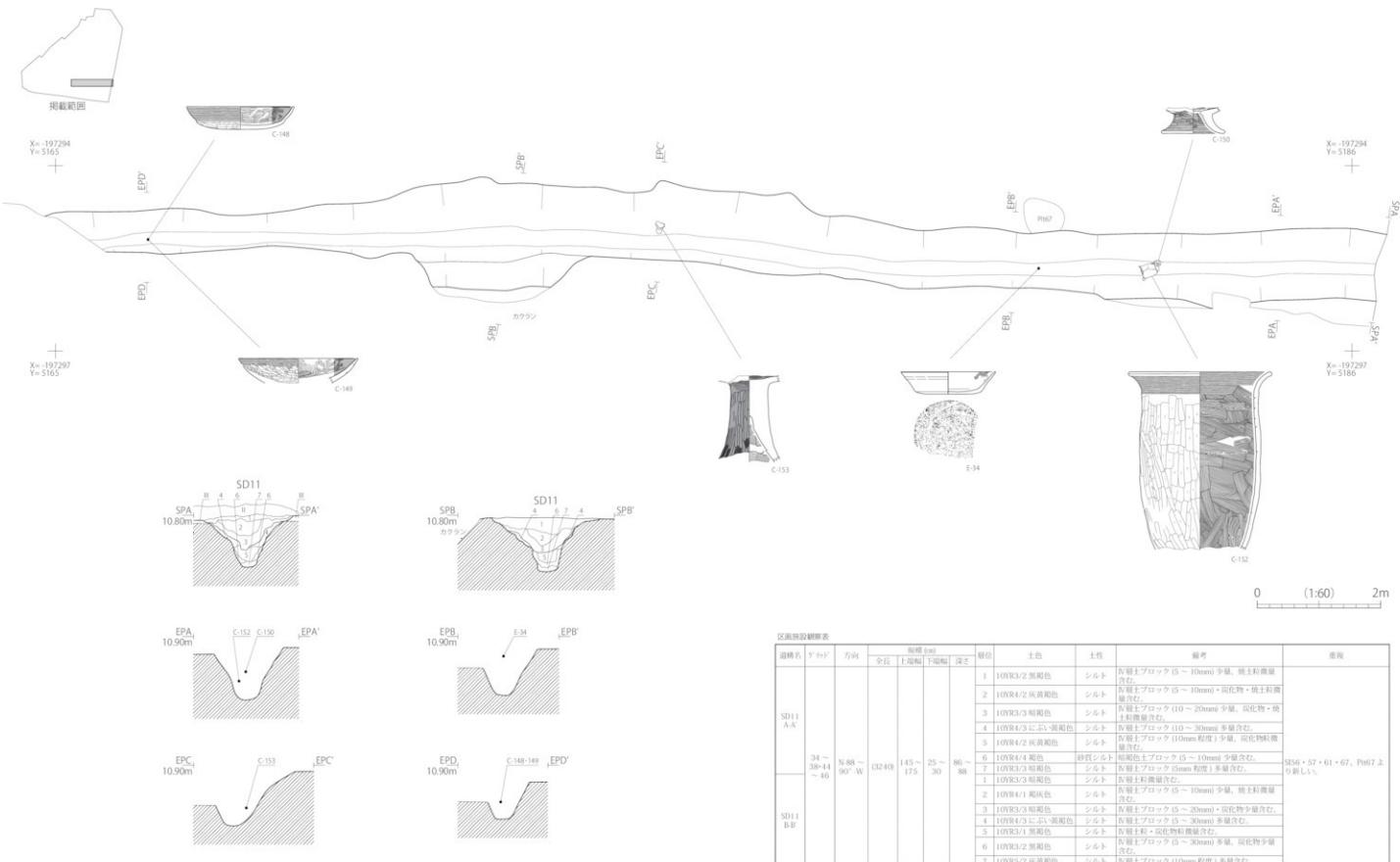
調査区南部の34～38・44～46グリッドに位置する。第167・180次調査区で検出されたSD11の西側延長部分に相当する。西端及び南壁は擾乱により大きく失われている。SI56・57・61・67、Pit67より新しい。

規模は検出長32.4mで、郡山遺跡第167次・第180次で検出された長さを含めると100m程度で、西台畠遺跡第6次で検出された南北方向の溝跡までの長さは120m程度である。上端幅145～175cm、下端幅25～30cm、深さ86～88cmを測る。方向はN-88～90°-Wで、直線的に延びる。断面形状は、底面の幅が狭く漏斗状を呈し、底面から40～50cm程度から大きく外側に開く。底面には10cm程度の緩やかな凹凸が認められた。

堆積土は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、下層ではIV層土ブロックを多量に含む。土層観察から掘り直しが行われているものと考えられ、1～3層は掘り直し後の堆積土である。東端部では5層上面付近から土器や礫が多量に出土しており、人為堆積土と考えられる。

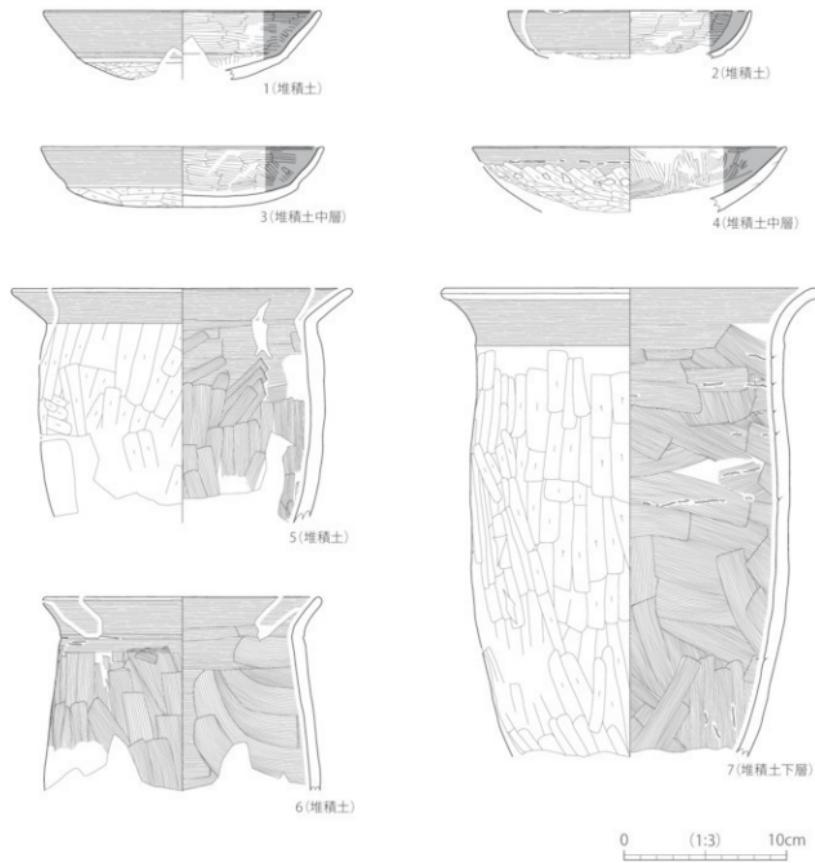
遺物は土師器・須恵器・瓦・鉄製品・骨格が出土している。これらのうち、土師器壺4点、土師器甕3点、土師器高环2点、須恵器壺1点、須恵器長頸瓶1点、須恵器甕2点、瓦1点、鉄製品2点の計16点を掲載した（第89図-1～7、第90図-8～16）。1～4は土師器壺である。1～3は外面の口縁部と体部の境に、段ないし沈線状の段を持ち、口縁部は1が直線的に外傾、2が内湾、3が内湾気味に外傾する。4は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾し、口縁端部は器壁が薄くなり、外反気味である。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。5～7は土師器甕で、胸部が長胴形を呈する。5・6は口縁部と胸部の境が屈曲し、口縁部が直線的に外傾する。7は外面の口縁部と胸部の境に稜を持ち、口縁部が外反し、口縁端部が外側に肥厚する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胸部内部ヘラナデを基本として、胸部外面が5・7はヘラケズリ、6はヘラナデが施される。8・9は土師器高环で、共に环底部から脚部にかけて残存する。8は長脚の高环で、脚部上半は中実である。环底部内面および脚部外面に赤彩が施される。調整は、外面が环部ヘラミガキ、脚部ハケメ後ヘラミガキ、内面は环部ヘラミガキ、脚部ヘラナデである。9は短脚の高环で、脚部は「ハ」字状に広がり、中空である。环底部に焼成後と考えられる径2cm程の穿孔がみられる。10は須恵器壺である。平底の底部から直線的に外傾して口縁部に至る。底部には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、にじい黄橙色を呈し、胎土には5mm程度の砂粒や赤色粒子を少量含む。焼成は不良で、土師器の質感を持つ。内面にタール状の黒色物質の付着がみられ、灯明具として転用されているものと考えられる。11は須恵器長頸瓶としたが、高环脚部の可能性も考えられる。口縁部は横方向に開き、口縁端部が上方につまみ上げられている。色調は、灰色～明紫灰色を呈し、胎土に黒色粒子を少量含む。12・13は須恵器甕である。12は口縁部に平坦面を持ち、下端が垂下する。口縁部には沈線による区画帯が4区画あり、各区画内に櫛描き波状文が施される。区画沈線は1条と2条1組のものがある。色調は、灰色～暗灰色を呈し、胎土は砂粒を多く含む。13は口縁部が外反し、口縁端部に緩い凹面を持つ。加飾や施文はみられない。色調は、灰色～黄灰色を呈し、胎土に黒色粒子を含む。14は平瓦で、凸面に繩目タタキ、凹面に布目痕がみられる。胎土は堅く焼き締まり、色調は暗青灰色を呈する。15・16は鉄製品で15は刀子、16は鉄鎌である。刀子は刀身部の身元あたりから茎尻までの部分が出土した。刀身部は僅かに背側に屈曲する。刃部の形状は、口金に覆われた状態で残存していたため不明である。茎部は茎尻に向かうにつれ細くなり、茎尻の形状は栗尻である。鉄鎌は長頸の両刃盤筒鎌である。鎌身部の断面形状は両丸造だが、表面は裏面より盛り上がる。頭部の断面形状は方形である。

今回の調査で検出されたSD11は、郡山遺跡第167次・第180次調査や西台畠遺跡第6次調査で検出された溝跡と同一遺構と考えられ、一連の区画施設と考えられる。帰属時期や遺構の性格など詳細については第8章第3節にて記載する。



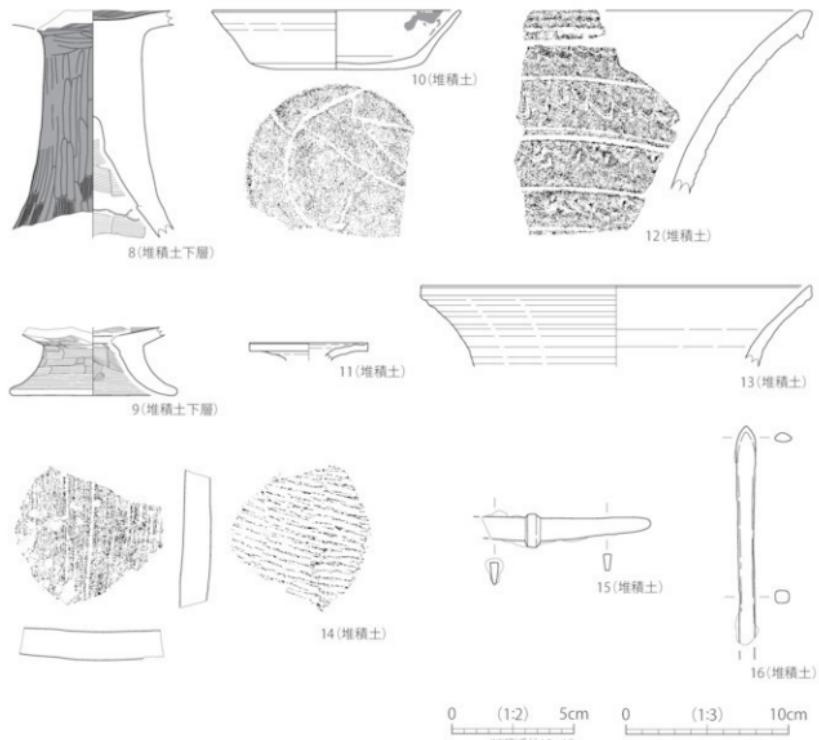
第88図 SD11溝跡(区画施設)





図版 番号	物 理 番 号	出 土 地 点	層 位	種 別	器 種	法 量 (cm)			外 面 調 整	内 面 調 整	備 考	写真 図版
						口 径	底 径	高 さ				
1	C-144	SD11	堆積土	土器部	环	(17.0)	—	(4.2)	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	内面: 6mm	内面黒色處理	27
2	C-145	SD11	堆積土	土器部	环	(14.8)	—	(2.9)	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	内面: 6mm	内面黒色處理	28
3	C-148	SD11	堆積土中層	土器部	环	17.4	—	3.6	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	内面: 6mm	内面黒色處理	27
4	C-149	SD11	堆積土中層	土器部	环	(19.2)	—	—	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	内面: 6mm	内面黒色處理	27
5	C-146	SD11	堆積土	土器部	廣	(21.0)	—	(14.5)	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	口縁: 32mm 側面: 6mm	—	28
6	C-147	SD11	堆積土	土器部	廣	17.2	—	—	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	口縁: 32mm 側面: 6mm	—	28
7	C-152	SD11	堆積土下層	土器部	廣	(23.0)	—	(28.8)	口縁: 32mm 底盤: 6mm 側面: 6mm	口縁: 32mm 側面: 6mm	—	27

第89図 SD11溝跡（区画施設）出土遺物（1）



回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 例	
						全径	幅	厚さ					
8	C-153	SD11	堆積土下層	土師器	高环	—	—	(14.0)	環部:外切 + 脚部:内切+外切	环部:内切+ 脚部:外切	环部内面及び 脚部外面赤彩	28	
9	C-150	SD11	堆積土下層	土師器	高环	—	脚径	10.4	(5.2)	环部:外切 + 脚部:内切	环部:外切 + 脚部:内切	环部内面赤彩	28
10	E-034	SD11	堆積土	須恵器	环	(15.2)	(8.0)	(3.6)	口調整 底部:内側+外側	口調整	内外面削減 内面黒褐色付着	28	
11	E-036	SD11	堆積土	須恵器	長颈瓶 or 高环	(7.1)	—	(1.1)	口調整	口調整	内外面白黒褐色付着	28	
12	E-050	SD11	堆積土	須恵器	甕	—	—	(11.0)	口調整+平行沈線 + 模様文	口調整	内外面白黒褐色付着	28	
13	E-037	SD11	堆積土	須恵器	甕	(24.0)	—	(5.0)	口調整	口調整	内面白黒褐色付着	28	

回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真 例
						全径	幅	厚さ		
14	G-009	SD11	堆積土	瓦	平瓦	(8.4)	(18.0)	1.7	凸面:彫打タタキ 凹面:布目麻	28

回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真 例
						全径	幅	厚さ			
15	N-016	SD11	堆積土	鉢製品	刀子	弧形	1.3	0.3 ~ 1.0	14.0	刃~茎部:口金残存	28
16	N-017	SD11	堆積土	鉢製品	鉢	弧形	0.6 ~ 0.8	0.4 ~ 0.5	12.0	長縦、棘状突	28

第90図 SD11溝跡（区画施設）出土遺物（2）

#### (4) 土坑（第91～96図）

土坑4基(SK1～4)を検出した。いずれも時期決定できる遺物はないが、重複関係や出土遺物から概ね4・5期(古墳時代後期～奈良時代)と考えられる。

##### SK1 土坑（第91・92・96図）

調査区中央部の29・30グリッドに位置する。SB24、Pit145より新しく、小溝状遺構C群より古い。平面形状は梢円形、断面形状は皿状を呈する。検出した規模は、長軸138cm、短軸94cm、深さ24cmを測る。堆積土は2層に分層され、オリーブ灰色砂質シルトないしシルトを主体とし、1層下部には腐植土を多量に含む。

遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器高环1点、土師器鉢1点の計2点を掲載した(第92図-1・2)。1は土師器高环の脚部で、透かしを4窓持つ。調整は、外面が脚部へラケズリ、内面は環部がヘラミガキ後、黒色処理が施され、脚部がヘラナデである。2は土師器鉢である。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は緩やかに外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ハケメ、内面ヘラナデである。

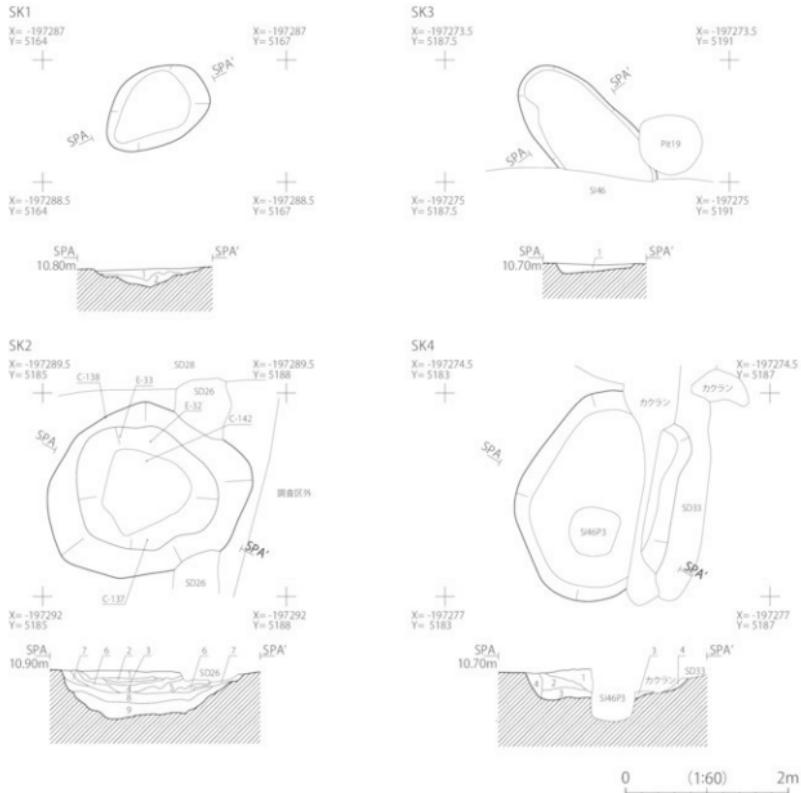
時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

##### SK2 土坑（第91・93・94・96図）

調査区南東部の32・38グリッドに位置する。SI48より新しく、SD26より古い。SI48の中央部分を大きく掘り込んでおり、SI48出土遺物との接合関係が認められることから、SK2出土遺物の大半がSI48の遺物であった可能性が高い。平面形状は梢円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸257cm、短軸208cm、深さ60cmを測る。堆積土は9層に分層され、黄褐色系のシルトないし砂質シルトを主体とする。堆積土の中には遺物や炭化物粒が多量に含まれていることから、人為堆積土と考えられる。

遺物は土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土師器環3点、土師器ミニチュア1点、土師器鉢1点、土師器甕2点、須恵器蓋1点、須恵器壺1点、須恵器甕3点、鉄製品1点の計13点を掲載した(第93図-1～7、第94図-8～13)。1～3は土師器環である。いずれも体部が扁平な半球形を呈し、口縁部は1・2が直線的に外傾、3が内湾する。3は口縁端部が内側に屈曲して肥厚する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面ヘラナデである。4はミニチュア土器である。5は土師器鉢で、平底の底部から体部が緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部は短く外反して口縁端部の器壁が薄くなる。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面が上半ハケメ、下半へラケズリ、内面はヘラナデである。6・7は小型の土師器甕である。6は胴部が球形を呈し、口縁部が外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面へラケズリ、内面ヘラナデである。7は胴部が内湾気味に大きく開き、口縁部は外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面が上半ハケメ、下半へラケズリ、内面はヘラナデである。8は須恵器蓋で、扁平な天井部を持つ小型品である。天井部外面には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、暗灰色を呈し、胎土には海綿骨針を多量に含む。9は須恵器の短頭壺である。胴部が扁平な球形を呈し、口縁部は短く内傾する。外面の胴部下端から底部にはヘラケズリによる再調整が施されている。色調は、外面が赤褐色、内側がにぶい橙色を呈し、胎土には海綿骨針を多量に含む。10～12は須恵器甕である。10は口縁端部に緩い凹面を持ち、下端が垂下する。頸部にはロクロ調整前のタタキ痕がみられる。色調は、灰褐色～青灰色を呈する。11は肩部が強く張り、口縁部は直線的に外傾する。口縁端部に平坦面を持ち、下端が垂下する。外面の胴部下半に平行タタキ、内面に当て具痕による青海波文がみられる。色調は、灰褐色～にぶい赤褐色を呈する。12は口縁端部に緩い凹面を持ち、下端が垂下する。色調は、灰色を呈する。いずれも胎土に海綿骨針を多く含む。13は鎌の刃部である。

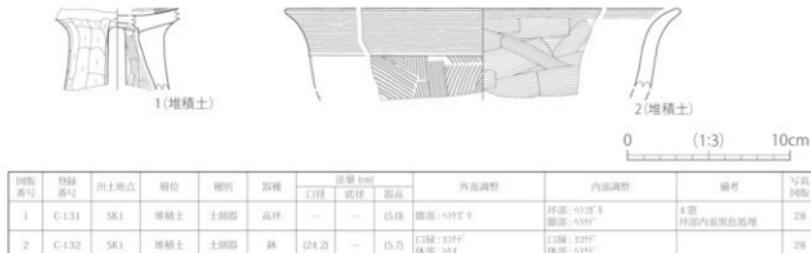
時期決定できる遺物はないが、SI48より新しいことから、4a期(住社式期新段階)以降と考えられる。



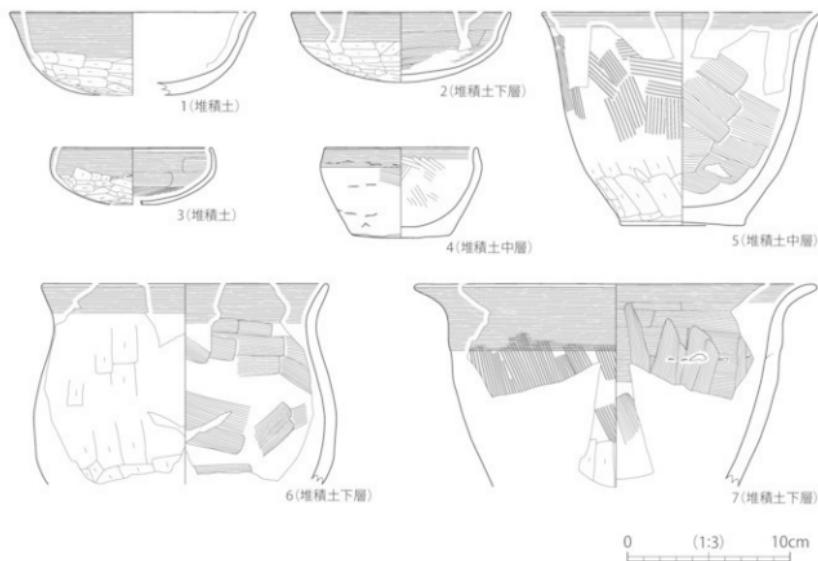
土坑調査表

調査名	Y (±15°)	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		層位	土色	土性	特徴	重複
			長軸	短軸					
SK1	29・30	(楕円形)	138 × 94	24	1	10YR 2/2 オリーブ灰色	砂質シルト	炭化物少量含む。下部に粘土土少量含む。	SM127～129より古く、SD24, Pt145より新しく。
					2	10Y5/2 オリーブ灰色	シルト	炭化物ブロック (5～10mm) と灰オリーブ色土の混じり。炭化物微量含む。	
SK2	32・38	(楕円形)	257 × 208	60	1	10YR 5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物多量。炭土ブロック (5～10mm) 少量含む。	SM48より古く、SD26より古い。
					2	10YR 5/2 从黄褐色	シルト	炭化物多量含む。	
					3	2.5Y 2/1 黒色	シルト	IV 粘土ブロック (5～10mm) 少量含む。	
					4	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 粘土多量。炭化物粒、炭土粒少量含む。	
					5	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物粒多量。V 粘土ブロック (5～10mm) 少量含む。	
					6	10YR 5/2 从黄褐色	シルト	炭化物粒多量。	
					7	10YR 6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物粒多量。V 粘土ブロック (5～10mm) 少量含む。	
					8	10YR 4/2 从黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック (5～10mm) ～炭化物少量含む。	
					9	10YR 6/6 明黄褐色	シルト	灰白色粘土粒、炭化物、炭化物粒少量含む。	
SK3	15	(楕円形)	(200) × 97	12	1	10YR 4/2 从黄褐色	シルト	IV 粘土ブロック (10～20mm) 多量含む。	SI46・Ptt19より古く。
SK4	14・15・19・20	(楕円形)	262 × (196)	34	1	10YR 3/3 斑駁色	シルト	IV 粘土と少量含む。	SI46, SD33より古く。
					2	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 粘土と少量含む。	
					3	10YR 3/3 期駁色	シルト	IV 粘土ブロック (50～100mm) 多量含む。	
					4	10YR 4/4 紅褐色	シルト	IV 粘土ブロック (10～20mm) 多量含む。	

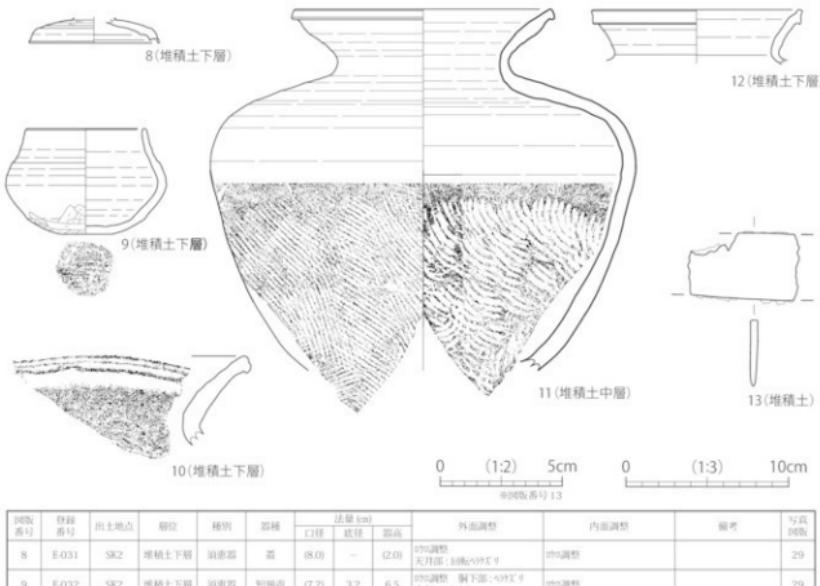
第91図 SK1～4 土坑



第92図 SK1 土坑出土遺物

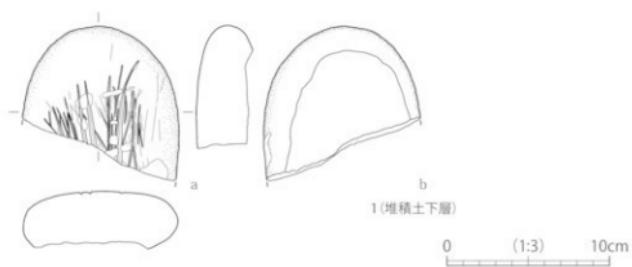


第93図 SK2 土坑出土遺物（1）



圖版 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			外側調整	内側調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
8	E-031	SK2	堆積土下層	須恵器	若	(8.0)	—	(2.0)	口縁:外側調整 天井部:内側調整	外側調整	—	29
9	E-032	SK2	堆積土下層	須恵器	短頭直	(7.2)	3.2	6.5	口縁:外側調整 腹下部:内側調整 底部:外側調整	外側調整	—	29
10	E-030	SK2	堆積土下層	須恵器	直	—	—	(4.8)	口縁:外側調整 腹部:平行内縁	外側調整	—	29
11	E-033	SK2	堆積土中層	須恵器	直	(15.8)	—	(22.2)	口縁:外側調整 腹部:平行内縁	口縁:外側調整 腹部:内側調整 底部:外側調整	—	29
12	E-029	SK2	堆積土下層	須恵器	直	(12.8)	—	(3.3)	口縁:外側調整	外側調整	—	29
<hr/>												
図版 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)			写真 回数
13	N-015	SK2	堆積土	全圓製品	罐	全長 (4.5)	幅 2.7	厚さ 0.3	重量 (7.4)	口径 月形	—	29

第94図 SK2土坑出土遺物(2)



図版 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	G/H	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
1	Kc-003	SK4	堆積土下層	礫石器	砾石	(9.3)	9.7	3.4	250.6	凝灰岩	漂移砾(表面),一部欠損	29

第95図 SK4土坑出土遺物



第96図 土坑・ビット配置図



## SK3 土坑（第91・96図）

調査区東部の15グリッドに位置する。SI46、Pit19より古い。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸200cm以上、短軸97cm、深さ12cmを測る。堆積土は灰黄褐色シルトの単層で、IV層土ブロックを多量に含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI46より古いことから、5a期（郡山I期官衙期）以前と考えられる。

## SK4 土坑（第91・95・96図）

調査区北東部の14・15・19・20グリッドに位置する。搅乱により東壁の上部が失われている。SI46、SD33より古い。平面形状は楕円形を呈する。検出した規模は、長軸262cm、短軸196cm、深さ34cmを測る。長軸を基準とする方向はN-20°-Eである。堆積土は4層に分層した。暗褐色ないし褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器・須恵器・礫石器が出土している。このうち、礫石器1点を掲載した（第95図-1）。凝灰岩製の筋砥石である。

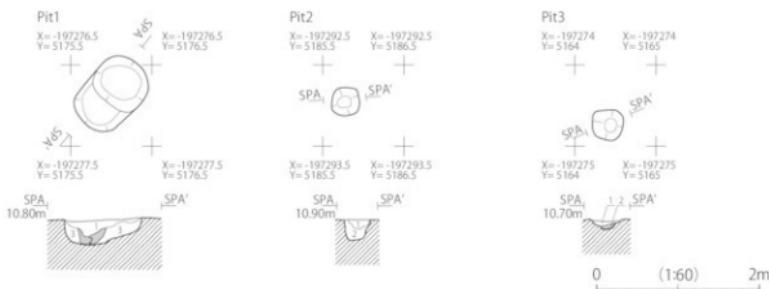
時期決定できる遺物はないが、SI46より古いことから、5a期（郡山I期官衙期）以前と考えられる。

## (5) ピット（第96～109図）

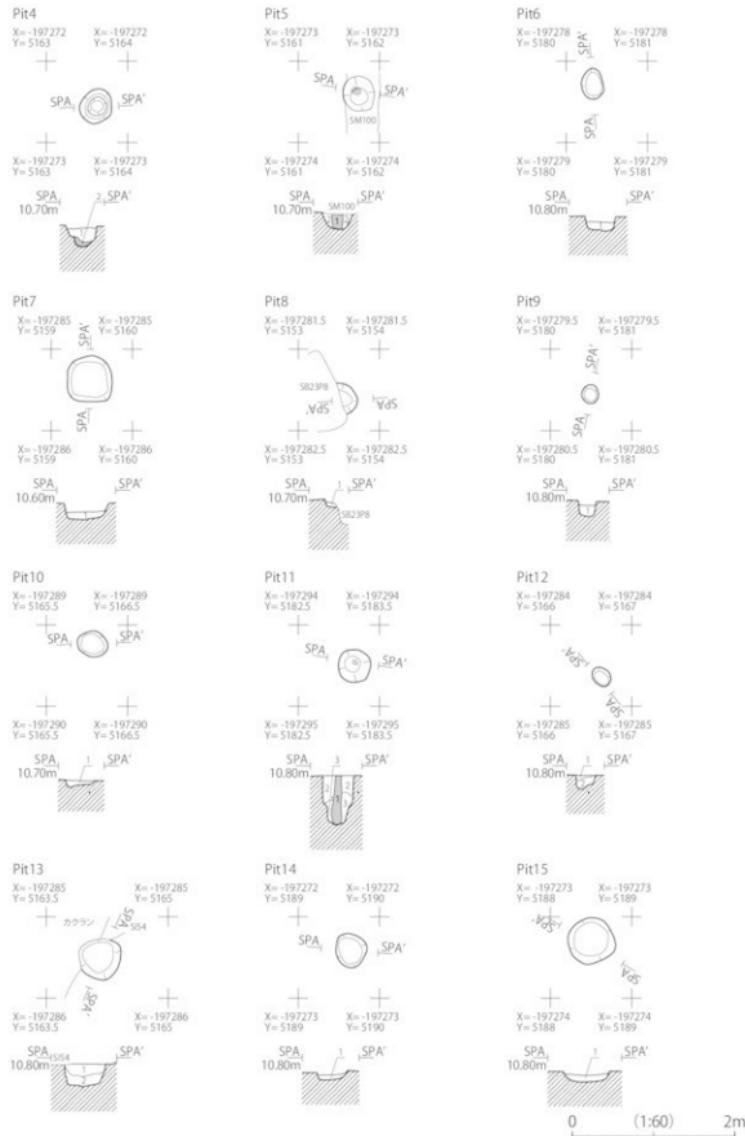
145基を検出した。ピットの分布状況は22・28グリッドの東側、23・29グリッドの西側と19・20・25・26グリッドに集中する。柱痕跡が検出されたピットは53基、柱の圧痕と考えられる底面の変色範囲が検出されたピットは6基ある。このほか底面がピット状に落ち込むものがみられる。調査区東部で検出したPit20・21・24は南北方向に並び、柱間は北から180cm、220cm、総長は400cmである。平面形状はPit20・24が隅丸長方形を呈する。掘立柱建物跡の可能性も考えられるが、東西方向に並ぶピットが検出されなかつたため明らかにできなかつた。また、調査区西部で検出したPit29の平面形状は長方形、Pit41・137は方形を呈し、その形状から掘立柱建物跡の柱穴の可能性もあるが、組み合わせることができなかつた。この他にも等間隔で配列されたピットが数基みられ、柵列等の可能性が考えられるが、明らかにできなかつた。

遺物は土師器・須恵器・石製品などが出土している。このうち、石製品1点を掲載した（第109図-1）。凝灰岩製の石製品であるが、用途は不明である。いずれも時期決定できる遺物はないが、重複関係や出土遺物から概ね4・5期（古墳時代後期～奈良時代）を主体とする。

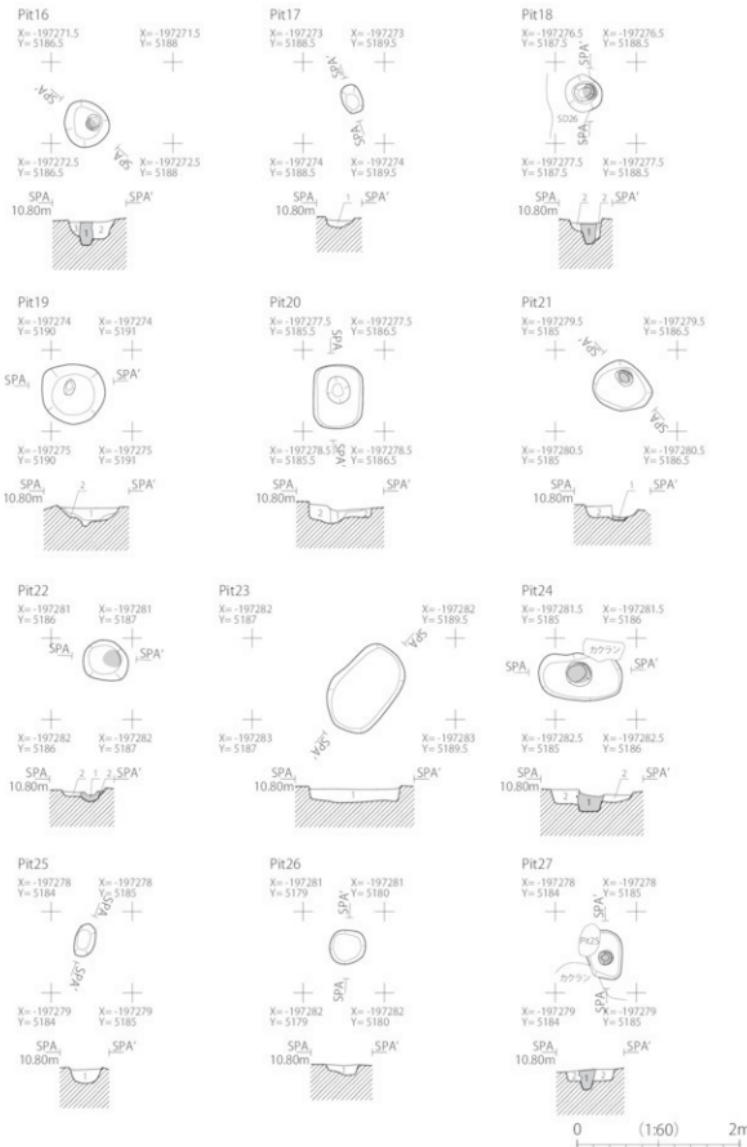
各ピットの詳細については観察表を参照していただきたい。



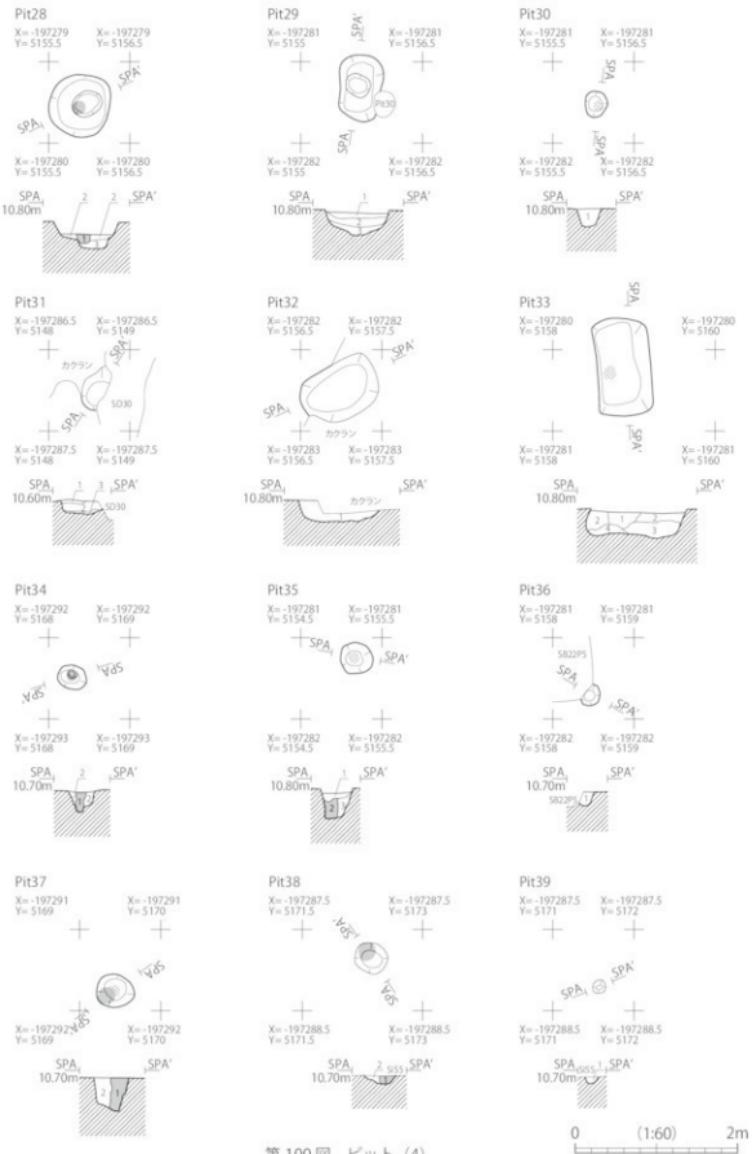
第97図 ピット(1)



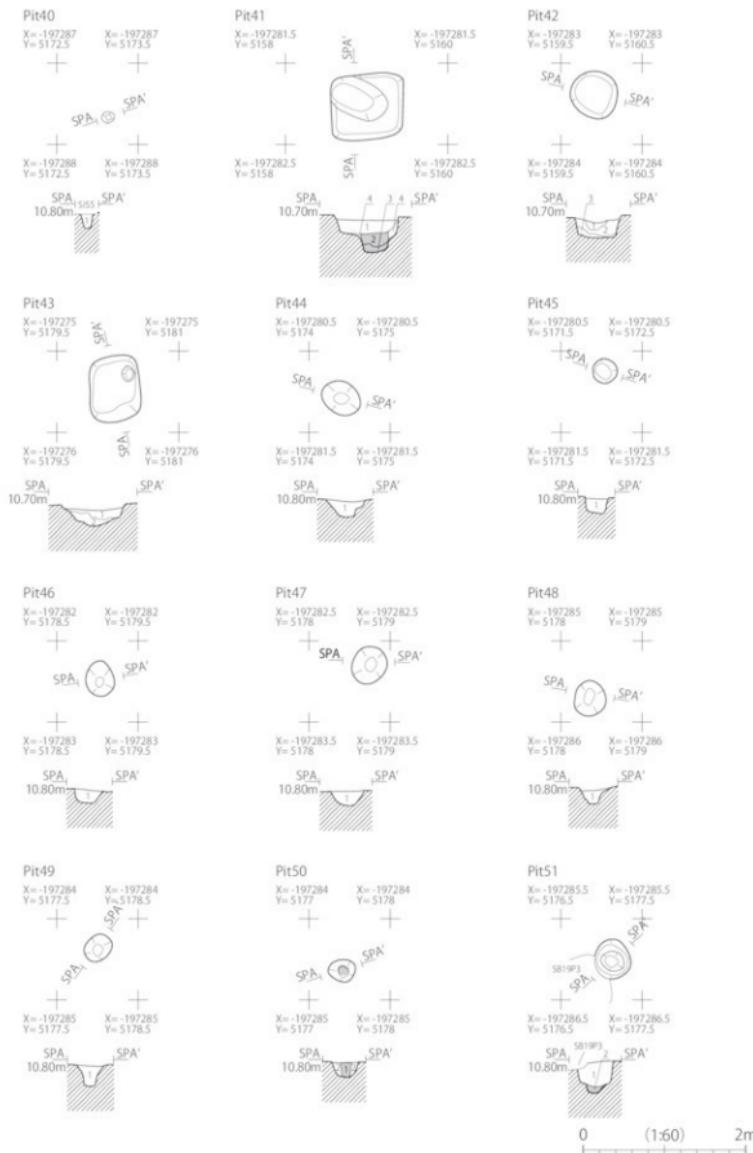
第98図 ピット(2)



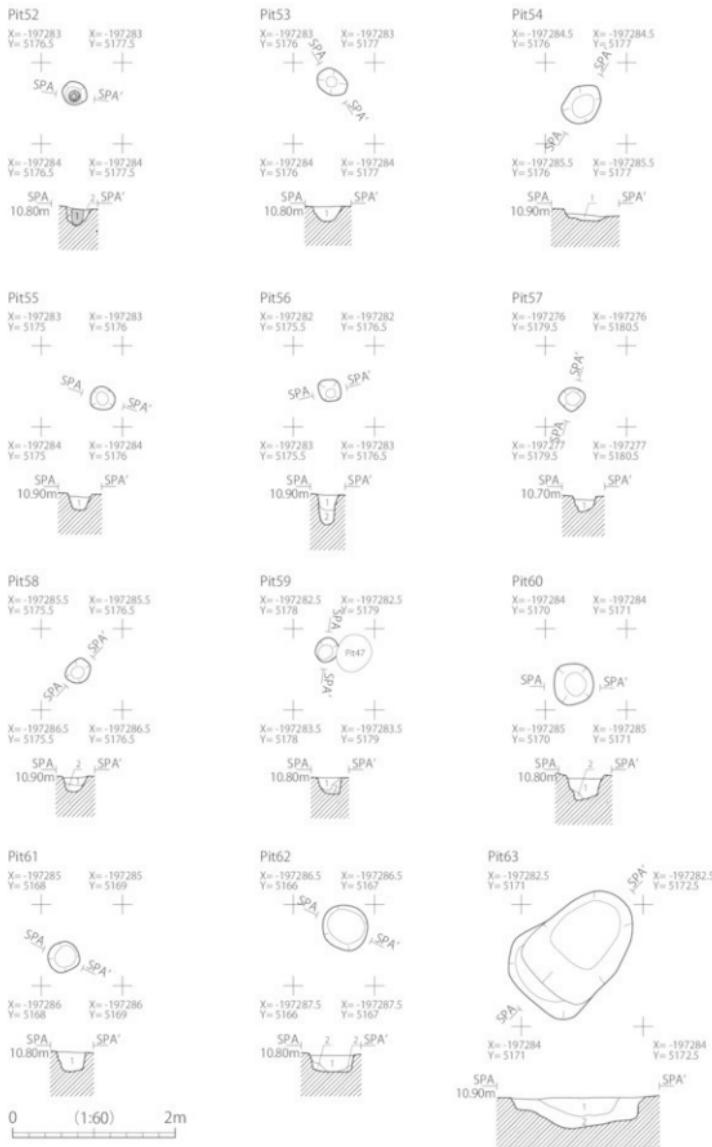
第99図 ピット(3)



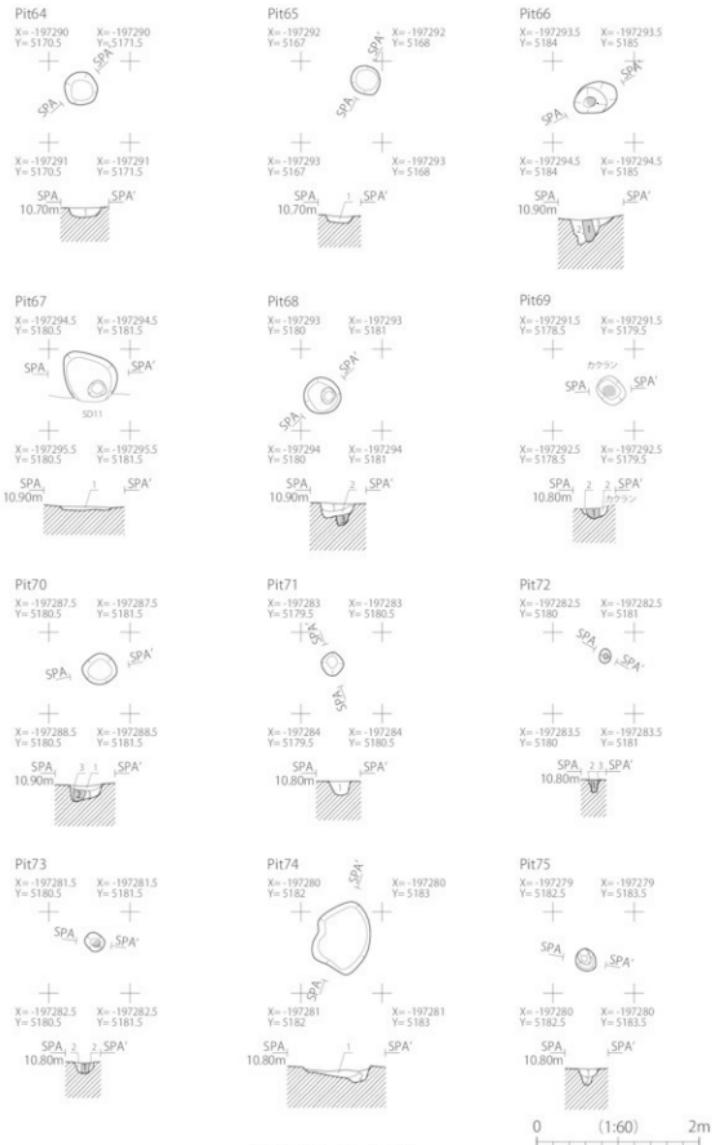
第100図 ピット(4)



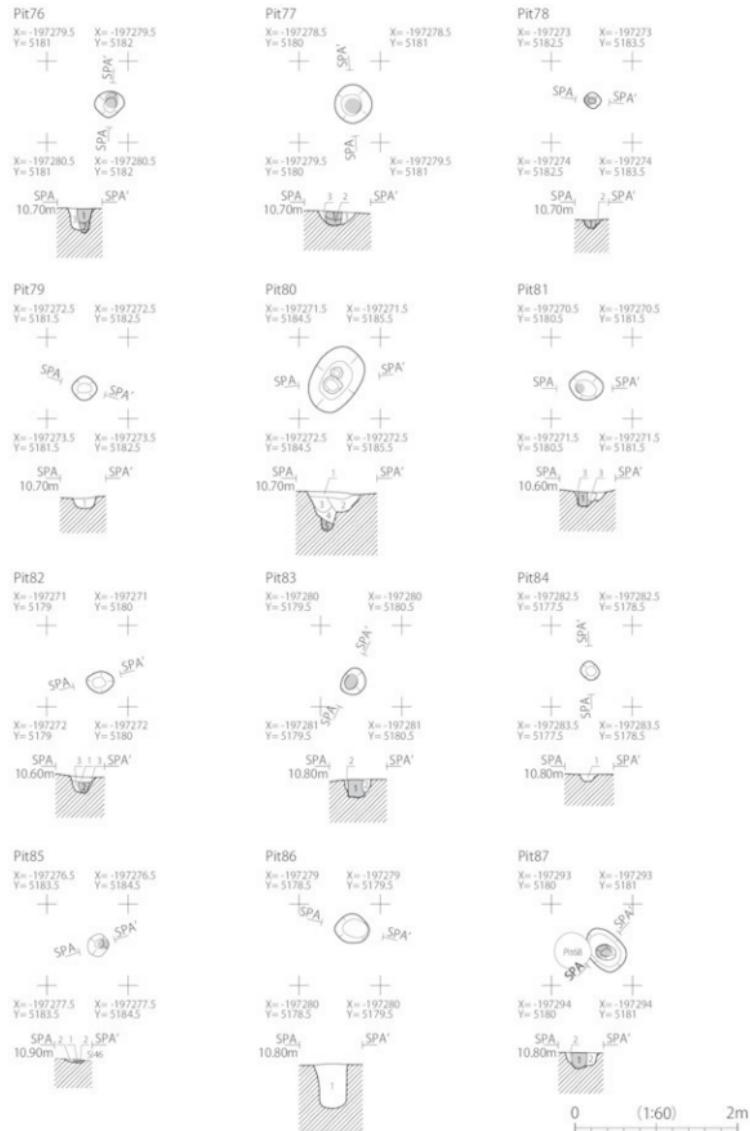
第101図 ピット(5)



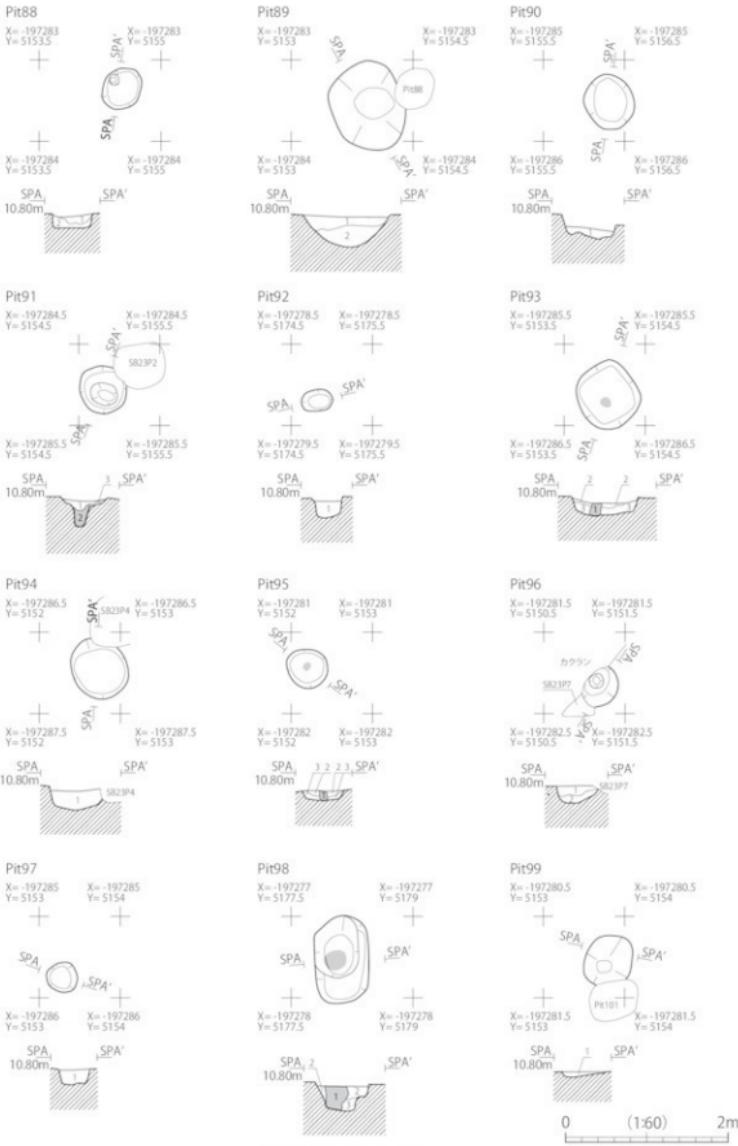
第102図 ピット(6)



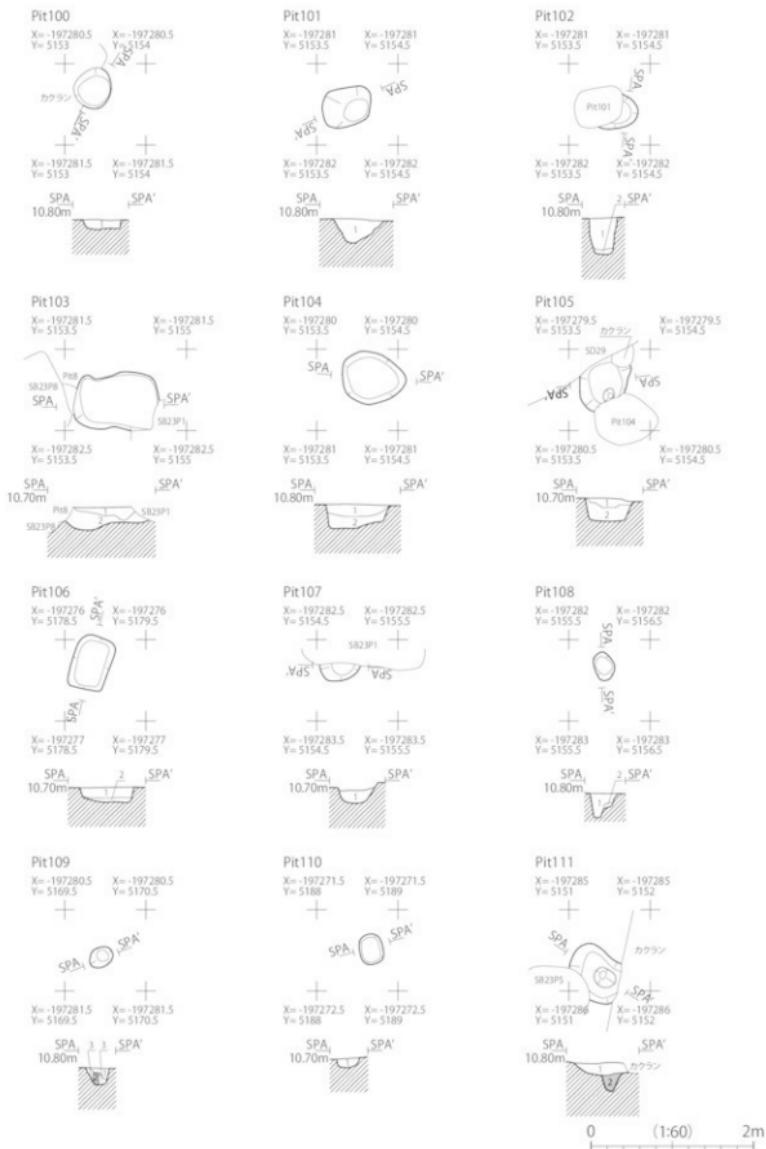
第103図 ピット(7)



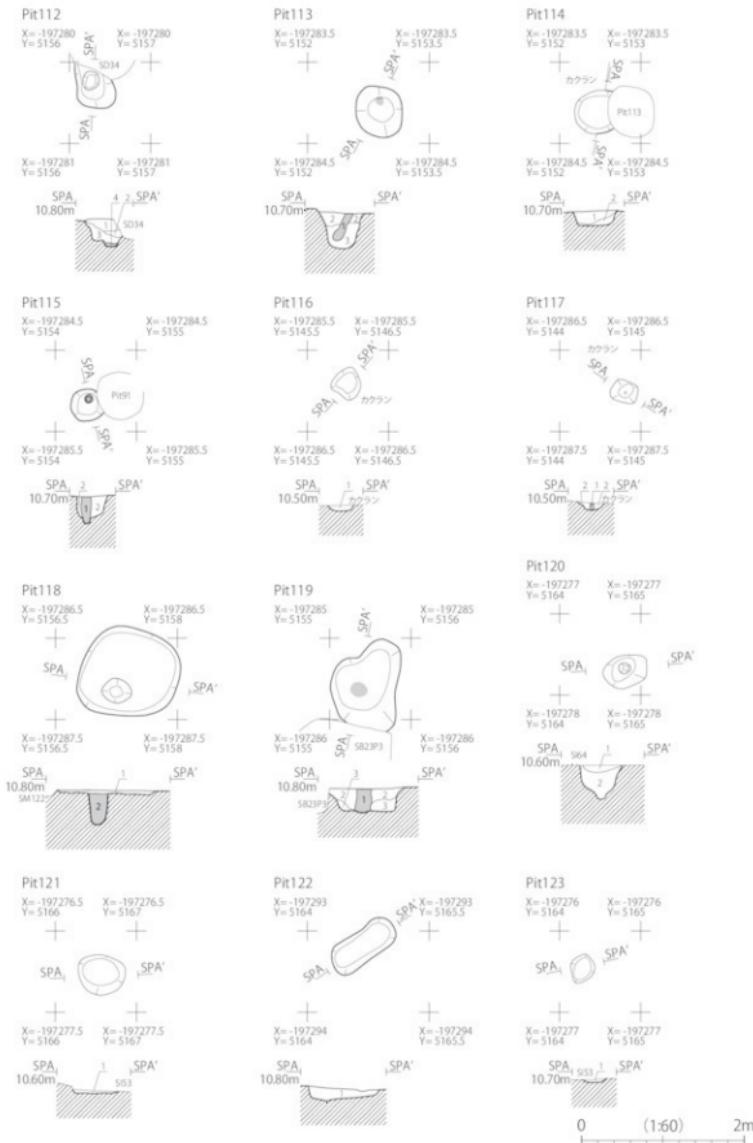
第104図 ピット(8)



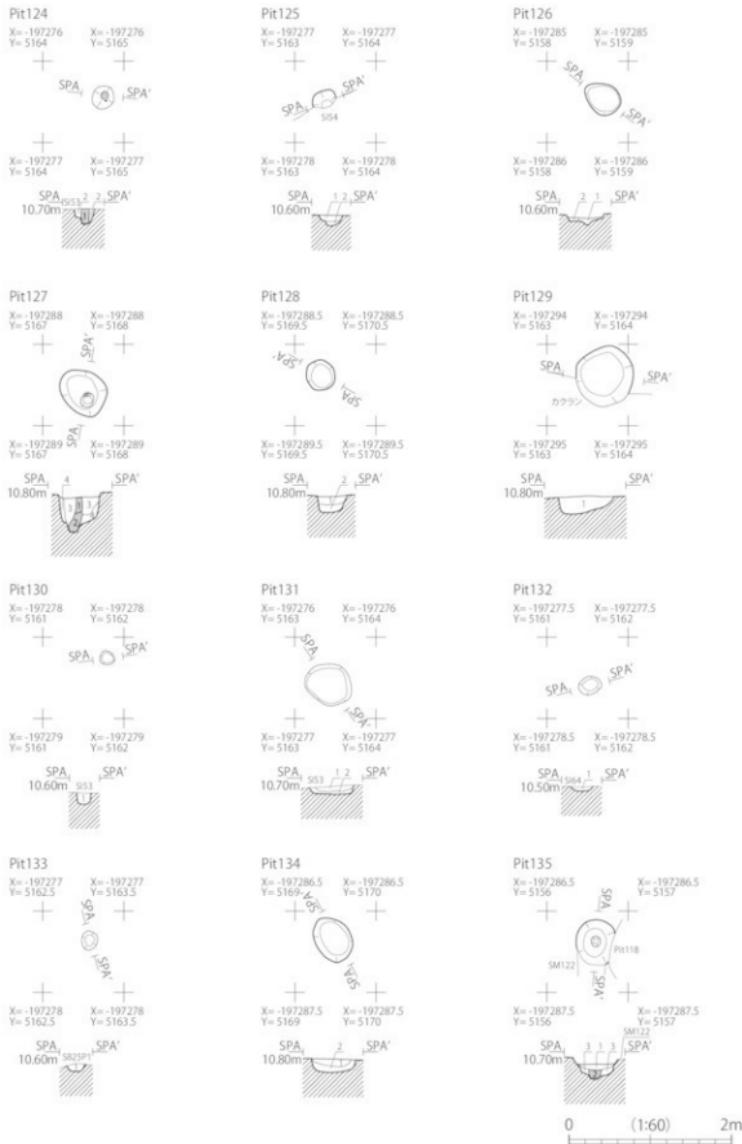
第105図 ピット(9)



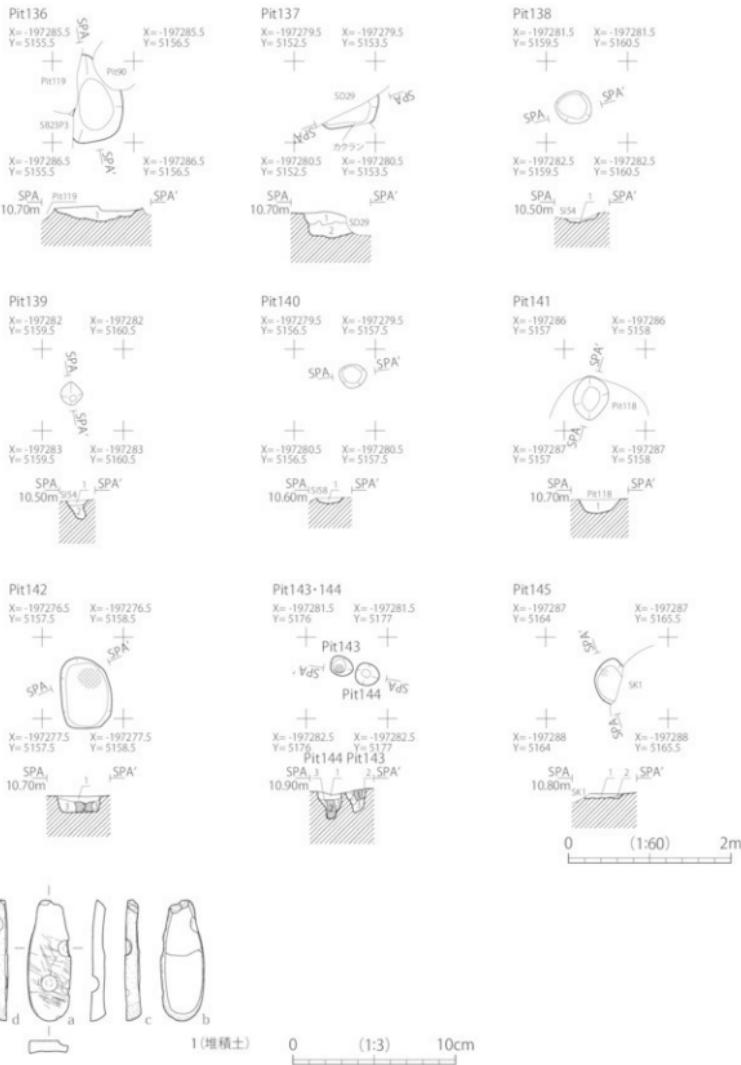
第106図 ピット(10)



第107図 ピット(11)



第108図 ピット(12)



第109図 ピット(13)・ピット出土遺物

ピット網査表(1)

査査名	Y'xZ'	平面形	面積(m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	重複
Pit1	19	隅丸長方形	97 × 60	29	1 IOYR4/2 黄褐色 2 IOYR4/4 褐色 3 IOYR4/2 黄褐色	シルト シルト シルト	IV層上ブロック(10mm程度)少量含む。 IV層上ブロック(10～30mm)多量、炭化物微量含む。 IV層上層少量含む。	
Pit2	38	方形	35 × 32	26	1 IOYR4/2 黄褐色 2 IOYR4/2 黄褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(10mm程度)少量含む。 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。	SH49+50より新しい。
Pit3	12	方形	40 × 36	13	1 2SY4/1 黄褐色 2 2SY4/1 黄褐色 3 IOYR4/1 褐灰色	シルト シルト シルト	IV層上ブロック(10mm程度)少量含む。 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。 IV層上ブロック(10～70mm)少量含む。	
Pit4	12	円形	40 × 40	26	1 IOYR4/1 褐灰色 2 IOYR3/1 黑褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(20～30mm)少量含む。 IV層上ブロック(20～30mm)少量含む。半柱痕跡	
Pit5	12	(楕円形)	(42) × (37)	(20)	1 IOYR4/1 褐灰色 2 IOYR3/1 黑褐色	シルト シルト	IV層上少量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(10～20mm)多量含む。	SM100より古い。
Pit6	19	楕円形	38 × 25	18	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	IV層上ブロック(5mm程度)多量。 灰白色粘土ブロック(10mm程度)微量含む。	
Pit7	29	隅丸方形	56 × 56	19	1 IOYR4/1 褐灰色	シルト	IV層上土。樹木根微量含む。	
Pit8	22	(円形)	(35) × (20)	9	1 IOYR5/1 褐灰色	シルト		SB23より古く。 Pit10より新しい。
Pit9	19-25	円形	23 × 18	16	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	IV層上ブロック多量。灰白色粘土ブロック(10mm程度)微量含む。	
Pit10	30	楕円形	36 × 30	9	1 2SY5/1 黄褐色	シルト	IV層上ブロック(10～20mm)多量含む。	SD28より新しい。
Pit11	37	円形	40 × 40	60	1 IOYR4/1 褐灰色 2 IOYR6/6 明黄褐色 3 IOYR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト	暗褐色土ブロック(30～50mm)少量含む。 IV層上ブロック(20～40mm)多量含む。 灰白色粘土ブロック(10mm程度)少量含む。	
Pit12	24	楕円形	26 × 20	17	1 2SGW6/1 オリーブ灰色 2 2SGC7/3 暗オリーブ灰色	シルト シルト	オリーブ灰土ブロック(10mm程度)微量含む。 IV層上ブロック(10mm程度)微量含む。	
Pit13	29	(円形)	(30) × 50	29	1 IOYR4/1 褐灰色 2 IOYR3/1 黑褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(10mm程度)・炭化物・埴土と少量含む。	SB45, SM124+125より古い。
Pit14	15	円形	40 × 40	10	1 IOYR3/1 明褐色	シルト	IV層上ブロック(5～30mm)少量。	
Pit15	15	円形	55 × 55	14	1 IOYR3/3 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～30mm)少量。炭化物・焼土微量含む。	
Pit16	15	円形	57 × 53	30	1 IOYR3/1 黑褐色 2 IOYR3/2 黑褐色 3 IOYR3/3 暗褐色	シルト シルト シルト	IV層上ブロック(5mm程度)少量。灰白色粘土ブロック(5～10mm)少量。炭化物微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(5～10mm)少量。炭化物微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(5～20mm)多量。炭化物微量含む。	
Pit17	15	楕円形	35 × 25	13	1 IOYR3/3 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)少量。炭化物微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(5～10mm)少量。炭化物粘土ブロック(5～10mm)・炭化物微量含む。半柱痕跡	SD26より古く。 SD46より新しい。
Pit18	20	(円形)	(45) × (45)	31	1 IOYR3/4 暗褐色 2 IOYR6/6 明黄褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。	
Pit19	15	円形	77 × 73	24	1 IOYR3/4 暗褐色 2 IOYR6/6 明黄褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)・樹木根微量含む。 IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)・樹木根微量含む。	SK3より新しい。
Pit20	20	隅丸長方形	78 × 61	27	1 IOYR4/4 暗褐色 2 IOYR6/6 明黄褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)・樹木根微量含む。 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。	SB46より新しい。
Pit21	20-26	楕円形	70 × 57	18	1 IOYR3/4 暗褐色 2 IOYR6/6 明黄褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。灰白色粘土ブロック(5mm程度)・樹木根微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。	SB46より新しい。
Pit22	26	円形	55 × 50	16	1 IOYR3/3 暗褐色 2 IOYR1/1 灰白色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)少量。炭化物微量含む。 IV層上ブロック(5～10mm)少量。半柱痕跡	SB46より新しい。
Pit23	26	楕円形	113 × 70	20	1 IOYR3/3 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～20mm)多量。焼土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	SB46より新しい。
Pit24	25-26	隅丸長方形	103 × 57	26	1 IOYR3/3 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～10mm)多量。焼土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	SB46+47+59より新しい。
Pit25	19	楕円形	40 × 24	20	1 IOYR3/4 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～20mm)多量。炭化物微量含む。	SB46, PB27より新しい。
Pit26	25	円形	44 × 41	12	1 IOYR3/3 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～20mm)多量。焼土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。半柱痕跡	
Pit27	19	隅丸長方形	60 × 40	25	1 IOYR3/2 黄褐色 2 IOYR4/4 に似る 黄褐色 3 IOYR3/4 暗褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト	炭化物土ブロック(5～20mm)少量。焼土と微量含む。 炭化物微量含む。半柱痕跡	PB25より古く。 SB46より新しい。
Pit28	17	円形	80 × 77	30	1 IOYR3/3 暗褐色 2 IOYR3/4 暗褐色 3 IOYR3/2 黄褐色	シルト シルト シルト	IV層上ブロック(10～20mm)多量含む。 IV層上ブロック(10～20mm)少量含む。 炭化物微量含む。	SD34より新しい。
Pit29	23	隅丸長方形	80 × 50	32	1 IOYR3/2 黄褐色 3 IOYR3/3 暗褐色	シルト シルト	IV層上ブロック(5～20mm)少量含む。 炭化物微量含む。	PB30より古い。
Pit30	23	円形	32 × 26	22	1 IOYR4/1 褐色 1 IOYR5/6 黄褐色 3 IOYR6/4 に似る 黄褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト	IV層上ブロック(5～10mm)多量。焼土ブロック(5～10mm)・炭化物微量含む。 IV層上土。樹木根微量含む。 炭化物微量含む。	PB29より新しい。
Pit31	28	—	(56) × (30)	17	2 IOYR3/4 暗褐色	シルト	IV層上ブロック(5～10mm)多量。焼土ブロック(5～10mm)・炭化物微量含む。	SB60より新しい。
Pit32	23	(隅丸長方形)	(100) × (67)	25	1 IOYR4/3 に似る 黄褐色 1 IOYR4/4 褐色 2 IOYR4/3 に似る 黄褐色 3 IOYR3/4 暗褐色	シルト シルト シルト シルト	IV層上ブロック(5～10mm)多量含む。 IV層上ブロック(5～20mm)多量含む。 IV層上ブロック(5～10mm)少量含む。 IV層上ブロック(10～30mm)少量含む。	SB58より新しい。
Pit33	17+23	長方形	120 × 65	35	1 IOYR4/3 に似る 黄褐色 2 IOYR4/3 に似る 黄褐色 3 IOYR3/4 暗褐色 4 IOYR4/3 に似る 黄褐色	シルト シルト シルト シルト	IV層上ブロック(20～40mm)多量含む。 IV層上ブロック(10～20mm)多量含む。 IV層上ブロック(5～10mm)微量含む。半柱痕跡 IV層上ブロック(5～20mm)微量含む。半柱痕跡	SB54+58より新しい。
Pit34	36	(楕円形)	(36) × (28)	28	1 IOYR3/3 暗褐色 2 IOYR4/3 に似る 黄褐色	シルト	IV層上ブロック(5～20mm)多量。灰白色粘土ブロック(5～10mm)微量含む。	SB67より新しい。

ピット 観察表(2)

遺構名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	遺構	
Pit35	Z2-23	円形	40 × 40	37	1 10YR3/4 帽褐色 2 10YR3/2 黒褐色 3 10YR4/6 褐色	シルト シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、埴土少量含む。 瓦刷土ブロック (10mm 程度) 少量含む。※柱痕跡	
Pit36	23	(円形)	26 × 20	16	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/3 に~黄褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 20mm) 从白色粘土ブロック (5 ~ 10mm) 間混含む。 瓦刷土ブロック (5mm 程度) 少量含む。※柱痕跡	SB22より古く、 SI54・58より新しい。
Pit37	36	円形	45 × 43	41	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/3 に~黄褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。 瓦刷土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	SI67より新しい。
Pit38	30	(円形)	(40) × (38)	(11)	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡 瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SI55より古い。
Pit39	30	(円形)	(17) × (16)	(8)	1 10YR3/3 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SI55より古い。
Pit40	30	(円形)	(16) × (14)	(18)	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/1 帽褐色	砂質シルト シルト	瓦刷土少量含む。 瓦刷土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、瓦白色粘土ブロック (5 ~ 10mm)、炭化物微細含む。	SI55より古い。
Pit41	23	方形	88 × 80	45	1 10YR3/2 黒褐色 3 10YR3/1 黒褐色 4 10YR4/1 帽褐色	シルト シルト シルト	瓦刷土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物微細含む。 ※柱痕跡	SI54・58より新しい。
Pit42	23	円形	57 × 56	27	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR4/1 帽褐色 3 10YR6/6 明褐色	シルト シルト シルト	瓦白色粘土ブロック (5mm 程度)、瓦刷土少量化、焼土無量含む。 瓦白色粘土ブロック (5 ~ 20mm) との互層。	SI54より新しい。
Pit43	19	隅丸方形	80 × 62	28	1 10YR3/1 黒褐色 2 10YR4/1 帽褐色	シルト シルト	瓦刷土少量含む。	SI51より新しい。
Pit44	24	楕円形	50 × 38	21	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SI51より新しい。
Pit45	24	円形	30 × 30	20	1 10YR3/3 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。	SI51・52より新しい。
Pit46	25	楕円形	44 × 35	20	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土少量含む。	SI51より新しい。
Pit47	25	円形	46 × 40	19	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (20mm 程度) 多量含む。	SI59より新しい。
Pit48	31	円形	44 × 38	22	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (20 ~ 50mm) 少量含む。	
Pit49	25	円形	36 × 29	26	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土少量含む。	
Pit50	25	円形	32 × 27	20	1 10YR5/1 帽褐色 2 10YR6/6 明褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。※柱痕跡 暗灰色土ブロック (20 ~ 50mm) 少量含む。	SI51より新しい。
Pit51	31	円形	48 × (44)	40	1 10YR4/1 帽褐色 2 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト	粘土質シルト 瓦刷土少量含む。※柱痕跡	SI19より古い。
Pit52	25	円形	28 × 28	22	1 10YR5/1 帽褐色 2 10YR5/1 帽褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	
Pit53	25	楕円形	38 × 28	19	1 10YR4/1 帽褐色	砂質シルト	瓦刷土ブロック (20mm 程度) 多量含む。	
Pit54	25-31	楕円形	52 × 40	11	1 10YR5/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (20 ~ 50mm) 少量含む。	
Pit55	25	円形	30 × 27	20	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土少量含む。	
Pit56	25	方形	27 × 26	36	1 10YR5/1 帽褐色 2 10YR4/1 帽褐色	シルト 砂質シルト	瓦刷土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 瓦刷土少量含む。	
Pit57	19	方形	30 × 26	18	1 10YR3/3 帽褐色	シルト	瓦刷土少量化、炭化物和、埴土少量化含む。	SI51より新しい。
Pit58	31	円形	32 × 27	20	1 10YR4/1 帽褐色 2 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。 瓦刷土少量化含む。	
Pit59	25	円形	31 × 25	20	1 10YR4/1 帽褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	SI47より古い。
Pit60	24	円形	50 × 48	32	1 10YR5/1 帽褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (20mm 程度) 多量含む。	SM138・139より古い。
Pit61	30	円形	37 × 36	25	1 7.5Y4/1 灰色	シルト	オリエーブ灰土ブロック (20mm 程度) 少量含む。 ※グラウト	SM134より古い。
Pit62	30	円形	57 × 54	23	1 10YR5/1 帽褐色 2 10YR4/1 帽褐色	シルト シルト	瓦白色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。 瓦白色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	SM130・131より古い。
Pit63	24	楕円形	165 × 106	38	1 10YR5/1 帽褐色 2 7.5Y3/2 黑褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 70mm) 多量含む。 瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。	SI19・SM139・140より古い。
Pit64	36	円形	42 × 40	12	1 10YR5/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
Pit65	36	円形	38 × 34	8	1 10YR4/1 帽褐色	シルト	瓦刷土ブロック (20 ~ 30mm) 多量含む。	
Pit66	37	楕円形	54 × 38	34	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/3 帽褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (20 ~ 30mm) 少量含む。 瓦刷土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。	
Pit67	37-45	(楕円形)	(7.3) × 60	5	1 10YR4/2 底面褐色 1 10YR4/1 帽褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。 ※柱痕跡	SD14より古い。
Pit68	37	円形	45 × 44	26	2 10YR4/2 底面褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物和微細含む。 瓦刷土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物和微細含む。 ※柱痕跡	PI87より新しい。
Pit69	37	(方形)	(36) × (30)	(12)	1 10YR4/3 に~黄褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土少量化含む。※柱痕跡	
Pit70	31	隅丸形	38 × 37	20	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土少量化含む。※柱痕跡	
Pit71	25	隅丸形	26 × 26	17	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土少量化、炭化物和、埴土少量化含む。	
Pit72	25	円形	18 × 14	16	2 2.5Y7/3 黑褐色 3 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土少量化含む。 ※柱痕跡	
Pit73	25	方形	24 × 20	13	1 10YR4/3 に~黄褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物和微細含む。	
Pit74	19-25	不整形	83 × 66	14	1 10YR6/6 明褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土少量化含む。 ※柱痕跡	
Pit75	19	円形	27 × 24	20	1 10YR3/3 帽褐色 2 10YR4/2 底面褐色	シルト シルト	瓦刷土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。 ※柱痕跡	SI46より新しい。

ピット網目表(3)

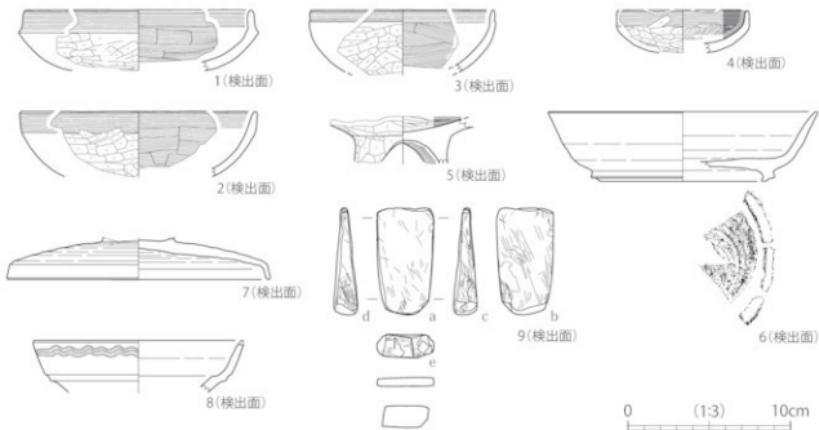
遺構名 Y'9n)	平面形	幅横 (m) 長軸×短軸	層位 深さ	土色	性状	備考	重複
Pt76 19・25	円形	33 × 31	30	1 10YR3/3 黄褐色 3 10YR4/3 黒褐色	シルト 粘土質シルト	IV層土と少量含む。※柱面跡 IV層土と微量含む。※柱面跡 IV層土と微量含む。	
Pt77 19	円形	45 × 44	17	1 10YR4/1 黒灰色 2 10YR4/2 枯黄褐色 3 10YR4/3 にぶい 黃褐色 1 10YR4/3 にぶい 黑褐色	シルト シルト シルト シルト	IV層土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。※柱面跡 IV層土ブロック (10 ~ 30mm) 多量含む。 IV層土粒少額、炭化物微量含む。※柱面跡 IV層土粒少額。	
Pt78 14	方形	18 × 17	10	2 10YR6/4 にぶい 黃褐色 1 10YR6/4 にぶい 黑褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 多量含む。 IV層土粒少額。	
Pt79 14	方形	27 × 27	14	1 10YR4/2 枯黄褐色 2 10YR4/3 黄褐色 1 10YR4/3 にぶい 黄褐色 2 10YR4/1 黑灰色 2 10YR4/3 黄褐色 1 10YR6/4 にぶい 黄褐色 3 10YR6/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 多量含む。 IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 炭化物微量含む。※柱面跡 炭化物エラフロック (10 ~ 20mm) 少量含む。 炭化物エラフロック (10 ~ 20mm) 少量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。	
Pt80 14・15	楕円形	82 × 58	48	4 10YR3/3 黄褐色 1 10YR3/3 黄褐色 1 10YR4/3 にぶい 黄褐色 2 10YR4/3 黄褐色 3 10YR4/3 黑褐色 1 10YR4/3 にぶい 黄褐色 2 10YR4/3 黄褐色 3 10YR4/3 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 炭化物微量含む。※柱面跡 IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 炭化物微量含む。※柱面跡 IV層土粒少額、炭化物微量含む。※柱面跡 炭化物エラフロック (10 ~ 20mm) 少量含む。 炭化物エラフロック (10 ~ 20mm) 少量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。 炭化物エラフロック (10mm 程度) 多量含む。	
Pt81 14	円形	37 × 33	20	1 10YR4/3 にぶい 黄褐色 2 10YR4/3 黄褐色 3 10YR4/3 黑褐色	シルト シルト シルト	炭化物土質を微量含む。 炭化物土質を微量含む。 炭化物土質を微量含む。	
Pt82 14	円形	33 × 26	20	2 10YR4/4 にぶい 黄褐色 3 10YR4/4 にぶい 黄褐色	シルト シルト	炭化物土質を微量含む。 炭化物土質を微量含む。	
Pt83 25	円形	33 × 28	23	1 10YR4/3 にぶい 黄褐色 2 10YR3/3 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒少額、少量含む。 IV層土粒少額含む。	
Pt84 25	方形	23 × 19	9	1 10YR3/3 黄褐色 1 10YR7/2 にぶい 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒少額、少量含む。 IV層土粒少額含む。※柱面跡	
Pt85 19	(円形)	(27) × (24)	(6)	1 10YR7/2 にぶい 黄褐色 2 10YR4/2 黑褐色	シルト 粘土質シルト	IV層土粒多量含む。 IV層土粒多量含む。※柱面跡	S84より古い。
Pt86 19	円形	42 × 37	52	1 10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。※柱面跡	S85より新しい。
Pt87 37	楕円形	56 × 41	20	2 10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。※柱面跡	P86より古い。
Pt88 22	円形	50 × 45	18	1 10YR3/3 黄褐色 1 10YR7/2 にぶい 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒多量含む。※柱面跡	P88より新しい。
Pt89 22	楕円形	107 × 84	40	1 10YR4/2 枯黄褐色 2 10YR3/3 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒多量含む。※柱面跡	P88より古い。
Pt90 29	円形	67 × 58	26	1 10YR3/3 黄褐色 1 10YR3/4 黄褐色 3 10YR4/3 にぶい 黄褐色	砂質シルト 砂質シルト シルト	IV層土粒少額、炭化物微量含む。 IV層土粒少額、炭化物微量含む。 灰白色粘土ブロック (5mm 程度) 濃量含む。	P813より新しい。
Pt91 22・23・ 28・29	円形	58 × 56	36	2 10YR4/2 枯黄褐色 3 10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱面跡 IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱面跡	S823より古い。S815より新しい。
Pt92 18・19	楕円形	38 × 26	25	1 10YK2/3 黑褐色 1 10YR3/3 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒多量含む。※柱面跡	S81より新しい。
Pt93 28	方形	78 × 73	23	2 10YR3/2 黄褐色 3 10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト シルト	IV層土粒少額、炭化物微量含む。 IV層土粒少額、炭化物微量含む。	SM17より古い。
Pt94 28	円形	77 × 67	30	1 10YR3/3 黄褐色 1 10YR2/2 枯黄褐色 2 10YR3/1 黑褐色	シルト シルト シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。 IV層土ブロック (40mm 程度) 多量含む。※柱面跡 1 10YR3/1 黑褐色	SM23より古い。P823より古い。
Pt95 22	円形	51 × 47	12	3 10YK3/1 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物・硬土質微量含む。	
Pt96 22	(楕円形)	(50) × (38)	21	1 10YR5/2 枯黄褐色 2 10YR5/6 黄褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物 (10 ~ 20mm) 濃量含む。	S823より古い。
Pt97 28	円形	38 × 36	18	1 10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (20 ~ 70mm) 多量、炭化物 (10 ~ 50mm) 濃量含む。	
Pt98 19	(楕丸)方	107 × 66	21	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR4/4 黄褐色 3 10YK3/1 黑褐色	シルト シルト シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。 IV層土ブロック (10 ~ 30mm) 多量、炭化物微量含む。 IV層土ブロック (10 ~ 40mm) 少量含む。	S81より新しい。
Pt99 22	(楕丸)方	62 × 57	6	1 10YK3/1 黑褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物・硬土質微量含む。	PW101より古い。
Pt100 22	(円形)	50 × (45)	12	1 10YK3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、硬土質微量含む。	P969・P102より新しい。
Pt101 22	(楕丸)方	60 × 47	30	1 10YR4/2 枯黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物・硬土質微量含む。	P969・P102より新しい。
Pt102 22	(楕円形)	(40) × (20)	45	1 10YR5/3 黑褐色 2 10YK3/1 黑褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (30mm 程度) 多量含む。 IV層土ブロック (30mm 程度) 多量含む。※柱面跡	PW101より古い。
Pt103 22	(楕丸)方	(105) × 69	28	1 10YK3/3 黄褐色 2 10YR3/4 黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物 (10 ~ 20mm) 濃量含む。 IV層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	P823・P808より古い。
Pt104 22	楕円形	78 × 63	28	1 10YR3/3 黄褐色 2 10YK3/1 黑褐色	砂質シルト シルト	IV層土粒多量含む。 IV層土粒多量含む。	P810より新しい。
Pt105 16・22	(楕円形)	(60) × (50)	27	2 10YR4/2 枯黄褐色	シルト	IV層土粒の微量含む。	S829・P810より古い。
Pt106 19	長方形	66 × 47	18	1 10YR4/4 黄褐色 2 10YR4/4 にぶい 黄褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 にぶい 黄褐色土粒微量含む。	S81より新しい。
Pt107 22・23	(円形)	50 × (20)	24	1 10YK3/1 黑褐色 2 2.5Y5/1 黄褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (20 ~ 70mm) 多量含む。 灰白色粘土ブロック (10 ~ 50mm) 多量含む。※柱面跡	S823より古い。
Pt108 23	楕円形	35 × 25	28	1 2.5Y5/1 黄褐色 2 2.5Y5/1 黄褐色	シルト シルト	IV層土ブロック (20mm 程度) 少量含む。 灰白色粘土ブロック (10 ~ 50mm) 多量含む。※柱面跡	
Pt109 24	楕円形	39 × 24	20	2 2.5Y5/1 黄褐色 3 2.5Y5/2 枯黄褐色	シルト シルト	IV層土粒微量含む。※柱面跡 IV層土粒少額含む。	S812より新しい。
Pt110 15	長方形	38 × 28	11	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層土粒少額、炭化物微量含む。	

ピット網査表(4)

遺構名	テレ番	平面形	面積 (m) 長軸×短軸 (及さ)	層位	土色	土性	備考		重複
							シルト	粘土	
Pit111	28	(隅丸長方形)	(65) × 56	35	1. 2.5Y5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (20 ~ 40mm) 少量含む。		SB23より古い。
					2. 2.5Y4/2 底灰黄色	シルト	灰褐色土粘少量含む。※柱痕跡		
Pit112	23	(隅丸長方形)	(47) × 45	34	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		SD34より古い。
					2. 10Y3/3 周灰黄色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		
Pit113	22	円形	62 × 56	50	1. 10Y3/1 周灰黄色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		Pit114より新しい。
					2. 10Y3/2 周灰黄色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		
Pit114	22	(円形)	50 × 40	18	1. 10Y3/1 周灰黄色	シルト	灰褐色土粘多量含む。		Pit113より古い。
					2. 2.5Y3/3 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (20 ~ 30mm) 少量含む。		
Pit115	22-28	(円形)	(40) × 40	33	1. 10Y6/2-1 黑色	シルト	※柱痕跡		Pit91より古い。
Pit116	28	(不整形)	(36) × (32)	71	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 微量含む。		
Pit117	27	(方形)	(33) × (26)	69	1. 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰褐色土粘多量含む。		Pit113・14より新しい。
					2. 2.5Y8/4 底灰黄色	シルト	灰褐色土粘ブロック (30mm 程度) 多量含む。		
Pit118	29	隅丸形	120 × 110	42	1. 2.5Y7/5 甲周灰黄色	シルト	灰褐色土粘ブロック (30mm 程度) 多量含む。		Pit135・141より新しい。
Pit119	29	(不整形)	(108) × 80	28	1. 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	※柱痕跡		SB23より古く、Pit136より新しい。
					2. 2.5Y5/3 底灰黄色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		
Pit120	17-18	(相印形)	(54) × (37)	42	1. 2.5Y5/1 黄灰色	シルト	灰褐色土粘ブロック (10 ~ 40mm) 多量含む。炭化物粘微量含む。		SI33・64より古い。
					2. 2.5Y6/6 底灰黄色	シルト	灰褐色土粘ブロック (10 ~ 60mm) 多量含む。※柱痕跡		
Pit121	18	(相印形)	(58) × (46)	68	1. 10Y5/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
Pit122	33-36	隅丸形	88 × 36	18	1. 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰褐色土粘ブロック (10 ~ 80mm) 多量含む。		
Pit123	17	(方形)	(36) × (30)	13	1. 10Y5/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
Pit124	17	(円形)	(28) × (26)	19	1. 10Y3/2 黑色	シルト	灰褐色土粘微量含む。※柱痕跡		SI33より古い。
Pit125	17	(円形)	30 × 21	13	1. 2.5Y5/1 黄灰色	シルト	灰褐色土粘微量含む。		SI33・64・SB25より古く、SI34より新しい。
Pit126	29	相印形	46 × 37	12	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
					2. 2.5Y7/3 底灰黄色	シルト	灰褐色土粘ブロック (10 ~ 100mm) 少量含む。		
Pit127	30	相印形	60 × 50	46	1. 2.5Y3/3 底灰褐色	シルト	※柱痕跡		SM133・134より古い。
Pit128	30	(円形)	37 × 35	20	1. 10Y3/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
					2. 10Y2/1 黑色	シルト	灰褐色土粘ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。		
Pit129	35	(円形)	74 × (71)	21	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33・64より古い。
Pit130	17	(円形)	(119) × (116)	14	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
Pit131	17	(相印形)	(59) × (49)	11	1. 10Y5/2 底灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI33より古い。
Pit132	17	(相印形)	(226) × (21)	41	1. 10Y5/2 底灰褐色	シルト	※柱痕跡		SI33・64より古い。
Pit133	17	(円形)	(24) × (20)	71	1. 10Y5/4 に～ 黄褐色	シルト	※柱痕跡		SI33・525より古い。
Pit134	30	相印形	56 × 43	16	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SI37より古い。
Pit135	29	(円形)	55 × (45)	29	1. 10Y5/6 黄褐色	シルト	※柱痕跡		SM122・Pit118より古い。
					2. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		
Pit136	29	(相印形)	107 × (69)	17	1. 10Y4/1 周灰褐色	シルト	※柱痕跡		SB23・Pit90・119より古い。
Pit137	16-22	(方形)	(65) × (32)	31	1. 10Y4/1 周灰黄色	シルト	※柱痕跡		SD29より古い。
Pit138	23	(円形)	(42) × (40)	69	1. 3Y4/1 黑色	シルト	※柱痕跡		SI34より古い。
Pit139	23	(方形)	(24) × (24)	24	1. 3Y5/1 黑色	シルト	※柱痕跡		SI34より古い。
Pit140	17	(円形)	(33) × (28)	71	1. 2.5Y6/4 に～ 黄色	シルト	※柱痕跡		SI58より古い。
Pit141	29	(相印形)	(53) × (44)	16	1. 2.5Y6/6 底灰褐色	シルト	※柱痕跡		Pit118より古い。
Pit142	17	隅丸長方形	88 × 61	18	1. 10Y4/2 底灰褐色	シルト	※柱痕跡		SD29より新しい。
					2. 10Y5/3 に～ 黄褐色	シルト	※柱痕跡		
Pit143	25	円形	28 × 23	27	1. 10Y3/2 黑色	シルト	※柱痕跡		SI51より新しい。
					2. 10Y7/1 底灰黄色	シルト	※柱痕跡		
Pit144	25	円形	29 × 27	31	1. 10Y4/2 底灰褐色	シルト	※柱痕跡		SI51より新しい。
					2. 10Y4/3 に～ 黄褐色	シルト	※柱痕跡		
Pit145	29	(相印形)	55 × (26)	7	1. 10Y4/3 に～ 黄褐色	シルト	※柱痕跡		SI127・SI1より古い。
Pit146	29	(相印形)	52 × (26)	7	2. 10Y3/3 周灰褐色	シルト	※柱痕跡		SI51より古い。

## (6) 遺構外出土遺物 (第110図)

ここでは遺構検出時に出土した遺物を取り上げる。土師器環4点、土師器高环1点、須恵器高台付环1点、須恵器蓋1点、須恵器底1点、砥石1点を掲載した(第110図-1~9)。1~4は土師器環である。1・2は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)、3は北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を持つもので、1は内外面が黒色漆仕上げされている。4は口径8cm程度の小型の环である。5は土師器高环で、透かしを3窓持つものと推定される。6は須恵器高台付环で、高台は底部と体部の境界よりも内側に付く。色調は、灰白色~暗灰黄色を呈し、胎土には8mm程度の砂礫や黑色粒子を含む。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。7は須恵器蓋で、リング状のつまみが付き、口縁部が下方に屈曲する。色調は、外面が灰色、内面が黄褐色を呈し、胎土には海綿骨針を多量に含む。天井部外面には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。8は須恵器底である。口縁部は内湾して開き、下端に幅広の沈線が巡る。外面に3条の櫛描き波状文が施される。色調は、灰色を呈し、胎土には海綿骨針を僅かに含む。9は凝灰岩製の砥石である。

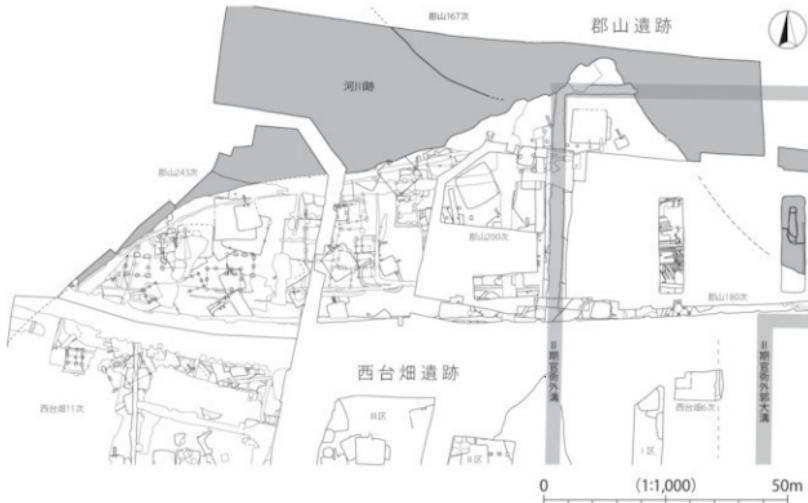


回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	厚さ				
1	C-166	28・34 3' 8"×3'	検出面	土師器	环	(13.8)	—	—	(3.7) 口縁:32mm 体部:59mm	(3.7) 口縁:32mm 体部:59mm	関東系 内外面漆仕上げ	29
2	C-162	18 3' 9"×3'	検出面	土師器	环	(14.4)	—	—	(4.0) 口縁:33mm 体部:59mm	(3.7) 口縁:33mm 体部:59mm	関東系	29
3	C-164	19 3' 9"×3'	検出面	土師器	环	(11.2)	—	—	(4.0) 口縁:32mm 体部:59mm	(3.7) 口縁:32mm 体部:59mm	関東系	29
4	C-163	—	検出面	土師器	环	(8.0)	—	—	(2.6) 口縁:32mm 体部:59mm	(3.7) 口縁:32mm 体部:59mm	内面黒色處理 内面やや摩滅	29
5	C-165	26 3' 9"×3'	検出面	土師器	高环	—	—	—	(3.7) 环-脚部:65mm 脚部:54mm	环部:65mm 脚部:54mm	2重? 环部内面黒色處理	29
6	E-048	44 3' 9"×3'	検出面	須恵器	高台付环	(16.4)	(10.0)	4.3	口縁調整 底部:回転ヘラ切り	口縁調整	29	
7	E-047	44 3' 9"×3'	検出面	須恵器	蓋	(16.0)	—	—	口縁調整 天井部:回転ヘラ切り	口縁調整	29	
8	E-045	24 3' 9"×3'	検出面	須恵器	蓋	(12.8)	—	—	(3.2) 口縁:櫛描き波状文	口縁:櫛描き波状文	29	
回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
9	Kd-005	38 3' 9"×3'	検出面	石製品	砥石	6.6	3.5	1.4	34.3	凝灰岩	砥面5面	29

第110図 遺構外出土遺物

## (7) 河川跡 (第111・112図)

周辺で行われている郡山遺跡第167次調査や西台畠遺跡第7次調査等の調査成果から、今回の調査区では北部から西部にかけて河川跡が検出されることが想定されていた。擾乱により古代の遺構検出面では河川跡の平面形を確認することが出来ない地点があることから、下層調査と並行して河川跡の確認及び堆積状況を確認した。トレーニング壁面で確認した河川跡の南岸は急峻に落ち込む崖状を呈する。堆積土上層には十和田a灰白色火山灰（推定915年）が堆積し、古代以前から形成されていたことが推定される。堆積土は細砂・微砂が大半を占めるが、一部の間層には暗褐色を基調とする粘土質シルトが認められ、流水・溜水を繰り返しながら埋没したものと考えられる。



第111図 河川跡

## 第3節 下層調査 (第112・113図)

古墳時代後期～古代の遺構調査終了後、調査区の北部に幅2mのトレーニングを4ヶ所設定し、弥生時代以前の遺構・遺物の確認・記録を目的とした調査（下層調査）を実施した。その結果、1トレーニングから縄文土器4点、2トレーニングから縄文土器6点が出土している。いずれの土器も摩滅しており、特に2トレーニング出土の土器は、摩滅の状況が激しく、帰属時期を確認することができなかった。出土層位は基本層X層の黒褐色粘土質シルト層であり、遺構検出面からの深さは1.7m前後を測る。遺構は検出されず、弥生時代の遺構・遺物についても認められなかった。1トレーニングから出土した縄文土器2点を掲載した（第113図-1・2）。共に深鉢の破片資料で、内外面がやや摩

滅している。1は外面の口縁部と胴部の境に沈線による区画が施されている。調整は、外面が口縁部ミガキ、胴部ナデ、内面が粗いナデである。2は口縁部と胴部の境が僅かに括れ、外面には沈線による区画がみられる。胴部上端には粘土粒による貼瘤が付されている。調整は、外面がミガキ、内面が粗いナデである。共に縄文時代後期末葉に帰属するものである。

## 1トレンチ 基本層序

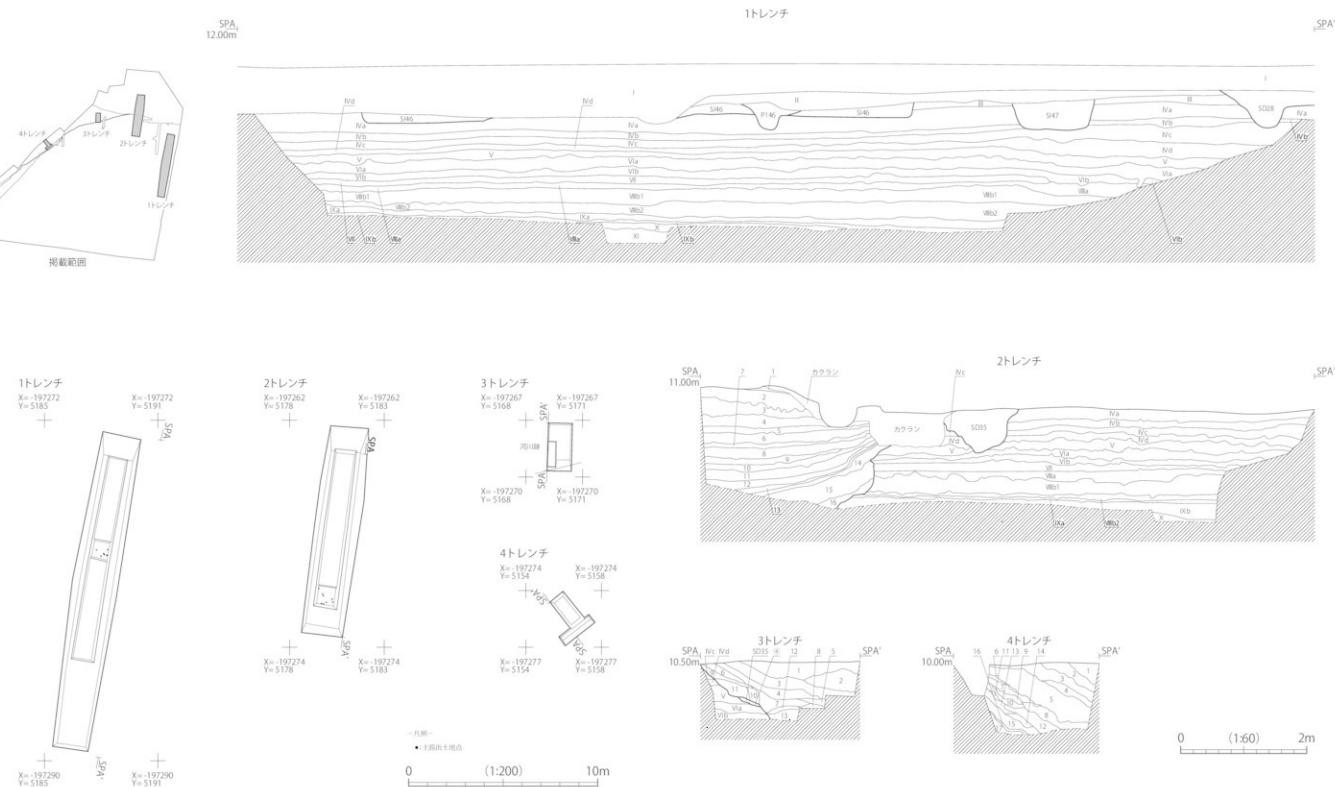
層位	土色	土性	備考
I	-	-	近・現代の埴土・整地層。
II	IOYR3/4 黄褐色	シルト	
III	IOYR3/3 黄褐色	シルト	
IV	a IOYR4/6 黄褐色	砂質シルト	青粘土ブロック(10~20mm)少量、炭化物、埴土微量含む。
	b IOYR5/6 黄褐色	シルト	青粘土ブロック(5mm程度)少量含む。
	c IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土を斑状に、炭化物微量含む。
	d IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土を斑状に含む。
V	IOYR5/6 黄褐色	シルト	灰白色土少量、粘土質土を斑状に含む。
VI	a IOYR3/4 黄褐色	シルト	灰白色土を斑状に、炭化物微量含む。
	b IOYR4/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。
VII	a IOYR4/4 黄褐色	シルト	灰白色土少量、粘土質土を斑状に含む。
	b IOYR4/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。
VIII	a IOYR5/6 黄褐色	細砂	植物遺存体・炭化物微量含む。
	b1 IOYR6/6 明黄褐色	細砂	植物遺存体・炭化物微量含む。
	b2 IOYR6/6 明黄褐色	細砂	[調a]より粒子が粗い。
IX	a IOYR5/4 に淡い黄褐色	細砂	調(5)~20mm少量、植物遺存体微量含む。
	b IOYR5/4 に淡い黄褐色	細砂	淡a層と又別の混合土。全体に炭化鉄混在。
X	IOYR3/2 黑褐色	粘土質シルト	青粘土化鉄多量、炭化物少量含む。
XI	IOYR3/1 黑褐色	粘土質シルト	青粘土化鉄多量、炭化物少量含む。

## 2トレンチ 基本層序

層位	土色	土性	備考
a	IOYR6/6 明黄褐色	シルト	青粘土ブロック(5mm程度)少量含む。
b	IOYR5/6 黄褐色	シルト	
c	IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土を斑状に、炭化物微量含む。
d	IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土少量、粘土質土を斑状に含む。
V	IOYR7/6 明黄褐色	砂質シルト	灰白色土少量、淡褐色土ブロック(5mm程度)微量含む。
VI	a IOYR5/4 に淡い黄褐色	粘土質シルト	淡褐色土少量含む。
	b IOYR4/4 黄褐色	粘土	炭化物微量含む。
VII	IOYR4/4 黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
VIII	a IOYR5/6 黄褐色	細砂	植物遺存体・炭化物微量含む。
	b1 IOYR6/6 明黄褐色	細砂	植物遺存体・炭化物微量含む。
	b2 IOYR6/6 明黄褐色	細砂	[調a]より粒子が粗い。
IX	a IOYR5/4 に淡い黄褐色	細砂	調(5)~20mm少量、植物遺存体微量含む。
	b IOYR5/4 に淡い黄褐色	細砂	淡a層と又別の混合土。全体に炭化鉄混在。
X	IOYR3/2 黑褐色	粘土質シルト	青粘土化鉄多量、炭化物少量含む。

## 3トレンチ 基本層序

層位	土色	土性	備考
c	IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土を斑状、炭化物微量含む。
d	IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色土少量含む。
V	IOYR7/6 明黄褐色	砂質シルト	灰白色土少量、淡褐色土ブロック(5mm程度)微量含む。
VI	a IOYR5/6 黄褐色	粘土質シルト	淡褐色土少量含む。
	b IOYR4/4 黄褐色	粘土	炭化物微量含む。



第112図 1~4トレンチ 平・断面図



## 2トレンチ 河川跡

層位	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にら~黄褐色	砂質シルト	
2	10YR4/3 にら~黄褐色	シルト	
3	10YR5/4 にら~黄褐色	砂質シルト	
4	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	
5	10YR5/4 にら~黄褐色	砂質シルト	
6	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	
7	10YR5/3 にら~黄褐色	砂質シルト	炭化物を帶状(厚さ10mm)に含む。
8	10YR4/4 黄褐色	細砂	上位に炭化物を帶状(5mm)に含む。
9	10YR4/4 黄褐色	細砂	上位に炭化物を帶状(10mm)に含む。
10	10YR4/1 單灰黑色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック(5 ~ 10mm)を帶状(厚さ20 ~ 50mm)に含む。
11	10YR5/3 にら~黄褐色	細砂	下位に堆積段を帶状に含む。
12	10YR4/1 單灰黑色	シルト	炭化物微量含む。
13	2.5Y7/3 浅黄色	砂質シルト	褐灰色土ブロック(20 ~ 70mm)少額含む。
14	10YR4/1 單灰黑色	砂質シルト	
15	2.5Y6/4 にら~黃色	砂質シルト	下位に炭化物を帶状(5mm)に含む。
16	2.5Y7/3 浅黄色	細砂	

## 3トレンチ 河川跡

層位	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にら~黄褐色	シルト	
2	10YR4/4 黄褐色	シルト	
3	10YR3/4 單灰黑色	シルト	
4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
5	10YR3/3 單灰黑色	シルト	
6	10YR5/3 にら~黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック(5mm程度)少額含む。
7	10YR4/2 單灰黑色	シルト	黒褐色土ブロック(5 ~ 20mm)少額含む。
8	10YR3/3 單灰黑色	シルト	黒褐色土粒多量含む。
9	10YR4/3 にら~黄褐色	砂質シルト	黒褐色土ブロック(10mm程度)少額含む。
10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック(5mm程度)少額含む。
11	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色土ブロック(20 ~ 70mm)少額含む。
12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土粒少額含む。
13	2.5Y6/3 にら~黃色	砂質シルト	炭化物带状に含む。

## 4トレンチ 河川跡

層位	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にら~黄褐色	砂質シルト	黒褐色土ブロック(10 ~ 100mm)との混合土。
2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック(5 ~ 100mm)多量含む。
3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック(20 ~ 70mm)少額含む。
4	10YR3/3 單灰黑色	シルト	黒褐色土ブロック(20 ~ 70mm)少額含む。
5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	
6	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰白色山灰土少量含む。
7	10YR4/3 にら~黄褐色	砂質シルト	
8	10YR5/3 にら~黄褐色	砂質シルト	
9	10YR3/3 單灰黑色	砂質シルト	黒褐色土ブロック(10mm程度)少額含む。
10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土粒少額含む。
11	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	
12	10YR5/4 にら~黄褐色	粘土質シルト	
13	10YR3/3 單灰黑色	砂質シルト	
14	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	
15	10YR5/3 にら~黄褐色	粘土質シルト	
16	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	
17	10YR6/3 にら~黄褐色	粘土質シルト	



図版番号	段階番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考	写真図版
1	A-001	1トレンチ	X層	縄文土器	深鉢	口縁~脚部	横位洗削・ヨコリ	フリ(相)	内外面やや摩滅	29
2	A-002	1トレンチ	X層	縄文土器	深鉢	口縁~脚部	脚底突起削付・横位洗削・ヨコリ	フリ(相)	内外面やや摩滅	29

第113図 下層調査出土遺物

## 第6章 西台畠遺跡第11次調査

第11次調査は基本層IV層上面を遺構検出面として実施した。本調査区は旧国鉄仙台資材センターなどによる擾乱や削平の影響を受けており、自然堆積層や遺構・遺物の残存状況が悪い。特に調査区西半部は擾乱の程度が激しいため、井戸跡以外はほぼ残存していない状況であった。検出された遺構は、竪穴住居跡45軒、掘立柱建物跡2棟、区画溝1条、木材列跡1条、溝跡10条、井戸跡25基、土坑16基、性格不明遺構1基、ピット205基、河川跡である。遺構の時期は、概ね中世以降、古墳時代後期～古代、弥生時代中期中葉、縄文時代後期末葉の四時期に大別される。遺物は、土師器・須恵器を主体として縄文土器・弥生土器・陶器・磁器・石器類・金属製品などコンテナ54箱程度が出土している。

以下、時期毎に詳細を報告する。

### 第1節 中世以降の遺構と遺物（第114～143図）

本節では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、重複関係や出土遺物から当該期と考えられる溝跡9条と井戸跡25基について記載する。いずれも時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明なものが多い。なお、重複関係から古代の遺構と考えられるSD82とSD110については、次節にて後述する。

#### (1) 溝跡（第114・115図）

溝跡9条（SD103～109・111・112）を検出した。調査区北部及び東部で検出しており、主軸方向や規模、形状などが異なり多様である。いずれも時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明であるが、重複関係が確認できたものは、古墳時代後期～古代の竪穴住居跡より新しい。

#### SD103 溝跡（第114・115図）

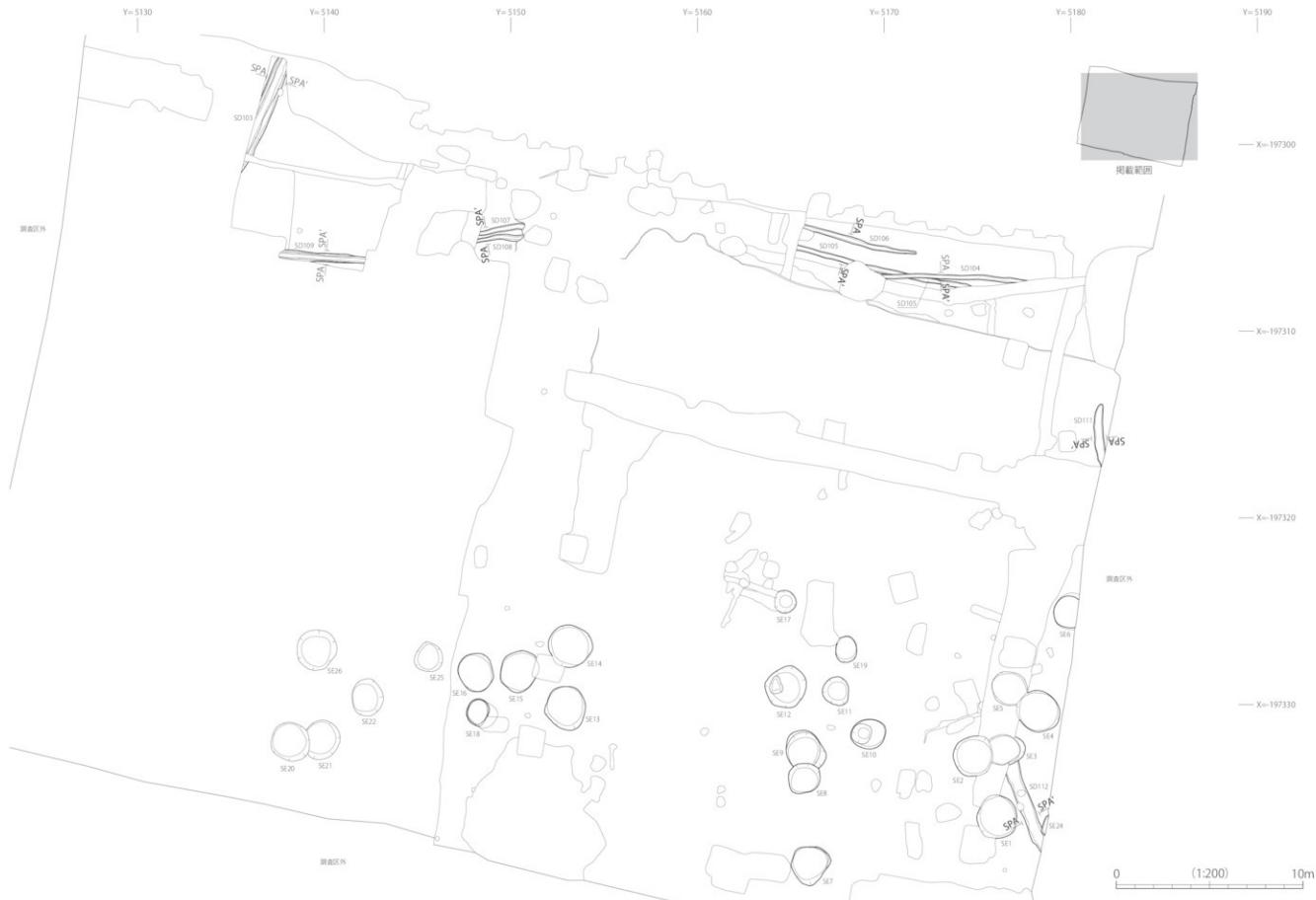
調査区北西部の41・49グリッドに位置する。北側及び南西側は擾乱により失われている。SI179・180より新しい。検出した規模は、長さ6.50m、上端幅82～86cm、下端幅17～35cm、深さ27～38cmを測る。南北方向に直線的に延び、方向はN-23°-Eである。断面形状は逆台形を呈し、底面との境は明瞭である。壁面は底面から中部にかけて緩やかに立ち上がり、上部にかけて内湾気味に上がる。底面は概ね平坦であるが、北側の一部に工具痕による起伏がみられる。堆積土は3層に分層した。1・2層は暗褐色シルト、3層は明黄褐色シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI179より新しいことから、4a期（住社式期新段階）以降と考えられる。

#### SD104 溝跡（第114・115図）

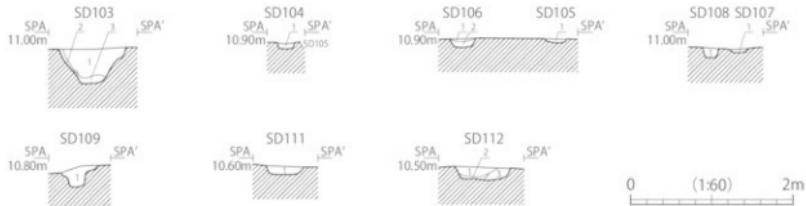
調査区北東部の60・61グリッドに位置する。東西両側は擾乱により失われている。SI191・252A・252B・253、SD105、Pit212より新しい。検出した規模は、長さ7.88m、上端幅22～28cm、下端幅12～17cm、深さ7～16cmを測る。東西方向に渦曲して延び、方向はN-81～88°-Wである。断面形状は「U」字状を呈する。底面は平坦である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山二期官衙期）以降と考えられるSI252Aより新しい。



第114図 溝跡・井戸跡配置図

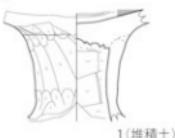




溝跡観察表

遺構名	Y軸(1)	方向	断面 (cm)			層位	土色	土性	備考	重複	
			全長	上端幅	下端幅						
SD103	41-49	N-23° E	(650)	82 ~ 86	17 ~ 35	27 ~ 38	1 2 3	10YR3/3暗褐色 10YR3/4暗褐色 10YR6/6明黃褐色	シルト シルト シルト	Ⅳ留土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む Ⅳ留土と少量含む。 暗褐色土ブロック (5 ~ 60mm) 多量、炭化物和 潤滑質含む。	SI179・180より新しい。
SD104	60-61	N-81° W	(788)	22 ~ 28	12 ~ 17	7 ~ 16	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	Ⅳ留土和微量含む。	SI101・252A・252B・253, SD105・Pit2より新しい。
SD105	60	N-76° W	(957)	22 ~ 30	12 ~ 22	5 ~ 14	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	Ⅳ留土と少量含む。	SD104より古く、SI169・ 190・252A・252B、Pit164・ 174・183・214より新しい。
SD106	52+60	N-76° W	(623)	15 ~ 34	10 ~ 20	6 ~ 11	1 2	10YR3/3暗褐色 10YR3/2暗褐色	シルト シルト	Ⅳ留土ブロック (10mm 程度) 少量含む。 Ⅳ留土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SI100・192・252A・252Bよ り新しい。
SD107	90	N-81° E	(252)	20 ~ 34	19 ~ 24	6 ~ 7	1	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ留土と少量含む。	SI13より新しい。
SD108	50+58	N-87° E	(253)	19 ~ 33	11 ~ 16	10 ~ 15	1	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ留土と少量含む。	
SD109	57	N-86° W	(465)	34 ~ 54	14 ~ 20	24 ~ 31	1	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色砂質土と少量含む。	SI180・181、Pit1より新しい。
SD111	68+75	N-4° W	(339)	44 ~ 53	30 ~ 43	4 ~ 13	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	Ⅳ留土ブロック (30 ~ 100mm) 多量含む。	SI195・Pit173・198より新 しい。
SD112	96+102	N-20° W	(508)	68 ~ 83	47 ~ 68	6 ~ 19	1 2 3	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/4暗褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト シルト シルト	暗オーブン褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 濃度含 む。 Ⅳ留土ブロック (20 ~ 50mm) 多量含む。 Ⅳ留土ブロック (10mm 程度) 多量含む。	SE3・24より古く、SE200・ 204、Pit142+147より新しい。

SD106



1(堆積土)

SD112



2(堆積土)

0 (1:3) 10cm

回数 番号	移設 番号	出土地点	層位	種別	基準	法量 (cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ		
1	C166	SD106	堆積土	土器底	高环	—	—	16.88	环部: 59.51mm 底部: 59.51mm	25
2	C168	SD112	堆積土	土器底	高	(18.4)	(3.7)	(3.7)	环部: 59.51mm 底部: 59.51mm	25

第115図 溝跡・溝跡出土遺物

## SD105 溝跡（第114・115図）

調査区北東部の60グリッドに位置する。東西両側は壊壁により失われている。SI189・190・252A・252B、Pit164・174・183・214より新しく、SD104より古い。検出した規模は、長さ9.57m、上端幅22~30cm、下端幅12~22cm、深さ5~14cmを測る。東西方向に直線的に延び、1mほど北に位置するSD106と並走する。方向はN-76°Wである。断面形状は皿状を呈し、底面はほぼ平坦で、東側に向かって僅かに低くなる。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、IV層土粒を少量含む。遺物は土師器が出土しているが、国化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI190より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

#### SD106 溝跡（第114・115図）

調査区北東部の52・60 グリッドに位置する。西側は擾乱により失われている。SI190・192・252A・252Bより新しい。検出した規模は、長さ 6.23m、上端幅 15～34cm、下端幅 10～20cm、深さ 6～11cm を測る。東西方向に湾曲して延び、南に位置する SD105 と並走する。方向は N-76°～81°-W である。断面形状は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層した。1 層は暗褐色シルト、2 層は黒褐色シルトを主体とし、共にIV層土ブロックを含む。遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器高環 1 点を掲載した（第115図-1）。中空の脚部で、蓋部に向かってやや細くなる。环部との接合痕がみられる。調整は、外面が环部から脚部にかけヘラケズり、内面は环部ヘラミガキ後黒色処理、脚部ヘラケズりである。

時期決定できる遺物はないが、SI190より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

#### SD107 溝跡（第114・115図）

調査区北部の50 グリッドに位置する。東西両側は擾乱により失われている。SB13より新しい。検出した規模は、長さ 2.52m、上端幅 20～34cm、下端幅 19～24cm、深さ 6～7cm を測る。東西方向に湾曲して延び、方向は N-81°～89°-E である。断面形状は皿状を呈し、底面は概ね平坦である。堆積土は暗褐色シルトの単層で、IV層土粒を多量に含む。遺物は出土していない。

時期決定できる遺物はないが、SB13より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

#### SD108 溝跡（第114・115図）

調査区北側の50・58 グリッドに位置する。東西両側は擾乱により失われている。重複する遺構はない。検出した規模は、長さ 2.53m、上端幅 19～33cm、下端幅 11～16cm、深さ 10～15cm を測る。東西方向に緩やかに蛇行しながら延び、方向は N-87°-E～N-86°-W である。断面形状は逆台形ないし「U」字状を呈し、南側の壁面は北側に比べ、僅かに大きく外傾する。堆積土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SD109 溝跡（第114・115図）

調査区北西部の57 グリッドに位置する。東西両側は擾乱により失われている。SI180・181、Pit81より新しい。検出した規模は、長さ 4.65m、上端幅 34～54cm、下端幅 14～20cm、深さ 24～31cm を測る。東西方向に直線的に延び、方向は N-86°-W である。断面形状は漏斗状で、東側の一部では逆台形を呈し、底面との境は明瞭である。底面は概ね平坦である。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、褐灰色砂質土粒を多量に含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI180より新しいことから、4a期（住社式期新段階）以降と考えられる。

#### SD111 溝跡（第114・115図）

調査区北東部の68・75 グリッドに位置する。南側は調査区外に延び、北側は 68 グリッドで終息する。SI195、Pit173・198より新しい。検出した規模は、長さ 3.39m、上端幅 44～53cm、下端幅 30～43cm、深さ 4～13cm を測る。南北方向に湾曲して延び、方向は N-4°-W～N-9°-E である。断面形状は逆台形ないし皿状を呈し、底面は概ね平坦である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、IV層土ブロックを多量に含むことから、人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・鉄製品が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI195より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

### SD112溝跡（第114・115図）

調査区南東部の96・102グリッドに位置する。北側は擾乱により失われ、南側は調査区外に延びる。SI200・204、Pit142・147より新しく、SE3・24より古い。検出した規模は、長さ5.08m、上端幅68～83cm、下端幅47～68cm、深さ6～19cmを測る。南北方向に直線的に延び、方向はN-20°-Wである。断面形状は逆台形を呈し、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層した。2・3層は褐色シルトないしにぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層上ブロックを多量に含むことから、人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器壺1点を掲載した（第115図-2）。外面の口縁部と胴部の境に太沈線状の段を持つ。口縁部は外反し、口縁端部は屈曲する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ハケメ、内面は口縁部ヨコナデである。

時期決定できる遺物はないが、SI200より新しいことから、5bi期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられる。

### （2）井戸跡（第114・116～143図）

井戸跡25基（SE1～22・24～26）を検出した。そのうち、約2/3が調査区南東部に集中する。素掘りのものが大部分であるが、導水管の痕跡が残る井戸跡（SE22）も検出した。いずれも廃絶時には埋め戻しが行われている。時期は重複関係や出土遺物から中世以降と考えられる。なお、番号は連番でSE1～26まで付したが、SE23とした遺構は井戸跡ではなく土坑と認められたため、欠番とした。

#### SE1井戸跡（第114・116・117図）

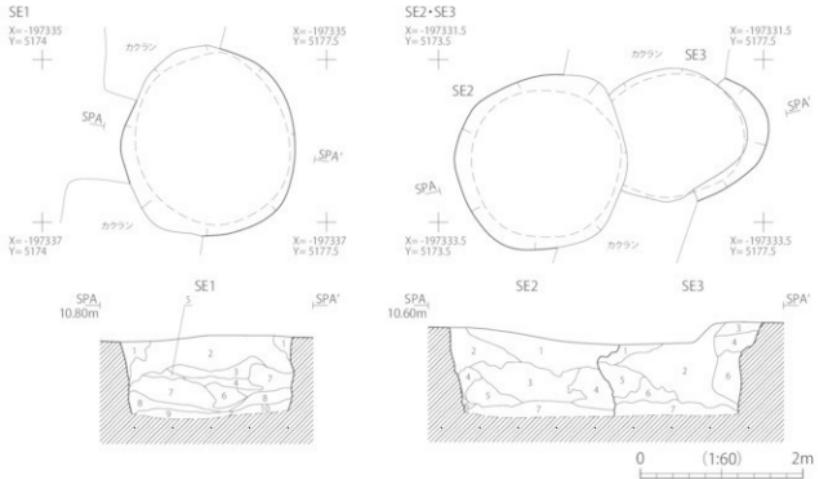
調査区南東部の96・101・102グリッドに位置する。北西部と南西部の上部は擾乱により失われている。SI204より新しい。平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸233cm、短軸215cmを測り、深さは107cmまで確認した。堆積土は10層に分層した。堆積状況から2～7・9層は人為堆積土と考えられ、9層より下層はやや粘性が強くなり、グライト化している。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・打製石器が出土している。このうち、土師器壺1点を掲載した（第117図-1）。胴部は長胴形を呈し、胴部の最大径は中位に位置する。頸部は「く」の字に屈曲し、底部に木葉痕がみられる。口縁部の粘土紐接合面には刻目が施されている。調整は、口縁部が外縁ヨコナデ、胴部は外面がハケメ後ヘラケズリ、内面はハケメ後ヘラナデである。胎土に多量の雲母を含む。

時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられるSI204より新しい。

#### SE2井戸跡（第114・116～118図）

調査区南東部の95・96グリッドに位置する。SI200・203、SE3より新しい。東半部の上部は擾乱により失われているが、平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸213cm、短軸211cmを測り、深さは114cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況から1・3・5層は人為堆積土と考えられ、7層より下層は粘性が強く、グライト化している。遺物は土師器・須恵器・陶器・鉄製品・打製石器が出土している。このうち、土師器壺2点、打製石器1点の計3点を掲載した（第117図-2・3、第118図-7）。2・3は土師器壺である。2は丸底、3は平底風の丸底で、共に体部から口縁部まで緩やかに内湾して立ち上がる。3は口縁端部に向かって器壁は薄くなる。調整は、2・3共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。7は安山岩製の板状石器である。a・b両面の刃部には光沢面がみられる。

時期決定できる遺物はないが、SI200より新しいことから、5bi期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられる。



井戸跡観察表

遺構名	Y (m)	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考		重複
SE1 96+101 -102	(P)B6	(230) × 215 (107)		1	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 褐量含む。※崩落土	SE204より新しく。	
				2	10YR4/2 灰褐色	シルト	※崩落土ブロック (10 ~ 100mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				3	10YR6/6 明灰褐色	砂質シルト	灰黄褐色細砂帶に含む。		
				4	10YR3/1 黄褐色	シルト	※崩落土ブロック (5 ~ 100mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				5	10YR3/3 黄褐色	シルト	※崩落土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				6	10YR3/3 黄褐色	シルト	※崩落土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				7	10YR5/4 に赤い斑駁色	シルト	灰黄褐色細砂ブロック (5 ~ 200mm) 少量、炭化物粒微量含む。※崩落土		
				8	10YR5/6 黄褐色	シルト	無色土と少量、炭化物粒微量含む。※崩落土		
				9	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※グライ化。		
				10	10Y3/1 灰色	粘土質シルト	※グライ化。		
SE2 95+96	(P)B6	(213) × (211) (114)		1	10YR2/2 黄褐色	シルト	※崩落土中に含む。炭化物・埴土粒少量含む。	SE200・203 SD3より新しく。	
				2	10YR1/1 黒色	シルト	炭化物粒・埴土粒微量含む。		
				3	10YR3/4 黄褐色	シルト	※崩落土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。		
				4	10YR5/6 黄褐色	シルト	※崩落土		
				5	10YR4/3 に赤い斑駁色	シルト	※崩落土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物少量含む。		
				6	10YR5/6 黄褐色	シルト	※崩落土		
				7	2.5G5/3/1 剛リープ灰褐色	粘土質シルト	黑色土斑間に含む。※グライ化。		
SE3 96	(P)B6	(202) × (168) (115)		1	10YR3/3 黄褐色	シルト	上部にに赤い斑駁色土を斑状に含む。	SE2より古く。 SD200・204 SD112より新しく。	
				2	10YR4/4 黄褐色	シルト	無色土との境合付。		
				3	10YR4/3 に赤い斑駁色	シルト	※崩落土ブロック (10mm 程度) 少量含む。		
				4	10YR4/4 黄褐色	シルト	※崩落土ブロック (10 ~ 30mm) 多量、埴土粒少量含む。		
				5	10YR4/3 に赤い斑駁色	シルト	※崩落土ブロック (20 ~ 80mm) 多量含む。		
				6	10YR5/6 黄褐色	シルト	※崩落土		
				7	2.5G5/3/1 剛リープ灰褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。※グライ化。		

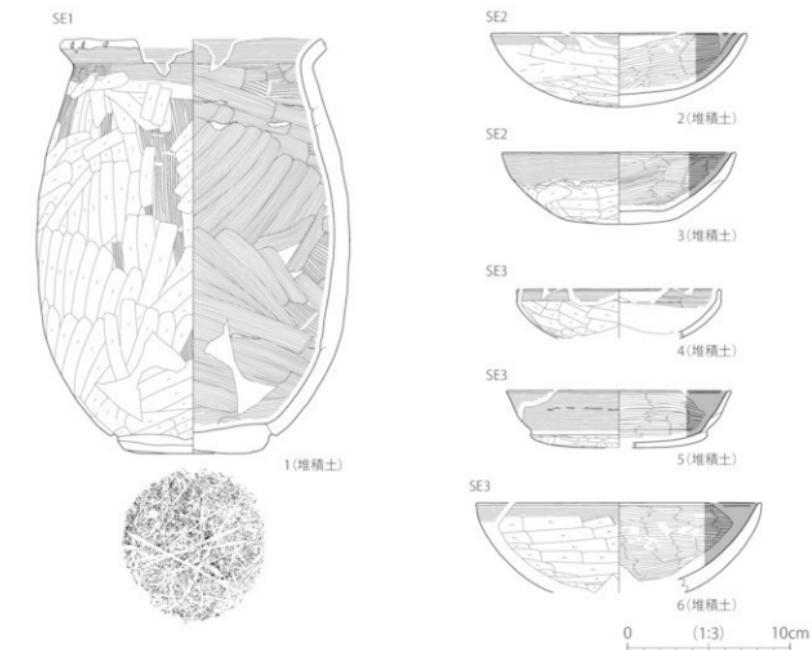
第116図 SE1～3井戸跡

## SE3 井戸跡（第114・116～118図）

調査区南東部の96グリッドに位置する。SI200・204、SD112より古く、SE2より古い。西側は搅乱及び重複構造により失われているが、平面形状は円形を基調とする。断面形状は箱形を呈するが、崩落及びSE2との重複により壁面の原形は不明である。底面は未検出である。検出した規模は、長軸202cm、短軸168cmを測り、深さは115cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況から3～5層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・打製石器が出土している。このうち、土師器環3点、打製石器1点の計4

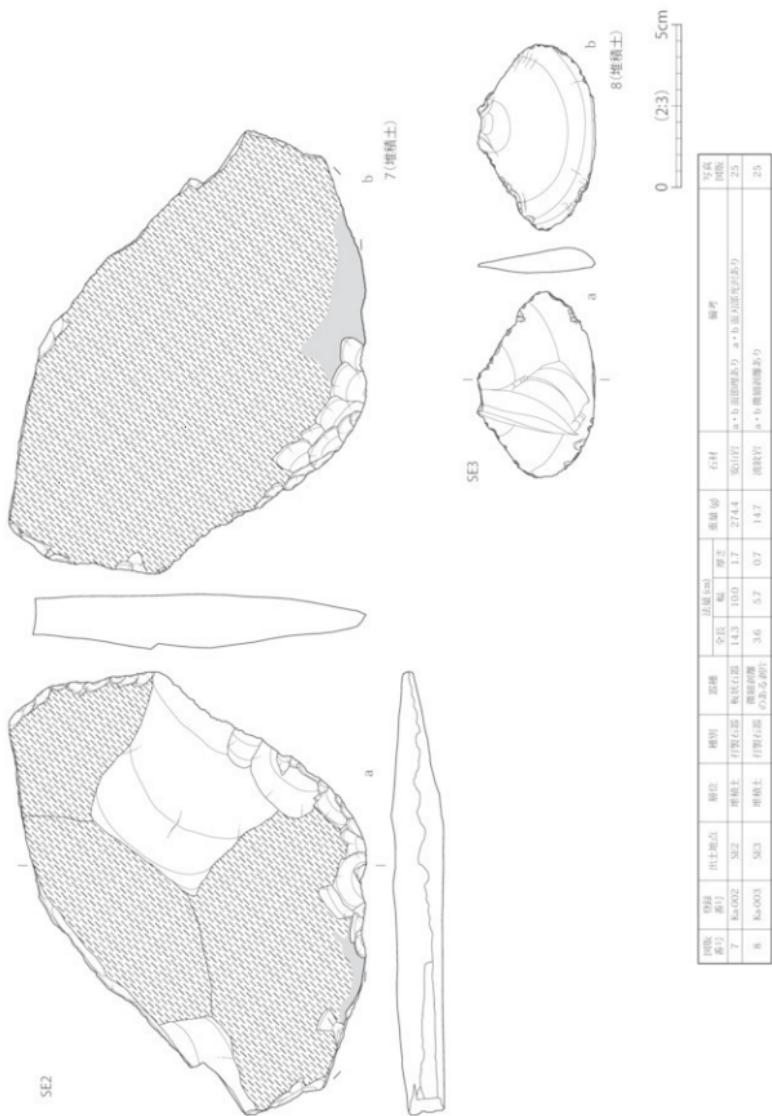
点を掲載した（第117図-4～6、第118図-8）。4～6は土師器環である。4は北武藏型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つ。口縁部は外反気味に短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面へラナデである。5は外面の口縁部と体部の境に段を持つ环で、段は下位に位置する。口縁部は直線的に外傾し、口縁端部が外側に屈曲する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、内面は口縁部から体部にかけへラミガキ、底部放射状へラミガキ後、黒色処理が施される。6は半球状の环で、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、内面はへラミガキ後、黒色処理が施される。8は微細剥離のある剥片で、縁辺全周にわたり微細剥離痕が認められる。

時期決定できる遺物はないが、SI200より新しいことから、5bi期（郡山二期官衙期）以降と考えられる。



回数 番号	物語 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	C169	SE1	堆積土	土師器	甕	—	8.4	(25.9)	口縁：32.0° 脚部：30.0°→30.0° 体部：八方四手	口縁：32.0° 脚部：30.0°→30.0° 体部：八方四手	陶土に泥付厚量含む 底部：木葉附	25
2	C170	SE2	堆積土	土師器	环	(15.6)	—	4.5	口縁：32.0° 脚部：八方四手	口縁：32.0° 脚部：八方四手	内面黑色處理	25
3	C171	SE2	堆積土	土師器	环	14.4	—	4.4	口縁：32.0° 脚部：八方四手	口縁：32.0° 脚部：八方四手	内面黑色處理	25
4	C173	SE3	堆積土	土師器	环	(12.4)	—	3.0	口縁：32.0° 脚部：八方四手	口縁：32.0° 脚部：八方四手	側収系	25
5	C172	SE3	堆積土	土師器	环	(13.8)	—	3.5	口縁：32.0° 脚部：八方四手	口縁～体部：30.0° 脚部：放射状30.0°	内面黑色處理	25
6	C174	SE3	堆積土	土師器	环	(17.0)	—	15.0	口縁：32.0° 脚部：八方四手	口縁：32.0° 脚部：八方四手	内面黑色處理	25

第117図 SE1～3 戸跡出土遺物



第 118 圖 SE2・3 井戶出土遺物

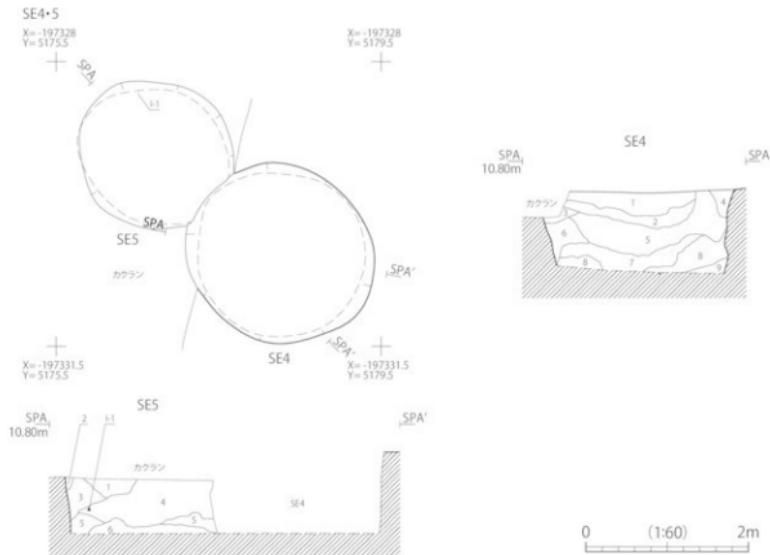
## SE4 井戸跡（第114・119～121図）

調査区東部の89・96 グリッドに位置する。SI200、SE5、Pit143より新しい。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸 233cm、短軸 212cm を測り、深さは 109cmまで確認した。堆積土は 9 層に分層した。堆積状況から 1～7 層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・鉄製品・土製品・打製石器が出土している。このうち、土師器高環1点、鉄製品1点、土製品1点、打製石器1点の計4点を掲載した（第120図-1～3、第121図-4）。1は土師器高環である。中空の脚部で、「ハ」字状に広がる。調整は、外面が坏部から脚部にかけヘラケズリ、内面は坏部ヘラミガキ後黒色処理、脚部ユビナデ後ヘラナデである。2は鉄製の刀子である。切先にふくらを有し、背は並行する。背側・刃側共に闊があり、形状は撫闇である。3は土製の紡錘車である。外面にヘラナデが施される。4は安山岩製の板状石器である。a・b 両面の刃部には光沢面や刃部とほぼ並行する擦痕がみられる。

時期決定できる遺物はないが、SI200より新しいことから、5bi期（郡山二期官衙期）以降と考えられる。

## SE5 井戸跡（第114・119・121・122図）

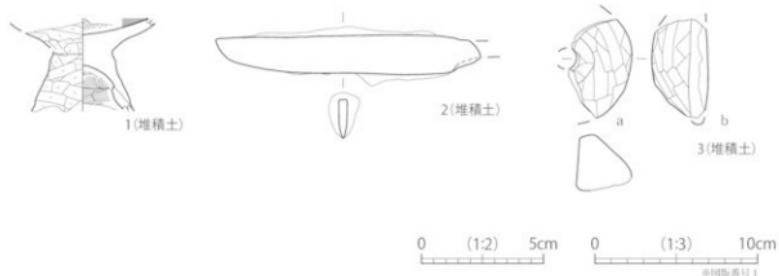
調査区北東部の89 グリッドに位置する。擾乱により上部が失われている。SI200より新しく、SE4より古い。平面形状は円形を基調とし、断面形状は箱形を呈する。底部は未検出である。検出した規模は、長軸 200cm、短軸 181cm を測り、深さは 73cmまで確認した。堆積土は 6 層に分層した。堆積状況から 1・4 層は人為堆積土と考えられ、5・6 層は粘性が強くなる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・打製石器が出土している。このうち、陶器1点を掲載した（第122図-1）。白石窯産の陶器で、甕の底部と共に焼台が溶着した状態で出土して



第119図 SE4・5 井戸跡

井戸跡調査表

遺構名	Y (m)	平面形	法面 (m) 長軸×短軸 深さ	層位	土色	土性	備考		直視
							上段	下段	
SE4	89.96	(円形)	(233) × 212 (109)	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	N層土ブロック (高さ ~ 30mm) 多量含む。		
				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	N層土ブロック (5mm程度) 多量含む。		
				3	10YR3/4 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (Q0mm程度) 多量含む。		
				4	10YR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (10 ~ 40mm) 多量含む。		
				5	10YR3/4 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (40mm程度)・燒土ブロック (5mm程度) 雜混含む。		
				6	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (40mm程度) 多量。N層土ブロック (5mm程度) 雜混含む。		
				7	10YR3/4 黄褐色	シルト	下部にN層土ブロック (5mm程度) 多量。炭化物類・燒土粒 雜混含む。		
				8	10YR5/6 黄褐色	シルト	砂質土		
				9	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト			
SE5	89	(円形)	(200) × (181)	1	10YR4/3 にい・黄褐色	シルト	N層土に少量含む。		
				2	10YR4/2 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (10 ~ 70mm) 少量含む。非崩落土		
				3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物類微量含む。非崩落土		
				4	10YR4/3 にい・黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (Q0 ~ 600mm)・N層土粒少量・炭化物類 雜混含む。		
				5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	にい・黒褐色土ブロック (10 ~ 80mm) 少量。炭化物類微量含む。非崩落土		
				6	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	炭化物帶状に含む。非崩落土		



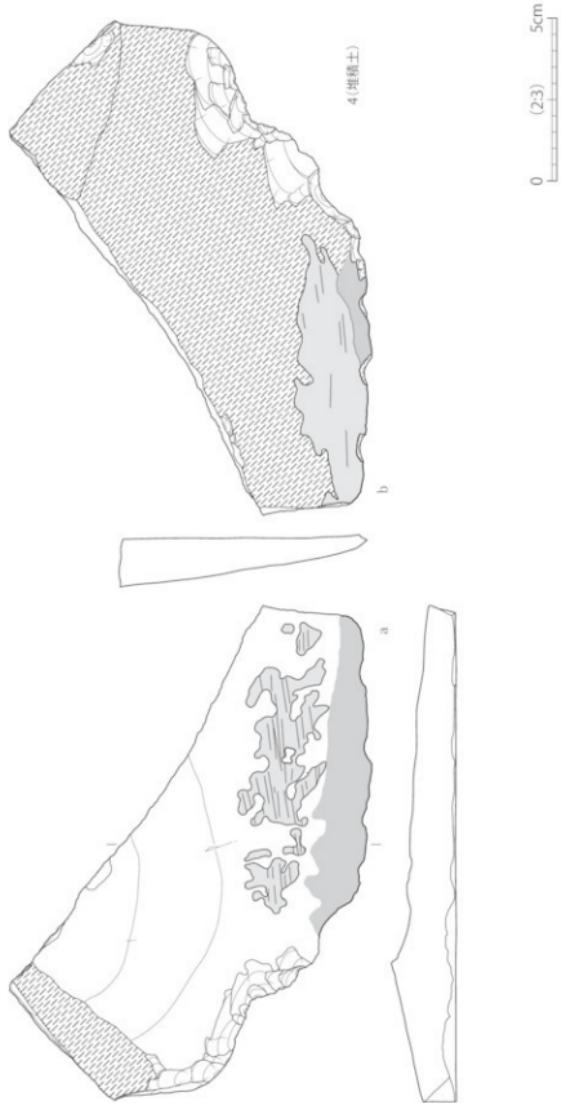
第120図 SE4 井戸跡出土遺物 (1)

いる。表は平底の底部から胴部が外傾して立ち上がる。調整は、外面が胴部ヘラナデ、内面はロクロ調整で、輪積痕がみられる。胎土は5mm程度の小礫や砂粒を少量含みやや粗く、焼成は良好で、焼き締まり、色調は外面が赤灰色、内面は青灰色を呈する。焼台の胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は黄灰色を呈する。

時期決定できる遺物はないが、SI200より新しいことから、5bi期(郡山II期官衙期)以降と考えられる。

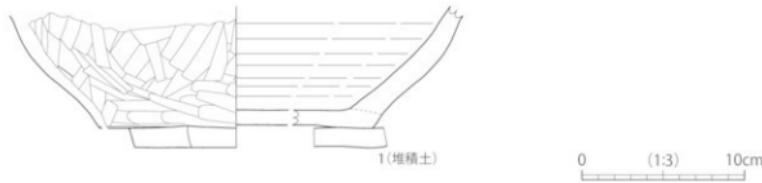
#### SE6 井戸跡 (第114・123・124図)

調査区東部の82・89グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。重複する遺構はない。平面形状は円形を基調とする。断面形状は、下部の壁面が崩落したことにより台形状を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸192cm、短軸132cmを測り、深さは124cmまで確認した。堆積土は13層に分層した。堆積状況から1~7・9・10層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器が出土している。このうち、陶器1



井號	層位	出土地點	解說	規形	直徑	厚度	全員	法面	外H	備考
4	Ka.004	SE4	堆积土	打頂灰陶 瓶狀灰陶	11.1	1.32	1.2	210.5	兔耳口	a-a' 面照鏡面 a-a' 面照鏡面

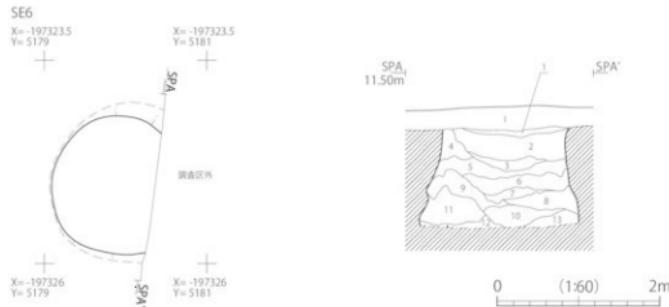
第 121 圖 SE4 井戶出土遺物 (2)



第122図 SES 井戸跡出土遺物

点を掲載した(第124図-1)。白石窯産陶器の鉢である。口縁端部には緩い凹面を持つ。底部は欠損しているが、器形は逆台形を呈していたと考えられる。調整は内外面ともロクロ調整である。胎土は砂粒を微量含み密で、焼成は良好で、焼き締まり、色調は灰色を呈する。

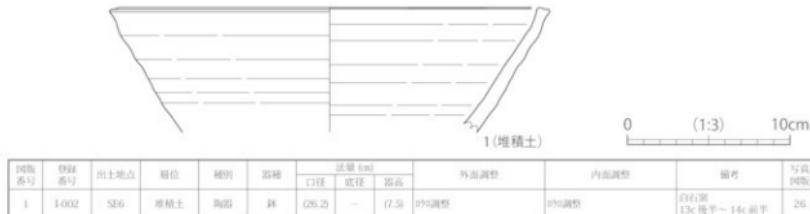
時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡断面図

遺構名	Y (m)	平面形	幅幅 (m) 長軸×短軸	深さ 層位	剖面		備考	重複
					長軸	短軸		
SE6	82・80	(P)形	192 × (132) (124)	1	10YR5/1 淡灰色	シルト	N層土ブロック(10mm程度)少量含む。	
				2	10YR4/4 黄色	シルト	N層土ブロック(10 ~ 20mm)多量、炭化物少量含む。	
				3	10YR3/2 淡褐色	シルト	N層土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
				4	10YR4/2 淡黄褐色	シルト	N層土ブロック(5 ~ 10mm)微量含む。	
				5	10YR6/6 明淡褐色	シルト	褐色土とN層土の混在。	
				6	10YR5/2 淡黄褐色	シルト	下部にN層土ブロック(30 ~ 40mm)多量、炭化物少量含む。	
				7	10YR2/1 黑色	シルト	炭化物多量、地土ブロック(5mm程度)微量含む。	
				8	10YR6/6 明淡褐色	シルト	褐色土多量含む、並層土。	
				9	10YR4/4 黄褐色	シルト	上部にN層土ブロック(20 ~ 30mm)多量含む。	
				10	10YR2/1 黑色	シルト	N層土ブロック(5 ~ 10mm)微量含む。	
				11	10YR6/6 明黃褐色	シルト	並層土。	
				12	10YR6/8 明黃褐色	シルト	褐色土とN層土の混合土。	
				13	10YR6/8 明黃褐色	砂質シルト	明黃褐色細砂とN層土の混合土。	

第123図 SE6 井戸跡

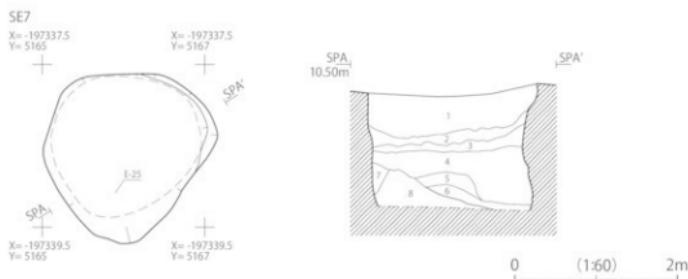


第124図 SE6 井戸跡出土遺物

## SE7 井戸跡（第114・125・126図）

調査区南東部の101グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は不整形、断面形状は壁面の崩落により湾曲するが、概ね箱型を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸214cm、短軸210cmを測り、深さは157cmまで確認した。堆積土は8層に分層した。堆積状況から1・2・4・6・7層は人為堆積土と考えられ、2層より下層はグライ化している。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・打製石器が出土している。このうち、須恵器高环1点、陶器2点の計3点を掲載した（第126図-1～3）。1は須恵器高环である。脚部から瓶部へは緩やかに「ハ」字形に広がる。环底中央に径2cm程の穿孔がみられ、焼成後に施されたと考えられる。調整は、外面が环部タタキ後ヘラナデ、脚部ロクロナデ、内面は脚部ロクロナデ後ヘラナデである。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は灰色を呈する。2は白石窯産陶器の擂鉢である。平底で、体部は外傾して立ち上がる。内面の体部下半にスリ痕がみられる。調整は、外面がロクロ調整、内面は体部下半ヘラケズリ、底部ヘラナデである。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は外面が黒褐色～黄褐色、内面は明赤褐色を呈する。3は常滑窯産陶器の甕である。調整は、外面がヘラナデ、内面はナデである。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は黒褐色を呈する。

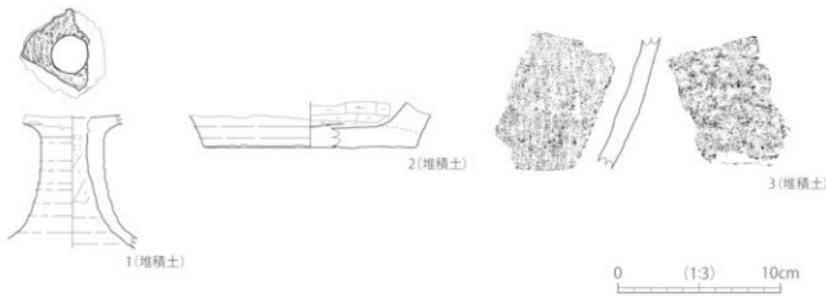
時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡断面図

遺構名	Y (m)	平面形	面積 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
SE7	101	不整形	214 × 210 (157)	(157)	1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	IV堆土ブロック (10～50mm)・粗砂多量、炭化物少量含む。	
					2	10YR5/3 に凸・黃褐色	シルト	黒褐色土ブロック (10mm程度)・粗砂多量含む。 ※・薄グライ化	
					3	5G4/1 嘴頭灰	粘土質シルト	※グライ化	
					4	10YR3/1 黑褐色	砂質シルト	※グライ化	
					5	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	※グライ化	
					6	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	灰褐色土ブロック (10～150mm) 多量含む。 ※グライ化	
					7	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	黒褐色土ブロック (5mm程度) 微量含む。 ※グライ化	
					8	10Y4/1 灰色	粘土質シルト	オリーブ黒褐色土斑状に含む。 ※グライ化	

第125図 SE7 井戸跡



調査 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	E-025	SE7	堆積土	須恵器	環	—	—	(8.3)	縁部：8.7mm 底部：3.0mm	環部：33.0～54.0mm 底部：37.0～45.0mm	右石室、12版 13c 前半～14c 前半	26
2	1403	SE7	堆積土	陶器	鉢	—	(13.2)	(2.8)	外側調整	体部下半：5.0mm 底部：5.0mm	右石室、12版 13c 前半～14c 前半	26
3	1409	SE7	堆積土	陶器	鉢	—	—	(8.1)	内側	右石室、12版 13c 前半～14c 前半	右石室(中世)	26

第126図 SE7 井戸跡出土遺物

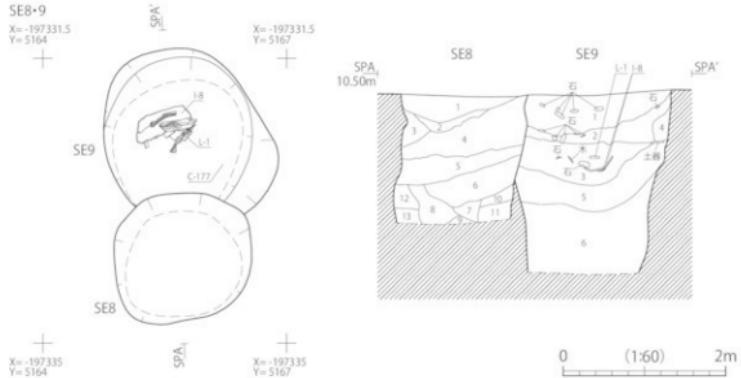
## SE8 井戸跡（第114・127図、写真図版26）

調査区南東部の94・95グリッドに位置する。SI207、SE9より新しい。平面形状は円形、断面形状は筒形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸170cm、短軸158cmを測り、深さは161cmまで確認した。堆積土は13層に分層した。砂質シルトを主体とし、いずれの層にもIV層土などのブロック土ないし自然礫を含むことから、人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器が出土している。このうち、土師器環1点、陶器1点（写真のみ）の計2点を掲載した（第127図-1・写真図版26-6）。1は土師器環で、鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。扁平な半球状の体部から口縁部が短く直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面へラケズリ、内面へラナデである。内外面の一部に漆状の付着物がみられることから、黒色塗仕上げが施されていたものと考えられる。胎土は砂粒を少量含み密で、色調は橙色を呈する。写真図版26-6は古瀬戸の大型皿ないし鉢の破片で、底部に近い部分と考えられる。薄く灰釉がかかる。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SE9 井戸跡（第114・127～129図）

調査区南東部の94・95グリッドに位置する。SI207より新しく、SE8より古い。平面形状は梢円形を基調とし、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸234cm、短軸213cmを測り、深さは228cmまで確認した。堆積土は6層に分層した。堆積状況から1～3・5層は人為堆積土と考えられ、4層より下層は粘性が強くなる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器・鉄製品・木製品・打製石器が出土している。このうち、土師器環2点、陶器2点、木製品1点の計5点を掲載した（第128図-1～4、第129図-5）。1・2は土師器環である。1は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。緩やかに内湾する体部から口縁部が短く内傾する。内面の屈曲部にはヘラミガキによる粘土の盛り上がりがみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ後へラナデ、体部へラナデ後、放射状のヘラミガキが施され、外面が黒色



井戸跡断面図

造構名	Y (m)	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	段位	土色	土性	備考		重複
							深さ		
SE8	94-95	円形	170 × 158 (161)	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト			
				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。		
				3	10YR4/3 に、黄褐色	砂質シルト	I層土ブロック (50mm程度) 多量含む。		
				4	10YR5-6 黄褐色	シルト	灰黃褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。		
				5	2.5GY3/1 黒色	粘土質シルト	N層土ブロック (15 ~ 30mm) 多量含む。※グライ化		
				6	3Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	オリーブ風色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量。灰白色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量。円錐 (50 ~ 100mm) 含む。※グライ化		
				7	7.5Y2/1 黒色	砂質シルト	オリーブ風色土ブロック (5 ~ 100mm) 含む。	SI207, SE9 より新しい。	
				8	3Y2/1 黒色	砂質シルト	灰褐色粘土ブロック (5 ~ 25mm) 多量含む。※グライ化		
				9	2.5GY3/1 オリーブ灰色	砂質シルト	灰褐色粘土多量含む。※グライ化		
				10	3Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	灰褐色粘土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※グライ化		
				11	3Y2/1 黒色	砂質シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 70mm) 多量含む。※グライ化		
				12	2.5GY3/1 オリーブ灰色	砂質シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 70mm) 多量。灰褐色土多量含む。※グライ化		
				13	10Y4/1 黄色	砂質シルト	オリーブ風色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。黒褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 適量含む。※グライ化。		
SE9	94-95	(楕円形)	234 × 213 (228)	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 50mm)・礫・粗砂多量含む。		
				2	10YR2/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (30 ~ 40mm)・炭化物少量含む。	深さより古く。 SI207 より新しい。	
				3	3Y3/1 オリーブ黒色	シルト	IV層土ブロック (10mm程度)・礫・粗砂少量含む。※グライ化		
				4	10YR4/4 黄色	シルト	半崩落土		
				5	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック (200mm程度) 多量含む。※グライ化。		
				6	2.5Y5/1 黄褐色	粘土	※グライ化		

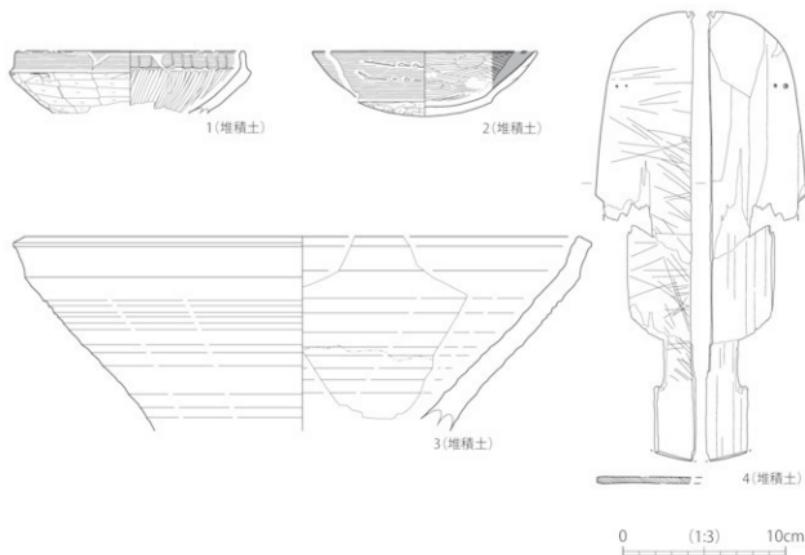


回数 番号	測線 番号	出土地点	層位	種別	基部	法線 (cm) 口径 底径 高さ	外面調整		内面調整	備考	写真 回数	
							口径	底径				
I	C-200	SE8	堆積土	土器部	环	(14.0)		4.1	口縁：2.5cm 底部：5.5cm	口縁：2.5cm 底部：5.5cm	開口系 内面漆仕上げ？	26
-	1010	SE8	堆積土	脚部	大型の壺 or 跡	-	-	-	底面部近・灰輪が薄い、 写真側面の丸			26

第127図 SE8・9 井戸跡・SE8 井戸跡出土遺物

漆仕上げされている。胎土は5mm程度の砂礫を含み粗く、色調は外面が黒褐色～褐色、内面が橙色を呈する。2は扁平な丸底で、口縁部が外傾し大きく開くものである。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、段は下位に位置する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3は白石窯産の陶器の鉢である。外面の口縁部と体部の境に稜を持つ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部に平坦面を持つ。調整は、内外面共にロクロ調整である。胎土は5mm程度の砂礫を少量含みやや粗く、焼成は良好で、焼き締まり、色調は外面が赤色～暗赤灰色、内面は灰オリーブ色を呈する。4は曲物である。柾目の底板で、径0.1～0.3cm程の二連の穿孔がみられる。5は八郎窯産陶器の甕である。SE8・12・19からも同一個体の破片が出土し、接合している。口径が50cm弱ではあるが、同じ型式のものでは比較的小型のものである。口縁端部内面に凹面を持ち、口縁部が受け口状を呈する。肩部は大きく張り出し、胴部には幅0.2～0.3cm程度の沈線が1条巡る。調整は、口縁部が内外面ロクロ調整、胴部が外面ヘラナデ、内面ヘラナデ及びユビオサエである。胎土は10mm程度の砂礫を少量含みやや粗く、焼成は良好で、焼き締まり、色調は灰色を呈する。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



回数 番号	登録 番号	出土地点	組位	種別	器種	法量 (㎤)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	C-177	SE9	堆積土	土師器	环	(13.8)	—	(3.8)	口縁：32㌢ 体部：49㌢	口縁：32㌢～49㌢ 体部：53㌢～放射状の波打	側面系 外反漆仕上げ	26
2	C-176	SE9	堆積土	土師器	环	(13.6)	—	(4.0)	口縁：32㌢ 体部：49㌢	51㌢	内面黒色処理	26
3	1004	SE9	堆積土	陶器	鉢	(34.2)	—	(11.9)	口縁調整	口縁調整	白石窯 13c 前半～14c 前半	26
4	L-001	SE9	堆積土	木製品	曲物	法量 (㎤)			備考	写真 回数		
						全長	幅	厚さ				
						(27.6)	(5.8)	0.4	底板、柱目、貫通孔2ヶ所			26

第128図 SE9 井戸跡出土遺物（1）

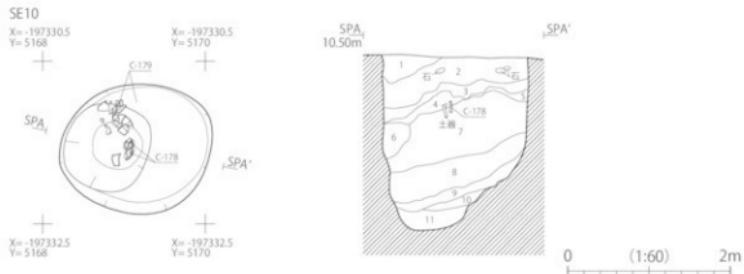


第129圖 SE9井戸跡出土遺物（2）

## SE10 井戸跡（第114・130・131図）

調査区南東部の95グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は「U」字状を呈する。検出した規模は、長軸186cm、短軸160cm、深さ217cmを測る。堆積土は11層に分層した。1・3・6層は黒褐色シルト、2・5層は灰黄褐色シルト、4層にはぶい黄褐色シルト、7層は明黄褐色シルトを主体とし、いずれも堆積状況から人為堆積土と考えられる。8層は灰色粘土質シルト、9～11層は黄褐色系細砂を主体とし、8・9層の下部に酸化鉄の集積がみられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・礫石器が出土している。このうち、土師器甕1点、土師器瓶1点、礫石器1点の計3点を掲載した（第131図-1～3）。1は土師器瓶である。長胴形の単孔で、外面の口縁部と胴部の境に段を持つ。口縁部は直立気味に立ち上がり、中位から外反する。口縁端部に向かって器壁は薄くなる。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキである。2は土師器甕である。胴部は下半の張りが強い球胴状を呈する。内面に輪積痕がみられ、その接合面に刻目が施されている。調整は、外面が胴部ハケメ後ヘラケズリ、内面はヘラナデである。3は凹石で、a・b両面に敲打痕、b面中央に磨面がみられる。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



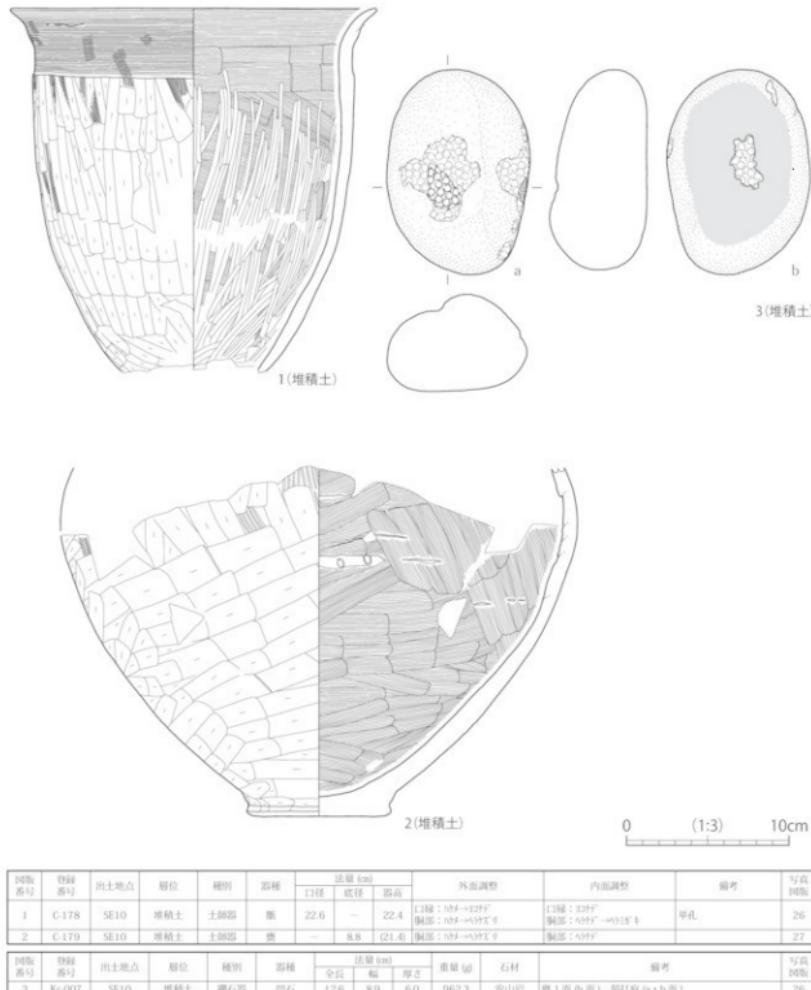
井戸跡継続表

遺構名	T 9eF	平面形	規模 (m)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
SE10	95	円形	186 × 160	217	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	石刷土粒・ブロック (5 ~ 100mm) 多量含む。一部グライ化。	
					2	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	石刷土との混合土。一部グライ化。	
					3	10YR3/2 黑褐色	シルト	石刷土粒・ブロック (5 ~ 20mm) 少量。炭化物微量含む。	
					4	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	石刷土粒・ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
					5	10YR4/2 ぶい黄褐色	シルト	石刷土との混合土。地主ブロック少量化。	
					6	10YR3/1 ぶい黄褐色	シルト	石刷土粒・ブロック。	
					7	10YR6/4 黄褐色	シルト	石刷土粒・ブロック (5 ~ 10mm) 地主ブロック微量含む。	
					8	2.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	下部に酸化鉄集積。	
					9	2.5Y3/4 黄褐色	細砂	下部に酸化鉄集積。	
					10	10YR5/4 ぶい黄褐色	細砂	上部に細砂帶状に含む。	
					11	10YR5/4 ぶい黄褐色	細砂	にぶい黄褐色土ブロック (20 ~ 50mm) 微量含む。	

第130図 SE10 井戸跡

## SE11 井戸跡（第114・132図）

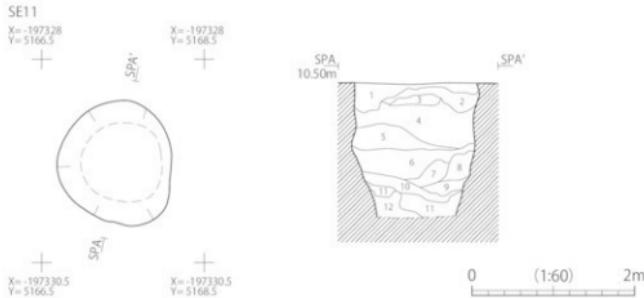
調査区南東部の88・95グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸153cm、短軸144cmを測り、深さは174cmまで確認した。堆積土は12層に分層した。1～6層はシルト、7～12層は砂質シルトないし粘土質シルトを主体とし、6層より



第131図 SE10井戸跡出土遺物

下層はグライ化している。堆積状況から1~11層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡観察表

遺構名	グリッド	平面形	断面(㎝)		層位	土色	土性	備考	基盤
			長軸	短軸					
SE11	88+95	円筒	153 × 144	(170)	1	10YR3/2 灰褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 200mm)・に赤い黄褐色土ブロック (100 ~ 200mm) 少量含む。	
					2	10YR4/2 赤灰褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 100mm) 多量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/3に5Y6/3灰褐色	シルト	黄褐色土ブロック (20 ~ 50mm) 多量含む。	
					4	10YR4/6 灰褐色	シルト	暗褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 少量含む。	
					5	10YR4/3に5Y6/3灰褐色	シルト	褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。	
					6	10Y4/1 灰色	シルト	黑色土ブロック (20 ~ 50mm) 多量含む。※テラ化	
					7	2.5GY4/1端オーバー灰褐色	粘土質シルト	黑色土ブロック (10 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。 ※グライ化	
					8	10YR5/4に赤い灰褐色	粘土質シルト	赤オリーブ灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm)・黒褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。※グライ化	
					9	2.5GY4/1端オーバー灰褐色	粘土質シルト	黑褐色土塊状に含む。※グライ化	
					10	10YR6/1 黑色	砂質シルト	黑褐色土塊状に含む。※グライ化	
					11	2.5GY4/1端オーバー灰褐色	砂質シルト	黑褐色土塊状に含む。※グライ化	
					12	2.5GY4/1端オーバー灰褐色	粘土質シルト	赤褐色土・中層底上 単層化	

第132図 SE11井戸跡

## SE12 井戸跡（第114・133図）

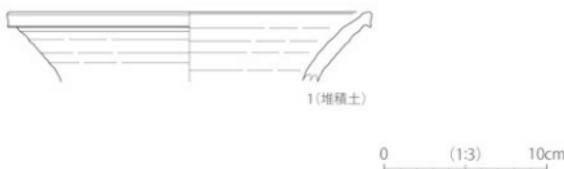
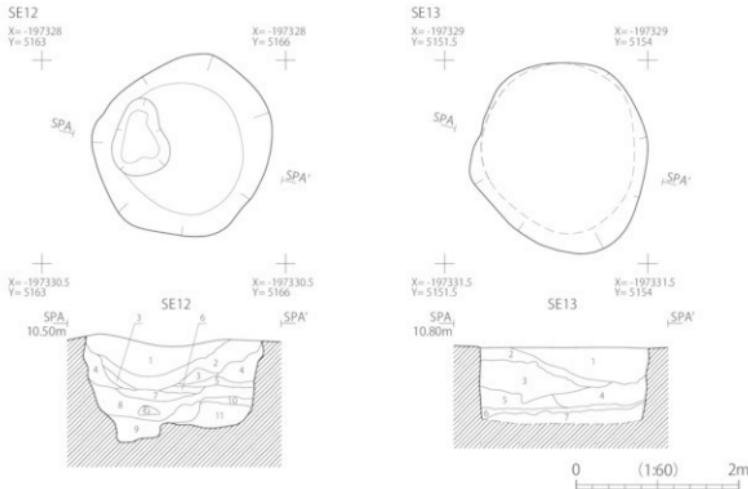
調査区南東部の87・88・94・95グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は隅丸の箱形を呈する。検出した規模は、長軸228cm、短軸220cm、深さ137cmを測る。堆積土は11層に分層した。堆積状況から5~11層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・瓦・陶器・土製品が出土している。このうち、須恵器1点を掲載した（第133図-1）。口縁部は外傾し、口縁端部に平坦面を持ち下端が垂下する。外面に自然軸が付着する。調整は内外面共にロクロ調整である。胎土は砂粒を多量に含む。色調は外面が灰色、内面が紫灰色を呈する。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SE13 井戸跡（第114・133図）

調査区南部の86・93グリッドに位置する。SD82、Pit110より新しい。平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸238cm、短軸222cmを測り、深さは97cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況から1~5層は人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・陶器が出土しているが、炭化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられるSD82より新しい。



地盤 番号	測線 番号	測土地点	層位	種別	容積	法量 (cm)	外面調整		内面調整	備考	写真 番号
							上径	底径	高さ		
1	E-026	SE12	堆積土	淤泥岩	燃	(22.2)	—	(4.3)	0.0調節	内面自然補付岩	22

第133図 SE12・13 井戸跡・SE12 井戸跡出土遺物

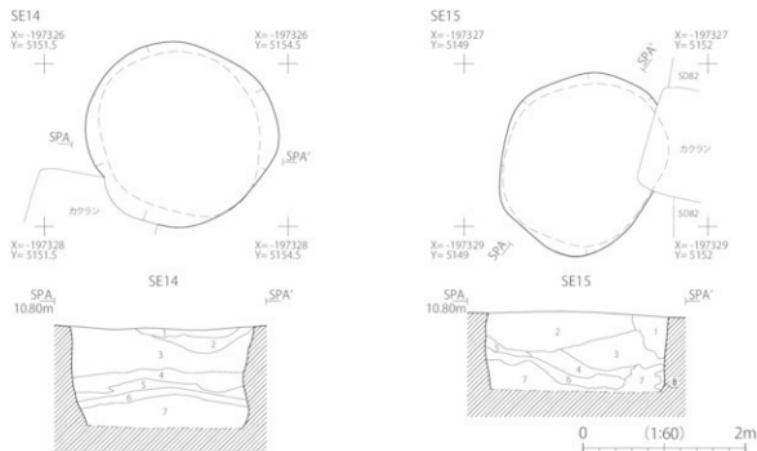
## SE14 井戸跡（第114・134図）

調査区南部の86グリッドに位置する。攪乱により南西部の上部が失われている。SD82より新しい。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸239cm、短軸228cmを測り、深さは124cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況からいざれも人為堆積土と考えられる。遺物は弥生土器・土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられるSD82より新しい。

## SE15 井戸跡（第114・134・135図）

調査区南部の86グリッドに位置する。SI212、Pit107より新しい。平面形状は円形を基調とし、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸226cm、短軸197cmを測り、深さは102cmまで確認した。堆積土は8層に分層した。堆積状況から1～7層は人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器・陶器が出土している。須恵器脚付盤1点、陶器1点の計2点を掲載した（第135図-1・2）。1は須恵器の脚付盤



井戸跡継続表

遺構名	Y+D	平面形	規模 (m) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	施用
SE14	86	円形	239 × 228 (124)	102	1	10YR5/4 鮎褐色	シルト	黒褐色土とN層土の混合土。	SD82より新しい。
					2	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。	
					3	10YR3/1 黑褐色	シルト	N層土埋立に含む。	
					4	10YR8/4 黃褐色	シルト	黄褐色砂質土と黒褐色土の混合土。	
					5	10YR6/4 に5-6 黄褐色	砂質シルト		
					6	10YR7/4 黄褐色	シルト	上部に鰐化鉄集結。	
					7	10YR3/1 黑褐色	シルト	黒褐色土とN層土の混合土。※グライ化	
SE15	86	円形	226 × 197 (102)	102	1	10YR4/4 鮎褐色	シルト	N層土ブロック (10mm程度) 少量含む。	SI212、 Pit107より新しい。
					2	10YR4/2 黄黒褐色	シルト	N層土ブロック (10～60mm) 褐ICU含む。	
					3	10YR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (10～50mm)・炭化物少量含む。	
					4	10YR5/2 黄褐色	シルト	N層土ブロック (10～100mm) 灰化に含む。	
					5	10YR3/2 黄褐色	シルト	褐色土ブロック (20～40mm) 少量含む。	
					6	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色土ブロック (50～100mm) 少量含む。	
					7	10YR4/4 黄色	シルト	N層土ブロック (10mm程度) 少量含む。	
					8	10YR7/6 明褐色	シルト	※崩落土	

第134図 SE14・15井戸跡

である。底部と脚部上端が残存する。調整は、外面が回転ヘラケズリ、内面はヘラケズリである。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は外面が灰白色、内面は褐色を呈する。2は八郎窯産陶器の甕である。口縁部は受け口状を呈し、口縁端部は緩い凹面を持つ。調整は内外面口クロ調整である。胎土は砂粒を少量含み、色調は暗青灰色を呈する。

時期決定できる遺物はないが、SI212より新しいことから、5bii期（奈良時代）以降と考えられる。



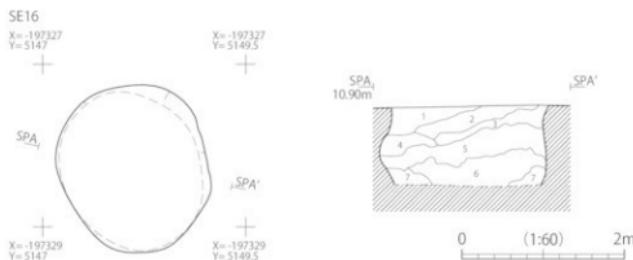
調査 番号	測線 番号	出土地点	層位	種別	基種	法量 (cm)	外面 調整	内面調整	備考	写真 番号
1	E-027	SE15	堆積土	陶器	付属	—	(1.5) 回転ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	22
2	1-005	SE15	堆積土	陶器	甕	—	(8.3) 口縁調整	口縁調整	八郎窯 13c中期	27

第135図 SE15 井戸跡出土遺物

#### SE16 井戸跡（第114・136図）

調査区南部の86グリッドに位置する。SI212より新しい。平面形状は円形、断面形状は崩落による広がりがみられるが、概ね箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸207cm、短軸183cmを測り、深さは102cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況から1～3・5・6層は人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器・陶器・打製石器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI212より新しいことから、5bii期（奈良時代）以降と考えられる。



#### 井戸跡観察表

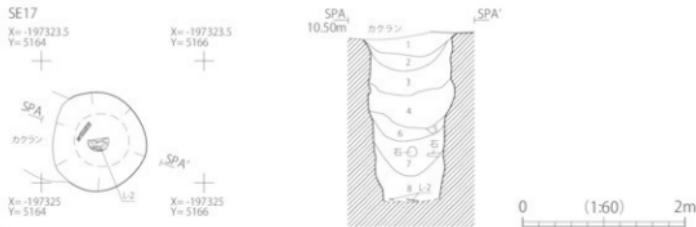
遺構名	グリッド	平面形	断面(右)		層位	主色	主性	備考	重複
			長軸	短軸					
SE16	86	円形	207 × 183 (102)		1	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	SI212より 新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 塗褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。	
					3	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。	
					4	10YR3/4 褐褐色	シルト	※堆積土	
					5	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (100 ~ 200mm) 多量。褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。	
					6	10YR3/4 褐褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (30mm程度) 少量含む。	
					7	10YR4/4 褐色	シルト	※堆積土	

第136図 SE16 井戸跡

## SE17 井戸跡（第114・137・138図）

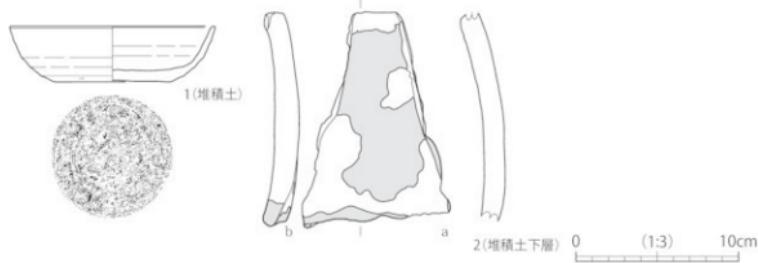
調査区東部の80・81・87・88グリッドに位置する。SI198より新しい。平面形状は円形、断面形状は筒形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸122cm、短軸118cmを測り、深さは216cmまで確認した。堆積土は8層に分層した。堆積状況から3～8層は人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器・陶器・木製品・打製石器が出土している。このうち、須恵器1点、陶器1点、木製品1点の計3点を掲載した（第137図-1、2、第138図-3）。1は須恵器環である。底部の切り離しは回転系切りで、外側の体部下端から底部周縁には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は灰色を呈する。2は在地産陶器甕の破片資料であるが、a・b面に研磨痕がみられ、砥石に転用されたと考えられる。胎土は砂粒を微量含み密で、色調は外側が灰赤色、内側はぶい赤褐色を呈する。3は曲物である。征目材の底板で、上面に3ヶ所の貫通孔、側面に10ヶ所の穿孔がみられ、側板の圧痕も認められた。

時期決定できる遺物はないが、5bii期（奈良時代）以降と考えられるSI198より新しい。



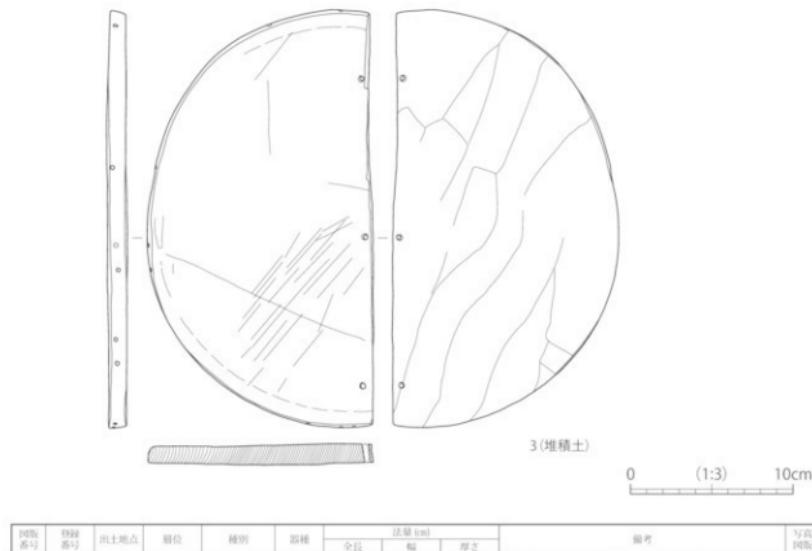
井戸跡概要表

遺構名	Y(手)	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	基盤
			長軸	短軸					
SE17	80・81・87・88	(円形)	(122)	× 118	(216)	1 TOYRC/3 黒褐色	シルト	IV 剥離土・炭化物少量含む。	
						2 TOYRZ/3 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。	
						3 TOYRC/3 黒褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(10mm程度)多量含む。	
						4 TOYRZ/2 黒色	砂質シルト	IV 剥離土ブロック(10mm程度)多量含む。※グラウイ化	SI198より 新しい。
						5 TOYRZ/3 ぶい赤褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(30～50mm)多量含む。※グラウイ化	
						6 TOYRZ/2 黒色	砂質シルト	IV 剥離土ブロック(30～50mm)少量含む。※グラウイ化	
						7 TOYRC/1 黒褐色	シルト	研磨土・植物遺体多量含む。※グラウイ化	
						7.5VA/1 灰色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック(30～50mm)多量含む。※グラウイ化	



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法寸(cm)			外部調整	内部調整	備考	写真 番号
						口径	底径	器高				
1	E-028	SE17	堆積土	須恵器	环	12.6	7.0	3.4	切削調整 体下端：回転ヘラケズリ 底部：回転系切り→回転回転ヘラケズリ調整			27
2	1011	SE17	堆積土下層	陶器	甕	-	-	-	ハサフ	ハサフ	砥石に転用・在地産 13c 楕平～14c 前半	27

第137図 SE17 井戸跡・出土遺物（1）



第138図 SE17 井戸跡出土遺物（2）

## SE18 井戸跡（第114・139図）

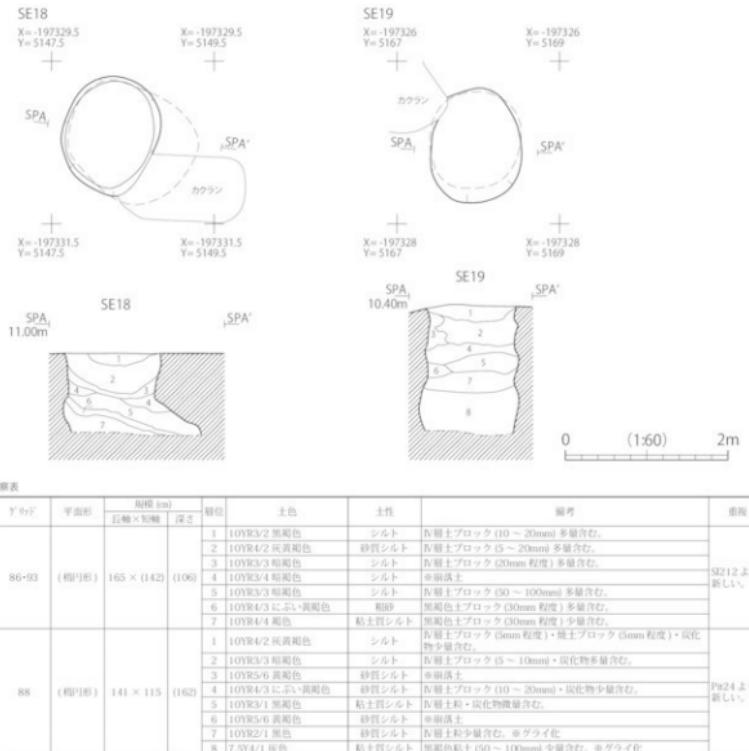
調査区南部の86・93グリッドに位置する。SI212より新しい。平面形状は楕円形を呈する。断面形状は、検出した下部の壁面が崩落による広がりがみられるが、箱形と推定される。底面は未検出である。検出した規模は、長軸165cm、短軸142cmを測り、深さは106cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。堆積状況から崩落土の4層を除き、いずれも人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器・鉄滓が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI212より新しいことから、5bii期（奈良時代）以降と考えられる。

## SE19 井戸跡（第114・139図、写真図版27）

調査区東部の88グリッドに位置する。Pit24より新しい。平面形状は楕円形、断面形状は筒形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸141cm、短軸115cmを測り、深さは162cmまで確認した。堆積土は8層に分層した。堆積状況から崩落土の3・6層を除き、いずれも人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器・陶器・青磁が出土している。陶器1点、青磁1点（写真のみ）の計2点を掲載した（第139図-1、写真図版27-9）。1は在地産陶器の甕である。底部から体部は外傾して立ち上がる。調整は、外面が胴部下半から底部にかけヘルナデ、内面は被熱によるためか溶融しており不明である。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は外面が明赤褐色、内面は黒褐色を呈する。写真図版27-9は龍泉窯青磁の皿ないし鉢の破片資料である。貫入がみられる。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡調査表

遺構名	Y (m)	平面形	周囲 (m) 長軸×短軸	深さ m	層位	土色	土性	備考		重積
								幅 (m)	高さ (m)	
SE18	86.93	(楕円形)	165 × (142) (106)	1.04m	1	10YR3/2 淡黄褐色	シルト	粘土上プロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SE12より新しい。	
					2	10YR4/2 淡黄褐色	砂質シルト	粘土上プロック (5 ~ 20mm) 多量含む。		
					3	10YR3/3 淡褐色	シルト	粘土上プロック (20mm 程度) 多量含む。		
					4	10YR3/4 淡褐色	シルト	砂質土		
					5	10YR3/5 淡褐色	シルト	粘土上プロック (5 ~ 10mm) 多量含む。		
					6	10YR4/3 に5~6淡褐色	砂質	粘褐色上プロック (30mm 程度) 多量含む。		
					7	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	粘褐色上プロック (30mm 程度) 少量含む。		
SE19	88	(楕円形)	141 × 115 (162)	1.04m	1	10YR4/2 淡黄褐色	シルト	粘土上プロック (5mm程度) → 砂土プロック (5mm程度) 砂化物少量化。	SE24より新しい。	
					2	10YR3/3 淡褐色	シルト	粘土上プロック (5 ~ 10mm) 砂化物多量含む。		
					3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	砂質土		
					4	10YR4/3 に5~6淡褐色	砂質シルト	粘土上プロック (10 ~ 20mm) 砂化物少量含む。		
					5	10YR3/1 淡褐色	粘土質シルト	粘土上プロック (5 ~ 10mm) 砂化物少量含む。		
					6	10YR2/6 淡褐色	砂質シルト	砂質土		
					7	10YR2/1 黒色	砂質シルト	粘土上と少量化。※グライ化。		
					8	7.514/1 黑色	粘土質シルト	粘褐色粘土 (50 ~ 100mm) 少量含む。※グライ化。		

測量番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法面 (m)			外面調整	内面調整	備考	写真番號
						C口	B口	高さ				
1	1006	SE19	堆積土	陶器	甕	-	(21.4)	(7.4)	胴部下平～底部：ハサフ	被熱？により不明	右堆積 13c後～14c前半頃	27
-	J001	SE19	堆積土下層	青磁	皿 or 鉢	-	-	-	堆積空室	写真面載の26		27

第139図 SE18・19井戸跡・SE19井戸跡出土遺物

## SE20 井戸跡（第114・140・141図）

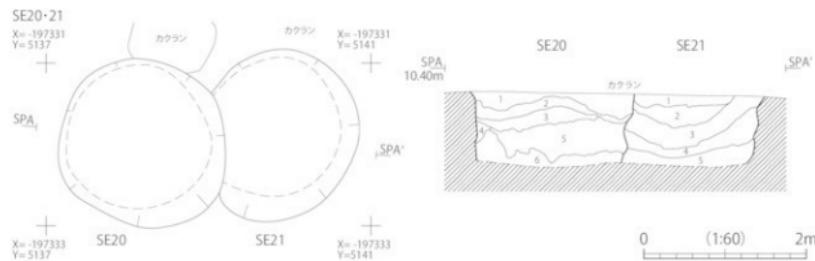
調査区南西部の92 グリッドに位置する。擾乱により上部が失われている。SE21より新しい。平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸208cm、短軸208cmを測り、深さは96cmまで確認した。堆積土は6層に分層した。堆積状況から1～3・5層は人為堆積土と考えられ、6層はグライ化している。遺物は土師器・須恵器・陶器・石製品が出土している。このうち、陶器1点、砥石1点の計2点を掲載した（第141図-1・2）。1は在地産陶器の鉢である。口縁部は直線的に外傾し、口縁端部に平坦面を持つ。調整は内外面共にロクロ調整である。胎土は砂粒を微量含み密で、焼成は良好で、焼き縮まり、色調は外面が灰赤色、内面は青灰色を呈する。2は砥石である。底面は2面で、いずれの面にも溝状痕がみられる。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SE21 井戸跡（第114・140図）

調査区南西部の92 グリッドに位置する。擾乱により上部が失われている。SE20より古い。平面形状は円形を基調とし、断面形状は箱形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸214cm、短軸196cmを測り、深さは96cmまで確認した。堆積土は5層に分層した。下層になるにしたがい粘性が強くなり、グライ化して色調も暗くなる。1～4層は褐色系シルトを主体とし、IV層なしで浅黄色土ブロックを含むことから、人為堆積土と考えられる。5層は暗灰色粘土質シルトである。遺物は弥生土器・土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

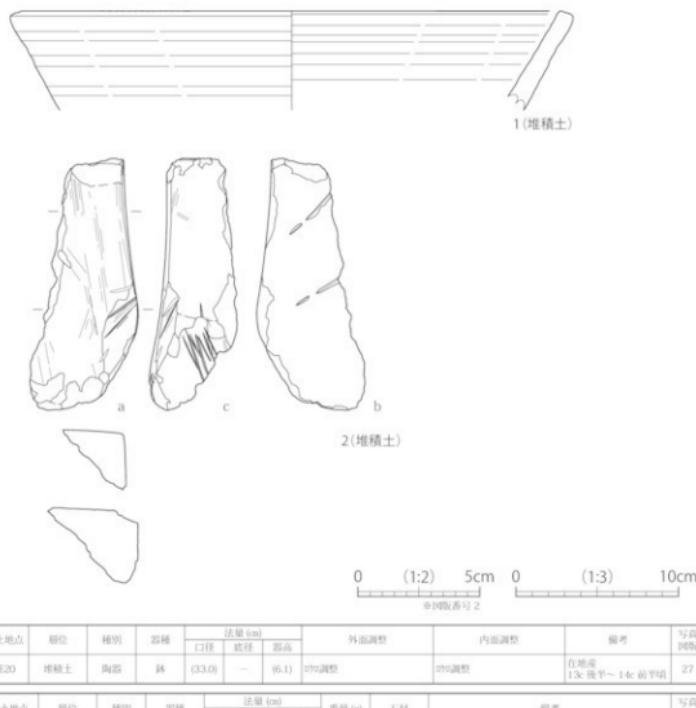
時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡概要表

遺構名	「#」	平面形	断面 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
SE20	92	(円形)	(208) × (208)	(96)	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (10～100mm)・黒褐色土ブロック (10～50mm) 多量含む。	SE21より新しい。
					2	10YR3/4 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック (10mm程度) 多量含む。	
					3	10YR2/2 黑褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5～30mm) 多量含む。	
					4	10YR3/6 黄褐色	シルト	暗褐色土	
					5	10YR2/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm) 多量含む。一部グライ化。	
					6	N3/D 灰褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (10mm程度) 多量含む。炭化物微量含む。	
SE21	92	(円形)	(214) × (196)	(96)	1	10YR5/1 灰褐色	シルト	浅褐色土ブロック (5～30mm) 多量含む。炭化物微量含む。	SE20より古い。
					2	10YR3/1 黑褐色	シルト	浅褐色土との混合土。	
					3	10YR4/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～150mm) 少量含む。一部グライ化。	
					4	10YR4/3 にじみ 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～50mm) 多量含む。一部グライ化。	
					5	N3/D 灰褐色	粘土質シルト	暗オリーブ色土ブロック (5～50mm) 多量含む。一部グライ化。	

第140図 SE20・21 井戸跡



第141図 SE20井戸跡出土遺物

## SE22井戸跡（第114・142図）

調査区南西部の85・92グリッドに位置する。擾乱により上部が失われている。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸201cm、短軸171cmを測る。深さ103cmまで振り込みを行ったところ、径50cmの導水管の痕跡を確認した。堆積土は11層に分層した。堆積状況から崩落土の7・10層を除き、いずれも人為堆積土と考えられ、そのうち1～4層は導水管痕跡内の堆積土である。遺物は弔生土器・土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

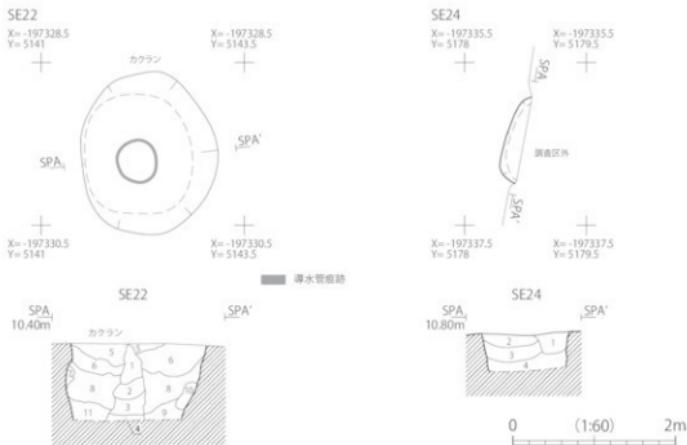
時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SE24井戸跡（第114・142図）

調査区南東部の102グリッドに位置する。東側の大部分は調査区外に延びる。SD112より新しい。平面形状は円形を基調とし、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸116cm、短軸24cmを測り、深さは49cmまで確認した。堆積土は4層に分層した。上層にはぶい黄褐色シルト、下層は黒褐色シル

トないし粘土質シルトを主体とする。堆積状況から人為堆積土と考えられる。遺物は出土していない。

時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられるSD112より新しい。



井戸跡解説表

遺構名	ヤツリ <sup>1)</sup>	平面形	面積 (cm)		組位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
SE22	85-92	(円形)	(201) × (103)	(171)	1	10YR6/4 に、5-7 黄褐色	砂質シルト	黒色ヒブロック (30 ~ 40mm) 多量含む。※薄水質腐泥	
					2	10YR2/2 黑褐色	シルト	明黄褐色細粒ブロック (5mm程度) 多量含む。※薄水質腐泥	
					3	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	从黄褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※薄水質腐泥	
					4	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	从黄褐色土ブロック (5mm程度) • 炭化物多量含む。 ※薄水質腐泥	
					5	10YR4/3 に、5-7 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック (30mm程度) 少量含む。	
					6	10YR6/4 に、5-7 黄褐色	砂質シルト	黒褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。	
					7	10YR6/4 に、5-7 黄褐色	砂質シルト	砂質土	
					8	10YR2/3 黑褐色	シルト	明黄褐色細粒ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
					9	10YR2/2 黑褐色	シルト	明黄褐色細粒ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
					10	10YR6/4 に、5-7 黄褐色	砂質シルト	砂質土	
					11	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	从黄褐色土ブロック (30mm程度) • 炭化物多量含む。 ※薄水質腐泥	
SE24	102	(円形)	(116) × (24)	(49)	1	10YR4/3 に、5-7 黄褐色	シルト	黒褐色土斑状に、N刷毛科少量、N刷毛ブロック (30mm程度) 褐鐵化。	SD112より 新しい。
					2	10YR3/3 に、5-7 黄褐色	シルト	N刷毛科少量含む。 に、5-7 黄褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 多量、N刷毛ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。	
					3	10YR3/2 黑褐色	シルト	に、5-7 黄褐色土ブロック (5 ~ 200mm) 多量含む。※一部グライ化	
					4	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	N刷毛ブロック (5 ~ 200mm) 多量含む。※一部グライ化	

第142図 SE22・24 井戸跡

## SE25 井戸跡（第114・143図）

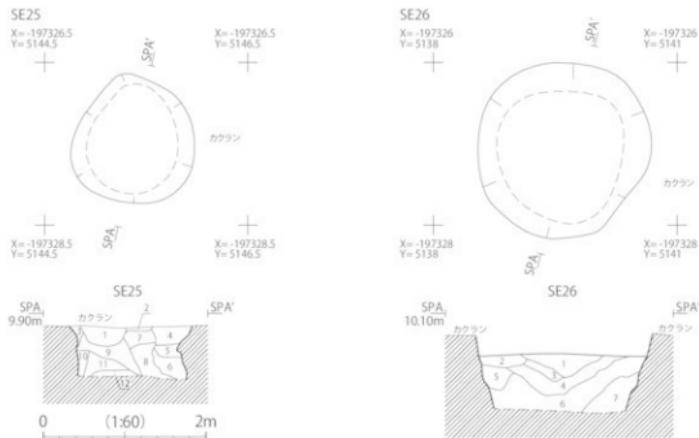
調査区南西部の85・86 グリッドに位置する。撲乱により上部が失われている。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸 154cm、短軸 151cm を測り、深さは 67cm まで確認した。堆積土は 12 層に分層した。1～9 層は砂質シルトを主体とし、10～12 層は粘土質シルト及びシルトの互層である。いずれもブロック土を含むことから、人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SE26 井戸跡（第114・143図）

調査区南西部の85グリッドに位置する。撲滅により上部が失われている。重複する遺構はない。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。底面は未検出である。検出した規模は、長軸220cm、短軸214cmを測り、深さは103cmまで確認した。堆積土は7層に分層した。1層はシルト、2~4層は粘土質シルト、5~7層は砂質シルトを主体とし、堆積状況からいずれも人為堆積土と考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



井戸跡概観

遺構名	グリッド	平面形	周囲(cm)		層位	土色	土性	層号	備考
			長軸	短軸					
SE25	85+86 (PWB)	(154) × (151)	867	154	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	1	褐色土ブロック(5~50mm)・焼化鉄斑多量、炭化物少量含む。
					2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	2	褐色土ブロック(5~10mm) 多量含む。
					3	2.5Y3/3 稲オーブ黒色	砂質シルト	3	褐色土ブロック(5~20mm) 少量含む。
					4	5Y3/2 オリーブ黒色	砂質シルト	4	褐色土ブロック(5~20mm) 多量、黒褐色土ブロック(5~40mm) 少量、マンガニカ微量、一部に焼化鉄含む。
					5	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	5	褐色土ブロック(5~30mm) 多量、炭化物微量含む。
					6	2.5Y3/3 稲オーブ黒色	砂質シルト	6	褐色土ブロック(5~10mm) 多量、黒褐色土ブロック(5~30mm) 少量含む、一部グライ化。
					7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	7	褐色土ブロック(5~30mm) 多量含む。
					8	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	8	褐色土ブロック(5~30mm) 多量含む。
					9	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	9	褐色土ブロック(5~10mm) 褐色含む。
					10	2.5Y3/4 黒褐色	粘土質シルト	10	褐色土ブロック(20~30mm) 少量含む、一部グライ化。
					11	2.5GY5/1 オリーブ灰褐色	シルト	11	オリーブ灰褐色土ブロック(20~40mm) 微量、上部に焼化鉄斑含む、一部グライ化。
					12	10Y4/1 灰色	粘土質シルト	12	オリーブ灰褐色土ブロック(50~200mm) 多量含む、一部グライ化。
SE26	85 (PWB)	(220) × (214)	103	103	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	1	褐色土ブロック(5~50mm)・焼化鉄斑多量、灰褐色土ブロック(5~10mm)・黄褐色土ブロック(5mm程度)少量化。
					2	10YR4/4 黒色	粘土質シルト	2	マンガニカ多量、一部に焼化鉄斑含む。
					3	5Y5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	3	褐色鉄斑多量、灰褐色土ブロック(5~50mm) 少量化。
					4	7.5Y5/3 オリーブ黒色	粘土質シルト	4	褐色土帶間に、焼化鉄斑多量、一部にマンガニカ含む。
					5	2.5Y5/3 黒褐色	砂質シルト	5	砂質シルト、灰褐色土帶間に、焼化鉄斑多量。
					6	5Y4/1 灰色	砂質シルト	6	灰褐色土帶間に、灰褐色土ブロック(5~30mm)・焼化鉄斑微量含む。
					7	2.5GY5/1 オリーブ灰褐色	砂質シルト	7	灰褐色土帶間に、灰褐色土ブロック(5~20mm)・焼化鉄斑微量含む、一部グライ化。

第143図 SE25・26 井戸跡

## 第2節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物（第144～281図）

本節では、基本層IV層上面で検出した遺構のうち、重複関係や出土遺物から当該期と考えられる遺構について記載する。当該期の遺構は擾乱や削平の影響を受けており残存状況は良好とはいえないが、竪穴住居跡同士の重複も激しいことから、具体的な構造が明らかにできなかったものも存在する。

検出された遺構は、竪穴住居跡45軒、掘立柱建物跡2棟、区画溝1条、材木列跡1条、溝跡1条、土坑16基、性格不明遺構1基、ピット206基、河川跡である。このうち、SD82区画溝は南側に隣接する西台畠遺跡第9次調査で検出された溝跡の北側延長部分と考えられ、同一番号を使用している。

以下、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、区画溝、材木列跡、溝跡、土坑、性格不明遺構、ピット、河川跡の順で記載する。



第144図 主要遺構配置図

## (1) 穫穴住居跡 (第144~247図)

竪穴住居跡45軒 (SI179~212・242・243・248・249・251~255) を検出した。調査区内における分布は、SD82周辺と北部及び南東部に集中しており、特に北部中央から北東部にかけて遺構の重複が激しい。しかし、調査区全体で削平や擾乱の影響を受けており、特に影響の大きい調査区内的南西部では竪穴住居跡の検出は皆無である。西半部に比べて比較的影響の小さい東半部でも、床面で検出した住居跡や掘り方のみ残存していた住居跡の検出が目立つ。そのため、平面形状やカマドの有無が確認できなかった住居跡が多数存在している。

竪穴住居跡の平面形状を把握できたものは、方形ないし隅丸方形を主体とする。主軸方向は、N=25~48°-Wと西側に傾く一群 (SI179・186A・186B・187・189・190・196・205・206・243・248・255) と N=11°-E~N=10°-W と真北方向を指向する一群 (SI180・181・183・185・188・193・197~200・202・204・207~209・212・251・254)、その中间の N=12~19°-W の一群 (SI184・192・194・195・203・210・252A・252B) がある。このほか、東西方向を指向するもの (SI182・191)、主軸が明確にならな



第145図 穫穴住居跡・掘立柱建物跡配置図

かったもの（SI201・211・242・249・253）がある。規模は、一辺420～580cm程度のものが中心で、一辺856cmの最大型のもの（SI252A）から一辺800cm前後の大型のもの（SI200・209・210）、長軸700～750cm前後の比較的大型のもの（SI195・212）、一辺350cm程度の小型のもの（SI191）がある。カマド及びその痕跡は18軒（SI179～182・184・187・190・191・193・195・200・202・208～210・212・242・249）から検出された。カマドの付設位置は北壁側を基本とするが、SI182は西壁側、SI191は東壁側に付設されている。燃焼部はいずれも壁内に位置している。袖は基本層IV層土を主体として構築されており、礫などの芯材を伴って検出されたものが4軒（SI179・182・195・210）認められた。煙道部の全体を把握できるものは、いずれも狭長で、煙出し部がピット状に落ち込むものや緩やかに下がるもの、平坦なものなど多様な形態がみられ、また天井部が残存していたもの（SI190）も認められた。柱穴は、主柱穴を対角線上に4基配置するものが基本で、SI191のような小型の竪穴住居跡では、主柱穴が検出されていない。その他の施設としては、周溝や貯蔵穴、カマドに関連する土坑、間仕切り溝などがある。出土遺物は、土師器壺・甕を主体として、須恵器・鉄製品・石製品などが出土している。これらの竪穴住居跡の時期は、4a期（住社式期新段階）から5bii期（奈良時代）にかけて構築されたものと考えられる。

#### SI179 竪穴住居跡（第146～148図）

【位置・確認】 調査区北西部の41・49グリッドに位置する。重複遺構や撹乱により、北東及び北西コーナー付近や南端部などの大半が失われている。

【重複】 SD103・110より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸474cm、短軸472cmを測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-36°-Wである。

【堆積土】 8層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周溝堆積土である。4～6層は焼土ブロックや炭化物粒を含むカマド関連の堆積土である。7・8層は掘り方埋土で、7層は灰白色粘土ブロックを多量に含む貼り床土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は18～25cmである。

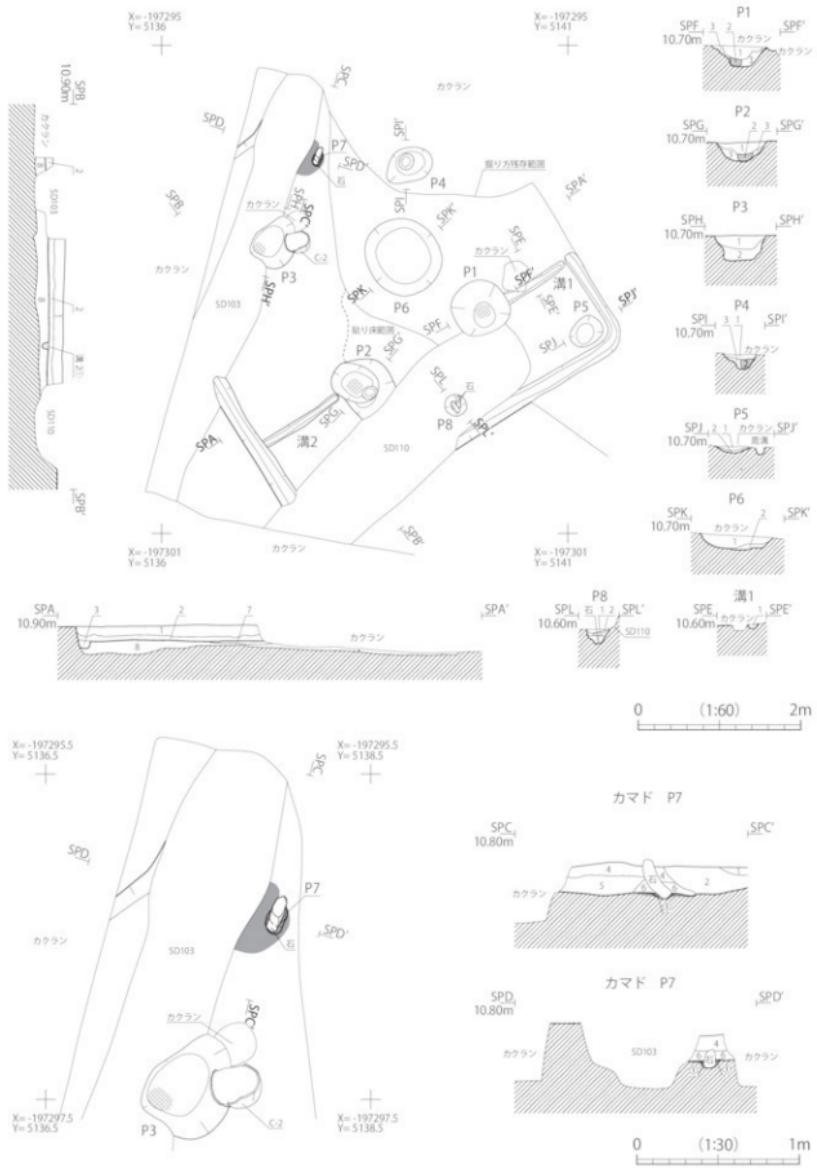
【床面】 中央部の南側は貼り床土である7層上面を床面とし、その他は掘り方埋土である8層上面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基（P2・3）、撹乱底面及び重複遺構底面から2基（P1・4）、掘り方底面から3基（P9～11）、総数7基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸60～73cm、深さ16～31cmを測る。P1・2・4で径14～20cmの柱痕跡が確認され、P1～3の底面には径11～18cmの変色範囲が認められた。

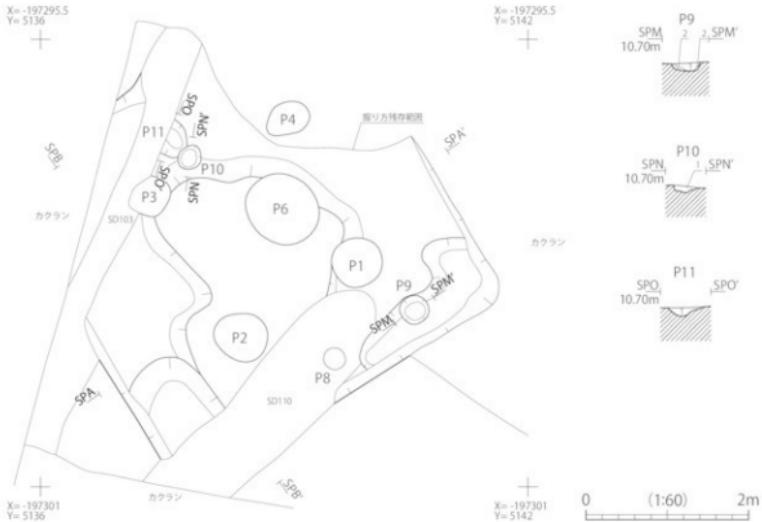
【周溝】 残存部分では、北壁を除き壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅11～25cm、深さ5～12cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、燃焼部底面の焼面のみが残存している。焼面の規模は長軸44cm、短軸25cmで、焚口側の東寄りには長さ27cm、幅8cm、厚さ8cmの棒状礫の支脚が埋設されている（P7）。

【その他の施設】 撹乱底面から土坑2基（P5・6）、重複遺構底面からピット1基（P8）、床面及び撹乱底面から溝2条（溝1・2）を検出した。P6は床面の中央に位置し、規模は長軸96cm、深さ17cmを測る。P8はカマドと正対する南壁際の中央付近に位置し、堆積土中からは棒状礫が2点出土している。出入り口に関連する施設や埋納坑の可能性も考えられるが、性格は不明である。溝1・2は間仕切り溝と考えられ、規模は幅9～15cm、深さ7～10cmを測り、断面形状は「U」字状を呈する。



第146図 SI179 積穴住居跡 (1)



SI179 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 70mm) 多量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (10 ~ 50mm)・炭化物少量含む。
雨溝	3	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。
	4	10YR4/3に5y 黄褐色	シルト	粘土質土と多量、炭化物・焼土和微量含む。
カマド	5	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土質土と多量、土壁上ブロック (5 ~ 20mm)・黒褐色土少量含む。
	6	10YR4/4に5y 黄褐色	シルト	炭化物・土壁上微量含む。
住居剥り方	7	10YR5/4 黄褐色	シルト	0.01m柱状ブロック (10mm) 多量、燒土と少量、炭化物微量含む。※貼り床土。
	8	10YR6/6 明黄色	シルト	明黄色土ブロック (5 ~ 100mm) 少量、炭化物和微量含む。

SI179 斧置堆積土跡記表

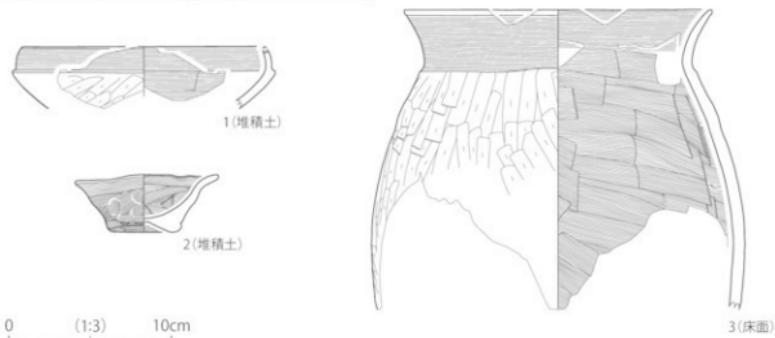
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3に5y 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、灰白色土ブロック (5 ~ 20mm)・炭化物少量、燒土ブロック (20mm程度) 多量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黃褐色土と多量、炭化物和微量含む。※柱軸跡
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘土質土と多量、炭化物少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/3 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物微量含む。※柱軸跡
	3	10YR6/6 明黄色	シルト	に5y 黄褐色土と少量含む。
P3	1	10YR3/3 明黄色	シルト	灰褐色土と多量、炭化物・焼土和微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黃褐色土と粘土微量含む。
P4	1	10YR4/3に5y 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物・燒土和微量含む。
	2	10YR3/4 明黄色	シルト	粘土質土と多量、炭化物・焼土和微量含む。※柱軸跡
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土と粘土微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	2	10YR5/3に5y 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P6	1	10YR4/3に5y 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm)・炭化物・燒土少量含む。
	2	10YR5/4 黄褐色	シルト	粘土質土と少量含む。
P7	①	10YR5/4に5y 黄褐色	シルト	燒土ブロック (10mm程度) 多量含む。
P8	1	10YR3/3 明黄色	シルト	灰褐色土と多量、炭化物少量含む。
	2	10YR3/4 明黄色	シルト	灰褐色土と少量、炭化物・焼土和微量含む。
	3	10YR4/3に5y 黄褐色	シルト	に5y 黄褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。
P9	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR6/3に5y 黄褐色	シルト	粘土質土と少量含む。
P10	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土質土ブロック (10 ~ 50mm) 多量、燒土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物微量含む。
P11	1	10YR5/4に5y 黄褐色	シルト	炭化物と多量、燒土和微量含む。
消1	1	10YR3/4 明黄色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
消2	③	10YR3/3 明黄色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。

第147図 SI179 穫穴住居跡 (2)

SI179 施設調査表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(6.8) × 67	(26)	柱穴、底面変色
P2	(楕円形)	(7.3) × 66	30	柱穴、底面変色
P3	(楕円形)	66 × (5.3)	31	柱穴、底面変色
P4	(楕円形)	69.0 × (4.4)	(16)	柱穴
P5	(楕円形)	(4.2) × (3.3)	10	
P6	(円形)	69.0 × 68.9	(17)	
P7	円形	19 × 12	4	支脚埋設穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	(円形)	(2.7) × (2.7)	(20)	SD110 底面焼出
P9	円形	35 × 35	10	掘り方焼出
P10	円形	32 × 28	9	掘り方焼出
P11	(楕円形)	(4.7) × (3.3)	10	掘り方焼出
溝1	—	84 × 10 ~ 15	9 ~ 10	削り切り溝
溝2	—	108 × 9 ~ 12	7 ~ 9	削り切り溝



測定番号	測定番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			外沿調整	内沿調整	備考	写真番号
						口径	底径	高さ				
1	C-001	SI179	堆積土	土師器	环	(14.8)	—	(3.8)	口縁: 32.7 体部: 49.9 cm	口縁: 32.9 cm 体部: 50.9 cm	開口系	27
2	C-003	SI179	堆積土	土師器	二つ切	8.7	—	3.5	口縁: 32.7 cm 体部: 49.9 cm	口縁: 32.9 cm 体部: 50.9 cm	—	27
3	C-002	SI179	床面	土師器	甕	(19.0)	—	(8.4)	口縁: 32.7 cm 体部: 50.9 cm	口縁: 32.9 cm 体部: 50.9 cm	—	27

第148図 SI179 穫穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ2~18cmで、中央部が高く、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・打製石器・礫石器が出土している。このうち、土師器環1点、ミニチュア土器1点、土師器甕1点の計3点を掲載した(第148図-1~3)。1・2は堆積土、3は床面からの出土である。1は土師器環で、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つ。緩やかに内湾する体部から口縁部が短く内湾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は外面がぶい赤褐色、内面はぶい橙色を呈する。2は土師器のミニチュア土器である。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反して大きく開く。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ユビナデ、内面ヘラナデ、底部は外面ヘラナデである。3は土師器甕である。胴部が長胴形を呈し、外面の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部は緩やかに外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第148図-3)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。

#### SI180 穫穴住居跡(第149~151図)

【位置・確認】 調査区北西部の49・57グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により、西側及び南側の大半が失われている。

【重複】 SI181、SD110より新しく、SD103・109より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸510cm、短軸327cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-6°-Eである。

【堆積土】 10層に分層した。1層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土である。3~5層はカマド関連の堆積土で、3層はにぶい黄褐色シルトを主体とする天井崩落土と考えられる。6・7層はカマド袖の構築土で、8層はカマド掘り方埋土である。9・10層は掘り方埋土である。

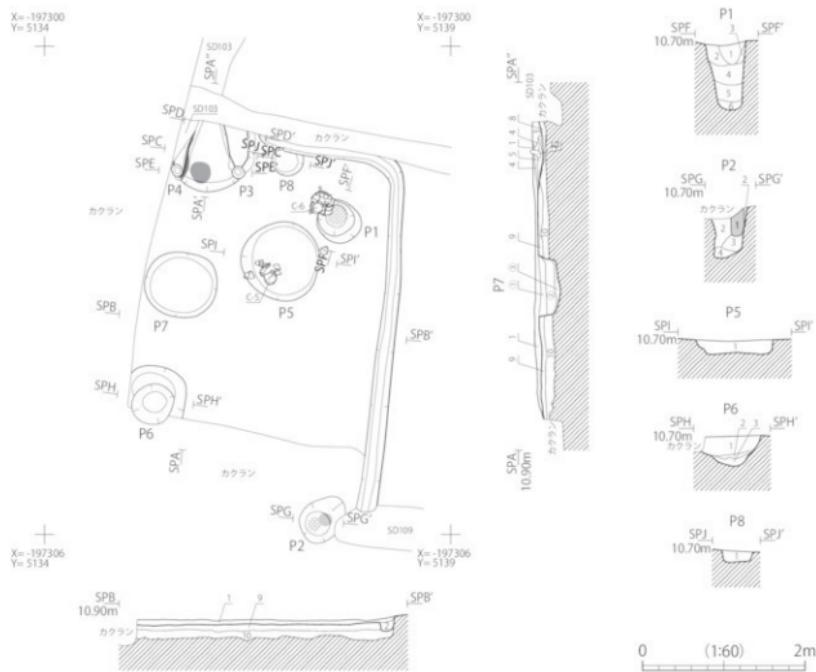
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は7~9cmを測る。

【床面】 掘り方埋土である9層上面を床面とし、概ね平坦である。

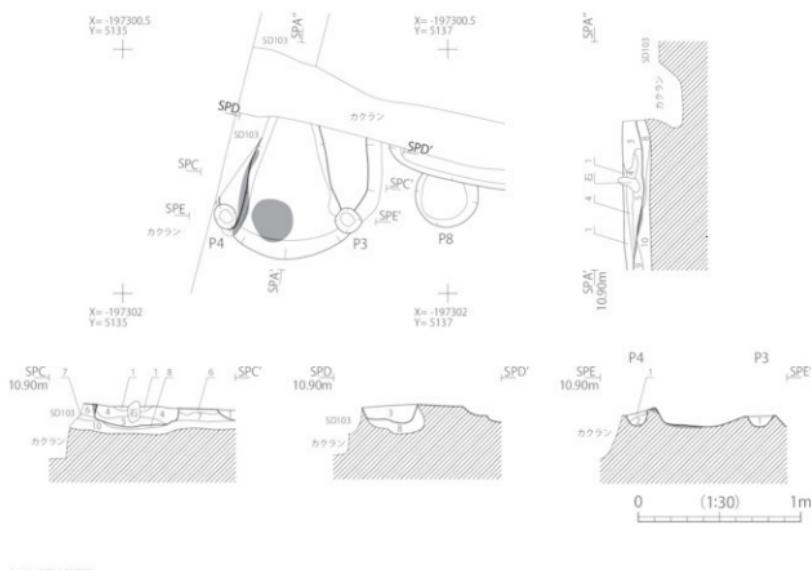
【柱穴】 床面から1基(P1)、搅乱底面から1基(P2)、総数2基を検出した。P1・2は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸54~61cm、深さ64~85cmを測る。いずれも底面には変色範囲が認められ、P2では径16cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存部分では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅11~25cm、深さ5~10cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部奥壁及び煙道部、両袖の一部が失われている。袖は壁面に「ハ」字状に付設されている。袖の規模は、東袖が長さ57cm、幅34cm、西袖が長さ60cm、幅20cmを測る。両袖の先端部に芯材を埋設したと考えられるピット(P3・4)が検出され、西袖には被熱痕跡が



第149図 SI180 積穴住居跡(1)



SI180 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物類微量含む。
側溝	2	10YR4/4 暗黄褐色	シルト	IV層土多量、IV層土ブロック (100mm程度) 多量、微量含む。
	3	10YR4/4 にぶい 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 40mm) 多量、土土ブロック (5 ~ 30mm) 異常含む。※天井断面土。
カマド	4	7.5YR3/2 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、土土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物類微量含む。
	5	7.5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	地土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物類微量含む。
	6	10YR6/4 明黃褐色	シルト	灰褐色地土料微量含む。
カマド廻り	7	10YR5/4 黄褐色	シルト	灰褐色地土料微量含む。
	8	7.5YR3/2 暗褐色	シルト	地土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類少額含む。
カマド廻り	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰褐色地土ブロック (10 ~ 100mm) 多量、白色粘土料少額、炭化物類、地土料微量含む。
住居廻り	10	10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物類、地土料微量含む。

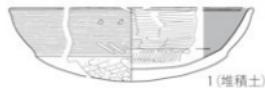
SI180 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土少額、炭化物類、地土料微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) にぶい 黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類、地土料微量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類、地土料微量含む。
	5	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類少額、地土料微量含む。
	6	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類少額、地土料微量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土少額、地土料微量含む。
	2	10YR6/4 明黃褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	にぶい 黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、IV層土少額、炭化物類微量含む。
	4	2.5YR5/3 にぶい 黄褐色	シルト	灰褐色地土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
P3	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物類、地土料微量含む。
P4	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
P5	2	7.5YR4/3 暗褐色	シルト	地土料多量、炭化物類微量含む。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 50mm)、地土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物類微量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm)、地土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	3	10YR5/4 黄褐色	シルト	灰褐色地土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物類、地土料微量含む。
P7	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物類微量含む。
	②	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物類微量含む。
	③	10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト	にぶい 黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm)、IV層土少額、炭化物類微量含む。
P8	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、地土ブロック (5 ~ 10mm)、炭化物類少額含む。

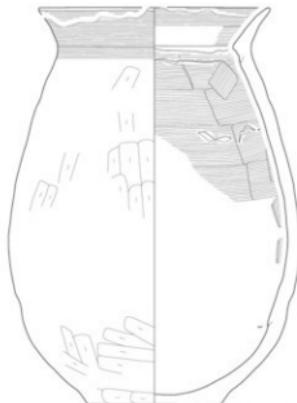
第150図 SI180 積六住居跡 (2)

SI180 施設跡表

遺構名	平面形	面積 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P1	円形	54 × 51	85	土柱穴、底面重ね
P2	(楕円形)	611 × 503	6640	土柱穴、底面重ね
P3	円形	17 × 17	4	施石埋設穴
P4	円形	17 × 13	8	施石埋設穴



1(堆積土)



3(床面直上)

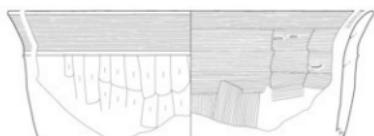


6(掘り方)

遺構名	平面形	面積 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P5	円形	96 × 96	22	
P6	(楕円形)	722 × 720	32	
P7	円形	89 × 80	25	
P8	(円形)	40 × 30	14	



2(P5堆積土)



4(P5堆積土)



5(掘り方)

0 (1:2) 5cm 0 (1:3) 10cm  
※ 図版番号 6

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版	
						口徑	底径	高さ					
1	C-004	SI180	堆積土	土師器	环	(14.8)	—	(4.5)	口縁：2.2cm 底部：八角形	内面	内面黑色處理	28	
2	C-005	SI180P5	堆積土	土師器	甕	—	8.4	(10.6)	口縁：2.2cm 底部：八角形	内面	底部：木型刷	28	
3	C-006	SI180	床面直上	土師器	甕	14.0	8.0	24.6	口縁：2.2cm 底部：八角形	口縁上半：八角形 底部：八角形	底部：木型刷	28	
4	C-007	SI180P5	堆積土	土師器	甕	(22.0)	—	(7.9)	口縁：2.2cm 底部：八角形	口縁：2.2cm 底部：八角形		28	
5	C-008	SI180	掘り方	土師器	甕	(22.0)	—	(8.6)	口縁：2.2cm → 2.0cm 底部：八角形	内面	内面黑色處理	28	
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			石材	備考			
						全長	幅	厚さ		写真図版			
6	Kd-001	SI180	掘り方	石製品	石製品 (圓形)	2.8	3.3	0.5	(7.7)	複数石片岩	複数面 (a・b・c面)	貫通孔 2ヶ所	28

第 151 図 SI180 穫穴住居跡出土遺物

認められた。燃焼部の規模は奥行き79cm、幅50cmを測る。底面は皿状に掘り込まれ、長軸26cm程度の焼面がみられる。

【その他の施設】床面から土坑4基(P5~8)を検出した。P8は、平面形状が円形を呈し、長軸40cm、深さ14cmを測る。堆積土に焼土ブロックや炭化物を含むことから、カマドに関係する土坑と考えられる。

【掘り方】深さ8~22cmで、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・石製品が出土している。このうち、土師器壺1点、土師器甕2点、土師器甑2点、石製品1点の計6点を掲載した(第151図-1~6)。1は堆積土、2・4はP5堆積土、3は床面直上、5・6は掘り方からの出土である。1は土師器壺である。外面の口縁部と体部の境に段を持つ。体部が扁平な半球状を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁端部は僅かに外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ一部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2・3は土師器甕である。2は胴部が内湾して立ち上がる。底部に木葉痕がみられる。調整は、外面が胴部ヘラケズリ、内面はヘラナデである。3は胴部が長胴形を呈し、最大径は胴部下位に位置する。口縁部は頸部内面に稜を持って立ち上がり、直線的に外傾し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。底部に木葉痕がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、内面は口縁部上半ヨコナデ、口縁部下半から胴部ヘラナデである。4・5は土師器甑である。4は外面の口縁部と胴部の境に沈線状の段を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。5は胴部から口縁部にかけ緩やかに外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ、内面はハケメ後ヘラミガキである。6は鏡形石製模造品である。径0.2cmの穿孔が2ヶ所みられる。

【時期】床面直上から出土した土師器甕(第151図-3)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。

#### SI181 積穴住居跡(第152図)

【位置・確認】調査区北西部の49・57グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により、西側及び南側の大半が失われている。

【重複】SI180、SB14、SD109、Pit81・82より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸563cm、短軸388cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】東壁を基準としてN-4°-Wである。

【堆積土】7層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土である。3・4層はカマド関連の堆積土、5・6層はカマド袖の構築土、7層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味に立ち上がる。壁高は2~14cmである。

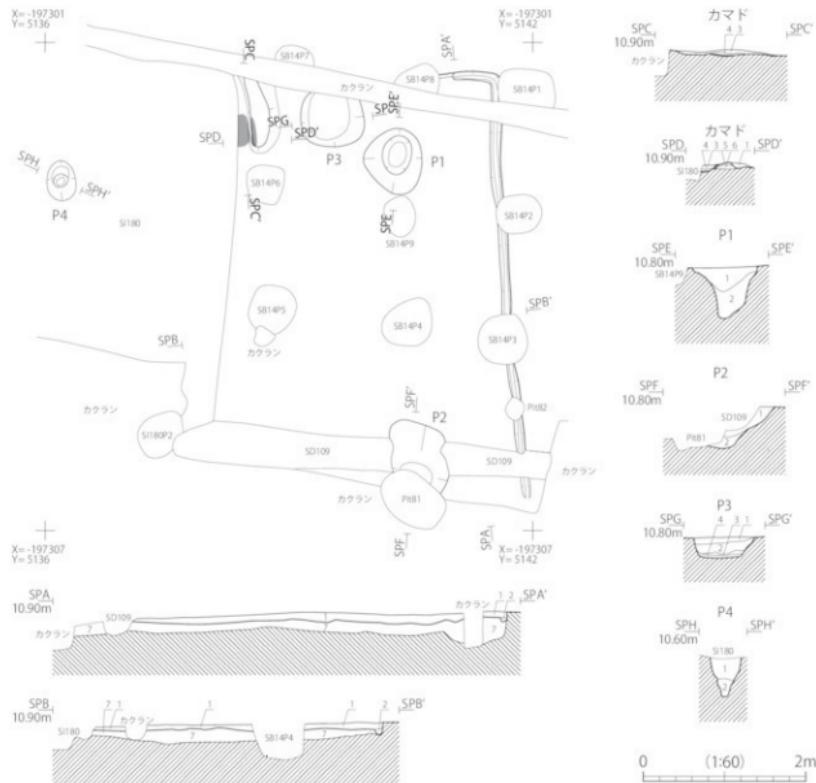
【床面】掘り方埋土である7層上面を床面とし、緩やかな起伏がみられる。

【柱穴】床面から2基(P1・2)、SI180掘り方底面から1基(P4)、総数3基を検出した。P1・2・4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸50~90cm、深さ50~69cmを測る。

【周溝】残存部分では、東壁から北東コーナーにかけての壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅9~13cm、深さ2~6cmを測る。

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部と東袖の一部のみが残存している。燃焼部の規模は奥行き99cm以上、幅19cm以上を測り、底面に長軸40cm程度の焼面がみられる。東袖の規模は、長さ97cm、幅46cmを測り、被熱痕跡が認められた。

【その他の施設】床面から土坑1基(P3)を検出した。P3はカマドの右脇に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。規模は長軸77cm、深さ26cmを測る。



SI181 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	参考
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古窯土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
同	2	10YR4/3 黄褐色	シルト	古窯土砂多量含む。
カマド	3	10YR4/3に2-3 黄褐色	シルト	古窯土砂多量、黒褐色土和少量、埴土和微量含む。
	4	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	炭化物砂・埴土和多量含む。
カマド施	5	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	埴土砂多量含む。
	6	10YR3/3 黄褐色	シルト	古窯土砂少量、炭化物砂・埴土和微量含む。
住居側方	7	10YR5/6 黄褐色	シルト	陶褐色土との混含土、炭化物微量含む。

SI181 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	参考
P1	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古窯土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	古窯土ブロック (10 ~ 30mm) 多量、炭化物砂微量含む。
P2	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	古窯土砂多量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/4に2-3 黄褐色	シルト	古窯土砂多量含む。
P3	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	古窯土砂少量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	古窯土砂多量含む。
	3	10YR6/6に2-3 黄褐色	シルト	古窯土砂多量含む。
	4	10YR6/6 黄褐色	シルト	10YR6/6 黄褐色土和少量含む。
P4	1	10YR5/4に2-3 黄褐色	シルト	灰白色土砂・黄褐色土和多量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	陶褐色土砂少量含む。

第152図 SI181 穴立住跡

SI181 施設調査表

施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	81 × 72	69	土柱穴
P2	(楕丸長方形)	(69) × (75)	51	土柱穴

施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	(円形)	77 × (70)	26	円筒穴
P4	(楕円形)	(50) × (35)	(50)	土柱穴

【掘り方】 深さ 8 ~ 30cm で、底面には緩やかな起伏がみられる。北東コーナーが土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

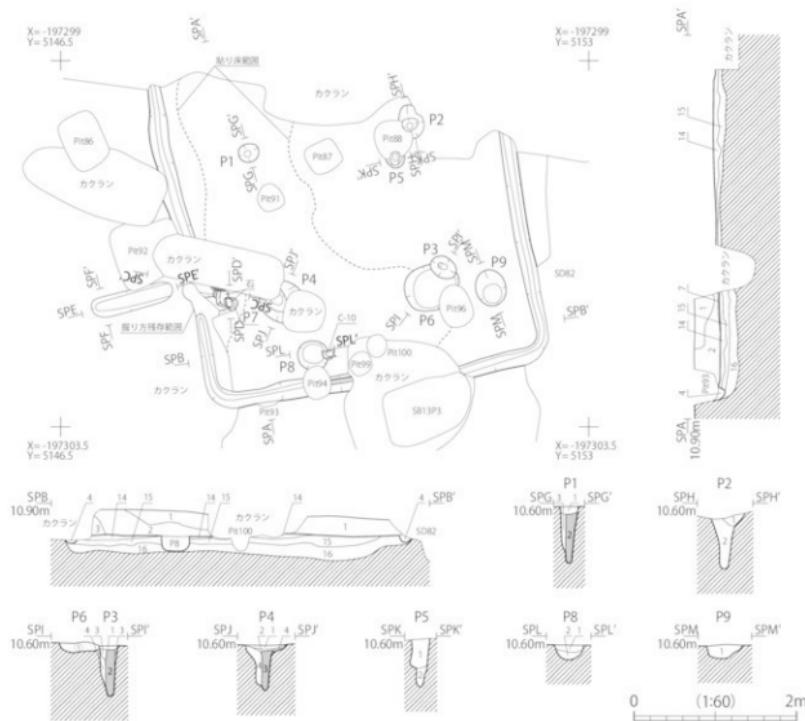
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI180 より古いことから、4a 期（住居式期新段階）以前と考えられる。

### SI182 積穴住居跡（第 153 ~ 155 図）

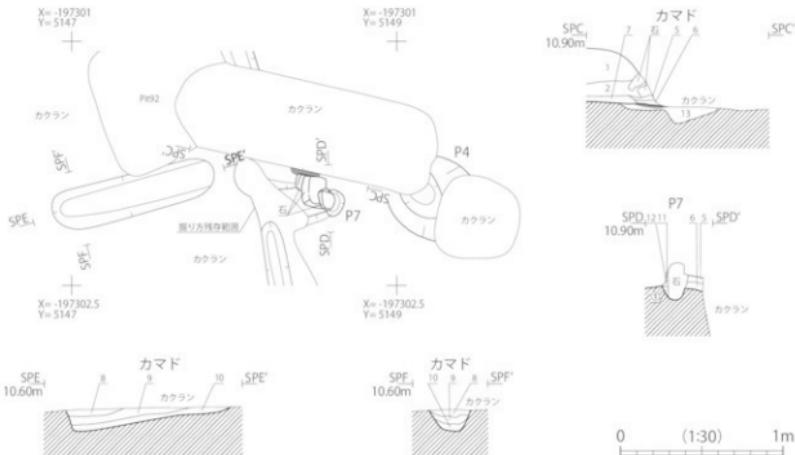
【位置・確認】 調査区北部の 42・50 グリッドに位置する。擾乱により北側の約 1/4 が失われている。

【重複】 Pit113・231 より新しく、SD82、Pit87・88・91 ~ 94・96・99・100 より古い。SB13 と位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 439cm、短軸 429cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。



第 153 図 SI182 積穴住居跡（1）



SI182 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 100mm) 多量、炭化物少額含む。
	2	10YR4/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物少額含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土質少額含む。
酒蒸	4	10YR3/3 明黄色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	5	7.5YR3/6 黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	6	7.5YR3/3 明黄色	シルト	灰・灰土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物少額含む。
カマド	7	7.5YR3/4 明黄色	シルト	炭化物少額含む。
	8	10YR2/1 黒色	シルト	灰・灰土微微量含む。
	9	10YR6/6 明黄色	シルト	炭化物少額含む。
	10	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土質少額含む。
カマド箱	11	10YR6/6 明黄色	シルト	灰土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物少額含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土質少額含む。
カマド蓋	13	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄色少額、灰土少額含む。
住居剥り方	14	10YR6/2 黄褐色	粘土質シルト	粘土質ブロック (5 ~ 70mm) 少量、灰褐色土ブロック (5 ~ 70mm) 微量含む。※貼り底土
	15	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 60mm) 多量含む。
	16	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。

SI182 施設堆積土跡記表

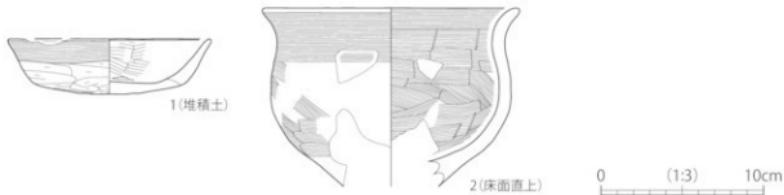
構造名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 明黄色	シルト	灰土質・白色粘土粒多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘土質多額含む。※柱軸跡
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
P2	1	10YR3/3 明黄色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物和微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粘土粒多量、炭化物・灰土和少額含む。
	2	10YR3/3 明黄色	シルト	粘土質少額含む。※柱軸跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
P4	1	10YR3/3 明黄色	シルト	白色粘土粒多量、炭化物和少額含む。
	2	10YR3/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物少額含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 15mm) 多量、炭化物微量含む。※柱軸跡
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。
P5	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 40mm) 多量、炭化物和微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄色土粒多量含む。
P6	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
P7	1	10YR6/6 明黄色	シルト	明黄色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、浅黄色細砂ブロック (5 ~ 20mm) 複数含む。
P8	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘土質ブロック (5 ~ 10mm) 微量含む。
	2	10YR5/2 灰褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。
P9	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物微量含む。

第154図 SI182 穴穴住居跡 (2)

SI182 施設調査表

施設名	平面形	規模 (m)		備考
		長軸	短軸	
P1	(円形)	26 × 23	70	主柱穴
P2	(楕円形)	43 × 29	68	主柱穴
P3	(楕円形)	34 × 25	63	主柱穴、底面変色
P4	(円形)	50 × 42	58	主柱穴
P5	(楕円形)	22.4 × 19	58	

施設名	平面形	規模 (m)		備考
		長軸	短軸	
P6	(円形)	69 × (56)	14	
P7	円形	16 × 14	8	殆右埋設穴
P8	(円形)	36 × (36)	18	
P9	楕円形	46 × 37	18	



測定番号	目録番号	出土地点	期別	種別	器種	法量 (m)			外周調整	内面調整	備考	写真番号
						口径	底径	高さ				
1	C-009	SI182	堆積土	土師器	环	12.4	—	(3.4)	口縁: 22.7 体部: 10.9 底: 9.0	口縁: 23.7 底: 13.9		28
2	C-010	SI182	床面直上	土師器	環	15.4	—	(10.0)	口縁: 22.7 体部: 13.7 底: 11.4	口縁: 22.7 底: 14.5		28

第155図 SI182 穴式住居跡出土遺物

【方向】 カマドを基準として N - 104° - W である。

【堆積土】 16層に分層した。1～3層は褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、4層は周溝堆積土である。5～10層はカマド関連の堆積土で、焼面直上に堆積する6層は灰・焼土ブロックを多量に含んでいる。11・12層はカマド袖の構築土で、13層はカマド掘り方埋土である。14～16層は掘り方埋土で、14層は褐灰色粘土質シルトを主体とする貼り床土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。残存状況の良い南壁で壁高 30cm 程度である。

【床面】 西側から南側中央付近にかけては、貼り床土である14層上面を床面とし、その他は掘り方埋土である15・16層上面を床面とする。底面は概ね平坦である。

【柱穴】 床面から5基(P1～5)を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 26～50cm、深さ 58～70cm を測る。P1・3・4で径 12～15cm の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存部分では、カマドが付設されている西壁の一部を除き、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 13～24cm、深さ 4～14cm を測る。

【カマド】 西壁の南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。掘乱と削平により燃焼部の大半と右袖が失われている。左袖は壁面に直交して付設され、袖の先端には芯材が埋設されている(P7)。袖の芯材は長さ 23cm、幅 12cm、厚さ 9cm の棒状で、燃焼部側の上端に「L」字状の加工痕が認められた。また、燃焼部内からはカマド構築材と考えられる凝灰岩の切り石が出土している。左袖の規模は、西壁からの長さ 55cm、幅 28cm を測る。燃焼部の規模は奥壁 60cm 程度と推定され、底面は奥壁に向かって緩やかに下がる。煙道部の規模は、西壁からの長さ 102cm、幅 24～26cm、深さ 3～14cm を測る。底面は先端に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面から土坑 3 基 (P6・8・9) を検出した。

【掘り方】 深さ 5～30cm で、中央部が高く、壁際が低くなる。

**【出土遺物】** 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・鉄製品・打製石器が出土している。このうち、土師器環1点と土師器甕1点の計2点を掲載した（第155図-1・2）。1は堆積土、2は床面直上からの出土である。1は土師器環である。平底風の丸底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。2は小型の土師器甕である。内済する胸部から口縁部が外反する。調整は、内外面共に口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデで、口縁部外面のヨコナデは胸部上端に及ぶ。

**【時期】** 床面直上から出土した土師器甕（第155図-2）から、4a期（住社式期新段階）と考えられる。

#### SI183 穫穴住居跡（第156・157図）

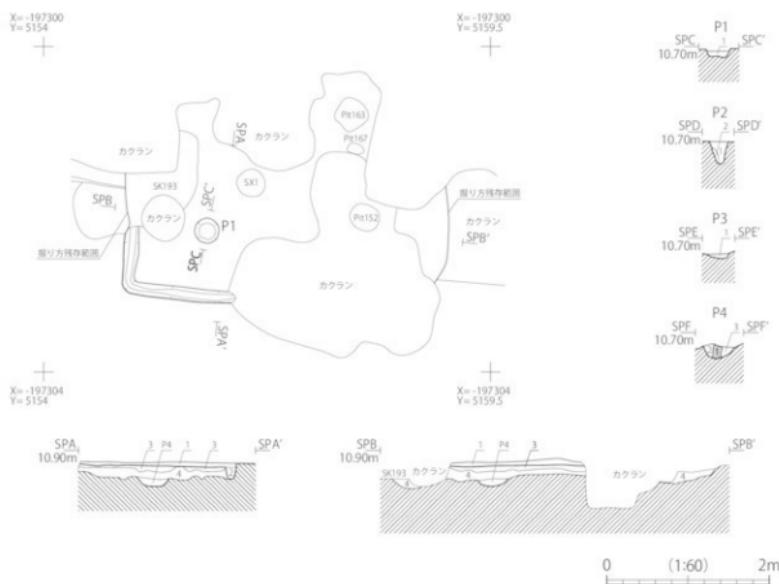
**【位置・確認】** 調査区北部の50・51グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により大半が失われている。

**【重複】** SI187・188、Pit228より新しく、SK193、SX1、Pit163・167より古い。Pit152とは位置的に重複するが新旧関係は不明である。

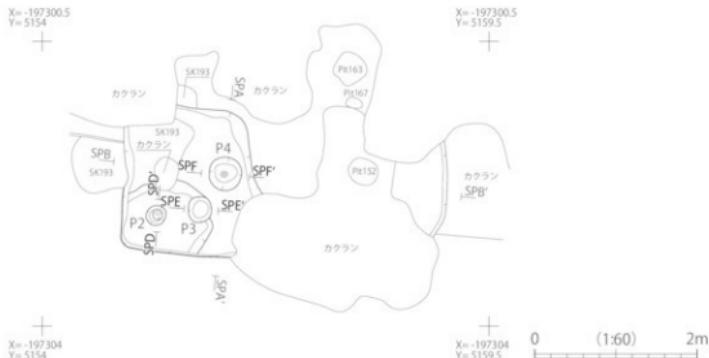
**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸400cm、短軸295cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

**【方向】** 西壁を基準としてN-4°-Eである。

**【堆積土】** 4層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土、3・4層は掘り方埋土である。



第156図 SI183 穫穴住居跡（1）



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径 (1.2.6)	底径 (4.0)	器高 10cm調整		
1	E-001	SI183	堆積土	頂部部	壺	—	—	10cm調整	表面付近少額含む	28

第157図 SI183 穫穴住居跡 (2)・出土遺物

【壁面】 南西コーナー付近のみ残存している。直立気味に外傾して立ち上がり、壁高は4~7cmを測る。

【床面】 挖り方埋土である3層上面を床面とし、僅かに起伏がみられる。

【柱穴】 床面から1基(P1)、掘り方底面から3基(P2~4)、総数4基を検出した。P1は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸31cm、深さ11cmを測る。P4で径10cm程度の柱痕跡を確認した。

**【周溝】** 残存部分では壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅14～19cm、深さ7～13cmを測る。

**【掘り方】** 深さ8～22cmで、底面には起伏がみられる。

**【出土遺物】** 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、堆積土から出土した須恵器壺1点を掲載した（第157図-1）。口縁部は外反して立ち上がり、口縁端部は内湾し、肥厚する外面は丸みを持つ。口縁端部内外面に接合痕がみられる。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は黄灰色を呈する。

**【時期】** 時期決定できる遺物はないが、SI188より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

#### SI184 穴住居跡（第158・159図）

**【位置・確認】** 調査区中央部の58・65グリッドに位置する。擾乱により東半部が大きく失われている。

**【重複】** SI186A・186B、Pit165・166より新しく、SD82、SK179、Pit111より古い。

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸480cm、短軸468cmを測る。平面形状は東側が折る台形状と推定される。

**【方向】** 西壁を基準としてN-17°-Wである。

**【堆積土】** 5層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土、3～5層は掘り方埋土である。

**【壁面】** 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は6～20cmを測る。

**【床面】** 掘り方埋土である3・4層上面を床面とし、概ね平坦である。

**【柱穴】** 床面から5基（P1・2・4～6）検出した。P1・2は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸84～86cm、深さ34～47cmを測る。P2では底面から5cm程上で石根とと考えられる扁平な梢円礫が出土し、その上面から径19cm程度の柱痕跡を確認した。また、底面から径16cm程度の変色範囲が認められたことから、柱の建て替えが行われたものと考えられる。底面から土師器甕が出土している。P5・6は西壁面に位置し、壁柱穴と考えられる。規模は長軸30～46cm、深さ21～33cmで、径6～10cmの柱痕跡を確認した。

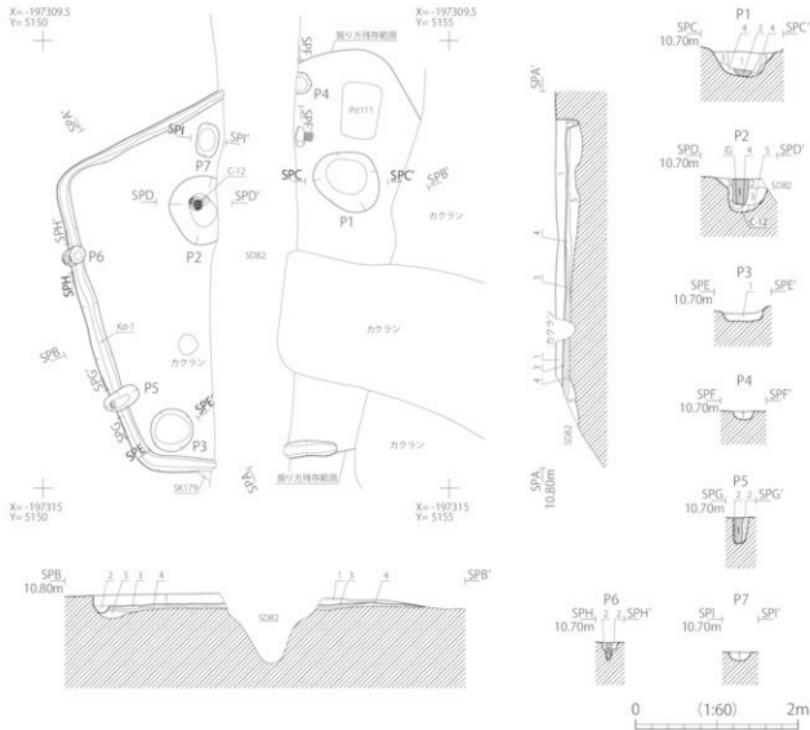
**【周溝】** 検出した部分では壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅8～22cm、深さ3～9cmを測る。西側の周溝堆積土から石製の紡錘車が出土している。

**【焼面】** 北壁際の東寄りから長軸12cm程度の焼面を検出した。重複構造によりカマド燃焼部底面の焼面のみが残存していると考えられる。焼面の西側からは支脚ないし袖の芯材として使用したと考えられる礫が出土している。

**【その他の施設】** 床面から土坑2基（P3・7）検出した。P3は南西コーナーに位置し、堆積土にはIV層土ブロックを多量に含んでいることから、人為堆積土と考えられる。規模は長軸53cm、深さ18cmを測る。P7は堆積土に焼上ブロックや炭化物を多く含むことから、カマドに関連する上坑と考えられる。規模は長軸41cm、深さ8cmを測る。

**【掘り方】** 深さ8～25cmで、中央部が高く、壁際が低くなる。

**【出土遺物】** 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。このうち、土師器壺1点、土師器鉢1点、土師器甕2点、石製品1点の計5点を掲載した（第159図-1～5）。1は堆積土、2はP2堆積土、3は掘り方、4はP7堆積土、5は周溝堆積土からの出土である。1は土師器壺である。外面の口縁部と体部に稜を持ち、口縁部は内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は土師器鉢である。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段を持ち、直線的に外傾する体部から口縁部が外反気味に直立する。底部は剥離している。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部が外側ヘラケズリ、内面ヘラナデである。3・4は土師器甕である。3は3cmを超える厚い底部で木葉痕がみられる。調整は、内外面共に摩滅が激しく不明である。4は口縁部が頸部内面に稜を持って立ち上がり、直線的に外傾する。



SI184 構築土試験表

部位	部位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物・焼土・粘土微量含む。※一部グライ化。
周辺	2	10YR4/2 反黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	炭黃褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物・粘土微量含む。※一部グライ化。
住居廻り方	4	10YR5/6 に少し黄褐色	シルト	炭黃褐色土と多量、白色粘土少量、炭化物・粘土・砂微量含む。
	5	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。

SI184 施設堆積土試験表

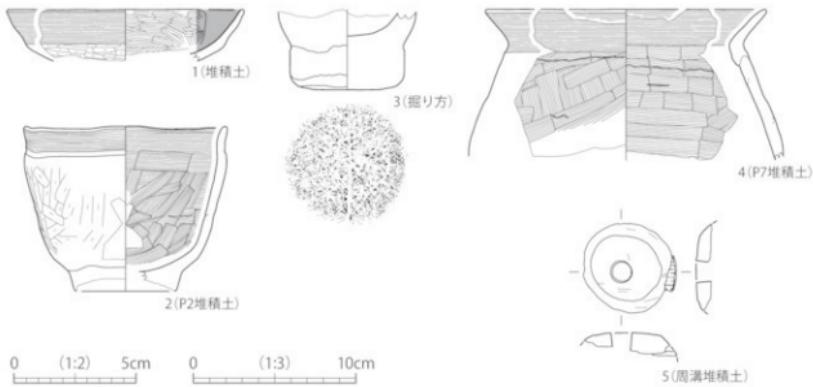
施設名	部位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物・粘土微量含む。
	2	10YR4/2 反黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物・粘土微量含む。※柱痕跡。
	3	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物・粘土微量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P2	1	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物・粘土微量含む。※柱痕跡。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物・粘土微量含む。
	3	10YR4/2 反黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物・粘土微量含む。
	4	10YR4/4 に少し黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (10mm程度) 多量、褐色土ブロック (10mm程度) 少量含む。
P3	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	褐色土粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 反黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物・粘土微量含む。
P5	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色土粒微量含む。※柱痕跡。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色土粒微量含む。※柱痕跡。
P6	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	褐色土粒微量含む。
	2	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物・粘土微量含む。
P7	1	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、赤褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。

第158図 SI184 穴六住居跡

SI184 施設網座表

施設名	平面形	面積 (m)		備考
		長軸	短軸	
P1 (円形)	楕円形	86	73	34 柱穴
P2 (円形)	84 × (70)	47		柱穴底面変色
P3 (円形)	53 × 52	18		
P4 (円形)	27 × (19)	9		

施設名	平面形	面積 (m)		備考
		長軸	短軸	
P5	楕円形	46	24	33 柱穴
P6	楕円形	30	21	21 柱穴
P7	楕円形	41	27	8



施設番号	伊藤番号	出土地点	層位	種別	部材	法線 (cm)			外周調整	内部調整	備考	写真番号
						口縁	底径	厚さ				
1	C011	SI184	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	(3.1)	口縁: 32mm 底部: 16mm	内面: 5mm	内面黑色處理	28
2	C012	SI184P2	堆積土	土師器	鉢	(12.2)	(6.2)	(10.1)	口縁: 32mm 底部: 16mm	内面: 5mm		28
3	C013	SI184	振り方	土師器	甕	—	6.0	(4.8)	不明	不明	内面摩滅 底部: 木製底	28
4	C014	SI184P7	堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	(9.2)	口縁: 32mm 底部: 16mm	内面: 5mm		28

施設番号	伊藤番号	出土地点	層位	種別	部材	法線 (cm)			重量 (kg)	石材	備考	写真番号
						全長	幅	厚さ				
5	Kd-002	SI184 周溝	堆積土	石製品	筋鉢車	(3.7)	(3.9)	(0.7)	(13.1)	緑色片岩	孔径 0.8cm、破片	28

第159図 SI184 穫穴住居跡出土遺物

調整は、内外面共に口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデである。5は石製の紡錘車である。下半は節理面で剥離している。孔径は0.8cmである。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI186Aより新しいことから、5a期（郡山1期官衙期）以降と考えられる。

### SI185 穫穴住居跡（第160～163図）

【位置・確認】 調査区北部の58・59グリッドに位置する。擾乱により中央付近が失われている。また、上面は削平を受けており、北東コーナー付近のみ床面が残存している。

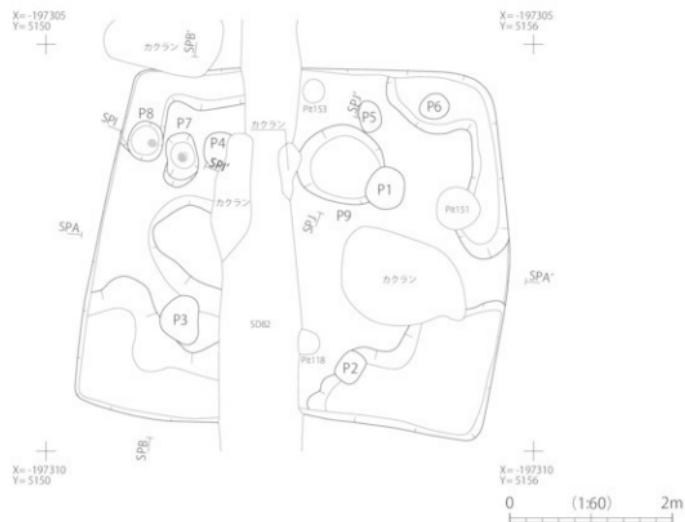
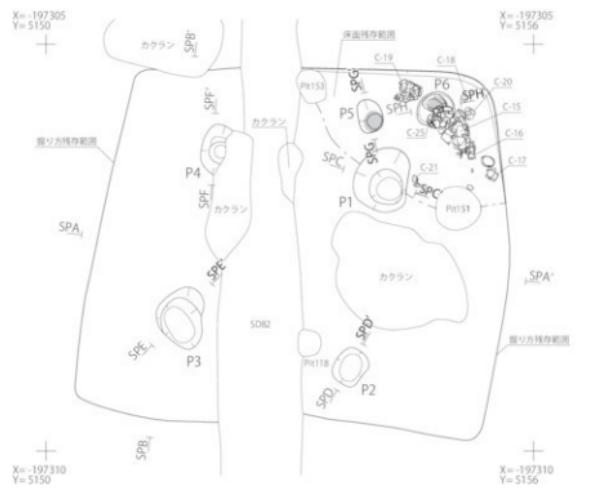
【重複】 SI186A・186B・188、SB13、Pit158・162・230より新しく、SD82、Pit118・151・153より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸513cm、短軸472cmを測る。平面形状は方形を呈する。

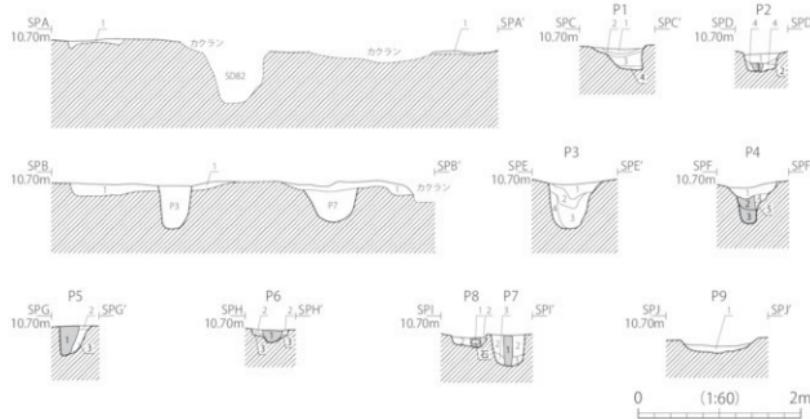
【方向】 西辺を基準としてN-11°Eである。

【堆積土】 黄褐色シルトの単層で、暗褐色土ブロックを多量に含む。振り方埋土である。

【壁面】 残存部分では、壁高は2cm程度である。



第160図 SI185 積穴住居跡 (1)



SI185 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居層付り	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 多量含む。一部グライ化。

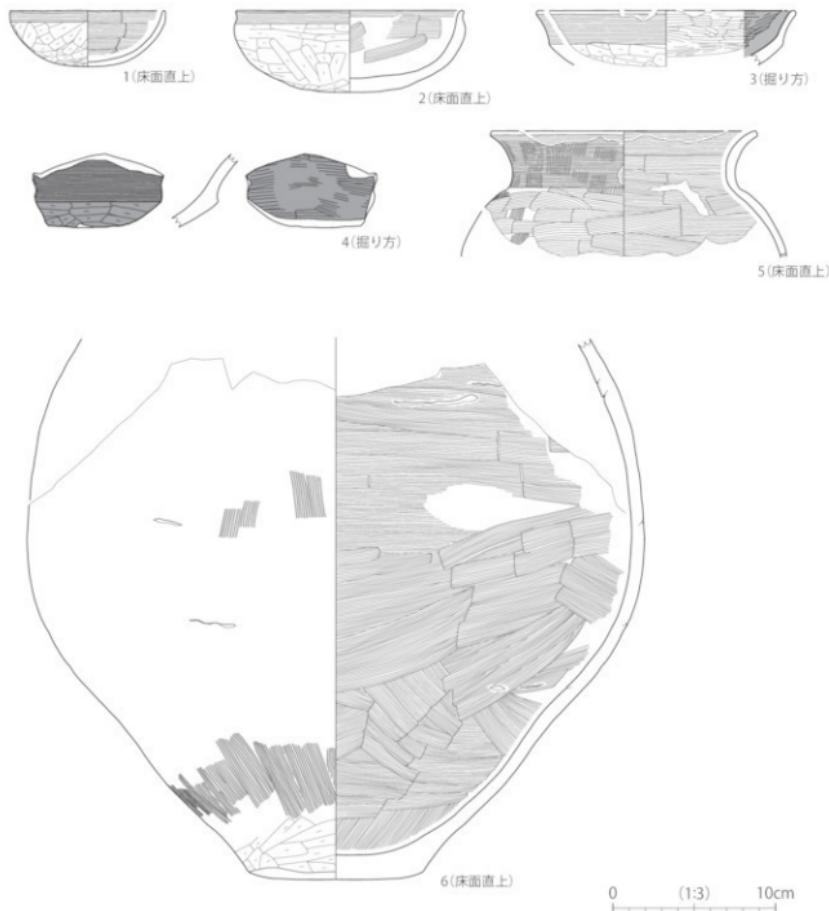
SI185 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考	
				長軸	短軸
P1	1	10Y5/1 灰色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 少量。炭化物微量含む。※一部グライ化。	
	2	10Y3/4 暗褐色	シルト	褐褐色土微量含む。	
	3	10Y3/4/3 に5-黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 多量含む。	
	4	10Y3/3 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量含む。	
P2	1	10Y4/2 灰暗褐色	シルト	褐褐色土・炭化物微量含む。	
	2	10Y5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土と微量含む。	
	3	10Y4/2 灰暗褐色	シルト	褐褐色土・灰白色土微量含む。	
	4	10Y3/3 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 多量。炭化物微量含む。※一部グライ化。	
P3	1	10Y4/3 に5-黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 多量。炭化物・土粘土微量含む。	
	2	10Y3/3 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量。炭化物・土粘土微量含む。	
	3	10Y5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量含む。	
	4	10Y6/6 明るい褐色	シルト	褐褐色土和微量含む。	
P4	1	10Y4/4 褐色	シルト	褐褐色土 (5~10mm) 多量。炭化物微量含む。※一部グライ化。	
	2	10Y4/3 に5-黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 少量。灰土和微量含む。※柱痕跡	
	3	10Y5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土和少量。炭化物微量含む。	
	4	10Y4/4 褐色	シルト	褐褐色土和微量含む。	
	5	10Y5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土微量含む。	
P5	1	10Y3/2 黒褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量含む。※柱痕跡	
	2	10Y4/6 褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量。灰土和少量含む。	
	3	10Y3/2 黑褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 微量含む。	
P6	1	10Y4/3 に5-黄褐色	シルト	褐褐色土多量。炭化物少量含む。※グライ化。※柱痕跡	
	2	10Y3/3 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 多量。炭化物・土粘土微量含む。※柱痕跡	
	3	10Y6/6 明るい褐色	シルト	灰褐色土和微量含む。	
P7	1	10Y3/4 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 多量。炭化物・土粘土微量含む。※柱痕跡	
	2	10Y3/3 暗褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~20mm) 少量。炭化物・土粘土微量含む。	
	3	10Y4/4 に5-黄褐色	シルト	灰褐色土和少量含む。	
P8	1	10Y4/6 褐色	シルト	褐褐色土多量。灰土和微量含む。※柱痕跡	
	2	10Y5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5~10mm) 多量含む。	
P9	1	10Y6/3 に5-黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5~10mm) 少量。炭化物・灰土和微量含む。	

SI185 施設網織表

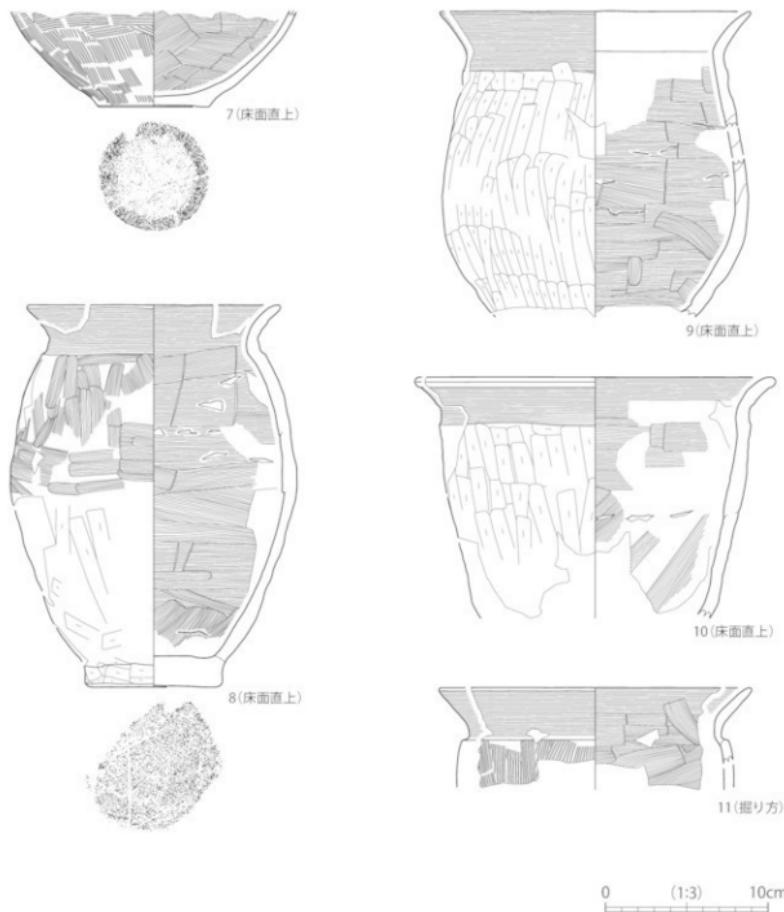
施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考	施設名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸	短軸				長軸	短軸	
P1	(円形)	(79) × (70)	31	柱穴	P6	円形	46 × 39	16	
P2	(楕円長方形)	(45) × (39)	(24)	柱穴	P7	不整規円形	66 × 44	38	底面変色。掘り方複数
P3	(不整規円形)	(76) × (56)	(56)	柱穴	P8	円形	49 × 44	15	掘り方複数
P4	(円形)	(63) × (38)	(32)	柱穴	P9	(円形)	(105) × 95	18	掘り方複数
P5	楕円形	41 × 30	36						

第161図 SI185 穴室住居跡 (2)



測定番号	登録番号	出土地点	部位	種別	部種	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真番號
						口径	底径	高さ				
1	C-O18	SI185	床面直上	土師器	环	9.6	—	3.4	口縁：32.7° 体部：45.9°	50件	関東系	28
2	C-O25	SI185	床面直上	土師器	环	13.8	—	5.0	口縁：32.7° 体部：45.9°	50件	内外面摩滅 關東系	28
3	C-O23	SI185	掘り方	土師器	环	(15.8)	—	(3.3)	口縁：32.7° 体部：45.9°	50件	内面黒色處理	28
4	C-O22	SI185	掘り方	土師器	高环	—	—	—	口縁：32.7° 体部：45.9°	50件	内外面赤彩	28
5	C-O21	SI185	床面直上	土師器	甕	(16.2)	—	(7.7)	口縁：32.4°-32.9° 胴部：30.9°-30.9°	口縁上半：32.7°、口縁下半： 胴部：50件	50件	28
6	C-O15	SI185	床面直上	土師器	甕	—	10.7	(33.2)	胴部：30.9°、胴下部：30.9°	胴部：50件	外面部風	29

第162図 SI185 積穴住居跡出土遺物（1）



回数 番号	標記 番号	出土地点	層位	種別	基準	法線 (cm)	外径 底径 高さ	外周調整	内面調査	備考	写真 番号
7	C-020	SI185	床面直上	土師器	甕	—	6.8 (5.9)	胴部：5.9cm	胴部：5.9cm	底部：輪状	28
8	C-019	SI185	床面直上	土師器	甕	(15.6)	8.4 23.5	口縁：23.5cm 胴上半：8.4cm 胴下半：14.9cm	口縁：23.5cm 胴部：8.4cm	底部：木葉瓶	29
9	C-016	SI185	床面直上	土師器	甕	(19.2)	— (18.8)	口縁：23.5cm 胴部：18.8cm	胴部：5.9cm	内面や空隙箇所 内外面底物付着	29
10	C-017	SI185	床面直上	土師器	甕	(21.8)	— (14.8)	口縁：23.5cm 胴部：14.8cm	口縁：23.5cm 胴部：14.8cm		29
11	C-024	SI185	掘り方	土師器	甕	(19.2)	— (6.2)	口縁：23.5cm 胴部：6.2cm	口縁：23.5cm 胴部：6.2cm		29

第 163 図 SI185 積穴住跡出土遺物 (2)

【床面】 残存部分では、掘り方埋土である1層上面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から3基(P1・5・6)、掘り方上面から3基(P2～4)、掘り方底面から2基(P7・8)、総数8基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸45～79cm、深さ24～56cmを測る。P2・4では径16～22cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は北東コーナー付近に位置し、径25cm程度の柱痕跡を確認した。また、P7・8は北西コーナー付近に位置し、径10cm程度の柱痕跡が確認され、P7では底面に変色範囲が認められた。

【その他の施設】 掘り方底面から土坑1基(P9)を検出した。規模は長軸105cm、短軸95cmで、深さは18cmを測る。

【掘り方】 深さ19cm程度で、中央部が高く、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器壺3点、土師器高环1点、土師器甕7点の計11点を掲載した(第162図-1～6、第163図-7～11)。1・2・5～10は床面直上、3・4・11は掘り方からの出土である。1～3は土師器壺である。1・2は北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を持つ。共に体部が半球状を呈し、口縁部は1が短く直立、2が「S」字状に短く直立する。調整は、共に外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面ヘラナデである。胎土は、1が砂粒を少量含み密で、色調は外側が橙色、内面は明黄褐色を呈する。2は砂粒を多量に含み粗く、色調は橙色～黄灰色を呈する。3は外側の口縁部と体部の境に棱を持ち、口縁部は外反する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。4は土師器高环の環部で、外側の口縁部と体部の境に明瞭な段を持つ。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。内外面に赤彩が施される。5～11は土師器甕である。5～7は胴部が球胴形を呈する。5は口縁部が直立気味に立ち上がり、中位から外反する。口縁端部に平坦面を持つ。調整は、外側が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラナデ、内面は口縁部上半ヨコナデ、口縁部下半から胴部ヘラナデである。6は胴部下半の張りが弱く、最大径は中位に位置する。調整は、外側が胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ、内面は胴部ヘラナデである。7は底部が輪台状を呈する。調整は、外側が胴部ハケメ、内面は胴部ヘラナデである。8・9は胴部が長胴形を呈し、胴部の最大径は8が中位、9が下位に位置する。8は外側の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部は内傾して立ち上がり外反気味に外傾する。底部に木葉痕がみられる。調整は、口縁部が外側ヨコナデ、胴部は外面上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ、内面はヘラナデである。9は外側の口縁部と胴部の境に棱を持ち、口縁部は内傾して立ち上がり、外反気味に外傾する。口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、内面は胴部ヘラナデで、内外面に炭化物の付着がみられる。10は外側の口縁部と胴部の境に棱を持ち、口縁部は直立して立ち上がり、外反気味に外傾する。口縁端部は丸みを持って外側に屈曲する。調整は、口縁部が外側ヨコナデ、胴部が外側ヘラケズリ、内面ヘラナデである。11は外側の口縁部と胴部の境に明瞭な段を持ち、口縁部は直立して立ち上がり、直線的に外傾する。調整は、口縁部が外側ヨコナデ、胴部は外側ハケメ、内面ヘラナデである。

【時期】 床面直上から出土した土師器壺(第162図-1・2)、土師器甕(第162図-5・6、第163図-7～10)から、5a期(郡山I期官衙期)と考えられる。

#### SI186A 穫穴住居跡(第164～166図)

【位置・確認】 調査区中央部の58・65グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により大半が失われている。SI186Bの建て替え後の住居跡の可能性も考えられるが、東壁を基準とした主軸方向が僅かに異なる。

【重複】 SI186Bより新しく、SI184・185、SB13、SD82、Pit95・158・161・162・165・166より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸568cm、短軸525cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

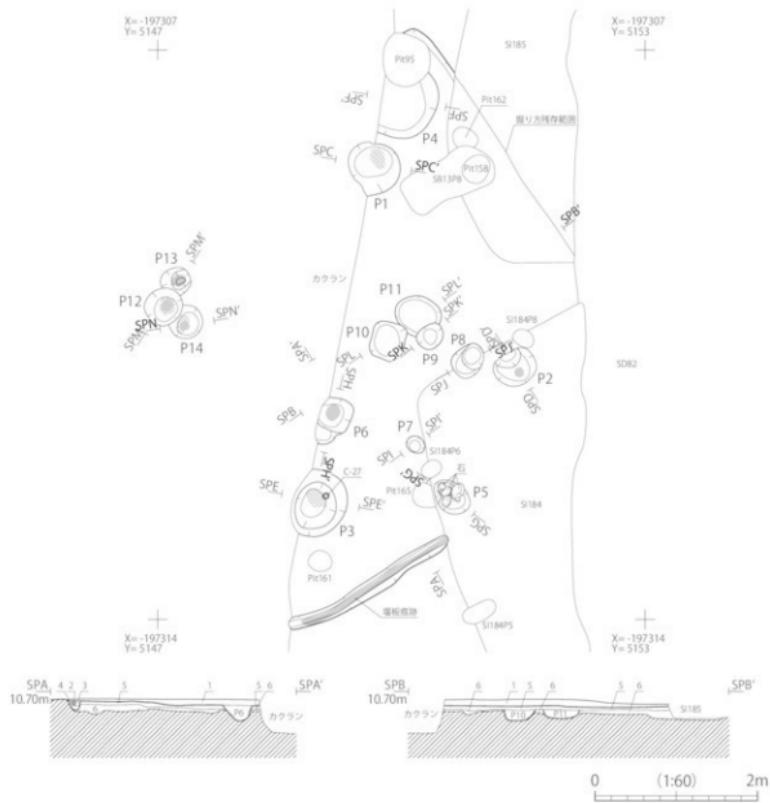
【方向】 東壁を基準としてN-32°-Wである。

【堆積土】 6層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土である。2~4層は周溝堆積土で、2層は堰板痕跡である。5・6層は掘り方埋土で、5層は灰白色粘土質シルトを主体とする貼り床土である。

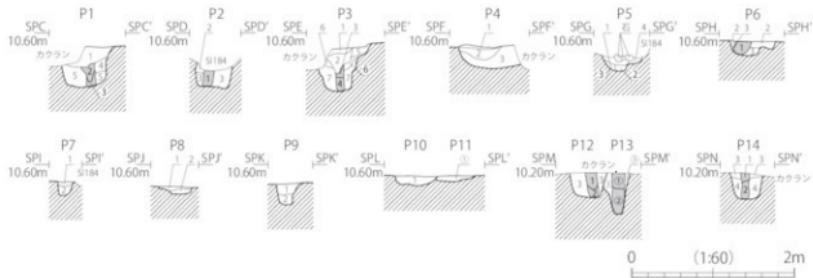
【壁面】直線的に外傾して立ち上がる。壁高は6~14cmを測る。

【床面】 貼り床土である5層上面を床面とする。概ね平坦である。

**【柱穴】** 床面から 7 基 (P1 ~ 3・6 ~ 9)、西側の撓屈底面から 3 基 (P12 ~ 14)、総数 10 基を検出した。P1 ~ 3 は位置関係や堆積状況から主柱穴と考えられ、規模は長軸 53 ~ 84cm、深さ 31 ~ 59cm を測る。いずれも径 10 ~ 16cm 程度の柱痕跡が確認され、P1・3 の底面には変色範囲が認められた。また、北西側の P12 ~ 14 は重複関係が認められ、いずれかが主柱穴になるものと考えられる。P6 は P3 の北側に位置し、径 20cm 程度の柱痕跡を確認した。規模は長軸 59cm、短軸 43cm、深さ 18cm を測る。



### 第 164 図 SI186A 積穴住居跡 (1)



SI186A 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居構成土	1	10YR3/3 剛褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、黒褐色土ブロック (10 ~ 70mm) ・灰白色土ブロック (5 ~ 30mm) ・炭化物 微量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※柱痕跡
	3	10YR3/4 剛褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
	4	10YR4/6 黄褐色	シルト	刚褐色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	5	10YR8/2 白灰色	粘土質シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 少量含む。※柱孔底土。
	6	10YR5/6 黄褐色	シルト	刚褐色土ブロック (5 ~ 100mm) 多量含む。

SI186A 施設堆積土柱記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 剛褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 少量含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 20mm) ・灰褐色土多量含む。※柱痕跡
	3	10YR3/4 剛褐色	シルト	灰褐色土多量含む。
	4	10YR4/6 黄褐色	シルト	刚褐色土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	5	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 少量含む。※柱孔底土。
P2	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物微量含む。※柱痕跡
P3	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (10 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡
	5	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	にふる黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	6	10YR4/2 灰褐色	シルト	灰褐色土少量含む。
	7	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、土砂微量含む。
P4	1	10YR7/1 白灰色	粘土	灰褐色土ブロック (10 ~ 50mm) 少量、細砂微量含む。
	2	10YR3/3 剛褐色	シルト	灰褐色土少量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物微量含む。
P5	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/4 剛褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	刚褐色土ブロック (5mm 程度) 多量含む。※柱痕跡
P6	1	10YR3/3 剌褐色	シルト	灰褐色土・炭化物・土砂微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土・炭化物微量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) ・灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P7	1	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土少量、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 剌褐色	シルト	灰褐色土多量、炭化物微量含む。
P8	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	2	10YR4/6 黄褐色	シルト	にふる黄褐色土ブロック (5 ~ 50mm) ・刚褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
P9	1	10YR3/4 剌褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土質シルト少量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
P10	1	10YR4/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
	①	10YR4/4 黄褐色	シルト	刚褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
P12	1	10YR3/3 剌褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 多量、白色粘土・土砂微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 微量含む。
P13	①	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡
	②	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡
	③	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰褐色土少量含む。
P14	1	10YR4/4 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土多量、灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 多量、炭化物微量含む。
	4	10YR4/3 にふる黄褐色	シルト	灰褐色土少量含む。

第165図 SI186A 穴穴住居跡 (2)

SI186A 施設観察表

施設名	平面形	面積 (m)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	66 × 65	55	主柱穴 底面変色
P2	(楕円形)	(53) × (42)	(31)	主柱穴
P3	(楕円形)	84 × 66	59	主柱穴 底面変色
P4	(円形)	86 × 85	29	貯蔵穴
P5	(円形)	(50) × (39)	208	
P6	(不規則円形)	59 × (43)	18	
P7	円形	25 × 20	23	

施設名	平面形	面積 (m)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	(楕円形)	43 × (35)	10	
P9	楕円形	34 × 28	27	
P10	楕円方形	47 × 43	13	貼り床下検出
P11	楕円形	58 × 49	8	貼り床下検出
P12	(円形)	(47) × (47)	0.01	主柱穴 底面変色
P13	(円形)	(36) × (35)	0.01	
P14	(円形)	(44) × (36)	0.01	底面変色



第166図 SI186A 穫穴住居跡出土遺物

【周溝】 南壁で検出した。残存部分では壁面に沿って周り、環板痕跡が認められた。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅15~21cm、深さ1~9cmを測る。

【その他の施設】 床面から土坑1基(P4)、貼り床下から土坑2基(P10・11)、重複遺構底面からビット1基(P5)、総数4基を検出した。P4は堆積土上部に灰白色粘土が5cm程の厚さで堆積していた。規模は長軸86cm以上、短軸69cm以上、深さ29cmを測り、規模や位置関係から貯蔵穴の可能性を考えられる。P5は主柱穴と考えられるP2・3の中間の南壁際に位置し、堆積土中からは10~20cm程度の円碟が6点出土している。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸50cm、短軸39cmで、深さは20cm以上を測る。出入り口に関連する施設や埋納坑の可能性も考えられるが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ6~16cmを測る。底面は概ね平坦で、壁際が低くなる。

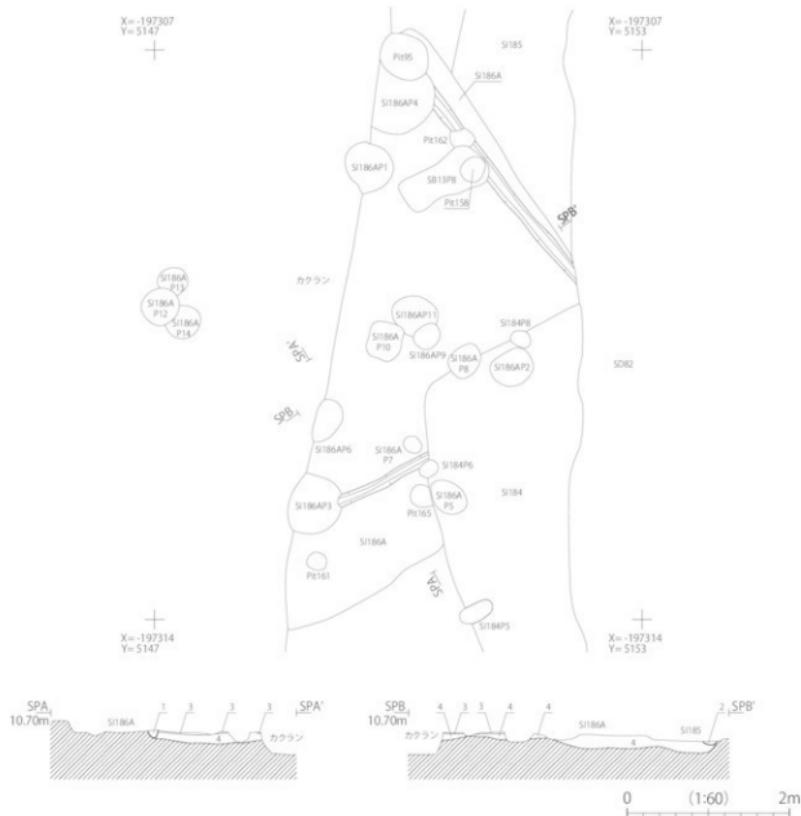
【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土器師・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土器師壺1点、土器壺1点、須恵器蓋1点の計3点を掲載した(第166図-1~3)。1は堆積土、2はP3堆積土、3はP4堆積土からの出土である。1は口径10cm以下の小型の土器師壺である。体部からやや屈曲して口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部摩滅により不明、体部へラケズリ、内面はヘラナデである。2は小型の土器壺で、体部は扁平な球状を呈する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、内面は体部へラナデである。3はカエリを持つ須恵器蓋である。カエリ端部と口縁端部がほぼ同じ高さに位置する。焼成は良好で、色調は灰色を呈する。

【時期】 P4堆積土から出土した須恵器蓋(第166図-3)から、5a期(郡山1期官衙期)と考えられる。

#### SI186B 穫穴住居跡(第167図)

【位置・確認】 調査区中央部の58・65グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により大半が失われ、SI186Aによる削平などにより床面は失われ、周溝のみ残存している。SI186Aの建て替え前の住居跡の可能性があるが、東壁を基準とした主軸方向が西へ6°傾いている。

【重複】 SI184・185・186A、SB13、SD82、Pit158・162より古い。



第167図 SI186B 穴穴住居跡

【規模・形態】 検出した規模は、長軸415cm、短軸359cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準として N-38°Wである。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は周溝堆積土である。3・4層は掘り方埋土で、3層は灰白色粘土質シルトを主体とする貼り床土である。

【周溝】 南辺と東辺で検出した。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅13~17cm、深さ4~14cmを測る。

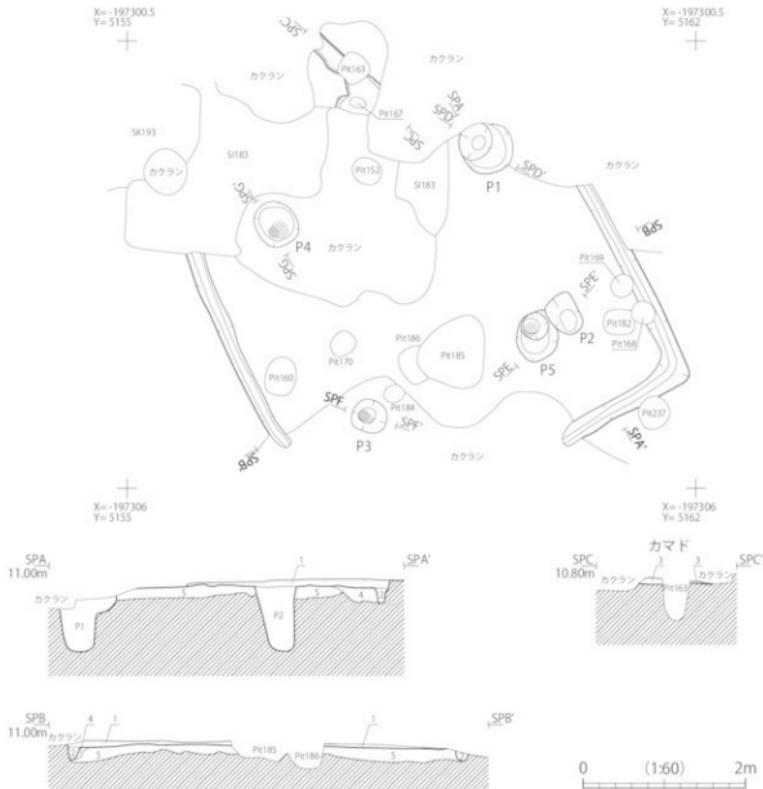
【掘り方】 深さ6~17cmで、中央部が高く、壁際が低くなる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

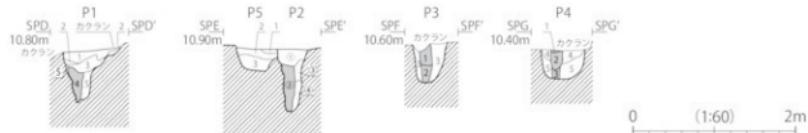
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI186Aより古いことから、5a期（郡山1期官衙期）以前と考えられる。

#### SI187 竪穴住居跡（第168~170図）

【位置・確認】 調査区北部の51・59グリッドに位置する。重複構造や擾乱により、北側の大半と南西コーナー付近が失われている。



第168図 SI187 竪穴住居跡（1）



SI187 増築土跡記表

部段	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~30mm) 少量、炭化物粒・植生粒微量含む。※一部グライ化。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5mm程度) 多量含む。
カマフ	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~30mm) 多量含む。
住居側り方	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~50mm) 多量、植生粒少量含む。
	5	10YR4/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5~50mm) 多量含む。

SI187 施設堆積土跡記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 黄暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5mm程度)・炭化物粒少額、植生粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~30mm) 多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	4	10YR4/3 に似る黃褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 多量含む。※柱痕跡
	5	10YR4/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5mm程度) 多量含む。
P2	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐土・泥炭物粒少額、植生粒微量含む。
	②	10YR4/3 に似る黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5~30mm) 少量含む。※柱痕跡
	③	10YR4/4 黄褐色	シルト	暗褐色土粒少額含む。
	④	10YR5/4 に似る黃褐色	粘土質シルト	無機物土ブロック (10mm程度) 微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~10mm) 少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 に似る黃褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5~10mm) 少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5~10mm) 微量含む。
P4	1	10YR5/2 黄暗褐色	シルト	に似る黃褐色土粒少額含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 に似る黃褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~10mm) 多量、黒褐色土ブロック (20~40mm) 少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 に似る黃褐色	シルト	赤褐土・泥炭物粒少額含む。※柱痕跡
	4	10YR5/5 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5~20mm) 多量含む。
	5	10YR5/4 に似る黃褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5~30mm) 多量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒・植生粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~30mm) 多量含む。
	3	10YR4/3 に似る黃褐色	シルト	赤褐土ブロック (5~50mm) 多量含む。

SI187 施設縫隙表

遺構名	平面形	規模 (cm)	備考	遺構名	平面形	規模 (cm)	備考
P1	(楕円形)	78 × 66	68 主柱穴	P4	(楕円形)	(56) × (50)	C36 主柱穴 底面変色
P2	楕丸長方形	51 × 39	76 主柱穴	P5	楕円形	65 × 51	42 底面変色
P3	(楕円形)	(45) × (40)	(50) 主柱穴 底面変色				

第169図 SI187 積穴住居跡 (2)

【重複】 SI188より新しく、SI183、Pit160・163・167～170・182・184～186・237より古い。Pit152とは位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸511cm、短軸500cmを測る。平面形状は方形と推定される。

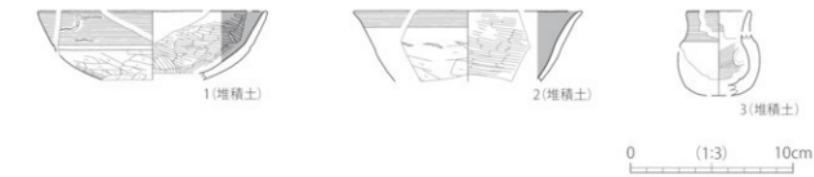
【方向】 東壁を基準としてN-25°Wである。

【堆積土】 5層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土、3層はカマフ関連の堆積土、4・5層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。残存状況の良い南壁で壁高12cm程度である。

【床面】 掘り方埋土である4・5層上面を床面とする。僅かに起伏がみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から3基(P1・2・5)、擾乱の底面より2基(P3・4)、総数5基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸45～78cm、深さ36～76cmを測る。いずれの柱穴からも径13～18cmの柱痕跡が確認され、P3・4の底面には径10～20cmの変色範囲が認められた。P5はP2と重複しており、規模は長軸65cm、短軸51cm、深さ42cmで、底面には径18cm程度の変色範囲を確認した。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	部構	法量(cm)			外周調整	内部調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	C-028	SI187	堆積土	土師器	环	(44.2)	—	(44.2)	口縁：32mm 体部：八角形	内面	内面黒色處理	29
2	C-029	SI187	堆積土	土師器	鉢	(44.0)	—	(44.0)	口縁：32mm 体部：八角形	内面	内面黒色處理	29
3	C-030	SI187	堆積土	土師器	口沿	(33.8)	(2.0)	(5.2)	口縁：32mm 軸部：21mm→20mm	内面	軸部外側摩滅	29

第170図 SI187 穫穴住居跡出土遺物

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅16~26cm、深さ5~19cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、搅乱や削平により煙道部の一部が残存している。煙道部は基部と先端部が失われている。規模は長さ77cm以上、幅20~25cm、深さ3cm以上を測る。煙道の主軸方向は北壁とは直交せず、西へ20°傾いている。

【掘り方】 深さ6~18cmで、底面は起伏に富み、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及びカマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土師器環1点、土師器鉢1点、ミニチュア土器1点の計3点を掲載した(第170図-1~3)。いずれも堆積土からの出土である。1は土師器環である。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は土師器鉢である。外傾する体部から口縁部が緩やかに外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3は土師器のミニチュア土器である。壺形を呈し、口縁部は直立気味に外反し、口縁端部は直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面が口縁部ヘラナデ、胴部ユビナデ後ユビオサエである。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI188より新しいことから、5a期(郡山1期官衙期)以降と考えられる。

#### SI188 穫穴住居跡(第171図)

【位置・確認】 調査区北部の50・51・58・59グリッドに位置する。重複遺構や削平などにより、西壁際の掘り方のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 SI242、SB13、Pit180・234・235より新しく、SI183・185・187、SK193、Pit176より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸480cm、短軸337cmを測る。平面形状は不明である。

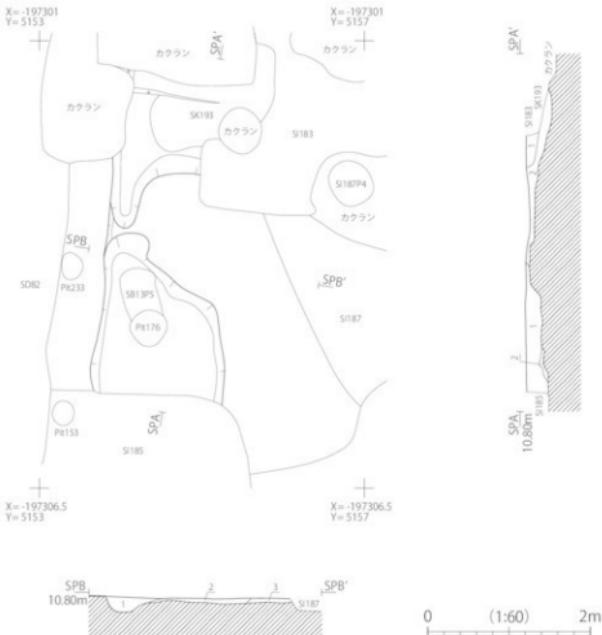
【方向】 西辺を基準としてN-7°-Eである。

【堆積土】 3層に分層した。1~3層は掘り方埋土である。

【掘り方】 深さ3~26cmで、底面には起伏がみられ、南北側に向かって低くなる。

【出土遺物】 掘り方から土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI185、SB13との重複関係から、5a期(郡山1期官衙期)と考えられる。



SI188 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	古層土ブロック (5 ~ 70mm) 多量含む。	
	2 10YR5/6 黄褐色	シルト	昭和色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。	
	3 10YR4/6 黄褐色	シルト	昭和色土ブロック (5mm 利度) 多量含む。	

第171図 SI188 穫穴住居跡

## SI189 穫穴住居跡（第172・173図）

【位置・確認】 調査区北東部の59・60 グリッドに位置する。擾乱により南側の大半が失われている。SI190 の拡張前の住居跡と考えられ、床面は残存していない。

【重複】 SI190、SD105、Pit48・183・196より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 377cm、短軸 312cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準として N - 40° - W である。

【堆積上】 2 層に分層した。1 層は周溝堆積土、2 層は掘り方理上である。

【柱穴】 掘り方上面から 1 基 (P1) 検出した。P1 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 44cm、深さ 10cm を測る。径 8cm の柱痕跡を確認した。

【周溝】 東辺のみの検出である。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 12 ~ 17cm、深さ 1 ~ 9cm を測る。

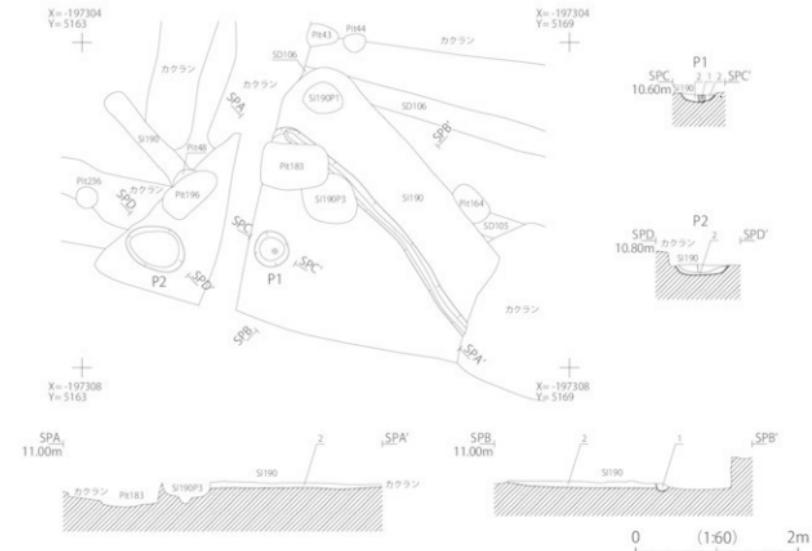
【その他の施設】 掘り方上面から土坑 1 基 (P2) を検出した。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸 74cm、短

軸55cm、深さ16cmを測る。位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。

【掘り方】深さ4~8cmで、概ね平坦である。

【出土遺物】堆積土及び掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器壺1点と土師器甕1点の計2点を掲載した(第173図-1・2)。1は堆積土、2は掘り方からの出土である。1は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つ土師器壺である。縦やかに内湾する体部から口縁部が短く外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。胎土は砂礫を少量含みやや粗く、色調は橙色を呈する。2は土師器の甕である。胴部が球胴形を呈し、最大径は胴部中位より上に位置する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。

【時期】時期決定できる遺物はないが、SI190より古いことから、5a期(郡山I期官衙期)以前と考えられる。



SI189 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
柱割掘り方	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	赤褐色土ブロック(5~50mm) 少量含む。

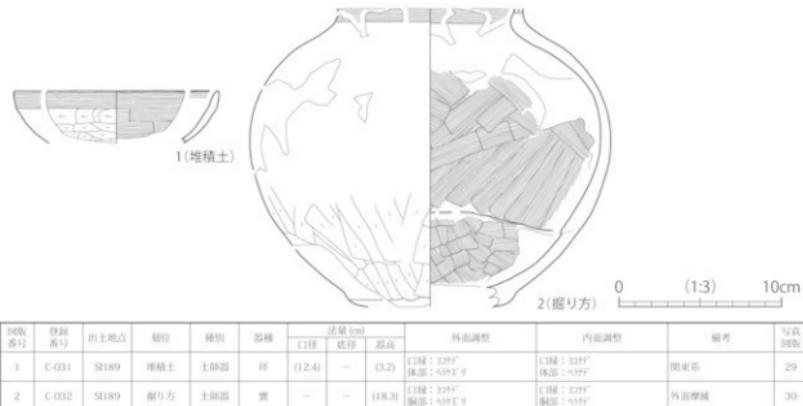
SI189 須恵器堆積土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/4 に5~8黄褐色	粘土質シルト	中村灰跡
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5~10mm) 多量含む。
P2	1	10YR5/4 に5~8黄褐色	シルト	赤土ブロック(10mm程度) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤土ブロック(10mm程度) 微量含む。

SI189 須恵器廻取表

遺構名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(44) × (44)	(10)	玉井穴
P2	(楕円形)	(74) × (59)	(16)	切穂穴

第172図 SI189 穴穴住居跡



第173図 SI189 穫穴住居跡出土遺物

## SI190 穫穴住居跡（第174～178図）

**【位置・確認】** 調査区北東部の51・52・59・60 グリッドに位置する。擾乱により南側の大半が失われている。SI189 の拡張後の住居跡である。

**【重複】** SI189 より新しく、SD105・106、Pit48・164・183・196 より古い。

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸 395cm、短軸 387cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

**【方向】** カマドを基準として N - 40° - W である。

**【堆積土】** 13 層に分層した。1～3 層は暗褐色ないしぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、4 層は周溝堆積土である。5～11 層はカマド間連の堆積土で、5 層は天井崩落土である。12 層はカマド袖の構築土で、13 層は掘り方理土である。

**【壁面】** 直立気味に立ち上がる。壁高は、23～34cm を測る。

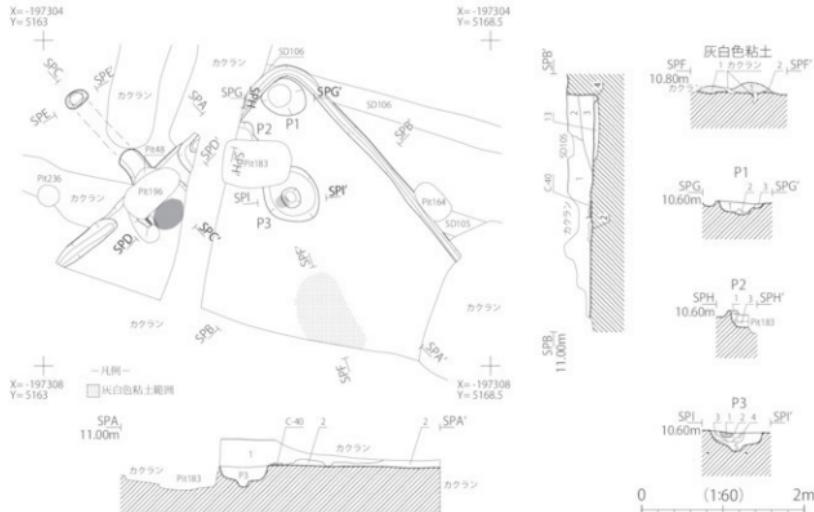
**【床面】** 壁際は掘り方理土である 13 層上面、その他は SI189 掘り方埋土を床面とする。概ね平坦である。

**【柱穴】** 床面から 1 基 (P3) 検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 70cm 以上、短軸 66cm、深さ 27cm を測る。径 16cm の柱痕跡を確認した。掘り方底面では別の柱による窪みがみられるため、柱の建て替えが行われた可能性が考えられる。

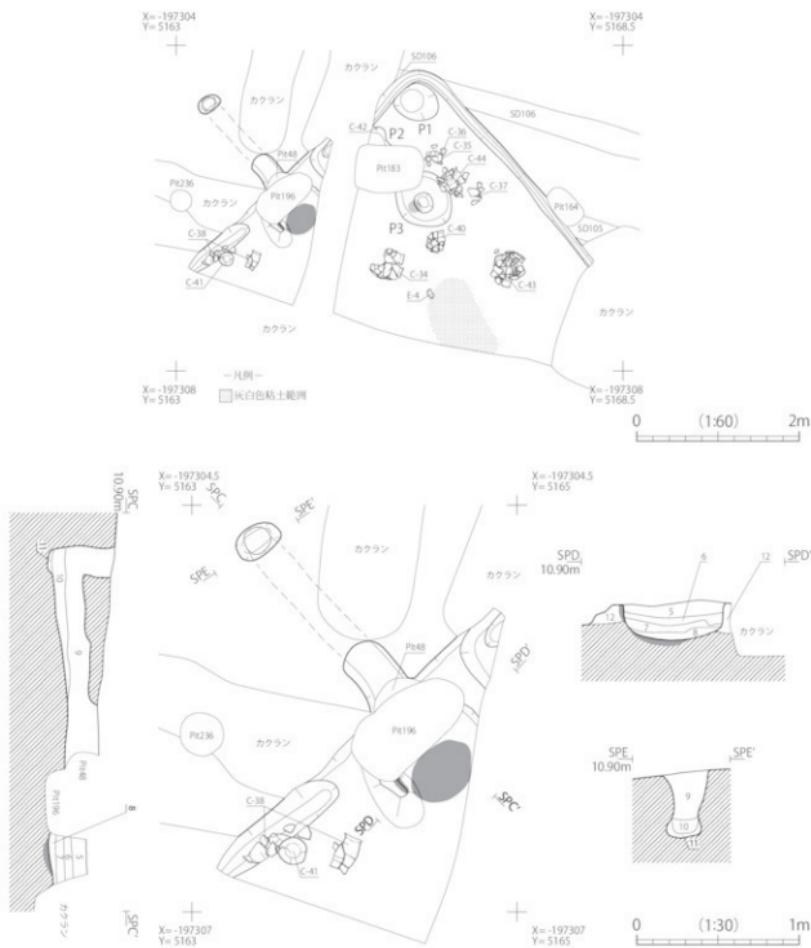
**【周溝】** 残存部分では、カマドが付設されている西壁の一部を除き、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 9～23cm、深さ 1～7cm を測る。

**【カマド】** 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部奥壁や袖の一部は失われている。袖は壁面に直交して付設されている。袖の規模は、右袖が長さ 48cm、幅 26cm、左袖が長さ 68cm、幅 27cm を測る。左袖には被熱痕跡が認められた。燃焼部の規模は奥行き 70cm 程度、幅 72cm を測り、壁内に位置する。底面には長軸 64cm の焼面が認められた。煙道部はトンネル式で天井が残存しており、規模は長さ 135cm、幅 25～32cm、トンネル部分の内径は 13～19cm を測る。底面は先端に向かって緩やかに下がり、煙出し部分でピット状に深さ 3cm 程落ち込む。煙出し部分は平面形状は梢円形で、断面形状は袋状を呈する。規模は長軸 29cm、短軸 20cm、深さ 40cm を測る。

**【その他の施設】** 床面から土坑 2 基 (P1・2) 検出した。P1 は平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸 55cm、短



第174図 SI190 穴穴住居跡 (1)

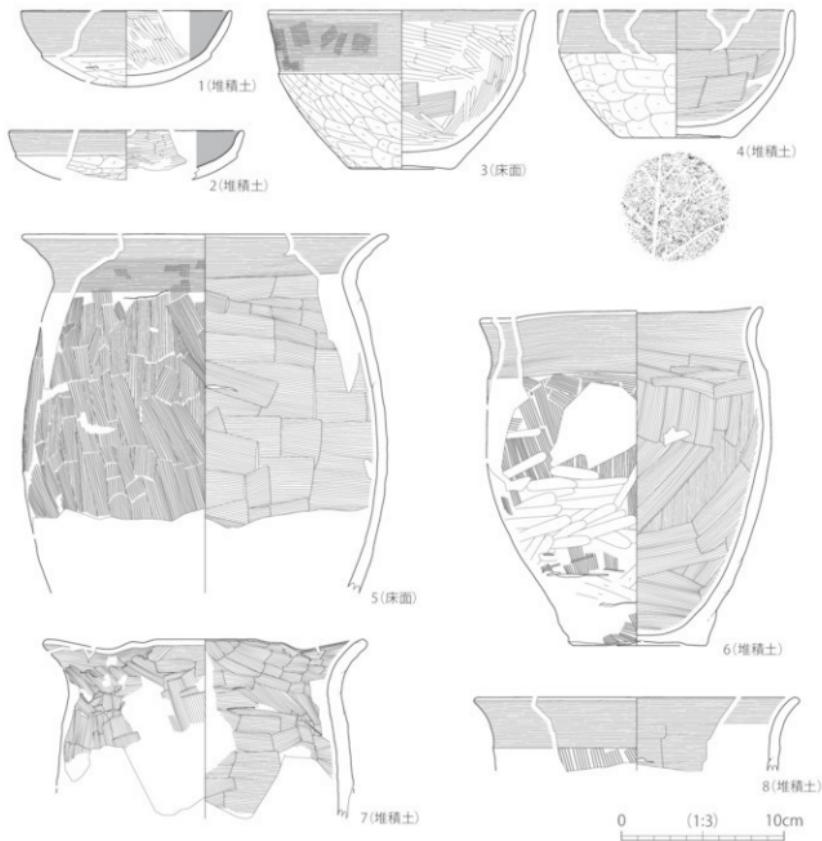


第175図 SI190 穫穴住居跡 (2)

軸 45cm、深さ 15cm を測る。位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。P2 は形状が不明であるが、堆積土に焼土ブロックや炭化物を多く含むことからカマド関連の土坑または貯蔵穴と考えられる。床面から灰白色粘土塊が出土している。規模は長軸 109cm、短軸 67cm、厚さ 12cm 程度で、盛り土状に堆積する。

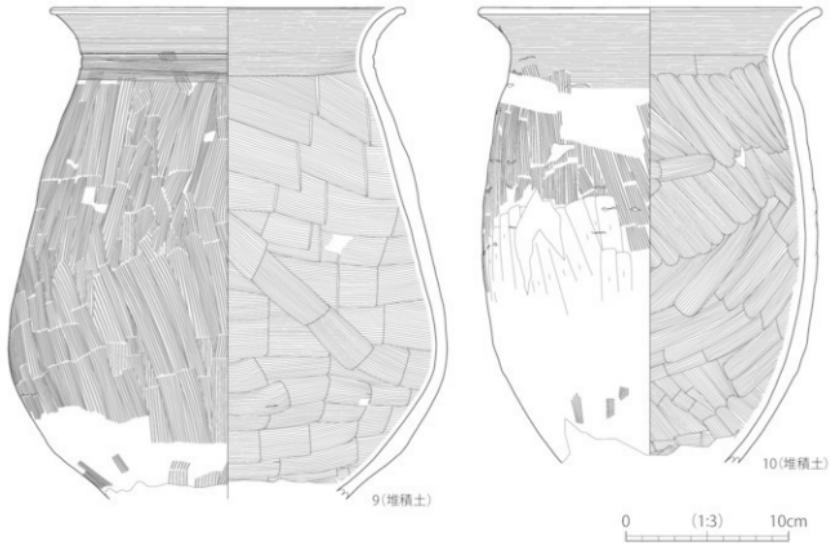
【掘り方】 深さ 5 ~ 21cm で、底面は概ね平坦であるが、部分的に壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・土製品が出土している。このうち、土師器壺 2 点、土師器鉢 2 点、土師器甕 7 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器杯 1 点、須恵器脚付盤 2 点、土製



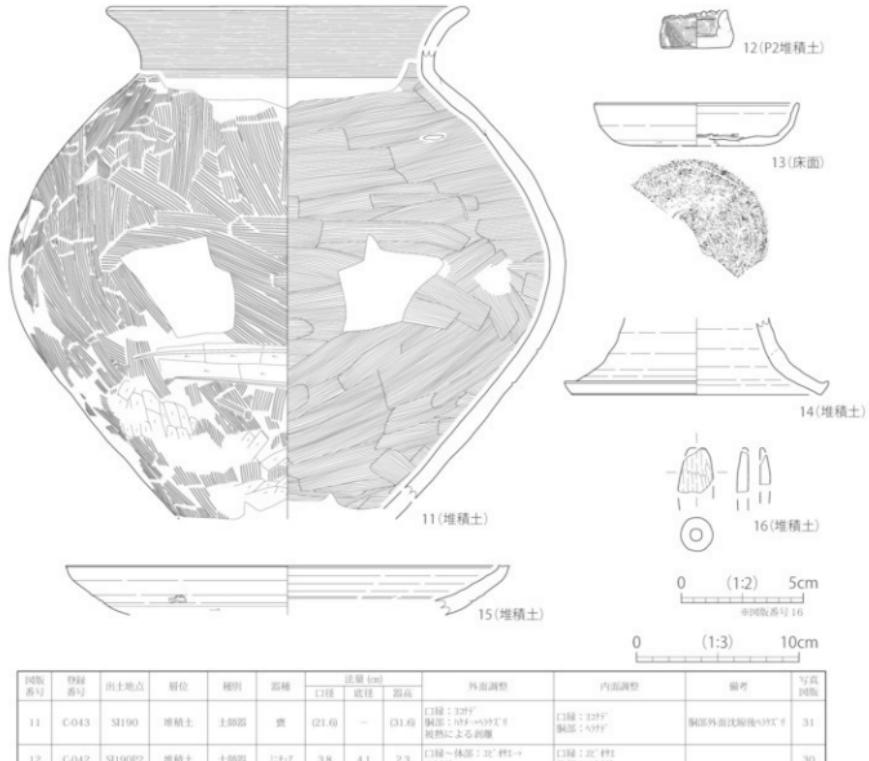
图号 标号	图释 标号	出土地点	部位	器形	器种	重量 (kg)	外剖调整			内面调整	参考	写真 部位
							口径	底径	高			
1	C-036	SI190	堆积土	土罐器	环	(13.0)	—	(4.7)	口缘：22厘米 体部：10厘米	50厘米	内面黑色处理	30
2	C-039	SI190	堆积土	土罐器	环	(14.4)	—	(3.0)	口缘：22厘米 体部：10厘米	50厘米	内面黑色处理	30
3	C-041	SI190	床面	土罐器	蹄	16.2	6.4	9.7	口缘：10厘米→22厘米 体部：10厘米	口缘：22厘米 体部：10厘米→9.5厘米	30	
4	C-035	SI190	堆积土	土罐器	蹄	(14.2)	6.8	7.8	口缘：22厘米 体部：10厘米	口缘：22厘米 体部：10厘米	底部：木炭灰	30
5	C-038	SI190	床面	土罐器	蹄	(22.4)	—	(22.0)	口缘：10厘米→22厘米 体部：10厘米	口缘：22厘米 体部：10厘米	30	
6	C-040	SI190	堆积土	土罐器	蹄	17.2	(8.1)	20.8	口缘：22厘米 脚上半：8.6厘米 脚下半：8.6厘米	口缘：22厘米 脚部：8.6厘米	30	
7	C-033	SI190	堆积土	土罐器	蹄	(19.6)	—	(11.0)	口缘：22厘米→22厘米 体部：10厘米	50厘米	内面磨光	30
8	C-037	SI190	堆积土	土罐器	蹄	(19.6)	—	(4.5)	口缘：22厘米 体部：10厘米	口缘：22厘米 体部：10厘米	30	

第 176 图 SI190 空穴住居出土遗物 (1)



第177図 SI190 穴住居出土遺物(2)

品1点の計16点を掲載した(第176図-1~8、第177図-9・10、第178図-11~16)。1・2・4・6~11・14~16は堆積土、3・5・13は床面、12はP2堆積土からの出土である。1・2は土師器壺である。共に外面の口縁部と体部の境に段を持つ。体部が扁平な半球状を呈し、口縁部は1が内湾気味に外傾、2が短く外傾する。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3・4は土師器鉢である。3は外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は3が直立気味に外傾し、4は直立する。4の底部には木葉痕がみられる。調整は、共に口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、3は体部内面の最終調整にヘラミガキが施されている。5~11は土師器甕である。5~10は胴部が長胴形を呈し、胴部の最大径は5・10が中位、6が上位、9が下位に位置する。口縁部はいずれも外反するもので、6は頸部からの立ち上がりが内傾気味である。9は口縁端部が外側に屈曲する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部が外面ハケメ、内面ヘラナデを主体とし、6・10は胴部外面がハケメ後ヘラケズリないしヘラミガキ、7は胴部外面がヘラナデである。5は口縁部外面のヨコナデが胴部上端に及ぶ。11は胴部が球胴形を呈し、最大径が胴部中位に位置する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ハケメ後ヘラケズリ、内面ヘラナデで、胴部外面下半に沈線が2条施される。12は土師器のミニチュア土器で、平底の底部にやや内傾する体部を持つ。調整は、外面が口縁部から体部にかけてユビオサエ後ユビナデ、内面は口縁部ユビオサエ、体部ユビナデである。13は須恵器壺である。底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁部は外傾する。外面の体部下端から底部には回転ヘラケズリによる再調整が施され、底部内面はヘラナデが施されている。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は灰色を呈する。14・



図版番号	登録番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			外周調整	内部調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
11	C-043	SI190	堆積土	土師器	壺	(21.6)	—	(31.8)	口縁:32才 胸部:5才→5才でモ 破損による剥離	口縁:32才 胸部:5才	胸部外周洗削後5才	31
12	C-042	SI190P2	堆積土	土師器	にわげ	3.8	4.1	2.3	口縁～体部:北→南 3才→	口縁:北→南 体部:北→南	—	30
13	E-004	SI190	床面	須恵器	环	(12.0)	0.0	(2.6)	外周調整 体下端～底部:回転ヘラケズリ	外周調整 底部:5才	海綿骨針少量含む	30
14	E-003	SI190	堆積土	須恵器	脚付盤	—	脚径 (15.4)	(4.7)	97調整	97調整	海綿骨針少量含む	30
15	E-005	SI190	堆積土	須恵器	脚付盤	(27.2)	—	(3.0)	外周調整 体下端:回転ヘラケズリ	外周調整	海綿骨針少量含む	30
図版番号	登録番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
16	F-006	SI190	堆積土	土製品	土師	(1.8)	(1.0)	1.5	(2.6)	3才、孔径0.5cm、下半欠損	—	30

第178図 SI190 穴室住居跡出土遺物(3)

15は須恵器脚付盤である。14は脚部で、裾部は大きく広がり、裾端部は上方に摘まれ端面は外側を向く。胎土には海綿骨針を少量含み、焼成は良好で、焼き締まる。色調は外面が黒色、内面は灰色を呈し、外面は光沢を持つ。15は盤部で、口縁端部は短く直立し、緩い凹面を持つ。外面の体部下端には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。胎土には海綿骨針を少量含み、焼成は良好で、焼き締まる。色調は内外面灰色を呈する。16は管状土錘である。孔径は0.5cmである。

【時期】 床面から出土した土師器鉢(第176図-3)、土師器壺(第176図-5)、須恵器環(第178図-13)から、5a期(郡山1期宮衙期)と考えられる。

## SI191 穫穴住居跡（第179～181図）

【位置・確認】 調査区北東部の52・53・60・61グリッドに位置する。擾乱により北東コーナー付近が失われている。

【重複】 SI192・251・252A・252B、Pit209より新しく、SD104、SK181、Pit216より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸354cm、短軸219cmを測る。平面形状は開丸長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-79°-Eである。

【堆積土】 7層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2・3層はカマド関連の堆積土、4・5層はカマド袖の構築土である。6・7層は掘り方理土である。

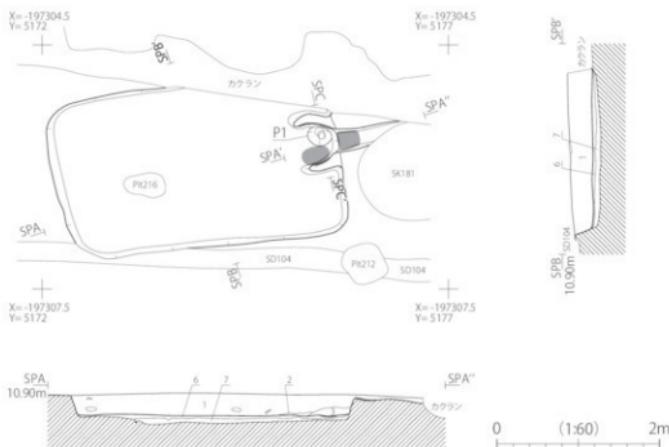
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は、18～29cmを測る。

【床面】 掘り方理土である6層上面を床面とする。概ね平坦である。

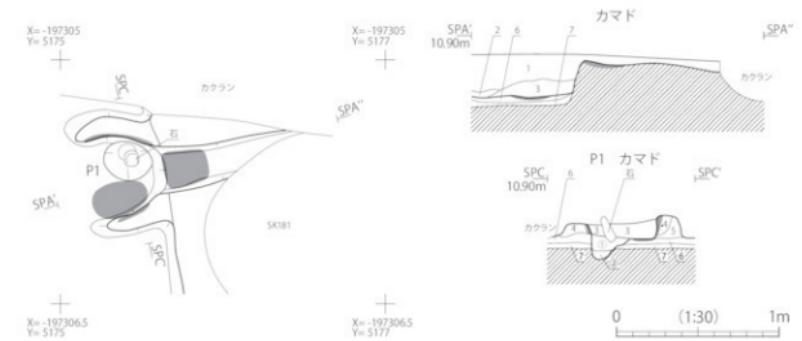
【カマド】 東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、右袖が長さ50cm、幅12～20cm、左袖が長さ55cm、幅20cmを測る。袖は壁面に「ハ」字状に付設され、半ばから先端は内側に向け湾曲する。両袖とも被熱痕跡が認められる。燃焼部の規模は、奥行き56cm、幅50cm、奥壁高28cmを測り、壁内に位置する。底面は平坦で、奥壁は直立気味に外傾して立ち上がる。底面の右袖側に長軸34cmの焼面がみられ、左袖側には長さ16cmの棒状の支脚が埋設されている(P1)。煙道部は先端部が失われている。検出した規模は長さ77cm、幅22～29cm、深さ3～6cmを測る。底面は緩やかな凹凸を持ち、先端に向かって低くなる。煙道基部には被熱痕跡が認められる。

【掘り方】 深さ2～10cmで、南西コーナーの高い部分を除き、全体的に平坦である。

【出土遺物】 床面及びカマド、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・礫石器が出土している。このうち、土師器塊1点、土師器高环4点、土師器底2点、礫石器1点の計8点を掲載した(第181図-1～8)。7は掘り方、それ以外は、いずれも堆積土からの出土である。1は土師器塊である。体部から口縁部にかけ内湾し、外面の口縁



第179図 SI191 穫穴住居跡（1）



SI191 墓横土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物・焼土粒少含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰・燒土ブロック (5 ~ 10mm)、炭化物多量含む。
	3	10YR3/4 黄褐色	シルト	灰・燒土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
カマド堆	4	10YR4/3 にぶ~黄褐色	シルト	燒土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	5	10YR5/4 にぶ~黄褐色	シルト	粘土ブロック多量含む。
	6	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	粘土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、燒土ブロック (5mm程度)・炭化物少量含む。
住居廻り	7	10YR4/4 黑色	シルト	粘土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物少量、にぶ~黃褐色粘土ブロック (5 ~ 30mm) 微量含む。

SI191 旗設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘土粒多量含む。
	②	10YR3/3 黄褐色	シルト	粘土粒多量、炭化物・焼土粒少量含む。

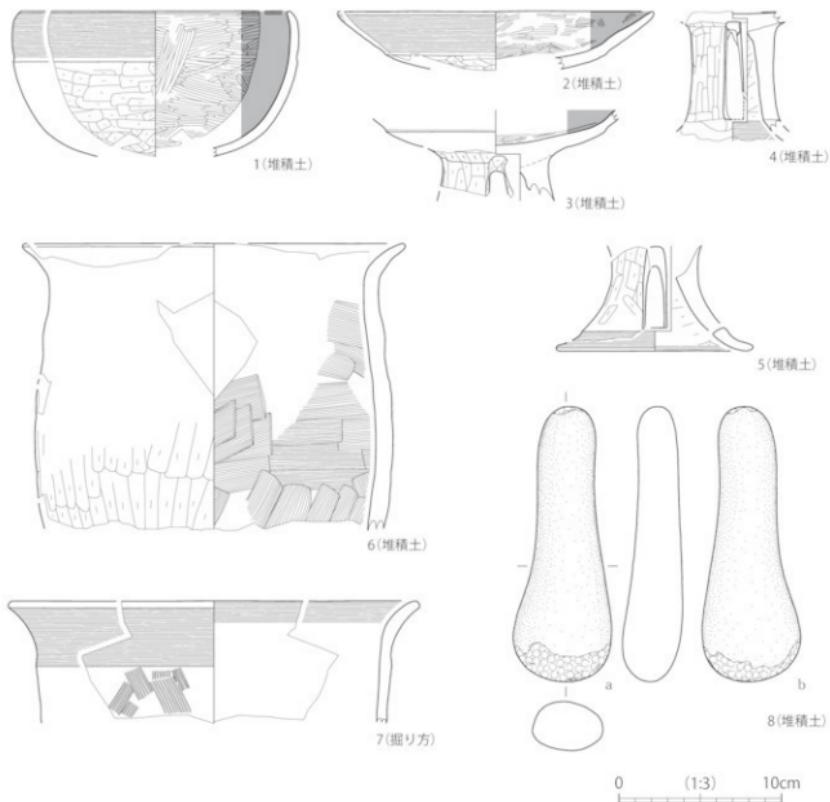
SI191 旗設廻隙表

遺構名	平面形	面積 (㎠)		備考
		長軸	短軸	
P1	楕円形	30	23	14 支脚埋設穴

第180図 SI191 穴穴住居跡 (2)

部と体部の境に沈線状の段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2~5は土師器高环である。2は外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部が大きく開く。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3は外面の口縁部と体部の境に段を持ち、脚部に透かしを3窓持つ。环部との間に接合痕がみられる。調整は、外面が环部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、内面は环部ヘラミガキ後、黒色処理が施され、脚部ヘラケズリである。2・3は調整等で類似点がみられるため、同一個体の可能性が考えられる。4は脚部で、直立気味に伸びる脚部に、矩形の透かしを3窓持つ。調整は、外面が粗いヘラミガキ、内面は环部ヘラミガキ後、黒色処理が施され、脚部ヘラケズリ、据部ヨコナデである。5は脚部から据部で、脚部に矩形の透かしを3窓持つ。据部は「ハ」字状に広がる。調整は、外面が脚部ヘラケズリ、据部ヨコナデ、内面は脚部ヘラケズリ、据部ヨコナデである。6・7は土師器底である。6は口縁部が外反し、口縁端部に向かって器壁は薄くなる。調整は、外面が胴部下半ヘラケズリ、内面は胴部下半ヘラナデで、口縁部は内外面とも摩滅が激しく不明である。7は外面の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部は外反し、口縁端部に平坦面を持つ。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ハケメ、内面は摩滅により不明である。8は敲石である。上下端部に敲打痕が認められる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山II期官衙期）以降と考えられるSI252Aより新しい。



固版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内周調整	備考	写真 複数
						口径	底径	高さ				
1	C-046	SI191	堆積土	土顎器	窓	(16.4)	—	(8.0)	口縁：33mm 体部：597g	5015号	内面黒色處理	32
2	C-107	SI191	堆積土	土顎器	窓環	(19.4)	—	(3.5)	口縁：33mm 体部：597g	5015号	内面黒色處理	32
3	C-045	SI191	堆積土	土顎器	窓環	—	—	(5.3)	環部：60mm 體部：497g	环部：43mm 體部：497g	内部内面黒色處理 C-107と同一個体？ 3窓	32
4	C-049	SI191	堆積土	土顎器	窓環	—	—	(8.0)	體部：5015号(粗)	环部：43mm 體部：497g	内部内面黒色處理 3窓	32
5	C-048	SI191	堆積土	土顎器	窓環	(12.0)	—	(6.4)	體部：49mm 體部：227g	體部：49mm 體部：227g	3窓	32
6	C-047	SI191	堆積土	土顎器	窓	(23.4)	—	(17.5)	胸下平：33mm	胸下平：33mm	内外面摩滅	32
7	C-050	SI191	掘り方	土顎器	窓	(24.8)	—	(7.5)	口縁：33mm 體部：504	口縁：33mm	内面摩滅	32
固版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 複数
						全長	幅	厚さ				
8	Kc-001	SI191	堆積土	礫石器	磨石	16.9	6.1	3.2	458.6	安山岩	磨打痕(a・b面上下端部)、完形	32

第181図 SI191 積穴住居跡出土遺物

## SI192 穫穴住居跡（第182図）

【位置・確認】 調査区北東部の52・60グリッドに位置する。擾乱により大半が失われ、南西コーナー付近のみ残存している。

【重複】 SI251・252A・252Bより新しく、SI191、SD106、Pit203・209より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸278cm、短軸178cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-16°-Wである。

【堆積土】 3層に分層した。1層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2・3層は掘り方埋土である。

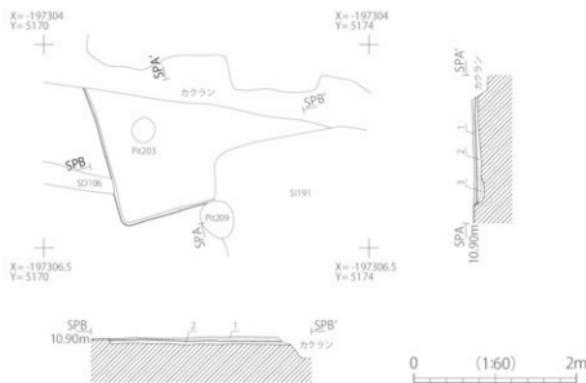
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は、3~6cmを測る。

【床面】 掘り方埋土である2層上面を床面とし、概ね平坦である。

【掘り方】 深さ3~9cmで、概ね平坦であるが、南壁際の一部が深く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土している。このうち、土師器壺1点を掲載した（第182図-1）。口縁部は直立気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山II期官衙期）以降と考えられるSI252Aより新しい。



SI192堆積土記表

部位	層位	主色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘土質少額含む。
住居堆積土	2	10YR4/3 に2.5Y-黄褐色	シルト	粘土質・灰白色土粒多量、炭化物少額含む。
住居堆積土	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘土質少額含む。



固有 番号	伊藤 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						(口径)	(底径)	(厚)				
1	C051	SI192	堆積土	土師器	壺	(10.6)	-	(2.6)	口縁：2.5cm 底径：10.6cm	内面黒色処理	内面黒色処理	32

第182図 SI192 穫穴住居跡・出土遺物

## SI193 積穴住居跡（第183～185図）

【位置・確認】 調査区東部の75・81・82グリッドに位置する。擾乱により大半が失われ、床面は北西コーナー付近のみ残存している。

【重複】 重複する遺構はない。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸532cm、短軸518cmを測る。平面形状は方形と推定される。

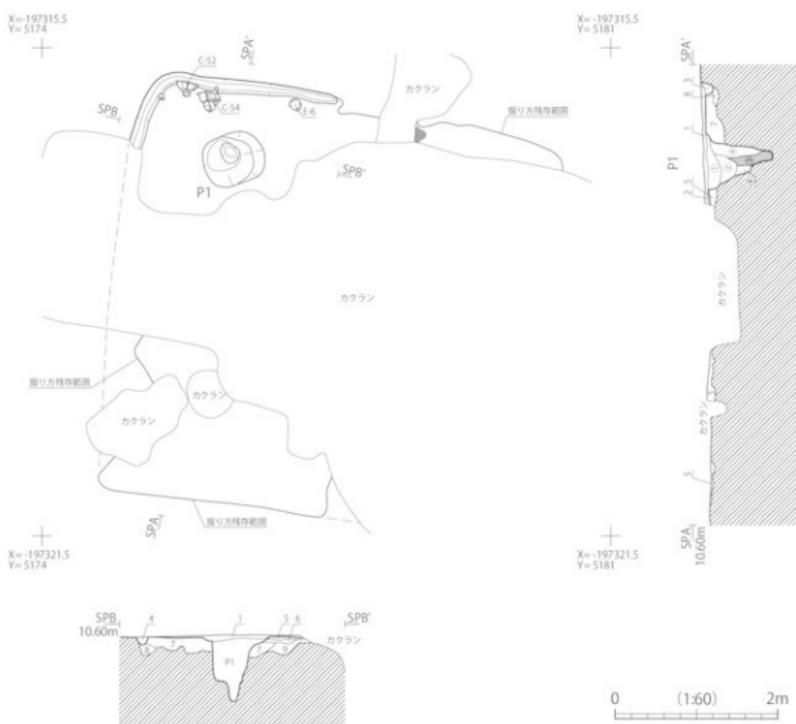
【方向】 西壁を基準としてN-11°-Eである。

【堆積土】 9層に分層した。1・2層は褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3・4層は周溝堆積土、5～9層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は、1～6cmを測る。

【床面】 掘り方埋土である5層ないし7層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から1基（P1）検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸76cm、短軸63cm、深さ82cmを測る。径12cmの柱痕跡を確認した。



第183図 SI193 積穴住居跡

SI193 堆積土記表

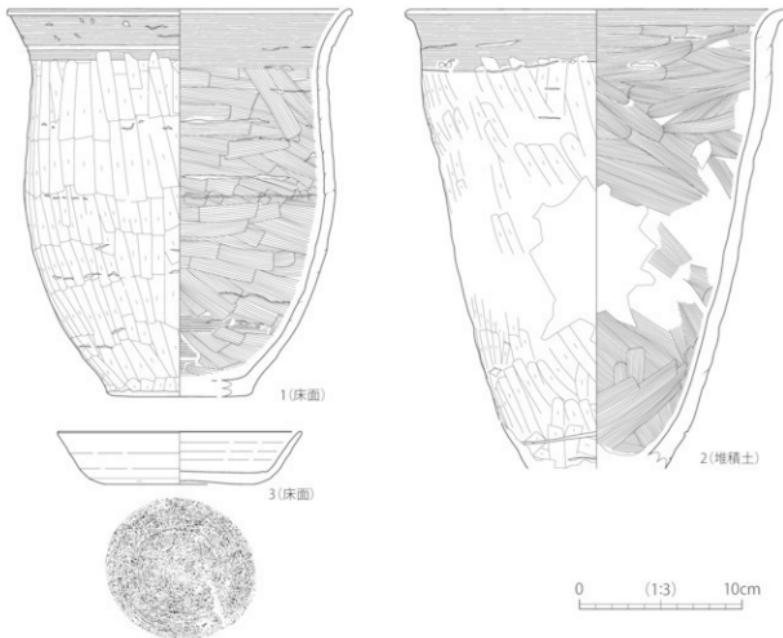
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。
溝清	3	10YR3/4 姑褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5~10mm) 多量含む。
	4	10YR4/6 姑褐色	シルト	赤褐色土塊状に含む。
住居掘り方	5	10YR4/6 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5~10mm) 多量、炭化物少量含む。
	6	10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック (5~30mm)、炭化物少量含む。
住居掘り方	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5~30mm) 多量含む。
	8	10YR4/6 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5~20mm) 少量含む。
	9	10YR3/4 姑褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5~30mm) 多量、炭化物粒少量含む。

SI193 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	赤褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/4 姑褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR3/3 姑褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック (5~20mm) 多量含む。半柱60cm
	④	10YR4/6 黄褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック (5~30mm) 多量含む。

SI193 施設断面図

施設名	平面形	断面 (cm)	備考
P1	圓丸方形	76×63 深さ 82	主柱穴



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	口径	直径	高さ	法量 (cm)		外周調整	内面調整	備考	写真回数
									口縁	側縁				
1	C-054	SI193	床面	土器部	甕	21.0	(8.4)	23.8	口縁：13.9cm	～10.9cm 側部：8.9cm	口縁：13.9cm 側部：8.9cm	口縁下端：一部切欠	33	
2	C-052	SI193	堆積土	土器部	甕	23.2	—	G28.2	口縁：13.9cm	～10.9cm 側部：8.9cm	口縁：13.9cm 側部：8.9cm	内外面削減 側部下端に沈殿	33	
3	E-006	SI193	床面	調査器	环	14.8	9.2	3.3	外周調整 体下端：斜面ハサワリ 底部：10cm余切り→周縁削除 ハサワリ	3.3cm調整	内外面火押痕	33		

第184図 SI193 穴式住跡出土遺物（1）



第185図 S193 積穴住居跡出土遺物（2）

**【周溝】** 北西コーナー付近のみ残存し、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 12 ~ 18cm、深さ 5 ~ 11cm を測る。

**【焼面】** 北壁中央部のやや東寄りに焼面を検出した。焼面の規模は長軸 19cm、短軸 14cm を測る。位置的に力マド燃焼部の痕跡と考えられる。

**【掘り方】** 深さ 6 ~ 23cm で、底面に激しい起伏がみられる。

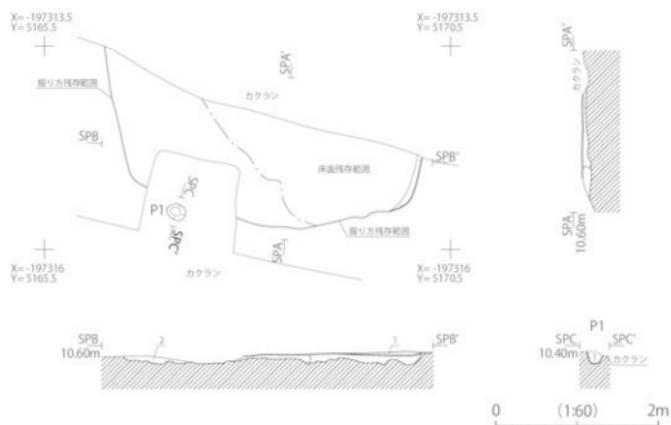
**【出土遺物】** 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・石製品が出土している。このうち、土師器表2点、須恵器1点、石製品1点の計4点を掲載した（第184図-1～3、第185図-4）。1・3は床面、2・4は堆積土からの出土である。1・2は土師器表である。胴部が長胴形を呈し、胴部の最大径は1が中位、2が上端に位置する。1は外面の口縁部と胴部の境に棱、口縁部下位に沈線状の段を持つ。口縁部は1が外反気味に外傾、2は直線的に外傾し、共に口縁端部が外側に屈曲する。2は胴部外面下端に沈線が施される。調整は、共に口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。3は須恵器表である。体部は外傾して立ち上がり、口縁部が外反気味に外傾する。底部の切り離しは回転糸切りで、外面の体部下端から底部周縁には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。内外面に火禪痕がみられる。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は外面が青灰色、内面が灰色を呈する。4は砥石で、敲石として使用された後、砥石に転用されたものと考えられる。

**【時期】** 床面から出土した土師器表（第184図-1）、須恵器表（第184図-3）から、5世紀前半（奈良時代）と考えられる。

#### SI194 穫穴住居跡（第186図）

**【位置・確認】** 調査区北東部の67・74グリッドに位置する。擾乱により大半が失われている。また、上面は削平を受けており、東半部のみ床面が残存している。

**【重複】** 重複する遺構はない。



SI194 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4稍褐色	シルト	古褐土和多量、炭化物質、焼土和鐵錆含む。
住居側面	2	10YR4/6褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック(5~70mm)多量、に少い鉄錆含む。

SI194 施設堆積土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4稍褐色	シルト	古褐土和多量含む。

SI194 地盤観察表

遺構名	平面形	規模 (m)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(2.5) × (2.0)	(1.5)	

第186図 SI194 穫穴住居跡

【規模・形態】 検出した規模は、長軸361cm、短軸210cmを測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 西辺を基準としてN-12°-Wである。

【堆積土】 2層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は2~4cmを測る。

【床面】 残存部分では、掘り方埋土である2層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 摂乱底面から1基(P1)検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸25cm、短軸20cm、深さ15cm以上を測る。

【掘り方】 深さ3~11cmで、底面は起伏を持つ。

【出土遺物】 床面及び掘り方から土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SI195 穴住居跡（第187~189図）

【位置・確認】 調査区北東部の61・68・75グリッドに位置する。摂乱により北東部などが失われ、東側は調査区外に延びる。

【重複】 SD111、SK183、Pit58・172・173・178・179・189~195・197~202より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸717cm、短軸418cmを測る。平面形状は東側が拡がる台形状と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-18°-Wである。

【堆積土】 10層に分層した。1~4層は暗褐色ないし褐色シルトを主体とする住居堆積土で、5・6層は周溝堆積土である。7層はカマド関連の堆積土、8・9層はカマド袖の構築土、10層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存状況の良い南壁で壁高14cm程度である。

【床面】 掘り方埋土である10層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から3基(P1~3)検出した。P1・2は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸70~85cm、深さ66~70cmを測る。径16~18cmの柱痕跡が確認され、底面には径16~30cmの変色範囲が認められた。P3は大部分が東側の調査区外に延びるが、位置的に主柱穴の可能性が考えられる。規模は長軸39cm以上、短軸19cm以上、深さ42cmを測り、径11cmの柱痕跡を確認した。

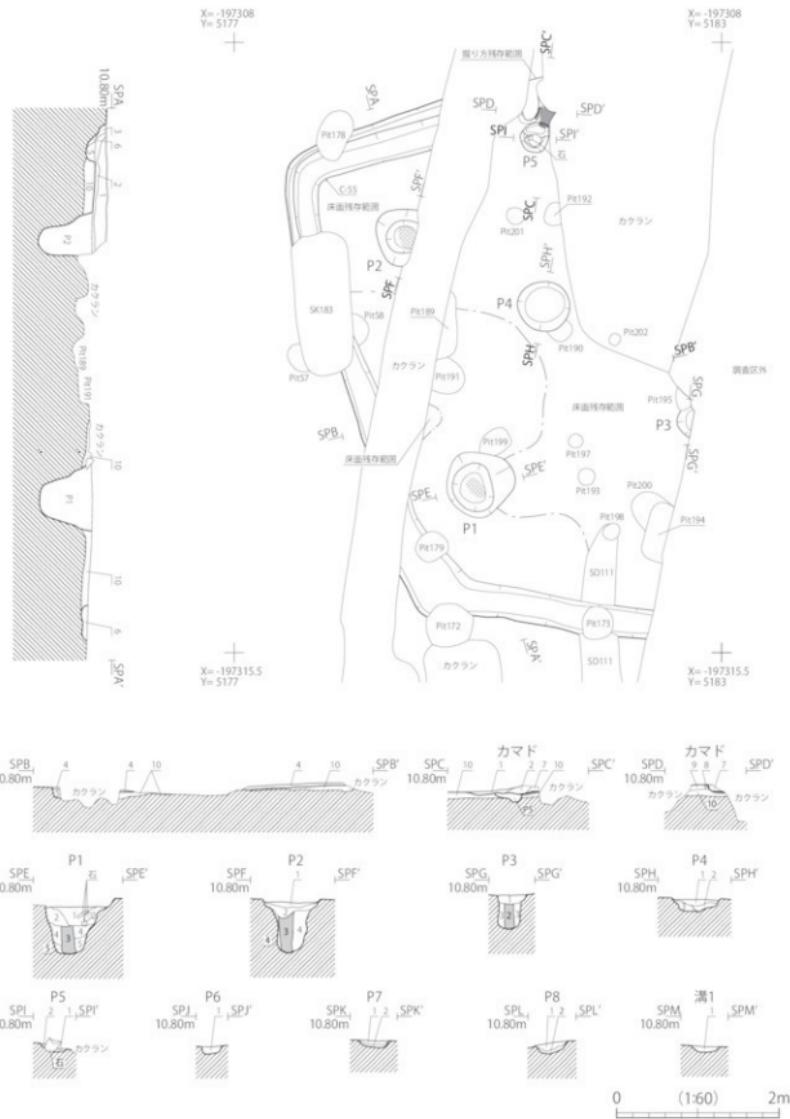
【周溝】 検出した範囲では、壁面に沿って周る。規模は幅28~66cm、深さ3~23cmを測り、断面形状は「U」字状を呈する。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は削平や摂乱により東袖は失われ、西袖は基底部の一部が残存している。西袖の残存規模は長さ52cm、幅30cmを測り、先端部に袖石が埋設されている(P5)。袖石は上半部分が削平により失われている。燃焼部は摂乱により焼面のみが残存しており、焼面の規模は長軸27cm以上、短軸22cm以上を測る。底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 床面からピット1基(P4)、掘り方底面からピット3基(P6~8)、溝1条(溝1)を検出した。P4は床面の中央部に位置する。平面形状は円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸62cm、深さ15cmを測る。P8は、平面形状が梢円形を呈し、規模は長軸56cm以上、短軸41cm、深さ12cmを測る。底面直上には厚さ5cm程の炭化物層が認められる。溝1は位置関係から間仕切り溝と考えられるが、検出面では確認できなかった。規模は長さ72cm以上、幅30~40cm、深さ5~7cmを測る。

【掘り方】 深さ8~16cmで、中央部が高く、壁際が低くなる。

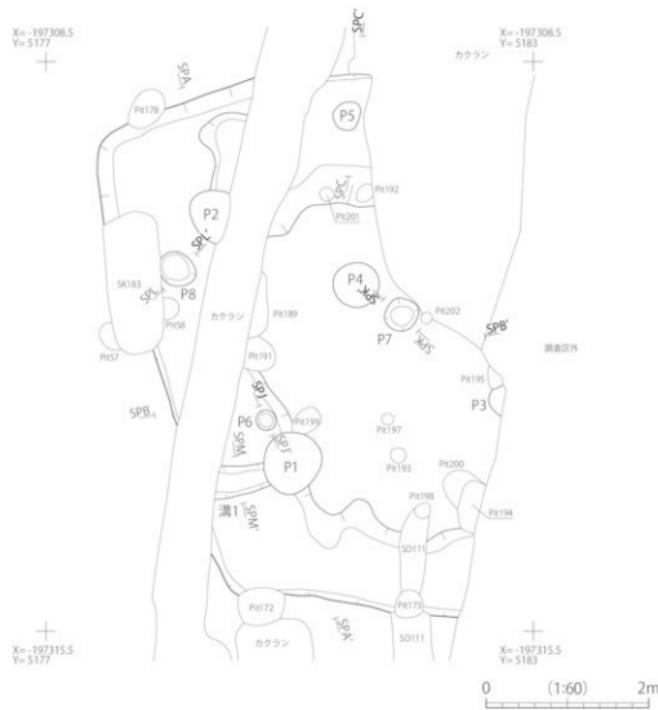
【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器



第187図 SI195 竪穴住居跡 (1)

环1点と須恵器長頸瓶1点の計2点を掲載した(第189図-1・2)。1は床面、2は堆積土からの出土である。1は外面の口縁部と体部の境に段を持つ土師器環である。体部が扁平な半球状を呈し、口縁部が外傾する。口縁部中位と底部の器壁が肥厚している。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は須恵器長頸瓶の体部である。体部の上位に最大径があり、丸みを持ち肩部が強く張る。口頸部は欠損しているが、体部上位に接合痕がみられ、頸部は別作りで接合されたと考えられる。外面の体部上端にはヘラケズリによる再調整が施されている。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は灰色を呈し、自然釉が付着する。

【時期】 床面から出土した土師器環(第189図-1)から、5a期(郡山1期官衙期)と考えられる。



SI195 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	箇所
住居堆積土	1	10YR3/3 姫蘭色	シルト	古削土ブロック(5~10mm)少額、炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 姫蘭色	シルト	古削土粒多量、炭化物・焼土和微量含む。
	3	10YR3/3 姫蘭色	シルト	古削土粒多量含む。
	4	10YR4/4 黄色	シルト	古削土粒多量含む。
周溝	5	10YR3/4 姫蘭色	シルト	古削土ブロック(5~50mm)多量含む。
	6	10YR4/4 黄色	シルト	焼土ブロック(10mm程度)微量、上部に姫蘭色土含む。
カマド	7	10YR3/3 姫蘭色	シルト	焼土粒多量含む。
	8	10YR5/6 黄蘭色	シルト	昭和色土粒多量、燒土和微量含む。
	9	10YR5/6 黄蘭色	シルト	昭和色土粒多量、燒土和微量含む。
住居側方	10	10YR5/6 黄蘭色	砂質シルト	昭和色土ブロック(5~50mm)多量含む。

第188図 SI195 積穴住居跡(2)

SI195 施設堆積土註記表

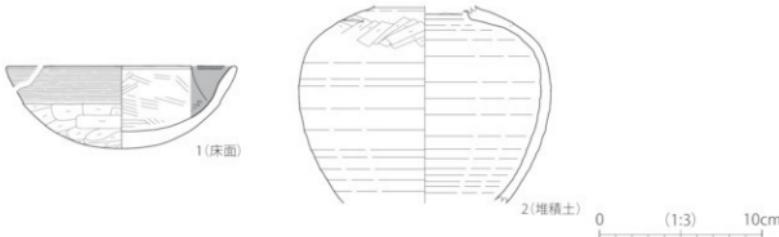
施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/6 始褐色	シルト	褐色土多量含む。
	3	10YR4/6 始褐色	粘土質シルト	褐色土多量、始褐色ブロック(5mm程度)少量含む。※柱痕跡
	4	10YR3/4 始褐色	粘土質シルト	褐色土多量含む。
	5	10YR4/6 始褐色	粘土質シルト	褐色土多量含む。
P2	1	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
	2	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
	3	10YR4/6 始褐色	シルト	褐色土ブロック(5~30mm)多量含む。※柱痕跡
	4	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量、粘土質微量含む。
P3	1	10YR4/6 始褐色	シルト	赤褐色土少量、炭化物・焼土和微量含む。
	2	10YR3/4 始褐色	粘土質シルト	赤褐色土多量含む。※柱痕跡
	3	10YR3/4 始褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック(50mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量、燒土粒少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/6 始褐色	シルト	褐色土ブロック(5~30mm)少量含む。
	3	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5~20mm)多量含む。
P5	1	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土・燒土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 始褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
P6	1	10YR3/3 始褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
P7	1	10YR4/6 始褐色	シルト	褐色土ブロック(5~40mm)多量含む。
	2	10YR4/6 始褐色	砂質シルト	褐色土和微量含む。
P8	1	10YR4/6 始褐色	砂質シルト	褐色土ブロック(5~30mm)多量含む。
	2	10YR2/1 黒色	—	炭化物層。
酒1	1	10YR3/4 始褐色	シルト	赤褐色土多量含む。

SI195 施設調査表

施設名	断面形			備考
	平面形	長軸×短軸	深さ	
P1 (不整円形)	(85) × (83)	70	主柱穴 底面変色	
P2 (不整円形)	70 × (53)	66	主柱穴 底面変色	
P3 (円形)	(99) × (99)	42	主柱穴か	
P4 円形	63 × 62	15		
P5 円形	37 × 35	10	袖石埋設穴	

施構名	平面形	断面 (cm)	備考
P6	円形	25 × 25	8
P7	楕円形	44 × 41	8
P8	(楕円形)	(56) × 41	12
酒1	—	(72) × 30 ~ 40	5 ~ 7 壁石切り溝



第189図 SI195 穫穴住居跡出土遺物

SI196 穫穴住居跡（第190図）

【位置・確認】 調査区東部の81・88グリッドに位置する。擾乱と削平により大半が失われ、北東コーナー付近の掘り方のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 SI243より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸334cm、短軸150cmを測る。平面形状は隅丸長方形ないし隅丸長方形と推定される。

【方向】 東辺を基準としてN-27°Wである。

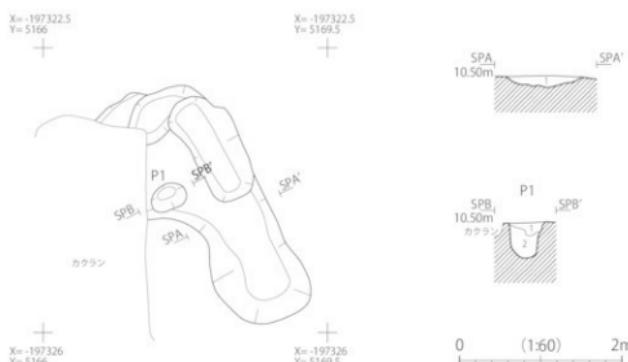
【堆積土】 黄褐色シルトの単層で、掘り方埋土である。

【柱穴】掘り方上面から1基(P1)検出した。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸45cm、短軸31cm、深さ44cmを測る。

【掘り方】深さ7~15cmで、底面に起伏がみられ、壁際が低くなる。

【出土遺物】掘り方などから土師器が出土している。このうち、掘り方から出土した土師器環1点を掲載した(第190図-1)。外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】時期決定できる遺物はないが、掘り方から出土した土師器環(第190図-1)から、5a期(郡山1期官衙期)以降と考えられる。



SI196 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居跡の方	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	古層土跡多量含む。

SI196 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	古層土跡多量含む。
P1	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	古層土跡多量、他土糞微量含む。

SI196 施設観察表

施設名	平面形	規模 (cm)	備考
P1	楕円形	45×31 (44)	



1(掘り方)



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法規 (cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 回数
1	C-056	SI196	掘り方	土師器	環	(16.0) — (3.9)	口縁: 32mm 体部: 40mm	口縁: 33mm 体部: 40mm	内面黒色処理	33

第190図 SI196 穴住居跡・出土遺物

## SI197 竪穴住居跡（第191図）

【位置・確認】 調査区中央部の73・80グリッドに位置する。擾乱と削平により北西コーナー付近の掘り方のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 Pit128より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸231cm、短軸227cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西辺を基準としてN-10°Wである。

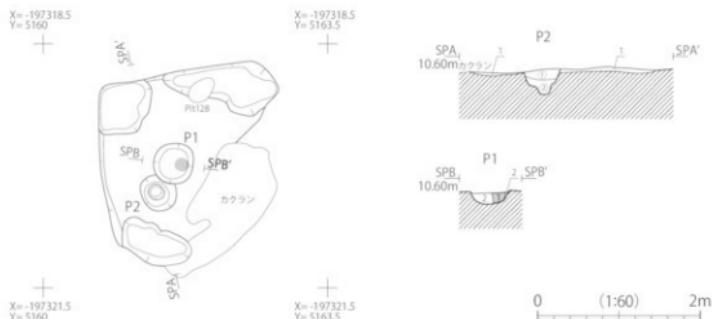
【堆積土】 黄褐色シルトの單層で、掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方上面から2基（P1・2）検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴の可能性が考えられ、重複関係からP2は建て替え前の主柱穴の可能性が考えられる。規模は長軸47～53cm、深さ16～31cmを測り、P1の底面には径18cmの柱痕跡が認められた。

【掘り方】 深さ2～6cmで、底面は概ね平坦であるが、壁際が部分的に低くなる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SI197 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	I	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色色土ブロック(5～30mm)少量含む。

SI197 堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5mm程度)少量含む。串杆痕跡
	2	10YR4/6 黄褐色	シルト	褐色色土ブロック(10～30mm)多量含む。
P2	①	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色色土ブロック(5～50mm)多量含む。
	②	10YR3/4 黄褐色	シルト	赤褐色土少量含む。

SI197 堆積土目録表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考	遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸	短軸				長軸	短軸	
P1	円形	53	50	16	柱穴	(円形)	47	36	E柱穴か?

第191図 SI197 竪穴住居跡

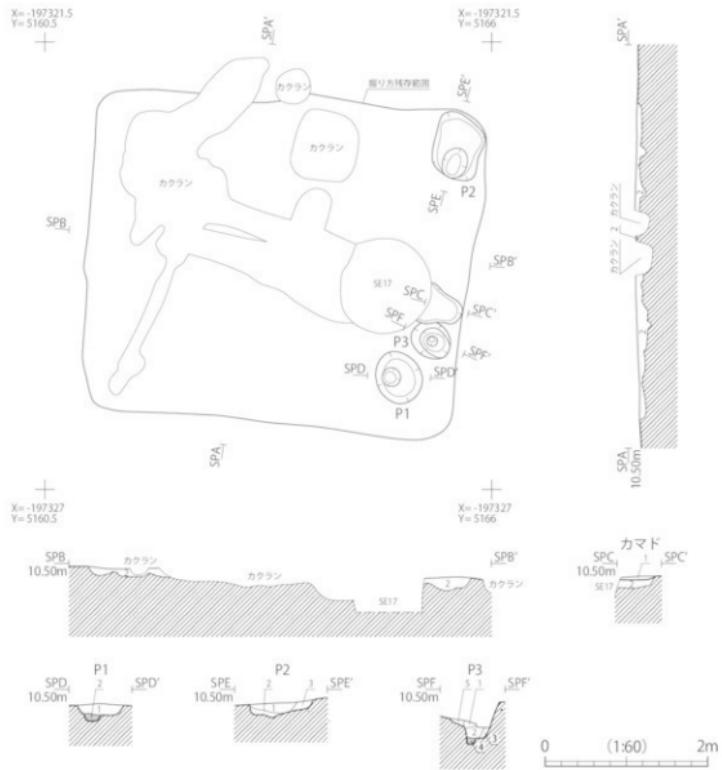
## SI198 竪穴住居跡（第192・193図）

【位置・確認】 調査区中央部の80・81・87・88グリッドに位置する。削平により、床面は残存していない。

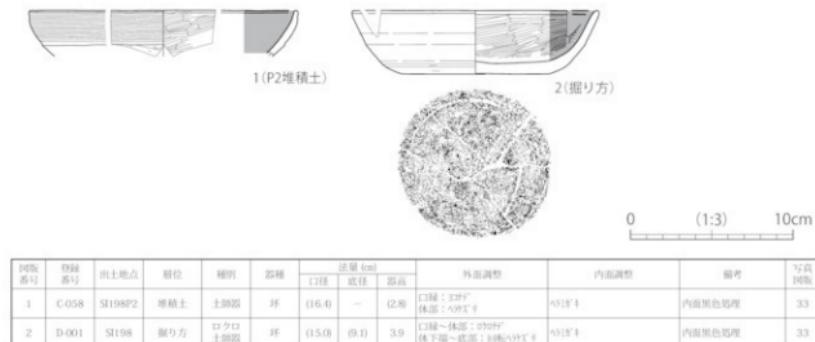
【重複】 SE17より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸482cm、短軸398cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 東辺を基準としてN-8°Eである。



第192図 SI198 穴六住居跡



第193図 SI198 穫穴住居跡出土遺物

【堆積土】2層に分層した。1層はカマド関連の堆積土で、焼土ブロックや灰を含む。2層は掘り方埋土である。

【柱穴】掘り方上面から1基(P1)、掘り方底面から1基(P3)総2基を検出した。いずれも平面形状は楕円形を呈し、底面には柱による窪みが認められる。規模は長軸51～65cm、短軸44～55cm、深さ21～27cmを測る。

【カマド】東壁中央部南寄りの位置で、焼土ブロックや灰が堆積する皿状の窪みを検出した。堆積状況や位置関係から燃焼部の底部と考えられ、検出した規模は長軸50cm、短軸42cm、深さ4cmを測る。底面に焼面は認められなかった。

【その他の施設】掘り方上面から土坑1基(P2)を検出した。P2は北東コーナーに位置していることから、貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形状は剛丸長方形を呈し、規模は長軸78cm、短軸58cm、深さ17cm以上を測る。

【掘り方】深さ1～16cmで、底面には激しい起伏がみられる。

【出土遺物】床面施設及び堆積土、掘り方などから土師器・ロクロ土師器が出土している。このうち、土師器環1点、ロクロ土師器環1点の計2点を掲載した(第193図-1・2)。1はP2堆積土、2は掘り方からの出土である。1は土師器環である。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は内湾し、口縁端部が短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2はロクロ土師器環である。底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。外面の体部下端には回転ヘラケズリによる再調整が施され、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】時期決定できる遺物はないが、掘り方から出土したロクロ土師器環(第193図-2)から、5bii期(奈良時代)以降と考えられる。

#### SI199 穫穴住居跡(第194～196図)

【位置・確認】調査区中央部の80・87グリッドに位置する。削平により床面の東側1/3程度が失われている。

【重複】SI211より新しく、Pit73・74・77・78・105・150より古い。

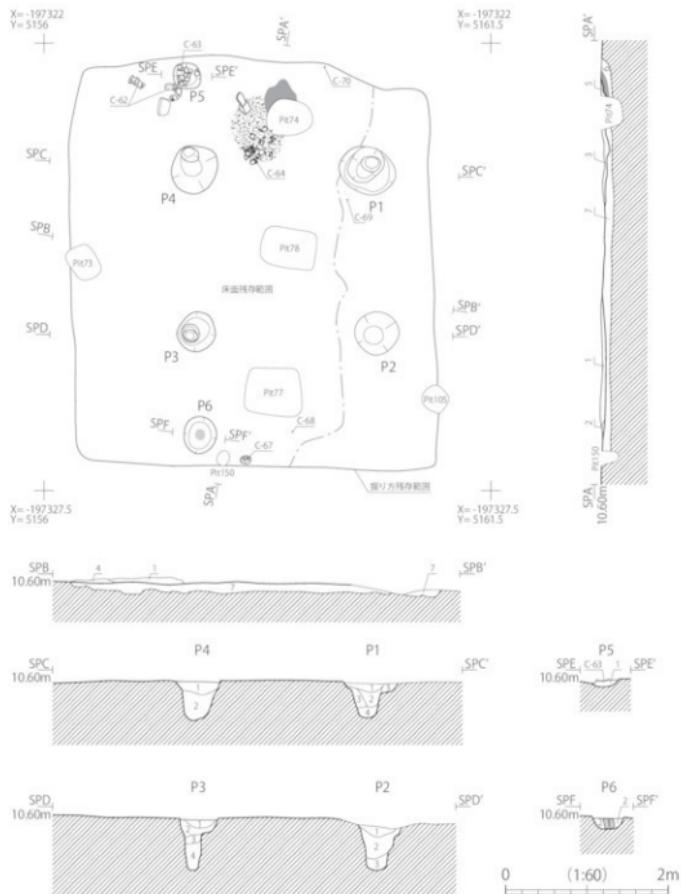
【規模・形態】検出した規模は長軸501cm、短軸441cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】東辺を基準としてN-2°-Wである。

【堆積土】7層に分層した。1～4層は住居堆積土で、5層はカマド関連の堆積土、6・7層は掘り方埋土である。

【床面】 堀り方埋土である7層上面を床面とし、緩やかな起伏がみられる。

【柱穴】 床面から4基(P1・3・4・6)、堀り方上面から1基(P2)、総数5基を検出した。P1～4はやや北東側に偏るが、位置関係や規模から主柱穴と考えられ、規模は長軸49～70cm、深さ42～62cmを測る。P1～4



SI199 埋蔵土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	古層土と多量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	炭化物多量含む。
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	古層土と多量含む。
	5	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	他土と多量含む。
住居側り方	6	10YR5/4 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(15～50mm) 少量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	古層土ブロック(5～100mm) 多量。他土と少量含む。

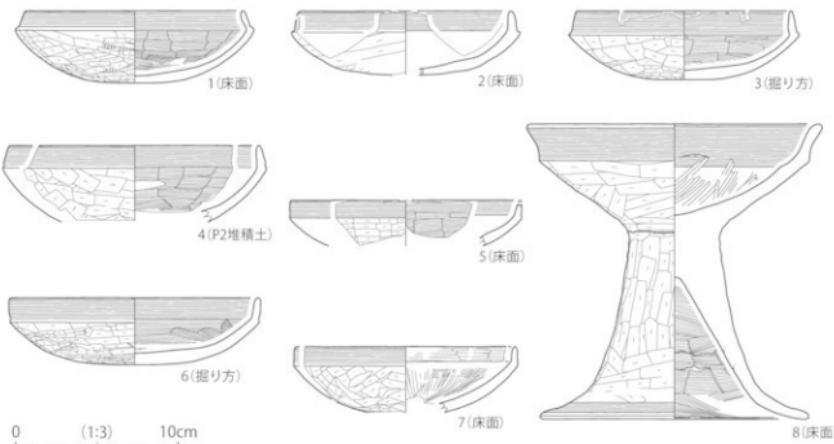
第194図 SI199 穴穴住居跡

SI199 旗設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	IORY3/4 順褐色	シルト	炭化物多量。IV層土少量含む。
	2	IORY3/4 順褐色	シルト	IV層土少量含む。
	3	IORY3/4 順褐色	シルト	IV層土少量含む。
	4	IORY2/3 黒褐色	シルト	II層土ブロック(10~30mm) 多量、炭化物微量含む。
P2	1	IORY4/4 黄褐色	シルト	II層土・炭化物微量含む。
	2	IORY3/4 順褐色	粘土質シルト	II層土ブロック(5~50mm) 多量、炭化物微量含む。
	3	IORY5/6 黄褐色	粘土質シルト	
P3	1	IORY3/4 順褐色	シルト	II層土ブロック(10~20mm)・炭化物少量含む。
	2	IORY4/4 黄褐色	シルト	II層土ブロック(30mm程度) 少量含む。
	3	IORY4/4 黄褐色	シルト	II層土・炭化物少量含む。
	4	IORY4/4 黄褐色	粘土質シルト	II層土・炭化物微量含む。
P4	1	IORY4/4 黄褐色	シルト	II層土・炭化物微量含む。
P5	1	IORY3/2 黑褐色	シルト	II層土ブロック(5~10mm) 多量含む。
P6	1	IORY3/4 順褐色	シルト	II層土ブロック(5mm程度) 少量含む。※柱痕跡
	2	IORY4/4 黄褐色	シルト	II層土ブロック(5~20mm) 多量含む。

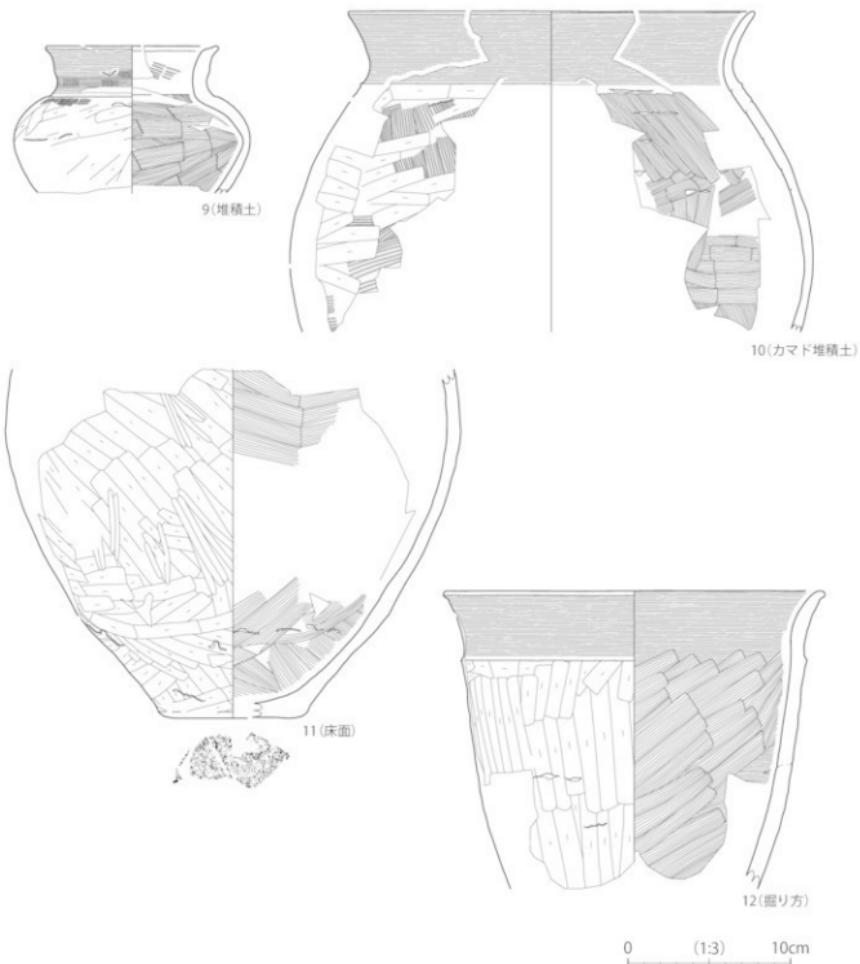
SI199 旗設縫隙表

遺構名	平面形	面積 (cm)		備考	遺構名	平面形	面積 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(70) × (58)	42	主柱穴	P4	円形	62 × 56	48	主柱穴
P2	(円形)	(54) × (53)	54	主柱穴	P5	楕丸方形	37 × 34	5	
P3	円形	49 × 45	62	主柱穴	P6	円形	46 × 40	13	



回収番号	採取番号	出土地点	層位	種別	遺構	法面 (cm)			外側調整	内側調整	備考	写真
						口径	底径	高さ				
1	C-066	SI199	床面	土師器	环	13.2	—	4.4	口縁：23°F 体部：5.9°F→5.5°F	口縁：32°F 内側面漆仕上げ	開査系	33
2	C-063	SI199	床面	土師器	环	(13.0)	—	3.9	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：32°F 内側面漆	開査系	33
3	C-070	SI199	脇り方	土師器	环	(13.2)	—	4.2	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：32°F 体部：5.9°F	開査系 内側面漆仕上げ	33
4	C-065	SI199P2	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	(4.6)	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：23°F 体部：5.9°F	開査系 内側面漆仕上げ	33
5	C-060	SI199	床面	土師器	环	(14.2)	—	(2.8)	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：23°F 体部：5.9°F	開査系 内側面漆仕上げ	34
6	C-068	SI199	脇り方	土師器	环	15.2	3.0	4.1	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：23°F 体部：5.9°F	開査系	33
7	C-067	SI199	床面	土師器	环	(13.6)	—	(4.0)	口縁：23°F 体部：5.9°F	口縁：32°F 体部：5.9°F→5.5°F	開査系	34
8	C-062	SI199	床面	土師器	高环	17.8	16.2	18.1	口縁：23°F 体部：5.9°F 底部：32°F	口縁：32°F 体部：5.9°F 底部：32°F	開査系 内側面漆仕上げ	33

第195図 SI199 穴式住居跡出土遺物（1）



回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法線 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真 枚数
						口径	底径	高さ				
9	C-059	SI199	堆積土	土師器	壺	(10.6)	—	(9.0)	口縁：NDF-329F 脚部：NDF-409C-9	口縁：NDF-329F 脚部：NDF-409C-9		34
10	C-064	SI199	堆積土	土師器	甕	(24.8)	—	(19.7)	口縁：329F 脚部：NDF-409C-9	口縁：329F 脚部：NDF-409C-9		34
11	C-061	SI199	床面	土師器	甕	—	(8.4)	(21.4)	脚部：NDF-409C-9	外付	内面磨滅 底部：木型痕	34
12	C-069	SI199	掘り方	土師器	甕 or 壺	(23.2)	—	(18.3)	口縁：409F 脚部：NDF-409C-9	口縁：329F...~NDF-409F 脚部：NDF-409C-9		34

第196図 SI199 積穴住居跡出土遺物（2）

では堆積土上部から長さ15~30cm程度の自然礫が1点ないし複数点出土している。P6は南壁際の西寄りに位置し、平面形状は円形を呈する。規模は長軸46cm、短軸40cm、深さ13cmを測り、径13cmの柱痕跡を確認した。

**【焼面】** 北壁中央のやや東寄りに位置する。削平などにより失われているため構造などは不明であるが、燃焼部の焼面と炭化物の集積がみられた。焼面の規模は長軸44cm、短軸40cmを測る。

**【その他の施設】** 床面から土坑1基(P5)を検出した。カマドの西側の北壁際に位置し、堆積土に焼土ブロックを多量に含むことから、カマドに関連する土坑と考えられる。平面形状は隅丸方形を呈し、規模は長軸37cm、短軸34cm、深さ5cmを測る。

**【掘り方】** 深さ4~15cmを測る。北壁際を除き、底面は中央部が平坦で高く、壁際が低くなる。

**【出土遺物】** 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土師器壺7点、土師器高环1点、土師器壺1点、土師器壺3点の計12点を掲載した(第195図-1~8、第196図-9~12)。1・2・5・7・8・11は床面、3・6・12は掘り方、4はP2堆積土、9は堆積土、10はカマド堆積土からの出土である。1~7は土師器壺である。いずれも鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つ。体部が扁平な半球状を呈し、口縁部は1~4が内傾、5~7が直立する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、1の体部外面はヘラケズリ前にハケメが施され、1~7は体部内の最終調整にヘラミガキが施されている。1~3~6は内外面が黒色漆仕上げされている。8は土師器高环で、环部外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部が外反する。脚部上端は中実で、脚部は「ハ」字状に広がり、裾部で屈曲し広がる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部から脚部及び裾上部にかけてヘラケズリ、裾下部ヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ。脚部から裾部にかけてヘラナデである。9は土師器壺で、体部は扁平な球状を呈する。外面の口縁部と脚部の境に明瞭な段を持ち、口縁部は直立気味に立ち上がり、口縁端部が外側に短く屈曲する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、脚部ハケメ及びヘラケズリ、内面は口縁部ハケメ、脚部ヘラナデである。10~12は土師器壺である。10~11は脚部が球形を呈し、10は脚部中位に最大径を持つ。10は外面の口縁部と脚部の境に稜を持ち、口縁部が外反気味に外傾する。調整は、10は口縁部が内外面ヨコナデで、脚部は外面ハケメ後ヘラケズリ、内面ヘラナデ、11は外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラナデである。11の底部には木葉痕がみられる。12は脚部が長胴形を呈し、外面の口縁部と脚部の境に段を持つ。口縁部は外反し、口縁端部が外側に屈曲する。底部は欠損し形状は不明であるが、壺の可能性も考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、脚部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ後ヘラナデ、脚部ヘラナデである。

**【時期】** 床面から出土した土師器壺(第195図-1・2・5・7)、土師器高环(第195図-8)から、4a期(住社式期新段階)と考えられる。

#### SI200 積穴住居跡(第197~199図)

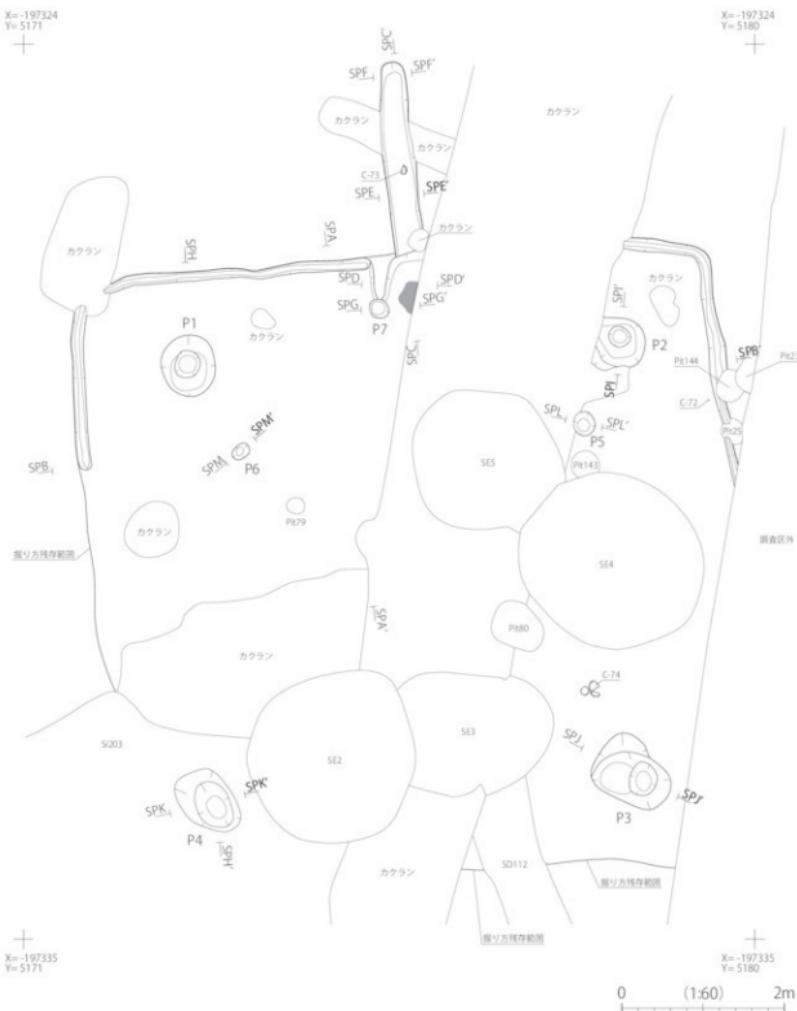
**【位置・確認】** 調査区東部の82・88・89・95・96グリッドに位置する。重複遺構や搅乱、削平により中央から南西コーナー付近の大半が失われ、南東部は調査区外に延びる。

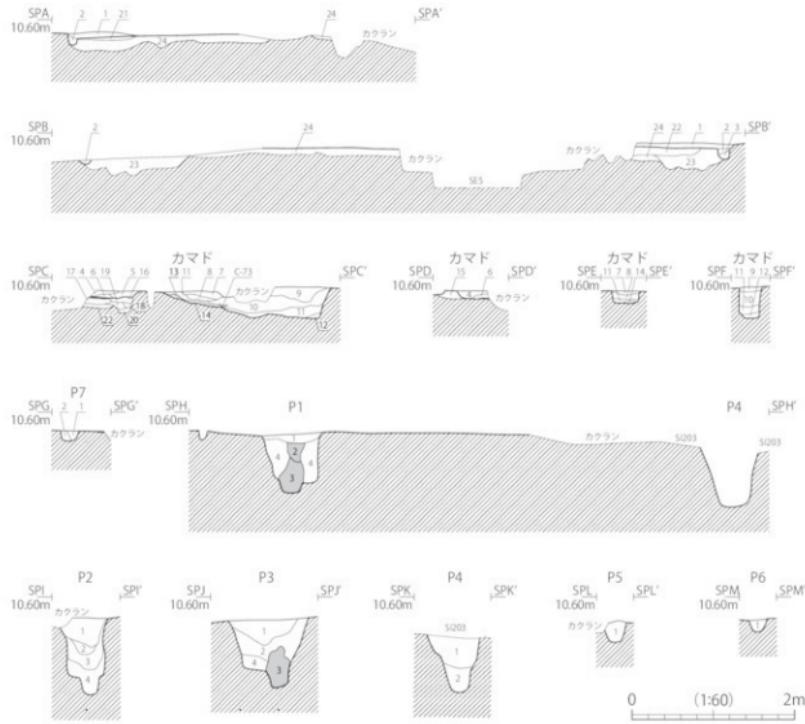
**【重複】** SI203・204、SK194、Pit146・148・149より新しく、SE2~5、SD112、Pit25・79・80・143・144より古い。

**【規模・形態】** 検出した規模は、長軸806cm、短軸775cmを測る。平面形状は方形と推定される。

**【方向】** カマドを基準としてN-5°-Wである。

**【堆積土】** 24層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2~3層は周溝堆積土である。4~14層はカマド関連の堆積土で、焼面直上に堆積する6層には灰が多量に含まれる。15層はカマド袖の構築土で、16~20層はカマド掘り方埋土、21~24層は掘り方埋土である。





SI200 堆積土跡記表				備考
部位	種別	土色	土性	
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘質土粒多量、炭化物微量含む。
同清	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘質土ブロック(30mm程度) 多量含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘質土少量含む。
カマド	4	2.5Y4/6 オリーブ褐色	シルト	粘土粒多量含む。
	5	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土ブロック(5 ~ 10mm) 多量、炭化物少量含む。
	6	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	粘土粒少量含む。
	7	10YR4/6 黄褐色	シルト	粘土粒少量含む。
	8	10YR4/4 黄色	シルト	粘土ブロック(20mm程度) 少量含む。
	9	10YR4/4 黄色	シルト	炭化物微量、粘質土ブロック(5 ~ 10mm) 少量含む。
	10	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘泥色土塊状に、炭化物多量、粘土ブロック(10mm程度) 微量含む。
	11	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	粘質土ブロック(50 ~ 70mm) 少量、粘土粒微量含む。
	12	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	粘泥色土ブロック(10 ~ 20mm) 少量含む。
	13	10YR3/4 黄褐色	粘土質シルト	
	14	10YR4/6 黄褐色	シルト	
カマド堆	15	10YR4/6 黄色	シルト	粘泥色土粒少量含む。
	16	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘泥色土粒少量含む。
	17	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘質土粒多量、炭化物粒少量、粘土粒微量含む。
カマド掘り方	18	10YR4/4 黄色	シルト	粘質土粒・炭化物粒多量、粘土粒少量含む。
	19	10YR3/4 黄褐色	シルト	粘質土粒微量含む。
	20	10YR4/6 黄褐色	粘土質シルト	粘泥色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。
	21	10YR5/6 黄褐色	シルト	にごく粘泥色土塊状に、粘泥色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。
住居掘り方	22	10YR4/6 黄褐色	シルト	粘泥色土塊状に含む。
	23	10YR3/4 黄褐色	粘土質シルト	粘質土ブロック(5 ~ 10mm) 多量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘泥色土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。

第198図 SI200 穴住穴居跡 (2)

S2000 施設堆積土目記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土多量、焼土ブロック(30mm程度)・炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5~40mm)多量、炭化物少量、焼土和微量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼褐色土色多量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼褐色土ブロック(5~150mm)多量、炭化物少量、焼土和微量含む。
P2	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5~10mm)多量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼褐色土ブロック(5~20mm)少量含む。
	3	10YR4/5 黄褐色	粘土質シルト	焼褐色土ブロック(5~40mm)多量含む。
	4	10YR4/5 黄褐色	粘土質シルト	古削土多量含む。
P3	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5~20mm)少量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼褐色土ブロック(5~50mm)多量、炭化物微量含む。
P4	3	10YR3/4 黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック(5~50mm)少量、焼褐色土ブロック(10~30mm)・焼土微量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	古削土ブロック(10~20mm)少量含む。
P5	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	焼褐色土ブロック(10~20mm)少量含む。
P6	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	焼褐色土ブロック(10~20mm)少量含む。
P7	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5~10mm)・焼土和多量含む。
	2	10YR4/5 黄褐色	シルト	古削土多量、炭化物微量、焼土和微量含む。

5000 施設耕繭表

遺構名	平面形	規模 [cm]	備考
P1	円形	75 × 66	73 土柱穴
P2	(楕円方形)	(70) × 60	95 土柱穴
P3	(不規則円形)	100 × 62	83 土柱穴
P4	(不規則円形)	(89) × (61)	88 土柱穴

遺構名	平面形	規模 [cm]	備考
P5	(円形)	29 × (27)	掘り方検出
P6	(楕円形)	24 × 17	掘り方検出
P7	円形	26 × 13	(1.2) 焼石埋設穴

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は2~5cmを測る。

【床面】 挖り方埋土である21~24層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から3基(P1~3)、重複遺構底面から1基(P4)、掘り方底面から2基(P5・6)、総数6基を検出した。

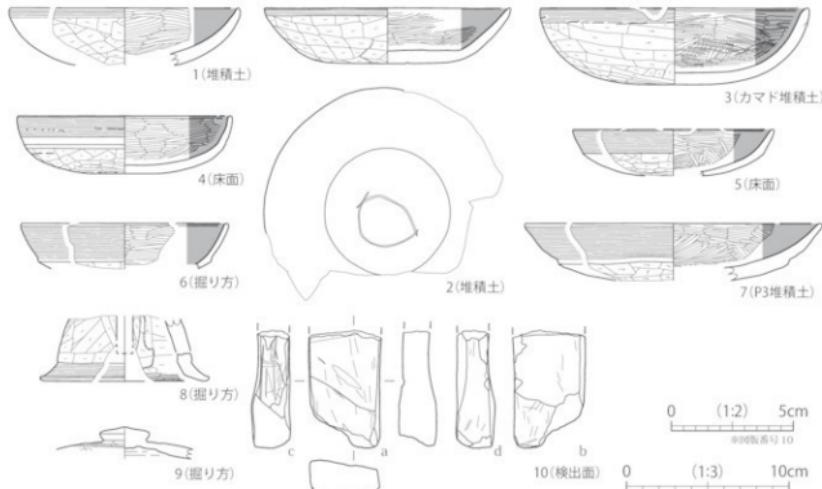
P1~4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸70~100cm、深さ68~95cmを測る。

【周溝】 検出した範囲では、北壁のカマド周辺を除き、壁際に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅8~20cm、深さ6~20cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設されている。撹乱により東半部が失われている。西袖の規模は長さ56cm以上、幅25cmを測る。北壁に直交して付設され、先端部に長軸26cm、深さ13cmのピットを検出した。位置関係から袖芯材の埋設穴と考えられる(P7)。燃焼部の規模は奥行き66cm以上、幅40cm以上、奥壁高8cmを測り、壁内に位置する。底面は軽微な起伏はみられるが平坦で、奥壁は緩やかに外傾して立ちあがる。底面には長軸40cmほどの焼面がみられる。煙道部の規模は長さ234cm、幅30~37cm、深さ8~39cmを測る。底面は起伏し、先端に向かって下がる。

【掘り方】 深さ6~26cmで、底面は中央部が高く、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・石製品が出土している。このうち、土師器環6点、土師器高环2点、須恵器蓋1点、石製品1点の計10点を掲載した(第199図-1~10)。1・2は堆積土、3はカマド堆積土、4・5は床面、6・8・9は掘り方、7はP3堆積土、10は検出面からの出土である。1~6は土師器環である。1は緩やかに内湾する体部から口縁部が短く直立する。2は丸底風の平底で、体部から口縁部まで外傾して立ち上がる。底部には曲線状の線刻が2条みられる。3は平底風の丸底で、体部から口縁部まで緩やかに内湾して立ち上がる。4は外面の口縁部と体部の境に稜ないし段を持ち、口縁部は5が直線的に外傾、6が内湾気味に直立する。5・6は外面の口縁部と体部の境に稜ないし段を持ち、口縁部は5が直線的に外傾、6が内湾気味に外傾する。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。7・8は土師器高环である。7は環部外面の口縁部と体部に段を持ち、口縁部は外傾する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。8は透かしを持ち、脚部と裾部の境に外面は段、内面は稜を持って屈曲し、裾部が短く聞く。調整は、脚部が内外面ヘラケズリ、裾部は外面ヨコナデ、内面ヘラナデである。9は須恵器蓋である。擬宝珠形のつまみが付く。天井部外面に回転ヘラケズリ後へ



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	C-071	SI200	堆積土	土師器	环	(14.0)	—	(3.5)	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
2	C-072	SI200	堆積土	土師器	环	15.2	—	3.4	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理 底部削鉗(?)	34
3	C-073	SI200 カマド	堆積土	土師器	环	16.4	—	4.7	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
4	C-074	SI200	床面	土師器	环	13.0	—	3.5	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
5	C-076	SI200	床面	土師器	环	12.2	—	(2.8)	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
6	C-078	SI200	掘り方	土師器	环	(12.6)	—	2.8	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
7	C-075	SI200P3	堆積土	土師器	高环	(18.0)	—	(3.5)	口部：火打テテ 体部：火打テテ	火打テテ	内面黒色處理	34
8	C-077	SI200	掘り方	土師器	高环	—	厚径 (10.4)	14.0	脚径 つまみ：火打テテ 天井部：火打ハリテテ→火打テテ	火打テテ 脚部：火打テテ	窓	34
9	E-008	SI200	掘り方	漆器	器	—	—	(1.9)	—	—	—	34
回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			石材	備考	写真 図版	
						全長	幅	厚さ				
10	Kd-004	SI200	被出面	石製品	砾石	(4.9)	3.0	1.5	(30.8)	緑色凝灰岩 砾石4面、溝状痕(上面)、端部火打	—	34

第199図 SI200 穫穴住居跡出土遺物

ラケズリ、内面にはヘラナデによる再調整が施されている。胎土は砂粒を少量含みやや粗く、色調は灰色を呈する。  
10は砾石で、c面に溝状痕がみられる。

【時期】 床面及びカマド堆積土から出土した土師器環（第199図-3～5）から、5bi期（郡山II期官衙期）と考えられる。

#### SI201 穫穴住居跡（第200図）

【位置・確認】 調査区南部の93・99グリッドに位置する。重複構造や搅乱により大半が失われ、掘り方の一部分のみ残存している。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。南側は調査区外に延びる。

【重複】 SI212、Pit75・108・121・122・125より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸366cm、短軸245cmを測る。平面形状は不明である。

【方向】 不明である。

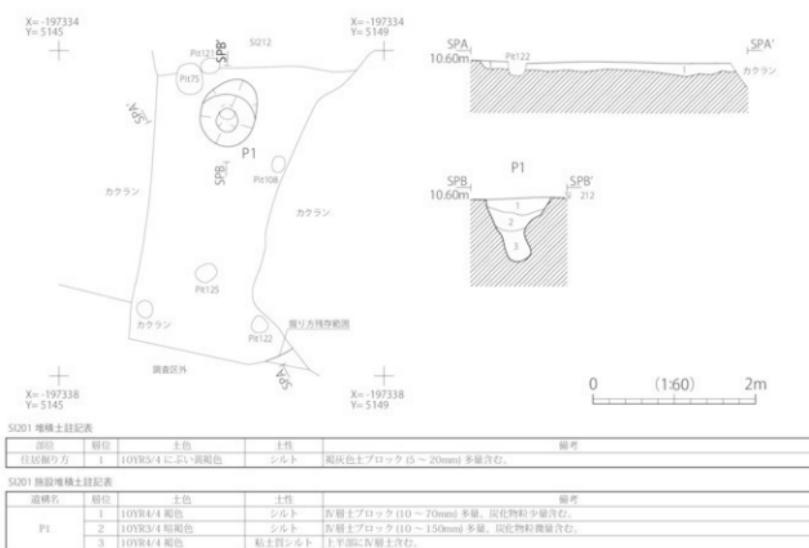
【堆積土】 にぶい黄褐色シルトの単層で、掘り方理土である。

【柱穴】 掘り方上面から1基(P1)検出した。規模から主柱穴の可能性が考えられるが、詳細は不明である。規模は長軸85cm、短軸68cm、深さ78cmを測る。

【掘り方】 深さ9~16cmで、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 掘り方から上師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI212より古いことから、5bii期(奈良時代)以前と考えられる。



第200図 SI201 穫穴住居跡

#### SI202 穫穴住居跡(第201~205図)

【位置・確認】 調査区南部の79・86グリッドに位置する。重複構造や搅乱により西側及び南側の大半が失われている。

【重複】 SI248より新しく、SI212、Pit123より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸343cm、短軸331cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-2°-Eである。

【堆積土】 24層に分層した。1~5層は暗褐色ないし褐色シルトを主体とする住居堆積土で、6層は周溝堆積土である。7~15層はカマド関連の堆積土で、焼面直上に堆積する14層には焼土ブロックや灰、炭化物が多量に

含まれる。16～18層はカマド袖の構築土、19～21層はカマド掘り方埋土、22～24層は掘り方埋土である。

【壁面】 東壁は内湾気味に外傾し、北壁は直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は、17～33cmを測る。

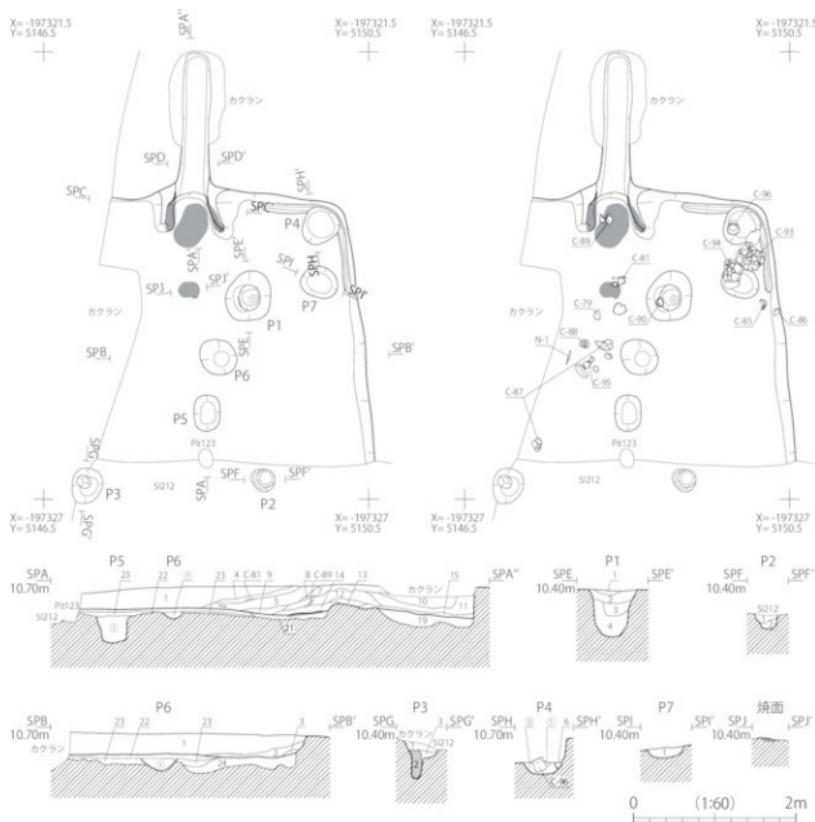
【床面】 掘り方埋土である22層ないし24層上面を床面とする。緩やかな起伏がみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から1基(P1)、重複遺構底面から2基(P2・3)、掘り方底面から3基(P5～7)、総数6基を検出した。

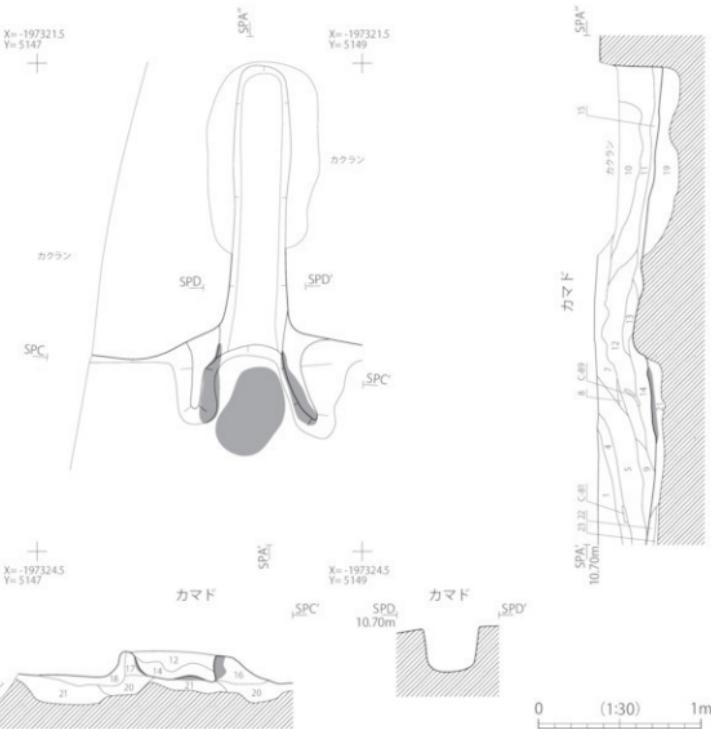
P1～3は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸30～65cm、深さ18～57cmを測る。P3で径14cmの柱痕跡が確認され、P1の底面には径13cmの変色範囲が認められた。

【周溝】 北東コーナー付近のみ検出した。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅7～12cm、深さ5～9cmを測る。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、西袖が長さ54cm、幅24cm、東袖が長さ62cm、幅35cmを測る。北壁に直交して付設され、燃焼部側の側面に被熱痕跡がみられる。燃焼部の規模は奥



第201図 SI202 竪穴住居跡（1）



Si202 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物粒・燒土粒少量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒少額含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土粒・少額含む。
	4	10YR3/4 黄褐色	シルト	炭化物粒・燒土粒少額含む。
	5	10YR4/4 黄色	シルト	古削土粒・炭化物粒少額含む。
	6	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土粒・少額含む。
カマド	7	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒少額含む。
	8	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒少額含む。
	9	10YR4/4 黄色	シルト	古削土粒多量、N削土ブロック (40 ~ 50mm) 少額含む。
	10	10YR3/4 にふく黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 20mm)・N削土粒少額含む。
	11	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒多量、炭化物粒少額含む。
	12	10YR4/4 黄色	シルト	古削土粒・燒土粒ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
	13	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒多量含む。
	14	7.5YR3/4 黄褐色	シルト	地土ブロック (5 ~ 30mm)・灰・炭化物粒多量、骨片少額含む。
	15	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物粒少額含む。
	16	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土粒少額、燒土粒和微礫含む。
カマド袖	17	10YR4/4 黄色	シルト	古削土粒・炭化物粒微礫含む。
	18	10YR4/6 黄色	砂質シルト	褐褐色土ブロック (10mm程度) 頻繁含む。
	19	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5 ~ 20mm)・炭化物粒少額含む。
	20	10YR4/4 にふく黄褐色	シルト	古削土粒多量含む。
カマド脛り方	21	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土粒少額含む。
	22	10YR3/4 黄褐色	シルト	古削土粒・燒土粒多量、炭化物粒少額含む。
	23	10YR5/4 にふく黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少額含む。
	24	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。

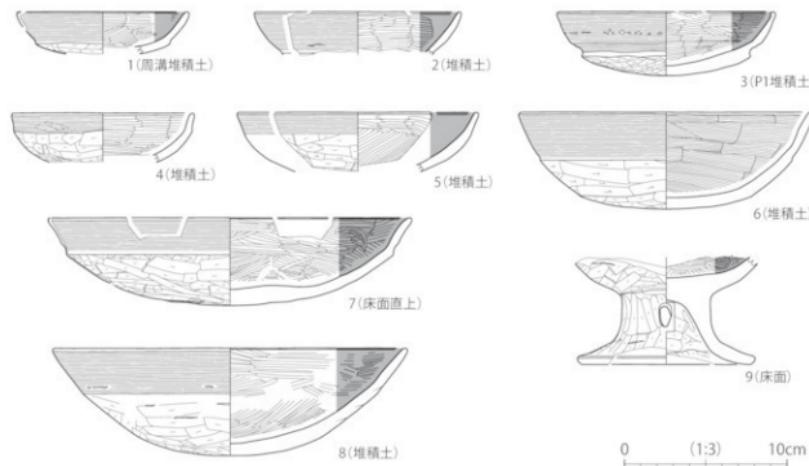
第202図 Si202 積穴住居跡 (2)

SI202 掘削堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/6 黄褐色	シルト	瓦崩土ブロック(5mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/3 始褐色	シルト	瓦崩土ブロック(10mm程度) 成化物少量含む。
	3	10YR3/4 始褐色	シルト	瓦崩土ブロック(20 ~ 30mm) 多量含む。
	4	10YR4/4 黄褐色	シルト	瓦崩土ブロック(5 ~ 10mm) 少量含む。
P2	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	明褐色土と多量含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	瓦崩土と微量含む。
P3	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	瓦崩土・灰化物多量含む。
	2	10YR5/4 に2-3 黄褐色	粘土質シルト	瓦崩土と多量、成化物微量含む。中柱跡跡
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	瓦崩土と多量含む。
P4	①	10YR3/1 黑褐色	シルト	瓦崩土と少量含む。
	②	10YR3/4 始褐色	シルト	瓦崩土ブロック(5 ~ 10mm) 多量含む。
P5	①	10YR4/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5 ~ 20mm) 多量含む。
P6	①	10YR4/4 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5 ~ 30mm) 多量含む。
P7	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土と少量含む。

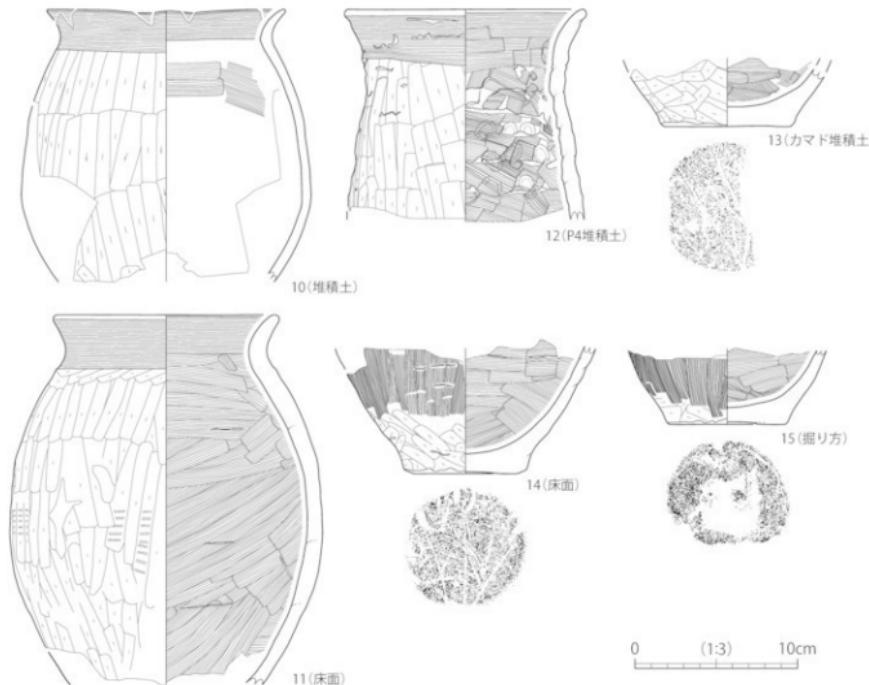
SI202 掘削縫隙表

遺構名	平面形	断面 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	65 × 54	57	半柱穴、底面重ね
P2	(円形)	(30) × (28)	(18)	半柱穴
P3	(楕円形)	(45) × (35)	(33)	半柱穴
P4	円形	50 × 44	16	切底穴
P5	圓丸方形	44 × 32	33	側り方掘出
P6	円形	49 × 43	15	側り方掘出
P7	橢円形	46 × 38	13	側り方掘出



回数 番号	野跡 番号	出土地点	層位	種別	器種	剖面 状況 (cm)	外周調整			内面調整	備考	写真 図版
							口径	直径	高さ			
1	C-091	SI202 通溝	堆積土	土師器	环	(10.4)	—	(2.6)	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
2	C-080	SI202	堆積土	土師器	环	(12.5)	—	(2.6)	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
3	C-090	SI202P1	堆積土	土師器	环	13.2	—	3.9	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
4	C-083	SI202	堆積土	土師器	环	(11.2)	—	(3.0)	口縁：12.7cm → 分岐 体部：八角形	内面黒色處理	35	
5	C-086	SI202	堆積土	土師器	环	(14.8)	—	(3.6)	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
6	C-079	SI202	堆積土	土師器	环	18.0	—	6.0	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
7	C-087	SI202	床面直上	土師器	疎	22.2	2.8	5.4	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
8	C-084	SI202	堆積土	土師器	疎	21.6	—	6.6	口縁：12.7cm 体部：八角形	内面黒色處理	35	
9	C-088	SI202	床面	土師器	高环	—	腰径 (10.4)	0.65	底部～腰部：八角形 腰部～顶部：六角形	内面黒色處理 底部：六角形	35	

第 203 図 SI202 穴式住居跡出土遺物 (1)



測定番号	登録番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真番號
						口徑	底径	高さ				
10	C-081	Si202	堆積土	土師器	甕	14.4	—	(16.7)	口縁：丸形 脇部：4.9cm 底部：4.9cm	口縁：丸形 脇部：5.5cm 底部：5.5cm	内壁堅膜	35
11	C-094	Si202	床面	土師器	甕	13.4	—	(22.7)	口縁：3.2cm 脇部：10.4cm 底部：10.4cm	口縁：3.2cm 脇部：5.5cm 底部：5.5cm	35	
12	C-096	Si202P4	堆積土	土師器	甕	14.6	—	(12.9)	口縁：2.2cm 脇部：5.9cm 底部：5.9cm	口縁：2.2cm 脇部：3.6cm 底部：3.6cm	35	
13	C-089	カマド	堆積土	土師器	甕	—	8.0	(4.2)	脇部：1.9cm 底部：5.9cm	脇部：5.9cm	底部：木炭痕	35
14	C-085	Si202	床面	土師器	甕	—	7.0	(7.7)	脇下端：0.7cm 底部：0.7cm	脇下端：0.7cm 底部：0.7cm	底部：木炭痕	35
15	C-092	Si202	掘り方	土師器	甕	—	7.2	(4.5)	脇下端：0.7cm 底部：0.7cm	脇下端：0.7cm 底部：0.7cm	底部：輪行状	35

第204図 Si202 竪穴住居跡出土遺物（2）

行き 67cm、幅 55cm、奥壁高 13cm を測り、壁内に位置する。底面は軽微に起伏し、奥壁に向かって緩やかに上がり、奥壁は緩やかに外傾して立ちあがる。燃焼部の底面には長軸 57cm、短軸 36cm の焼面がみられる。煙道部の規模は長さ 161cm、幅 33 ~ 40cm、深さ 37cm を測る。底面は緩やかに起伏し、先端に向かって下がる。煙道部底面には掘り方が認められた。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基 (P4) を検出した。P4 は北東コーナーに位置し、平面形状は円形を呈する。規模は長軸 50cm、短軸 44cm、深さ 16cm を測り、土師器の甕が斜位で埋設されていた。位置関係などから貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 2 ~ 16cm で、中央部が高く、壁際が低くなる。



第205図 SI202 穫穴住跡出土遺物（3）

**【出土遺物】** 床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、土師器壺6点、土師器鉢2点、土師器高壺1点、土師器甕9点、鉄製品1点の計19点を掲載した（第203図-1～9、第204図-10～15、第205図-16～19）。1は周溝堆積土、2・4～6・8・10・16は堆積土、3はP1堆積土、7は床面直上、9・11・14・17～19は床面、12はP4堆積土、13はカマド堆積土、15は掘り方からの出土である。1～6は土師器壺である。いずれも外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持つ。口縁部は1～3が内湾気味に外傾、4が外反気味に直立、5・6が直線的に外傾する。3は口縁端部が内側に短く屈曲する。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面は1～3・5がヘラミガキ後、黒色処理が施され、4はヘラミガキ、6はヘラナデである。7・8は土師器鉢である。外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持つ。共に体部が扁平な半球状を呈し、口縁部は7が外反気味に外傾、8が直線的に外傾する。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。9は土師器高壺である。脚部は短脚の中空で、梢円形の透かしを2窓持つ。調整は、外面が壺部から根部ヘラケズリ、内面は壺部ヘラミガキ後、黒色処理が施され、脚部ヘラケズリである。10～18は土師器甕である。10～12・16～18は外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜を持ち、口縁部は10・12・16・18が外反、11・17が外傾する。調整は、いずれも口縁部が

内外面ヨコナデ、胸部外面は10・12がヘラケズリ、11がハケメ後ヘラケズリ、16～18がハケメである。胸部内面はいずれもヘラナデで、12はユビオサエ、18はハケメがみられる。13～15は底部で、13・14は木葉痕がみられ、15は輪台状を呈する。調整は、13が胸部外面ヘラケズリ、胸部内面ヘラナデ、14・15は外面が胸部ハケメ、胸部下端ヘラケズリ、内面ヘラナデである。19は刀子で、闇の形状などは土鋸に覆われて不明である。

【時期】 床面及び床面直上から出土した土師器鉢（第203図-7）、土師器高环（第203図-9）、土師器甕（第204図-11・14、第205図-18）から、5a期（郡山1期官衙期）と考えられる。

#### SI203 積穴住居跡（第206・207図）

【位置・確認】 調査区南東部の95・101グリッドに位置する。上面は削平を受けており、床面は残存していない。

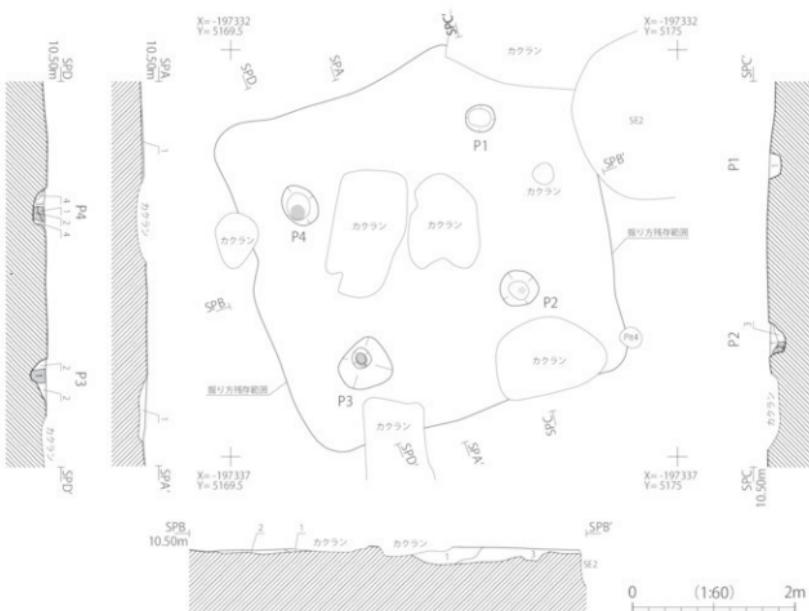
【重複】 SI200、SE2、Pit4より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸441cm、短軸417cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 西辺を基準としてN-19°-Wである。

【堆積上】 3層に分層した。1～3層は掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方上面から4基（P1～4）検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸36～



SI203 埋積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居裏方	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック(10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	褐褐色土ブロック(10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	褐褐色土帶状に含む。

第206図 SI203 積穴住居跡

SI203 墓施堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	石質土ブロック(10~30mm)多量含む。
	2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	石質土ブロック(10mm程度)・炭化物少量含む。
P2	1	10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/6褐色	粘土質シルト	
P3	1	10YR3/3褐色	シルト	石質土ブロック(10mm程度)多量、炭化物少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	石質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物少量含む。
P4	1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	石質土少量化。※柱痕跡
	2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	石質土ブロック(5mm程度)少量化。※柱痕跡
	3	2.5Y4/6褐色	シルト	炭化物少量含む。
	4	10YR4/3に近い黄褐色	粘土質シルト	石質土ブロック(10~30mm)多量含む。

SI203 穫設施記表

遺構名	平面形	周縁(m)	備考	遺構名	平面形	周縁(m)	備考
P1 (円形)	(36) × (33)	(14)	主柱穴	P3 (楕丸形)	(63) × (55)	(19)	主柱穴
P2 (円形)	(46) × (42)	(19)	主柱穴、底面変色	P4 (楕円形)	(53) × (40)	(14)	主柱穴



第207図 SI203 穫穴住居跡出土遺物

63cm、深さ14~19cmを測る。P2~4で径15~19cmの柱痕跡が確認され、P2の底面には径9cmの変色範囲が認められた。

【掘り方】深さ2~21cmで、東辺が低くなる。

【出土遺物】床面施設及び掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、P2堆積土から出土した土師器壺1点を掲載した（第207図-1）。1は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラナデ、内面は摩滅により不明である。

【時期】時期決定できる遺物はないが、SI200より古いことから、5bi期（郡山II期官衙期）以前と考えられる。

#### SI204 穫穴住居跡（第208図）

【位置・確認】調査区南東部の96・102グリッドに位置する。重複遺構により掘り方のみが残存している。東側は調査区外に延びる。

【重複】SI200、SE1・3、SD112、Pit80・142より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸402cm、短軸252cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

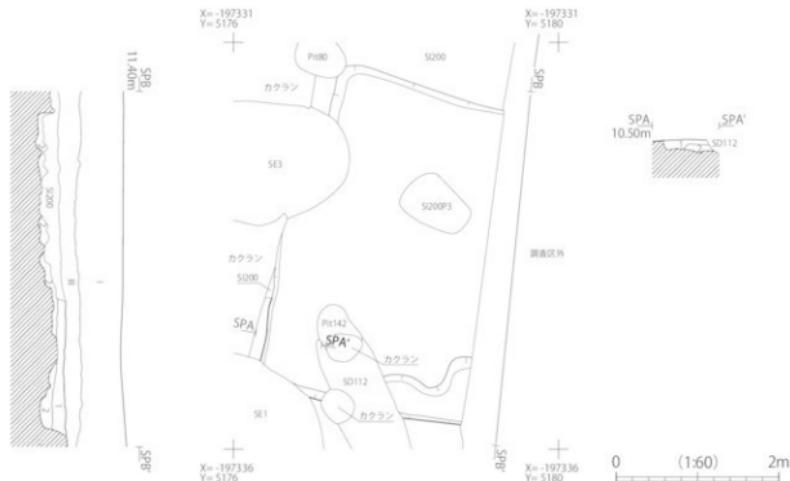
【方向】西辺を基準としてN-10°-Eである。

【堆積土】2層に分層した。1・2層は掘り方埋土である。

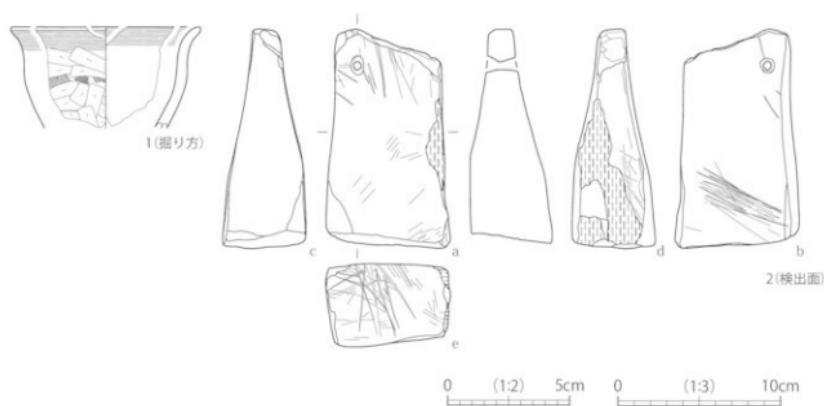
【掘り方】深さ8~32cmである。底面には激しい起伏がみられる。

【出土遺物】床面及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器・石製品が出土している。このうち、土師器壺1点と石製品1点の計2点を掲載した（第208図-1・2）。1は掘り方、2は検出面からの出土である。1は小型の土師器壺である。外傾して立ち上がる体部は上位で直立し、口縁部は外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ハケメ後ヘラナデ、内面は摩滅により不明である。2は砥石で、a・b・d・e面に溝状痕がみられる。

【時期】時期決定できる遺物はないが、SI200より古いことから、5bi期（郡山II期官衙期）以前と考えられる。



部類	部位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	HOY84/2 桐黄褐色	シルト 粘土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
住居掘り方	2	HOY84/3 に示す青褐色	シルト 粘土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。	



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 回数
						口徑	底径	高さ				
1	C-098	SI204	掘り方	土師器	甕	(11.4)	—	(6.2)	口縁: 13.2cm 腹部: 34.4 - 36.2cm	口縁: 13.2cm	内面摩滅	36
2	Kd-005	SI204	桃出面	石製品	石刀	8.9	5.1	3.4	重さ (g) GHT	備考	写真 回数	

第208図 SI204 穫穴住居跡・出土遺物

## SI205 穴住居跡（第209図）

【位置・確認】 調査区南東部の102グリッドに位置する。搅乱や削平により、周溝の一部と掘り方の一部のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 SI206と位置的に重複するが新旧関係は不明である。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸247cm、短軸28cmを測る。平面形状は不明である。

【方向】 東辺を基準としてN-48°-Wである。

【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土、2層は掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方底面から1基（P1）を検出した。中央付近に位置し、平面形状は円形を呈する。規模は長軸29cm、深さ11cmを測る。

【周溝】 北辺で一部残存している。残存部分では壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅12~14cm、深さ9cmを測る。

【掘り方】 深さ14cm程度である。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SI205 堆積土註記表

部位	相位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	H埴土ブロック(5~10mm)少量化合。
柱掘り方	2	10YR3/3褐色	シルト	H埴土ブロック(5mm程度)多量合む。

SI205 旗設堆積土註記表

遺構名	相位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/4褐色	シルト	H埴土ブロック(5~20mm)多量合む。

SI205 旗設廻廊表

遺構名	平面形	規模(m)	備考
P1	(円形)	(29) × (26)	(11) 掘り方検出

第209図 SI205 穴住居跡

## SI206 穴住居跡（第210図）

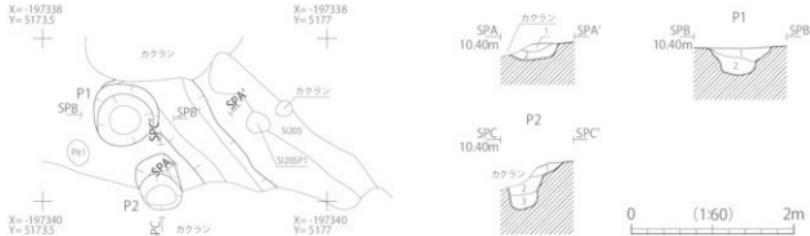
【位置・確認】 調査区南東部の101・102・105・106グリッドに位置する。搅乱や削平により掘り方の一部のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 Pit72より新しい。SI205と位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸235cm、短軸137cmを測る。平面形状は不明である。

【方向】 東辺を基準としてN-37°-Wである。

【堆積土】 2層に分層した。1・2層は掘り方埋土で、IV層上ブロックを多量に含む。



SI206 堆積土跡表

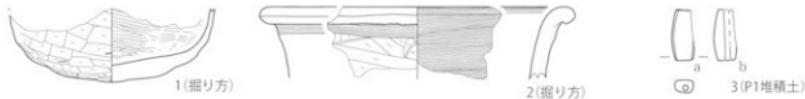
部位	層位	土色	土性	備考
住居側り方	1	10YR3/4 棕褐色	シルト	N層土ブロック(10~30mm) 多量含む。
	2	10YR4/4 棕色	シルト	N層土ブロック(20~50mm) 多量、炭化物少量含む。

SI206 施設堆積土跡表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 棕褐色	シルト	N層土ブロック(20~40mm) 少量含む。
	2	10YR4/4 棕色	シルト	N層土ブロック(20~50mm) 多量、炭化物少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	N層土ブロック(20~50mm) 多量含む。
	2	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	N層土ブロック(10~30mm) 多量含む。
	3	10YR3/3 棕褐色	粘土質シルト	N層土ブロック(10~30mm) 多量含む。

SI206 施設觀察表

施設名	平面形	規模 (cm)	備考	施設名	平面形	規模 (cm)	備考		
P1	(円形)	(80) × (75)	(33)	掘り方検出	P2	(楕円丘方形)	(67) × (51)	(56)	掘り方検出



0 (1:2) 5cm 0 (1:3) 10cm  
※図版番号 3

施設番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真回数	
						全長	幅	厚さ					
1	C-099	SI206	掘り方	土師器	鉢	—	—	(4.5)	体部：59.7cm 口縁部：59.7cm	口縁：52.4cm 内面：52.4cm 脚部：52.4cm	36		
2	C-100	SI206	掘り方	土師器	甕	(18.4)	—	(4.4)	口縁：32.7cm 内面：32.7cm 脚部：32.7cm	—	36		
施設番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真回数
3	Kd-006	SI206P1	堆積土	石製品	瓦片	—	2.1	0.9	0.5	(0.8)	セメント	瓦片径0.2m、破片	26

第210図 SI206 穫穴住居跡・出土遺物

【柱穴】 挖り方底面から1基(P2)検出した。平面形状は楕丸長方形を呈し、規模は長軸67cm、短軸51cm、深さ56cm以上を測る。

【その他の施設】 挖り方底面から土坑1基(P1)を検出した。平面形状は円形を呈し、規模は長軸80cm、短軸75cm、深さ33cm以上を測る。

【掘り方】 深さ19cm程度である。

【出土遺物】 堆積土及び掘り方などから土師器・須恵器・石製品が出土している。このうち、土師器鉢1点、土師器甕1点、石製品1点の計3点を掲載した(第210図-1~3)。1・2は掘り方、3はP1堆積土からの出土である。1は土師器鉢である。丸底の底部から体部は直立気味に立ち上がる。体部の器壁は0.3cm程と比較的薄い。調整は、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキである。2は土師器甕である。口縁端部は外側へ強く屈曲する。調整は、

口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。3は亜炭製の管玉である。平面形は長樽形を呈し、孔径は0.2cmである。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SI207 穫穴住居跡（第211図）

【位置・確認】 調査区南東部の94・95グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により、北側周溝の一部と掘り方の一部のみ残存している。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 SE8・9より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸235cm、短軸197cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 北辺を基準としてN-10°-Wである。

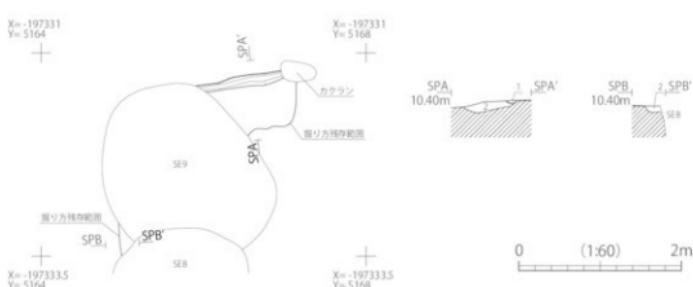
【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土、2層は掘り方埋土である。

【周溝】 北辺の一部を検出した。断面形状は「U」字状を呈し、規模は長さ110cm、幅10~14cm、深さ3~4cmを測る。

【掘り方】 深さ8~11cmである。

【出土遺物】 床面施設及び掘り方から土器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



SI207堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	LOYR3/3褐色	シルト	粘土ブロック(5mm程度)多量含む。
住居掘り方	2	LOYR4/4褐色	シルト	褐色土質中に含む。

第211図 SI207 穫穴住居跡

#### SI208 穫穴住居跡（第212~216図）

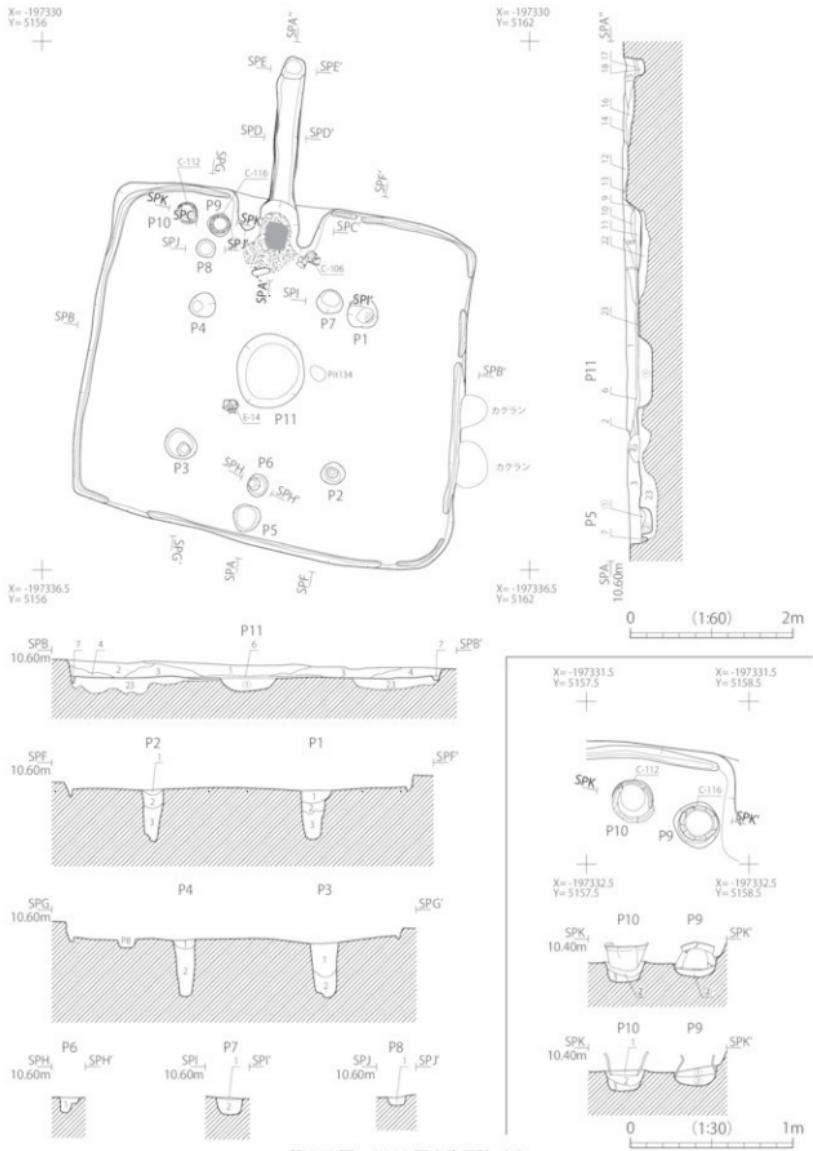
【位置・確認】 調査区南部の94・100グリッドに位置する。

【重複】 SI209・210より新しく、Pit134より古い。

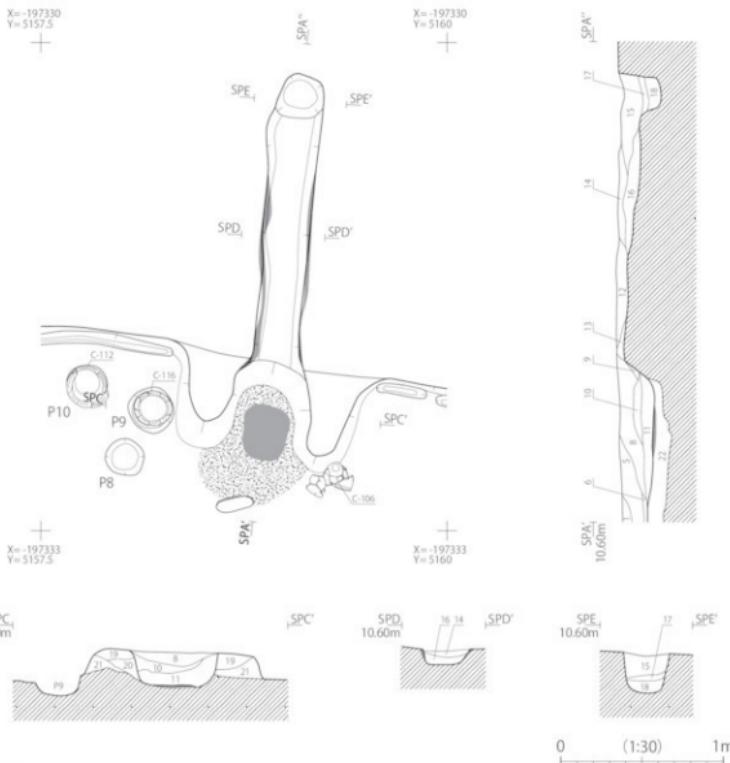
【規模・形態】 検出した規模は、長軸475cm、短軸435cmを測る。平面形状は南東部が折る方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-7°-Eである。

【堆積土】 23層に分層した。1~6層は褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、7層は周溝堆積土である。8~18層はカマド関連の堆積土で、焼面直上に堆積する11層には焼土ブロックや径100mm程度の円



第212図 SI208 積穴住居跡 (1)



第213図 SI208 穫穴住居跡 (2)

S208 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10Y4/4 茶色	シルト	古層土ブロック(20mm程度)・炭化物少量含む。
	2	10Y4/4 茶色	粘土質シルト	古層土ブロック(10～30mm) 多量、炭化物少量含む。
	3	10Y3/4 茶褐色	粘土質シルト	古層土ブロック(20mm程度) 少量含む。
P2	1	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土・炭化物少量含む。
	2	10Y4/4 茶色	粘土質シルト	古層土ブロック(20～50mm) 多量、炭化物少量含む。
	3	10Y4/4 にふく茶褐色	粘土質シルト	古層土・炭化物微量含む。
P3	1	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(10～30mm) 多量、炭化物少量含む。
	2	10Y4/4 茶褐色	粘土質シルト	古層土ブロック(20～40mm) 多量、炭化物少量含む。
P4	1	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土・炭化物少量含む。
	2	10Y4/4 にふく茶褐色	粘土質シルト	古層土ブロック(10～30mm) 少量、炭化物微量含む。
P5	①	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(10mm程度)・炭化物少量含む。
	②	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(20～50mm) 多量、炭化物少量含む。
P6	1	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(5～10mm) 多量含む。
P7	1	10Y4/4 にふく茶褐色	シルト	古層土・炭化物少量含む。
	2	10Y4/4 茶色	シルト	古層土ブロック(20～40mm) 多量、炭化物少量含む。
P8	1	10Y4/4 茶色	シルト	古層土ブロック(20～50mm) 多量、燒土ブロック(5mm程度)・炭化物少量含む。
P9	①	10Y2/2 黒褐色	シルト	古層土・根付少量含む。※土器内堆積土
	②	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土多量含む。
P10	1	10Y3/3 黒褐色	シルト	古層土・炭化物少量含む。※土器内堆積土
	2	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(5～10mm) 多量、炭化物少量含む。
	3	10Y3/3 茶褐色	シルト	古層土ブロック(5mm程度)・炭化物・燒土少量含む。炭化物微量含む。
P11	①	10Y3/4 茶褐色	シルト	古層土ブロック(10～100mm) 多量、炭化物微量含む。

S208 施設断面表

施設名	平面形	規模(cm)	備考	施設名	平面形	規模(cm)	備考
P1	円形	39×37	58 柱穴・底面変色	P7	円形	33×29	22
P2	円形	30×28	63 柱穴	P8	円形	24×23	10
P3	円形	41×35	67 柱穴	P9	円形	28×26	11
P4	円形	33×29	69 柱穴	P10	円形	27×25	13
P5	円形	35×33	14	P11	円形	91×84	17
P6	円形	28×25	19				

礫を多量に含む。19～21層はカマド袖の構築土、22層はカマド掘り方埋土、23層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は7～25cmを測る。

【床面】掘り方埋土である23層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】床面から4基(P1～4)検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸30～41cm、深さ58～69cmを測る。P1の底面には径15cmの変色範囲が認められた。

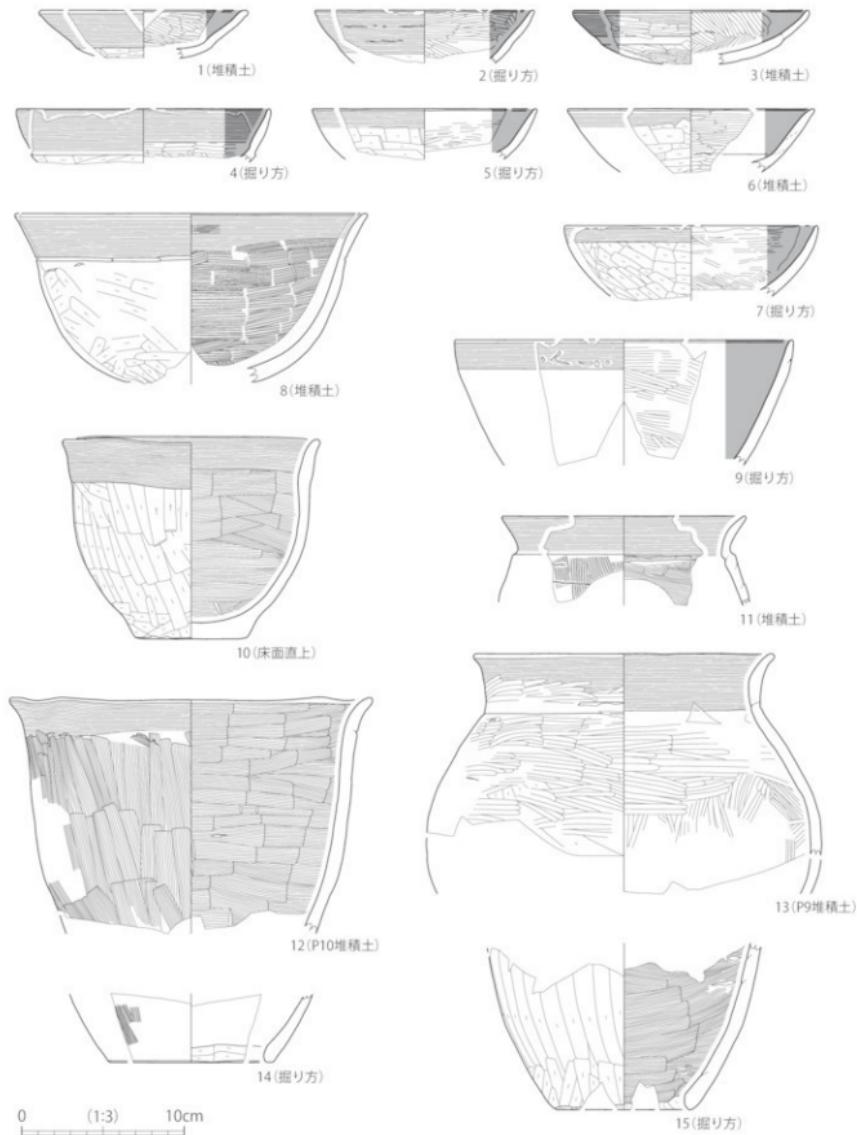
【周溝】カマドが付設されている北壁の一部を除き、断続的に壁面に沿って周る。断面形状は「V」字状を呈する。規模は幅6～15cm、深さ2～11cmを測る。

【カマド】北壁中央のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ57cm、幅37cm、西袖が長さ59cm、幅36cmを測る。袖は壁面に直交して付設されている。燃焼部の規模は、奥行き64cm、幅55cm、奥壁高24cmを測り、壁内に位置する。底面は平坦で、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には長軸35cm、短軸28cm規模の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ179cm、幅24～30cm、深さ4～12cmを測る。壁面には被熱範囲がみられ、底面は煙出し部分に向かって緩やかに下がり、煙出し部分がピット状に深さ10cm程度落ち込む。

【その他の施設】床面からピット6基(P5～10)、土坑1基(P11)を検出した。P5・6は南壁の中央に位置することから出入り口に関する施設の可能性を考えられる。規模は長軸28～35cm、深さ14～19cmを測る。P9・10はカマド西側で、東西方向に並んで検出された。共に底部のない土師器甕が正位で埋設されており、土器の置き台として使用した可能性が考えられる。P11は中央部に位置する。平面形状は円形を呈し、規模は長軸91cm、短軸84cm、深さ17cmを測る。

【掘り方】深さ1～20cmで、中央部が高く、壁際が低くなる。

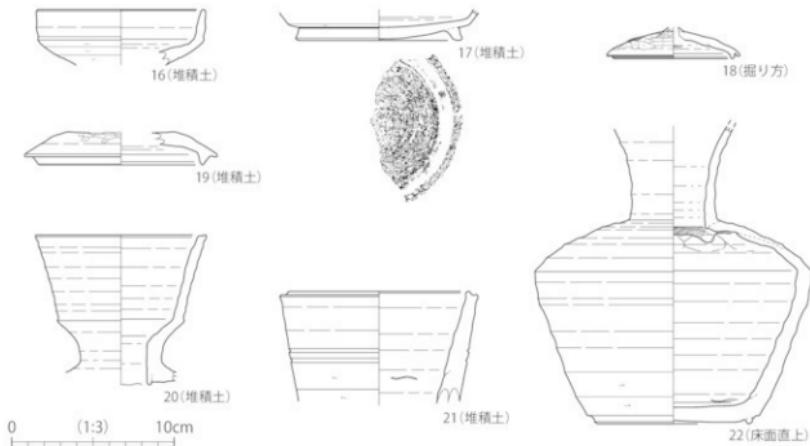
【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・鉄製品・石製品・打製石器・礫石器が出土している。このうち、土師器甕7点、土師器鉢3点、土師器甕3点、土師器甕2点、



第214図 SI208 積穴住居跡出土遺物（1）

図版 番号	登録 番号	出土地点	朝代	種別	器種	法量 (cm)	外面調整		内面調整	備考	写真 回数	
							口縁部	底盤部				
1	C-102	SE208	堆積土	土師器	环	(12.6)	—	(2.9)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：49mm	9018' 4	内面黑色処理	36
2	C-108	SE208	掘り方	土師器	环	(13.4)	—	(3.2)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理	36
3	C-103	SE208	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	(3.3)	口縁：32mm→53mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	外外面黑色処理	36
4	C-109	SE208	掘り方	土師器	环	(15.6)	—	(3.2)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理	36
5	C-113	SE208	掘り方	土師器	环	(13.6)	—	(3.1)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面摩滅 内面黑色処理	36
6	C-101	SE208	堆積土	土師器	环	(15.0)	—	(3.9)	口縁：32mm→59mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理 (底) 内面黑色処理	36
7	C-114	SE208	掘り方	土師器	环	(15.4)	—	(4.5)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理 内面摩滅	36
8	C-105	SE208	堆積土	土師器	鉢	(21.6)	—	(10.6)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4→32mm 9018' 4	内面摩滅 外表面沈化付着	36
9	C-111	SE208	掘り方	土師器	鉢	(20.6)	—	(7.7)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内外面摩滅 内面黑色処理	36
10	C-106	SE208	床面直上	土師器	鉢	15.6	6.8	12.4	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理	36
11	C-104	SE208	堆積土	土師器	鉢	(14.8)	—	(5.5)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内面黑色処理	37
12	C-112	SE208 P10	堆積土	土師器	鉢	22.0	—	(14.5)	口縁：32mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	外面やや摩滅	37
13	C-116	SE208P9	堆積土	土師器	鉢	18.6	—	(14.6)	口縁：32mm→53mm 体部：59mm 底盤：50mm	9018' 4	内外面摩滅	37
14	C-110	SE208	掘り方	土師器	瓶	—	孔径 (10.2)	(4.2)	胸部：58mm 孔部：59mm 底盤：50mm	孔部：59mm 9018' 4	内外面摩滅 単孔	37
15	C-117	SE208	掘り方	土師器	瓶	—	孔径 (8.4)	(10.2)	胸部：58mm 孔部：59mm 底盤：50mm	孔部：59mm 9018' 4	単孔	37

須恵器環1点、須恵器高台付环1点、須恵器蓋2点、須恵器すり鉢1点、須恵器瓶類2点、石製品2点、礫石器1点の計25点を掲載した（第214図-1～15、第215図-16～22、第216図-23～25）。1・3・6・8・11・16・17・19～21・23・24は堆積土、2・4・5・7・9・14・15・18・25は掘り方、10・22は床面直上、12はP10堆積土、13はP9堆積土からの出土である。1～7は土師器環である。1～4は外側の口縁部と体部の境に稜ないし段を持つ。1・2・5・6は口縁部が外傾し、口縁端部は1が外側に屈曲し、2・6が外反する。4は口縁部が内湾気味に外傾し、口縁端部が短く直立する。3・7は口縁部が内湾し、口縁端部は3が短く直立し、7が口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、いずれも外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施され、3は外側ヘラミガキ後黒色処理、4は口縁部内面にヨコナデが施される。8～10は土師器鉢である。8は外側の口縁部と体部の境に沈線状の段を持ち、口縁部は外傾する。外側に炭化物が付着する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメである。9は内湾気味に外傾する体部から口縁部が直立気味に外傾する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体部摩滅により不明、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。10は平底の底部から体部は内湾して立ち上がり口縁部が外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外側ヘラケズリ、内面ヘラナデである。11～13は土師器甕である。11は外側の口縁部と胴部の境で、外側に段、内面に稜を持つ。口縁部は外反気味に外傾し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外側ハケメ、内面ヘラナデである。12は胴部が長胴形を呈し、口縁部に最大径を持つ。口縁部は短く外反する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、内面はヘラナデである。13は胴部が球状を呈し、最大径は胴部中位に位置する。口縁部は外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデで、外側の口縁部下半にヘラミガキが施され、胴部は外側ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキである。14・15は単孔の土師器櫃である。調整は、14が胴部外側ハケメ、孔部内面ヘラケズリ、15が胴部外側ハケメ後ヘラケズリ、内面は胴部ヘラナデ、孔部ヘラケズリである。16は須恵器環である。外側の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直立する。外側の体部には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。胎土は砂粒を微量含みやや粗く、色調は暗灰色を呈する。17は須恵器高台付环である。底部と体部の境からやや内側に短い高

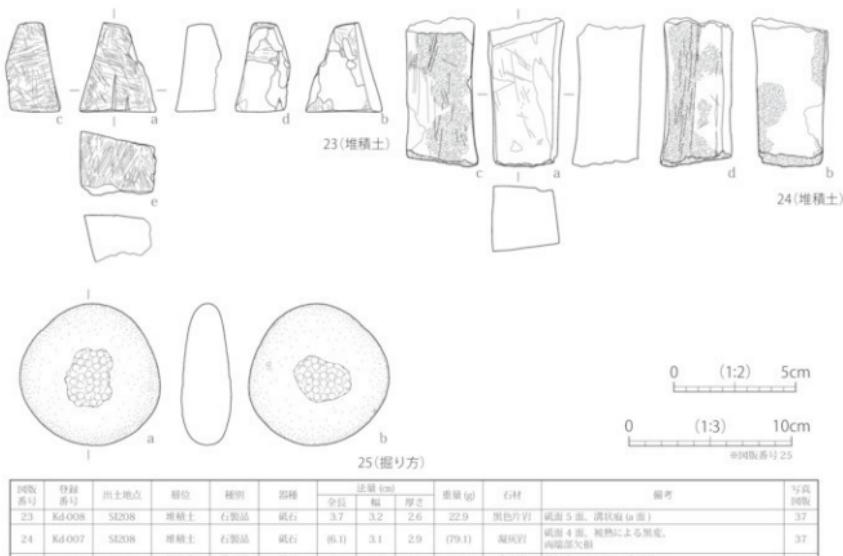


回数 番号	物語 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 cm	外側 調整	内側調整	備考	写真 図版
							口縁 底径	底径 高さ	高さ	
16	E-013	SI208	堆積土	須恵器	环	(10.2)	—	(3.6)	0%調整 底下部：回転ハラケリ	0%調整
17	E-012	SI208	堆積土	須恵器	高台付环	—	(10.0)	(1.9)	0%調整 底部：回転ハラケリ 高台部：凹字	0%調整
18	E-015	SI208	掘り方	須恵器	蓋	(8.2)	—	(1.9)	0%調整 天井部：内側手	内側骨付多量含む
19	E-010	SI208	堆積土	須恵器	蓋	(10.0)	—	(2.0)	0%調整 天井部：内側手	0%調整
20	E-009	SI208	堆積土	須恵器	便器	(10.4)	—	(0.2)	0%調整	0%調整
21	E-011	SI208	堆積土	須恵器	すり鉢	(12.0)	—	(7.0)	0%調整 底下部：回転ハラケリ	内側骨付多量含む
22	E-014	SI208	床面直上	須恵器	長頸瓶	—	9.4	(18.3)	0%調整 底下部：回転ハラケリ 底面：回転ハラケリ・周縁骨付	0%調整 底部：内側手

第215図 SI208 穫穴住居跡出土遺物（2）

台が「ハ」字状に付される。底部は高台より張り出している。底部には回転ヘラケリによる再調整が施されている。焼成は弱く軟質で、色調は灰白色を呈する。18・19は須恵器蓋である。共につまみが付いていたと推定され、天井部は18が丸みを持ち、19は平坦である。共に内面にカエリを持ち、カエリ端部が口縁端部より下方に突出する。天井部外面にはヘラケリによる再調整が施されている。20は須恵器提瓶である。頸部は直立して立ち上がり外面上に棱を持って屈曲し、口縁部は外傾する。口縁端部に内傾する緩い凹面を持つ。胎土は密で焼き締まり、色調は灰色～褐灰色を呈する。21は須恵器すり鉢である。体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁端部に凹面を持ち、体部外面に2条の横位沈線が施される。調整は、体部外面には回転ヘラケリによる再調整が施されている。胎土は粗く、色調はぶい赤褐色～灰褐色を呈する。22は須恵器長頸瓶である。体部の上位に最大径があり、肩部は角張り強く張る。胴部上位に接合痕がみられ、頸部は別作りで接合されたと考えられる。胎土は5mm程の砂礫を含みやや粗く、色調は橙色～明赤褐色を呈する。23・24は砥石である。23はa面に溝状痕がみられる。24はb～d面に被熱による黒変がみられる。25は敲石で、a・b面中央に敲打痕がみられる。

【時期】 床面直上から出土した土師器鉢（第214図-10）、須恵器長頸瓶（第215図-22）から、5bi期（郡山II期宮衙期）と考えられる。



第216図 SI208 積穴住居跡出土遺物(3)

## SI209 積穴住居跡(第217～222図)

【位置・確認】 調査区南部の94・100グリッドに位置する。重複遺構や削平により、中央及び東側が失われている。炭化物や炭化物、焼土ブロックの出土状況から、焼失住居跡と考えられる。

【重複】 SI210より新しく、SI208、SK192、Pit12・20・101・102・109より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸795cm、短軸693cmを測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN=1°Wである。

【堆積土】 10層に分層した。1・2層は暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、炭化物・炭化物・焼土ブロックを多量に含む。3層は周溝堆積土である。4層はカマド煙道堆積土、5～7層はカマド掘り方理土、8～10層は掘り方理土である。

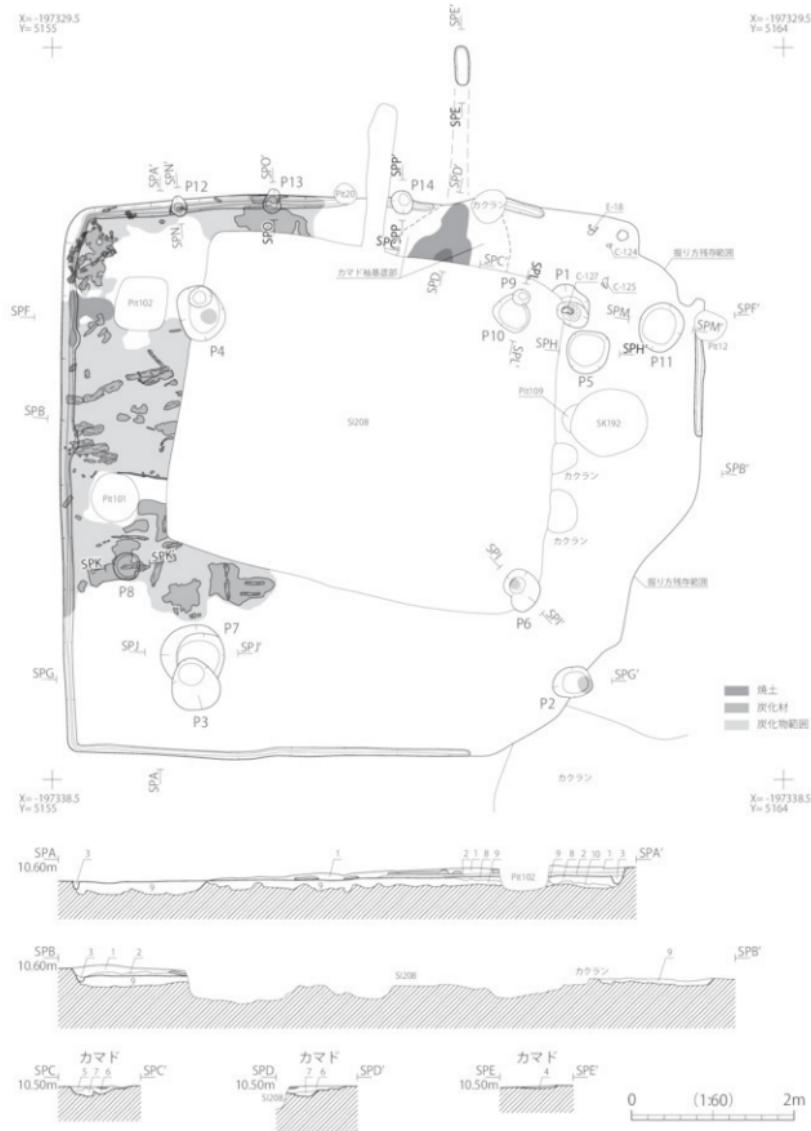
【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は12～14cmを測る。

【床面】 掘り方理土である8層ないし9層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から12基(P1～8・11～14)、重複遺構底面から2基(P9・10)、総数14基を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸48～67cm、深さ37～54cmを測る。P1・2・4で径20～26cmの柱痕跡が確認され、P1では底面に径18cmの変色範囲が認められた。P6・8は、平面形状は円形ないし椭円形を呈し、共に径13～14cmの柱痕跡が確認された。P12～14は北壁の周溝上に位置することから壁柱穴と考えられる。規模は長軸25～30cm、深さ30～48cmを測る。

【周溝】 北壁のカマド周辺を除き、残存部分では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅8～22cm、深さ2～13cmを測る。

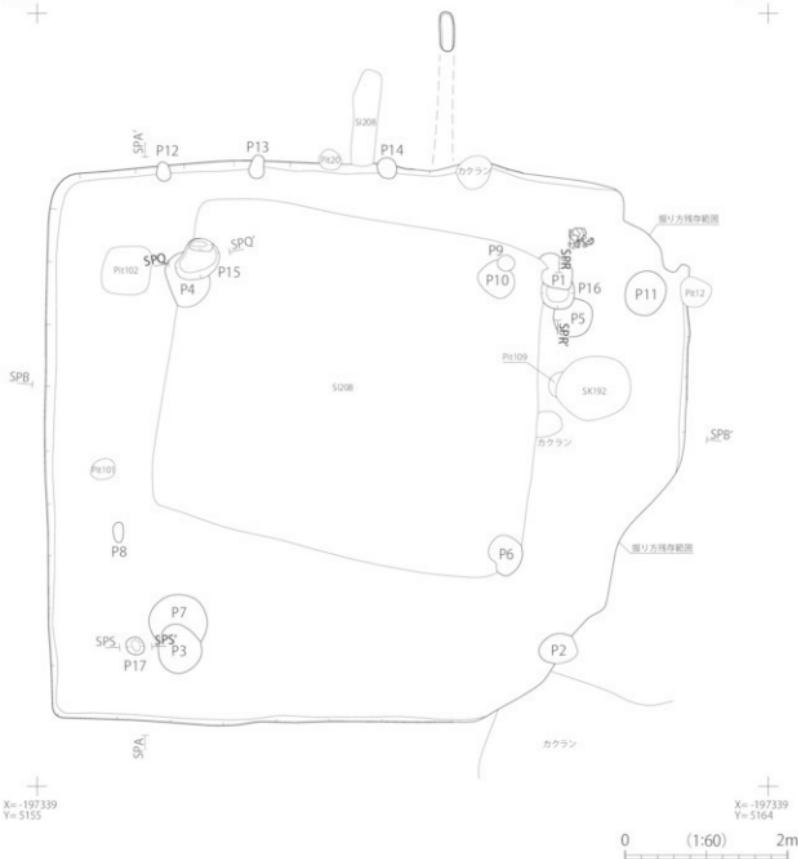
【カマド】 北壁中央やや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。削平により燃焼部の焼面と煙道部の一



第217図 SI209 竪穴住居跡(1)

X=-197329.5  
Y=5155

X=-197329.5  
Y=5164



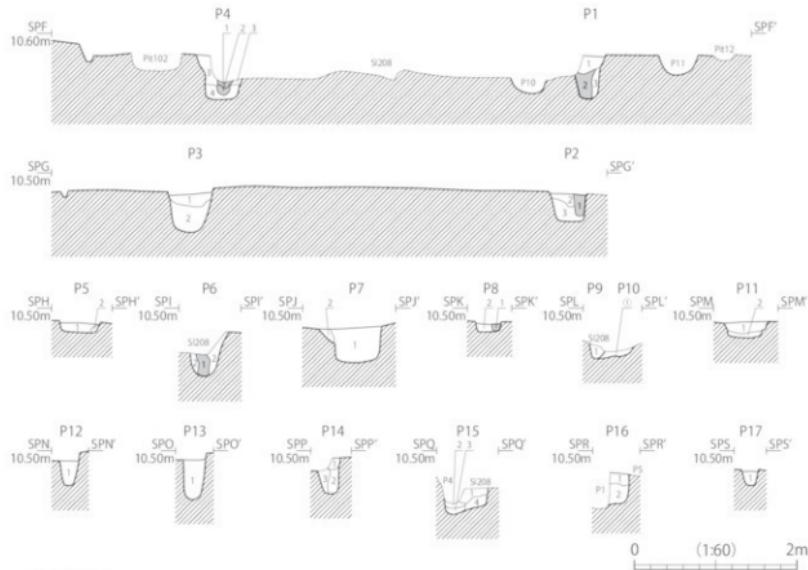
SI209 堆積土跡記表  
X=-197329.5  
Y=5155

X=-197329.5  
Y=5164

SI209 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	箇所
住居堆積土	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	古層土・炭化材多量。IV層土ブロック(10mm程度)少量。熟土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	古層土ブロック(5~20mm)・炭化材・炭化物・熟土ブロック(5~50mm)・古層土ブロック(5~20mm)・灰斑化土を含む。
廻溝	3	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	古層土ブロック(5~20mm)多量。炭化物粒少量含む。
カマド	4	10YR5/0 黄褐色	シルト	昭和土ブロック(5~20mm)多量含む。
	5	5YR4/3 にぶ~赤褐色	シルト	古層土粒・熟土ブロック粒多量含む。
カマド脇り方	6	5YR4/4 にぶ~赤褐色	シルト	地土ブロック(5~10mm)多量含む。
	7	10YR3/3 黄褐色	シルト	古層土ブロック(10mm程度)多量含む。
	8	10YR3/4 黄褐色	シルト	古層土多量。炭化物少量含む。
住居脇り方	9	10YR3/3 黄褐色	シルト	古層土ブロック(5~40mm)多量。炭化物少量含む。
	10	10YR4/4 黄褐色	シルト	古層土多量含む。

第218図 SI209 積穴住居跡 (2)



SI209 竪穴堆積土註記表

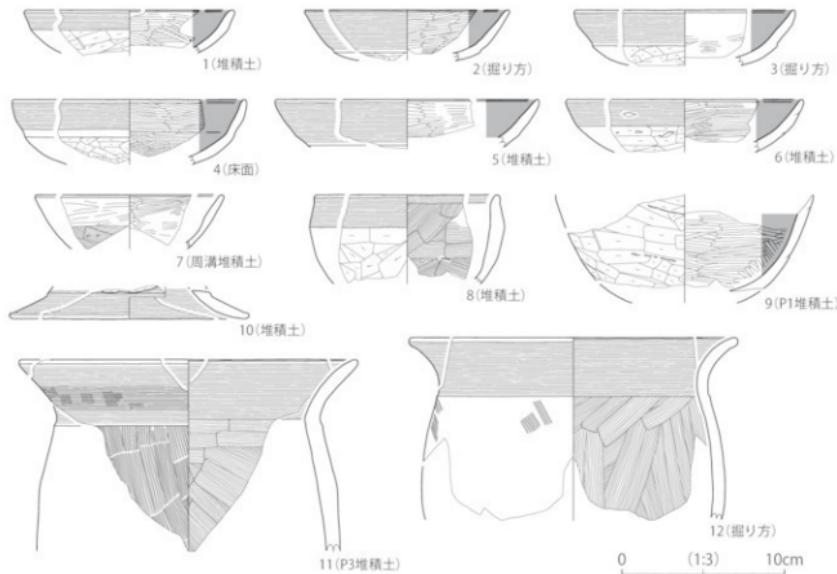
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土多量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	下部に灰黒褐色土、炭化物少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック(10 ~ 50mm) 多量含む。
P2	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	上部に赤褐色土多量、炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土・オリーブ褐色土ブロック(20 ~ 30mm) 多量含む。
	3	7.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	灰褐色土ブロック(20 ~ 30mm) 多量含む。
P3	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物少量、炭化褐色土ブロック(10mm程度) 少量、褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 微量含む。
	2	7.5Y3/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 微量含む。
P4	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	赤褐色土多量、赤褐色土ブロック(20mm程度) 少量、赤土ブロック(5mm程度) - 炭化物微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	上部に粘土質土・炭化物微量含む。※柱痕跡
	3	10YR3/4 黑褐色	シルト	赤褐色土多量、炭化物微量含む。
P5	4	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック(10 ~ 20mm)、炭化物多量含む。
	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10mm程度) 少量、炭化物微量含む。
P6	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤褐色土多量、黑褐色粘土層間に混む。※柱痕跡
	1	10YR4/4 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土多量、黑褐色粘土層間に混む。※柱痕跡
P7	2	10YR4/6 黄色	シルト	炭オリーブ色土ブロック(5 ~ 30mm)、IV層土多量含む。
	1	7.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	炭オリーブ色土ブロック(5 ~ 30mm)、IV層土多量含む。
P8	2	7.5Y4/1 黄色	シルト	炭オリーブ色土少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土多量、炭化物少量含む。※柱痕跡
P9	2	10YR4/4 黄色	シルト	赤褐色土多量、赤褐色土ブロック(5 ~ 20mm)、炭化物少量含む。
	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤褐色土少量含む。
P10	①	10YR3/4 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10 ~ 100mm) 多量含む。
	1	10YR4/4 黄色	シルト	赤褐色土多量、炭化物少量含む。
P11	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。
	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10mm程度) 多量、炭化物少量含む。
P12	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10mm程度) 多量、炭化物少量含む。
	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。
	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。
P13	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。
	3	10YR4/6 黄色	シルト	黒褐色土ブロック(5mm程度) 少量含む。
P14	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 20mm) 多量、炭化物少量含む。
	2	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック(5 ~ 10mm)、炭化物微量含む。
	3	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。
P15	4	10YR5/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック(20 ~ 50mm) 少量含む。
	1	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(20 ~ 50mm) 少量含む。
P16	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤褐色土多量含む。
	1	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。
P17	1	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	赤褐色土・炭化物微量含む。

第219図 SI209 竪穴住居跡(3)

SI209 施設觀察表

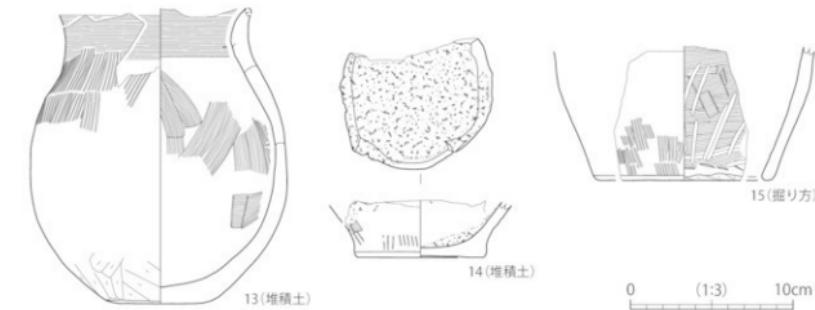
遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(不整梢円形)	59 × (42)	54	主柱穴、底面変色	
P2	(楕円形)	(48) × (37)	37	主柱穴	
P3	不整円形	64 × 57	54	主柱穴	
P4	(楕円形)	(67) × (54)	54	主柱穴	
P5	円形	53 × 51	15		
P6	(楕円形)	(48) × (37)	54	底面変色	
P7	(円形)	79 × (67)	43		
P8	円形	34 × 33	10		
P9	(円形)	(22) × (20)	(17)		

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P10	(円形)	(45) × (38)	(8)		
P11	円形	61 × 55	20		
P12	梢円形	25 × 19	30	壁柱穴	
P13	梢円形	30 × 19	48	壁柱穴	
P14	円形	30 × 26	44	壁柱穴	
P15	(不整梢円形)	(58) × (43)	26	掘り方検出	
P16	(円形)	(43) × 42	39	掘り方検出	
P17	円形	23 × 21	21	掘り方検出	



回数 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	C-122	SI209	堆積土	土師器	环	(12.8)	—	(2.6)	口縁：32mm 体部：49mm 底部：49mm	53mm	内面黒色処理	37
2	C-132	SI209	掘り方	土師器	环	(12.4)	—	(3.1)	口縁：32mm 体部：49mm 底部：49mm	53mm	内面黒色処理	37
3	C-130	SI209	掘り方	土師器	环	(13.6)	—	(3.4)	口縁：32mm 体部：49mm 底部：49mm	53mm	内面摩滅 内面黒色処理	37
4	C-124	SI209	床面	土師器	环	(14.2)	—	(3.9)	口縁：32mm 体部：49mm 底部：49mm	53mm	内面黒色処理	37
5	C-118	SI209	堆積土	土師器	环	(16.0)	—	(2.9)	口縁：32mm 体部：50mm 底部：50mm	53mm	内面黒色処理	37
6	C-121	SI209	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	(3.2)	口縁：32mm 体部：50mm 底部：50mm	53mm	内面黒色処理	37
7	C-126	SI209 側溝	堆積土	土師器	环	(11.4)	—	(3.3)	口縁：50mm 体部：49mm	53mm	内外面摩滅	37
8	C-123	SI209	堆積土	土師器	环	(11.4)	—	(5.4)	口縁：32mm 体部：50mm	53mm 53mm	口縁：32mm 体部：50mm	38
9	C-127	SI209P1	堆積土	土師器	环	—	—	(6.6)	口縁：50mm 体部：50mm	53mm	外面部付着？ 内面黒色処理	38
10	C-120	SI209	堆積土	土師器	高环	—	留縫	(2.0)	留縫：32mm 体部：32mm	留縫：32mm	留縫	37
11	C-128	SI209P3	堆積土	土師器	环	(20.4)	—	(11.8)	口縁：50mm → 32mm 体部：50mm	53mm	口縁：32mm 体部：50mm	37
12	C-131	SI209	掘り方	土師器	环	(20.0)	—	(11.2)	口縁：32mm 体部：50mm	53mm	外面部摩滅 留縫：50mm	38

第220図 SI209 積穴住居跡出土遺物（1）



回収番号	標印番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (ml)		外面調整	内部調整	備考	写真回数	
						口径	底径					
13	C-125	SII209	堆積土	土師器	甕	—	6.4	(18.0)	口縁：3.0cm 胴上半：5.0cm 脇下半：5.0cm	口縁：3.0cm 胴部：5.0cm	内外面磨滅	38
14	C-119	SII209	堆積土	土師器	甕	—	7.8	(3.5)	胴部：5.0cm	不明	内外面及び側面に 付着物→ごく軽用	38
15	C-129	SII209	掘り方	土師器	甕	—	(10.0)	(8.0)	胴部：5.0cm→5.5cm 孔部：5.0cm	孔部：5.0cm	平丸	38

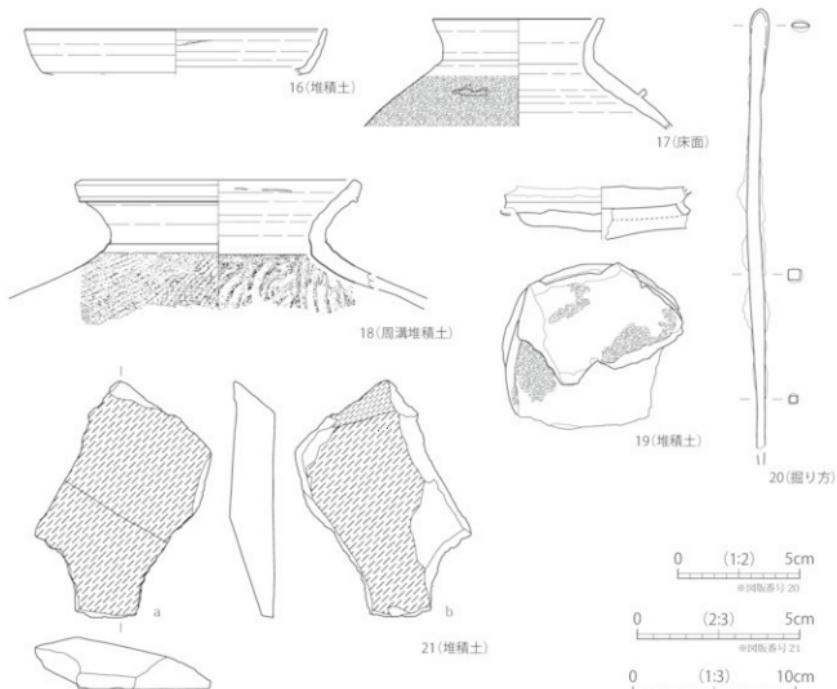
第221図 SII209 積穴住居跡出土遺物（2）

部のみ残存している。焼面の規模は長軸 75cm、短軸 69cm を測り、検出状況から燃焼部は壁内に位置すると考えられる。煙道部は先端部のみが残存しており、規模は北壁からの長さ 195cm、幅 18cm、深さ 1 ~ 3cm を測る。

【その他の施設】 挖り方底面からピット 3 基 (P15 ~ 17) を検出した。

【掘り方】 深さ 1 ~ 16cm で、底面は起伏がみられる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品・土製品・打製石器が出土している。このうち、土師器壺 7 点、土師器鉢 1 点、土師器塊 1 点、土師器高杯 1 点、土師器甕 4 点、土師器櫃 1 点、須恵器壺 1 点、須恵器短頸甕 1 点、須恵器甕 1 点、須恵器甕 1 点、鉄製品 1 点、打製石器 1 点の計 21 点を掲載した（第220図-1 ~ 12、第221図-13 ~ 15、第222図-16 ~ 21）。1・5・6・8・10・13・14・16・19・21 は堆積土、2・3・12・15・20 は掘り方、4・17 は床面、7・18 は周溝堆積土、9 は P1 堆積土、11 は P3 堆積土からの出土である。1 ~ 7 は土師器壺である。1 ~ 5 は外面の口縁部と体部の境に段や稜を持つ。口縁部は 1 が短く外反気味に外傾、2・5 が直線的に外傾、3・4 が内湾気味に外傾する。6 は口縁部が外傾し、口縁端部に向かって器壁が薄くなる。7 は口縁部が外傾する。口縁部の器壁は体部より厚い。調整は、1 ~ 6 は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施され、7 は外面が口縁部ヘラミガキ、体部ヘラナデ、内面はヘラミガキである。8 は土師器鉢である。外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は内傾して立ち上がり、口縁端部が短く外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。9 は土師器塊である。内湾して立ち上がる体部である。調整は、外面がヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。10 は土師器高杯である。外面の脚部と裾部の境に段を持ち、裾部は屈曲して広がる。裾端部は僅かに閻屋から上方に屈曲する。透かしは上部が残存しておらず形状は不明であるが、平坦な下辺部分から側辺が直立する形態である。1 窓のみの残存であるため、方向及び窓数は不明である。調整は、裾部内外面ヨコナデである。11 ~ 14 は土師器甕である。11・12 は外面の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部は 11 が外反気味に外傾、12 は外反する。調整は、11 が口縁部外面ハケメ後ヨコナデ、胴部は外面ハケメ、内面ヘラナデで、12 は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ヘラナデである。13 は胴部が球胴形を呈し、口縁



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 番號
						口徑	底径	高さ				
16	E-016	S1209	堆積土	須恵器	环	(18.4)	—	(2.8)	口縁部 底部：回転六角型	口縁部 底部：回転六角型	須恵器 少量化含む	38
17	E-018	S1209	床面	須恵器	短脚壺	—	10.4	—	口縁部 底部：回転六角型	口縁部 底部：回転六角型	外表面自然付着	38
18	E-019	S1209	堆積土	須恵器	壺	(16.8)	—	(8.0)	口縁部：回転六角部 脚部：平行3脚	口縁部：回転六角部 脚部：平行3脚	須恵器 多量含む	38
19	E-017	S1209	堆積土	須恵器	壺 or 旗盤	—	—	(3.4)	口縁部 底部：回転六角型	底部：丸 <sup>ノ</sup> 形	付着部あり	38

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 番號
						全長	幅	厚さ				
20	N-002	S1209	掘り方	全國製品	鉄鑼	(18.0)	0.3~ 0.7	0.3~ 0.4	(17.1)	ばば定形、長脚		38

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 番號
						全長	幅	厚さ				
21	Ka-001	S1209	堆積土	打製石器	板状石器	(7.8)	(5.2)	1.6	(44.7)	安山岩	a・b 面凹凸あり	38

第222図 S1209 竪穴住居跡出土遺物(3)

部は外反氣味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。14は底部で、内外面及び削れ口に溶解物の付着がみられるため、とりべに転用されたと考えられる。調整は、外面が胴部ハケメ後ヘラナデ、内面は溶解物付着により不明である。15は単孔の土師器壺である。調整は、外面が胴部ハケメ、内面は胴部ヘラナデ後ヘラミガキ、孔部ヘラケズリである。16は須恵器壺である。体部は底部から明瞭な棱を持って立ち上がり、口縁部は内湾気味に外傾する。底部には回転ヘラ

ケズリによる再調整が施されている。胎土はやや軟質で、色調は黄灰色～にぶい黄橙色を呈する。17は須恵器短頸壺である。口縁部は直立気味に立ち上がり、中位から外傾する。口縁端部に平坦面を持つ。体部上位には粘土層及び自然釉が付着する。胎土は砂粒を少量含み粗く、焼成は良好で、色調は紫灰色を呈する。18は須恵器甕である。口縁部は外反して立ち上がり、外傾する。口縁端部に平坦面を持ち、直下に1条の突帯が巡る。胴部外面にタタキ目、胴部内面に当て具痕による青海波文がみられる。胎土はやや粗く、色調は暗緑灰色～暗青灰色を呈する。19は須恵器壺ないし瓶類である。体部と底部の境からやや内側に高台が「ハ」字状に付される。底部には焼台として使用したと考えられる須恵器甕が溶着する。調整は、底部内面ユビナデで、底部外面には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。胎土は砂粒を多量含みやや粗く、色調は外面が灰色、内面が紫灰色を呈する。20は鉄鑓で、両刃の長頭鑓である。断面形状は、刃部は両丸造、頭部は方形を呈する。21は板状節理を持つ安山岩製の板状石器である。

【時期】 床面から出土した土師器甕（第220図-4）から、5a期（郡山I期官衙期）と考えられる。

#### SI210 穫穴住居跡（第223～228図）

【位置・確認】 調査区南部の93・94・99・100グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により大半が失われている。南西側は調査区外に延びる。

【重複】 SI208・209、SD82、Pit101・102より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸783cm、短軸574cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-14°-Wである。

【堆積土】 19層に分層した。1～5層は褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、6層は周溝堆積土である。7～12層はカマド間連の堆積土で、11層は天井崩落土、焼面直上に堆積する12層には焼土ブロックや灰が多量に含まれる。13・14層はカマド袖の構築土で、15層はカマド掘り方埋土である。16～19層は掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は4～24cmを測る。

【床面】 掘り方埋土である16・17層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から1基（P3）、重複遺構底面から8基（P1・2・4・8・9・15～17）、総数9基を検出した。P1・2は位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸62～75cm、深さ45～69cmを測る。P1～4で径16～22cmの柱痕跡が確認され、P1では底面に径16cmの変色範囲が認められた。P3はカマドの南西側に位置する。平面は円形を呈し、規模は長軸66cm、深さ49cmを測る。

【周溝】 北東コーナー付近と南辺で検出した。南辺では壁面に沿うが、北東コーナー付近では壁面より6～10cm程度内側に位置する。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅15～24cm、深さ2～8cmを測る。

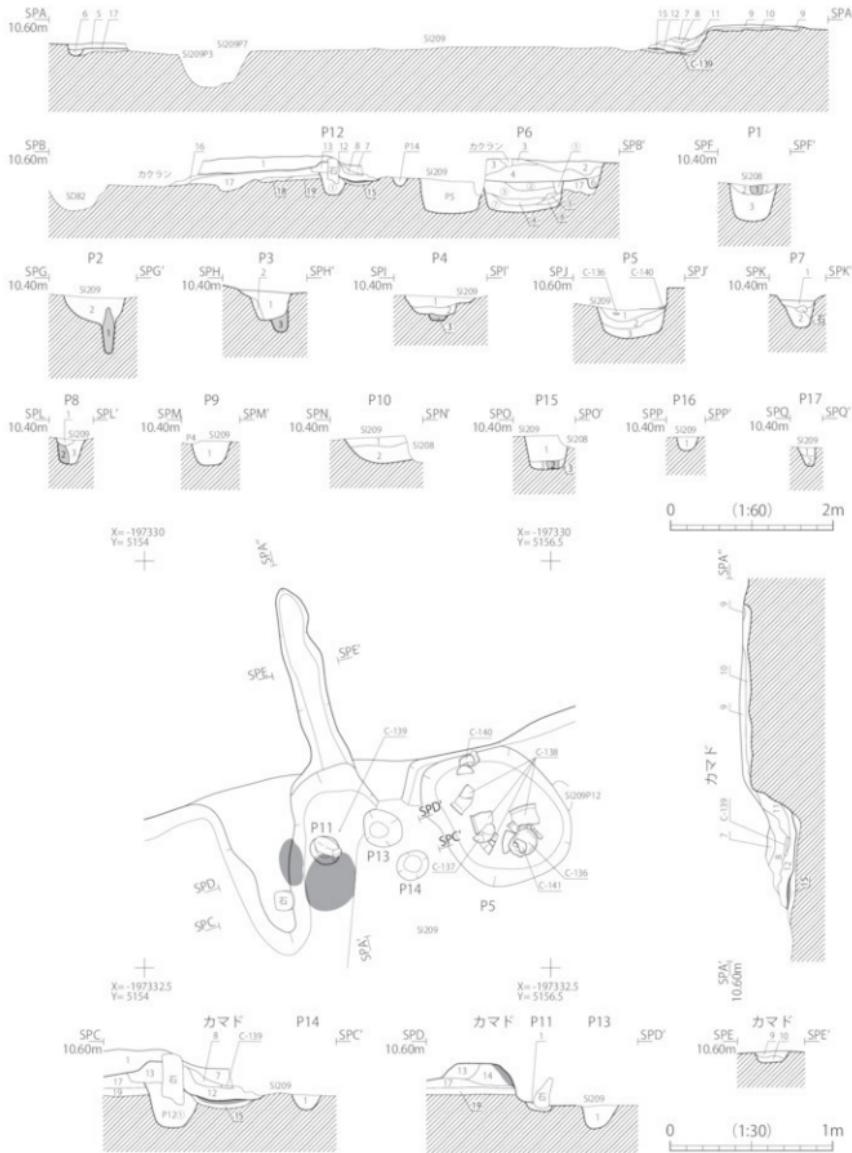
【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。重複遺構により南東部が失われている。西袖の規模は、長さ108cm、幅43cmを測る。袖は壁面に対して直交する。先端に袖石を埋設している（P12）。東袖の先端部と推定される位置に長軸20cm程度、深さ18cmのピット（P14）を検出した。西袖の袖石とカマドを介して正対する位置にあることから、東袖芯材の埋設穴と考えられる。燃焼部の規模は奥行き96cm、幅46cm以上、奥壁高26cmを測り、壁内に位置する。底面には長軸40cm程の焼面がみられ、奥壁側には棒状礫の支脚が埋設されている（P11）。P11の東側に位置するP13も支脚穴の可能性があり、支脚が東西方向に並列していた可能性が考えられる。なお、調査時に燃焼部内の焼面の位置や煙道の位置にズレがあることから、カマドの重複や造り替えなどが想定されたが、確認することは出来なかった。煙道部の規模は長さ114cm、幅17～23cm、深さ4～7cmを測る。底面は緩やかに起伏し、先端は外傾して立ち上がる。

X=-197329.5  
Y=5151

X=-197329.5  
Y=5160



第 223 図 SI210 積穴住居跡 (1)



第224図 SI210 竪穴住居跡（2）

SD10 墓構土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 茶色	シルト	に少い黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
	2	10YR3/3 茶褐色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
	3	10YR3/4 茶褐色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。
	4	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。
	5	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
廻溝	6	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
	7	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土粒少量、地衣類微量含む。
カマド	8	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
	9	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、植土粒微量含む。
	10	10YR4/4 茶色	シルト	暗褐色土粒少量含む。
カマド脇	11	10YR5/4 に少い暗褐色	シルト	地衣上を含む。※大木根跡土。
	12	10YR3/4 茶褐色	シルト	灰・植土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	13	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (20 ~ 50mm)、植土と多量含む。
カマド脇	14	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	15	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
住居脇り方	16	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
	17	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土斑状・植土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	18	10YR3/4 茶褐色	シルト	植土粒多量、下部に明黄色粘土含む。
19	10YR5/6 黄褐色	シルト	上部に暗褐色土含む。	

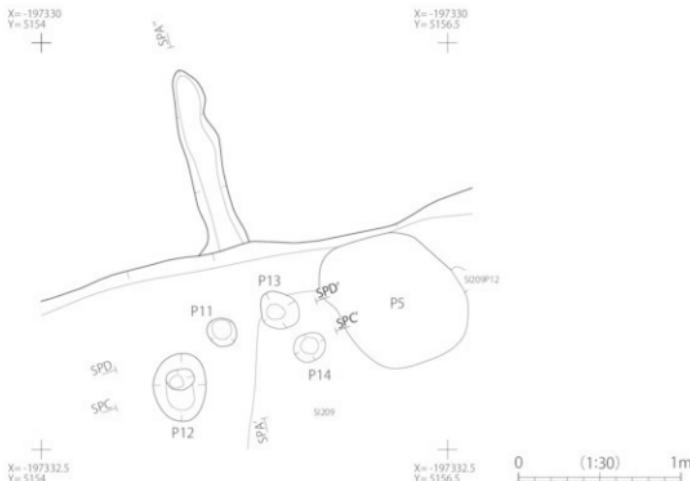
SD10 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
	3	10YR4/4 茶色	粘土質シルト	粘土質シルト・暗褐色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量、炭化物微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5mm程度) 多量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (10mm程度) 多量、植土粒微量含む。
P3	1	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
	2	10YR4/4 茶色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
P4	1	10YR4/4 暗黃褐色	シルト	暗褐色土粒微量含む。※柱痕跡
	2	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	暗褐色土ブロック (10mm程度) 多量含む。
P5	3	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	暗褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡
	1	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土ブロック (10mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (10mm程度) 多量含む。※柱痕跡
P6	3	10YR7/6 明黄色	粘土	地土と多量、赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 炭化物少量含む。
	①	10YR4/4 茶色	シルト	暗褐色土粒微量、地衣上を微量含む。
	②	10YR4/4 茶色	シルト	暗褐色土粒微量、炭化物微量含む。
	③	10YR3/4 茶褐色	シルト	地衣上・植土粒多量、暗褐色土ブロック (10mm程度) 炭化物微量含む。
	④	10YR5/6 黄褐色	シルト	地衣上・植土粒多量、地衣上少量含む。
	⑤	10YR5/6 黄褐色	シルト	地衣上・植土粒多量、地衣上少量含む。
	⑥	10YR3/4 茶褐色	シルト	地土と多量、赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 炭化物少量含む。
P7	⑦	10YR4/4 茶色	シルト	地衣上・植土粒微量含む。
	1	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒微量、炭化物微量含む。
P8	2	10YR4/4 茶色	シルト	赤褐色土粒多量、炭化物 (150mm程度) 含む。
	3	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 15mm) 少量含む。※柱痕跡
P9	4	10YR5/4 に少い暗褐色	シルト	赤褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
	1	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	赤褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。
P10	2	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。
P11	1	10YR4/4 茶色	シルト	地衣上を含む。
P12	⑤	10YR4/4 茶色	粘土質シルト	粘土質シルトブロック (20 ~ 40mm) 炭化物多量含む。
P13	1	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5mm程度) + 植土ブロック (5mm程度) 多量含む。
P14	1	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
P15	1	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P16	2	10YR5/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P17	1	10YR3/4 茶褐色	シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
P17	2	10YR4/4 茶色	粘土質シルト	赤褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。

SD10 施設輪郭表

輪郭名	平面形	輪郭 (cm)	備考	輪郭名	平面形	輪郭 (cm)	備考
P1	(円形)	長軸: 145m 短軸: 145m	(45) 土柱穴、底面変形	P10	(楕円形)	11.0 × 6.0m (3.2)	
P2	(円形)	7.5m × 7.2m	800 土柱穴	P11	円形	1.9 × 1.7	11 之側理設穴
P3	円形	6.6 × 6.0	49	P12	楕円形	4.2 × 3.2	86 心理設穴
P4	(楕円形)	10.9 × 6.5m	(3.9)	P13	(円形)	12.0 × 1.7	8 之側理設穴
P5	(椭円方形)	(10.0) × (7.6)	36	P14	(円形)	12.6 × (2.3)	(18) 植石理設穴
P6	(楕円形)	19.7 × (7.1)	38	P15	(楕円形)	(7.6) × (6.5)	(4.2) 底面変形
P7	円形	50 × 45	33	P16	(V形)	(2.6) × (2.7)	(1.6)
P8	(円形)	(14.8) × (3.0)	(3.0)	P17	(V形)	(2.0) × (1.0)	(2.0)
P9	(円形)	(5.0) × (5.0)	(3.0)				

第225図 SI210 竪穴住居跡 (3)

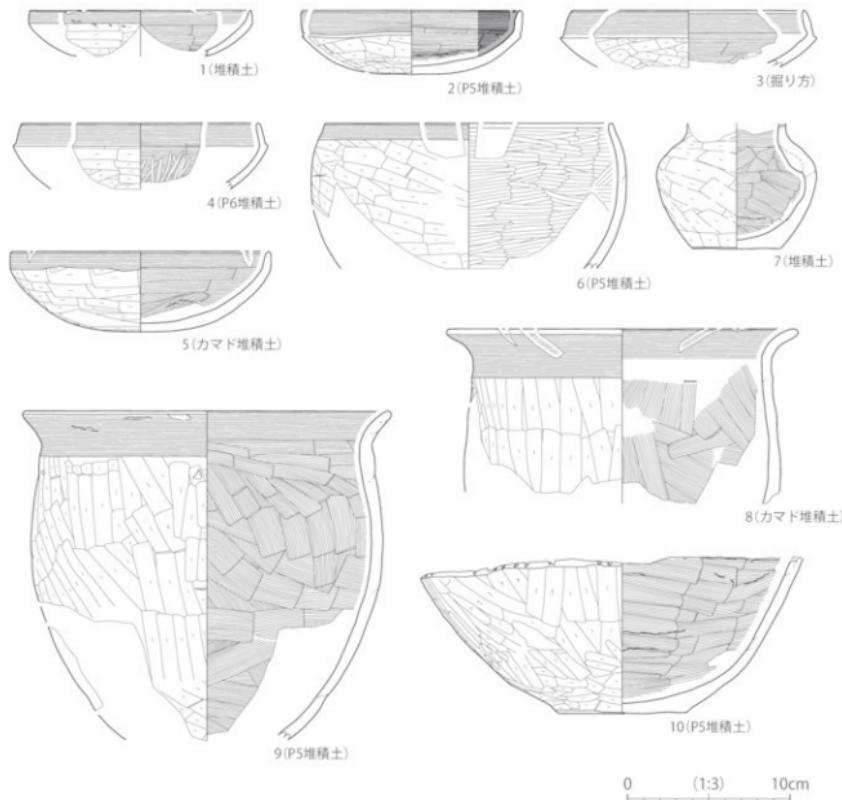


第226図 SI210 積穴住居跡(4)

【その他の施設】床面から土坑2基(P5・6)、ビット1基(P7)重複造構底面から土坑1基(P10)を検出した。P5・6はカマドの右脇に位置し、規模と位置関係から共に貯蔵穴と考えられる。規模は長軸97~100cm、深さ36~38cmを測る。P7はカマドと正対する南壁際の中央付近に位置し、堆積土中からは凝灰岩の切り石・棒状礫などが出土している。出入り口に隣接する施設や理納坑の可能性も考えられるが、性格は不明である。

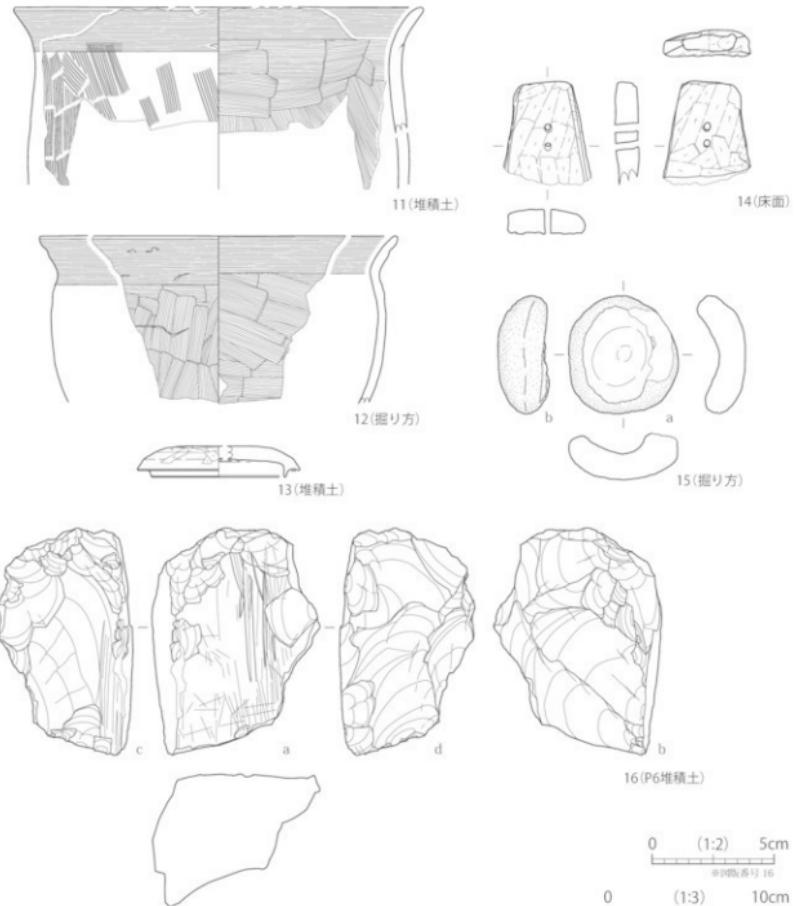
【掘り方】深さ2~22cmを測る。底面は概ね平坦で、壁際が一段低くなる。

【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品・打製石器、礫石器が出土している。このうち、土師器杯5点、土師器鉢1点、土師器壺1点、土師器甕5点、須恵器蓋1点、須恵器把手1点、石製品1点、礫石器1点の計16点を掲載した(第227図-1~10、第228図-11~16)。1・7・11・13は堆積土、2・6・9・10はP5堆積土、3・12・15は掘り方、4・16はP6堆積土、5・8はカマド堆積土、14は床面からの出土である。1~5は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つ土師器環である。いずれも緩やかに内湾する体部で、口縁部は1が短く直立、2・5が直線的に直立、3・4は直線的に内傾する。調整は、いずれも口縁部が外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデで、2は内面黒色処理、4は体部内面の最終調整に放射状ヘラミガキ後内外面黒色漆仕上げ、5は外面が黒色漆仕上げされている。6は土師器鉢である。体部から口縁部にかけて内湾し、口縁端部が短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。7は土師器の小型壺である。平底の底部に、肩部に張りを持つ。調整は、外面がヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデである。8~12は土師器甕である。8・9は外面の口縁部と胸部の境に稜を持ち、口縁部は8が外反、9が外傾する。10は平底の底部から胸部が内湾して立ち上がる。胸部の接合面には刻目が施されている。11は胸部が長胴形を呈し、口縁部が外反気味に外傾する。12は胸部が内湾して立ち上がり、口縁部は内面の胸部との境に稜を持って屈曲し外傾する。調整は、8・9が口縁部内外面ヨコナデ、胸部外面ヘラケズリ、胸部内面ヘラナデ、10が胸部外面ヘラケズリ、胸部内面ヘラナデ、11が口縁部は外面ハケメ後ヨコナデ、



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	C-134	SI210	堆積土	土窯器	环	(13.6)	—	(2.8)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	開丸系	38
2	C-141	SI210P5	堆積土	土窯器	环	(13.4)	—	3.9	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	開丸系 内面黒色処理	38
3	C-143	SI210	盛り方	土窯器	环	(14.2)	—	(3.5)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	開丸系	38
4	C-142	SI210P6	堆積土	土窯器	环	(14.4)	—	(4.1)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm 内面：放射状凹溝	開丸系 内面漆仕上げ	38
5	C-140	SI210 カマド	堆積土	土窯器	环	15.8	—	4.9	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	開丸系 外周漆仕上げ	38
6	C-137	SI210P5	堆積土	土窯器	蹄	(17.6)	—	8.9	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	5.5mm	—	39
7	C-135	SI210	堆積土	土窯器	蹄	—	5.3	(7.7)	口縁：32mm 底径：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	—	38
8	C-139	SI210 カマド	堆積土	土窯器	蹄	(21.2)	—	(10.7)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	—	39
9	C-138	SI210P5	堆積土	土窯器	蹄	22.4	—	(20.2)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	口縁：32mm 底径：19mm	—	39
10	C-136	SI210P5	堆積土	土窯器	蹄	—	8.0	(9.6)	口縁：32mm 底径：19mm 高さ：19mm	5.5mm	複合剖面	39

第227図 SI210 積穴住居出土遺物（1）



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径	底径	厚さ				
11	C-133	SI210	堆積土	土器部	甕	(25.0)	—	(11.1)	口縁：32.4°, 32.7° 胴部：10.4°	口縁：32.7° 胴部：5.9°	内外面手炒摩滅	39
12	C-144	SI210	掘り方	土器部	甕	(21.8)	—	(10.2)	口縁：32.7° 胴部：4.9°	口縁：32.7° 胴部：5.9°	—	39
13	E-020	SI210	堆積土	須恵器	蓋	(8.2)	—	(1.9)	切端部 天井部：3.4°, 4.1°	切端部 天井部：3.4°, 4.1°	海綿骨針少量含む	39
14	E-021	SI210	床面	須恵器	把手？	長 6.4	幅 5.4	厚 1.5	六角形？一部六角形？	六角形？	海綿骨針多量含む	39

回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
15	Kc-004	SI210	掘り方	鍛石器	鐵石	7.3	6.8	2.6	121.5	花崗岩	磨1面 (a面), 一部欠損	39
16	Ed-010	SI210P6	堆積土	石製品	鐵石	9.3	6.9	5.5	203.1	細粒花崗岩	鏡面2面 (a・c面), 滑状面 (a・b面), 鮫柔面 (a・b面)	39

第228図 SI210 積穴住居跡出土遺物 (2)

内面ヨコナデ、脇部は外面ハケメ、内面ヘラナデ、12が口縁部内外面ヨコナデ、脇部内外面ヘラナデである。13は須恵器蓋である。天井部は平坦で、内面にカエリを持ち、カエリ端部が口縁端部より下方に突出する。天井部外面にはヘラケズリによる再調整が施されている。胎土はやや粗く、色調は灰色を呈する。14は須恵器把手と考えられる。平面形状は台形を呈し、中央に並列して2ヶ所の穿孔が施される。胎土はやや粗く、色調は灰色を呈する。15は凹石で、a面中央に磨面がみられる。16は砥石である。a・c面に磨面がみられる。

【時期】 カマド堆積土及びP5から出土した土師器坏（第227図-2・5）、土師器鉢（第227図-6）、土師器甕（第227図-8～10）から、4a期（住社式期新段階）と考えられる。

#### SI211 穴住居跡（第229・230図）

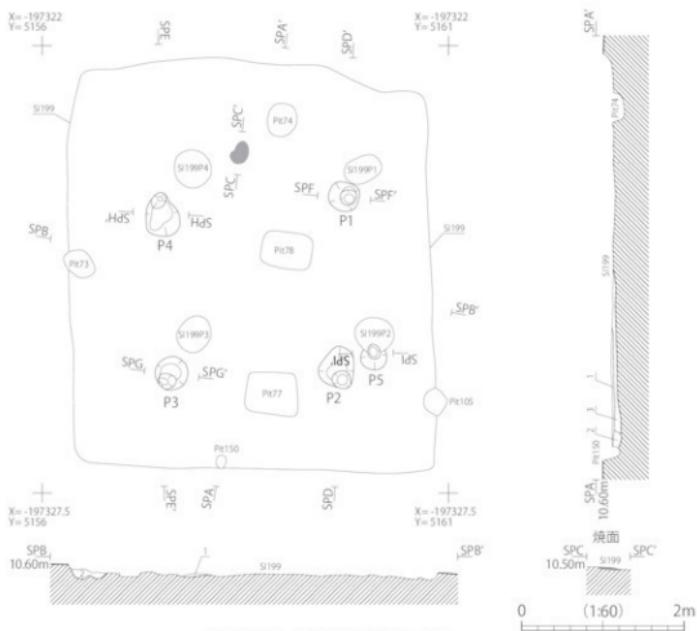
【位置・確認】 調査区中央部の80・87グリッドに位置する。重複遺構により、掘り方の一部のみ残存している。

【重複】 SI199、Pit150より古い。Pit73・74・77・78・105は位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

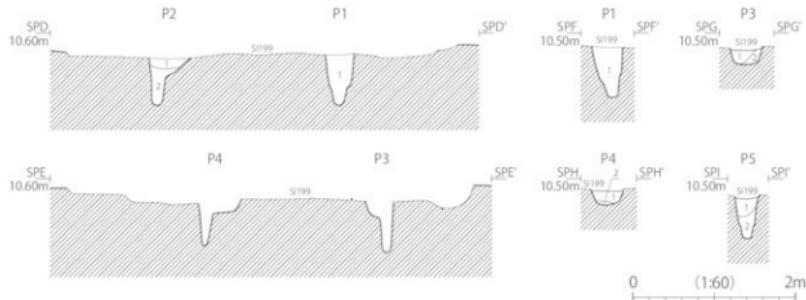
【規模・形態】 平面形状は不明である。

【堆積土】 3層に分層した。1～3層は掘り方理土で、1層は貼り床土である。

【柱穴】 5基（P1～5）検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸39～54cm、深さ57～62cmを測る。P5は規模と位置関係から補助柱穴の可能性が考えられる。規模は長軸33cm以上、深さ54cmを測る。



第229図 SI211 穴住居跡（1）



SI211 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR5/4 にぶい 黄褐色	シルト	暗褐色土帶状に含む。※貼り床土。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	にぶい 暗褐色土粒多量、暗褐色土ブロック(20mm程度)微量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(15～50mm)少量含む。

SI211 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック(10～30mm)多量含む。
	2	10YR4/4 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック(70～150mm)多量含む。
P2	1	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック(20～50mm)少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(15～30mm)微量含む。
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土斑状に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(15～30mm)微量含む。
P4	1	10YR4/3 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5～30mm)多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5～20mm)少量含む。
P5	1	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土粒多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	暗褐色土粒少額含む。

SI211 施設觀察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P1	(円形)	C308 × C36	面(1)	土柱穴
P2	(不整格円形)	(498 × 449)	(57)	土柱穴
P3	(円形)	(42) × (41)	(62)	土柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P4	(不整格円形)	(540) × (40)	(57)	土柱穴
P5	(円形)	(338) × (32)	(54)	土柱穴六か

第230図 SI211 竪穴住居跡 (2)

【鏡面】 北部中央付近に位置し、カマドの痕跡と考えられる。規模は長軸30cm、短軸21cmを測る。

【掘り方】 残存部分では、深さ4～12cmで、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び掘り方から土器等が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI199より古いことから、4a期(住社式期新段階)以前と考えられる。

### SI212 竪穴住居跡 (第231～233図)

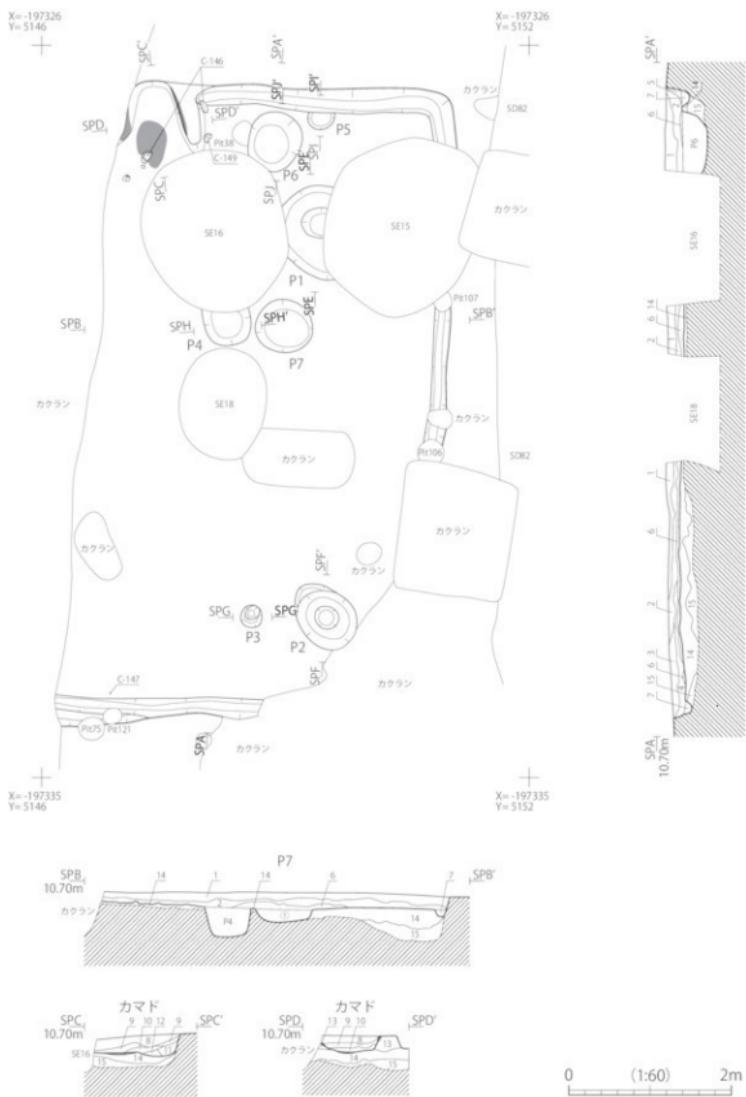
【位置・確認】 調査区中央部の86・93グリッドに位置する。重複遺構や擾乱により西半部と南東コーナー付近が失われている。

【重複】 SI201・202・248、Pit123より新しく、SE15・16・18、Pit38・75・106・107・121より古い。

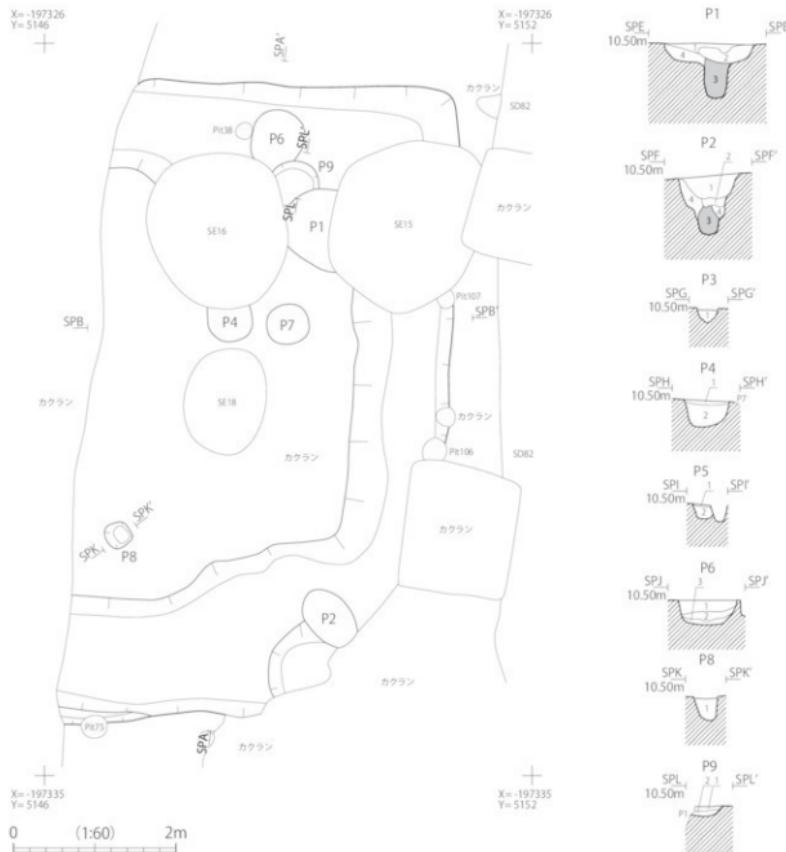
【規模・形態】 検出した規模は、長軸768cm、短軸504cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-1°-Wである。

【堆積土】 15層に分層した。1～6層は褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、7層は周溝堆積土である。8～12層はカマド関連の堆積土で、焼土ブロックや炭化物、灰などを多量に含む。13層はカマド袖の構築土、14・15層は掘り方理土である。



第231図 SI212 竪穴住居跡 (1)



SI12 堆積土記表

部位	部位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	古削土粒多量、炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 剥離色	シルト	古削土ブロック(5 ~ 50mm) 多量含む。
	3	10YR4/4 に5Y 黑褐色	シルト	古削土粒多量含む。
	4	10YR4/3 に5Y 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5 ~ 30mm) 炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	古削土粒多量含む。
	6	10YR3/3 剥離色	シルト	古削土ブロック(5 ~ 10mm) 粗粒含む。
廻溝	7	10YR3/4 剥離色	シルト	古削土粒多量、IV削土ブロック(10mm程度) 少量含む。
カマド	8	10YR4/4 褐色	シルト	古削土ブロック(5 ~ 20mm) 炭化物粒、燒土粒多量含む。
	9	10YR3/4 剥離色	粘土質シルト	燒土ブロック(5 ~ 20mm) + 炭化物、IV削土ブロック(5 ~ 70mm) 少量含む。
	10	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5 ~ 20mm) 多量含む。
	11	10YR3/4 剥離色	シルト	古削土粒・炭化物多量、灰・焼土ブロック(5 ~ 10mm) 少量含む。
カマド前	12	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV削土ブロック(5 ~ 10mm) + 燃土ブロック(5 ~ 15mm) 多量含む。
	13	10YR5/6 黄褐色	シルト	古削土ブロック(20mm程度) 多量含む。
住居側の方	14	10YR4/4 褐色	シルト	古削土ブロック(30 ~ 50mm) 多量、IV削土粒少量含む。
	15	10YR5/6 黄褐色	シルト	

第232図 SI12堅穴住居跡(2)

S212施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 鮎褐色	シルト	10YR土砂少量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	シルト	下部に明褐色を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR土ブロック(5~30mm) 多量含む。※柱跡跡
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	明褐色土斑状に含む。
P2	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR土少量、下部に炭化物含む。
	2	10YR3/4 黑褐色	シルト	炭化物多量、燒土和鐵器含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR土少量、10YR土ブロック(30mm程度) 多量含む。※柱跡跡
	4	10YR4/4 黑褐色	粘土質シルト	10YR土ブロック(10~20mm程度) 多量含む。
P3	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR土多量含む。
P4	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR土少量、10YR土ブロック(10mm程度) 多量含む。
P5	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR土多量含む。
P6	2	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	10YR土ブロック(5~20mm)・焼土ブロック(10~30mm) 多量、炭化物微量含む。
	1	10YR5/1 黄褐色	シルト	10YR土ブロック(5~10mm) 多量含む。
	2	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	10YR土ブロック(5~30mm)・焼土・炭化物多量含む。
P7	①	10YR3/4 鮎褐色	シルト	10YR土少量、燒土和多量含む。
P8	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR土ブロック(10mm程度) 多量、炭化物少量含む。
P9	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR土多量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/4 以為黃褐色	シルト	褐色土斑状に含む。

S212施設細解表

遺構名	平面形	高さ (cm)		備考	遺構名	平面形	高さ (cm)		備考
		長軸	短軸				長軸	短軸	
P1	(円形)	(103) × (48)	67	主柱穴	P6	(楕円形)	(76) × (66)	31	
P2	(楕円形)	90.9 × 65	72	主柱穴	P7	21形	70 × 66	13	
P3	(円形)	28 × 27	16		P8	圓丸方形	36 × 34	30	掘り方検出
P4	(楕丸形)	(96) × (47)	33		P9	(円形)	(63) × (60)	12	掘り方検出
P5	(円形)	33 × (21)	18						

【壁面】直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は 10 ~ 29cm を測る。

【床面】掘り方理上である 14 層上面を床面とし、緩やかな起伏がみられる。

【柱穴】床面から 3 基 (P1 ~ 3) 検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 90 ~ 103cm、深さ 67 ~ 72cm を測る。共に径 26 ~ 30cm の柱痕跡が確認された。P3 は P2 の西側に位置する。規模は長軸 28cm、深さ 16cm を測る。位置関係から補助柱穴の可能性が考えられる。

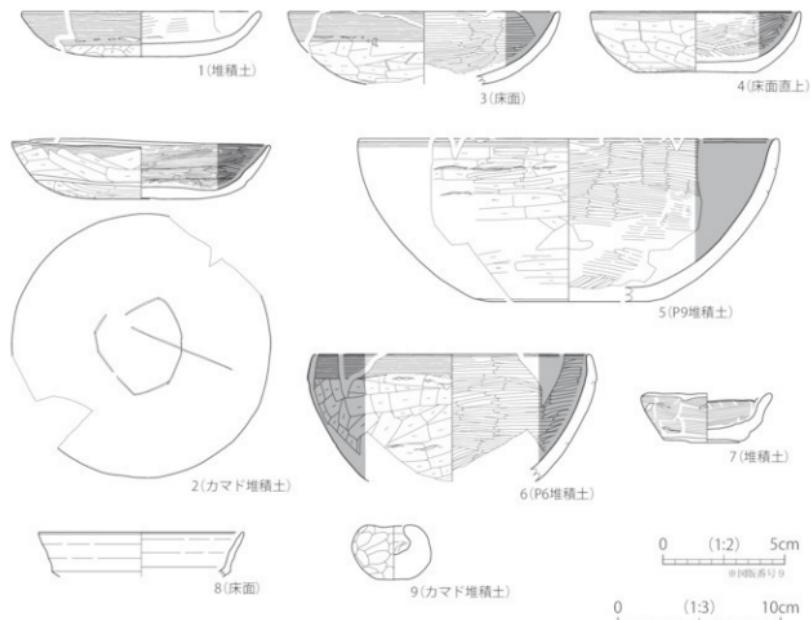
【溝溝】残存部分では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅 17 ~ 30cm、深さ 3 ~ 19cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は撹乱により西袖の大半は失われている。袖の規模は、東袖が長さ 88cm 以上、幅 32cm、西袖が長さ 75cm 以上、幅 10cm 以上を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に開いて付設されている。東西袖にはそれぞれ被熱痕跡がみられる。燃焼部の規模は奥行き 89cm、幅 75cm、奥壁高 24cm を測り、壁内に位置する。底面に長軸 59cm、短軸 38cm の焼面がみられる。底面は平坦だが、奥壁際で 5cm 程下がり、奥壁は外傾して立ち上がる。

【その他の施設】床面から土坑 4 基 (P4 ~ 7)、掘り方底面から土坑 2 基 (P8・9)、総数 6 基を検出した。P4 ~ 6 は P1 の周辺に位置し、長軸 33 ~ 76cm、深さ 16 ~ 33cm を測る。堆積土に炭化物や焼土ブロックを多量に含むことからカマドに関連する施設と考えられる。

【掘り方】深さ 3 ~ 23cm で、中央部が高く、壁際が低くなる。

【出土遺物】床面及び床面施設、カマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品・土製品が出土している。このうち、土師器壺 4 点、土師器鉢 2 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器壺 1 点、土製品 1 点の計 9 点を掲載した(第 233 図-1 ~ 9)。1・7 は堆積土、2・9 はカマド堆積土、3・8 は床面、4 は床面直上、5 は P9 堆積土、6 は P6 堆積土からの出土である。1 ~ 4 は土師器壺である。1・2 は平底風の丸底で、外面の口縁部と体部の境に稜ないし沈線状の段を持つ。口縁部は共に直線的に外傾し、2 は口縁端部に向かって器壁が薄くなる。2 は底部に「Q」字状の線刻がみられる。調整は、1 は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部から体部にかけヘラミガキ、底部ヘラナデ、2 は外面が口縁部ヨコナデ後ヘラケズリ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真番号
						口径	底径	高さ				
1	C-145	SI212	堆積土	土師器	环	(14.8)	—	(2.8)	口縁:3.2cm 体部:4.9cm 底部:1.9cm	口縁~体部:内凹 底部:内凹	—	39
2	C-146	SI212 カマフ	堆積土	土師器	环	16.0	—	3.7	口縁:3.2cm→内凹 体部:4.9cm 底部:1.9cm	口縁:内凹 底部:内凹	底面削り(?) 内面黒色処理	39
3	C-148	SI212	床面	土師器	环	(16.6)	—	(4.4)	口縁:3.2cm 体部:4.9cm 底部:1.9cm	口縁:内凹 底部:内凹	内面黒色処理	39
4	C-149	SI212	床面上	土師器	环	12.8	7.6	3.7	口縁:3.2cm 体部:4.9cm 底部:1.9cm	口縁:内凹 底部:内凹	内面黒色処理	39
5	C-151	SI212P9	堆積土	土師器	环	(26.0)	(9.4)	(10.0)	口縁:3.2cm 体部:4.9cm→内凹 底部:1.9cm	口縁:内凹 底部:内凹	内面摩滅 内面黒色処理	39
6	C-150	SI212P6	堆積土	土師器	环	(16.8)	—	7.8	口縁:3.2cm 体部:4.9cm 底部:1.9cm	口縁:内凹 底部:内凹	内面黒色処理	40
7	C-147	SI212	堆積土	土師器	二重环	8.1	4.9	3.2	外:口縁 内:底部	外:口縁 内:底部	—	40
8	E022	SI212	床面	土師器	环	(12.4)	—	(2.7)	内面調整	内面調整	—	40

回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真番号	
						全長	幅	厚さ				
9	P-001	SI212 カマフ	堆積土	土製品	手形土製品	3.2	2.2	0.6~1.2	14.7	完形、2重环	—	40

Fig. 233 SI212 Vertical Kiln Hole Excavated Objects

理が施される。3は体部から口縁部にかけて内湾する半球状の環である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。4は平底の底部で、体部から口縁部まで緩やかに内湾して立ち上がる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。5・6は土師器である。5は平底の底部で、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾して立ち上がる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキで、被熱による変色部分がみられる。内面の調整はヘラミガキ後、

黒色処理が施される。6は体部が内湾して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、黒色処理が施され、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。7は土師器のミニチュア土器である。口縁部から体部が直線的に外傾する。調整は、内外面共にユビナデである。8は須恵器環である。体部外面に段を持ち、口縁部は外傾する。調整は外面ロクロ調整である。胎土は砂粒を含みやや粗く、色調は灰色～暗灰色を呈する。9は不明土製品で、扁平な球形を呈する。径1.6cm、深さ1.2cmの凹みを持つ。

【時期】 床面及び床面直上、カマド堆積土から出土した土師器环（第233図-2～4）から、5bii期（奈良時代）と考えられる。

#### SI242 竪穴住居跡（第234図）

【位置・確認】 調査区北部の50グリッドに位置する。煙道部の先端のみ残存している。

【重複】 SI188、SB13より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸65cm、短軸36cmを測る。平面形状は不明である。

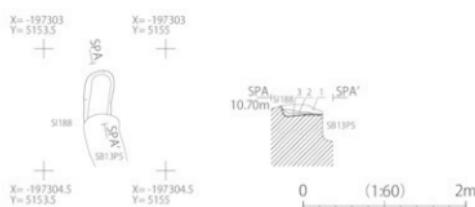
【方向】 カマド煙道を基準としてN-4°-Eである。

【堆積土】 3層に分層した。1～3層はカマド煙道部の堆積土である。

【カマド】 煙道部の先端のみ検出した。検出状況から、北壁に付設されていたと考えられる。検出した規模は長さ65cm、幅35～36cm、深さ4～14cmを測る。底面は先端に向かって下がり、先端の壁面は直立気味に外傾して立ち上がる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SB13より古いことから、5a期（郡山1期官衙期）以前と考えられる。



SI242 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1 LOYR4/4褐色	シルト	瓦礫土多く混入、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。	
	2 LOYR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土と少量含む。	
	3 LOYR4/6褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、上部に炭化物含む。	

第234図 SI242 竪穴住居跡

#### SI243 竪穴住居跡（第235図）

【位置・確認】 調査区東部の74・81グリッドに位置する。削平により掘り方の一部分のみ残存している。形状や堆積土の状況から住居跡と判断した。

【重複】 SI196、Pit135・136より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸412cm、短軸335cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西辺を基準としてN-28°-Wである。

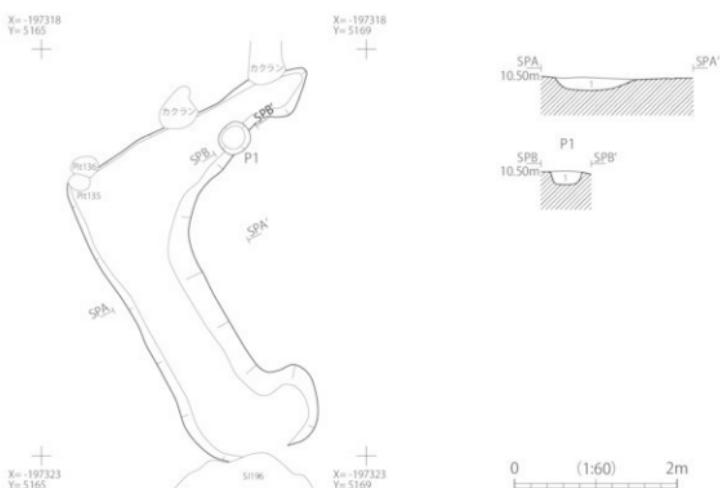
【堆積土】 黄褐色シルトの単層で、掘り方埋土である。

【その他の施設】 掘り方上面から土坑1基（P1）を検出した。北壁際に位置する。規模は長軸40cm、深さ17cmを測る。堆積土は暗褐色シルトを主体とし、焼土粒や炭化物粒を多量に含む。

【掘り方】 深さ15～16cmを測る。底面は概ね平坦で、壁際が低くなる。

【出土遺物】 掘り方などから土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、5a期（郡山1期官衙期）以降と考えられるSI196より古い。



SD43 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	I	10YR5/6 黄褐色	シルト	相模色土粒多量、相模色土ブロック(10～50mm) 少量青石

SD43 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	I	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV 烧土粒・炭化物粒・焼土粒多量含む。

SD43 施設断面表

施設名	平面形	断面 (cm)		備考
		長軸	短軸	
P1	(L形)	(40) × (37)	(17)	

第235図 SI243 積穴住居跡

#### SI248 積穴住居跡（第236・237図）

【位置・確認】 調査区南部の79・86グリッドに位置する。重複遺構により掘り方と煙道の一部が残存している。また、上面は削平を受けており、床面は残存していない。

【重複】 SI202・212, SD82より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸366cm、短軸195cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東辺を基準としてN-28°-Wである。

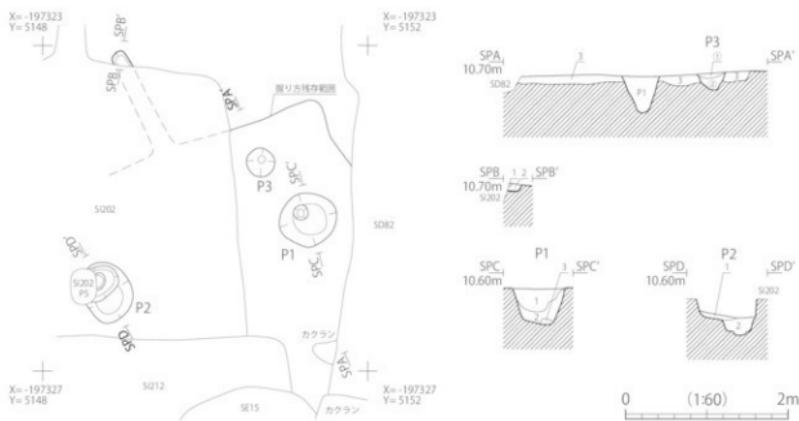
【堆積土】 3層に分層した。1・2層はカマド煙道部の堆積土、3層は掘り方埋土である。

**【柱穴】** 挖り方上面から2基(P1・2)、重複遺構底面から1基(P3)、総数3基を検出した。P1・2は規模や位置関係から主柱穴の可能性が考えられ、規模は長軸72~74cm、短軸60~65cm、深さ44cmを測る。

**【カマド】** 煙道部の先端のみ検出した。検出状況から北壁の中央付近に付設されたと考えられる。検出した規模は長さ24cm、幅18cm、深さ11cmを測る。底面から壁面にかけて被熱痕跡がみられた。

**【掘り方】** 深さ6~13cmを測る。底面は概ね平坦で、壁際が低くなる。

**【出土遺物】** 床面施設及びカマド、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・鉄製品が出土している。このうち、掘り方から出土した土師器杯1点を掲載した(第237図-1)。1は鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を持つ土師器杯で、口縁部は直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラナデである。胎土は砂粒を微量含みや粗く、色調は橙色を呈する。



SI248 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土粘多量含む。
	2	10YR3/4 馬糞色	シルト	粘土ブロック(5~15mm)・褐色土粘多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土粘多量、に少い褐色土粘少量含む。

SI248 掘設堆積土跡記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 馬糞色	シルト	古褐色土粘量、炭化物粘少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土粘多量、暗褐色土ブロック(5~30mm) 少量含む。
	3	10YR4/4 黄色	シルト	古褐色土粘多量含む。
P2	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5~30mm) 多量含む。
	2	10YR3/4 馬糞色	シルト	古褐色土粘多量、炭化物粘少量含む。
P3	①	10YR3/4 馬糞色	シルト	古褐色土粘多量、炭化物粘少量含む。
	②	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5~30mm) 多量、に少い褐色土粘少量含む。

SI248 掘設網痕表

遺構名	平面形	面積(cm)		備考
		長軸	短軸	
P1 (円形)	(72) × (65)	(44)	主柱穴	
P2 (楕円形)	74 × 600	(44)	主柱穴	

遺構名	平面形	面積(cm)		備考
		長軸	短軸	
P3 (円形)	(35) × (35)	(21)		

第236図 SI248 積穴住居跡

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI202より古く、掘り方から出土した土師器環(第237図-1)から、4a期(住社式期新段階)～5a期(郡山I期官衙期)と考えられる。



登記番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法面 (cm)	外面調整	内面調整	備考	写真回数	
					口径	底径	高さ				
1	C-152	SI248	掘り方	土師器	环	(11.0)	(2.2)	口縁: 32.7cm 底部: 53.2cm	平行	圓錐形 内外面磨滅	40

第237図 SI248 穴住居跡出土遺物

## SI249 穴住居跡（第238図）

【位置・確認】 調査区北東部の75グリッドに位置する。カマド煙道部の先端のみ残存している。

【重複】 重複する遺構はない。

【規模・形態】 平面形状は不明である。

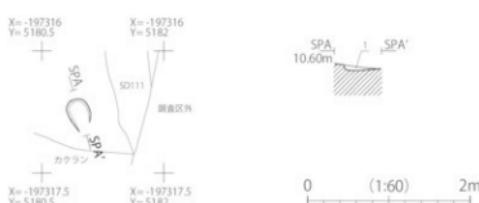
【方向】 カマド煙道部を基準としてN-25°-Wである。

【堆積土】 黄褐色シルトの単層で、カマド煙道堆積土である。上部に被熱部分がみられる。

【カマド】 検出した規模は、長さ33cm、幅26cm、深さ6cmを測る。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



## SI249 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	I	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土料少量含む。上部被熱。

第238図 SI249 穴住居跡

## SI251 穴住居跡（第239図）

【位置・確認】 調査区北東部の52・60グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により南壁際から南西コーナー付近のみ残存している。

【重複】 SI252A・252Bより新しく、SI191・192、Pit203より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸246cm、短軸56cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 南壁を基準としてN-10°-Eである。

【堆積土】4層に分層した。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は6~8cmを測る。

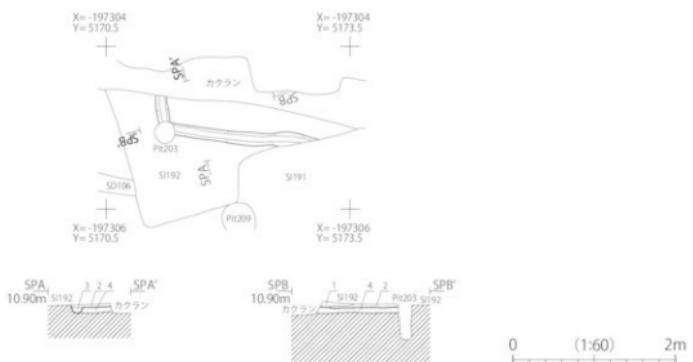
【床面】掘り方埋土である4層上面を床面とし、概ね平坦である。

【周溝】残存部分では、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅14~16cm、深さ5~11cmを測る。

【掘り方】深さ7~8cmで、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】床面施設及び堆積土、掘り方から土器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】時期決定できる遺物はないが、5bi期（郡山二期官衙期）以降と考えられるSI252Aより新しい。



SI251 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	LOYR4/3に近い黄褐色	シルト	古墳土ブロック(5~10mm)少量、下部に炭化物帶状に含む。
	2	LOYR4/2灰黃褐色	砂質シルト	古墳土粒少量、炭化物粒少量含む。
周溝	3	LOYR3/2黒褐色	シルト	古墳土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	4	LOYR4/2灰褐色	シルト	古墳土粒少量含む。

第239図 SI251 穫穴住居跡

#### SI252A 穫穴住居跡（第240・241図）

【位置・確認】調査区北東部の52・53・60・61グリッドに位置する。重複造構や擾乱により北半部が失われている。SI252Bの拡張後の住居跡と考えられる。

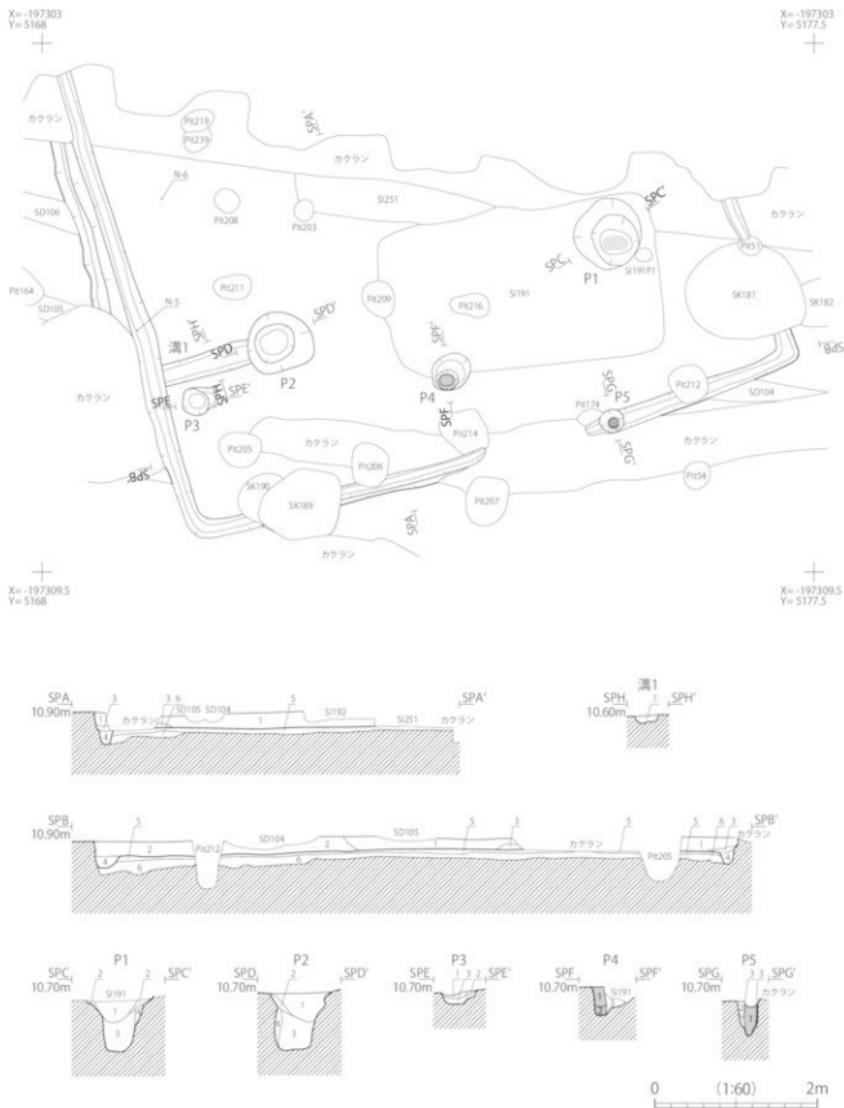
【重複】SI252B・253・255より新しく、SI191・192・251、SD104・105・106、SK181・189・190、Pit51・174・203・205・206・208・209・211・212・214・216・219・239より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸835cm、短軸616cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】西壁を基準としてN-16°Wである。

【堆積土】6層に分層した。1~3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土である。5・6層は掘り方埋土で、5層は灰色粘土質シルトを主体とする貼り床土である。

【壁面】直立気味に外傾して立ち上がる。壁高は1~21cmを測る。



第240図 SI252A 竪穴住居跡

S252A 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 黒褐色	シルト	灰白色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 黒褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
周溝	4	10YR3/3 黄褐色	シルト	灰褐色土粒多量含む。
	5	10YR8/1 灰褐色	粘土質シルト	灰褐色土粒多量含む。※貼り床土。
住居掘り方	6	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。

S252A 施設堆積土記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3に5 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 黑褐色	シルト	灰褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4に5 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。
P2	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	1	10YR4/3に5 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 黑褐色	シルト	灰褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。
P3	3	10YR5/4に5 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。
	1	10YR4/3に5 黄褐色	シルト	灰褐色土粒微量含む。
P4	2	7.5YR3/1 黑褐色	シルト	燒土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	燒土ブロック (5 ~ 40mm) 多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 黑褐色	シルト	燒土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
P5	2	10YR4/2 黑褐色	シルト	燒土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/3に5 黄褐色	シルト	燒土土粒多量含む。※柱痕跡
	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	燒土土粒多量含む。
溝 1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	燒土土粒多量、炭化物粒少量含む。

S252A 施設観察表

施設名	平面形	断面 (cm)		備考	施設名	平面形	断面 (cm)		備考
		長軸	短軸				長軸	短軸	
P1 (円形)	(83) × (82)	660	半柱穴	底面黒色	P4 (椭円形)	660 × 44	36		
P2 (円形)	81 × 73	68	半柱穴		P5 円形	30 × 28	46	壁柱穴	
P3 (楕円形)	44 × 34	17			溝 1	—	120 × 26 ~ 32	19 ~ 26	間仕切り溝

【床面】 貼り床土である5層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から4基(P2~5)、重複造構底面から1基(P1)、総数5基を検出した。P1・2は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸81~83cm、深さ60~68cmを測る。P1の底面には変色範囲が認められた。P5は南壁の周溝上に位置し、平面形状は円形を呈する。規模は長軸30cm、深さ46cmを測り、径15cmの柱痕跡が認められた。壁柱穴の可能性が考えられる。

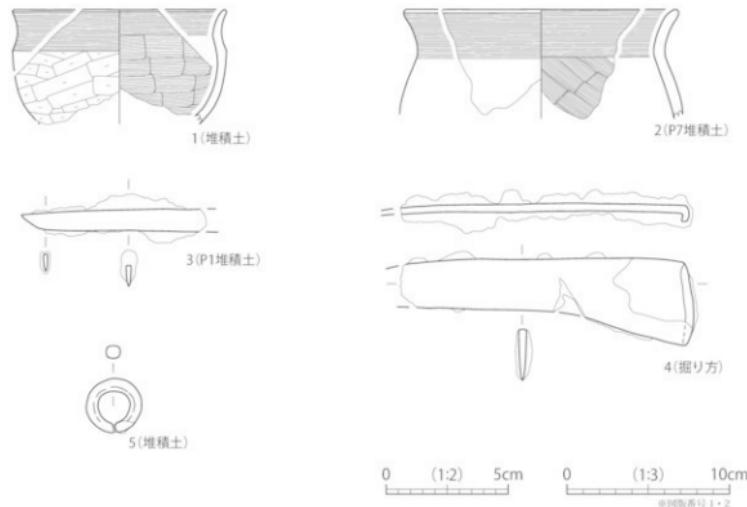
【周溝】 残存部分では、壁面に沿って周る。断面形状は「U」字状を呈する。規模は幅14~28cm、深さ11~26cmを測る。西側の周溝堆積土から金属製の耳環が出土している。

【その他の施設】 床面から溝1条(溝1)を検出した。溝1は西壁と直交し、P2まで延びている。断面形状は「U」字状を呈する。規模は、長さ120cm、幅26~32cm、深さ19~26cmを測る。位置関係から間仕切り溝と考えられる。

【掘り方】 深さ3~23cmを測る。中央部は平坦で、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器・金属製品・打製石器が出土している。このうち、土師器鉢1点、土師器壺1点、金属製品3点の計5点を掲載した(第241図-1~5)。1・5は堆積土、2はP7堆積土、3はP1堆積土、4は掘り方からの出土である。1は土師器鉢である。外面の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は外反する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。外面には二次被熱による変色部分がみられる。2は土師器壺で、口縁部が外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面摩滅により不明、内面ヘラナデである。3は刀子で、刀身部の先端はカマス切先である。4は鉄鎌である。左刃の曲刃鎌で、基部の折返しの角度は90°である。5は金銅製の耳環である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI255より新しいことから、5bi期(郡山Ⅱ期官衙期)以降と考えられる。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1	C-153	SI252A	堆積土	土師器	鉢	(13.0)	—	(7.0)	口縁: 3.2cm 底部: 1.9cm	口縁: 3.2cm 底部: 1.9cm	二次被熱板による変色	40
2	C-154	SI252A P7	堆積土	土師器	甌	(16.6)	—	(6.7)	口縁: 3.2cm 底部: 不明	口縁: 3.2cm 底部: 不明	外部摩滅	40

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ			
3	N-003	SI252AP1	堆積土	金銀製品	刀子	(7.0)	0.8 ~ 0.9	0.2	(10.2)	刀部	40
4	N-004	SI252A	掘り方	金銀製品	鍔	(12.0)	1.9 ~ 3.4	0.3	(56.0)	切先欠損、基部折り返し	40
5	N-005	SI252A	堆積土	金銀製品	耳環 (金網製)	2.3	2.3	0.5	(4.79)	一部破損	40

第241図 SI252A 穫穴住居跡出土遺物

## SI252B 穫穴住居跡（第242・243図）

【位置・確認】 調査区北東部の52・60グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により北半部が失われている。SI252Aへの拡張前の住居跡と考えられる。

【重複】 SI191・192・251・252A、SD104・105・106、Pit203・205・208・209・211・216・219・239より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 548cm、短軸 492cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

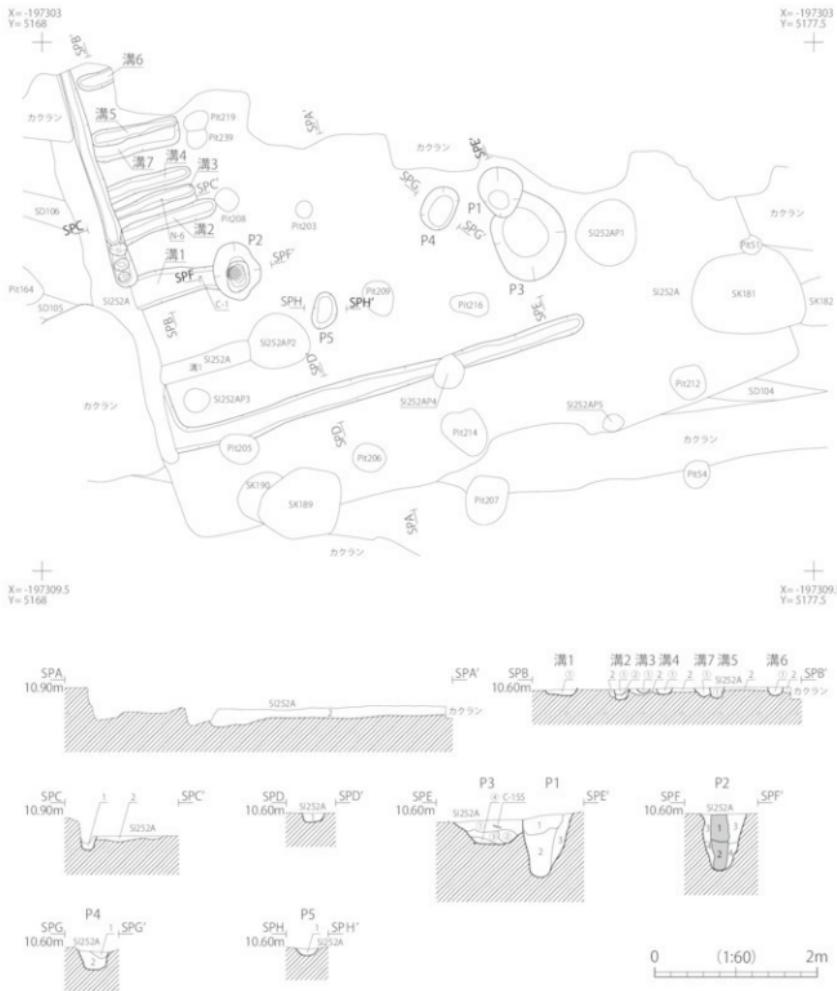
【方向】 西壁を基準として N - 16° - W である。

【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積である。2層は掘り方埋土である。

【壁面】 SI252Aにより削平されるが、西壁はSI252Aと共有する。

【床面】 掘り方埋土である2層上面を床面とする。SI252Aの影響により削平され、部分的に緩やかな起伏がみられる。

【柱穴】 床面から2基(P1・2)検出した。共に規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 62 ~ 72cm、深さ 70 ~ 79cm を測る。P2では径 20cm 程度の柱痕跡と底面の変色範囲が認められた。



SI252B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積	I	10YR5/3 頓褐色	シルト	堆積土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物少含む。
住居解り方	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	堆積土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物利微量含む。

第 242 図 SI252B 竪穴住居跡

SI252B 施設堆積土註記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3に似る・黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 60mm) 少量、炭化物・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黄褐色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
P2	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。・柱痕跡
	2	10YR3/4 褐褐色	シルト	灰褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。・柱痕跡
	3	10YR5/4 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。
P3	①	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 100mm) 多量、焼土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR9/7 灰白色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、暗灰色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
	③	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
P4	④	10YR4/3に似る・黄褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。
	⑤	10YR4/3に似る・黄褐色	シルト	に似る・黄褐色土粒少量含む。
P5	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量、炭化物粒微量含む。
溝1	①	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
溝2	①	10YR3/3 褐褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒微量含む。
溝3	②	10YR5/4に似る・黄褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、暗灰色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒微量含む。
溝4	①	10YR3/3 褐褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、灰白色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒微量含む。
溝5	①	10YR5/6 黄褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒微量含む。
溝6	①	10YR3/3 褐褐色	シルト	西村土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、灰白色土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒微量含む。
溝7	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。

SI252B 施設断面表

施設名	平面形	断面 (cm)		備考
		上輪(右輪)	深さ	
P1	(柳円形)	(62) × (55)	(79)	上柱穴
P2	(柳円形)	(72) × (57)	(70)	上柱穴、底面変色
P3	(柳円形)	(108) × (86)	(29)	
P4	(柳円形)	(56) × (44)	(27)	
P5	(柳円形)	(47) × (30)	(10)	
溝1	—	(105) × (26 ~ 40)	(7 ~ 11)	間仕切り溝



回数 施設 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口幅	底径	厚さ				
1	C-155	SI252B P1・3	堆積土	土質器	壺	(24.6)	—	(4.6)	口幅: 30.4 → 32.9cm 脚部: 5.0cm	口幅: 32.9cm 脚部: 5.0cm	—	40
2	P-002	SI252B 溝1	堆積土	土質器	壺玉	2.2	0.7	0.7	1.4	完形、孔径 0.2 ~ 0.4cm	—	40
3	N-006	SI252B	掘り方	金属製品	耳環 (鋳物)	2.2	2.2	0.4	6.1	完形	—	40

第243図 SI252B 積穴住居跡出土遺物

【周溝】西辺と南辺で残存している。西辺はSI252Aと同位置で重複し、壁面に沿って周る。一部底面が10cmほど下がり、起伏がみられる。断面形状は共に「U」字状を呈し、規模は幅13~32cm、深さ2~24cmを測る。

【その他の施設】床面から土坑3基(P3~5)、溝7条(溝1~7)を検出した。P3の規模は長軸108cm以上、短軸89cm以上、深さ29cm以上を測る。溝1~7はいずれも西壁面と直交し、搅乱により一部失われている溝6を除き、長さは102~120cm、幅12~23cm、深さ4~15cmを測る。位置関係から溝1は間仕切り溝、溝2~7は根太痕跡と考えられる。

【掘り方】 深さ9~25cmを測る。底面は平坦で、壁際が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・金属製品・土製品が出土している。このうち、土師器1点、金属製品1点、土製品1点の計3点を掲載した(第243図-1~3)。1はP1・3堆積土、2は溝1堆積土、3は掘り方からの出土である。1は土師器瓶である。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胸部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデである。2は土製勾玉で、半環状を呈する。孔径は0.2~0.4cmを測る。調整はヘラミガキである。3は銅製の耳環である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、5bi期(郡山II期官衙期)以降と考えられるSI252Aより古い。

#### SI253 穫穴住居跡(第244図)

【位置・確認】 調査区北東部の61グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により掘り方の一部が残存している。

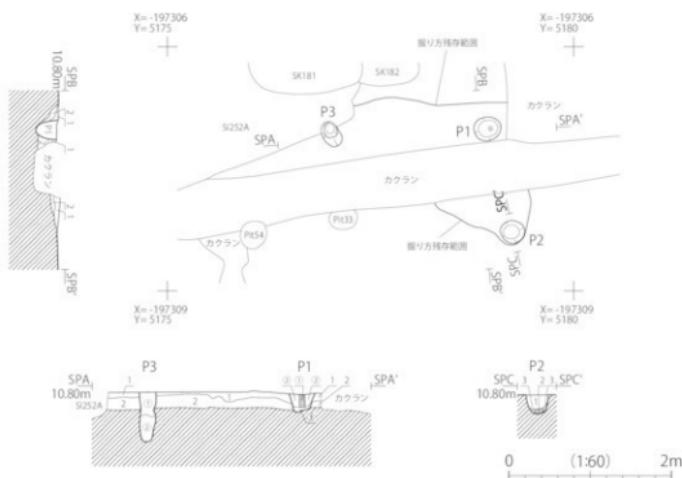
【重複】 SI252A、SD104より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸387cm、短軸185cmを測る。平面形状は不明である。

【方向】 不明である。

【堆積土】 2層に分層した。1・2層は掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方上面から3基(P1~3)検出した。P1・2は検出範囲の東側に位置する。規模は長軸28~



SI253 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	参考
住居掘り方	1	10YR3/3 順褐色	シルト	Rv土砂少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	順褐色土ブロック(5~30mm)少量含む。

第244図 SI253 穫穴住居跡

SI253 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/2 反黄褐色	シルト	灰白色土色少量。炭化物類少量含む。※柱痕跡
	②	10YR3/3 姫褐色	シルト	柱痕土色少量含む。
	③	10YR3/4 姫褐色	シルト	柱痕土ブロック(5 ~ 20mm) 多量含む。
P2	1	10YR4/4 に反・黄褐色	シルト	柱痕土ブロック(5 ~ 20mm) 少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 反黄褐色	シルト	柱痕土少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 に反・黄褐色	シルト	柱痕土ブロック(5 ~ 20mm) 多量含む。
P3	①	10YR4/3 に反・黄褐色	シルト	柱痕土ブロック(5 ~ 50mm) 多量含む。
	②	10YR5/6 黄褐色	シルト	柱褐色土ブロック(5 ~ 10mm) 少量含む。

SI253 施設觀察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1 (楕円形)	(34) × (30)	(22)		
P2 (円形)	(28) × (28)	(23)		

34cm、深さ 22 ~ 23cm を測り、共に柱痕跡がみられた。P3 は平面形状は、椭円形を呈し、規模は長軸 33cm、短軸 21cm、深さ 62cm を測る。

【掘り方】 深さ 4 ~ 22cm で、底面には緩やかな起伏がみられ、北側に向かって低くなる。

【出土遺物】 掘り方などから土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、5bi 期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられる SI252A より古い。

SI254 穴穴住居跡（第 245 図）

【位置・確認】 調査区北東部の 60・61・67・68 グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により大半が失われ、掘り方の一部が残存している。

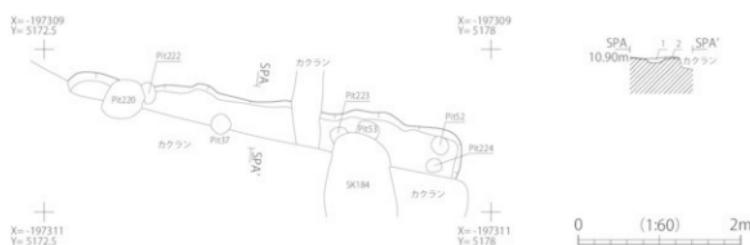
【重複】 SI255 より新しく、SK184、Pit37・52・53・220・222 ~ 224 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 493cm、短軸 53cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 北辺を基準として N - 10° - E である。

【堆積土】 2 層に分層した。1・2 層は住居掘り方埋土である。

【掘り方】 深さ 2 ~ 5cm で、底面は平坦だが、壁際が一段低くなる。



SI254 埋積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	柱痕土ブロック(5 ~ 20mm) 少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	柱褐色土少量含む。

第 245 図 SI254 穴穴住居跡

【出土遺物】 挖り方から土師器が出土している、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI255より新しいことから、5bi期（郡山II期官衙跡）以降と考えられる。

#### SI255 穫穴住居跡（第246・247図）

【位置・確認】 調査区北東部の60グリッドに位置する。重複遺構や搅乱により大半が失われ、南西コーナー付近のみが残存している。

【重複】 SI252A・254、Pit207より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸148cm、短軸135cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-45°-Wである。

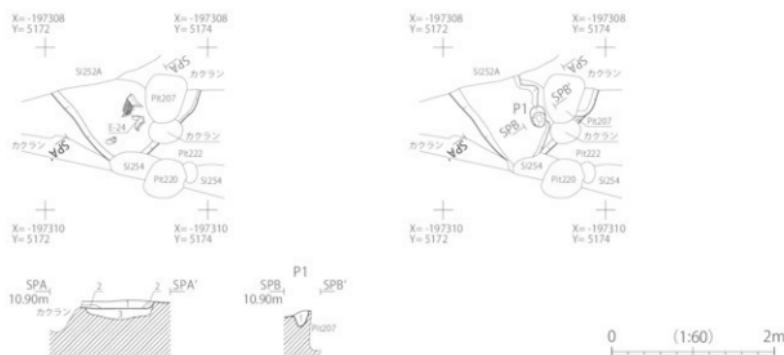
【堆積土】 3層に分層した。1・2層は住居堆積土、3層は掘り方埋土である。

【壁面】 内湾気味に外傾して立ち上がる。壁高は4~10cmを測る。

【床面】 挖り方埋土である3層上面を床面とし、概ね平坦である。

【その他の施設】 挖り方底面から上坑1基（P1）を検出した。底面には柱による窟みがみられるため、柱穴の可能性が考えられる。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸25cm、短軸18cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ8~13cmを測る。底面は概ね平坦であるが、西壁際は一段低くなる。



SI255 堆積土跡記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	古削土少量、炭化物少量含む。
	2	10YR4/3 に5-黃褐色	シルト	古削土ブロック(5~30mm) 多量含む。
住居掘り方	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック(5~50mm) 多量含む。

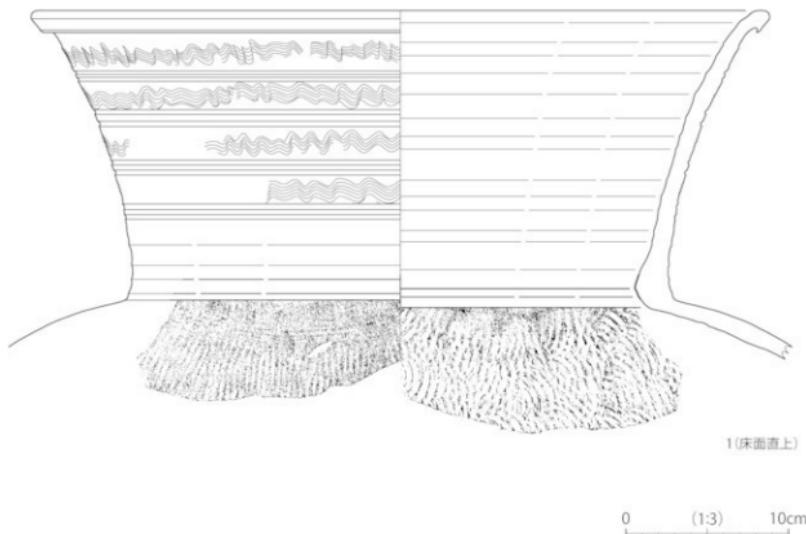
SI255 施設堆積土跡記表

施設名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5~10mm) 多量含む。

SI255 施設縦断表

施設名	平面形	断面(m)		備考
		右幅×左幅	深さ	
P1	楕円形	25×18	18	掘り方横浜

第246図 SI255 穫穴住居跡



調査 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
						口徑	底径	高さ				
1	E-024	SE255	床面上	須恵器	甕	(45.0)	—	(21.5)	口縁調整 口縁：平行弦線・波状文 脚上端：平行弦線	脚上端：当て具痕		80

第247図 SI255 穫穴住居跡出土遺物

【出土遺物】床面上及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。このうち、床面上から出土した須恵器甕1点を掲載した（第247図-1）。口縁部が外反気味に外傾する。口縁端部に平坦面を持ち、下端が垂下する。口縁部の文様は5条1組の波状文と2条1組の平行弦線が各4段施される。胴部外面に平行タタキ目、胴部内面に当て具痕による青海波文がみられる。胎土は砂粒を微量含み密で、色調は灰白～灰黄色を呈する。

【時期】床面上から出土した須恵器甕（第247図-1）から、5bi期（郡山二期官衙期）と考えられる。

## (2) 掘立柱建物跡（第144・145・248～250図）

掘立柱建物跡2棟（SB13・14）を検出した。SB13は調査区の中央部北側、SB14は北西部に位置しており、SB13が検出された中央部北側から東部にかけてはピットや土坑の集中する一帯であり、柱痕がみられるピットも多いことから、複数の掘立柱建物や柵列などの遺構が存在していた可能性は高いと考えられる。主軸方向や柱の位置など構造的に違いがみられ、互いの建物の性格は異なるものと考えられる。遺物は、いずれも土師器・須恵器が出土しているが、明確な時期を示すものは認められなかった。重複関係から郡山一期官衙期に帰属するものと考えられる。

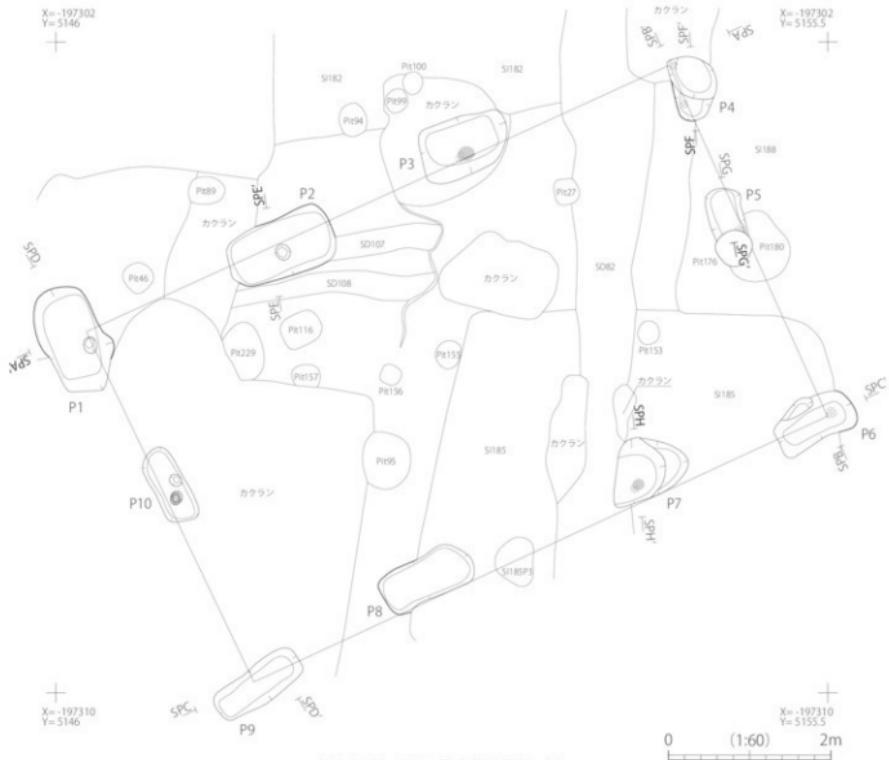
## SB13 挖立柱建物跡（第248・249図）

調査区北部の50・58・59グリッドに位置し、10基の柱穴を検出した。SI186A・186B・242、Pit162・180・230より新しく、SI185・188、SD82・107、Pit151・158・176より古い。SI182と位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

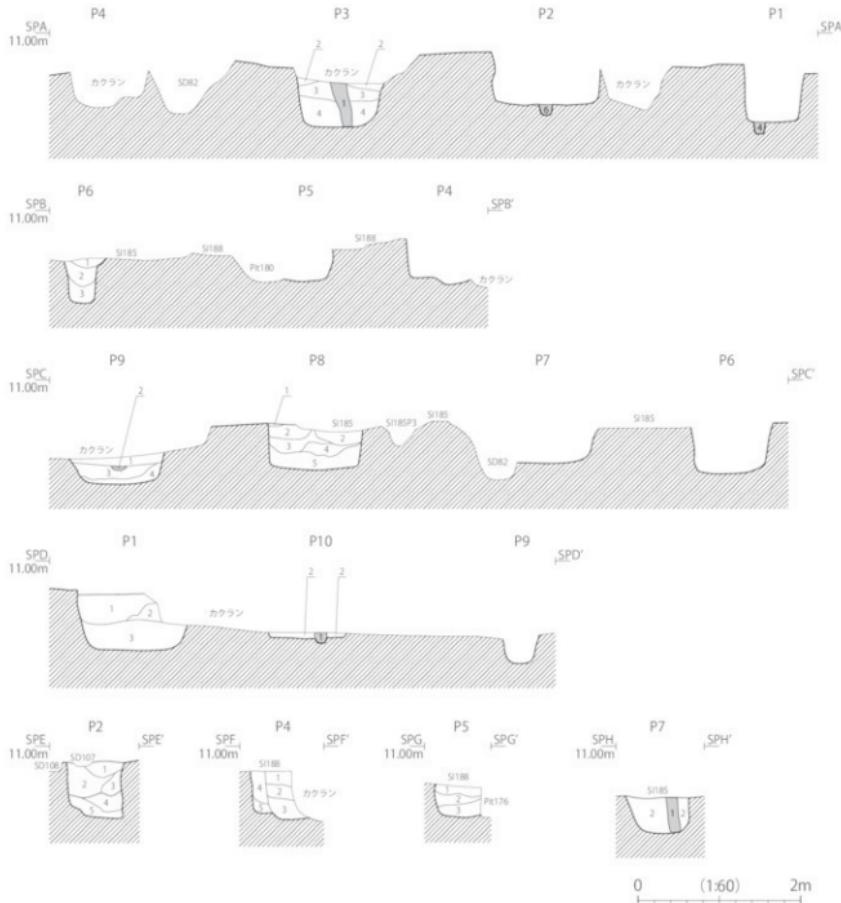
南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方向はN-65°-Eである。規模は桁行総長787cm、梁行総長472cm、床面積約37m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、北側柱列が東から271cm、256cm、260cm、東側柱列が北から220cm、252cmを測る。柱穴の平面形状は楕丸長方形ないし梢円形を基調とし、規模は長軸66～136cm、短軸43～92cm、深さ17～85cmを測る。P8を除き、いずれの柱穴からも柱痕跡ないし底面の変色範囲が確認され、柱痕跡の規模は径14～20cm、底面の変色範囲は径9～15cmを測る。またP4・10の底面には変色範囲や窪みが複数確認された。このことから建て替えが行われたものと考えられる。

遺物は各柱穴から土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI186Aより新しく、SI185より古いことから、5a期（郡山1期宮衙期）と考えられる。



第248図 SB13 挖立柱建物跡（1）



SB13 捩立柱建物跡 網査表

通査名 ヤリット	平面形	横幅 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
		長軸	短軸					
P1 50-58 (隅丸長方形)	(135) × 92	85	1	10YR3/3 浅褐色	シルト	N 剥離ブロック 5～10mm 多量、炭化物や微量含む。		
			2	10YR4/4 浅褐色	シルト	N 剥離ブロック 5～10mm 少量、にぶい調節色土ブロック (10mm 程度) 1 個、焼土や微量含む。		
			3	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐色色土ブロック 5～70mm 少量含む。		
			4	10YR3/3 浅褐色	シルト	N 剥離土多量、炭化物や微量含む。串付痕跡。		
P2 50-58 (隅丸長方形)	(136) × 76	85	1	10YR3/4 浅褐色	シルト	N 剥離ブロック (10mm 程度) 少量含む。		
			2	10YR4/4 浅褐色	シルト	N 剥離ブロック (20～30mm) 多量含む。		
			3	10YR3/3 浅褐色	シルト	N 剥離ブロック 5～10mm 少量含む。		
			4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	N 剥離土多量含む。		
			5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	N 剥離土多量含む。		
			6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	N 剥離ブロック (5～10mm) 少量含む。串付痕跡。	SD107 より古い。	

第249図 SB13 捩立柱建物跡 (2)

遺構名	計画名	平面形	規模 (m)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
P3	50 (隅丸長方形)	(110) × (77)	75	1	IOYR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡		
				2	IOYR3/4 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		SI182 と位置的に重複するが、新旧関係不明。
				3	IOYR3/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 100mm) 少量、炭化物粒微量含む。		
				4	IOYR3/8 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。		
P4	50 (楕円形)	(78) × (63)	60	1	IOYR4/3 にぶい黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。		
				2	IOYR3/5 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量、炭化物粒微量含む。		SI188 より古い。
				3	IOYR3/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土層に含む。		
				4	IOYR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色土帶に含む。		
				5	IOYR3/6 黄褐色	シルト	黒褐色土層微量含む。		
P5	50 (隅丸長方形)	660 × (45)	43	1	IOYR4/4 黒褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	SI188, Pt176 より古く、SI42, Pt180 より新しい。	
				2	IOYR3/5 黄褐色	シルト	昭和土層ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		
				3	IOYR4/6 黒褐色	シルト	昭和土層ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。		
P6	58・59 (隅丸長方形)	(103) × (60)	62	1	IOYR4/2 灰黃褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	SI185, Pt151 より古く、Pt230 より新しい。	
				2	IOYR3/2 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				3	IOYR3/6 黄褐色	シルト	灰黃褐色土ブロック (5 ~ 40mm) 少量含む。		
P7	58 (楕円形)	(96) × (82)	44	1	IOYR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量 (TC)。※柱痕跡	SI185, SD82 より古く。	
				2	IOYR3/6 黄褐色	シルト	灰黃褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。		
P8	58 (隅丸長方形)	(120) × (63)	57	1	IOYR3/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。		
				2	IOYR4/3 にぶい黄褐色	シルト	昭和土層ブロック (5 ~ 40mm) 少量、炭化物粒微量含む。	SI185, Pt158 より古く、SI186・B, Pt162 より新しい。	
				3	IOYR4/4 黑褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物粒微量含む。		
				4	IOYR3/4 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 60mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				5	IOYR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
P9	58 (隅丸長方形)	(118) × (49)	39	1	IOYR3/4 黑褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 100mm) 少量、炭化物粒微量含む。		
				2	IOYR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量、炭化物粒微量含む。		
				3	IOYR3/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白土層ブロック (5 ~ 30mm) 多量、褐灰色土層少量、炭化物粒微量含む。		
				4	IOYR3/4 にぶい黄褐色	シルト	N層土層・炭化物粒微量含む。		
P10	58 (隅丸長方形)	(99) × (43)	17	1	IOYR3/3 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量、炭化物粒微量含む。		
				2	IOYR3/3 にぶい黄褐色	シルト	細粒土層ブロック (5 ~ 40mm) 多量、炭化物粒微量含む。		

### SB14 据立柱建物跡 (第 250 図)

調査区北西部の 49 グリッドに位置する。9 基の柱穴を検出した。北辺側の柱穴はいずれも擾乱により南半部が失われている。SI181 より新しい。

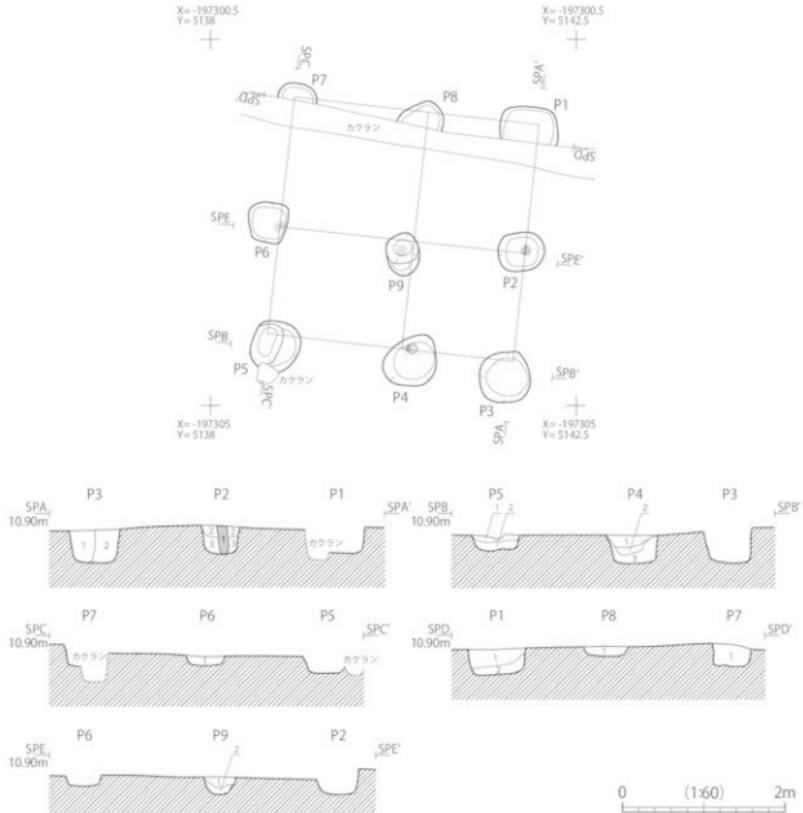
南北 2 間、東西 2 間の総柱建物跡である。東側桁行を基準とした主軸方向は N - 7° - E である。規模は桁行総長 303cm、梁行総長 292cm、床面積約 9m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、北側柱列が東から 137cm、166cm、東側柱列が北から 155cm、137cm を測る。柱穴の平面形状は隅丸方形ないし楕円形を基調とし、規模は長軸 49 ~ 73cm、短軸 22 ~ 63cm、深さ 12 ~ 43cm を測る。P2 で径 13cm の柱痕跡が確認され、P4・6・9 の底面には径 9 ~ 14cm の変色範囲がみられた。

遺物は土器器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、4a 期（住社式期新段階）以前と考えられる SI181 より新しい。

### (3) 区画施設 (第 251 ~ 254 図)

溝跡 1 条 (SD82) と材木列跡 1 条 (SA3) を検出した。SD82 は調査区の中央部をほぼ南北方向に縱走する溝跡で、西台烟道跡第 9 次調査区で検出された溝跡の北側延長部分に相当する。郡山遺跡第 243 次調査区で検出された SD11 から折り返して続く一連の区画遺構の可能性も考えられるが、擾乱により詳細は不明である。時期は、重複関係から、郡山 I 期官衙期から中世までの時期が考えられる。調査区北西部に位置する材木列跡 SA3 は、出土遺物や重複関係がないため、詳細な時期は不明である。



SB14 捜立柱建物跡 紹表

通路名 (アリ)	平面形	幅標 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考		重複
							シルト	シルト	
P1 49	(楕丸方形)	73 × (47)	33	1. 10YR4/4 黄褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、炭化物と微量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
				2. 10YR6/6 明るい褐色	シルト	2. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量、炭化物と微量含む。			
P2 49	楕円形	58 × 47	36	1. 10YR3/4 明るい褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
				2. 10YR3/2 底面褐色	シルト	2. 鮎卵土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。			
P3 49	楕丸方形	62 × 62	43	1. 10YR4/4 明るい褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
				2. 10YR4/4 黄褐色	シルト	2. 鮎卵土ブロック (10 ~ 50mm) 多量含む。			
P4 49	楕円形	70 × 63	39	1. 10YR3/3 暗褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
				2. 10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	2. 鮎卵土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。			
				3. 10YR5/6 黄褐色	シルト	3. 鮎卵土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。			
P5 49	(円形)	(63) × 58	20	1. 10YR4/2 底面褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
				2. 10YR4/3 C に少し黄褐色	シルト	2. 鮎卵土ブロック (5 ~ 30mm) 多量、炭化物微量含む。			
P6 49	楕丸方形	50 × 50	12	1. 10YR3/3 暗褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
P7 49	(円形)	(49) × (22)	29	1. 10YR4/4 黄褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 70mm) 多量、炭化物と微量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
P8 49	(楕円形)	(53) × (36)	12	1. 10YR3/4 暗褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	
P9 49	楕円形	53 × 41	23	1. 10YR4/4 暗褐色	シルト	1. 鮎卵土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI181より新しい。	SI181より新しい。	

第250図 SB14 捜立柱建物跡



第251図 区画施設・溝跡配置図



## SD82溝跡(第251~253図)

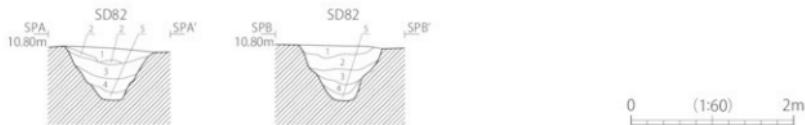
調査区中央部の50・58・65・72・79・86・93グリッドに位置する。第9次調査区で検出されたSD82の北側延長部分に相当する。調査区北側の擾乱を挟んで、本調査地の北側に隣接する郡山遺跡第243次調査区内では延長部分に相当する溝跡が検出されていないため、その擾乱内で終息するか、あるいは方向を変え、郡山遺跡第243次調査区内のSD11と一連の区画施設の可能性も考えられる。SI182・184~186A・186B・210・248、SB13、Pit118・153より新しく、SE13・14、SK179、Pit27より古い。

検出した規模は長さ33.6mで、西台畠遺跡第9次調査で検出された長さを含めると80m程度である。上端幅71~141cm、下端幅19~36cm、深さ39~87cmを測る。方向はN-1°-Eで、南北方向に直線的に延びる。断面形状は概ね「V」字形を呈し、底面との境は明瞭である。壁面の立ち上がりは、底部から中部にかけて直線的で、中部から上部では内湾気味となる。底面はほぼ平坦である。

堆積土は5層に分層した。1~4層は暗褐色ないしぶい黄褐色シルトを主体とし、5層は黄褐色ないし明黄褐色シルトを主体とする。

遺物は土師器・須恵器・土製品・馬歯が出土している。このうち、土師器鉢1点、土師器甕1点、須恵器環1点、須恵器蓋1点、土製品1点の計5点を掲載した(第253図-1~5)。1は土師器鉢である。丸底風の平底で、外側の口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、外側が口縁部ヨコナデ後一部ヘラケズリ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は土師器の甕である。外側の口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部は外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外側ハケメ、内面ヘラナデである。3は須恵器環である。外側の口縁部と体部の境に沈線状の段を持ち、口縁部は直立気味に外傾する。胎土に砂粒を少量含み、焼成はやや甘く、色調は紫灰色を呈する。4は須恵器蓋である。天井部は扁平で、ボタン状のつまみを持つ。口縁端部は下方に折り曲げられ、断面形状は三角形を呈する。天井部外側には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。胎土に砂粒を含み、焼成は良好で、焼き締まる。色調は灰色を呈する。5は不明土製品である。形状は湾曲した棒状を呈し、調整は、ユビナデが施される。

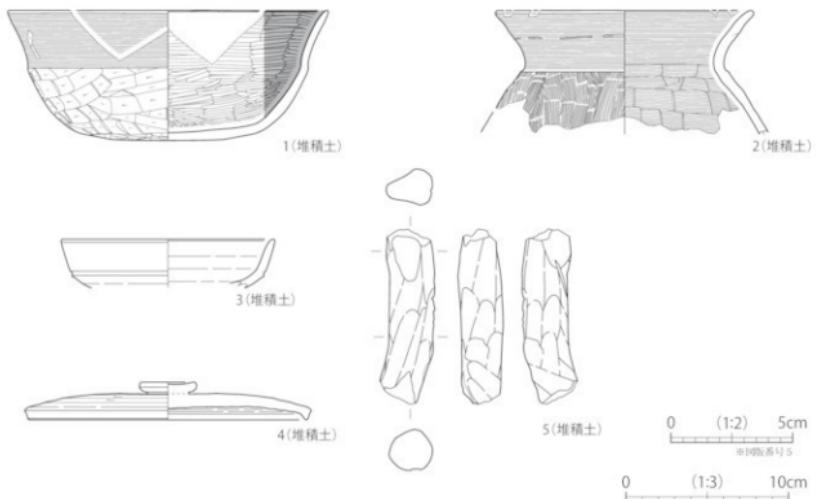
時期決定できる遺物はないが、SI185より新しく、井戸跡より古いことから、5a期(郡山1期官衙期)~7期(中世)と考えられる。



溝跡観察表

遺構名	年代	方向	規模(m)			層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅					
SD82 A-A'	50・58・ 65・72・ 79・86・ 93	N-1°-E	(3.360)	71~ 141	19~ 36	39~ 87	1 10YR3/3暗褐色	シルト	瓦刷土ブロック(10mm~20mm)・燒土粒微量含む。	SE13・14、SK179、Pit27より古く、SI182・184・185・ 186A・186B・210・248、 SB13・Pit118・153より新しく。
							2 10YR6/3明黄褐色	シルト		
							3 10YR4/3暗褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~20mm)塊状に含む。	
							4 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	瓦刷土ブロック(10mm程度)多量含む。	
							5 10YR6/3明黄褐色	シルト	にぶい黃褐色土斑状に含む。	
SD82 B-B'							1 10YR3/3暗褐色	シルト	瓦刷土粒・燒土粒微量含む。	
							2 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	瓦刷土粒微量含む。	
							3 10YR3/3暗褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~20mm)少量含む。	
							4 10YR3/3暗褐色	シルト	にぶい黃褐色土斑状に含む。	
							5 10YR6/3明黄褐色	シルト	短時間土斑状に含む。	

第252図 SD82溝跡(区画施設)



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1 C-163	SD82	堆積土	土師器	鉢	(19.6)	—	(8.0)	—	口縁：3.2cm　一部アラカリ 体部：4.9cm　9.9	口縁：3.2cm 9.9	内部黑色處理	40
2 C-164	SD82	堆積土	土師器	甕	(15.6)	—	(7.6)	—	口縁：3.2cm 軸部：1.0cm	口縁：3.2cm 軸部：1.0cm	—	40
3 E-031	SD82	堆積土	須恵器	环	(13.0)	—	(3.0)	—	口縁調整 天井部：回転アラカリ	口縁調整 天井部：回転アラカリ	内部や修理箇所 内部自然断付後 表面骨片少量含む	40
4 E-030	SD82	堆積土	須恵器	蓋	(17.0)	—	2.3	—	口縁調整 天井部：回転アラカリ	口縁調整 天井部：回転アラカリ	表面骨片少量含む	40
回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真 回数	
5 P-007	SD82	堆積土	土器	不明土器品	不明土器品	全長 (7.2)	幅 1.8	厚さ 1.7	(25.7)	—	—	40

第253図 SD82溝跡（区画施設）出土遺物

## SA3材木列跡（第251・254図）

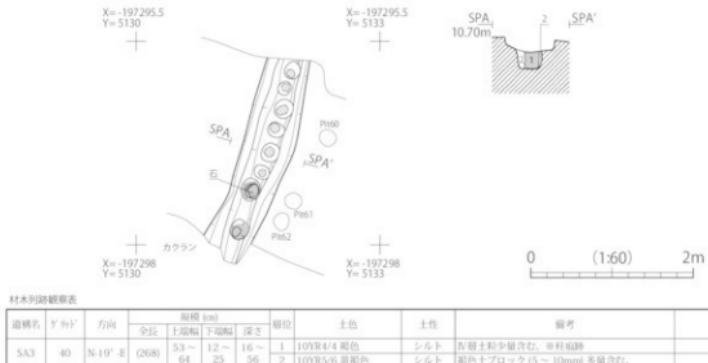
調査区北西部の40グリッドに位置する。北側及び南側は擾乱により失われている。重複する遺構はない。検出した平面形状が溝状を呈していたこともあり、当初は溝跡として調査を進めていたが、柱痕跡が認められたため、材木列跡であることを確認した。

検出した規模は、長さ2.68m、上幅53~64cm、下幅12~25cm、深さ16~56cmを測る。方向はN-19°-Eで、南北方向に直線的に延びる。柱穴はその中軸線上に8基確認された。柱穴の規模は、長軸17~28cmを測る。平面形状は円形ないし梢円形を呈し、いずれも柱痕跡や底面の変色範囲がみられ、それらのうち根石を据えているものが1基確認された。柱穴の底部に深度の差がみられることから、材木の規模などにより掘削深度を変えて埋設した可能性が考えられる。

堆積土はいずれの柱穴も2層に分層される。柱痕跡が褐色シルト、柱穴の掘り方は黄褐色シルトである。

遺物は土師器が出土しているが、國化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



第254図 SA3材木列跡(区画施設)

#### (4) 溝跡(第251・255・256図)

溝跡1条(SD110)を検出した。時期決定できる遺物はないが、重複関係から4a期(古墳時代後期)と考えられる。

##### SD110(第251・255・256図)

調査区北西部の41・49グリッドに位置する。擾乱により北端が一部失われている。SI179より新しく、SI180より古い。

検出した規模は、長さ6.95m、上端幅95~120cm、下端幅67~92cm、深さ8~33cmを測る。方向はN-45°-Eで、南北方向に直線的に延びる。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦であるが、起伏もみられる。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、1・2層では100mm以上の自然礫を含むことから、人為堆積土と考えられる。

遺物は土師器が出土している。このうち、土師器壺1点を掲載した(第256図-1)。扁平な半球状を呈し、体部から口縁部まで緩やかに内湾して立ち上がる。調整は、外縁が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内縁はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、SI179・180との重複関係から4a期(住居式期新段階)と考えられる。



溝跡観察表										
遺構名	方向	全長	断面 (cm)			層位	土色	土性	備考	重複
			上端幅	下端幅	深さ					
SD110	41・49 N 45° E	695	95 ~ 120	67 ~ 92	8 ~ 33	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR3/3 暗褐色 3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物多量、礫(100 ~ 250mm) 少量含む。 古層土と礫(100mm程度) 少量、炭化物和潤 量含む。	SI180より古く、SI179より新しく。	

第255図 SD110溝跡



調査 番号	登録 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口徑	底径	器高				
1	C-167	SD110	堆積土	土師器	环	116.6	—	(4.1)	口縁:32mm 体部:49mm	内面:3.4	内面黒色処理	41

第256図 SD110溝跡出土遺物

### (5) 土坑 (第257~260図)

土坑16基(SK179~194)を検出した。いずれも時期決定できる遺物はないが、重複関係などから概ね4・5期(古墳時代後期~奈良時代)と考えられる。

#### SK179 土坑 (第257・258図)

調査区中央部の65グリッドに位置する。SI184、SD82より新しい。平面形状は楕円形、断面形状は皿状を呈する。検出した規模は、長軸109cm、短軸97cm、深さ12cmを測る。堆積土は2層に分層した。暗褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は弥生土器・土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SD82より新しいことから、5a期(郡山I期官衙期)以降と考えられる。

#### SK180 土坑 (第257・258図)

調査区中央部の72グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸66cm、短軸55cm、深さ18cmを測る。堆積土は2層に分層した。1層はにぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。2層は褐色シルトを主体とし、黒褐色土ブロックを多量に含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

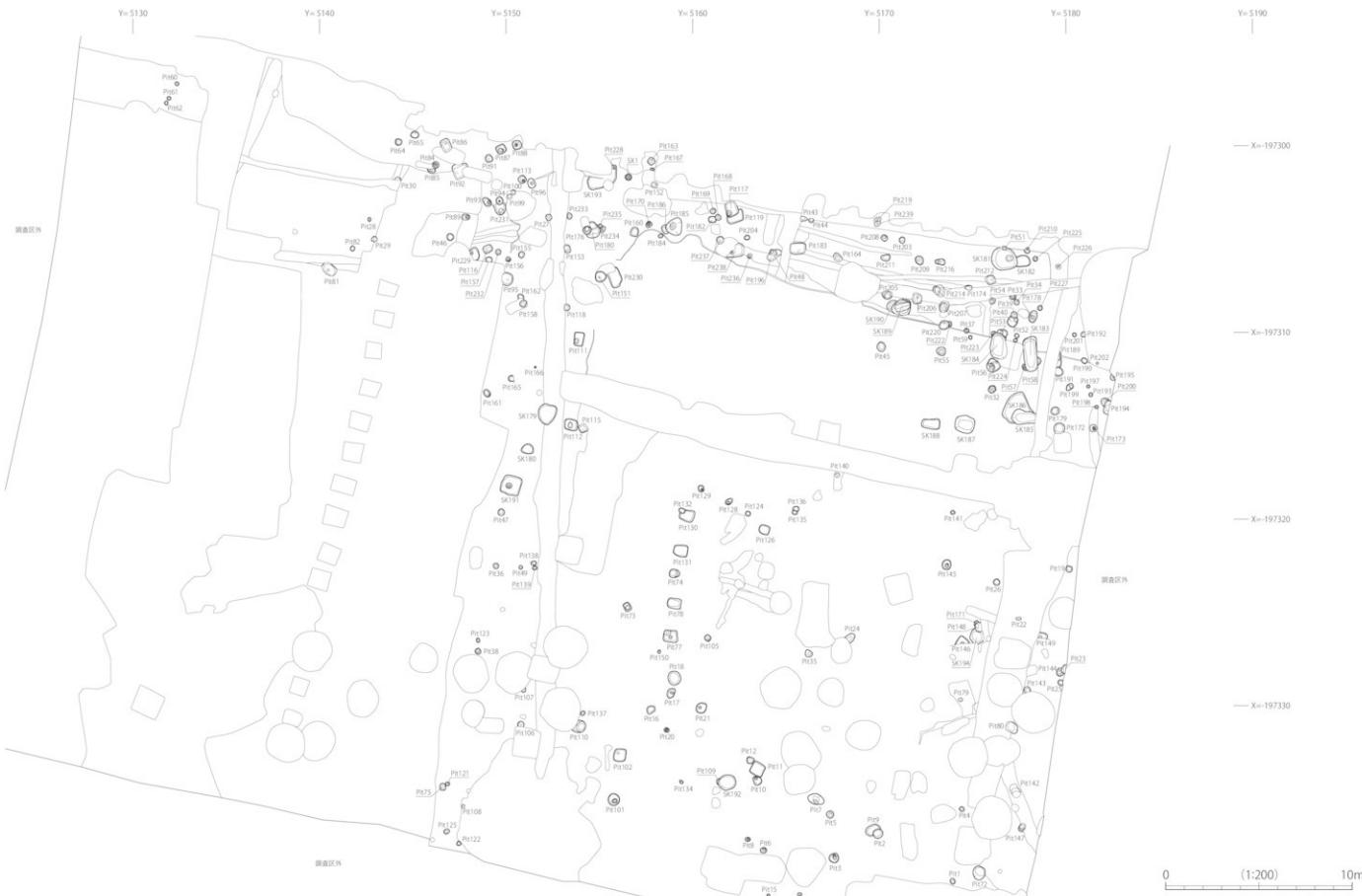
#### SK181 土坑 (第257・258・260図)

調査区北東部の61グリッドに位置する。SI191・252A、SK182、Pit51より新しい。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸144cm、短軸122cm、深さ55cmを測る。堆積土は5層に分層した。暗褐色ないし褐色シルトを主体とする。底面に径36cm程の窪みがみられ、柱穴の可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器环2点を掲載した(第260図-1・2)。共に外面の口縁部と体部の境に段や稜を持ち、口縁部は1が外反気味に外傾、2は直線的に外傾し、口縁端部が内側に屈曲する。底部には3条の線刻がみられる。調整は、外面が共に口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面は1が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、2がヘラミガキ後、黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、5bi期(郡山II期官衙期)以降と考えられるSI252Aより新しい。

#### SK182 土坑 (第257・258図)

調査区北東部の61グリッドに位置する。SK181より古い。平面形状は楕円形、断面形状は「U」字状を呈する。



第 257 図 土坑・性格不明構造・ピット配置図



検出した規模は、長軸79cm、短軸61cm、深さ21cmを測る。堆積土は3層に分層した。暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK183 土坑（第257・258図）

調査区北東部の68グリッドに位置する。SI195、Pit57・58より新しい。平面形状は隅丸長方形、断面形状は箱型を呈する。検出した規模は、長軸186cm、短軸79cm、深さ99cmを測る。堆積土は5層に分層した。1～4層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、5層は黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器・鉄滓が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI195より新しいことから、5a期（郡山I期官衙期）以降と考えられる。

#### SK184 土坑（第257・258図）

調査区北東部の68グリッドに位置する。SI254、Pit53・223より新しい。平面形状は隅丸長方形、断面形状は中段が広がるが、概ね逆台形を呈する。検出した規模は、長軸140cm、短軸93cm、深さ89cmを測る。堆積土は7層に分層した。1～5層は暗褐色シルトを主体とし、6・7層にはぶい黄褐色ないし黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK185 土坑（第257・258図）

調査区北東部の68グリッドに位置する。SK186より新しい。平面形状は橢円形、断面形状は皿状を呈する。検出した規模は、長軸129cm、短軸83cm、深さ35cmを測る。堆積土は3層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器・陶器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK186 土坑（第257・258・260図）

調査区北東部の68グリッドに位置する。SK185より古い。平面形状は不整形、断面形状は皿状を呈するが、底面に起伏がみられる。検出した規模は、長軸175cm、短軸169cm、深さ10cmを測る。堆積土は暗褐色シルトの単層で、IV層土ブロックや焼土ブロックを含む。遺物は土師器が出土している。このうち、土師器壺1点を掲載した（第260図-3）。鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。調整は、口縁部が内外面ヨコナデ、体部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。胎土は砂粒を含みやや粗く、焼成は良好で、色調は灰褐色を呈する。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK187 土坑（第257・258図）

調査区北東部の67・68・74・75グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は隅丸方形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸105cm、短軸96cm、深さ40cmを測る。堆積土は3層に分層した。黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、IV層土ブロックを含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK188 土坑（第 257・259 図）

調査区北東部の 67・74 グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は隅丸長方形、断面形状は箱型を呈する。検出した規模は、長軸 98cm、短軸 60cm、深さ 39cm を測る。堆積土は 3 層に分層した。黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とし、IV 層土ブロックを含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

#### SK189 土坑（第 257・259・260 図）

調査区北東部の 60 グリッドに位置する。SI252A、SK190 より新しい。平面形状は不整形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸 108cm、短軸 87cm、深さ 39cm を測る。堆積土は 4 層に分層した。暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とし、IV 層土ブロックを含む。遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、土師器环 1 点を掲載した（第 260 図-4）。外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直立気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、5bi 期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられる SI252A より新しい。

#### SK190 土坑（第 257・259・260 図）

調査区北東部の 60 グリッドに位置する。SI252A より新しく、SK189 より古い。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸 70cm、短軸 53cm、深さ 10cm を測る。堆積土は暗褐色シルトの単層で、IV 層土ブロック及び焼土ブロック、炭化物を多量に含む。遺物は土師器・須恵器が出土している。このうち、須恵器高环 1 点を掲載した（第 260 図-5）。緩やかに内湾する体部から、口縁部が内湾気味に外傾する。口縁部端部に平坦面を持つ。外面の体部下端には回転ヘラケズリ後にヘラケズリによる再調整が施されている。胎土は砂礫を少量含みやや粗く、色調は暗灰黄色を呈する。

時期決定できる遺物はないが、5bi 期（郡山Ⅱ期官衙期）以降と考えられる SI252A より新しい。

#### SK191 土坑（第 257・259 図）

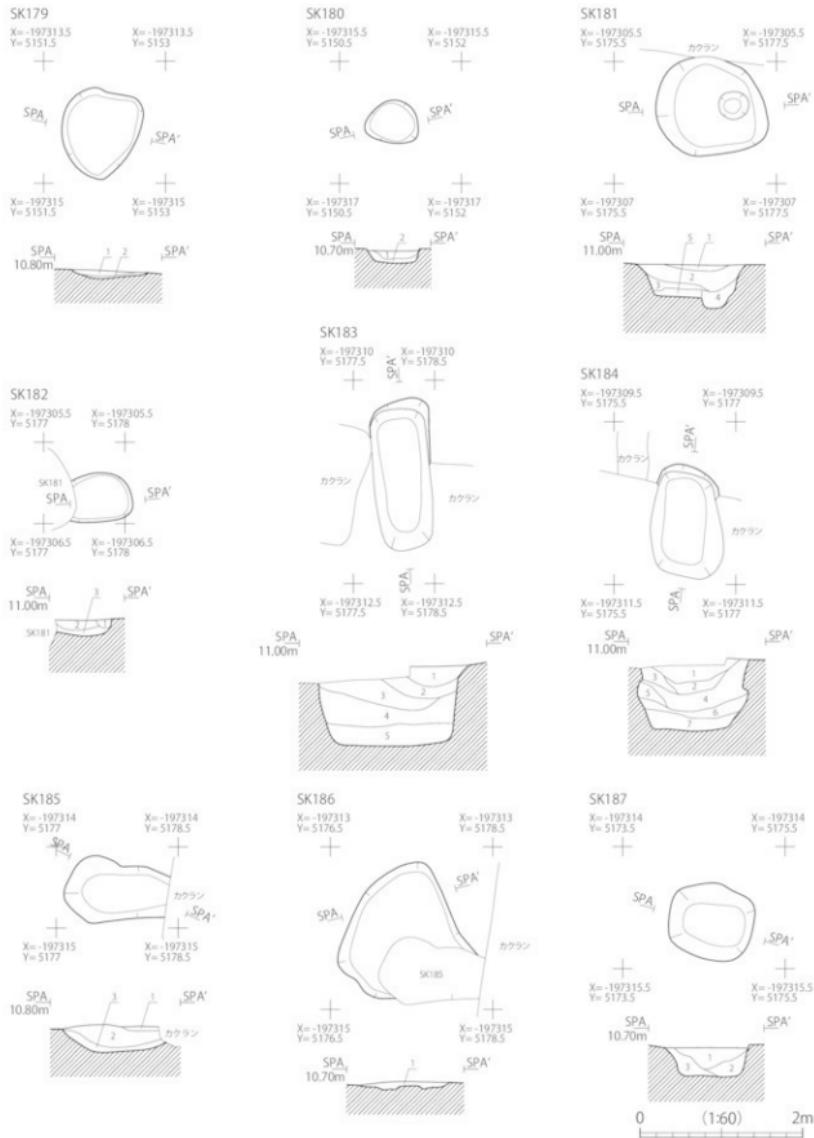
調査区中央部の 72 グリッドに位置する。重複する遺構はない。平面形状は隅丸方形、断面形状は皿状を呈するが、底面の中央付近で一段下がる。検出した規模は、長軸 106cm、短軸 106cm、深さ 21cm を測る。堆積土は 2 層に分層したが、共にグライ化の影響を受け変色している。底面に径 30cm 程の落ち込みがみられ、柱穴の可能性が考えられる。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

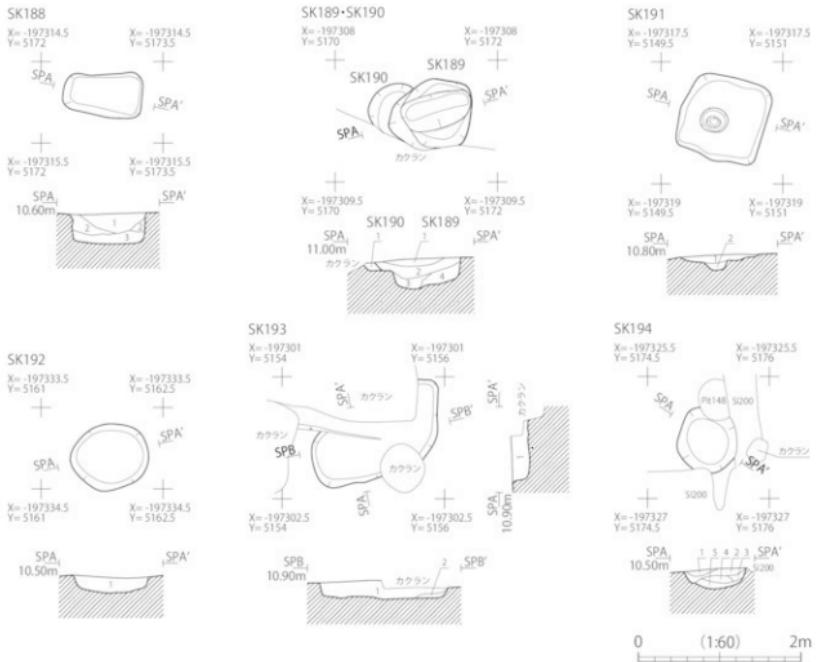
#### SK192 土坑（第 257・259・260 図）

調査区南部の 94 グリッドに位置する。SI209、Pit109 より新しい。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸 96cm、短軸 81cm、深さ 22cm を測る。堆積土は暗褐色シルトの単層で、焼土ブロック・炭化物粒を多量に含む。遺物は土師器が出土している。土師器环 2 点を掲載した（第 260 図-6・7）。共に半球形の環で、口縁部は 6 が外傾、7 が直立する。6 は口縁端部に向かって器壁が薄くなる。調整は、共に外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

時期決定できる遺物はないが、SI209 より新しいことから、5a 期（郡山Ⅰ期官衙期）以降と考えられる。



第258図 SK179～187土坑



土坑観察表(1)

通構名	ガリ名	平面形	規模(m)	層位	土色	土性	備考		重視
							地質		
SK179	65	楕円形	109 × 97	12	1 IOYE3/3 黄褐色 2 IOYE4/3 にふく 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5mm程度) 少量含む。		SI184, SD82より新しい。
SK180	72	楕円形	66 × 55	18	1 IOYE4/4 にふく 黄褐色 2 IOYE4/6 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5mm程度) 多量含む。		
SK181	61	楕円形	144 × 122	55	1 IOYE3/3 黄褐色 2 IOYE3/4 黑褐色 3 IOYE3/3 黄褐色 4 IOYE4/2 黄褐色 5 IOYE4/6 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5~20mm) 多量含む。 N層土ブロック (10mm程度) 多量、燒土粒微量含む。	SI191, SI252A, SK182, PA51より新しい。	
SK182	61	(楕円形)	(79) × 61	21	1 IOYE4/3 にふく 黄褐色 2 IOYE3/3 黄褐色 3 IOYE2/3 黑褐色	シルト	N層土ブロック (10mm程度) 多量含む。		SK181より古い。
SK183	68	圓丸丘方形	186 × 79	99	1 IOYE3/1 黑褐色 2 IOYE2/2 黑褐色 3 IOYE3/1 黑褐色 4 IOYE3/3 黄褐色 5 IOYE2/3 黑褐色 6 IOYE5/6 黄褐色	砂質シルト	N層土ブロック (10~30mm) 少量含む。		SI195, PR57+58より新しい。
SK184	68	圓丸丘方形	140 × 93	89	1 IOYE3/2 黑褐色 2 IOYE3/4 黄褐色 3 IOYE3/3 黄褐色 4 IOYE3/4 黄褐色 5 IOYE4/2 从黒褐色 6 IOYE5/4 にふく 黄褐色 7 IOYE5/6 黄褐色	シルト	N層土ブロック (5~10mm) 多量含む。 N層土ブロック (5~10mm) 多量含む。 N層土ブロック (5~10mm) 多量含む。 白色土ブロック (50mm程度) 少量含む。 燒土粒微量含む。	SI254, PR53+223より新しい。	
SK185	68	(楕円形)	(129) × 83	35	1 IOYE3/2 黄褐色 2 IOYE3/3 黄褐色 3 IOYE5/6 黄褐色	シルト	N層土と砂質含む。		SK186より新しい。
SK186	68	(不整形)	175 × 1160	10	1 IOYE3/4 黄褐色	シルト	N層土と砂質含む。 N層土ブロック (5~10mm) 烧土粒 (5mm程度) 多量含む。		SK185より古い。

第259図 SK188～194 土坑

土坑觀察表(2)

遺構名	Y(Fr) <sup>1</sup>	平面形	幅員(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複	
									幅員(cm)	底径
SK187 67-68* 74-75	圓丸方形	105×96	40	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	呉羽土ブロック(10mm程度)少量含む。	SI252A、SK190より新しい。	SI252A、SK190より新しい。	SI252A、SK190より新しい。
				2	10YR3/4 姫褐色	シルト	呉羽土ブロック(30~50mm)多量含む。			
				3	10YR2/3 黒褐色	シルト	呉羽土ブロック(10mm程度)多量含む。			
SK188 67-74	圓丸長方形	98×60	39	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	呉羽土ブロック(5mm程度)少量含む。	SI252A、SK190より新しい。	SI252A、SK190より新しい。	
				2	10YR3/3 黒褐色	シルト	呉羽土ブロック(5mm程度)多量含む。			
				3	10YR2/2 黒褐色	シルト	呉羽土ブロック(5~30mm)多量含む。炭化物少量含む。			
SK189 60	不整形	108×87	39	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック(30mm程度)微量含む。	SI252A、SK190より新しい。	SI252A、SK190より新しい。	SI252A、SK190より新しい。
				2	10YR2/2 黑褐色	シルト	黒褐色土ブロック(10~20mm)炭化物多量含む。			
				3	10YR3/3 黄褐色	シルト	呉羽土ブロック(10mm程度)黒褐色土ブロック(10mm程度)多量含む。			
				4	10YR4/4 黄褐色	シルト	呉羽土ブロック(5~20mm)炭化物多量含む。			
SK190 60	(円形)	(70)×(53)(10)	10	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	呉羽土ブロック(5mm程度)炭化物・礫土ブロック(5mm程度)多量含む。	SI252Aより古い。	SI252Aより古い。	SI252Aより古い。
SK191 72	圓丸方形	106×106	21	1	N3/0 黑褐色	シルト	呉羽土ブロック(20~30mm)多量含む。※グライ化。	SI252Aより新しい。	SI252Aより新しい。	SI252Aより新しい。
				2	5Y4/2 黑灰色リーフ色	シルト	呉羽土ブロック(10~40mm)多量含む。※グライ化。			
SK192 94	楕円形	96×81	22	1	10YR4/4 黑褐色	シルト	楕土ブロック(5~20mm)炭化物多量含む。	SI209、Pr109より新しい。	SI209、Pr109より新しい。	SI209、Pr109より新しい。
				2	10YR4/4 黄褐色	シルト	呉羽土和少量含む。			
SK193 50-51	(楕円形)	186×(119)	24	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	シルト	SI183~188、Pr228より新しい。	SI183~188、Pr228より新しい。	SI183~188、Pr228より新しい。
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	呉羽土ブロック(5~30mm)少量含む。			
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	呉羽土ブロック(5~10mm)多量含む。			
				4	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	呉羽土少量含む。			
				5	10YR5/6 黄褐色	シルト	地土ブロック(5~10mm)少量含む。			
SK194 88-89	(楕円形)	84×(76)	26	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	砂質シルト	SI200、Pr148より古い。	SI200、Pr148より古い。	SI200、Pr148より古い。
				2	10YR3/4 黑褐色	シルト	呉羽土ブロック(5~10mm)多量含む。礫土少量化。			
SK181				1	堆積土			SK181	SK181	SK181
				2	堆積土					
				3	堆積土					
				4	堆積土					
				5	堆積土					
SK190				6	堆積土			SK190	SK190	SK190
				7	堆積土					
SK192				8	堆積土			SK192	SK192	SK192
				9	堆積土					
0 (1:3) 10cm										

回数 番号	試錐 番号	出土地点	層位	種別	断面	法量(cm) 口径×底径	高さ	外周調整	内面調整	備考	写真 図版
1	C-157	SK181	堆積土	土顎器	坪	(13.0)	—	4.3	口縁：32mm 体部：18mm		41
2	C-156	SK181	堆積土	土顎器	坪	9.6	—	2.9	口縁：32mm 体部：18mm		41
3	C-158	SK186	堆積土	土顎器	坪	(13.4)	—	(2.7)	口縁：32mm 体部：18mm	内面黒色処理 底面削刻「二」	41
4	C-160	SK189	堆積土	土顎器	坪	(10.0)	—	(4.0)	口縁：32mm 体部：18mm	内面黒色処理	41
5	E-029	SK190	堆積土	頭蓋器	高坪	(20.0)	—	(4.8)	外周調整 内面端：斜削み	頭蓋骨多量含む。	41
6	C-161	SK192	堆積土	土顎器	坪	(16.0)	—	(3.4)	口縁：32mm 体部：18mm	内面黒色処理	41
7	C-162	SK192	堆積土	土顎器	坪	(13.6)	—	(4.2)	口縁：32mm 体部：18mm	内面黒色処理	41

第260図 土坑出土遺物

## SK193 土坑（第 257・259 図）

調査区北部の 50・51 グリッドに位置する。SI183・188、Pit228 より新しい。平面形状は梢円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸 186cm、短軸 119cm、深さ 24cm を測る。堆積土は 2 層に分層した。褐色シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI188 より新しいことから、5a 期（郡山Ⅰ期官衙期）以降と考えられる。

## SK194 土坑（第 257・259 図）

調査区南東部の 88・89 グリッドに位置する。SI200、Pit148 より古い。平面形状は梢円形、断面形状は逆台形を呈する。検出した規模は、長軸 84cm、短軸 76cm、深さ 26cm を測る。堆積土は 5 層に分層した。焼土ブロック及び炭化物粒を含む。遺物は土師器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI200 より古いことから、5bi 期（郡山Ⅱ期官衙期）以前と考えられる。

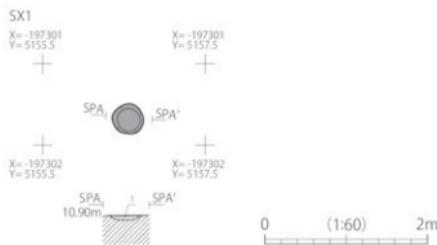
## (6) 性格不明遺構（第 257・261 図）

性格不明遺構 1 基（SX1）を検出した。検出状況からカマド等の被熱部分と考えられるが、帰属可能な遺構が周辺に認められなかったため、性格不明遺構として取り扱った。時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。

## SX1 性格不明遺構（第 257・261 図）

調査区北部の 51 グリッドに位置する。SI183 の堆積土上面で検出した。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 40cm、短軸 38cm、深さ 6cm を測る。堆積土は褐色シルトの単層で、上部は被熱している。竪穴住居のカマド燃焼部の一部が残存していたものと考えられるが、詳細は不明である。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物がなく、詳細な時期は不明である。



性格不明遺構観察表

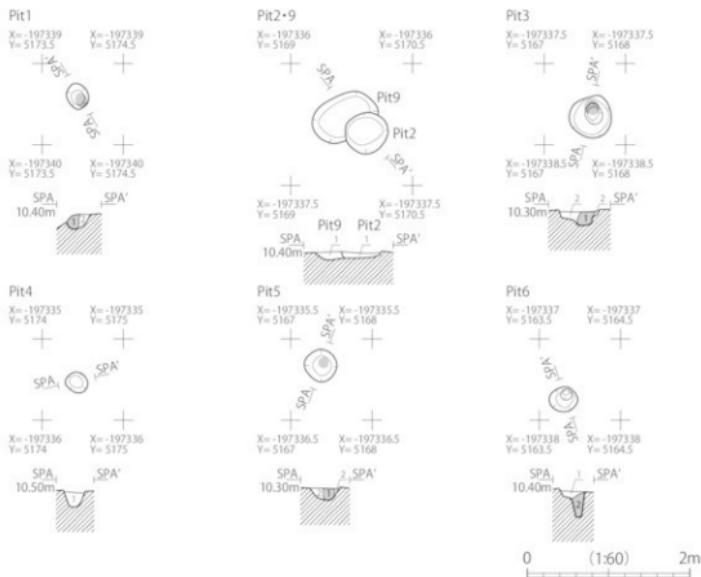
遺構名	？ ⑨	平面形	規模 (m)	層位	土色	土性	参考	重視
SX1	51	円形	長軸×短軸 40×38	6	1	TOYERA/6 褐色	シルト N 級土和少量、炭化物微細含む。	SI183 より新しい。

第 261 図 性格不明遺構

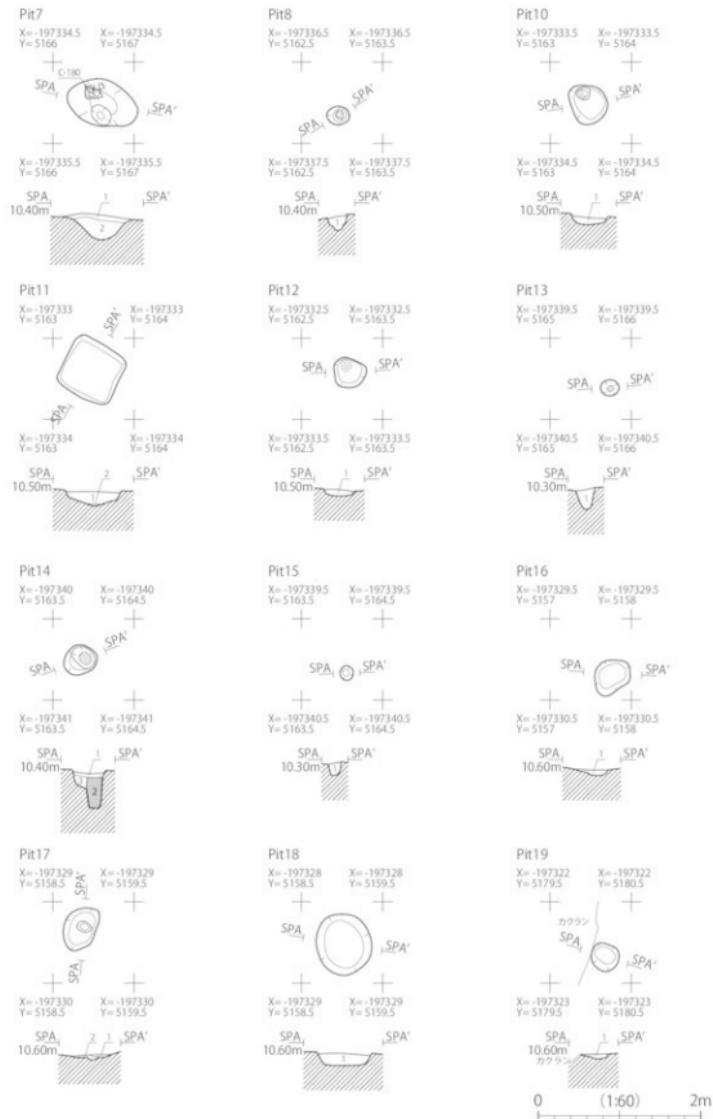
## (7) ピット (第 257・262 ~ 279 図)

239 基を検出したが、調査段階及び整理作業段階で、掘立柱建物跡などの柱穴としたものがあり、再整理を行った結果、単独ピットの総数は 205 基である。分布はほぼ調査区全域に及ぶが、調査区北部の 50・51・58 グリッド、北東部の 60・61・68 グリッドに集中する傾向がみられ、検出数の約半数を占める。柱跡がみられるピットは 79 基、柱による底面の変色範囲が確認できたピットは 40 基を数え、このほかに底面に窪みを伴うものが認められる。また、73・80・87 グリッドに位置する Pit77・78・130・131 のような配列や平面形状から掘立柱建物の柱穴の可能性が考えられるが、詳細は明らかにできなかった。

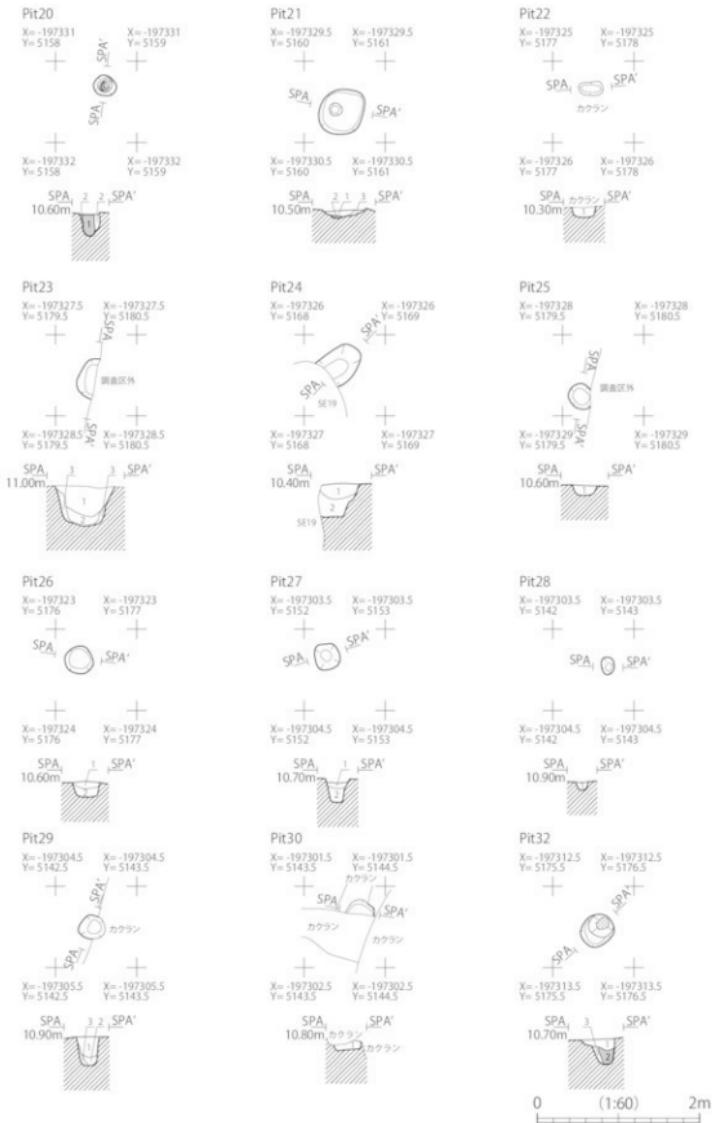
遺物は 134 基から出土しているが、ほとんどが土師器・須恵器の破片である。他に Pit81 では土製品、Pit95・126 では金属製品が出土している。このうち、土師器壺 3 点、土師器鉢 2 点、土師器甕 2 点、土師器櫃 1 点、須恵器杯 1 点、須恵器盤 1 点、土製品 1 点の計 11 点を掲載した (第 279 図 1 ~ 11)。1 ~ 3 は土師器杯である。1 は鬼高系土師器 (南小泉型関東系土器) の特徴を持つ。体部が扁平な半球状を呈し、口縁部が短く内傾する。2・3 は外面の口縁部と体部の境に段や稜を持つ。口縁部は 2 が内湾気味に外傾、3 が外反気味に外傾する。4・5 は土師器鉢である。4 は口縁部が直立し、口縁端部に向かって器壁が薄くなり、5 は口縁部が外反する。6・7 は土師器甕、8 は土師器櫃である。6・8 は外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、6 は口縁部が直立気味に立ち上がり外反する。9 は小型の須恵器杯で、外面の口縁部と体部の境に稜を持つ。体部外面にはヘラケズリによる再調整が施されている。10 は須恵器盤で、口縁部は外傾し、口縁端部に緩い凹面を持つ。11 は土鍤である。いずれも時期決定できる遺物はないが、重複関係などから、概ね 4a 期 (住社式期新段階) から 5bii 期 (奈良時代) を主体とする。各ピットの詳細については観察表を参照していただきたい。



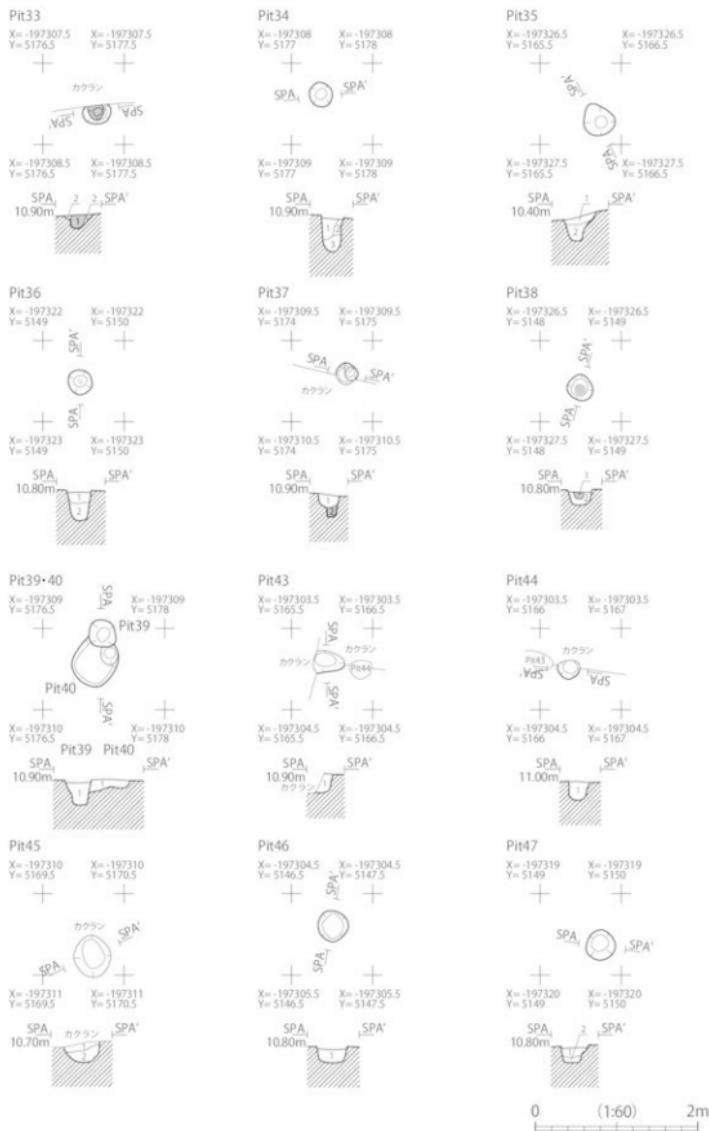
第 262 図 ピット (1)



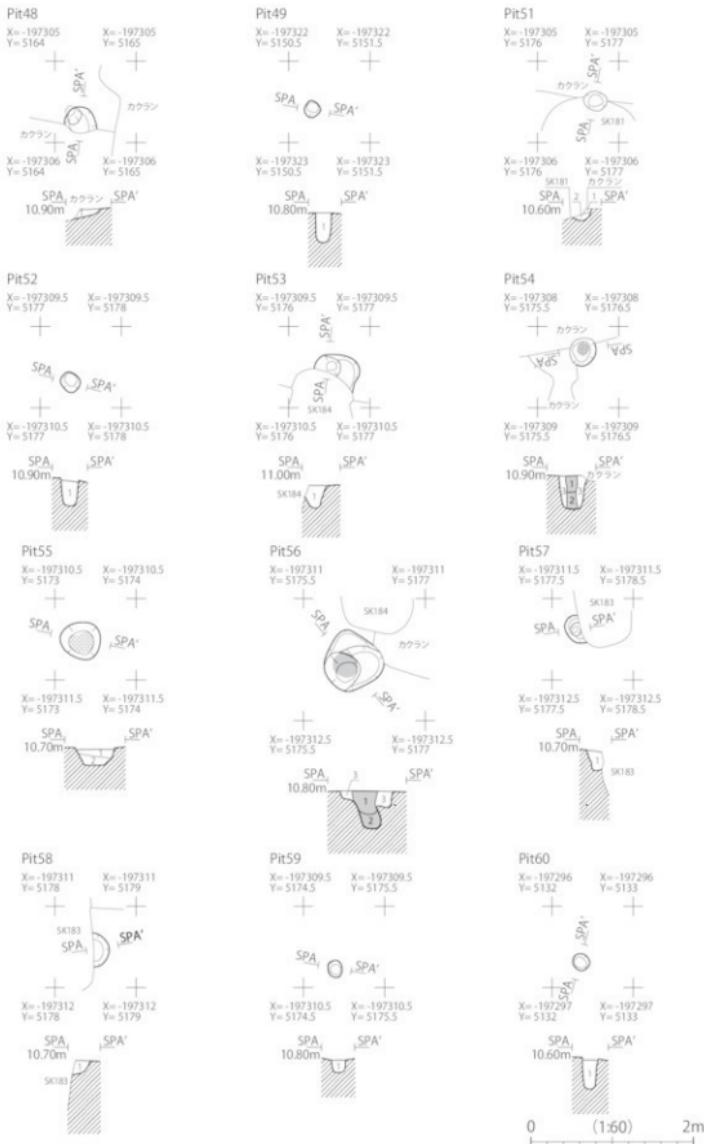
第263図 ピット(2)



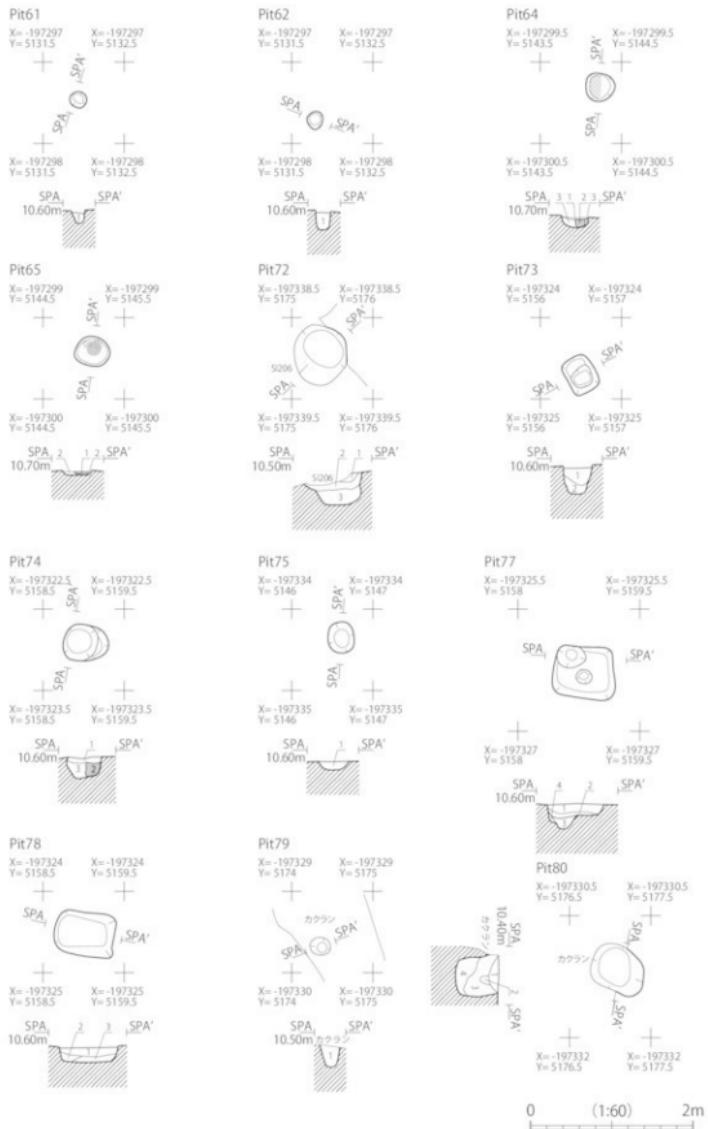
第264図 ピット(3)



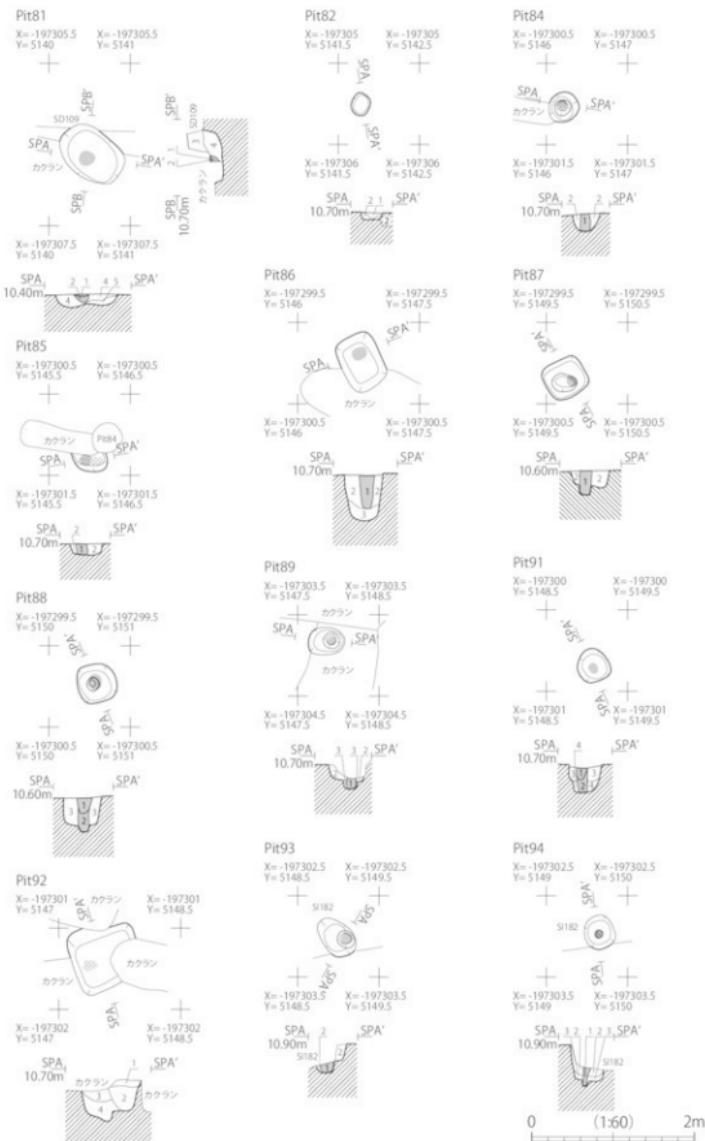
第265図 ピット(4)



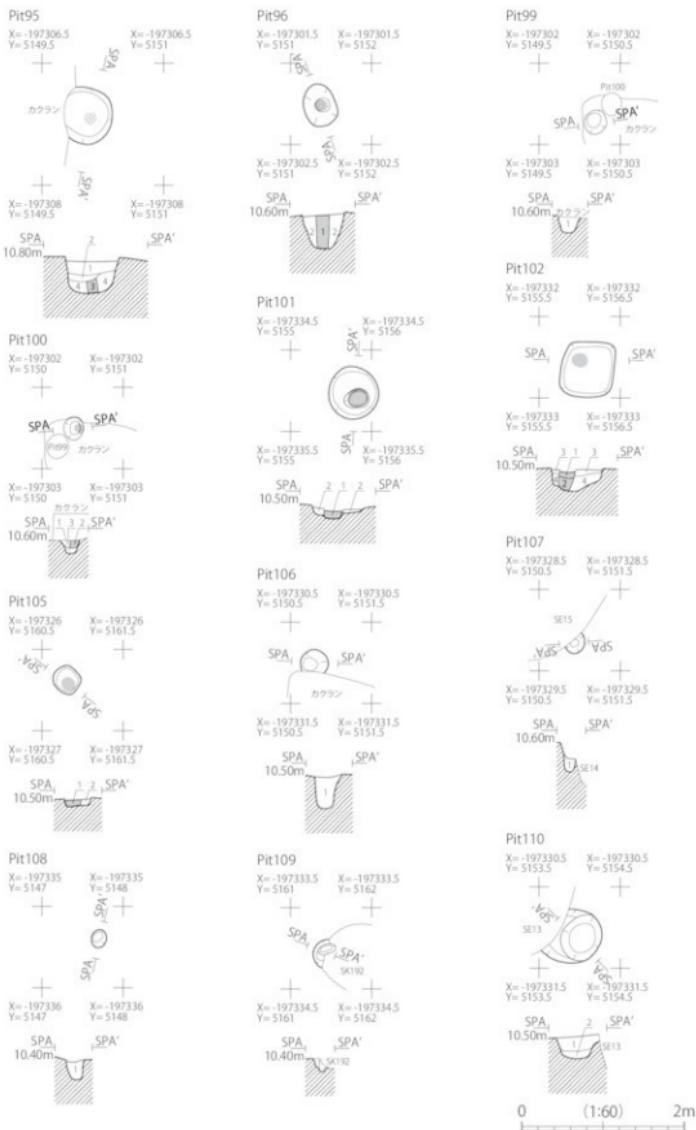
第266図 ピット(5)



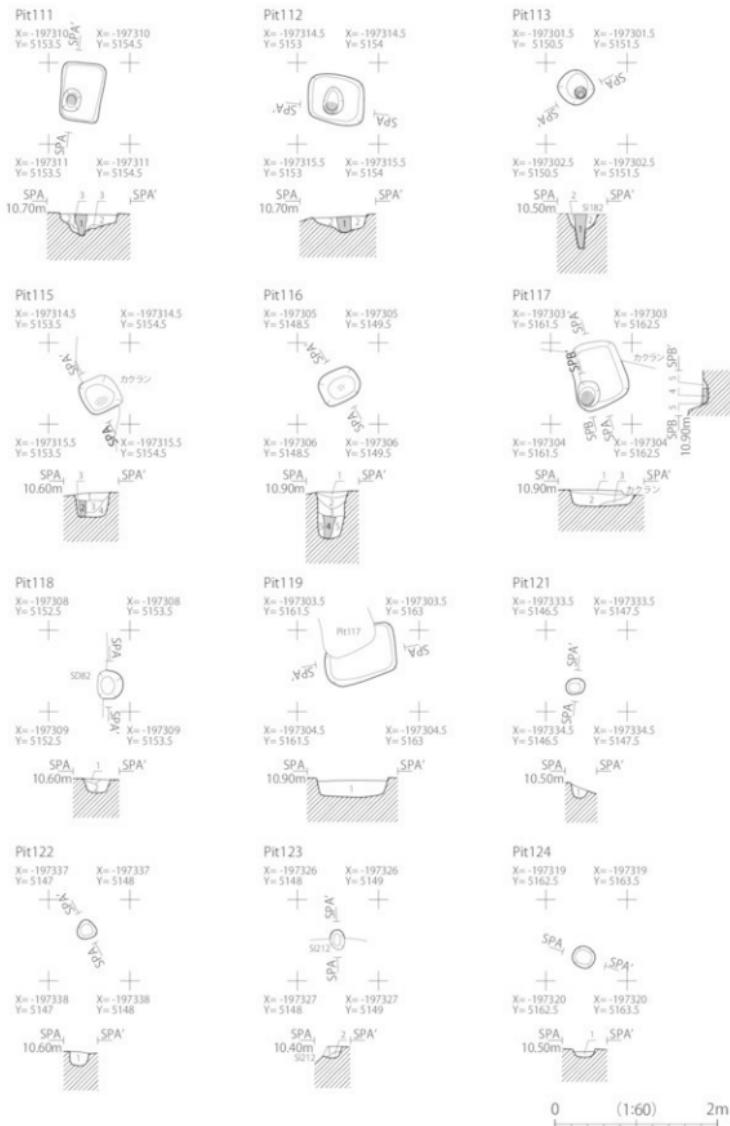
第267図 ピット(6)



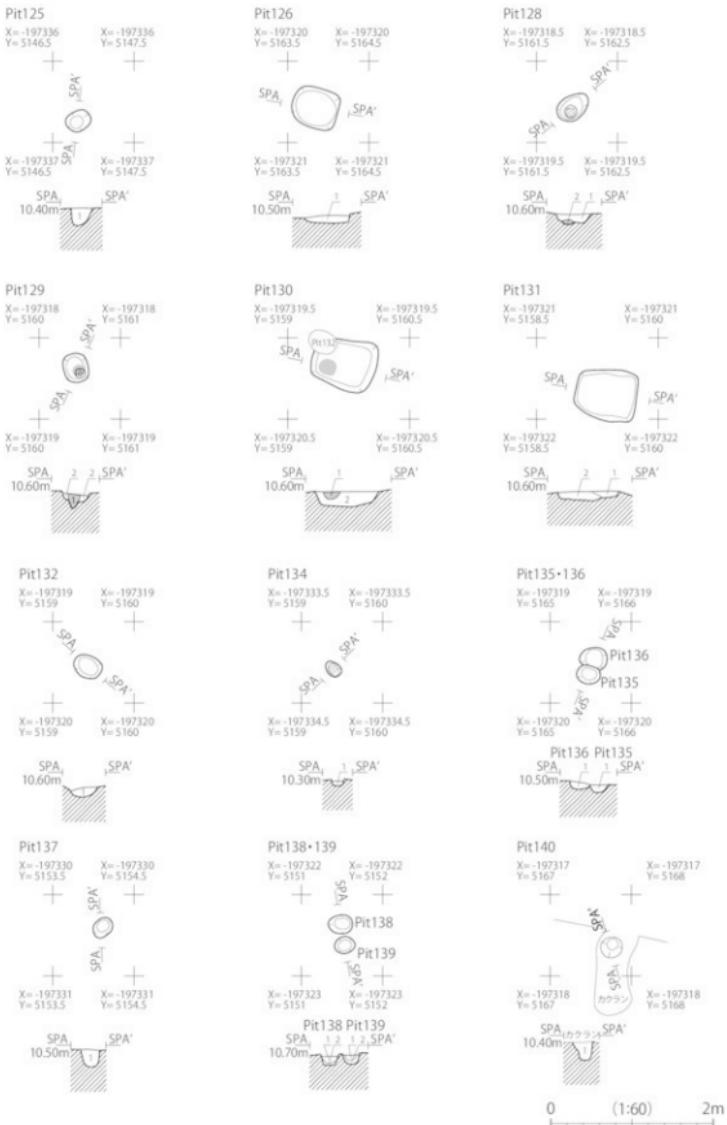
第268図 ピット(7)



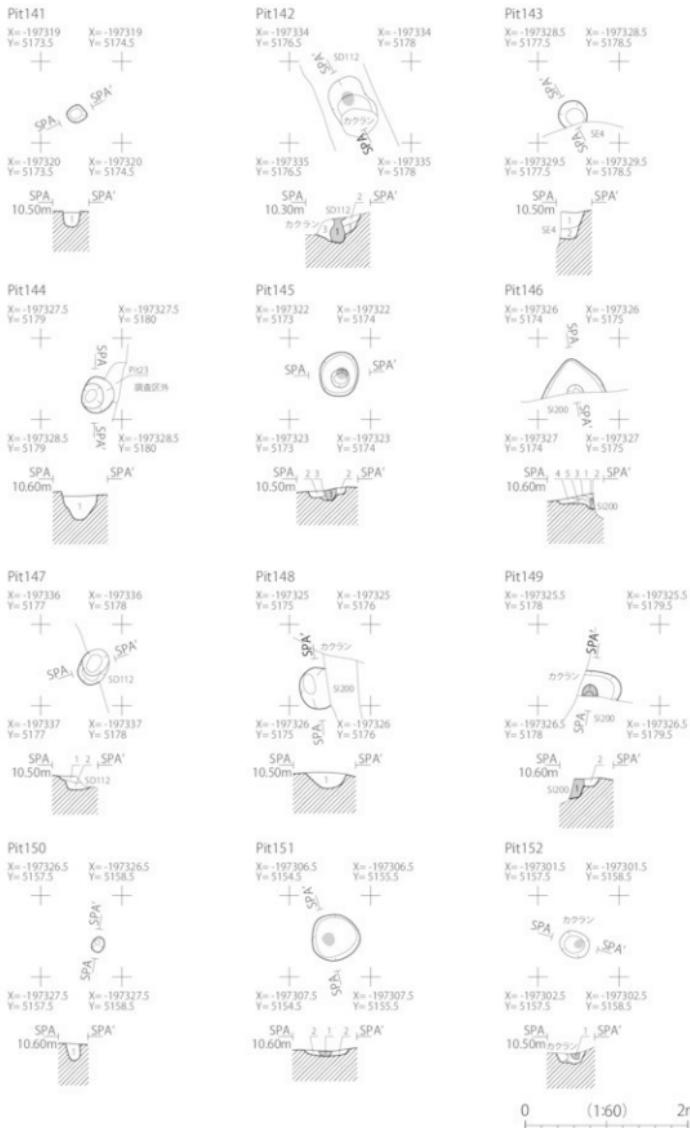
第269図 ピット(8)



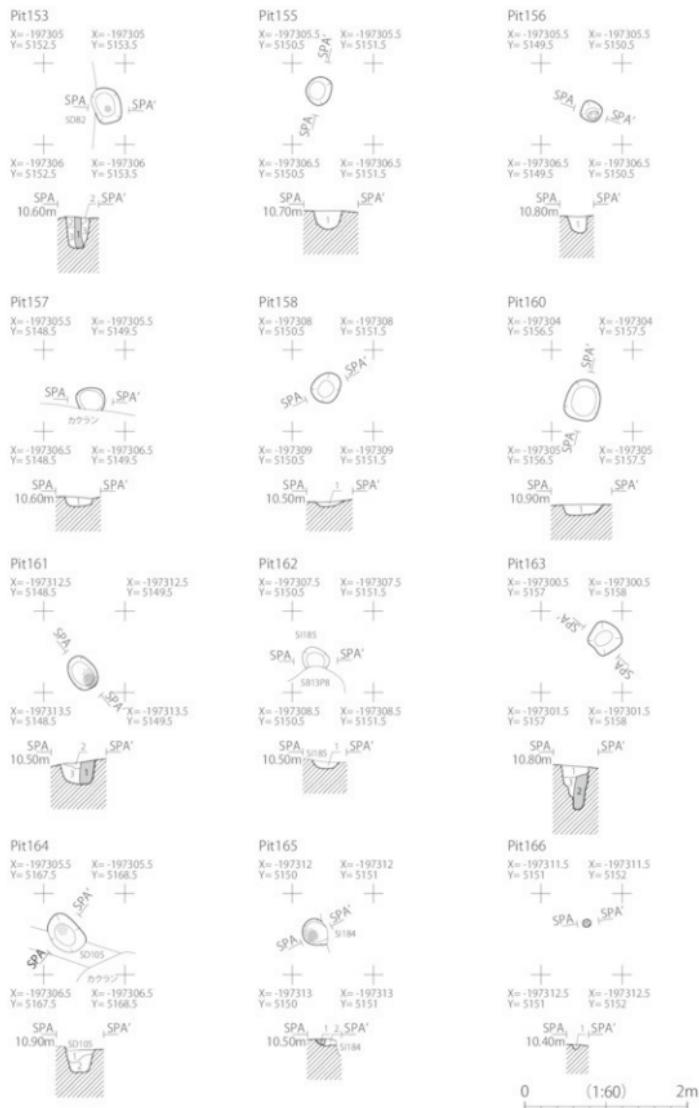
第270図 ピット(9)



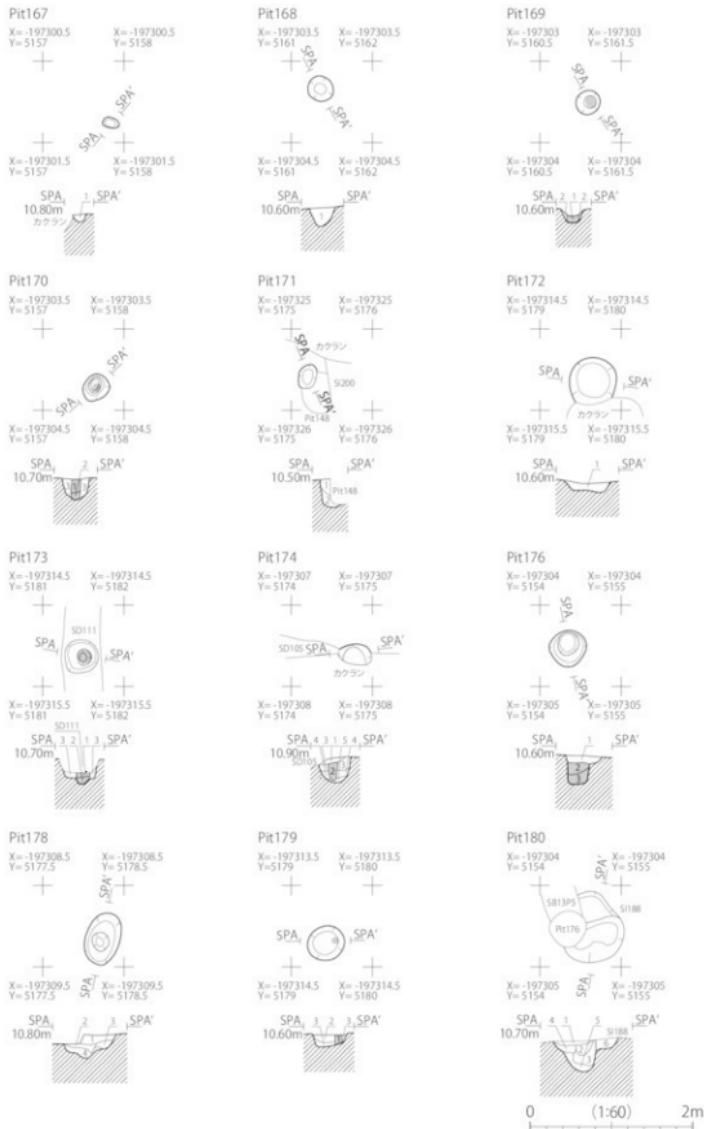
第271図 ピット(10)



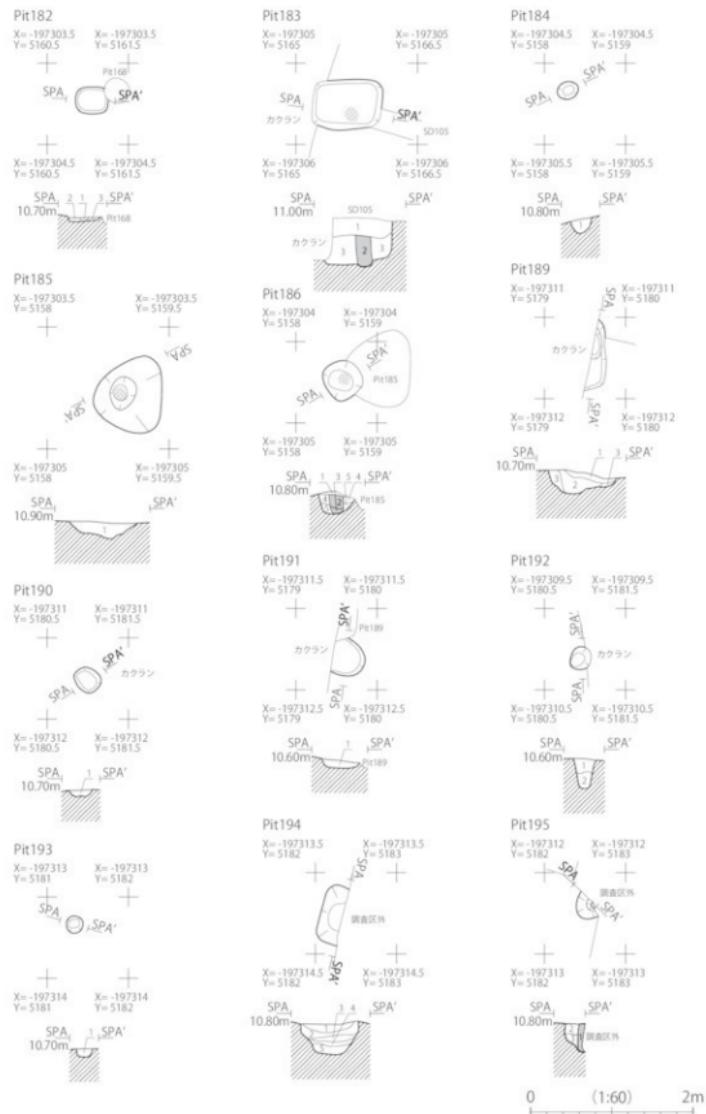
第272図 ピット(11)



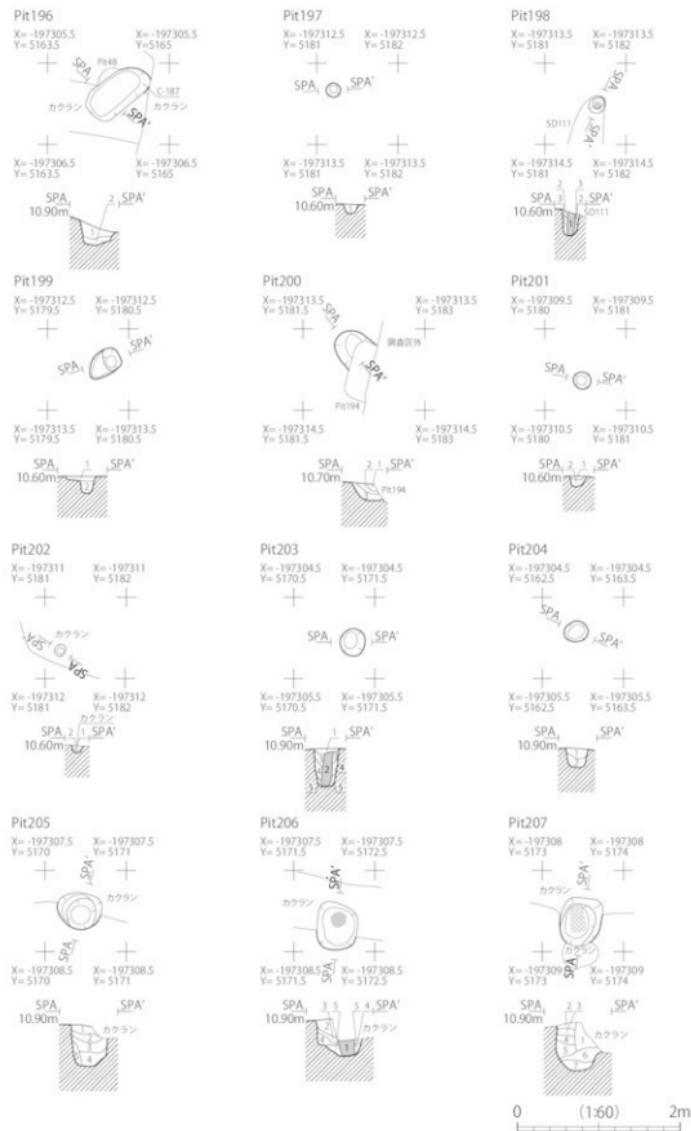
第273図 ピット(12)



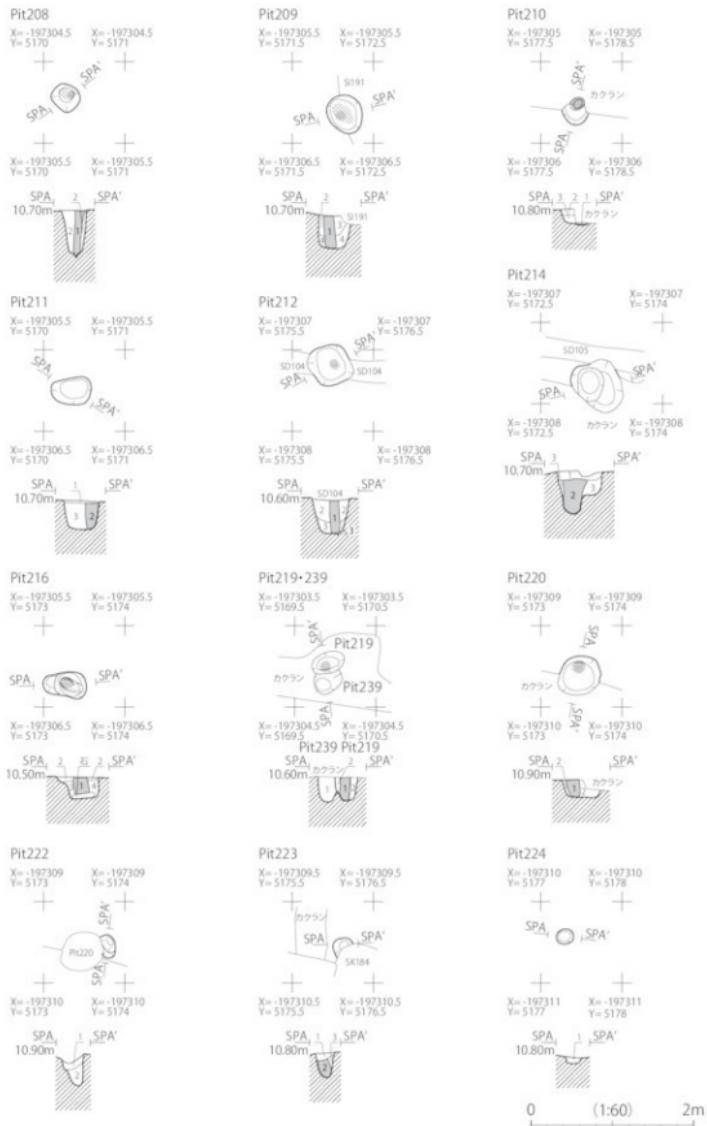
第274図 ピット(13)



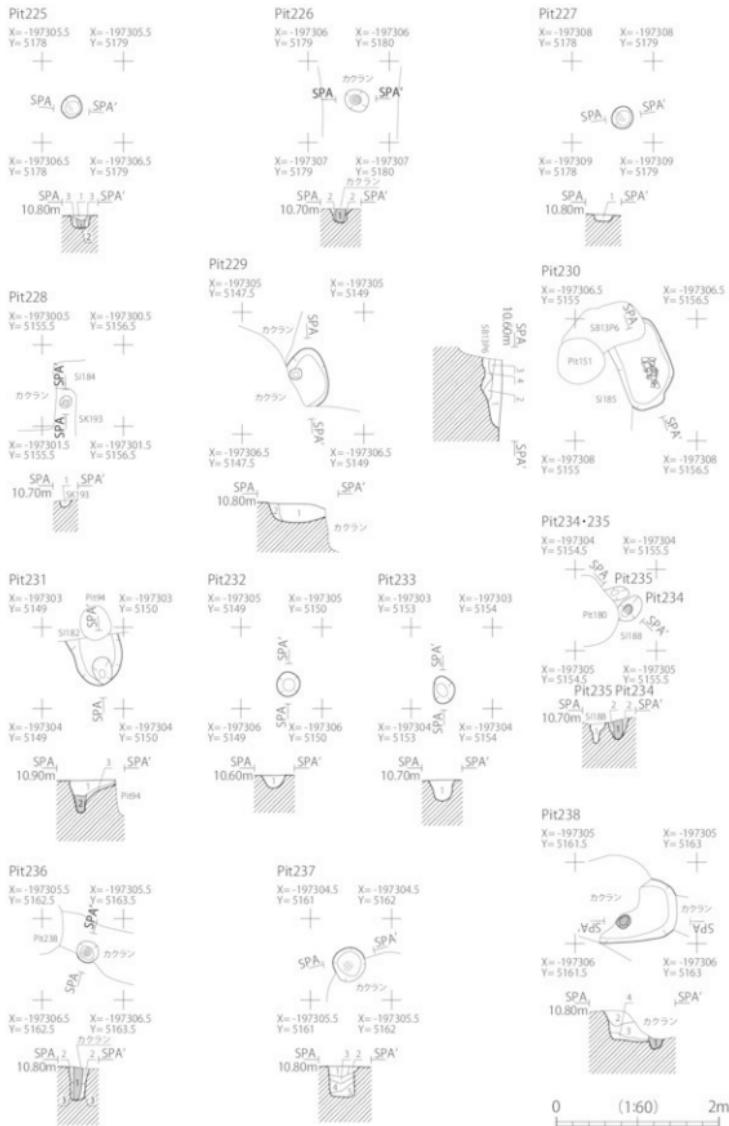
第275図 ピット(14)



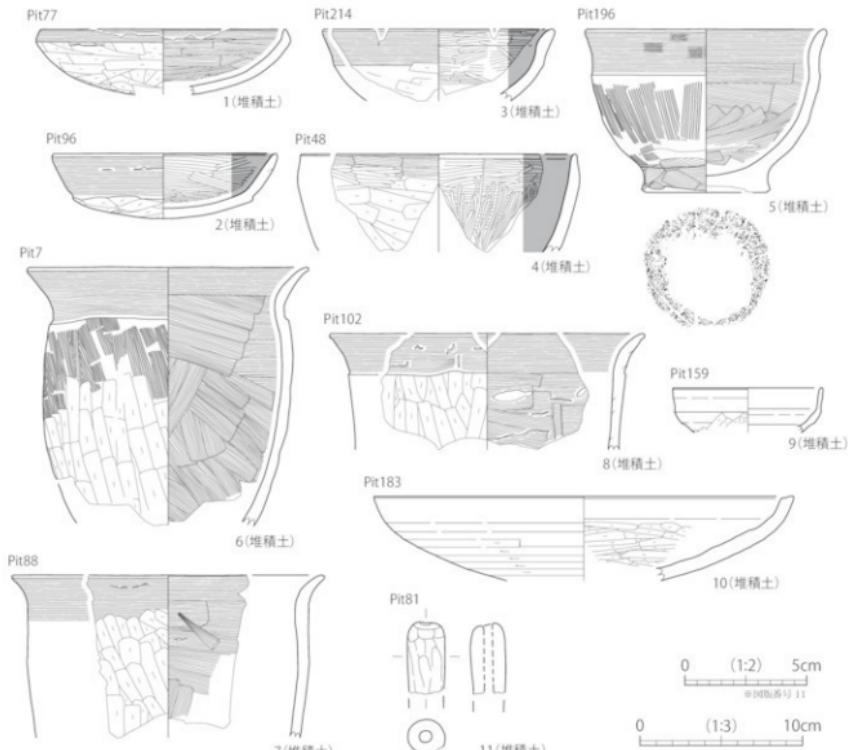
第276図 ピット(15)



第277図 ピット(16)



第278図 ピット(17)



器物番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外側調整	内側調整	備考	写真回数
						口径	底径	高さ				
1	C-182	Pit77	堆積土	土師器	环	15.0	—	(4.0)	口縁：32mm 体部：40mm	口縁：32mm 体部：40mm	腹束系	41
2	C-184	Pit96	堆積土	土師器	环	13.6	—	4.0	口縁：32mm 体部：40mm	口縁：32mm 体部：40mm	内面黒色処理	41
3	C-188	Pit214	堆積土	土師器	环	(14.0)	—	(4.4)	口縁：32mm 体部：40mm	口縁：32mm 体部：40mm	外面摩滅 内面黒色処理	41
4	C-181	Pit48	堆積土	土師器	环	(16.8)	—	(5.9)	口縁：32mm 体部：40mm	口縁：32mm 体部：40mm	横位凹口縁→横位凹口縁	内面黒色処理
5	C-187	Pit196	堆積土	土師器	环	14.6	7.2	10.0	口縁：32mm 体部：40mm	口縁：32mm 体部：40mm	一次熱成 底部：木炭痕	41
6	C-180	Pit7	堆積土	土師器	甕	17.2	—	(15.8)	口縁：32mm 脚上部：38mm 脚下部：35mm	口縁：32mm 脚部：35mm	—	41
7	C-183	Pit88	堆積土	土師器	甕	(19.0)	—	(10.0)	口縁：32mm 脚部：40mm	口縁：32mm 脚部：40mm	—	41
8	C-186	Pit102	堆積土	土師器	甕	(19.2)	—	(7.1)	口縁：32mm 脚部：40mm	口縁：32mm 脚部：40mm	—	41
9	E-032	Pit159	堆積土	陶器	环	(9.2)	—	(2.8)	口縫 体下部：35mm	口縫 体下部：35mm	海綿骨針多量含む	41
10	E-033	Pit183	堆積土	陶器	甕	(25.8)	—	(5.2)	口縫 体下部：35mm	口縫 体下部：35mm	—	41
回収番号						法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真回数	
11	F-003	Pit81	堆積土	土製品	土器	12.0	1.5	1.5	(7.2)	— 口径 0.50m、端部欠損	—	41

第279図 ピット出土遺物

ピット網底表(1)

遺構名	マウル	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	備考
			長軸×短軸	(段さ)				
Pit1	101	円形	31×27	19	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。炭化物・燒土ブロック (10mm程度) 少量含む。※柱痕跡	
Pit2	101	円形	53×50	9	2 10YR4/4 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	Pit9より新しい。
Pit3	101	円形	53×53	21	1 10YR2/2 黒褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 少量含む。※柱痕跡	
Pit4	101	円形	27×24	21	2 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。燒土と微量含む。	SD203より新しい。
Pit5	101	円形	39×39	17	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 多量含む。※柱痕跡	
Pit6	100	円形	34×31	36	2 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。炭化物少量化。	
Pit7	95-101	楕円形	90×58	33	1 10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
Pit8	100	円形	28×23	21	2 10YR2/2 黑褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
Pit9	101 (楕円形)	81×(53)	9	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	Pit2より古い。	
Pit10	94	楕丸方形	50×45	14	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
Pit11	94	方形	76×70	19	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
Pit12	94	円形	41×38	9	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	SD209より新しい。
Pit13	105	円形	23×21	27	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。	
Pit14	104	円形	42×36	48	2 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。炭化物微量含む。	
Pit15	104	円形	21×17	18	1 10YR2/2 黑褐色	シルト	古崩土と微量含む。	
Pit16	94	楕円形	49×40	8	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	
Pit17	87	楕円形	59×41	7	1 10YR4/4 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	
Pit18	87	円形	76×68	17	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 50mm) 多量含む。	
Pit19	87	円形	35×33	7	1 10YR2/2 黑褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	
Pit20	94	円形	29×27	29	1 10YR4/4 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD209より新しい。
Pit21	87-94	楕丸方形	57×54	12	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	
Pit22	89	(楕円形)	(31)×(18)	13	1 10YR4/4 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	
Pit23	89	(円形)	74×(23)	50	2 10YR3/1 黑褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物微量含む。	Pit144より新しい。
Pit24	88	(楕円形)	(50)×44	42	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 30mm) 多量含む。	SE19より古い。
Pit25	89	(円形)	(33)×29	13	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (10 ~ 30mm) 少量。炭化物微量含む。	SD100より新しい。
Pit26	82	円形	35×34	20	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	炭化物ブロック (5 ~ 20mm) 多量。炭化物微晶に含む。	
Pit27	50	楕丸方形	33×31	29	1 10YR4/6 黑褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 微量含む。	SD82より新しい。
Pit28	49	(楕円形)	21×17	14	1 10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。	
Pit29	49-57	(楕円形)	(34)×30	36	1 10YR4/6 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
Pit30	49	(円形)	(36)×(21)	14	1 10YR6/6 明黄色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
Pit31	—	—	—	—	—	—	※久慈G13(2)に変更	
Pit32	68	円形	42×37	32	2 10YR3/3 にぶい黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
Pit33	61	(円形)	36×(23)	17	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。	
Pit34	61	(円形)	30×29	46	2 10YR4/6 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
Pit35	88	楕円形	39×37	36	3 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土と微量含む。炭化物ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
Pit36	79	円形	31×29	38	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5mm 程度) 多量含む。	
Pit37	60-67	(円形)	(25)×(25)	30	2 10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	古崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。	SD254より新しい。
Pit38	86	円形	32×30	29	1 10YR3/4 黄褐色	粘土質シルト	古崩土と微量含む。※柱痕跡	SD212より新しい。
Pit39	61	円形	33×33	31	2 10YR3/3 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	Pit40より新しい。
Pit40	61	(楕丸方形)	(59)×53	18	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。	Pit39より古い。
Pit41	—	—	—	—	—	—	※久慈G14(1)に変更	
Pit42	—	—	—	—	—	—	※久慈G14(7)に変更	
Pit43	52	(楕円形)	(36)×(26)	24	1 10YR5/6 黄褐色	シルト	古崩土ブロック (10mm 程度) 多量含む。	

ピット網査表(2)

査査名 Y (m) X (m)	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	重複
Pt44 52 (円形)	(28) × (23)	24	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	
Pt45 67 (円形)	(52) × (46)	26	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 底化物少量含む。	
Pt46 50・58 円形	38 × 32	21	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
Pt47 72 円形	37 × 37	22	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
Pt48 59 (円形)	42 × (26)	(13)	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。※グラウ ナセ系 (SB14-P1) に変更。	SI189, SI190, Pt191より新しい。
Pt49 79 円形	20 × 19	37	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土と少額含む。 ナセ系 (SB14-P1) に変更。	
Pt50							
Pt51 61 (円形)	(28) × (23)	(17)	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土と黒褐色含む。	SK181より古い。 SE252より新しい。
Pt52 68 圓丸方形	25 × 22	34	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土と黒褐色含む。	SE254より新しい。
Pt53 61・68 (圓丸方形)	56 × (42)	29	1	10YR3/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土と黒褐色含む。	SK184より古い。 SE254より新しい。
Pt54 61 (円形)	(35) × (32)	42	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱和跡	
			2	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。※柱和跡	
			3	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	
Pt55 67 円形	51 × 46	23	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
			2	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 多量含む。※柱和跡	
Pt56 68 圓丸方形	71 × 69	48	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱和跡	
			2	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。※柱和跡	
			3	10YR3/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。	
Pt57 68 (梅円形)	(37) × (18)	26	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 30mm) 多量含む。	SK183より古い。
Pt58 68 (円形)	43 × (20)	18	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SK183より古い。 SI195より新しい。
Pt59 67 円形	21 × 18	16	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。	
Pt60 40 円形	21 × 21	39	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土と少額含む。	
Pt61 40 円形	21 × 21	17	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。底化物微量含む。	
Pt62 40 円形	22 × 19	24	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。底化物微量含む。	
Pt63	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P1) に変更。	
Pt64 41 円形	36 × 35	16	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 少量含む。	
			2	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※柱和跡	
			3	10YR5/6 黑褐色	シルト	IV層土と黄褐色土ブロック (10mm 程度) 多量含む。	
Pt65 41・42 梅円形	41 × 37	7	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土と多額含む。※柱和跡	
			2	10YR5/6 黑褐色	シルト	粘土質土多額含む。	
Pt66	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P2) に変更。	
Pt67	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P4) に変更。	
Pt68	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P5) に変更。	
Pt69	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P6) に変更。	
Pt70	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB14-P7) に変更。	
Pt71	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB201-P1) に変更。	
Pt72 102 (円形)	(73) × (68)	40	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20mm 程度) 少量含む。	
			2	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	粘土質土と黄褐色土ブロック (20 ~ 40mm) 多量含む。	SE206より古い。
			3	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	粘土質土と黄褐色土ブロック (20mm 程度) 少量含む。	
Pt73 80 長方形	47 × 37	37	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	シルト	SI199より新しい。 SI211と位置的に重複するが、新旧關係不明。
			2	10YR4/6 黄褐色	シルト	粘土質土と多額含む。	
Pt74 80 梅円形	57 × 45	27	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土と底化物微量含む。	SI199より新しい。 SI211と位置的に重複するが、新旧關係不明。
			2	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量。底化物微量含む。	
			3	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 多量。底土ブロック (5 ~ 10mm) 多量。底化物微量含む。	
Pt75 93 梅円形	39 × 32	10	1	10YR3/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土と多額含む。底化物微量含む。	SE201・212より新しい。
Pt76	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB201-P1) に変更。	
Pt77 87 圓丸方形	80 × 65	30	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量。底化物微量含む。	SI199より新しい。 SI211と位置的に重複するが、新旧關係不明。
			2	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。底化物微量含む。	
			3	10YR3/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 多量。底土ブロック (5 ~ 10mm) 多量。底化物微量含む。	
Pt78 80 圓丸長方形	77 × 56	20	1	10YR5/6 黑褐色	シルト	IV層土と多額含む。	SI199より新しい。 SI211と位置的に重複するが、新旧關係不明。
			2	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	
			3	10YR5/6 黑褐色	シルト	粘土質土ブロック (5 ~ 50mm) 少量。底化物微量含む。	
Pt79 88 (円形)	(25) × (22)	(27)	1	10YR3/4 黑褐色	粘土質シルト	IV層土と多額含む。	SI200より新しい。
			2	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土多額。底化物微量含む。地土と微量含む。	
			3	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土と多額含む。	
Pt80 96 (圓丸方形)	(69) × (57)	53	1	10YR5/6 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 50mm) 多量。底化物微量含む。	SE200, SE204より 新しい。
			2	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 100mm) 多量。底化物微量含む。	
			3	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 100mm) 多量。底化物微量含む。	
			4	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土と底化物微量含む。	
Pt81 57 (梅円形)	(85) × (59)	44	2	10YR4/2 从黃褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱和跡	SI109より古い。 SI181より新しい。
			3	10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 60mm) 多量。底化物微量含む。	
			4	10YR3/4 黑褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。底化物微量含む。	
			5	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	底化物微量含む。	
Pt82 57 梅円形	27 × 23	9	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土と少額。底化物微量含む。	SI181より新しい。
			2	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	IV層土と多額含む。	
Pt83	—	—	—	—	—	ナセ系 (SB13-P3) に変更。	

ピット網敷床(3)

造構名	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	縦横 (m) 長軸×短軸 (及さ)	層位	土色	土性	備考	重複
					1	2	3	
Pt84 50 円形	39 × 36	23	(47) × (33)	1	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (10 ~ 20mm) 少量含む。※柱痕跡	Pt85より新しい。
Pt85 50 (相円形)	15	2		10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 多量含む。	Pt84より古い。	
Pt86 42×50 (隅丸長方形)	(69) × (51)	58	51 × 49	1	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	
Pt87 42×50 隅丸方形	30	2		10YR4/4 布色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	S182より新しい。	
Pt88 42×50 隅丸方形	48 × 48	42	(45) × (35)	1	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	
Pt89 50 (相円形)	30	2		10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	S182より新しい。	
Pt90 — — —	41 × 39	35	(35) × (35)	1	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	
Pt91 50 円形		35		2	10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	S182より新しい。
Pt92 50 (隅丸方形)	(86) × (83)	52	55 × 37	3	10YR4/2 底灰褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡	
Pt93 50 相円形	36	4		10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 少量含む。	S182より新しい。	
Pt94 50 円形	41 × 37	50	69 × (61)	1	10YR4/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 少量含む。※下部グライ化	
Pt95 58 (円形)	45	2		10YR4/2 底灰褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。※下部グライ化	S182より新しい。	
Pt96 50 相円形	53 × 40	46	(28) × (28)	3	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡	
Pt97 — — —	47	4		10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S186Aより新しい。	
Pt98 — — —	(28) × (25)	52	65 × 62	1	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	
Pt99 50 (円形)		52		2	10YR4/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S182より新しい。
Pt100 50 (円形)	(26) × (24)	17	70 × 66	3	10YR3/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S182より新しい。
Pt101 94-100 (円形)	65 × 62	17		1	10YR3/3 布褐色	粘土質シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S209・210より新しい。
Pt102 94 隅丸方形	70 × 66	29	(40) × (19)	2	10YR4/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	
Pt103 — — —	30	1		10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S199より新しい。	
Pt104 — — —	(40) × (19)	30	11	2	10YR4/4 布色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	S211より新しい。
Pt105 87 隅丸方形	34 × 31	11		1	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (10mm 程度) 多量含む。※柱痕跡	S199より新しい。
Pt106 93 (円形)	34 × 32	42	(40) × (44)	1	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (10mm 程度) - 黒褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	S212より新しい。
Pt107 86 (円形)	(26) × (24)	36		1	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5mm 程度) 多量含む。	S15より古く、S212より新しい。
Pt108 99 (相円形)	23 × 19	24	(40) × (19)	1	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5mm 程度) 多量含む。	S201より新しい。
Pt109 94 (円形)	(40) × (19)	17		2	10YR4/4 布色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	S209より新しい。
Pt110 93 (相円形)	69 × (67)	30	(40) × (44)	1	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	SE13より古く。
Pt111 58-65 隅丸長方形	72 × 54	29		2	10YR4/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (10mm 程度) - 底灰褐色	S184より新しい。
Pt112 65-72 隅丸方形	71 × 62	23	(40) × (44)	1	10YR4/2 底灰褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 40mm) 多量含む。※柱痕跡	明褐色土帶に、底灰褐色を含む。※柱痕跡
Pt113 50 隅丸方形	43 × 40	2		2	10YR3/3 ぶらー黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	S182より古い。
Pt114 — — —	(40) × (44)	30	1	10YR4/2 底灰褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡	※矢番 S185-P2に変更。	
Pt115 65-72 (隅丸方形)	40 × 44	30		2	10YR3/3 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡	
Pt116 — — —	(40) × (44)	30	3	10YR3/4 布褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡		
Pt117 — — —		30		4	10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR5/2 ブラック (5 ~ 20mm) 多量含む。	

ピット網査表(4)

査査名	Y' (m)	平面形	面積 (m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	重複
Pt116	58	圓丸形	51 × 40	60	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土と多量含む。	
					2 10YR3/3 喀斯特	シルト	N層土と微量含む。	
					3 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
					4 10YR3/3 喀斯特	シルト	N層土と微量含む。※柱孔跡	
					5 10YR4/4 喀斯特	シルト	N層土とブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。	
					6 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土と少量化。	
Pt116	58	圓丸形	51 × 40	60	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土と多量含む。	
					2 10YR3/3 喀斯特	シルト	N層土と微量含む。	
					3 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
					4 10YR3/3 喀斯特	シルト	N層土と微量含む。※柱孔跡	
					5 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。	
					6 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土と少量化。	
Pt117	51	(圓丸形)	(80) × (67)	24	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 80mm) 多量含む。※柱孔跡	Pt119より新しい。
					2 10YR5/6 黄褐色	シルト	に3・黃褐色土とブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	Pt119より新しい。
					3 10YR4/3 从黃褐色	シルト	N層土と微量含む。※柱孔跡	Pt117より古い。
					4 10YR4/3 从黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 少量含む。	Pt117より古い。
					5 10YR4/2 从黃褐色	シルト	N層土と少量化。	
					6 10Y4/1 灰色	シルト	灰白色土中に含む。※柱孔跡	
Pt118	58	(円形)	35 × (32)	18	1 10Y5/2 从灰オーバー色	シルト	灰オーバー色土とブロック (5 ~ 30mm) 微量含む。※柱孔跡	SD082より古く。
					2 10Y5/2 灰オーバー色	シルト	※柱孔跡	SD185より新しい。
Pt119	51	(圓丸形)	93 × (65)	25	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※柱孔跡	Pt121より古い。
					2 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	※柱孔跡	Pt121より新しい。
Pt120	—	—	—	—	—	—	—	—
					—	—	中等熟 (SI187-P4 に変更)	Pt121より古い。
Pt121	93	円形	24 × 20	19	1 10YR3/4 喀斯特	シルト	N層土と少量化。	SZ201 + 212より新しい。
					2 10Y4/4 喀色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 多量。炭化物少量化。	SZ201より新しい。
Pt122	99	(楕円形)	25 × 21	18	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SZ212より古く。
					2 10Y4/4 喀色	シルト	炭化物土とブロック (10mm 程度) 少量含む。	SZ202より新しい。
Pt123	86	(楕円形)	25 × 18	15	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SZ212より古く。
					2 10Y4/4 喀色	シルト	炭化物土とブロック (10mm 程度) 少量含む。	SZ202より新しい。
Pt124	73	円形	28 × 26	11	1 10YR4/3 喀斯特	シルト	N層土とブロック (10 ~ 30mm) 多量含む。	Pt123より古い。
					2 10YR4/3 喀斯特	砂質シルト	N層土とブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	Pt123より新しい。
Pt125	99	(楕円形)	31 × 25	22	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土とブロック (20 ~ 40mm) 多量含む。	SZ201より新しい。
					2 10Y4/4 喀色	シルト	※柱孔跡 (SI187-P4 に変更)	SZ201より新しい。
Pt126	80	圓丸形	59 × 50	12	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱孔跡	SZ201より新しい。
					2 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化。	SZ201 + 212より新しい。
Pt127	—	—	—	—	—	—	—	—
					—	—	中等熟 (SI187-P4 に変更)	
Pt128	73	(楕円形)	44 × 30	13	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土とブロック (5mm 程度) • 槍土ブロック (5mm 程度) 多量含む。	SZ197より新しい。
					2 10YR4/3 喀斯特	シルト	N層土と少量化。※柱孔跡	
Pt129	73	圓丸形	36 × 31	21	1 10YR3/4 喀斯特	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量。炭化物少量含む。	SZ212より古く。
					2 10YR4/4 喀色	シルト	※柱孔跡	SZ202より新しい。
Pt130	73+80	圓丸形	80 × 66	19	1 10YR4/3 喀斯特	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱孔跡	Pt132より古い。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土とブロック (30 ~ 50mm) 多量含む。	Pt132より古い。
Pt131	80	圓丸形	77 × 64	12	1 10YR4/3 喀色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱孔跡	SZ201より新しい。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土とブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。	SZ201より新しい。
Pt132	73	(楕円形)	35 × 29	13	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱孔跡	Pt130より新しい。
					2 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	※柱孔跡 (SI187-P2 に変更)	
Pt133	—	—	—	—	—	—	—	—
					—	—	中等熟 (SI187-P2 に変更)	
Pt134	94	(楕円形)	22 × 17	9	1 10YR3/3 喀斯特	シルト	N層土と多量化。	SZ208より新しい。
					2 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化。炭化物微量含む。	SZ243, Pt136より新しい。
Pt135	74	円形	30 × 23	10	1 10YR3/4 喀斯特	シルト	N層土と多量化。	Pt135より古い。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土と少量化。炭化物微量含む。	Pt135より古い。
Pt136	74	(円形)	34 × (26)	10	1 10YR3/4 喀色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 10mm) 多量。炭化物微量含む。	Pt135より古い。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土と多量化。	Pt135より古い。
Pt137	93	円形	28 × 22	22	1 10YR3/4 喀色	シルト	N層土と少量化。	SZ197より新しい。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土と少量化。	
Pt138	79	円形	31 × 23	15	1 10YR3/4 喀色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SZ204より新しい。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	※柱孔跡	
Pt139	79	円形	25 × 21	15	1 10YR4/3 喀色	シルト	に赤・黃褐色土多量含む。	
					2 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	※柱孔跡	
Pt140	74	(円形)	(27) × (25)	23	1 10YR3/4 喀色	シルト	に赤・黃褐色土多量含む。	SE4より古い。
					2 10YR5/6 黃褐色	シルト	※柱孔跡	SE200より新しい。
Pt141	74	圓丸形	21 × 21	21	1 10YR5/6 黃褐色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 100mm) 多量含む。	Pt235より古い。
					2 10YR4/4 喀色	シルト	上部に炭化物多量。N層土とブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。※柱孔跡	SZ112より古く。
Pt142	96	(楕円形)	(61) × (51)	36	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化。	SZ204より古く。
					2 10YR3/3 喀色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SZ204より新しい。
Pt143	79	(楕円形)	25 × 21	15	1 10YR4/3 喀色	シルト	炭化物土とブロック (20mm 程度) 多量含む。	
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	SE4より古い。
Pt144	89	(楕円形)	(44) × 39	34	1 10YR3/4 喀色	シルト	N層土とブロック (5 ~ 100mm) 多量含む。	Pt233より古い。
					2 10YR4/3 喀色	シルト	N層土と多量化。N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SE200より新しい。
Pt145	81	円形	54 × 47	16	1 10YR4/3 喀色	シルト	炭化物土と少量化。	
					2 10YR4/4 喀色	シルト	炭化物土とブロック (5mm 程度) 少量含む。	
Pt146	88	圓丸形	(79) × (46)	20	1 10YR4/3 喀色	シルト	炭化物土と少量化。	
					2 10YR4/3 喀色	シルト	炭化物土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	
Pt147	102	(楕円形)	(46) × (35)	17	1 10YR4/3 喀色	シルト	炭化物土と少量化。	
					2 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化。	
Pt148	89	(楕円形)	51 × (35)	20	1 10YR3/4 喀色	シルト	N層土と多量化。炭化物少量化。N層土微量含む。	SE200より古く。
					2 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と少量化。	SE194, Pt171より新しい。
Pt149	89	(楕円形)	(53) × (34)	26	1 10YR5/6 黃褐色	シルト	N層土と少量化。	
					2 10YR5/6 黃褐色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	SE200より古く。
Pt150	80	円形	19 × 16	20	1 10YR4/4 喀色	シルト	N層土と多量化。炭化物少量化。N層土微量含む。	SZ189 + 211より新しい。
					2 10YR5/6 黄褐色	シルト	N層土と少量化。	SZ185, SZ136Pより新しい。
Pt151	58-59	円形	60 × 59	10	1 10YR4/3 に赤・黃褐色	シルト	黒褐色土と少量化。	
					2 10YR6/6 黄褐色	シルト	黒褐色土と少量化。	
Pt152	51	(円形)	(39) × (32)	17	1 10YR5/6 黄褐色	シルト	N層土と少量化。	
					2 10YR5/6 黄褐色	シルト	N層土と少量化 (5mm 程度) 少量含む。	

ピット網標表(5)

遺構名	平面形	面積 (m) 長軸×短軸 (反対)	層位	土色	土性	備考	重複	
Pr153	(楕円形)	45 × (34)	39	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量。炭化物微量含む。※柱痕跡		
				2 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	SI182 より古く、 SI185 より新しい。	
				3 10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。		
Pr154	—	—	—	—	—	—	—	
Pr155	58 (楕円形)	39 × 32	24	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (20mm 程度) 少量含む。		
Pr156	58 (楕円形)	25 × 25	20	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
Pr157	58 (円形)	36 × (28)	13	1 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (20mm 程度) 少量含む。		
Pr158	58 楕円形	39 × 34	9	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量。炭化物微量含む。	SI185 より古く、 SI186A・B, SB13P8 より新しい。	
Pr159	—	—	—	—	—	※欠番 SB13P8 (に変更)		
Pr160	楕丸方形	49 × 43	32	1 10YR4/2 黒褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。	SI187 より新しい。	
				1 10YR4/2 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と、灰白色土少量。炭化物微量含む。※柱痕跡		
				1 10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ黄褐色土ブロック (5 ~ 30mm) 少量。炭化物微量含む。	SI186A より新しい。	
Pr161	65 (楕円形)	44 × 32	3	10YR3/3 に~黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (10mm 程度) に~5cm。Ⅳ耕土色上ブロック (10mm 程度) 少量。炭化物・植土料微量含む。		
Pr162	58 (円形)	34 × (30)	11	1 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	SI185, SB13P8 より古く、SI186A・B より新しい。	
Pr163	楕丸方形	40 × 38	55	1 10YR3/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。※柱痕跡	SI183・187 より新しい。	
				3 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。		
				1 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	SD105 より古く、SI190 より新しい。	
Pr164	60 (楕丸長方形)	53 × (38)	34	1 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。		
Pr165	65 (楕円形)	32 × (32)	9	1 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	灰白色土多量。炭化物微量含む。※柱痕跡	SI184 より古く、SI186A より新しい。	
Pr166	65 円形	17 × 15	7	1 10YR3/3 姫褐色	シルト	炭化物類・植土料少量。Ⅳ耕土料微量含む。	SI184 より古く、SI186A より新しい。	
Pr167	51 楕円形	24 × 14	9	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量。植土料少量化。	SI183・187 より新しい。	
Pr168	51 円形	32 × 32	24	1 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。	SI187, PR182 より新しい。	
Pr169	51 円形	31 × 29	17	1 10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ耕土と多量含む。※柱痕跡	SI187 より新しい。	
				2 10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
Pr170	楕円形	34 × 30	27	1 10YR3/3 姫褐色	粘土質シルト	Ⅳ耕土と多量含む。※柱痕跡	SI187 より新しい。	
				3 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 30mm) 多量。植土料と微量含む。		
				1 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。		
Pr171	(楕円形)	(31) × (22)	36	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	PR148 より古い。	
				2 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土色ブロック (5mm 程度) 多量。植土料微量含む。	SI195 より新しい。	
				1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量。炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pr172	68-75 (楕円形)	(58) × 58	12	1 10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
Pr173	68-75 (円形)	(41) × (41)	22	1 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	SD11 より古く、SI195 より新しい。	
				3 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。		
Pr174	60 (円形)	(43) × (25)	32	1 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。	SD105 より古く、SI252A より新しい。	
				2 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。※柱痕跡		
				3 10YR5/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
Pr175	—	—	—	1 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。	—	
				2 10YR3/3 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。※柱痕跡		
				3 10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
Pr176	50 円形	45 × 43	36	1 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	SI188, SB13P5, PR180 より新しい。	
				2 10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。		
				3 10YR5/6 黄褐色	シルト	に~黄褐色土 (5 ~ 10mm) 多量。炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pr177	—	—	—	—	—	※欠番 SB13P4 (に変更)		
Pr178	61 楕円形	66 × 43	30	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡		
				2 10YR3/3 姫褐色	シルト	下部Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。	SI195 より新しい。	
				3 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 30mm) 多量含む。		
Pr179	68 円形	47 × 42	17	1 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	4 10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 40mm) 多量含む。
				1 10YR3/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量。炭化物・植土料と少量化。※柱痕跡		
				3 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (10 ~ 20mm) 多量含む。		
Pr180	50-51 (楕円形)	87 × (78)	42	1 10YR5/4 に~黄褐色	シルト	5 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡
				2 10YR5/6 黄褐色	シルト	6 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
				3 10YR3/4 姫褐色	シルト	7 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 10mm) 多量含む。
Pr181	—	—	—	—	—	—	※欠番	
Pr182	51 楕丸方形	41 × 33	7	1 10YR3/4 姫褐色	シルト	2 2.5Y5/3 黒褐色	シルト	Ⅳ耕土と多量含む。
				3 10YR4/6 黄褐色	シルト	3 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土と少量化。
Pr183	(楕丸長方形)	(87) × (64)	61	1 10YR3/3 姫褐色	シルト	4 10YR4/6 黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡
				2 10YR3/3 姫褐色	シルト	5 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。炭化物・植土料多量含む。
				3 10YR4/3 に~黄褐色	シルト	6 10YR4/4 姫褐色	シルト	Ⅳ耕土ブロック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡
Pr184	51 円形	28 × 22	20	1 10YR4/4 姫褐色	シルト	—	—	SI187 より新しい。
Pr185	51 不整形	97 × 83	24	1 10YR4/4 姫褐色	シルト	—	—	SI187, PR186 より新しい。

ピット網査表(6)

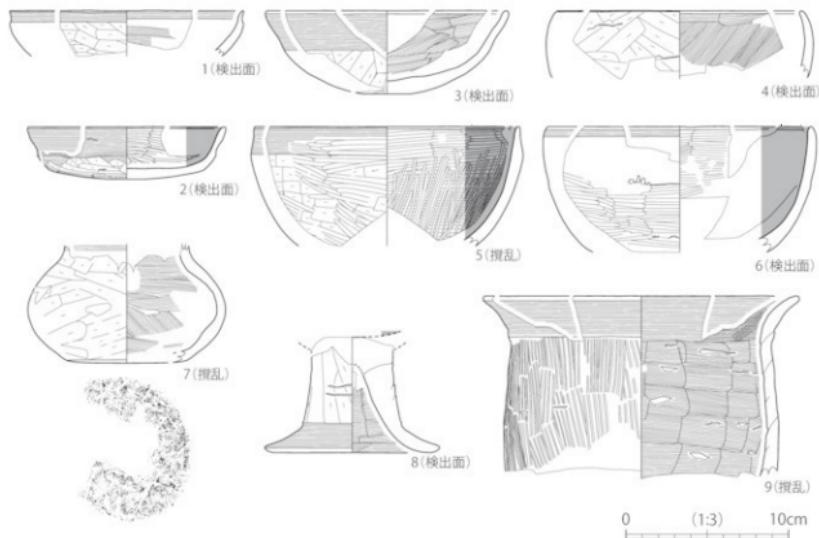
査査名	Y'x'z'	平面形	面積(m <sup>2</sup> )	層位	土色	土性	備考	重複
Pt186	51	(隅丸方形)	(47) × (46)	28	1 10YR5/6 黄褐色	シルト	粘土質土ブロック (高さ ~ 50mm) 多量含む。	
					2 10YR3/3 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 20mm) 少量含む。※柱础跡	Pt185より古く、 Pt187より新しい。
					3 10YR8/4 棕褐色	シルト	褐色土質土層含む。※柱础跡	
					4 10YR4/3 にふく 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 20mm) 多量。炭化物類微量含む。	
					5 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。植生土被微含む。	
Pt187	—	—	—	—	—	—	中古系 (SL13-P) に変更。	
Pt188	—	—	—	—	—	—	中古系 (SL13-P) に変更。	
Pt189	68	(隅丸方形)	(86) × (29)	29	1 10YR3/3 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。	
					2 10YR4/3 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 20mm) 多量。炭化物類・植生土被微量含む。	Pt185, Pt191より新しい。
					3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 30mm) 多量。炭化物類微量含む。	
Pt190	68	(隅丸方形)	(32) × (31)	9	1 10YR3/3 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 50mm) 多量。炭化物類・植生土被微量含む。	Pt189より新しい。
Pt191	68	(梅円形)	46 × C89	11	1 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 20mm) 多量含む。	Pt189より古い。
Pt192	61-68	(円形)	(29) × 26	37	1 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 10mm) 多量。炭化物類・植生土被微量含む。	Pt189より新しい。
Pt193	68	円形	21 × 21	10	1 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類・植生土被微量含む。	Pt195より新しい。
Pt194	68	(隅丸方形)	73 × (31)	42	1 10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 50mm) 多量含む。	
					2 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。	
					3 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					4 10YR4/6 喀啡色	シルト	粘土質シルト 粘土質土ブロック (高さ ~ 20mm) 多量。炭化物類・植生土被微量含む。	
					5 10YR3/4 喀啡色	砂質シルト	IV層土粒多額。にふく 黄褐色土粘土少額含む。	
Pt195	68	(梅円形)	(37) × (22)	38	1 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 10mm) 多量含む。※柱础跡	Pt195より新しい。
Pt196	59	(梅円形)	(79) × (45)	30	1 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。	
					2 10YR4/6 喀啡色	シルト	炭化物類・植生土被微量含む。	Pt189, Pt190より新しい。
					3 10YR4/3 喀啡色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
Pt197	68	(円形)	18 × 18	12	1 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	Pt195より新しい。
Pt198	68	(円形)	(23) × 20	33	2 10YR4/3 喀啡色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	Pt111より古く。 Pt195より新しい。
Pt199	68	(梅円形)	43 × 30	21	3 10YR4/3 にふく 黄褐色	シルト	IV層土粒多額含む。	
					4 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 50mm) 多量含む。	
					5 10YR4/3 喀啡色	シルト	にふく 黄褐色土粘土 (相模原) ブロック (50 ~ 70mm) 多量含む。	
Pt200	68	(梅円形)	(47) × 41	23	1 10YR4/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 10mm) 多量含む。	Pt194より古く。 Pt195より新しい。
Pt201	68	円形	22 × 21	13	2 10YR4/6 喀啡色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					3 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					4 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
Pt202	68	(円形)	(16) × (13)	68	1 10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土粒多額含む。	Pt195より新しい。
Pt203	52-60	円形	34 × 31	47	2 10YR4/6 喀啡色	シルト	粘土質土ブロック (10mm程度) 重量含む。	
					3 10YR4/3 にふく 黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。※柱础跡	
					4 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					5 10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					6 10YR4/3 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。※柱础跡	
Pt204	51-59	円形	29 × 27	24	1 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 10mm) 多量含む。	
					2 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土ブロック (高さ ~ 20mm) 少量含む。	
					3 10YR4/6 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
Pt205	60	(円形)	57 × (46)	52	1 10YR4/6 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					2 10YR4/3 喀啡色	シルト	IV層土粒少額。白土土被微量含む。	
					3 10YR3/4 喀啡色	シルト	IV層土粒微量含む。	
Pt206	60	(隅丸方形)	(50) × (50)	46	4 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					5 10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					6 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					7 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					8 10YR3/3 黑褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
Pt207	60	(隅丸方形)	(60) × (52)	59	1 10YR4/2 从赤褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					2 10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					3 10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					4 10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
					5 10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土粒多額。炭化物類微量含む。	
Pt208	52-60	隅丸方形	35 × 31	54	6 10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。※柱础跡	
					7 10YR3/4 にふく 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					8 10YR4/3 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					9 10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					10 10YR4/3 にふく 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
Pt209	60	梅円形	49 × 43	42	1 10YR3/4 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					2 10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					3 10YR4/3 にふく 黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	
					4 10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土粒少額。炭化物類微量含む。	

ピット網底表(7)

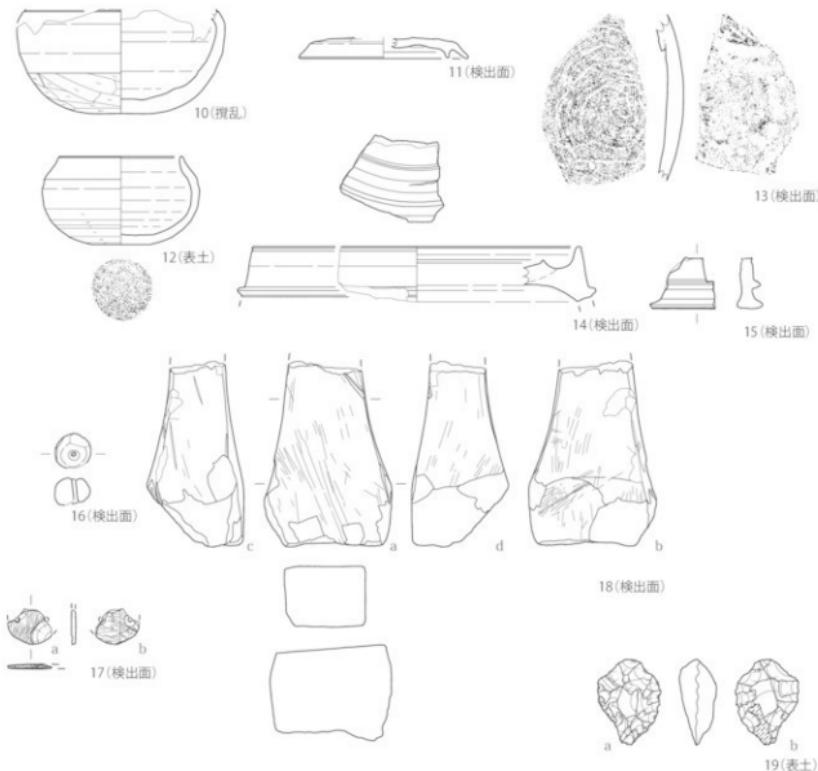
遺構名	名前	平面形	面積 (m) 長軸×短軸	層位 (段)	土色	土性	参考	備考
Pr210	61 (楕円形)	(35) × (33)	20	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土と少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色土と多量。IV層土と少量含む。	
				3	10YR4/4 黄褐色	シルト	IV層土と灰白色土と少量含む。	
Pr211	60 楕円形	54 × 34	36	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	灰白色土と少量。炭化物微量含む。	
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	シルト	SD25A・Bより新しい。
				3	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量。炭化物少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr212	61 (楕丸形)	53 × (50)	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量。炭化物少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD104より古く、SD25Aより新しい。
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量。炭化物少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD104より古く、SD25Aより新しい。
				3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 50mm) 多量含む。	
Pr213	—	—	—	—	—	—	—	
Pr214	60 (楕丸形)	(69) × (56)	53	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量含む。※柱痕跡	
				2	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	SD105より古く、SD25Aより新しい。
				3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 30mm) 多量含む。	
Pr215	—	—	—	—	—	—	—	
Pr216	60 楕円形	54 × 34	28	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 30mm) 多量含む。※柱痕跡 (根毛あり)	
				2	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	SH101, SD25A・Bより新しい。
				3	10YR3/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と多量含む。	
Pr217	—	—	—	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色とブロック (5 ~ 20mm) 少量含む。	
				—	—	—	※久希 SD25A・P13に変更	
				—	—	—	※久希 SD25B・P5に変更	
Pr218	—	—	—	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD25A・B, PH239より新しい。
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 40mm) 多量。炭化物少額。下部に100mm程度の白い塊を含む。※柱痕跡	
				3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 50mm) 多量含む。	
Pr219	—	—	—	—	—	—	—	
Pr220	60 (楕円形)	(42) × (26)	30	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD25A・B, PH239より新しい。
				2	10YR4/1 姫褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SD254, PH222より新しい。
				3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
Pr221	—	—	—	—	—	—	—	
Pr222	60 (楕円形)	29 × (21)	40	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	PH220より古く、SD254より新しい。
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
				3	10YR5/1 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
Pr223	61+68 (円形)	25 × (22)	32	1	10YR4/1 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 80mm) 多量含む。※柱痕跡	SK184より古く、SD254より新しい。
				2	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土と少額。黒褐色土と少量含む。	
				3	10YR4/3 姫褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	
Pr224	68 円形	22 × 19	8	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	SD254より新しい。
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色と少額含む。	
				3	10YR6/6 黄褐色	シルト	暗褐色と少額含む。	
Pr225	61 円形	26 × 26	16	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	PH220より古く、SD254より新しい。
				2	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
				3	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 20mm) 多量含む。	
Pr226	61 (円形)	30 × (27)	17	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	
				2	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	
				3	10YR3/3 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr227	61 円形	27 × 26	9	1	10YR3/3 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				2	10YR4/1 岩褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				3	10YR4/2 黑褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr228	51 (円形)	(16) × (14)	8	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5mm程度) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	SH183, SK193より古い。
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
				3	10YR4/3 姫褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
Pr229	58 (楕円形)	(71) × (52)	25	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土と多量含む。	
				2	10YR4/4 岩褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/2 黑褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr230	59 (楕丸長方形)	(106) × 66	26	2	10YR4/1 岩褐色	粘土質シルト	岩オリバー色とブロック (5 ~ 70mm) 多量。IV層土と少量含む。※柱痕跡	SH185, SH13P6より古い。
				3	2.5YT/2 黑褐色	粘土質シルト	暗灰色と少額含む。※柱痕跡	
				4	10YR7/6 町田岩褐色	シルト	暗灰色とブロック (5 ~ 10mm) 多量。IV層土と少量含む。※柱痕跡	
Pr231	50 (楕円形)	67 × (58)	42	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	SH182, PH94より古い。
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土と多量含む。	
Pr232	58 円形	30 × 29	16	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
				3	10YR4/3 黑褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
Pr233	50 円形	34 × 27	26	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。	
				2	10YR4/3 黑褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr234	50+51 (楕円形)	(37) × 26	26	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SH188, PH180より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	
				3	10YR6/6 黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	
Pr235	50+51 (楕円形)	(29) × 17	25	1	10YR3/3 姫褐色	シルト	IV層土と多量含む。※柱痕跡	SH188, PH180より古い。
				2	10YR3/4 岩褐色	シルト	IV層土と少額含む。※柱痕跡	
				3	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土と少額含む。	
Pr236	59 (円形)	(27) × (27)	41	1	10YR3/3 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 50mm) 多量。炭化物微量含む。※柱痕跡	
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土と少額含む。	
Pr237	51+59 (円形)	(42) × 39	38	1	10YR3/3 岩褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 多量含む。※柱痕跡	SH187より新しい。
				2	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土と少額含む。※柱痕跡	
Pr238	59 (楕丸長方形)	(95) × (76)	47	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土と少額。炭化物微量含む。※柱痕跡	SH219より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色と少額含む。※柱痕跡	
				3	10YR3/3 岩褐色	シルト	暗褐色と少額含む。※柱痕跡	
Pr239	52 (楕円形)	(39) × (32)	32	1	10YR4/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土とロック (5 ~ 10mm) 少量。炭化物微量含む。※柱痕跡	SH219より古い。

## (8) 遺構外出土遺物 (第280・281図)

ここでは遺構検出時に出土した遺物を取り上げる。出土遺物は土師器・須恵器など古代の遺物が大半を占めており、このほかに弥生土器・陶磁器・石器類・金属製品・土製品・瓦などがある。土師器9点、ロクロ土師器1点、須恵器5点、石器及び石製品3点、土製品1点の計19点を掲載した(第280図-1~9、第281図-10~19)。1~3は土師器壺である。1は北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を持つ。緩やかに内湾する体部から口縁部が「S」字状に短く直立する。2は平底風の丸底で、外面の口縁部と体部の境に段を持つ。3は口縁部上半が内湾気味となる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面は体部がヘラナデのもの1・3とヘラミガキのもの2がある。4~6は土師器鉢である。いずれも体部から口縁部にかけて内湾し、5は口縁部が直立して口縁端部に向かって器壁が薄くなる。7は土師器壺で、体部は扁平な球状を呈し、体部中位に最大径を持つ。8は土師器高环の脚部である。脚部は中空で、裾部は屈曲して短く広がる。9は外面の口縁部と胴部の境に稜を持つ土師器蓋である。口縁部は外反し、内外面に輪積痕がみられる。10はロクロ土師器壺で、外面の体部下半にヘラケズリによる再調整が施されている。11は須恵器蓋で、内面にカエリを持つ小型品である。天井部は平坦で、カエリ端部と口縁端部がほぼ同じ高さに位置する。12は須恵器短頸壺である。体部が扁平な球状を呈し、口縁部は短く内傾する。体部から底部にかけて火痕痕がみられる。13はフラスコ形長頸瓶の体部である。外面に複数条重複する溝巻き状の工具痕がみられる。開口部分に粘土板を張り付け塞いだと考えられる痕跡がみられることから、閉塞技法により成形されたものと考えられる。14・15は須恵器円面硯である。14は硯面から圓台上部にかけての破片資料である。陸部の外縁に低い内堤、圓台の上端に高い外堤を巡らす。15は裾の縁部に突堤を巡らす脚部で、十字形と推定される透かしを持つ。16は土玉である。断面形状は扁円形を呈し、孔径は0.2cmである。17は鏡形石製模造品で、2ヶ所の穿孔がみられる。18は砥石で、砥面は4面である。19は石錐である。



第280図 遺構外出土遺物(1)



0 (2:3) 5cm 0 (1:2) 5cm 0 (1:3) 10cm  
※回版番号 19 16~18

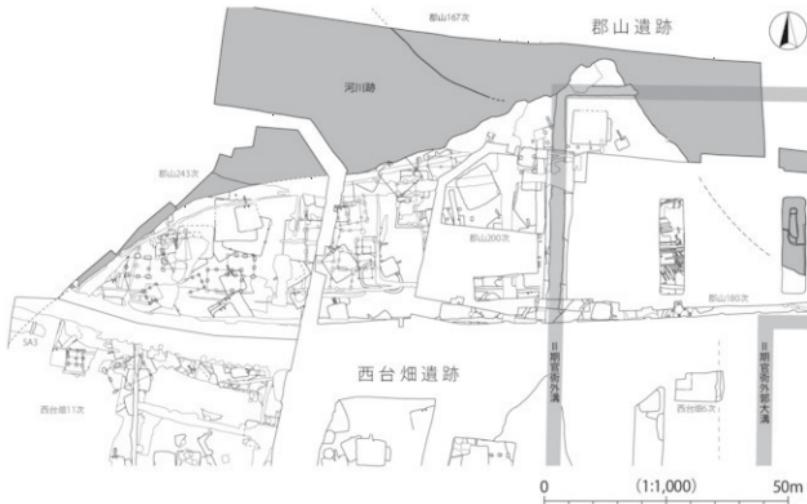
回版 番号	標 記	出土地點	層位	種別	器種	法量 (cm)	外面調整	内部調整	備考	写真 版面	
1	C-180	調査区 北東中央	梭出面	土師器	环	(14.4)	—	(2.8) 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	開東系	41	
2	C-193	87° 台下	梭出面	土師器	环	(12.0)	—	3.2 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	内面黑色處理	41	
3	C-194	調査区 南側部	梭出面	土師器	环	(14.8)	—	5.1 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	41		
4	C-191	58° 台下	梭出面	土師器	环	(15.0)	—	4.2 59.1°	41		
5	C-198	50° 台下	規丸	土師器	鉢	(16.2)	—	(7.3) 口縁: 22.9° → 59.1° 底部: 59.1° → 91.8°	横位の口縁 → 腹位の口縁 内面黑色處理	41	
6	C-195	86° 台下	梭出面	土師器	鉢	(16.2)	—	(7.7) 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	外周半空摩滅 内面黑色處理	41	
7	C-197	調査区 北東	規丸	土師器	鉢	—	(7.4)	(7.3) 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	胴部: 59.1°	41	
8	C-190	49° 台下	梭出面	土師器	高环	—	10.2	(7.1) 開口: 59.1° 底部: 59.1°	胴部: 59.1° 環部: 59.1°	環部内面黑色處理	42
9	C-199	65° 台下	規丸	土師器	鉢	(19.4)	—	(11.2) 口縁: 22.9° 底部: 59.1°	口縁: 76.4 → 32.9° 胴部: 59.1°	42	

第281図 遺構外出土遺物 (2)

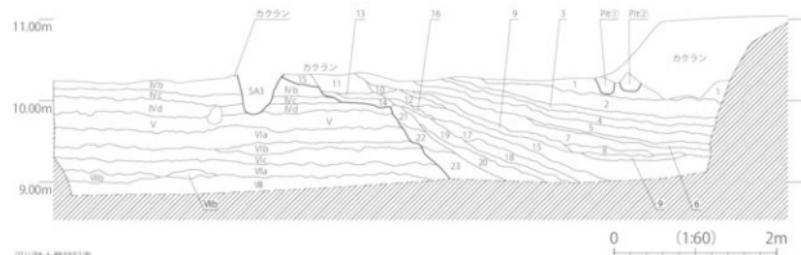
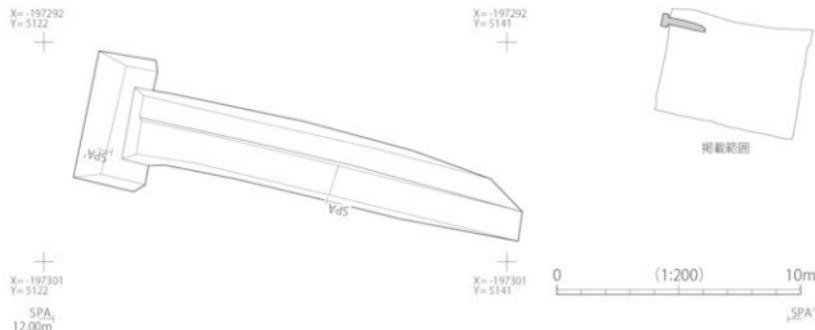
調査番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真回数
						全長	幅	厚さ				
10	D-002	調査区 土塁部	複乱	口クロ 土師器	壺	—	—	(6.4)	脚部：沈殿、体上平：吻付 体下平：吻付	吻付	—	42
11	E-034	調査区 中央南	椚出面	須惠器	壺	(10.2)	—	(1.3)	口縁：吻付調整 天井部：回転六方足	吻付調整	海綿付針摺痕有り	42
12	E-038	表土	須惠器	短瓶	(7.6)	3.6	5.4	—	口縁：吻付調整 体下平：回転六方足 底部：回転素切り？回転六方足	吻付調整	—	42
13	E-037	調査区 中央南	椚出面	須惠器	フラスコ形 長瓶	—	—	(10.2)	酒呑き状の工具瓶	井	—	42
14	E-035 (94.7分)	椚出面	須惠器	円瓶	(20.0)	—	(3.4)	吻付調整	吻付調整	上面輪付有り	42	
15	E-036 (94.7分)	椚出面	須惠器	円瓶	—	—	(3.1)	吻付調整	吻付調整	外面自然輪付有り	42	
調査番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真回数	
						全長	幅	厚さ				
16	P-005	79.7m	椚出面	土製品	土玉	1.4	1.4	1.0	(2.1)	孔径0.2cm、一部欠損	—	42

## (9) 河川跡 (第282・283図)

調査区北側に隣接する郡山遺跡第243次調査の調査成果から、今回の調査区では西端部で河川跡が検出されることが想定されていた。しかし、擾乱により古代の遺構検出面では河川跡を確認することができなかった。このため、古代面の調査終了後に、下層調査と並行して河川跡を確認するため、調査区北西部にトレンチを設定し調査を行った。トレンチ壁面で確認した河川跡の堆積土上層には、十和田a火山灰（推定915年）が堆積し、古代以前から形成されていたことが推定され、堆積状況から流水・帶水を繰り返しながら埋没したものと考えられる。



第282図 河川跡(1)



河川跡土層記録

順位	土色	土性	標高
R b	10YR5/4 にふく黄褐色	シルト	
R c	10YR6/4 にふく黄褐色	シルト	
R d	10YR7/6 明黄褐色	シルト	
V	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	10.00m
V la	10YR6/4 にふく黄褐色	シルト	10.00m
V lb	10YR6/3 にふく黄褐色	シルト	10.00m
V lc	10YR4/1 黄灰色	シルト	10.00m
V ld	10YR3/3 哈褐色	粘土質シルト	10.00m
V le	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10.00m
V lf	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10.00m
1	10YR3/4 哈褐色	シルト	9.00m
2	10YR4/4 黄色	砂質シルト	9.00m
3	10YR5/4 にふく黄褐色	細砂	9.00m
4	10YR4/4 黄色	砂質シルト	9.00m
5	10YR4/4 黄色	シルト	9.00m
6	10YR4/4 黄色	シルト	9.00m
7	10YR4/6 黄色	砂質シルト	9.00m
8	10YR5/4 にふく黄褐色	細砂	9.00m
9	10YR4/4 黄色	細砂	9.00m
10	10YR4/4 黄色	シルト	9.00m
11	10YR5/3 にふく黄褐色	シルト	9.00m
12	10YR5/4 にふく黄褐色	シルト	9.00m
13	10YR4/4 黄色	シルト	9.00m
14	10YR4/4 黄色	シルト	9.00m
15	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	9.00m
16	10YR3/4 哈褐色	シルト	9.00m
17	10YR5/6 黄褐色	細砂	9.00m
18	10YR5/4 にふく黄褐色	細砂	9.00m
19	10YR5/6 黄褐色	粗砂	9.00m
20	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粗砂	9.00m
21	10YR4/3 にふく黄褐色	シルト	9.00m
22	10YR3/4 哈褐色	シルト	9.00m
23	10YR4/1 黄色	シルト	9.00m
PT(1)	10YR4/3 にふく黄褐色	シルト	9.00m
PT(2)	10YR4/3 にふく黄褐色	シルト	9.00m

第283図 河川跡 (2)

### 第 3 節 弥生時代の遺構と遺物（第 284 ~ 299 図）

基本層IV層上面の調査において、弥生土器・石器が出土していたことと、調査区南半部の井戸跡や擾乱等の壁面観察で、弥生時代の遺物包含層と考えられる層や炭化物の集中する部分が確認されていたことから、古代面の遺構調査終了後、調査区南半部に東西 2 ケ所の調査区を設定し下層調査を行った（下層調査 A・B 区）。その後、A 区の調査で弥生時代以前の河川跡に伴う堆積土を確認したことから、本調査区東部と郡山遺跡第 243 次調査区との基本層序の関係を確認するために新たに調査区を設定し下層調査を行った（下層調査 C 区）。

以下、調査区毎に記載する。

#### (1) 下層調査 A 区（第 284 ~ 294 図）

本区の調査は、調査区南東部の 80・81・87・88・94・95・100・101・104・105 グリッドに東西 15m × 南北 16 m の調査区を設定し実施した。調査は基本層IV d 層から層位毎に掘り下げを開始した。各層理面において遺構や遺物の有無について確認を行ったところ、基本層IV d 層及び V 層で弥生時代中期中葉の遺物包含層を確認した。また、調査区壁面の観察で、砂層の落ち込みを確認したことから、河川跡の存在が想定されたため、当初の調査計画を変更し、調査区中央に東西方向のトレンチを設定し調査を行った。その結果、弥生時代の遺物包含層が形成される以前の北西 - 南東方向と推定される河川跡を確認した。土層断面の観察から、弥生時代中期中葉の遺物包含層である基本層IV d・V 層が堆積する段階では、まだ河川跡の埋没が終わらず、窪地として残存している状況であったものと考えられた。遺物は、概ね河川跡の窪地に沿うような状況で出土している。このうち、調査区南東側では南北約 390cm × 東西約 200cm の範囲に不整形な炭化物の集中範囲が認められ、遺物はその周辺から集中して出土している（第 285 図）。このため、調査区南東側の一部を拡張して遺物及び炭化物の拡がりを確認したが、さらに南東側に拡がることが認められた。西台畠遺跡第 3 次調査においても、同様の炭化物範囲が検出されており、炭化物及び遺物の集中範囲として報告されている（仙台市教育委員会 2011）。本調査区においても、住居跡などの遺構が想定されたが、炉跡や柱穴などは確認することはできず、河川跡の窪地に遺物及び炭化物が集中しているものと判断した。弥生土器は弥生時代中期前葉（2a 期）～中葉（2b 期）の時間幅があり、壺・鉢・台付鉢・高环・蓋・深鉢・甕が出土している。なお、遺物の大部分は基本層IV d 層からの出土で、基本層V 層からは細片のみの出土である。このため、基本層V 層出土遺物については、図化できる遺物はなかった。

#### IV d 層出土遺物

弥生時代の遺物包含層である基本層IV d 層からは、弥生土器・剥片石器・礫石器などコンテナ 3 箱程度が出土している。以下、種別毎に記載する。

##### a. 弥生土器

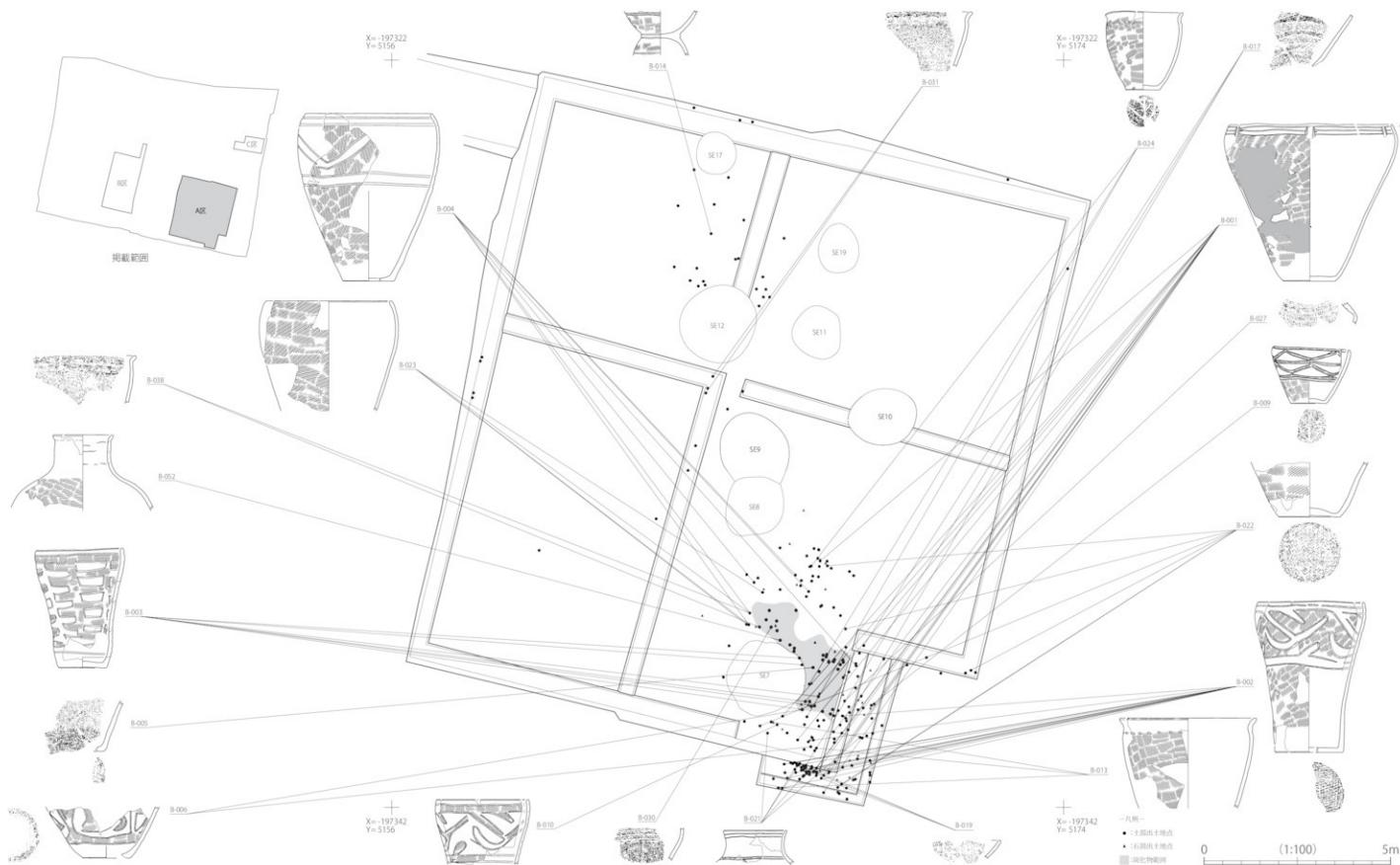
基本層IV d 層から出土した弥生土器は、弥生時代中期前葉（2a 期）～中葉（2b 期）の時間幅がある。壺 7 点、鉢 11 点、台付鉢 1 点、高环 5 点、蓋 3 点、深鉢 9 点、甕 11 点を掲載した（第 286 ~ 292 図）。

#### 壺（第 286 図）

壺は、全体の器形を復元できる個体はないが、中型品（1 ~ 3・7）と小型品（4・5）がある。器形は、頸部が直立し、口縁部が短く外傾するもの（1）、頸部から口縁部にかけて直立気味に外反するもの（2）、頸部が内傾し、口縁部が短く外傾するもの（3）がある。装飾文様が施される精製土器と施されない粗製土器があり、装飾文様の部位は口縁部と体部にある。文様を構成する沈線は横位直線文を主体とし、幾何学文（6）との組み合わせが施す

第284図 下層調査A区 平・断面図



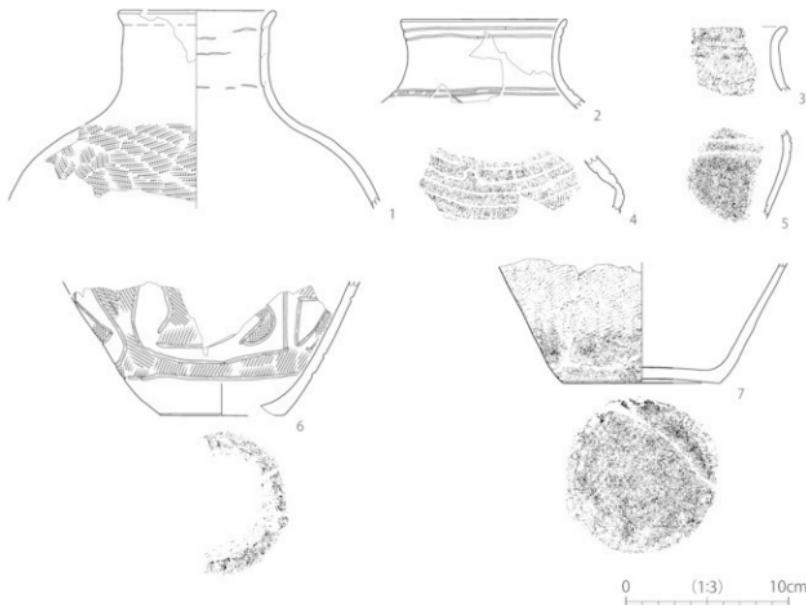


第 285 图 基本层 IV d 层弥生土器出土状况图



## 下層調査 A 土壌記表

層位	土色	土性	備考
IV-a2	10YR4/6 細色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm) 多量含む。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-b2	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量含む。※IV-b 1層よりやや明るい。
IV-c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d1	10YR4/6 細色	粘土質シルト	明黄褐色の頁土多量。炭化物少量含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色多量。炭化物少量含む。
V	10YR4/4 細色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土色多量。炭化物少量含む。
M	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色多量含む。
IV-a1	10YR4/6 細色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm)・マンガン粒多量含む。
IV-a2	10YR4/6 細色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm) 多量含む。※IV-a1 層よりやや暗い。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d1	10YR4/4 細色	シルト	明黄褐色の頁土多量含み。炭化物微量含む。
IV-d2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量。明黄褐色砂質土ブロック(5mm程度) 少量含む。
IV-e1	10YR4/4 細色	シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度) 多量。炭化物微量含む。
IV-e2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土現状含む。
V	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
IV-a1	10YR4/6 細色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm)・マンガン粒多量含む。
IV-a2	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm) 多量含む。IV-a1 層よりやや暗い。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d1	10YR4/4 細色	シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度) 多量。炭化物微量含む。
IV-d2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土現状含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度)・マンガン粒多量含む。
IV-e2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
V	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
IV-a1	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm)・マンガン粒多量含む。
IV-a2	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～30mm) 多量含む。IV-a1 層よりやや暗い。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d1	10YR4/4 細色	シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度) 多量。炭化物微量含む。
IV-d2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土現状含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度)・マンガン粒多量含む。
IV-e2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
V	10YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(5mm程度) 多量。にぶい黄褐色土質土現状含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
IV-a1	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	マングル粒少量含む。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-b2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-c	10YR4/4 細色	粘土質シルト	明黄褐色土色多量含み。炭化物微量含む。
IV-d1	10YR4/3 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d2	10YR4/2 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量含み。炭化物微量含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土現状含む。
IV-e2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
V	10YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色粘土質土ブロック(5mm程度) 多量。にぶい黄褐色土質土現状含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
IV-d2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量。明黄褐色砂質土ブロック(5mm程度) 少量含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質土現状含む。
IV-e2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質土ブロック(5mm程度)・マンガン粒多量含む。
V	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色砂質土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質土現状含む。
IV-a1	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	マングル粒少量含む。
IV-b1	10YR5/6 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量。にぶい黄褐色土ブロック(5～10mm) 少量含む。
IV-b2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-c	10YR4/4 細色	粘土質シルト	明黄褐色土色多量含み。炭化物微量含む。
IV-d1	10YR4/3 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土色少量含む。
IV-d2	10YR4/2 黄褐色	シルト	明黄褐色土色多量含み。炭化物微量含む。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土現状含む。
IV-e2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色の頁土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
V	10YR4/3 黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色粘土質土ブロック(5mm程度) 多量。にぶい黄褐色土質土現状含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土色現状含む。
IV-d2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～20mm)・マンガン粒多量。細化鉄斑少量含む。※一部グラウイ化。
IV-e1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質土現状含む。
IV-e2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質土ブロック(5mm程度)・マンガン粒多量含む。
V	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色砂質土ブロック(10mm程度)・マンガン粒多量含む。
M	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質土現状含む。
X-b	10YR3/1 黒褐色	粘土	細化鉄斑多量含む。
1	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	※グラウイ化。
2	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～20mm)・マンガン粒多量。細化鉄斑少量含む。※一部グラウイ化。
3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～20mm) 多量。マンガン粒・細化鉄斑少量含む。※一部グラウイ化。
4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	マンガン粒多量含む。※一部グラウイ化。
5	10YR4/6 細色	砂質シルト	マンガン粒多量含み。下部に細化鉄沈着。※一部グラウイ化。
6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～20mm) 多量。マンガン粒・細化鉄斑少量含む。※一部グラウイ化。
7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～20mm) 多量。マンガン粒・細化鉄斑少量含む。※一部グラウイ化。
8	10YR5/6 にぶい黄褐色	砂質シルト	細化鉄斑多量含む。
9	10Y5/3 灰色	砂質シルト	細化鉄斑・炭化物少量含む。
10	10Y4/1 灰色	砂質シルト	※グラウイ化。
11	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土	にぶい黄褐色細土と細化色砂粘土の互層。
12	2.5Y5/3 にぶい黄色	砂質シルト	マンガン粒多量含み。細化鉄斑中に沈着。
13	2.5Y5/3 黄褐色	細砂	細化色土ブロック(5～20mm) 少量含む。
14	10Y5/1 灰色	シルト	細化鉄斑・炭化物微量含む。
15	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細化鉄斑少量含む。
16	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	細砂・細化鉄斑多量含む。※一部グラウイ化。
17	10Y5/1 灰色	砂質シルト	細化色土塊状に含み、木片少量含む。
18	2.5Y5/1 黒褐色	シルト	灰色土・炭化物・木片多量含む。
19	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	炭化物粒・木片多量含む。
20	2.5Y5/3 黄褐色	粗砂	部分的に礫(5～30mm) 含み、下部に細化鉄沈着。
21	2.5Y5/3 黄褐色	粗砂	部分的に礫含む。
22	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	木片多量含む。
23	10YR3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土粒多量含む。
24	2.5Y5/1 黑褐色	シルト	灰黄褐色土粒多量含む。
25	2.5Y5/1 黑褐色	砂質シルト	木片微量含む。部分的に灰土含む。
26	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	※一般的に礫含む。
27	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗砂	部分的に礫含む。
28	10YR5/6 黄褐色	粗砂	細化鉄斑含む。
29	10YR5/6 黄褐色	粗砂	細化鉄斑含み。炭化物微量含む。
30	10YR4/6 黄褐色	粗砂	下部に礫(5～10mm) 含み、部分的にマンガン粒含む。
31	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗砂	細化鉄斑少量含み、細化鉄斑中に沈着。
32	2.5Y5/6 にぶい黄褐色	砂質シルト	マンガン粒多量含み、細化鉄斑中に沈着。
33	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細化鉄斑中に沈着。



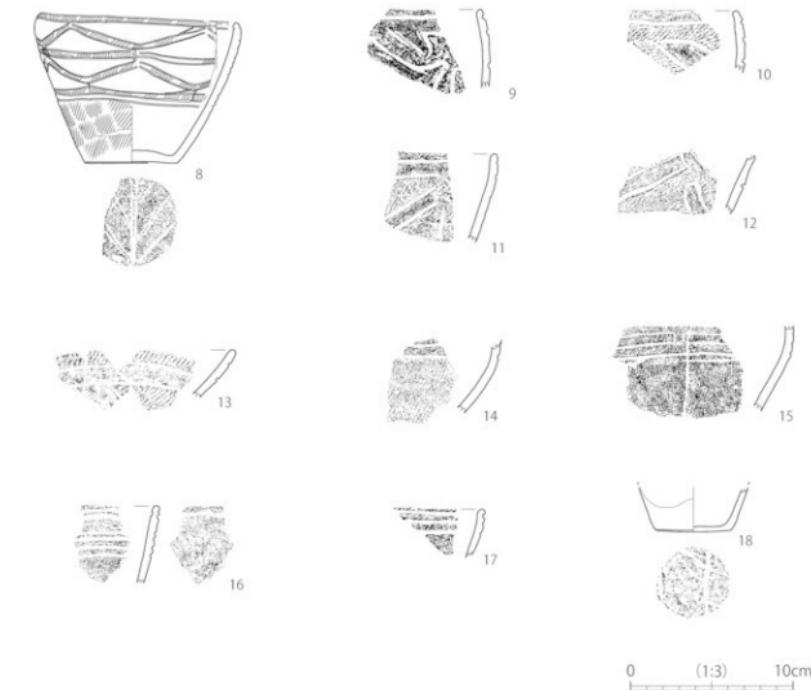
測定番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考	写真回数
1	B-052	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	口縁～ 体上半	口縁：直線～ 附加条(直線文) LR + 2R 底部：直線～ 附加条(直線文) LR + 2R	縫合：直線		42
2	B-021	105 γ 6+P	VI d 縫	陶生土器	壺	口縁～ 体上半	口縁：直線(横筋直線文) 附加条(直線文) LR + 2R 底部：直線～ 附加条(直線文)	縫合：直線	外面洗輪内に赤彩痕跡	42
3	B-011	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	口縁～ 2R部	口縁：直線 2R部：斜切	口縁：直線 2R部：直線(粗)		42
4	B-027	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	体部	体部：直線～ 附加条(直線文) LR + R →直線～ 附加条(直線文) LR + R →直線(横筋直線文)	縫合：直線	外面洗輪内に赤彩痕跡	42
5	B-041	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	体部	体部：直線～ 附加条(直線文) LR + R →直線(横筋直線文)	縫合：直線		42
6	B-006	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	体下半	体下半：直線～ 附加条(直線文) LR + R →直線(幾何文)	縫合：直線	外面赤彩痕跡 底部深成後穿孔か	43
7	B-039	101 γ 6+P	IV d 縫	陶生土器	壺	体下半～底部	体下半：直線～ 附加条(直線文) LR + R →直線(斜切) 底部：側面直線～直線(粗)	縫合：直線	内面洗輪	42

第286図 下層調査A区出土遺物(1)

される。文様内は地文が充填されるもの(2・4～6)で、地文はいずれも縄文で、縄文原体には単節(LR)、附加条(LR+2R+LR+R)がある。文様の洗輪内に赤彩の痕跡が残るもの(2・4)がある。文様が施されない頸部にはミガキ調整が施されるもの(1・2)とハケメ調整が施されるもの(3)がある。底部には網代痕がみられ、粗雑なミガキ調整が施されるもの(7)がある。この他、焼成後に底部を穿孔した可能性があるもの(6)がある。

## 鉢(第287図)

鉢(鉢と推定される資料を含む)は、全体の器形を復元できる個体が1点で、口径と器高の比率が1:0.76である。器形は、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾するもの(8・11・14・15・17)、内湾気味に直立するもの(9・



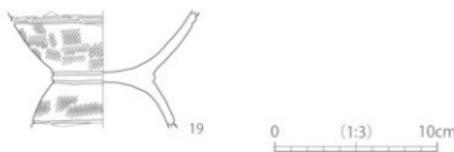
图版 序号	器物 番号	出土地点	部位	种类	器種	部位	外部調整 (文様)	内部調整 (文様)	備考	写真 番号
8	B-009 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	口部～ 底部	口部～ 体上半 体下半	口部～ 体上半：浅腹→LR 織文→洋↑ (横位直腹文+浅凹工字文+山形文) 体下半：LR 織文橫位↑斜+底部：木型幅	口部：沈腹(横位直腹文) 洋↑ 横位直腹文(粗)		42
9	B-016 105 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄 or 跛	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部～ 体上半：浅腹→洋↑ (横位直腹文+浅凹工字文)	横位直腹文(粗)		42
10	B-033 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄 or 跛	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部～ 体上半：浅腹→LR 織文→洋↑(横位直腹文+浅凹工字文)	横位直腹文(粗)	内部炭化物付着	42
11	B-020 88 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部：沈腹→洋↑ 体上半：浅腹→LR 織文橫位↑斜+洋↑ (横位直腹文+浅凹工字文)	横位直腹文(粗)		42
12	B-034 88 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	体部	体部	体部：沈腹→LR 織文(未端結束點) 横位· 斜位↑(横位直腹文+浅凹工字文)	洋↑(粗)		42
13	B-019 105 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄 or 跛	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部～ 体上半：浅腹→LR 織文→洋↑(横位直腹文+浅凹工字文)	横位直腹文(粗)		43
14	B-007 105 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	体部	体部	体部：LR 織文(直腹文 3 条?) 横位↑斜+ 沈腹→洋↑(横位直腹文)	洋↑	内部炭化物付着 内部漆?	43
15	B-030 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	体部	体上半	体上半：浅腹→附加条状绳文 LR + 横位↑斜+ 洋↑(横位直腹文+浅凹工字文) 体下半：附加条状绳文 LR + 横位↑斜	洋↑(粗)		43
16	B-012 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部：沈腹→洋↑(横位直腹文)	沈腹→洋↑(横位直腹文)	内外面磨滅	43
17	B-028 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	口部～ 体上半	口部～ 体上半	口部～体上半：沈腹(横位直腹文)	洋↑?	内外面磨滅	43
18	B-035 101 y' (y)z'	N/d 层	生土层	蹄	体下半 底部	体下半 底部	体下半：横位直腹文(粗) 底部：洋↑	洋↑(粗)		43

第 287 図 下層調査 A 区出土遺物 (2)

10)、直線的に外傾するもの（16）がある。いずれも装飾文様が施される精製土器で、確実な粗製土器は出土していない。装飾文様の部位は口縁部から体部上半にある。文様を構成する沈線は横位直線文を主体とし、連続山形文（8）や幾何学文（9～12）、四角文（15）との組み合わせが施文されるほか、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（8・16）がある。文様内は地文が充填されるものと無文のものがある。地文はいずれも縄文で、縄文原体には単節（LR）、附加条（LR+R）があり、原体末端部を結束しているもの（12）もみられる。内面ないし外面に炭化物の付着がみられるもの（10・14）がある。

#### 台付鉢（第288図）

台付鉢は、全体の器形を復元できる個体がない。装飾文様が施される精製土器で、装飾文様の部位は体部上半と脚部下半にある。文様を構成する沈線は横位直線文で、地文は縄文で単節（LR）である。



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外周調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 番号	
19	B-014	87テラリ	N'd層	弥生土器	台付鉢	体部～ 脚部	体上半：沈線（横位直線文） 体下半：LR 地文縦横斜め。目字縦横斜め（横位直線文） 脚上半：LR 縦横縦斜め。 脚下端：沈線（横位直線文）	体部：縦位(LT) 脚部：(LT)(粗)			43

第288図 下層調査A区出土遺物（3）

#### 高環（第289図）

高環（高环と推定される資料を含む）は、全体の器形を復元できる個体がない。器形は、環部が直線的に大きく開くもので、口縁部は波状口縁または山形突起を持つ。脚部は中空で、直線的に伸びる。いずれも装飾文様が施される精製土器で、装飾文様の部位は口縁部から体部と脚部から据部にある。文様を構成する沈線は横位直線文を主体とし、幾何学文（20）や四角文（24）との組み合わせが施文されるほか、口縁部内面に横位直線文と波頂部または突起部に垂線が施されるもの（20・21）がある。文様内は地文が充填される。地文はいずれも縄文で、縄文原体には単節（LR）、附加条（LR+2R）がある。文様の沈線内及び地文部に赤彩の痕跡が残るもの（20・21）がある。

#### 蓋（第289図）

蓋は、全体の器形を復元できる個体がない。器形は、天井部はつまみ部が付かないもの（25）で、天井部中央が僅かに窪む。体部は体部下半から口縁部にかけて内湾気味に開くもの（26）、体部が外反気味のもの（27）などがある。装飾文様が施される精製土器と施されない粗製土器があり、装飾文様の部位は口縁部と体部下半にある。文様を構成する沈線は横位直線文を主体とし、斜位沈線文や垂線の組み合わせが施文されるほか、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（26）がある。地文はいずれも縄文で、縄文原体は単節（LR）である。内面に炭化物の付着がみられるもの（27）がある。



回数 高さ	跡跡 番号	出土地点	層位	種別	部種	部位	外縁調整 (文様)	内部調整 (文様)	備考	写真 番号
20	B018	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	高環	口縁～ 体上半	[口縁：沈線]～ [横位直線文+幾何学文]	[口縁：沈線→附加系縄文 (R + 2R) 横位 回転 (横位直線文+幾何学文)]	口縁部の内窓突起 [2R] 横位直線文+記號 (横位直線文+幾何学文) 体上半：沈線 (直)	43
21	B043	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	高H or 跗	口縁～ 体上端	[口縁～体上端：沈線→LR開文横位回転]～ [沈線→1' (横位直線文)]	[口縁：沈線→LR開文横位回転]～ [沈線→1' (横位直線文)]	口縁部は底口縫 内窓部の内窓及び地文部 に赤彩の痕跡	43
22	B017	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	高環	体部	体部：沈線→LR開文→3' + (横位直線文+斜位直線文)	横位3' (直)		43
23	B026	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	高環	脚下平～ 一部	脚下平～屈底：沈線→LR開文横位回転→ (横位直線文)	3'	外縁摩滅	43
24	B045	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	高環	脚下平～ 一部	脚下平～屈底：沈線→LR開文→沈線→ 3' (横位直線文+四角文)	横位3' (直)	外縁や下摩滅	43
25	B032	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	蓋	天井～ 体上半	天井部：木製痕→ 体上半：LR開文横位回転	体上端：横位3' (直)	内外面摩滅	43
26	B044	105 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	蓋	体下平	体下平～口縫：LR開文横位回転→沈線→ 1' (横位直線文+垂轍)	3' → 沈線 (横位直線文)	内窓に輪筋痕	43
27	B008	101 $y_{\text{d}1}$	N d層	弥生土器	蓋	体部	体部：沈線→LR開文横位回転→3' (横位直線文+斜位直線文)	横位3' (直)	内窓化粧物付着	43

第289図 下層調査A区出土遺物(4)

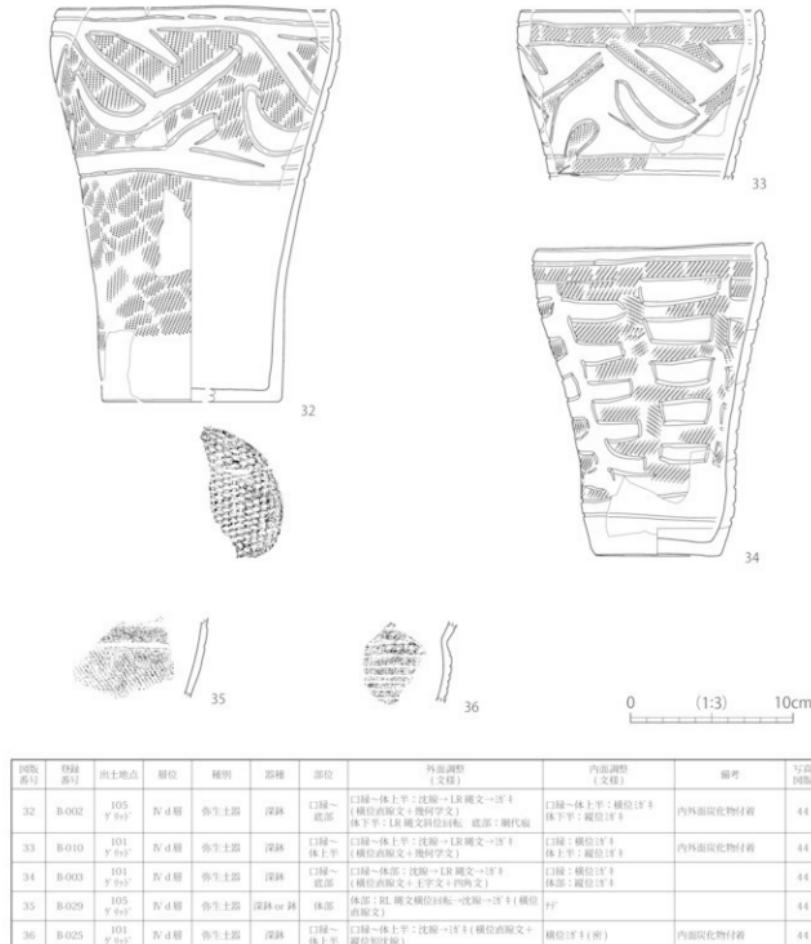
## 深鉢(第290・291図)

深鉢(深鉢と推定される資料を含む)は、全体の器形を復元できる個体が4点ある。器形は、体部上端から口縁部にかけて強く内湾して口縁部が窄まるもの(28～31)と体部下半が円筒状で、体部上端から口縁部にかけて緩やかに内湾するもの(32～34)、口縁部と体部の境に括れを持つもの(36)がある。装飾文様が施される精製土器と施されない粗製土器があり、装飾文様の部位は口縁部と体部上半にあるものが主体だが、体部下半まで施されるもの(34)も認められる。文様を構成する沈線は横位直線文を主体とし、幾何学文・王字文・四角文との組み合わせが施されるほか、口縁部外面に2個1対の貼瘤が施されるもの(28)がある。地文はいずれも繩文で、繩文原体には単節(LR・RL)、附加条(LR+2R)、結節(R)がある。文様の沈線内及び地文部に赤彩の痕跡が残るもの(28・29)、底部には崩壊痕がみられるもの(32)がある。



图版 号	登记 号	出土地点	期位	种类	器种	部位	外绘调整 (文様)	内面调整 (文様)	偏考	写真 件数
28	B-001	101 Y 9#F	IV d 带	陶土器	深鉢	口缘~ 底部	口缘: 斜线(2 倍 1 对) + 沟槽 + (2 倒 V 形) + 纵向平行线 底部: RL 随文斜线(2 倍)	横位 1# (带)	外侧面内及底边文部 上: 斜线(2 倍) 内: 斜线化物附着	43
29	B-055	101 Y 9#F	IV d 带	陶土器	深鉢	口缘~ 体上半	口缘: 沟槽 → 1# (横位直原文) 体上半: LR 随文横位 1#	横位 1# (带)	外侧面内及底边文部 上: 沟槽 内: 斜线化物附着	43
30	B-004	101 Y 9#F	IV d 带	陶土器	深鉢	口缘~ 底部	口缘~体上半: 斜加条斜文 (LR + Z) 到底倒板: “优”形 → 1# (横位直原文 + 斜状 文字下部: 斜加条斜文 (LR + Z) 倒板倒板: 1# 1#	横位 + 竖位 1# (带)	口缘加底灰化物附着	44
31	B-023	101 Y 9#F	IV d 带	陶土器	深鉢	口缘~ 体底	口缘: 附加条斜文 (LR + ZR) + 斜 倒板倒板: 文	横位 1# (带)		43

第 290 图 下层调查 A 区出土遗物 (5)



第291図 下層調査A区出土遺物(6)

## 図(第292図)

甕は、全体の器形を復元できる個体は1点(40)で、口径と器高の比率が1:1である。口径が復元できる個体には、口径20cm前後の中型品(37・38)と口径12cm程度の小型品(40)がある。器形は、口縁部に最大径を持つものと口縁部と体部上端に最大径を持つものがある。口縁部と体部の境が括れる形態で、口縁部は平口縁で短く外反または外傾し、括れは鋭角に屈曲するもの、鈍角に屈曲するもの、緩やかに屈曲するものなど多様な形態が認められる。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、口唇部と体部には地文が施文されている。また、体部には地文施文の

前段階に施された調整痕と考えられるハケメやナデの痕跡が認められるもの（38・39・43・44）がみられる。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体は無節（R）、単節（LR）がある。体部上端に列点刺突文が施されるものと地文のみのものがあり、列点刺突文の施工方向には左右の別がある。刺突の施工具は棒状工具が多用されるが、半截竹管を用いているもの（41）もある。底部には木葉痕（40・46）や網代痕（45・47）がみられる。



第292図 下層調査A区出土遺物(7)

図版番号	伊賀番号	出土地点	層位	種別	部種	部位	外面調整(文様)	内部調整(文様)	備考	写真図版
37	B-013	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体部	口脣：LR 縞文模位回転 口縁：3DFF 体上端：列点刺突(右→左) 体下端：LR 縞文模位回転	横位ぼく	外面部化物付着	44
38	B-050	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口脣：LR 縞文模位回転 口縁：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：3DFF → LR 縞文模位回転	横位ぼく		44
39	B-038	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口脣：LR 縞文模位回転 口縁：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：3DFF → LR 縞文模位回転	口縁：横位ぼく(密) 体上半：3DFF(粗)		44
40	B-024	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～底部	口脣：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：LR 縞文模位・斜位回転 底面：木焚面	ぼく		44
41	B-040	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口脣：植物文(木焚位回転) 口縁：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：堅物堅木文模位回転	ぼく		44
42	B-037	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：LR 縞文模位回転	横位ぼく(密)		44
43	B-015	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口脣：LR 縞文模位回転 口縁：3DFF 体上端：列点刺突(左→右) 体下端：3DFF → LR 縞文模位・斜位回転	口縁：横位ぼく(密) 体上半：3DFF → LR 縞文模位・斜位回転	内面部摩滅	44
44	B-031	94° 63°	N'd層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口脣：3DFF 体上端：3DFF 体下端：3DFF → LR 縞文模位・斜位回転	横位ぼく(密)	外面部化物付着	44
45	B-005	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	体下半～底部	体下半：口縁文(無頭) 横位回転 体上端：列点ぼく(左→右)	体下半：横位ぼく(粗) 底面：ぼく		45
46	B-042	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	体下端～底部	体下端：LR 縞文模位回転 底面：木焚面	ぼく		45
47	B-022	101 y' 63°	N'd層	弥生土器	甕	体下半～底部	体下半：LR 縞文(無頭) 横位回転 体下端：横位ぼく(密) 底面：網代底	ぼく	内面部化物付着	45

## b. 石器

石錐2点、板状石器1点、石核2点、磨石1点を掲載した(第293・294図)。この他、剥片が多数出土しているが、石材の大部分は流紋岩である。なお、上層の攪乱からは黒曜石の剥片が出土しているが、基本層IV d層からは出土していない。以下、種別毎に記載する。

### 石核集計表

出土地点	淡波町	黒曜石	安山岩	白石	黒色白石	輕瓦	白石(点)	出土地点	淡波町	黒曜石	安山岩	白石	黒色白石	輕瓦
下層調査A区N'd層	62	0	2	6	1	11	82	下層調査A区N'd層	1,178.2	0.0	47.1	37.4	1.4	22.9

### 1) 打製石器

#### 石錐(第293図)

48は完形品、49は欠損品である。共に棒状の器形を呈し、a・b両面に素材剥片の剥離面を残している。石材は共に流紋岩である。

#### 板状石器(第293図)

50は完形品である。刃部は直線的で、a面には刃部と直交する方向の擦痕が認められる。b面には部分的に剥離調整が施されている。a面に節理面が残っている。石材は安山岩である。

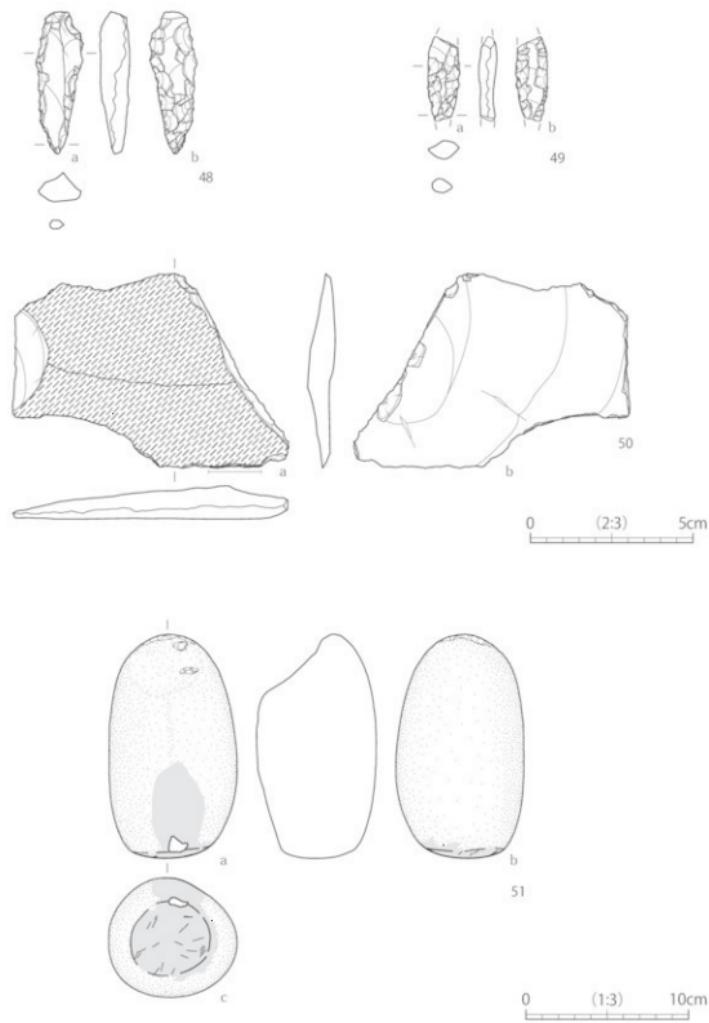
#### 石核(第294図)

52・53は石核である。石材は共に流紋岩で、自然面が残っている。52は3回程度の打面転移が行われ、比較的早い段階で剥離作業を終え、廃棄されたものと考えられる。53は少なくとも2回の打面転移が行われている。

### 2) 碓石器

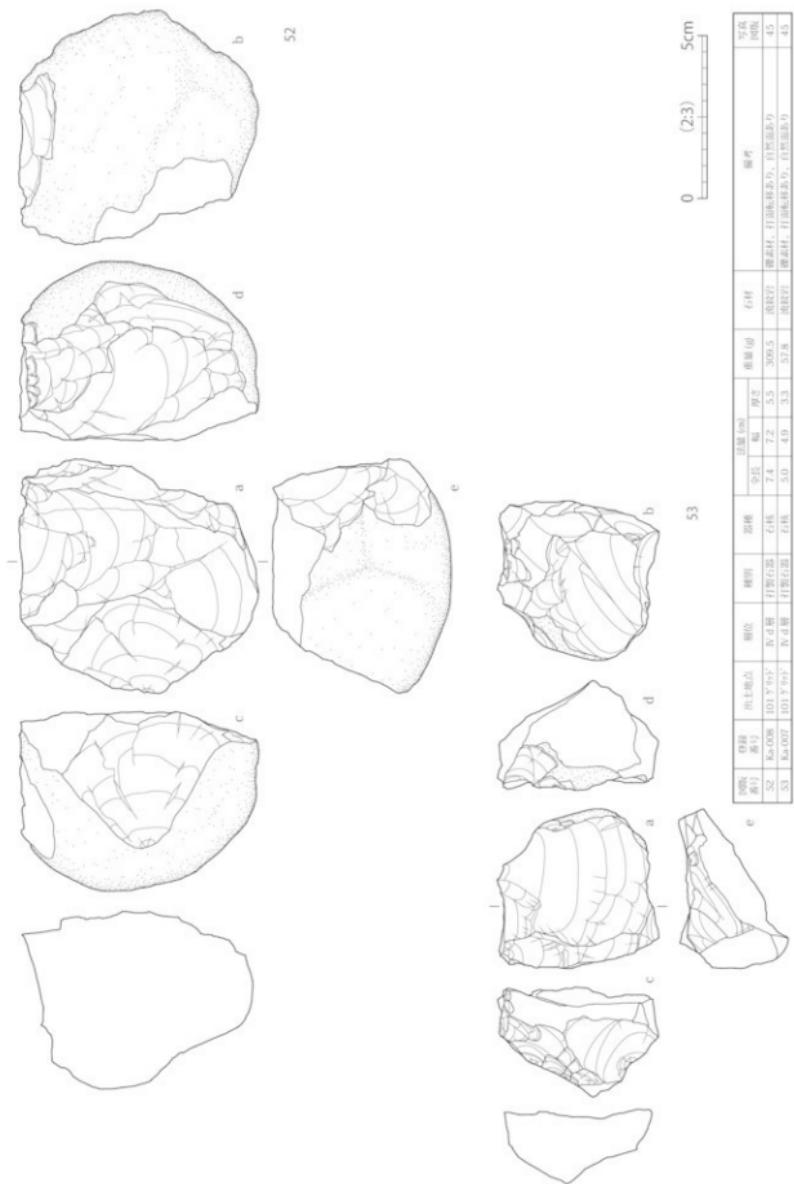
#### 磨石(第293図)

51は下端面と側面下端に磨面、上端に敲打痕がみられる。石材は安山岩である。



图版 番号	登錄 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	G.F.	備考	写真 番號
						全長	幅	厚さ				
48	Ka-010	101 F 9号	N d期	打製石器	石器	4.4	1.4	0.9	4.9	浅斜面	完全	45
49	Ka-009	101 F 9号	N d期	打製石器	石器	12.6	1.0	0.6	(1.5)	浅斜面	端部欠損	45
50	Ka-006	101 F 9号	N d期	打製石器	板状石器	36.0	8.5	0.8	(43.2)	安山岩	刃部挫痕あり。a面節理面あり	45
51	Kc-005	100 F 9号	N d期	鍛冶場	鉄土鉱石	13.8	7.9	7.4	1163.9	安山岩	側立面(a・c面)、底立面(上部)、完形	45

第293図 下層調査A区出土遺物(8)



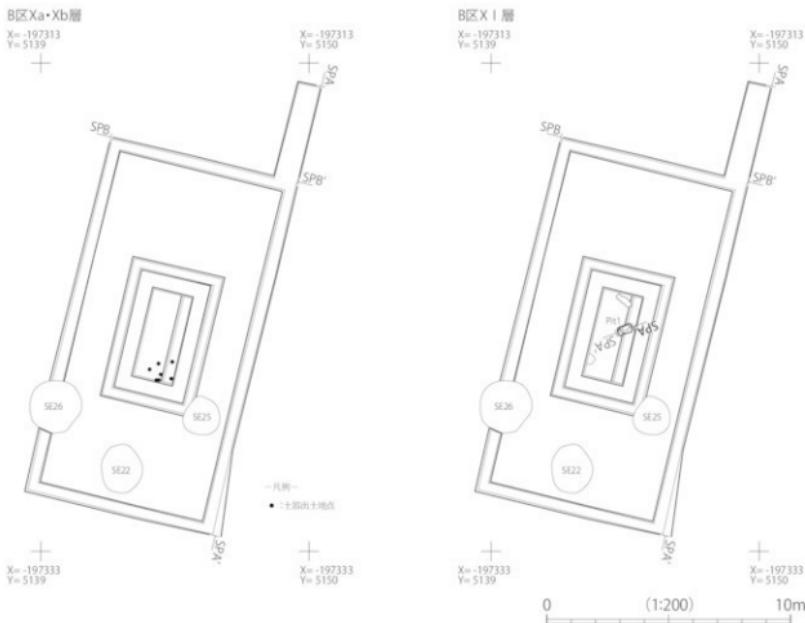
第 294 圖 下層調查 A 區出土遺物 (9)

## 河川跡（第284図）

調査区壁面の観察で、砂層の落ち込みを確認したことから、河川跡の存在が想定された。このため、調査区中央に東西方向のトレチチを設定し調査を行ったところ、弥生時代の遺物包含層が形成される以前の北西—南東方向と推定される河川跡を確認した。河川跡の底面は未検出であるが、堆積土下層から砂礫や木片が出土している。また、河川跡の川幅についても調査区外に拡がるものであり確認できていないが、後述する下層調査C区において、南西側に傾斜する地形が確認されていることから、河川跡の川岸の可能性も考えられる。土層断面の観察から、基本層IV d・V層が堆積する段階では、まだ河川跡の埋没が終わらず、窪地として残存している状況であったものと考えられる。南側に隣接する西台畠遺跡第9次調査区では、弥生時代の水田跡が確認されていることから、本調査区と第9次調査区の間で東側へ大きく流路を変えるものと推定される。

## (2) 下層調査B区（第295・296図）

本区の調査は、調査区南部中央の71・72・78・79・85・86・92・93グリッドに東西8m×南北15mの調査区を設定し実施した。本区は擾乱により基本層IV層の上部が失われ、調査区北壁及び東壁では基本層IV層が複雑な堆積をしており、数条の小河川跡が確認されている。なお、調査区東壁の土層を観察するために、調査区北東側の拡張を行っている。調査は基本層IV d層から層位毎に掘り下げを開始した。各層理面において遺構や遺物の有無について確認を行ったところ、弥生時代中期中葉の遺物包含層に相当する基本層IV d層及びV層からは、遺物が



第295図 下層調査B区 平面図

第296図 下層調査B区 断面図



出土しなかった。また、土層断面の観察を行うための側溝からも遺物の出土は皆無であったため、調査範囲を縮小して縄文時代の遺物包含層の検出を行うこととした。その結果、X層で縄文時代の遺物包含層、XI層上面でピット1基を検出した。出土した遺物は、いずれも細片のため、図化できるものではなかった。

#### X層出土遺物

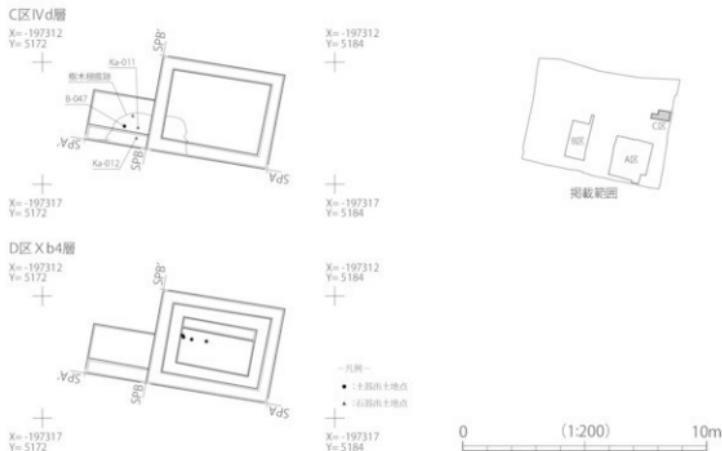
調査区南東部に集中して出土している（第295・296図）。いずれも細片のため、詳細な帰属時期は不明だが、地文の様相から後・晩期のものと推定される。

#### XI層上面検出遺構

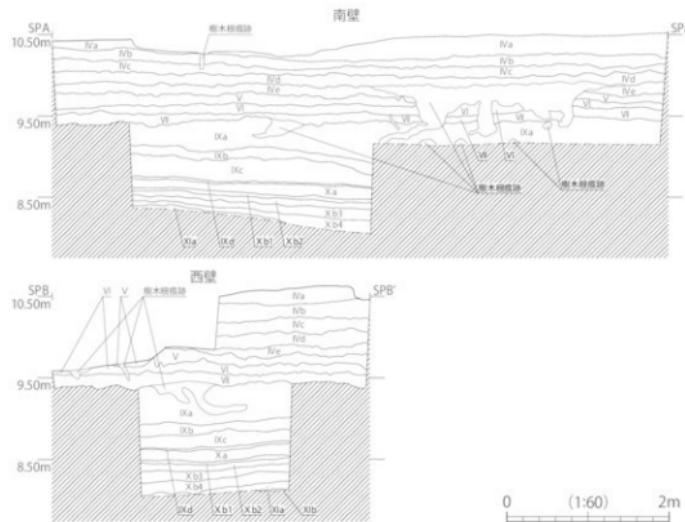
調査区中央付近でピット1基を検出した（第296図）。周囲には樹木根痕跡があり、本遺構もその可能性があるが、堆積状況から遺構と判断した。平面形状は隅丸長方形を呈し、検出した規模は、長軸59cm、短軸32cm、深さ28cmを測る。

#### (3) 下層調査C区（第297～299図）

本区の調査は、調査区北東部の68・75グリッドに東西5m×南北4mの調査区を設定し実施した。調査は基本層IV d層から層位毎に掘り下げを開始した。各層理面において遺構や遺物の有無などの確認を行ったところ、基本層IV e層上面で土色・土性の違いが認められ、調査区外に抜かる遺構が想定された。このため、調査区西側の一部を拡張して調査を行ったが、断面形状や堆積状況から樹木根痕跡と判断した。また、基本層X b4層からは縄文土器が出土しているが、摩滅が激しいため、帰属時期を決定することはできなかった。なお、IX b層から下層は南西側に傾斜していることが確認され、下層調査A区で検出された河川跡との関連が推定される。



第297図 下層調査C区 平面図



下層調査C区土層記表

層位	土色	土性	備考
IV a	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	一部グライ化
IV b	10YR7/6 明黄色	シルト	
IV c	10YR5/4 にらみ黄褐色	シルト	
IV d	10YR4/4 灰褐色	シルト	炭化物微量含む。
IV e	10YR4/3 にらみ黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック (10 ~ 50mm) 多量含む。
V	10YR3/3 黄褐色	シルト	
VI	10YR3/3 黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、細砂少量。炭化物微量含む。
VI	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	細砂多量、炭化物微量含む。
IX a	10YR4/6 灰褐色	細砂	
IX b	10YR4/6 灰褐色	砂質シルト	灰白色細砂多量含む。
IX c	10YR4/2 灰褐色	粗砂	
IX d	10YR4/2 灰褐色	粗砂	鰐化鉄集積。
X a	10YR7/2 にらみ黄褐色	粘土質シルト	マングローブを含む。鰐化鉄集積。
X b1	10YR7/2 にらみ黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土を含む。
X b2	10YR3/1 黄褐色	粘土	炭化物微量含む。
X b3	10YR8/6 黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック (10 ~ 20mm) 多量、炭化物微量含む。
X b4	10YR2/1 灰褐色	粘土	黄褐色土料少量、炭化物微量含む。
X d	10YR7/1 灰白色	粘土質シルト	黑色粘土ブロック (5 ~ 30mm) 少量含む。
X b	10BG7/1 灰褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。

第298図 下層調査C区 断面図

## IV d層出土遺物

弥生時代の遺物包含層である基本層IV d層から弥生土器・剥片石器がコンテナ1/5箱程度出土している。また、樹木根痕跡から弥生土器・剥片石器が出土しており、出土状況から本来は基本層IV d層に包含されていたものと考えられるため、まとめて記載することとする。

## a. 弥生土器

出土した弥生土器はいずれも弥生時代中期中葉の楕円形甌式に比定される。蓋2点を掲載した(第299図-I・2)。1はやや外反気味に開く部である。装飾文様は横位直線文と斜位沈線文の組み合わせが施され、文様内には縄文による地文が充填されている。縄文原体は附加條(LR+2R)である。内面に縦位のミガキが密に施される。

は外反する体部に外傾して開く口縁部を持つ。装飾文様の施文部位は体部下半から口縁部にある。装飾文様は横位沈線文と連続山形文の組み合わせが施文されるほか、口縁部内面に横位直線文が施される。文様内には縄文による地文が充填されている。縄文原体は単節(LR)である。ミガキ調整による磨消の処理が粗雑なため、文様外にはみ出した地文や沈線が残る。口縁部内面に炭化物の付着がみられる。

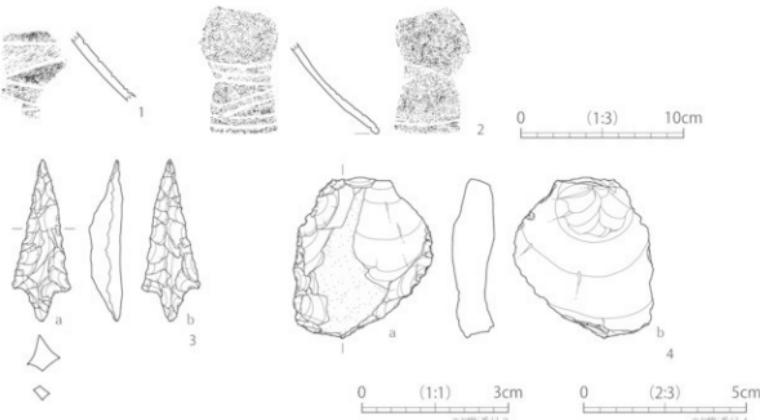
### b. 石器

石鐵1点、スクレイバー1点を掲載した(第299図-3・4)。この他、剥片が出土しているが、石材の大部分は流紋岩である。なお、上層の攪乱からは黒曜石・碧玉などの剥片が出土しているが、基本層IV d層からは出土していない。以下、個別に記載する。

石材集計表

出土地点	流紋岩	黒曜石	安山岩	頁岩	黑色頁岩	輕石	合計(点)	出土地点	流紋岩	黒曜石	安山岩	頁岩	黑色頁岩	輕石	合計(点)
下層調査C区IV d層	16	0	0	5	0	0	21	下層調査C区IV d層	221.9	0.0	0.0	44.8	0.0	0.0	266.7

3は石鐵の完形品である。頁岩製の有茎石鐵で、全長3.3cmを測り、比較的大型品である。調整はa・b両面のほぼ全面に剥離調整が施されているが、a・b両面に素材剥片の剥離面が僅かに残っている。長軸断面の形状は、a面側が高い台形状を呈する。4は流紋岩製のスクレイバーである。a面の左右両側縁及びa・b両面の下端縁に剥離調整が施されている。a面には自然面が残っている。



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外側調整(文様)		内側調整(文様)		備考	写真回数
							全長	幅	厚さ	重量(g)		
1	B-047	68y 97z	樹木根 腐植	鉢生土器	器	体部	体部: 横脱-側面加条縫文(茎) + 280 → 134 + (縦位直縫文+斜位直縫文)		縦位(茎)(側)			45
2	B-046	75y 97z	IV d層	鉢生土器	器	体下半 ～口縁	体下半～口縁: 沈線 + LR縫文+沈線 → 134 + (横位直縫文+山形文)		体下半: 37.4(側) 口縁: 横位(3.4)(側) 口縁: 沈線(横位直縫文)	内面口縁部炭化物付着		45

回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			石材	備考	写真回数	
						全長	幅	厚さ				
3	Ka-012	68y 97z	樹木根腐植	打製石器	石鐵	3.3	1.2	0.7	1.5	頁岩	有茎、厚幅比0.58、先端角27°、完形	45
4	Ka-011	68y 97z	樹木根腐植	打製石器	石鐵	3.55	5.0	4.3	1.3	27.4	流紋岩 a・b面二次加工、a面自然面あり、完形	45

第299図 下層調査C区出土遺物

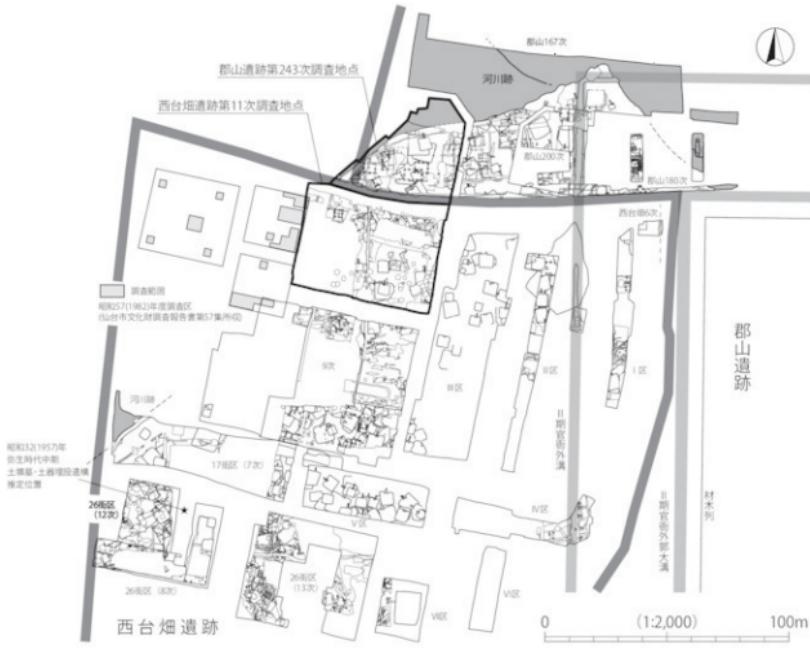
## 第7章 河川跡

郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査において、河川跡が検出された。これまでに、郡山遺跡では平成16・17年度（2004・2005）の第167次調査、平成18年度（2006）の第180次調査で、河川跡が確認されている。西台畠遺跡では、平成19年度（2007）の第7次調査で、調査区西端から北東一南西方向の河川跡が確認されている。いずれも堆積土中に十和田a灰白色火山灰（推定915年）が堆積しており、郡山II期官衙外溝など官衙期の遺構を壊しているものである。ここでは、平成16年度（2004）の郡山遺跡第167次調査において確認された河川跡について記載する（第300・301図）。

第167次調査では、河川跡の検出面において土色・土性の違いが認められた。このことから、河川跡の堆積状況を確認するために、トレンチを設定し調査を行った。トレンチの規模は南北15m×東西2mである。東壁土層断面の観察から、河川跡は新旧二時期に分かれることを確認した。

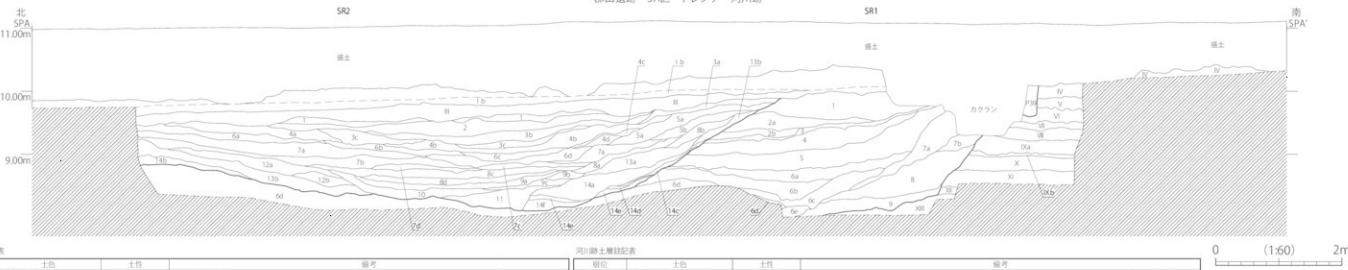
古い時期の河川跡（SR1）は、底面は未検出であるが、南岸の落ち込みが比較的急である。また、堆積土上層に灰白色火山灰を含んでいることを確認した。

新しい時期の河川跡（SR2）は、南岸の落ち込みは緩やかで、検出面からの深さが約180cmである。底面直上付近にSR1から崩落したと考えられる灰白色火山灰が認められた。



第300図 河川跡（1）

都山遺跡 3A区 トレンチ 河川跡



河川跡土層目録表

層位	土色	土性	参考
1	10VR4/4 黄褐色	砂質シルト	マンガン含む。
2a	10VR4/4 剥離色	粗砂	礫 (20~40mm) 含む。
2b	10YR4/4 剥離色	砂質	
3	10YR4/2 黄褐色	褐色土	褐色土山面。
4	10VR4/4 黄褐色	シルト	マンガン含む。
5	2.5YR4/3-1.5 黄褐色	砂質シルト	上部にマンガン含む。部分的に黒色土ブロック含む。
6a	10VR4/2 黄褐色	砂質シルト	褐色土・マンガン粒含む。
6b	10YR4/4 黄褐色	褐色土	褐色土山面。
7	2.5Y4/3 黄褐色	砂質シルト	褐色土・マンガン粒多量含む。
6d	7.5YR4/6 黄褐色	粗砂	礫 (20~30mm) 含む。
7a	10VR4/1 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガン粒含む。上部に礫物・粘土粒・泥化物含む。
7b	10VR4/4 黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒含む。
7c	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガン粒含む。下部に泥化物・粘土。
8	2.5Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガン粒含む。
9	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	褐色土・マンガン粒含む。

河川跡土層目録表

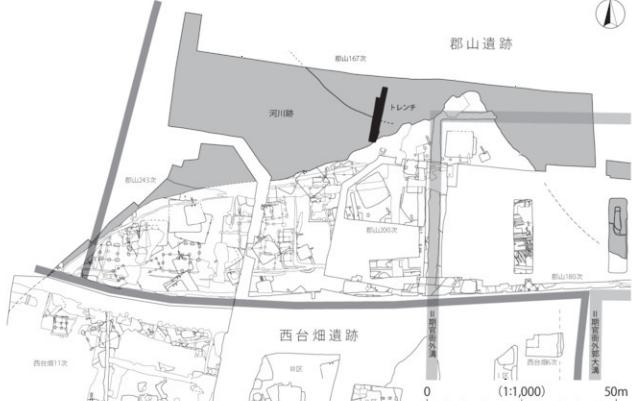
層位	土色	土色	参考	木山耕作土
I	10YR4/3 にい黄褐色	シルト		
II	(10YR3/3) 剥離色	シルト	地山ブロック・マンガン粒含む。	
III	10YR4/4 黄褐色	粗砂	粗砂。	
IV	10YR4/4 黄褐色	粗砂	褐色土・マンゴン粒少量。泥化物土ブロック微量含む。	
V	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒少量。泥化物微量含む。	
VI	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガン粒少量含む。	
VII	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガニク多量含む。	
VIII	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガニク多量含む。	
IX	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガニク多量含む。	
X	10YR4/4 にい黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガニク多量含む。	
XI	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色土を除く。	
XII	2.5Y5/2 にい黄褐色	粘土質シルト	褐色土・マンガン粒含む。	
XIII	10YR3/3 剥離色	粗砂	礫 (10~20mm) 含む。	

0 (1:60) 2m

S R 3 之 2 河川跡

層位	土色	参考
1	10YR4/2 黄褐色	シルト
2	10YR4/3 にい黄褐色	粘土質シルト・マンガン粒少量含む。
3a	10YR4/2 黄褐色	マンガニク・にい・褐色土・褐色土ブロック少量。褐色土ブロック微量含む。
3b	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト
4a	2.5Y5/2 黄褐色	粘土質シルト・褐色土・マンガニク少量。にい・褐色土を織状に含む。
4b	10YR4/4 にい黄褐色	粘土質シルト
4c	10YR4/2 黄褐色	褐色土・マンガニク・少量。褐色土ブロック・泥化物微量含む。
4d	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト
5	10YR5/2 黄褐色	マンガニク・少量。褐色土・褐色土ブロック少量。褐色土微量含む。
6a	10YR4/3 にい黄褐色	粘土質シルト
6b	2.5Y5/2 黄褐色	粘土質シルト・マンガニク・少量。褐色土・褐色土ブロック微量含む。
7a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト
7b	2.5Y5/2 黄褐色	粘土質シルト
8	2.5Y4/3 黄褐色	褐色土。
9	10YR5/2 黄褐色	粘土質シルト
10	10YR4/2 黄褐色	褐色土・にい・褐色土・褐色土ブロック含む。
11	5Y4/1 灰色	粘土質シルト
12a	10YR4/4 にい・褐色土	砂質シルト
12b	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト
13a	10YR4/3 にい・褐色土	砂質シルト
13b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト
14a	2.5Y4/3 オリーブ色	砂質シルト
14b	2.5Y5/2 黄褐色	砂質シルト
14c	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト
14d	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト
14e	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト

第301図 河川跡 (2)





## 第8章 総括

郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査区周辺は、仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴い、平成10年度（1998）から継続的な調査が行われている。郡山遺跡では、平成13年度（2001）に行われた第144次調査において、郡山Ⅰ期官衙に関連すると考えられる溝跡が確認されている。また、平成16・17年度（2004・2005）に行われた第167次調査において、郡山Ⅱ期官衙外溝の北西コーナー部や北辺が確認された。このことから、郡山Ⅱ期官衙には二重の外溝が巡り、その一辺の長さが藤原京の条坊区画線の1単位分と同等であることから、藤原京との関連が想定されている。西台畠遺跡では総数250軒以上の堅穴住居跡が確認されている。これらは郡山官衙期を中心とした時期に帰属するものを主体とし、古墳時代前期から奈良時代にかけて集落が営まれていたものと考えられる。このほか、縄文時代後・晚期の遺物包含層や弥生時代中期の遺物包含層や墓域、水田跡が確認されている。

調査開始から15年が経過し、郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙の遺構・遺物をはじめとし、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が多数確認されている。その膨大な資料については、隣接する長町駅東遺跡を含めて検討する必要があるが、本章では郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査区の遺構・遺物を整理し、郡山遺跡と西台畠遺跡の集落について若干の検討を行いたい。

### 第1節 出土遺物（第302～322図）

今回報告した郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査区は南北に隣接しており、互いの関連性が強く一連の遺跡と考えられる。ここでは、両調査区の出土遺物をまとめて記載する。なお、主要遺構重複関係模式図や遺物集成図における遺構名及び遺物登録番号は、煩雑さを避けるために、郡山遺跡第243次調査は「郡」、西台畠遺跡第11次調査は「西」の文字を頭に付け、「郡SI44」や「郡C-001」、「西SI179」や「西C-001」と表記した。

時期区分については、『西台畠遺跡第4・5・7次調査』（仙台市教育委員会2013）に準じ、時期区分及び年代の対応関係は、以下の通りである。なお、今回の調査では3・6期の遺物は出土していない。

時期区分表

時期区分		時代・時期		土器空式塗地		土地利用 (自然環境)	西台畠第1・2次 (第359集)	西台畠第3次 (第388集)
大別	細別			中葉	後葉			
1期	a	縄文時代	i	後期	中葉	宝ヶ峯式	包囲地	発見なし
	ii		ii	後葉	金剛式（腹付土器）			
	b		i	初期～前葉	初期B1、B2、B-C式			
	ii		ii	中葉	大洞C1、C2式			
	iii		iii	後葉	大洞A1、A2式			
	iv		iv	末葉	大洞A式			
2期	a	弥生時代	—	前葉	寺下四式平行	生產域 (水田跡)	—	—
	b		—	中葉（古段階）	楕円式			
	c		—	中葉（今段階）	中在家南式			
3期	—	—	前葉	後葉	臨港式	居住域	—	—
4期	a	古墳時代	後期	—	往社式（新）			3a期
	b		終末期	—	樂洲式			
5期	a	奈良時代	終末期	—	*	官衙の区画施設 居住域	2期 3期 4期	4a期 4b期 4ta期
	b		終末期	—	*			
	ii		奈良時代	—	国分寺下厨式			
6期	—	—	平安時代	—	表杉ノ入式	居住域	—	5期
7期	—	—	中世	—	堂跡・白石窯（系）他			
8期	—	—	近世	—	堀・大垣相馬他	散布地	—	6期 7期

### (1) 1期：縄文時代（第113図）

郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査の基本層X層から縄文土器が出土している。これらは型式学的特徴から縄文時代後期～晩期に比定されるものであるが、数量的に少なく、いずれも破片資料のため、詳細な帰属時期が不明なものが多い。このうち、郡山遺跡第243次調査で出土した縄文土器2点を掲載した（第113図）。共に深鉢の口縁部資料で、口縁部と胴部の境に沈線による区画が施され、郡A-002の胴部上端には粘土粒による貼瘤が付されている。このような特徴から、縄文時代後期末葉に比定される。

### (2) 2期：弥生時代（第302・303図）

西台畠遺跡第11次調査の基本層IVd・V層から弥生土器が出土している。出土した弥生土器の器種は、壺、鉢、台付鉢、高环、蓋、深鉢、甕があり、全体の器形を復元できる個体は、鉢1点、深鉢4点、甕1点である。これらの器種のうち、鉢と台付鉢、高环には、すべて文様が施されている。壺、蓋、深鉢には文様が施されているものと、されていないものがある。

#### 器形

壺は頭部が直立し、口縁部が短く外傾するもの（西B-052）、頭部から口縁部にかけて直立気味に外反するもの（西B-021）、頭部が内傾し、口縁部が短く外傾するもの（西B-011）がある。体部の形状は不明だが、丸みを持つもの（西B-052）と屈曲するもの（西B-027）がみられる。いずれも平口縁である。中型品と小型品が認められる。

鉢は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾するもの（西B-009・028）、直線的に外傾するもの（西B-012）があり、いずれも平口縁である。内湾気味に直立するもの（西B-016・020・033）は、深鉢の可能性もある。

台付鉢は体部及び脚部が内湾気味のものである（西B-014）。

高环は環部が直線的に大きく聞くもので、口縁部は波状口縁または山形突起を持つ。脚部は直線的に伸びるものである（西B-026・045）。

蓋は天井部につまみ部がなく、天井部中央が僅かに窪むものがある（西B-032）。体部が下半から口縁部にかけて内湾気味に聞くもの、体部が外反気味のものがある。

深鉢は体部上端から口縁部にかけて強く内湾して口縁部が窄まるもの（西B-001・004・023・055）、体部下半が円筒状で、体部上端から口縁部にかけて緩やかに内湾するもの（西B-002・003・010）、口縁部と体部の境が屈曲するもの（西B-025）がある。

甕は口縁部に最大径を持つもの（西B-013・015）と口縁部と体部上端に最大径を持つもの（西B-024・050）がある。口縁部と体部の境が屈曲する形態で、口縁部は平口縁で短く外反または外傾し、体部との境は鋭角に屈曲するもの、鈍角に屈曲するもの、緩やかに屈曲するものなど多様な形態が認められる。

#### 地文

地文には縄文と植物茎回転文があり、殆どが縄文で、植物茎回転文は1点（西B-040）のみである。縄文には無節（R）、單節（LR・RL）、附加条（LR+R・LR+2R）があり、結節回転文（R）やLR縄文の末端を結束しているものがみられる。1個体で2種類の原体を使用しているものはなかった。

#### 文様

装飾文様は、深鉢の貼瘤と甕の列点刺突文を除き、沈線で施文されている。沈線は一本工具により施文され、幅1～2mm程度を主体とする。文様内の地文には、狹義の磨消縄文と充填縄文があり、殆どが充填縄文である。なお、



第302図 西台畠遺跡第11次調査弥生土器集成図(1)

器形は同じで文様が類似する西B-002と西B-010には、地文の反転現象がみられる。

各器種の施文部位及び文様の特徴は以下の通りである。

壺は口縁部と体部に施文される。磨消繩文による四角文（西B-027）・幾何学文（西B-006）がある。

鉢は口縁部から体部上半にかけて施文される。磨消繩文による変形工字文+山形文（西B-009）や幾何学文（西B-016・020・033・034）、四角文（西B-030）がある。このほか、口縁部内面に横位直線文が施されるものがある。台付鉢は体部上半と脚部下間に横位直線文が施される（西B-014）。

高环は口縁部から体部と脚部に施文される。磨消繩文による幾何学文（西B-018）、四角文（西B-045）がある。このほか、口縁部内面に横位直線文と波頂部または突起部に垂線が施されるものがある。

蓋は口縁部と体部下半に施文される。磨消繩文による山形文がある（西B-046）。

深鉢



甕



0 (1:6) 20cm

第303図 西台遺跡第11次調査弥生土器集成図(2)

深鉢は口縁部と体部上半に施文されるものが主体である。文様には横位直線文（西B-055）・四角文（西B-001）と磨消繩文による幾何学文（西B-002・010）・王字文（西B-003）・波状文（西B-004）がある。このほか、口縁部外面に2個1対の貼瘤が施されるものがある。

甕は体部上端に列点刺突文が施文される。列点刺突文の施文方向には左右の別がある。刺突の施文具は棒状工具が多用されるが、半截竹管を用いているものもある。

#### 編年的位置付け

西台畠遺跡第11次調査から出土した弥生土器の主な特徴は以下の通りである。

- ①主な器種は壺・鉢・高环・蓋・甕で、繩文時代晩期から存続する深鉢がある。
- ②地文は殆どが單耳LR繩文で、附加条や無節が少量用いられている。
- ③文様は一本工具により施文され、横位直線文・四角文・磨消繩文による山形文・幾何学文・王字文・波状文がある。
- ④甕は口縁部と体部の境に括れを持ち、体部上端に列点刺突文が施される。

西台畠遺跡は、仙台平野の弥生時代中期の墓域として昭和30年代の調査で知られ（伊藤1958・1961）、出土土器は樹形圓式土器として紹介されている（伊東1957）。今回の調査区は、この昭和30年代の調査区に隣接しており、出土土器に類似性が認められる。近年の仙台平野の土器編年では、II期：中期前葉（名取市原遺跡出土土器）→III a1期：中期中葉古段階（多賀城市樹形圓貝塚出土土器・仙台市高田B遺跡出土土器）→III a2期：中期中葉中段階（仙台市中在家南遺跡出土土器）と整理されている（石川2005、斎野2011）。この編年によると、出土土器はII期からIII a1期の時期を中心としており、器種としては、安定した甕・蓋・鉢・壺・高环の組成と、器種では内湾する深鉢の減少、文様では磨消繩文が盛行するなかで、主線内無文から主線内地文への移行、複線の変形工字文が成立する変化を伺い知ることができ、本書の時期区分では2a期～2b期となる。編年的位置付けでは、地文の反転がみられる筒形を呈する深鉢（西B-002・010）は、樹形圓式には認められないが、文様帶が体部上半にあり、今後、検討を必要とする資料である。これらの弥生土器は、昭和30年代の調査成果とともに、弥生時代の西台畠遺跡を考えるうえで、貴重な資料といえる。

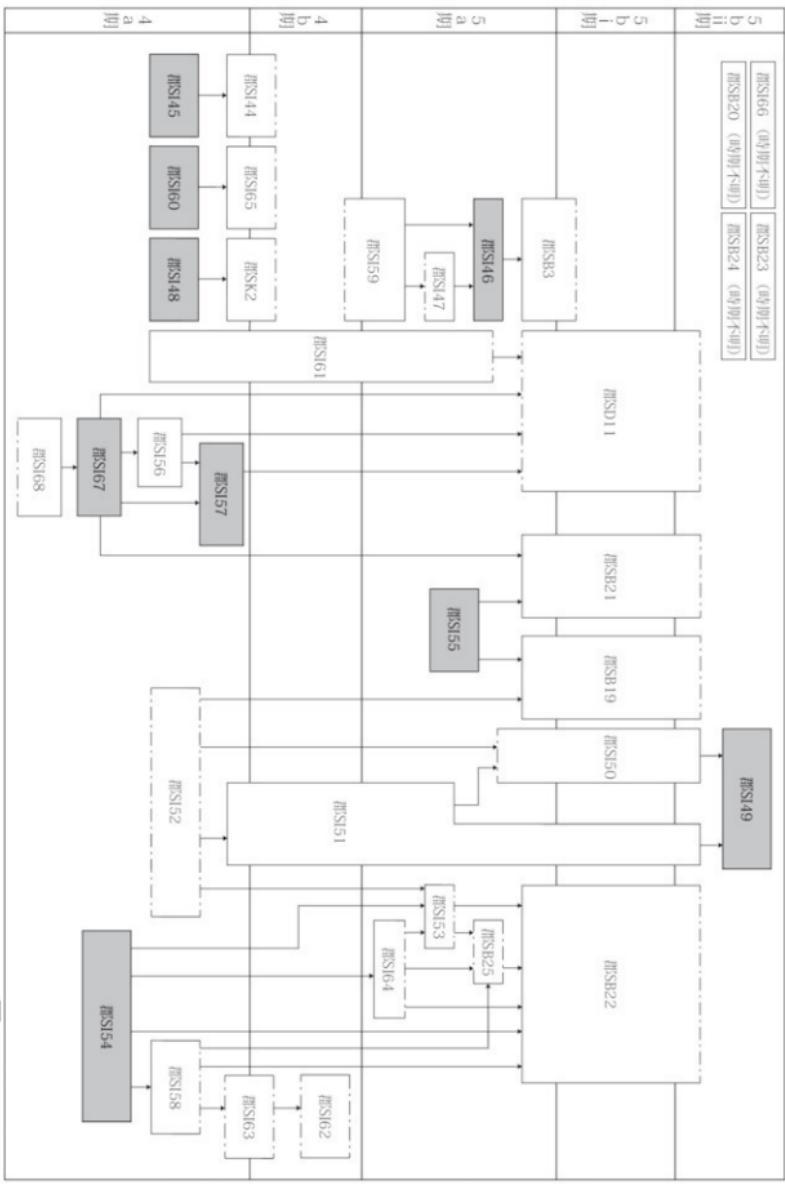
#### （3）4a～5bii期：古墳時代後期～奈良時代（第304～322図）

郡山遺跡第243次調査及び西台畠遺跡第11次調査では、基本層IV層上面で検出した竪穴住居跡及び区画施設などから土師器・須恵器が出土している。これらの土器は、器形や調整の特徴から、古墳時代後期～奈良時代に比定される。しかし、遺構に伴う遺物が少ないため、重複関係により帰属時期を推定した遺構も多く、時期幅が広いものとなっている。このため本節では、主要遺構重複関係模式図（第304・305図）と竪穴住居跡から出土した遺物の集成図（第306～322図）を掲載し、時期毎に特徴を記載する。

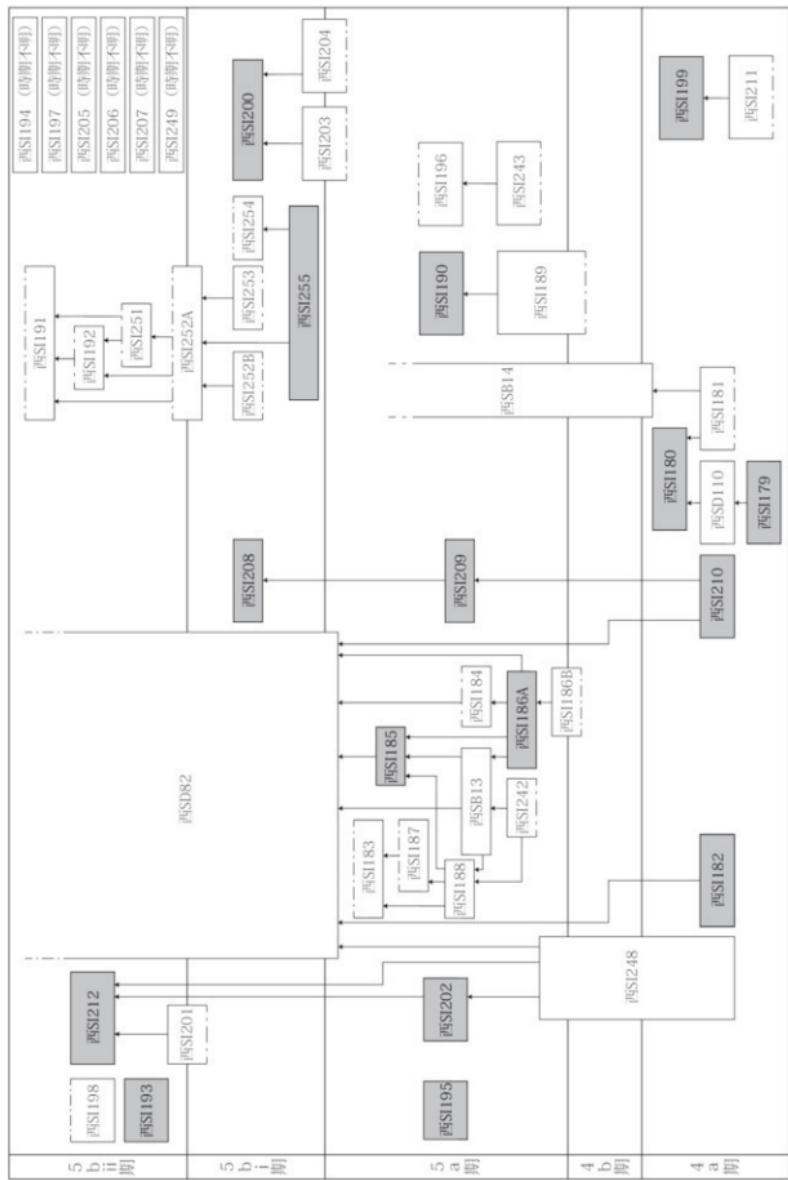
#### 4a期（住社式期新段階）の土器（第306～310図）

郡山遺跡第243次調査SI45・48・54・57・60・67竪穴住居跡、西台畠遺跡第11次調査SI179・180・182・199・210の床面及び床面上直、床面施設、カマド堆積土から出土した土器を基準資料とする。土師器環は、鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つものと住社式の特徴を持つものがある。土師器甕は、胴部の形状が長胴形と球胴形を呈するものがみられ、外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜を持つものと持たないものがある。このほか、土師器高环や土師器鉢を伴う。なお、住居跡に伴うと考えられる須恵器は出土していない。

土師器環は、郡C-027（郡SI48）、郡C-092（郡SI57）、郡C-115（郡SI67）、西C-060・063・066・067（西



第304図 郡山遺跡第243次調査主要遺構重複関係模式図



第305図 西台烟遺跡第11次調査主要構造重複関係模式図

SI199)、西 C-140・141 (西 SI210) がある。郡 C-027、西 C-060・063・066・067、西 C-140・141 は鬼高系土師器 (南小泉型関東系土器) の特徴を持つものである。内外面が黒色漆仕上げされているものを主体とし、黒色漆仕上げされていない西 C-067 や内面に黒色処理が施されている西 C-141 がある。内面の黒色処理は当該期における在地土師器の特徴であり、関東系土師器と在地土師器の折衷的な様相を持つ。郡 C-092・115 は、いわゆる有段丸底环で、住社式の特徴を持つ。共に深身の环で、前者は口縁部の内面にヨコナデが施され、後者は内面に黒色処理が施されている。土師器高环は、郡 C-074 (郡 SI54)、郡 C-113・116 (郡 SI67)、西 C-062 (西 SI199) がある。いずれも外面の口縁部と体部の境や脚部と裾部の境に段ないし稜を持ち、脚部は長脚である。环部は口縁部が外反気味に内傾する郡 C-074 と外反する西 C-062、体部から口縁部にかけて大きく開く郡 C-116 がある。

#### 4a期(住社式期新段階)

郡SI45出土土器  
(時期決定資料:すべて)



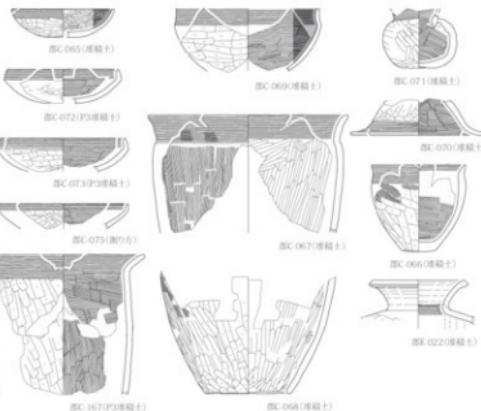
郡C-031(P3)漆塗土

#### 4a期(住社式期新段階)

郡SI45出土土器  
(時期決定資料:左側1点)



郡C-074(OK3)

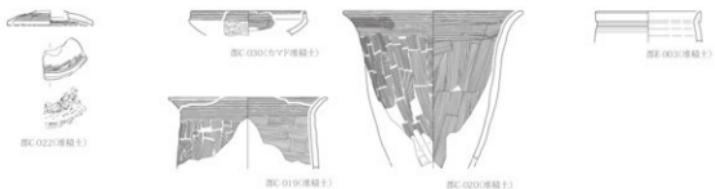
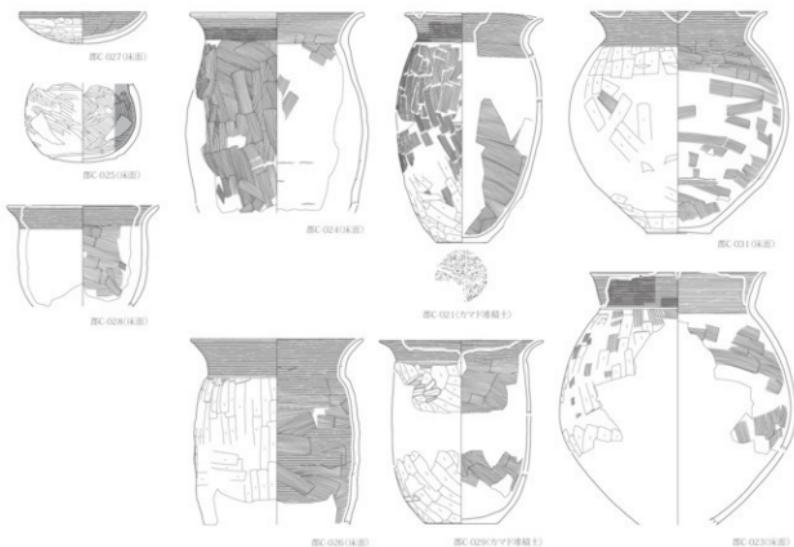


0 (1:6) 20cm

第306図 郡山遺跡第243次・西台細遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(1)

4a期(住社式期新段階)

都SI48出土土器  
(時期決定資料:上半9点)

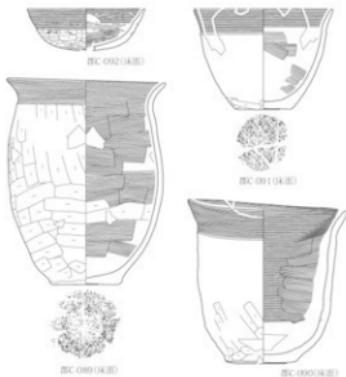


0 (1:6) 20cm

第307図 郡山遺跡第243次・西台遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(2)

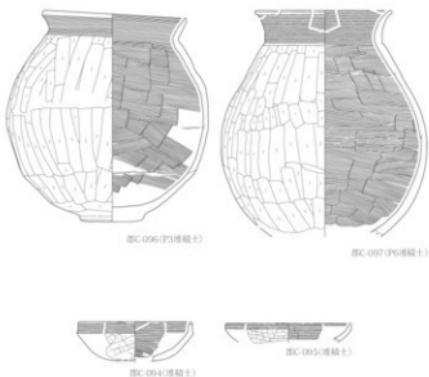
4a期(住社式期新段階)

都SI57出土土器  
(時期決定資料:すべて)



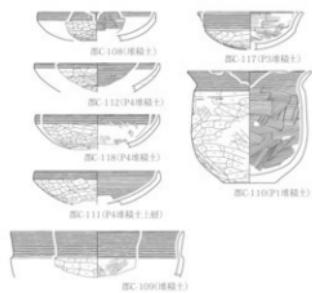
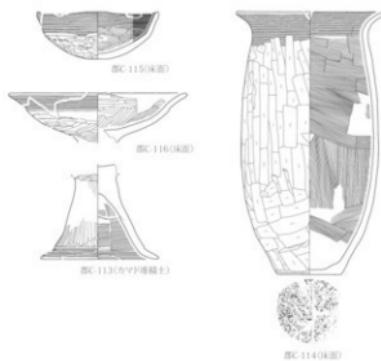
4a期(住社式期新段階)

都SI60出土土器  
(時期決定資料:上半2点)



4a期(住社式期新段階)

都SI67出土土器  
(時期決定資料:左側4点)

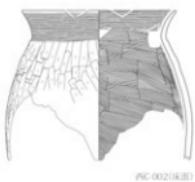


0 (1:6) 20cm

第308図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(3)

4a期(住社式期新段階)

西SI179出土土器  
(時期決定資料:左側1点)



西C-002(縁部)



西C-003(縁部)



西C-001(縁部)

4a期(住社式期新段階)

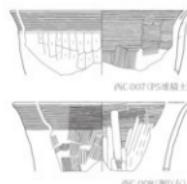
西SI180出土土器  
(時期決定資料:左側1点)



西C-006(縁部)



西C-004(縁部)



西C-007(縁部)



西C-005(縁部)



西C-008(縁部)

4a期(住社式期新段階)

西SI182出土土器  
(時期決定資料:左側1点)



西C-010(縁部)



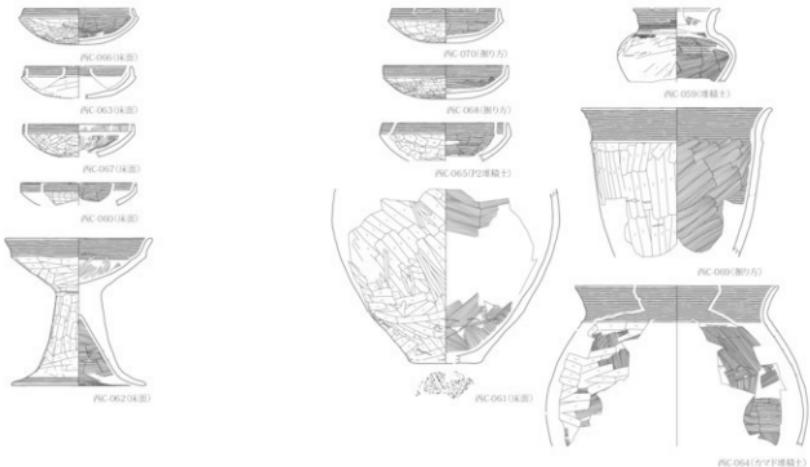
西C-009(縁部)

0 (1:6) 20cm

第309図 郡山遺跡第243次・西台遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(4)

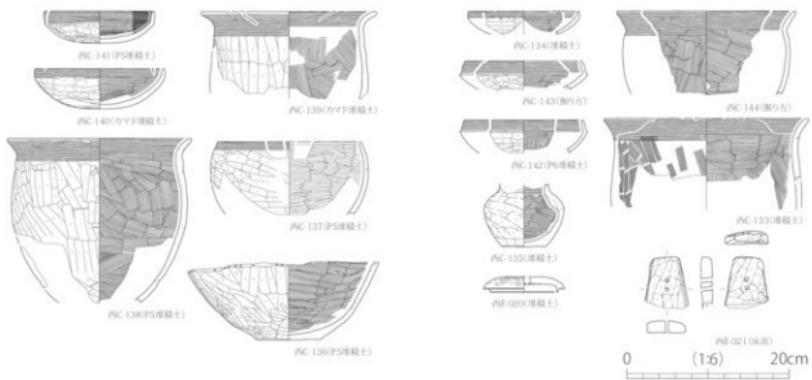
4a期(住社式期新段階)

西SI199出土土器  
(時期決定資料:左側5点)



4a期(住社式期新段階)

西SI210出土土器  
(時期決定資料:左側6点)



第310図 郡山遺跡第243次・西台細遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 住社式期新段階(5)

脚部は上半が柱状中実で、下半が「ハ」の字状に開く郡 C-074 と「ハ」の字状に開き、裾部が外側に屈曲する郡 C-113、裾部が外反する西 C-062 がある。なお、郡山遺跡第 243 次調査区の北側に隣接する郡山遺跡第 167 次調査区で類似する高环が出土している。土師器鉢は、外面の口縁部と体部の境に段を持つ郡 C-091（郡 SI57）と体部から口縁部にかけて内湾し、口縁端部が短く直立する西 C-137（西 SI210）がある。土師器甕は、胴部の形状が長胴形と球胴形を呈するものがみられ、球胴形はいずれも大型品である。長胴形・球胴形共に胴部の最大径は中位に持つものを主体とし、郡 C-097（郡 SI60）や西 C-006（西 SI180）のように下位に持つものがみられる。口縁部は外反するものを主体とし、口縁端部の形状は、口縁端部に向かって薄くなる郡 C-003（郡 SI45）、西 C-002（西 SI179）、西 C-006 や外側に屈曲する郡 C-024（郡 SI48）、郡 C-097、短く直立する郡 C-096（郡 SI60）など多様である。外面の口縁部と胴部の境は、段ないし稜を持つものを主体とし、段ないし稜を持たない郡 C-031（郡 SI48）や郡 C-114（郡 SI67）、西 C-006 がある。胴部外面の調整はヘラケズリを主体とし、全面ヘラナデが施される郡 C-024 や胴部上半にハケメ、下半にヘラケズリが施される郡 C-021（郡 SI48）などがある。

#### 4b 期（栗団式期）の土器（第 311・320 図）

今回の調査では、明確にこの時期に帰属する竪穴住居跡は検出されていない。遺構に伴うものではないが、土師器環部 C-006（郡 SI46）や須恵器高環部 E-024（郡 SI55）、須恵器环身部 E-019（郡 SI53）などが当該期に帰属するものと考えられる。

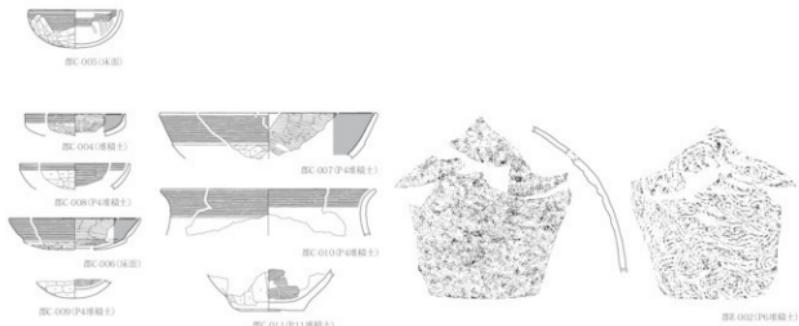
#### 5a 期（郡山 I 期官衙期）の土器（第 311～315 図）

郡山遺跡第 243 次調査 SI46・55 竪穴住居跡、西台畠遺跡第 11 次調査 SI185・186A・190・195・202・209 竪穴住居跡の床面及び床面直上、床面施設、カマド煙道堆積土から出土した土器を基準資料とする。土師器環は、北武藏型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つものと栗団式に後続する型態のものがある。土師器甕は、胴部の形状が長胴形と球胴形を呈するものがあり、大型品と中型品がある。このほか、土師器高環・鉢、須恵器環・蓋を作り。この時期は、土師器環などに法量の分化がみられるようになる段階と考えられているが、今回の調査では遺構に伴う遺物は少なく、不明な点が多い。

土師器環は、郡 C-005（郡 SI46）、西 C-018・025（西 SI185）、西 C-055（西 SI195）、西 C-124（西 SI209）がある。郡 C-005、西 C-018・025 は北武藏型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つもので、小型品の西 C-018、大型品の西 C-025 がある。西 C-055・124 は外面の口縁部と体部の境に段を持つもので、口縁部は西 C-055 が直線的に外傾、西 C-124 が内湾気味に外傾する。土師器高環は、西 C-088（西 SI202）がある。脚部は短脚で、楕円形の透かしを 2 窓持ち、环部内面に黒色処理が施されている。土師器鉢は、平底ないし平底風の丸底で深身の郡 C-081（郡 SI55）、西 C-041（西 SI190）と丸底で浅身の西 C-087（西 SI202）がある。後者はいわゆる有段丸底の环を横方向に大型化した器形で、内面に黒色処理が施されている。土師器甕は、胴部の形状が長胴形と球胴形を呈するものがみられる。長胴形・球胴形共に大型品と中型品があり、法量の分化がみられる。胴部の最大径は中位に持つものを主体とし、西 C-016（西 SI185）のように下位に持つものがみられる。口縁部は外反するものと外傾するものがあり、外面の口縁部と胴部の境は段ないし稜を持つものを主体とし、段ないし稜を持たない西 C-038（西 SI190）がある。胴部外面の調整は全面ハケメが施される郡 C-085（郡 SI55）、西 C-038、西 C-093（西 SI202）や全面ヘラケズリが施される西 C-016、西 C-094（西 SI202）、胴部上半にハケメ、下半にヘラケズリが施される西 C-019（西 SI185）などがある。須恵器環は、西 E-004（西 SI190）がある。底部からの立ち上がりが不明瞭で、外面の体部下端から底部には回転ヘラケズリによる再調整が施されているほか、底部内面はヘラナデが施されている。須恵器蓋は、郡 E-025（郡 SI55）がある。天井部は扁平で、カエリ端部は口縁端部より下方に位置する。外

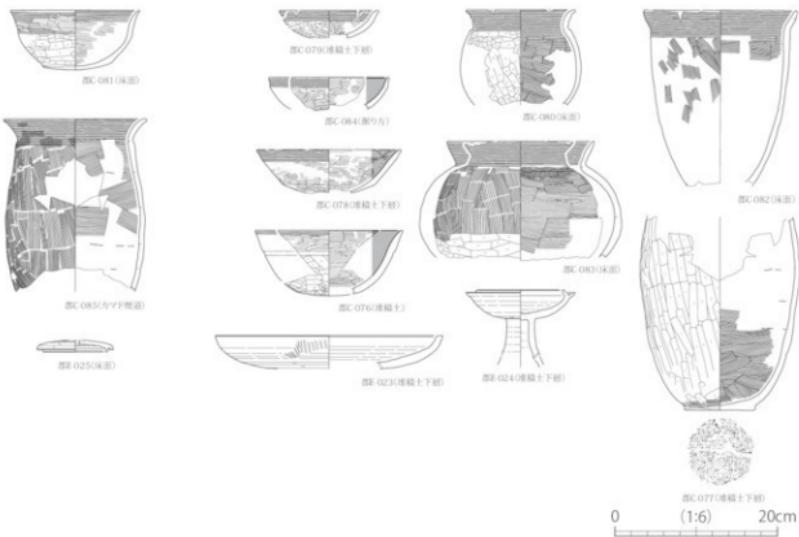
5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

郡SI46出土土器  
(時期決定資料:左上1点)



5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

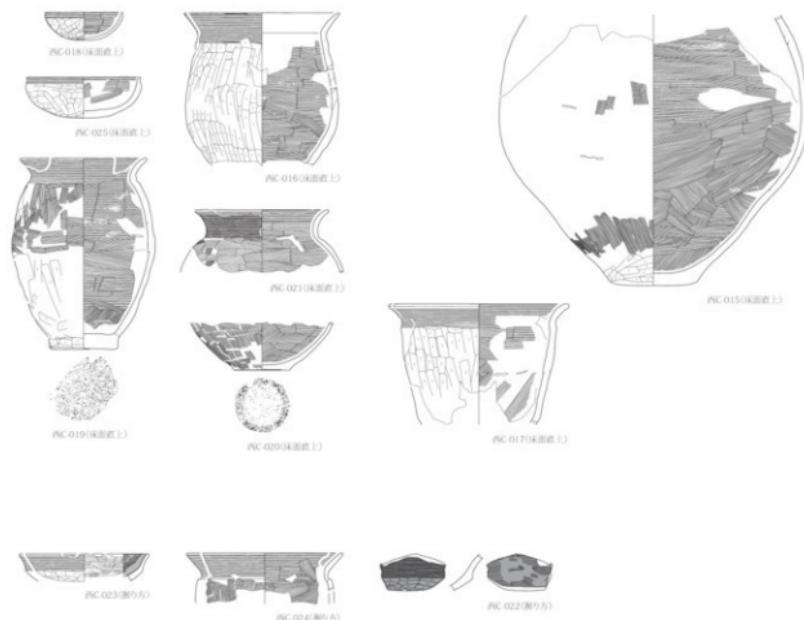
郡SI55出土土器  
(時期決定資料:左側3点)



第311図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山Ⅰ期官衙期(1)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI185出土土器  
(時期決定資料:上半8点)



5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI186A出土土器  
(時期決定資料:左側1点)

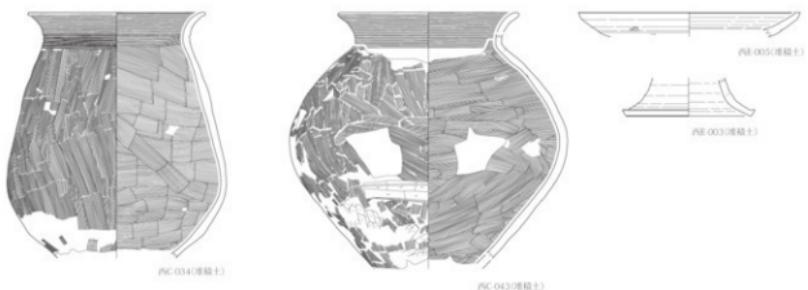
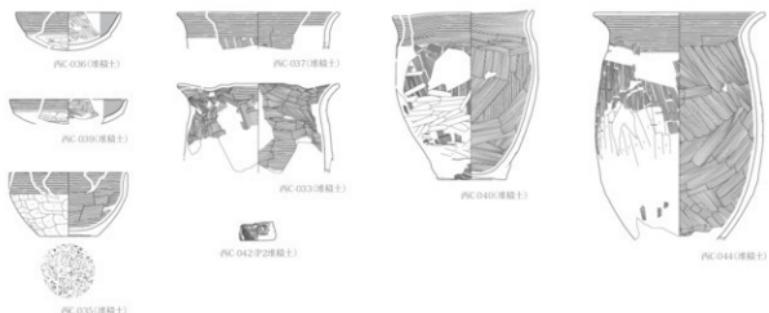
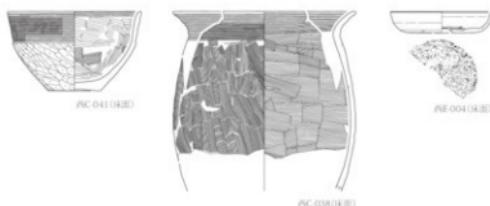


0 (1:6) 20cm

第312図 郡山遺跡第243次・西台窯遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山Ⅰ期官衙期(2)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI190出土土器  
(時期決定資料: 上半3点)



0 (1:6) 20cm

第313図 郡山遺跡第243次・西台細遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山Ⅰ期官衙期(3)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI195出土土器  
(時期決定資料:左側1点)



西C-055(灰褐色)



西C-007(堆積土)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI202出土土器  
(時期決定資料:上半5点)



西C-087(灰褐色土)



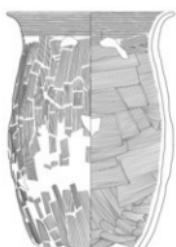
西C-085(灰褐色)



西C-088(灰褐色)



西C-094(灰褐色)



西C-083(灰褐色)



西C-091(灰褐色土)



西C-083(堆積土)



西C-080(堆積土)



西C-090(P1堆積土)



西C-086(堆積土)



西C-079(堆積土)



西C-092(灰褐色)



西C-089(灰褐色)



西C-084(堆積土)



西C-095(灰褐色)



西C-082(堆積土)



西C-096(P4堆積土)



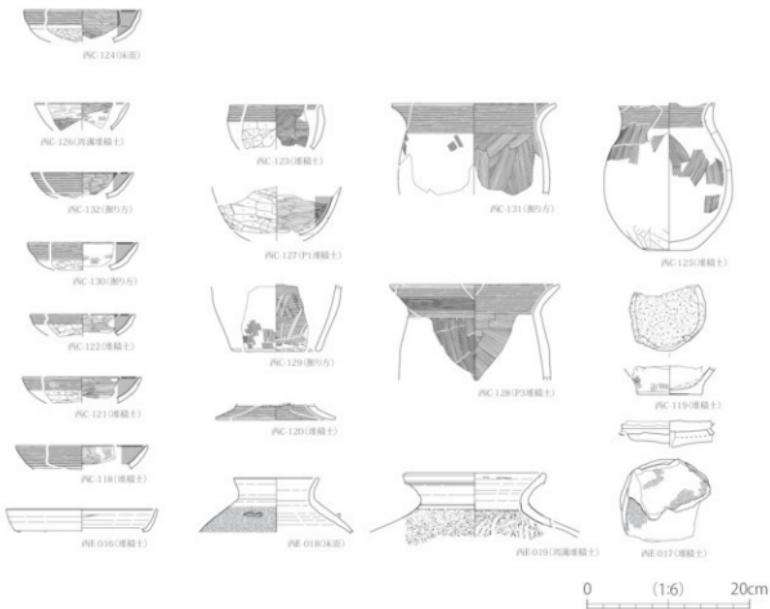
西C-081(堆積土)

0 (1:6) 20cm

第314図 郡山遺跡第243次・西台畝遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山Ⅰ期官衙期(4)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

西SI209出土土器  
(時期決定資料:上半1点)



第315図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山Ⅰ期官衙期(5)

面の天井部から体部にかけて回転ヘラケゼリによる再調整が施されている。このほか、郡SI50の掘り方から、畿内系土師器（郡C-049・第35図-1、第320図）が出土しており、飛鳥IVに比定されるものである。

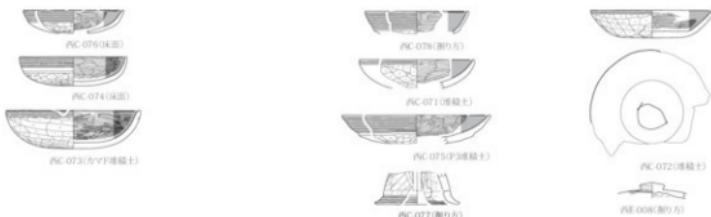
5bi期(郡山Ⅱ期官衙期)の土器(第316・317図)

西台畠第11次調査SI200・208・255竪穴住居跡の床面及び床面直上、カマド堆積土から出土した土器を基準資料とする。土師器環は、関東系土師器は認められず、栗圓式に後続する型態のもので、平底風の丸底が主体となる。このほか、土師器鉢、須恵器長頸瓶・甕を作う。この時期は、5a期に引き続き、法量の分化が認められ、須恵器の出土量及び共作率が増加する段階と考えられているが、今回の調査では遺構に伴う遺物は少なく、不明な点が多い。

土師器環は、外面の口縁部と体部の境に不明瞭な段ないし稜を持つ西C-074・076(西SI200)と段ないし稜を持たない西C-073(西SI200)があり、西C-073・074は平底風の丸底である。いずれも内面に黒色処理が施されている。法量に違いが認められるが、同一器形ではないため、詳細は不明である。土師器鉢は、西C-106(西

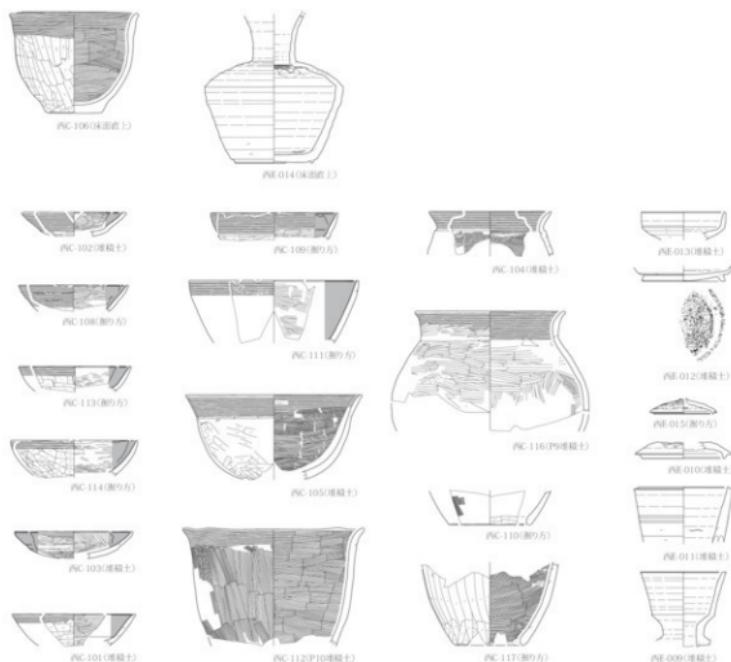
5b i 期(郡山II期官衙期)

西SI200出土土器  
(時期決定資料:左側3点)



5b i 期(郡山II期官衙期)

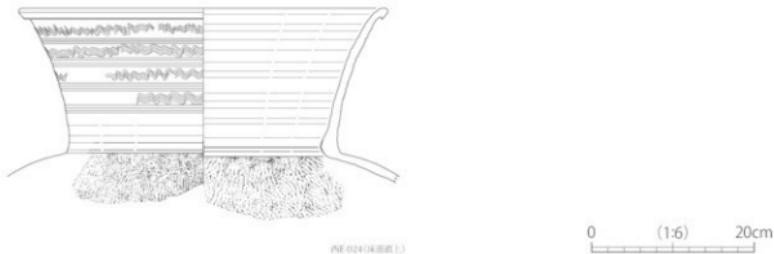
西SI208出土土器  
(時期決定資料:上半2点)



0 (1:6) 20cm

第316図 郡山遺跡第243次・西台遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山II期官衙期(1)

西SI255出土土器  
(時期決定資料:すべて)



第317図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 郡山II期官衙期(2)

SI208)は土師器甕を縦方向に縮小化した器形で、外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持たない。須恵器長頸瓶は、西E-014(西SI208)がある。体部の最大径は上位にあり、肩部が角張り強く張るものである。須恵器甕は、西E-024(西SI255)がある。口縁端部に平坦面を持ち、下端が垂下するものである。口縁部に5条1組の波状文と2条1組の平行沈線が各4段施されている。

#### 5bii期(奈良時代)の土器(第318・319図)

郡山遺跡第243次調査SI49竪穴住居跡、西台畠遺跡第11次調査SI193・212竪穴住居跡の床面及び床面直上、カマド堆積土から出土した土器を基準資料とする。土師器环は、平底のものがみられるようになり、丸底風の平底のものと共に共存する。このほか、須恵器環が伴う。今回の調査では遺構に伴う遺物は少なく、不明な点が多い。

土師器环は、西C-146・148・149(西SI212)がある。丸底風の平底の西C-146や平底の西C-149がみられるようになり、西C-149は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜を持たない。須恵器环は、深身の郡E-006(郡SI49)と浅身の西E-006(西SI193)がある。底部の切り離しは郡E-006が静止糸切り、西E-006が回転糸切りで、共に体部下端から底部周縁にかけて回転ヘラケズリによる再調整が施されている。西E-006の内外面には火拂痕がみられる。このほか、西SI198の掘り方から、ロクロ土師器环(西D-001・第193図-2、第322図)が出土している。底径/口径比が0.61と底部が大きく、外面の体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリによる再調整が施され、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。

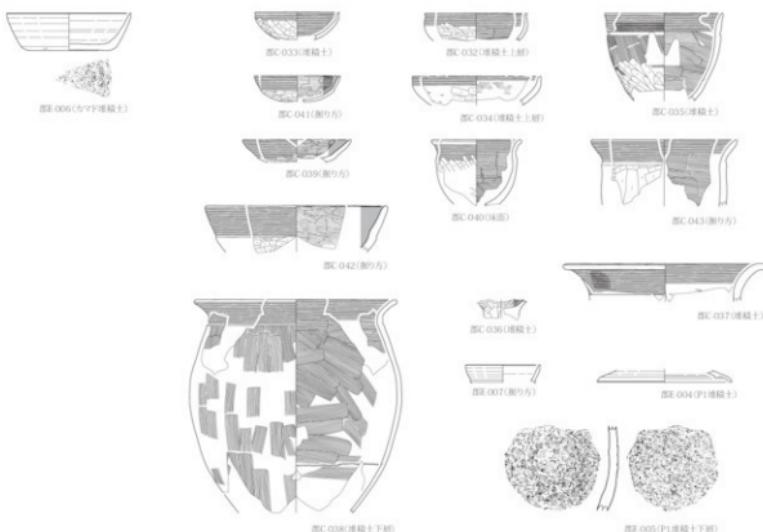
#### (4) 7・8期:中世~近世

西台畠遺跡第11次調査の井戸跡から陶器・磁器が出土している。陶器は、常滑産の甕、古瀬戸の大型皿あるいは鉢、白石窯産の甕・鉢、八郎窯産の甕、在地産の甕・鉢があり、常滑産の甕は14世紀代、古瀬戸の大型皿あるいは鉢は14~15世紀代、そのほかは、13世紀中頃から14世紀前半のものである。磁器は、龍泉窯産青磁の皿あるいは鉢の破片資料である。

郡山遺跡第243次調査の小溝状遺構群から近世陶磁器が出土しているが、細片のため詳細は不明である。

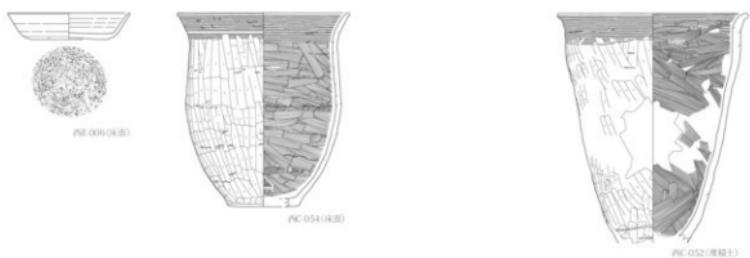
5b ii 期(奈良時代)

都SI49出土土器  
(時期決定資料:左上1点)



5b ii 期(奈良時代)

西SI193出土土器  
(時期決定資料:左側2点)



0 (1:6) 20cm

第318図 都山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 奈良時代(1)

5b ii 期(奈良時代)

西SI212出土土器  
(時期決定資料:左側3点)



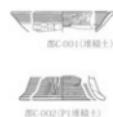
4a期(住社式期新段階)

都SI56出土土器  
(時期決定資料:なし)



4a期(住社式期新段階)以降

都SI44出土土器  
(時期決定資料:なし)



4a期(住社式期新段階)以降

都SI58出土土器  
(時期決定資料:なし)



都SI65出土土器  
(時期決定資料:なし)



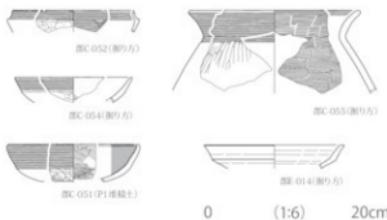
4a期(住社式期新段階)～5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

都SI61出土土器  
(時期決定資料:なし)



4a期(住社式期新段階)～5b ii 期(奈良時代)

都SI51出土土器  
(時期決定資料:なし)



第319図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 奈良時代(2)・その他(1)

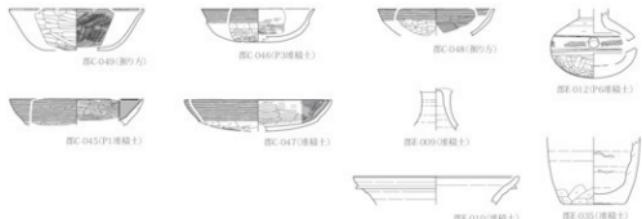
5a期以前(郡山Ⅰ期官衙期)

郡SI47出土土器  
(時期決定資料:なし)



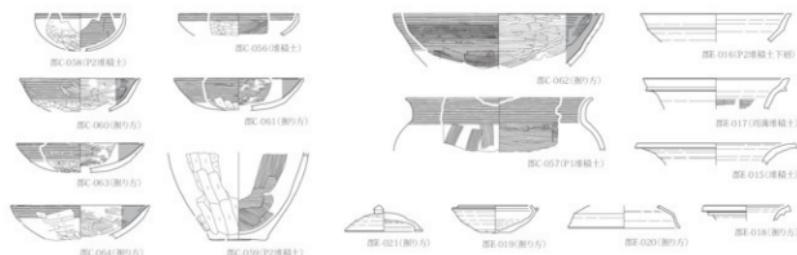
5a期(郡山Ⅰ期官衙期)～5b ii期(奈良時代)

郡SI50出土土器  
(時期決定資料:なし)



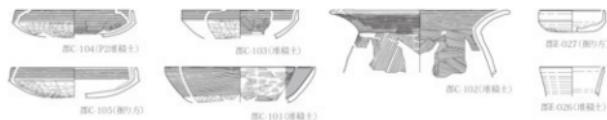
5a期(郡山Ⅰ期官衙期)以降

郡SI53出土土器  
(時期決定資料:なし)



5a期(郡山Ⅰ期官衙期)以降

郡SI64出土土器  
(時期決定資料:なし)



0 (1:6) 20cm

第320図 郡山遺跡第243次・西台畑遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 その他(2)



第321図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 その他(3)

5b i 期(郡山II期官衙期)以降

西SI252A出土土器  
(時期決定資料:なし)



NC-153(陶輪土)



NC-154(P2陶輪土)

5b i 期(郡山II期官衙期)以降

西SI191出土土器  
(時期決定資料:なし)



NC-107(陶輪土)



NC-045(陶輪土)



NC-048(陶輪土)



NC-049(陶輪土)



NC-047(陶輪土)



NC-046(陶輪土)



NC-050(陶輪土)

5b ii 期(奈良時代)以降

西SI198出土土器  
(時期決定資料:なし)



NC-056(P2陶輪土)



NC-057(陶輪土)



NC-003(削り方)

時期不明

西SI206出土土器  
(時期決定資料:なし)



NC-099(削り方)



NC-100(削り方)

時期不明

西SI252B出土土器  
(時期決定資料:なし)



NC-155(P1・38陶輪土)

0

(1:6)

20cm

第322図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡出土遺物 その他(4)

## 第2節 古代の遺構について（第323～334図）

### (1) 壓穴住居跡（第323～327図）

壓穴住居跡は、郡山遺跡第243次調査で25軒（郡SI44～68）、西台畠遺跡第11次調査で45軒（西SI179～212・242・243・248・249・251～255）、総数70軒が検出されている。これらの壓穴住居跡について構造に関する属性をまとめ、それらを整理して一覧表にした。平面形状・規模、主軸方向、柱穴構造、カマド、その他の施設の特徴について順次記載する。

#### a. 平面形状・規模

検出された壓穴住居跡70軒のうち、平面形状が把握できたもの、あるいは推定されたものは62軒（郡SI44～68、西SI179～187・189～200・202～204・207～210・212・243・248・251～252B・254・255）である。平面形状は方形ないし隅丸方形を主体とするが、隅丸長方形を呈するものが1軒（西SI191）、台形を呈するものが2軒（西SI184、西SI195）認められる。このうち、規模が把握できる壓穴住居跡は36軒で、最大のもの（郡SI46）は一辺879cm、最小のもの（郡SI48）は一辺340cmである。規模の割合をみると、一辺400～600cmの壓穴住居跡が19軒と大部分を占め、一辺700cm以上の壓穴住居跡が12軒、一辺400cm以下の壓穴住居跡が5軒ある。詳細な時期が不明な壓穴住居跡が多いため、時期毎において平面形状及び規模の明確な違いは確認できないが、一辺800cmを超える大型の壓穴住居跡は5a期以降、400cm以下の小型のものは4a期に帰属するものが多く認められる。

#### b. 主軸方向

カマドを基準とした主軸方向を把握できた壓穴住居跡は19軒（郡SI46～50・54・55・57・60・67、西SI180・182・190・191・200・202・208・210・212）である。主軸方向が①N-20～40°-Wと西側に傾くもの6軒（郡SI48・54・55・57・67、西SI190）、②N-7°-E～N-5°-Wと真北方向を指向するもの7軒（郡SI46・50、西SI180・200・202・208・212）、③は①と②の中間でN-13～16°-Wと西側にやや傾くもの3軒（郡SI49・60、西SI210）があり、真北方向を指向する壓穴住居跡が最も多くみられる。その他に東西方向を指向するもの3軒（郡SI47、西SI182・191）がある。このうち、帰属時期が特定できた壓穴住居跡は17軒で、4a～5a期は②の西側にやや傾くものが多く、5bi期以降は①の真北方向を指向するものが多い。

#### c. 柱穴構造

検出された壓穴住居跡のうち、主柱穴の構造が把握できるもの、または推定できるものは41軒（郡SI44・46・47・49～54・57～61・64・67、西SI179～186A・187・189・190・193・195・197・199・200・202・203・208～212・252A・252B）で、主柱穴が確認できないものは3軒（郡SI48・55、西SI191）である。主柱穴の構造が把握できるもの、または推定できるものは、いずれも主柱穴を対角線上に4本配列する4本柱穴で、当該期の主柱穴の構造はこの配列が基本的かつ普遍的なものと考えられる。また、柱の据え替えを行い、建て替え及び抜張の可能性があるものは8軒（郡SI44・47・51・61、西SI184・186A・190・252A）で、5a期以降に多く認められる。主柱穴が確認できないものは、規模が比較的小型なので、帰属時期が4a期のもの（郡SI48）と5a期のもの（郡SI55）がある。このほか、西SI60の主柱穴及び主柱穴と重複するピットには、土師器表が正面に埋設されていた（第59～61図）。主柱穴との重複関係から、住居の廃絶後に埋設したものと考えられる。

#### d. カマド

カマド及びその痕跡が把握できたものは 34 軒（郡 SI46・51・53～55・57～61・64・67、西 SI179～182・184・187・190・191・193・195・200・202・208～210・212・242・249）である。これらのカマドは、擾乱などの影響により残存状況が悪く、全様が明らかになったものは少ない。カマドの位置は、北壁に付設されるものが 28 軒と最も多く、西壁が 2 軒（郡 SI47、西 SI182）、東壁が 2 軒（郡 SI51、西 SI191）で、壁面の中央付近に付設されている。カマド袖は基本層IV層土を主体として構築されており、芯材として棒状礫ないし加工礫が用いられているもの、あるいはその痕跡が検出されたものが 7 軒（郡 SI57、西 SI179・180・182・195・200・210）ある。燃焼部は壁内に位置するものを主体とし、僅かに外側に張り出すもの 2 軒（郡 SI50・55）がみられ、支脚として棒状礫が用いられているもの、あるいはその痕跡が検出されたものが 4 軒（郡 SI60、西 SI179・191・210）ある。残存している煙道部は、長さ 20～234cm で、先端に向かって僅かに下がるもの 11 軒（郡 SI46・47・55・57・58・61、西 SI182・190・200・202・208）、平坦なもの 4 軒（郡 SI49・54・64、西 SI191）、起伏がみられるもの 1 軒（西 SI210）がある。煙出し部はピット状に窪むものの 6 軒（郡 SI46・49・50、西 SI190・202・208）や、階段状に下がるもの 1 軒（郡 SI58）ある。

#### e. その他の施設

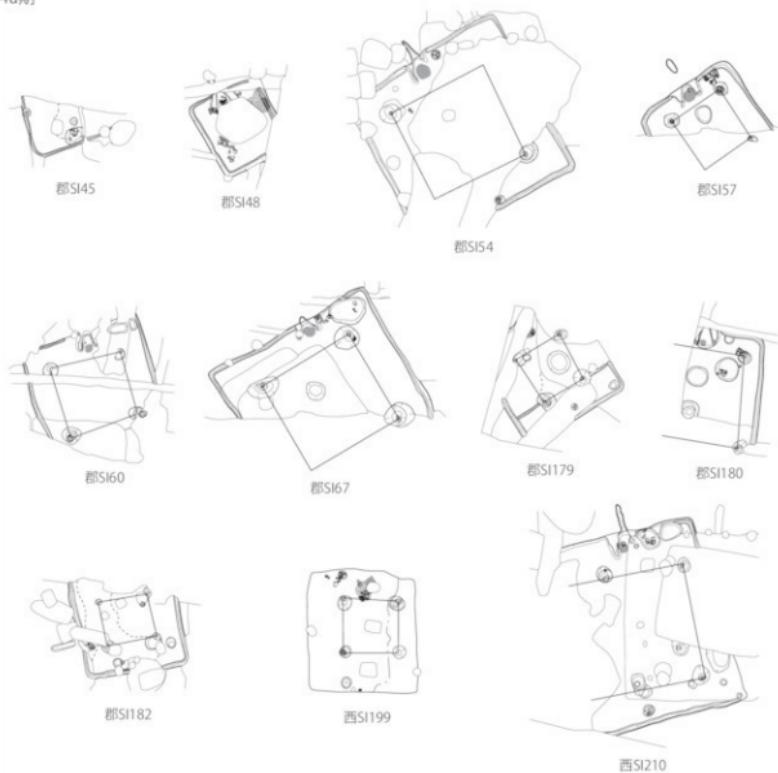
主柱穴及びカマドを除く竪穴住居跡の施設としてほかに、周溝、壁柱穴、貯蔵穴、土器の置き台として使用したと考えられる施設、間仕切り溝、出入り口に関連する施設などがある。周溝はカマド部分を除く壁面に沿って全周するものが大部分を占める。周溝が検出された竪穴住居跡のうち、周溝内に壁柱穴と考えられる小ピットを持つものが 4 軒（郡 SI51、西 SI184・209・252A）、埴板痕跡が検出されたものが 2 軒（郡 SI49、西 SI186A）ある。貯蔵穴は 15 軒（郡 SI45・46・50・54・58・60・64・67、西 SI181・186A・189・190・198・202・210）から 17 基検出されている。南壁際に位置する郡 SI45 を除き、いずれもカマドの右脇ないし北東コーナーに位置し、配置について規則性があるものと考えられる。土器の置き台として使用したと考えられる施設は、1 軒（西 SI208）から 2 基検出されている。カマド左脇に位置し、16cm 前後の間隔で東西方向に並んで検出された。共に土師器表の口縁部から胴部上半部を正位の状態で埋設したもので、掘り方は土師器表とほぼ同じ大きさである。土器の埋設されている深さは 5cm 前後で、上半の 12cm 前後は床面から突出している。5bi 期に帰属するものと考えられる。間仕切り溝は 4 軒（西 SI179・195・252A・252B）から 5 条検出されている。いずれも周溝から主

4a期以前

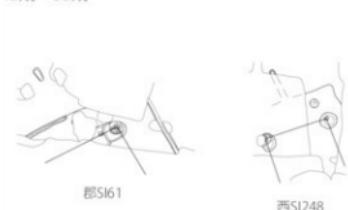


第 323 図 郡山遺跡第 243 次・西台畠遺跡第 11 次調査竪穴住居跡集成図 (1)

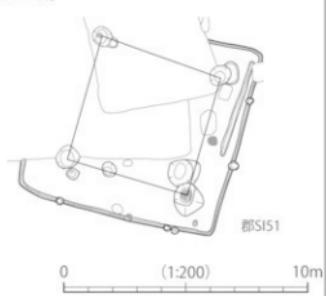
4a期



4a期～5a期

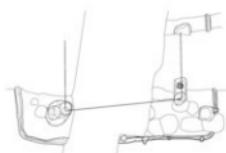


4a期～5b ii 期

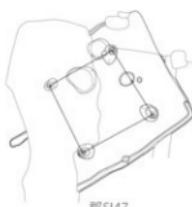


第324図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡集成図(2)

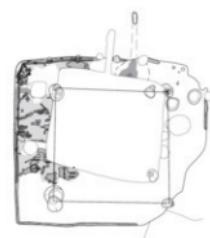
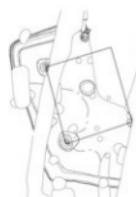
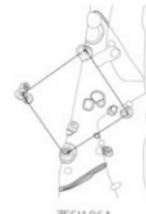
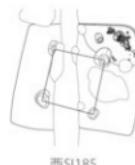
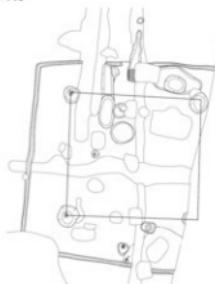
4a期以降



5a期以前



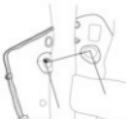
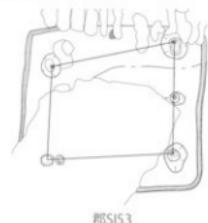
5a期



0 (1:200) 10m

第325図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡集成図(3)

5a期以降



郡SI53

郡SI64

西SI184

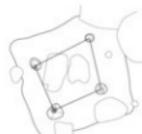
西SI187

5a期～5b ii期



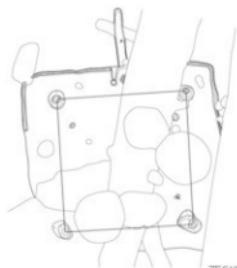
郡SI50

5b i 期以前

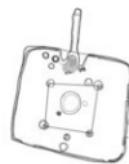


西SI203

5b i 期

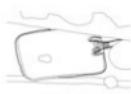


西SI200

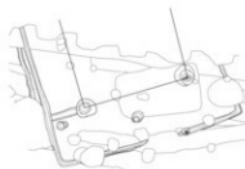


西SI208

5b i 期以降

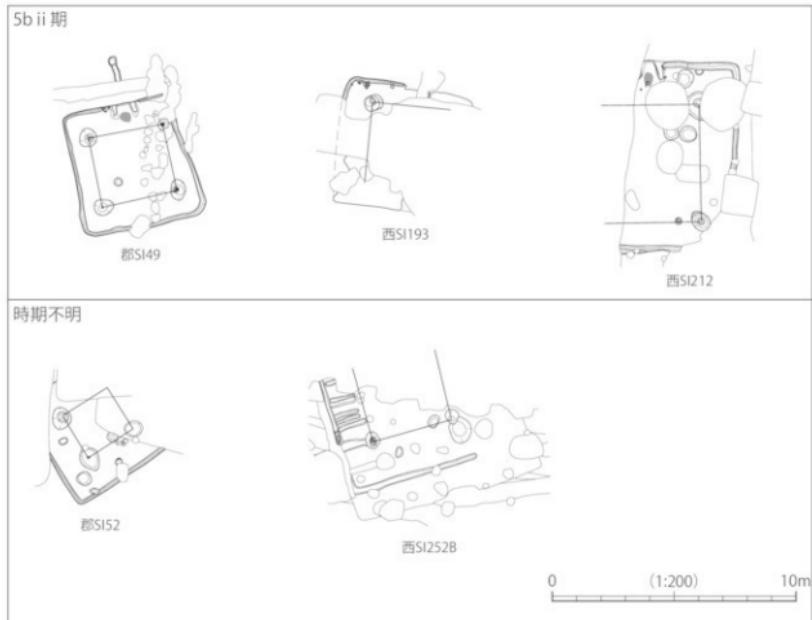


西SI191



0 (1:200) 10m

第326図 都山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡集成図(4)



第327図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査竪穴住居跡集成図(5)

柱穴に向かって延びており、東西両側で検出されたもの（西SI179）や西側のみで検出されたもの（西SI195・252A・252B）があり、前者は4a期、後者は5a期以降に帰属するものと考えられる。また、間仕切り溝とは別に、周溝から建物中央に向かって延びる小溝が6条検出されているものが1軒（西SI252B）ある。これらは床の基礎材である根太を敷いた痕跡と考えられ、寝所や居間などの施設が構築されていた可能性が考えられる。なお、西SI252Bは5bi期以降と考えられる西SI252Aの拡張前の住居跡である。出入り口に関連する施設は7軒（郡SI47・50・54、西SI179・186A・208・210）から検出されている。いずれも南壁際の中央に位置する。このうち、礎を埋設するものが4軒（郡SI54、西SI179・186A・210）認められ、礎を埋設するものはいずれも4a～5a期に帰属するものと考えられる。これらの他に粘土を貯蔵する施設と考えられるものが2軒（郡SI55、西SI190）検出されている。いずれも5a期に帰属するものと考えられる。灰や焼土を廃棄したと考えられるカマドに関連する土坑は9軒（郡SI50、西SI180・182・184・190・195・199・212・252A）から17基検出されている。

## (2) 掘立柱建物跡（第328図）

郡山遺跡第243次調査で8棟（郡SB3・19～25）、西台畠遺跡第11次調査で2棟（西SB13・14）、総数10棟が検出されている。これらの掘立柱建物跡も竪穴住居跡と同様に構造的属性を捉え、整理を行い一覧表にした。平面形状・規模、主軸方向、柱穴構造の順で記載する。

## 都山遺跡第243次調査 聲穴住居跡の属性一覧(1)

住居番号	Y' 0m'	平面形状・面積		輪方位		カマド		煙道部			その他の施設	時期区分	備考	
		平面形状	長軸×短軸(m)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	加熱器材	長さ(m)	底面	標出し			
S44	10+15	(圓丸方形) or (圓丸丘方形)	(23.9) × (20.8)	N-6° W	西壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴2基複数	4a期以前	南北コーナー付近のみ残存。都山遺跡第167次調査SB8の内郭部分。
S45	10+15	(圓丸方形) or (圓丸丘方形)	(33.0) × (26.0)	N-12° W	西壁	—	—	—	—	—	—	前柱穴1基 壁柱穴 or 出入り口施設1基	4a期	南北コーナー付近のみ残存。
S46	14+15+ 19+20+ 25+26	(方形)	87.9 × (73.4)	N-6° E	カマド	北壁	内	—	187	やや下がる	ピット状	主柱穴4基 前柱穴1基	5a期	東壁は調査外。
S47	25+26+ 31+32	(方形)	(57.9) × 54.0	N-122° W	カマド	西壁	—	—	(76)	やや下がる	—	主柱穴4基 出入り口施設1基	5a期以前	西半部と北東コーナー消失。S49の東壁を掘削した住居。
S48	31+32+ 37+38	方形	34.0 × (31.0)	N-28° W	カマド	北壁	—	盛土	(60)	—	—	—	4a期	南北コーナーは調査区外。床面の火平が消失。
S49	13+14+ 18+19	圓丸方形	52.2 × 45.5	N-13° W	カマド	北壁	内	盛土	196	平坦	ピット状	主柱穴4基	5bII期	北東コーナー消失。
S50	13+14+ 18+19	方形	85.6 × 85.0	N-2° W	カマド	北壁	やや外	—	(104)	—	ピット状	主柱穴4基・前柱穴1基 カマド間連・壁柱1基 出入り口施設1基	5a～5bII期	東壁の大半が消失。
S51	14+18+ 19+24+ 25	方形	83.8 × 79.0	N-16° E	東壁	東壁	—	—	—	—	—	主柱穴4基 壁柱穴1基	4a～5bII期	北西部から中央部が消失。
S52	18+24	(方形) or (長方形)	48.7 × (41.6)	N-33° W	西壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴3基	不明	南西部が残存。
S53	17+18+ 23+24	(方形)	74.1 × (67.8)	N-3° E	東壁	北壁	—	—	—	—	—	主柱穴4基	5a期以前	南西部から中央部・北壁側が消失。
S54	17+18+ 23+24+ 29	(方形)	72.6 × (71.2)	N-28° W	カマド	北壁	内	盛土	85	平坦	—	主柱穴2基・前柱穴1基 出入り口施設 or 堆積物1基	4a期	大半が消失。
S55	36	方形	43.7 × 41.1	N-20° W	カマド	北壁	やや外	盛土	(130)	やや下がる	—	粘土質窓穴1基	5a期	
S56	36	(圓丸方形) or (圓丸丘方形)	(35.7) × (30.9)	N-36° W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	4a期	南半部が消失。
S57	36	(圓丸方形) or (圓丸丘方形)	(45.3) × (35.6)	N-33° W	カマド	北壁	内	盛土 (棒状跡)	(124)	やや下がる	—	主柱穴3基	4a期	南半部が消失。
S58	17+23	(方形) or (長方形)	42.5 × (26.7)	N-1° W	西壁	北壁	—	—	(180)	やや下がる	断段状	主柱穴2基 前柱穴1基	4a期以前	南半部が消失。
S59	25+26+ 31+32	(方形)	(42.1)	N-30° W	東壁	北壁	—	—	—	—	—	主柱穴3基	5a期以前	東邊の崩落、被熱範囲、穴ののみ残存。 S47の建て替前の住居。
S60	28+34	(方形) or (長方形)	52.2 × (43.9)	N-16° W	カマド	北壁	内	盛土	—	—	—	主柱穴4基 前柱穴2基	4a期	南壁と北壁の大半が消失。
S61	35	(方形) or (長方形)	(52.9) × (33.0)	N-29° W	東壁	北壁	—	—	(228)	やや下がる	—	主柱穴1基	4a～5a期	北東部が残存。壁は消失。

※( )は、規模については現存値、平面形状については推定形を表す。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内部に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「やや外」、全体が張り出すものを「外」とした。

※煙道部底面の「下がる」の表記は、標出方向を表す。

郡山遺跡第243次調査 穴穴住居跡の属性一覧(2)

住居番号	チャット	平面形状・面積		輪方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備考
		平面形状	長幅×短幅(cm)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築材#(1)は芯材	長さ(cm)	底面	煙出し			
SH62	12・17	(方形) or (長方形)	(156) × (112)	N-12° W	東邊	-	-	-	-	-	-	-	不明	南東コーナー付近のみ残存。
SH63	12・17	(長方形)	(332) × (320)	N-12° W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	不明	北西部が消失。
SH64	17・18 +23	(圓丸方形) or (圓丸長方形)	(515) × (300)	N-1° W	西壁	北壁	内	盛土	(133)	平坦	-	主柱穴2基 脇柱穴1基	5a期 以前	北壁付近のみ残存。
SH65	34	(方形) or (長方形)	389 × (153)	N-4° E	東邊	-	-	-	-	-	-	-	4a期 以前	北壁付近のみ残存。 壁は消失。
SH66	8・13	(圓丸方形) or (圓丸長方形)	(428) × (155)	N-6° E	東邊	-	-	-	-	-	-	-	不明	南東付近のみ残存。 壁と床面は消失。
SH67	30・36 +37	(方形)	724 × (630)	N-32° W	カマド	北壁	内	盛土	(20)	-	-	主柱穴3基 脇柱穴1基	4a期	南西部が消失。
SH68	36	(方形) or (長方形)	(126) × (46)	N-43° W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	4a期 以前	北東コーナー付近のみ残存。

西台遺跡第11次調査 穴穴住居跡の属性一覧(1)

住居番号	チャット	平面形状・面積		輪方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備考
		平面形状	長幅×短幅(cm)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築材#(1)は芯材	長さ(cm)	底面	煙出し			
SI179	41・49	(方形)	474 × 472	N-36° W	西壁	北壁	内	盛土 (移状態)	-	-	-	主柱穴4基 出入り口施設 or 埋納坑1基 間仕切り溝2条	4a期	西側部分が床面残存。
SI180	49・57	(方形) or (長方形)	(510) × (327)	N-6° E	カマド	北壁	内	盛土	-	-	-	主柱穴2基 カマド隣接土坑1基	4a期	東半部分の北側2/3 が残存。
SI181	49・57	(方形) or (長方形)	(563) × (386)	N-4° W	東壁	北壁	内	盛土	-	-	-	主柱穴3基 脇柱穴1基	4a期	東半部分の北側2/3 が残存。
SI182	42・50	(方形) or (長方形)	439 × (429)	N-104° W	カマド	西壁	内	盛土 (加工窓)	(102)	やや下がる	-	主柱穴4基 カマド隣接土坑2基	4a期	複乱により北側が消滅。
SI183	50・51	(方形) or (長方形)	(400) × (290)	N-4° E	西壁	-	-	-	-	-	-	主柱穴1基	5a期 以前	複乱などにより南北部のみ残存する。
SI184	58・65	(台形)	480 × 468	N-17° W	西壁	北壁?	-	盛土	-	-	-	主柱穴2基 カマド隣接土坑1基 脇柱穴2基	5a期 以前	複乱などにより東半部が消滅。
SI185	58・59	方形	513 × 472	N-11° E	西邊	-	-	-	-	-	-	主柱穴4基	5a期	削平により北東部の 床面と掘り方方が異なる。
SI186A	58・65	(方形) or (長方形)	568 × (525)	N-32° W	東壁	-	-	-	-	-	-	主柱穴4基 脇柱穴1基 出入り口施設 or 埋納坑1基	5a期	削平により北西半部、 SI184により南北部 がそれぞれ消失する。
SI186B	58・65	(方形) or (長方形)	(415) × (350)	N-38° W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期 以前	削平の一部が残存。 SI186Aの壁と柱孔前の往來。

※(1)は、複層については現存値、平面形状については復元値を表す。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「やや外」、全体が張り出すものを「外」とした。

※煙道部底面の「下がる」の表記は、煙出し方向を指す。

## 西台周辺跡第 11 次調査 駿穴住居跡の属性一覧(2)

住居番号	Y' 9m <sup>2</sup>	平面形状・規模		軸方位		カマド		普通部			その他の施設	時期区分	備考	
		平面形状	長軸×短軸(m)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	始構造材※( )は芯材	長さ(m)	底面	標出し			
SI187	51・59	(方形)	511 × 500	N-25° W	東壁	北壁	—	—	(77)	—	—	主柱穴 4 基	5a 期以前	北側と南東部分の一部が消失。
SI188	50・51・58・59	不明	(480) × (337)	N-7° E	西辺	—	—	—	—	—	—	—	5a 期以前	西側部分の振り方のみ残存。
SI189	59・60	(方形) or (長方形)	(377) × (312)	N-40° W	東壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴 1 基 防窓穴 1 基	5a 期以前	規則により南側を消失。 SI190 の建て替え前の状況。
SI190	51・52・59・60	(方形) or (長方形)	(395) × (387)	N-40° W	カマド	北壁	内	盛土	135	やや下がる	ピット状	主柱穴 1 基・防窓穴 1 基 カマド開道土坑 1 基 白色粘土塊 1 所	5a 期以前	規則により南側を消失。 SI189 の建て替え住居。
SI191	52・53・60・61	隅丸 長方形	354 × 219	N-79° E	カマド	東壁	内	盛土	(77)	やや下がる	—	—	5b 期以前	北東部と標準部の先端が消滅。
SI192	52・60	(方形) or (長方形)	(278) × (178)	N-10° W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	5b 期以前	西南部のみ残存。
SI193	75・81 +82	(方形)	532 × 518	N-11° E	西壁	北壁	—	—	—	—	—	主柱穴 1 基	5b 期以前	規則により大部分消失。 北面は北西部のみ残存。
SI194	67・74	(隅丸方形) or (隅丸丘方形)	361 × (210)	N-12° W	西辺	—	—	—	—	—	—	—	不明	南部の振り方のみ残存。
SI195	61・68 +75	(台形)	717 × (418)	N-18° W	西壁	北壁	内	盛土 (構造壁)	—	—	—	主柱穴 2 基 開口切り溝 1 条	5a 期	東半部は調査区外にかかる。一部規則により残存。
SI196	81・88	(隅丸方形) or (隅丸丘方形)	(334) × (150)	N-27° W	東辺	—	—	—	—	—	—	—	5a 期以前	北東部の振り方のみ残存。
SI197	73・80	(方形) or (長方形)	(231) × (227)	N-10° W	西辺	—	—	—	—	—	—	主柱穴 1 基	不明	北西部の振り方のみ残存。
SI198	80・81・87・88	(隅丸方形)	482 × 398	N-8° E	東辺	—	—	—	—	—	—	防窓穴 1 基	5b 期以前	削平により振り方のみ残存。
SI199	80・87	方形	501 × 441	N-2° W	東辺	—	—	—	—	—	—	主柱穴 4 基 カマド開道土坑 1 基	4a 期	削平により振り方の2種存。
SI200	82・83・89・95 +96	(方形)	(806) × 775	N-5° W	カマド	北壁	内	盛土	234	やや下がる	—	主柱穴 4 基	5b 期	規則により中央部が消失。南東部は調査区外。
SI201	93・99	不明	(366) × (245)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5b 期以前	振り方の一部残存。 南側は調査区外。
SI202	79・86	(方形) or (長方形)	(343) × (331)	N-2° E	カマド	北壁	内	盛土	161	やや下がる	—	主柱穴 3 基 防窓穴 1 基	5a 期	規則により西側が消失。 南側は SI212 との重複により消失。
SI203	95・101	隅丸方形	441 × 417	N-19° W	西辺	—	—	—	—	—	—	主柱穴 4 基	5b 期以前	削平により振り方の2種存。
SI204	96・102	(方形) or (長方形)	802 × (252)	N-10° E	西辺	—	—	—	—	—	—	—	5b 期以前	SI200 との重複により振り方のみ残存。北側は調査区外。

※( )は、規模については現存値、平面形状については推定形を表す。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に 1/2 程度振り出すものを「やや外」、全体が振り出すものを「外」とした。

※標準部底面の「下がる」の表記は、標出方向を表す。

西台相模跡第11次調査 製六住居跡の属性一覧(3)

住居 番号	データID	平面形状・規模		輪方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備考
		平面 形状	長軸 × 短軸 (cm)	方位	算出 基準	付設 位置	燃焼部 ※( )は芯材	袖構築材 ※( )は芯材	長さ (m)	底面	煙出し			
SI205	102	不明	(247) × (28)	N-48° W	東邊	—	—	—	—	—	—	—	不明	周溝の一部と振り方の一部のみ残存。
SI206	101+102 +105 +106	不明	(235) × (137)	N-37° W	東邊	—	—	—	—	—	—	—	不明	振り方の一部のみ残存。
SI207	94+95	(方形) or (長方形)	(235) × (197)	N-10° W	北邊	—	—	—	—	—	—	—	不明	北側周溝の一部と振り方の一部が残存。
SI208	94+100	方形	475 × 435	N-7° E	カマド	北壁	内	盛土	179	やや 下がる	ピット灰	主柱穴4基 置き台と考えられる 施設2基 出入口施設2基	5ha期	中央部からSI209と の重複により消失。 東側は削平。幾次実 験。
SI209	94+100	(方形)	(793) × 693	N-1° W	西壁	北壁	内	盛土	(195)	—	—	主柱穴4基 壁柱穴3基	5a期	中央部からSI209と の重複により消失。 東側は削平。幾次実 験。
SI210	93+94* 99+100	(方形) or (長方形)	783 × (574)	N-14° W	カマド	北壁	内	盛土 (移状跡)	114	底面起伏	—	主柱穴2基 置き台2基 出入口施設1基	4a期	東側はSI208+209 との重複により消失。
SI211	80+87	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	主柱穴4基	4a期 以前	南半により主柱と 振り方の一部が残存。
SI212	86+93	(方形) or (長方形)	768 × (504)	N-1° W	カマド	北壁	内	盛土	—	—	—	主柱穴2基 カマド間連土坑3基	5ha期	現段により西南部と 南東部消失。
SI242	50	不明	—	N-4° E	カマド	埋造	北壁	—	(65)	—	—	—	5a期 以前	煙道部の先端のみ残 存。
SI243	74+81	(方形) or (長方形)	(412) (335)	N-28° W	西邊	—	—	—	—	—	—	—	不明	西部から北西部にかけ ての振り方のみ残存。
SI248	79+86	(方形) or (長方形)	(366) × (195)	N-28° W	東邊	北壁	—	—	(24)	—	—	主柱穴2基	4a～5a 期	北東部の振り方と煙 道部の一部が残存。
SI249	75	不明	—	N-25° W	カマド	埋造	—	—	—	(33)	—	—	不明	煙道部の先端のみ残 存。
SI251	52+60	(方形) or (長方形)	(246) × (54)	N-10° E	南壁	—	—	—	—	—	—	—	5ha期 以前	南西部の一部のみ残 存。
SI252A	52+53* 60+61	(方形) or (長方形)	835 × (616)	N-16° W	西壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴2基・壁柱穴1基 間仕切り溝1条	5ha期 以前	北半部が現段により 消失。SI252Bの建て 替え前付近。
SI252B	52+60	(方形) or (長方形)	(548) × (492)	N-16° W	西壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴2基 間仕切り溝1条 溝状窓(根太8)6条	不明	北半部が現段により 消失。SI252Bの建て 替え前付近。
SI253	61	不明	(387) × (185)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	北側の振り方のみ残 存。
SI254	60+61* 67+68	(方形) or (長方形)	493 × (53)	N-10° E	北邊	—	—	—	—	—	—	—	5ha期 以前	北部の振り方のみ残 存。
SI255	60	(方形) or (長方形)	(148) × (133)	N-45° W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	5ha期	南側部のみ残存。

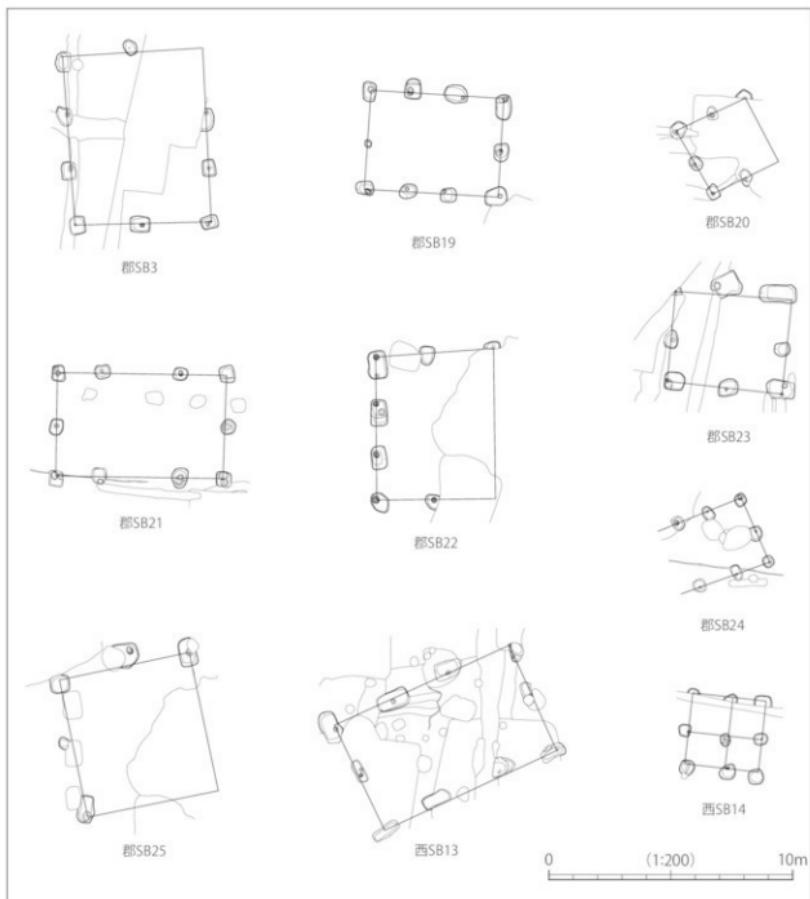
※( )は、施設については復存、平面形状については推定形を表す。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に構築されるものを「やや外」、全体が張り出すものを「外」とした。

※煙道部底面の「下がる」の表記は、煙出し方向を指す。

a. 平面形状・規模

検出された掘立柱建物跡のうち、擾乱などの影響により全体が検出されないものは5棟（郡SB3・20・22・24・25）あるが、それらも含めて平面形状は、いずれも方形ないし長方形を基調とする。柱の間数は桁行が2間以上のある可能性が考えられるもの（郡SB24）を除き、桁行3間×梁行2間ないし桁行2間×梁行2間である。側柱建物跡が大部分を占め、総柱建物跡は1棟（西SB14）である。規模は、桁行総長787cmが最大のもの（西SB13）で、680cm前後の大型のものが2棟（郡SB3・21）、550～600cmの中型のものが3棟（郡SB19・22・25）、470cm以下の小型のものが4棟（郡SB20・23・24、西SB14）ある。



第328図 郡山遺跡第243次・西台畠遺跡第11次調査掘立柱建物跡集成図

郡山遺跡第243次調査 竪立柱建物跡の属性一覧

遺構番号	「？」	平面形状・規模				主軸方向		柱穴			時期区分	備考
		間数 柱行×梁行 (間)	柱間 構造	平面 形状	柱行 × 梁行 (間)	方位	算出 基準	検出数	平面形状	その他の特徴		
SB3	20・26	3 × 2	楕柱	長方形	690 × 560	N-4°-W	西側 柱列	(9)	長方形基調主体		5a期以降	SE46(5a期)より新しい。 郡山遺跡第167次調査で東側 確認。
SB19	24・25* 30・31	3 × 2	楕柱	長方形	550 × 405	N-87°-W	南側 柱列	10	隅丸長方形基調主体		5a期以降	SE55(5a期)より新しい。 位置的にSB21を重複するが、 新旧関係不明。
SB20	28・29* 34・35	2 × 2	楕柱	方形	320 × 300	N-65°-E	北側 柱列	(6)	楕円形基調主体		不明	
SB21	24・25* 30	3 × 2	楕柱	長方形	680 × 450	N-89°-W	北側 柱列	10	隅丸方形基調主体	建て替えの痕跡 あり	5a期以降	SE55(5a期)より新しい。 位置的にSB19を重複するが、 新旧関係不明。
SB22	17・23 ・29	3 × 2	楕柱	長方形	585 × 485	N-0°	西側 柱列	(7)	隅丸長方形基調主体	建て替えの痕跡 あり	5a期以降	SE53・64(5a期以降)より新しい。
SB23	22・23* 28・29	2 × 2	楕柱	長方形	465 × 410	N-83°-W	南側 柱列	8	隅丸長方形基調主体	建て替えの痕跡 あり	不明	
SB24	29・30	(2 × 2)	楕柱	(長方形)	(290) × 295	N-68°-E	北側 柱列	(7)	隅丸方形基調主体		不明	
SB25	17・23	2 × 2	楕柱	方形	560 × 555	N-12°-W	西側 柱列	(5)	隅丸方形基調主体		5a期以降	SE53・64(5a期以降)より新しい。

西台相模跡第11次調査 竪立柱建物跡の属性一覧

遺構番号	「？」	平面形状・規模				主軸方向		柱穴			時期区分	備考
		間数 柱行×梁行 (間)	柱間 構造	平面 形状	柱行 × 梁行 (間)	方位	算出 基準	検出数	平面形状	その他の特徴		
SB13	50・58 ・59	3 × 2	楕柱	長方形	787 × 472	N-65°-E	北側 柱列	10	隅丸長方形基調主体	建て替えの痕跡 あり	5a期	SH185(5a期)より古く。 SH186(5a期)より新しい。
SB14	49	2 × 2	楕柱	方形	303 × 292	N-7°-E	東側 柱列	9	楕円形基調主体		不明	SH181(4a期以前)より新しい。

※表中の各数値について。( )は現存値を表す。

※柱行・梁行共に最大値で示した。

### b. 主軸方向

主軸方向は、N-7°-E～N-4°-Wと真北方向を指向するもの3棟（郡SB3・22、西SB14）、N-83°～89°-Wと東西方向を指向するもの3棟（郡SB19・21・23）、東側ないし西側に傾くもの4棟（郡SB20・24・25、西SB13）がある。これらのうち、竪穴住居跡との重複関係から時期を特定できた西SB13は5a期に帰属するものである。詳細な時期が不明である郡SB20・24は、共に西SB13と主軸方向が類似していることから、5a期に帰属する可能性が考えられる。

### c. 柱穴構造

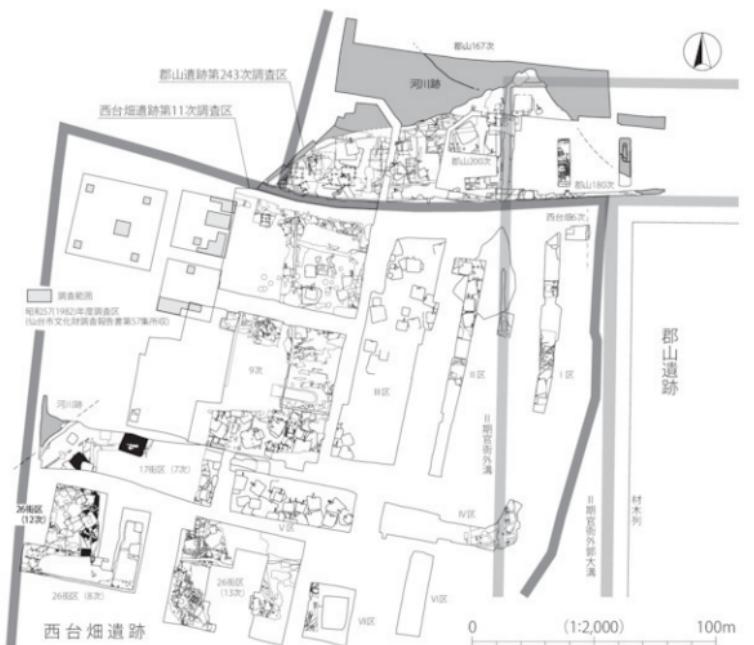
柱穴の平面形状は、隅丸長方形基調を主体とするものが4棟（郡SB19・21・22、西SB13）と多く、隅丸方形基調を主体とするもの3棟（郡SB21・24・25）、楕円形基調を主体とするもの2棟（郡SB20、西SB14）、長方形基調を主体とするもの1棟（郡SB3）がある。また、建て替えが行われたものが4棟（郡SB21～23、西SB13）ある。

### (3) 郡山遺跡・西台畠遺跡における古墳時代～古代の集落（第329～334図）

郡山遺跡及び西台畠遺跡の調査で検出された竪穴住居跡は、当該調査地周辺だけでも総数250軒以上を数え、7世紀後半から8世紀初頭に運営していた官衙及びその関連集落を中心とする古墳時代～古代の集落の様相が、徐々に明らかになってきている。ここでは、西台畠遺跡を中心として古墳時代～古代の集落の変遷図を掲載し、時期毎に概要を記載した。なお、遺構の帰属時期については、各報告書に準じた（註1）。

#### 3期（塩釜式期）

当該期の竪穴住居跡は、建物の主軸が北西方向を指向するものが多く、規模は450～600cm前後のものが主体で1000cmを超えるものが1軒ある。分布は西台畠遺跡の西部に密集しており、最大5軒の重複が認められる。郡山遺跡及び西台畠遺跡では当該期の竪穴住居跡は現在のところ他に検出されておらず、集落の初現と考えられる。



西台畠遺跡第4・5・7次調査区

住居番号	面積(cm)	軸方位	カマド	備考
	日幅×引幅	方位	設置基準	付設位置
内SH105	1032×(450)	N.18° E	東壁	—
内SH122	642×(594)	N.43° W	西壁	地床炉

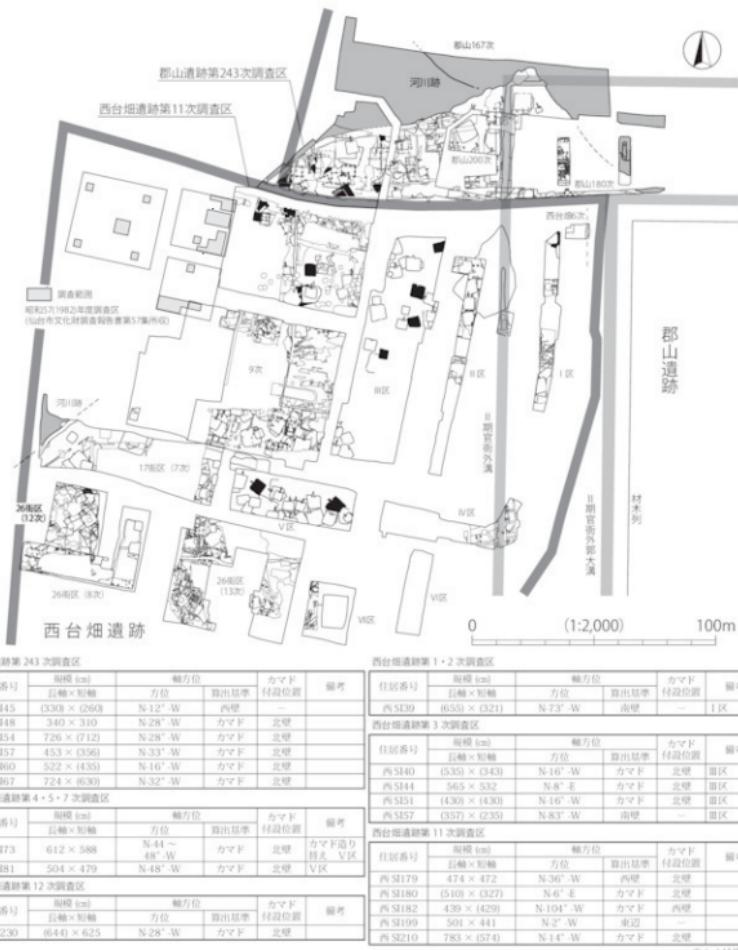
西台畠遺跡第12次調査区

住居番号	面積(cm)	軸方位	カマド	備考
内SI233	(630) × (627)	N.35° W	西壁	—
内SI239	538 × (269)	N.4° E	東壁	—
内SI244	455 × 427	N.43° W	西壁	地床炉
内SI245	(573) × (554)	N.32° W	側り方 腰壁部	—
内SI247	(627) × (601)	N.37° W	西壁	—
内SI250	(263) × (187)	N.51° E	南壁	—

第329図 郡山遺跡・西台畠遺跡集落変遷図（塩釜式期）

#### 4a期（住社式期新段階）

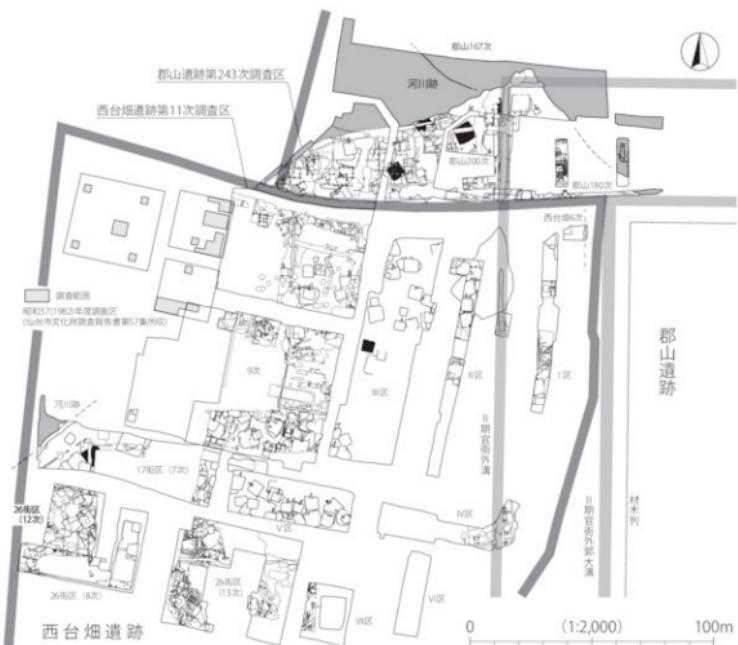
当該期の竪穴住居跡は、カマドの主軸方向が北～西方向に傾くもので、規模は300～800cm前後のものが認められる。分布は郡山遺跡の北西端～西台烟遺跡の北部・北東部、西台烟遺跡の中央部、西台烟遺跡の西部の3ヶ所である。このうち、郡山遺跡の北西端～西台烟遺跡の北部・北東部に集中する傾向が認められる。前段階に比べ竪穴住居跡は増加し、集落の範囲は東方から北東方にかけて拡大している。



第330図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図（住社式期新段階）

#### 4b期（栗団式期）

当該期の竪穴住居跡は、カマドの主軸方向は北～西方向に傾くもので、規模は450～750cm前後のものが認められる。分布は郡山遺跡の北西部、西台畠遺跡の中央部北側、西台畠遺跡の西部の3ヶ所である。このうち、郡山遺跡の北西部に集中する傾向がみられる。前段階に比べ竪穴住居跡は減少し、集落の中心部が北東側へ移動しているものと考えられる。



郡山遺跡第167・180・196次調査区

住居番号	面積(cm)	輪方位	カマド	付設位置	備考
郡 SH4A	584 × 578	N-34° W	カマド	北壁	建て持丸
郡 SH17	690 × 643	N-36° W	カマド	北壁	
郡 SH22	(430) × (204)	N-17° W	カマド	北壁	

西台畠遺跡第1・2・3次調査区

住居番号	面積(cm)	輪方位	カマド	付設位置	備考
西 SH12	(537) × (463)	N-74° E	南壁	—	西 SH3の下 1区
西 SH12	(537) × (463)	N-74° E	南壁	—	西 SH3の下 1区

西台畠遺跡第4・5・7次調査区

住居番号	面積(cm)	輪方位	カマド	付設位置	備考
西 SH21	762 × 738	N-33° W	カマド	北壁	
西 SH21	762 × 738	N-33° W	カマド	北壁	

郡山遺跡第200次調査区

住居番号	面積(cm)	輪方位	カマド	付設位置	備考
西 SH42A	750 × 726	N-31° W	カマド	北壁	建て持丸
西 SH58	(476) × (461)	N-11° E	カマド	北壁	南区

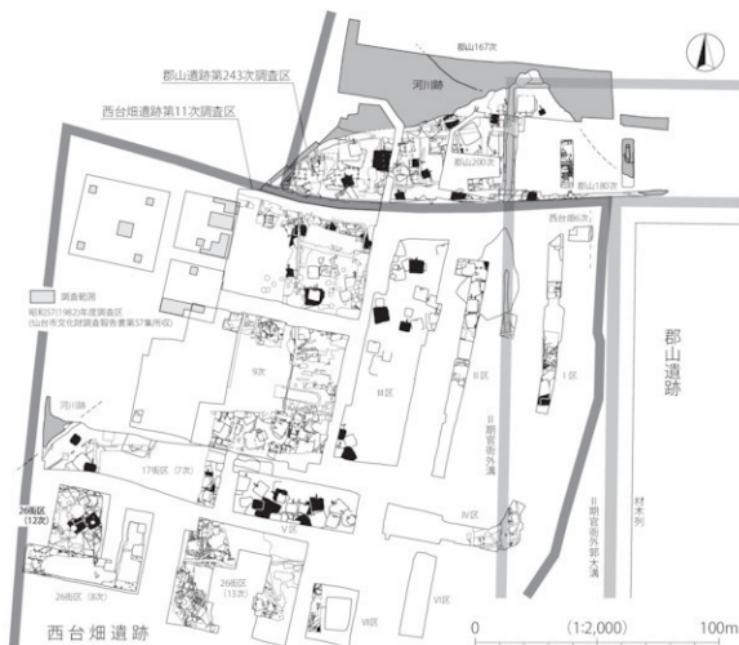
西台畠遺跡第12次調査区

住居番号	面積(cm)	輪方位	カマド	付設位置	備考
西 SH22	(556) × (370)	N-47° E	南壁	—	半( )は残存位

第331図 郡山遺跡・西台畠遺跡集落変遷図（栗団式期）

### 5a期（郡山Ⅰ期官衙期）

当該期の竪穴住居跡は、カマドの主軸方向は北～西方向に傾くものに加え、東方向に傾くものが出現する。規模は250～850cm前後のものが認められ、前段階と比べ小型の竪穴住居跡が増加する。これらの分布は郡山遺跡及び西台畠遺跡の全体に及ぶ。前段階に比べ竪穴住居跡は激増し、集落の規模は最大となる。また、郡山Ⅰ期官衙造営に伴い区画施設が構築され、掘立柱建物跡も増加する。



郡山遺跡第167・180・196次調査区

住居番号	面積 (m²)	軸方位	算出基準	カマド	付設位置	備考
郡SH1	386 × 320	N 19° W	カマド	北壁	カマド2基	
郡SH3	341 × 334	N 63° E	カマド	東壁		
郡SH5	375 × 328	N 85° E	カマド	東壁		
郡SH9	572 × (545)	N 24° W	カマド	北壁		
郡SE21	254 × 213	N 22° W	カマド	北壁		
郡SE23	(407) × (335)	—	—	—	—	
郡SE27A	814 × (406)	N 4° E	カマド	東壁	建で残瓦	
郡SE28	375 × 364	N 102° E	カマド	東壁		

西台畠遺跡第200次調査区

住居番号	面積 (m²)	軸方位	算出基準	カマド	付設位置	備考
郡SE36	(220) × (205)	N 4° W	カマド	北壁		

郡山遺跡第243次調査区

住居番号	面積 (m²)	軸方位	算出基準	カマド	付設位置	備考
郡SH46	879 × (734)	N 4° E	カマド	北壁		
郡SE55	437 × 411	N 20° W	カマド	北壁		

西台畠遺跡第1・2・3次調査区

住居番号	面積 (m²)	軸方位	算出基準	カマド	付設位置	備考
西SE2	(425) × (300)	N 6° W	カマド	北壁	—	1区
西SE3	(380) × (290)	N 35° W	東壁	—	1区	
西SE7	534 × (266)	N 29° W	西壁	北壁	—	1区
西SE16	(475) × (210)	N 17° W	西壁	—	日米	
西SE20	543 × (151)	N 0°	西壁	—	日米	
西SE28	(180) × (90)	—	—	—	日米	
西SE34	(328) × (172)	N 64° W	カマド	西壁	VII区	
西SE9	(130) × (113)	N 34° E	カマド	北壁	VII区	

西台畠遺跡第3次調査区

住居番号	面積 (m²)	軸方位	算出基準	カマド	付設位置	備考
西SH42	614 × 546	N 7° E	カマド	北壁	蔵区	
西SH55	(391) × 386	N 12° E	カマド	北壁	蔵区	
西SH56	680 × 554	N 7° W	西壁	—	蔵区	
西SH62	444 × (285)	N 12° E	カマド	北壁	蔵区	
西SH67	(644) × 535	N 64° E	カマド	東壁	蔵区	※( )は残存値

第332図 郡山遺跡・西台畠遺跡集落変遷図（郡山Ⅰ期官衙期）

西台烟遺跡第4・5・7次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	軸方位		カマド	付設位置	備考
		長軸×短軸	方位			
内 SD76	578 × 558	N 1° E	カマド	北壁	V区	
内 SD78	537 × 495	N 64° W	カマド	内壁	V区	
内 SD80	837 × 828	N 25° E	カマド	北壁	V区	
内 SB4	546 × 450	N 17° E	カマド	北壁	V区	
内 SB8	521 × 477	N 29° W	カマド	北壁	V区	
内 SB90	474 × 1420	N 55° E	窓壁	—	V区	
内 SU04	420 × 366	N 53° W	カマド	北壁		
内 SU11	384 × 364	N 3° E	カマド	北壁		
内 SU13	(36) × (179)	N 8° E	カマド	北壁		
内 SU120	489 × (35)	N 7° E	カマド	北壁		

※( )は残存値

西台烟遺跡第11次調査区

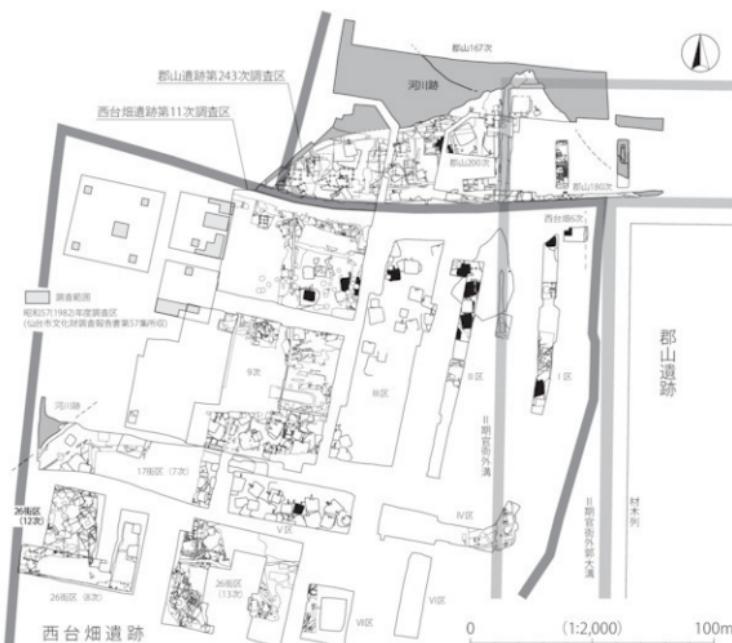
住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	軸方位		カマド	付設位置	備考
		長軸×短軸	方位			
内 SI85	513 × 472	N 11° E	西壁	—		
内 SI86A	568 × (529)	N 32° W	東壁	—		建て替え
内 SI190	(395) × (387)	N 40° W	カマド	北壁	—	
内 SI195	717 × (418)	N 18° W	内壁	北壁	—	
内 SI202	(343) × (331)	N 2° E	カマド	北壁	—	
内 SI209	(795) × 693	N 1° W	内壁	北壁	既失家屋	

西台烟遺跡第12次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	軸方位		カマド	付設位置	備考
		長軸×短軸	方位			
内 SE217	577 × 544	N 37° W	カマド	北壁		
内 SE224	497 × (417)	N 58° E	カマド	東壁		
内 SE225	641 × 638	N 40° W	カマド	北壁		

### 5bi期（郡山II期官衙期）

当該期の堅穴住居跡は、カマドの主軸方向が真北方向を指向するもの及び僅かに東ないし西方向に傾くものが大半を占め、規模は400～800cm前後のものが認められる。これらの堅穴住居跡の軸方向については、真北方向を基準として構築されている郡山II期官衙との関係性があるものと考えられる。分布は郡山遺跡の北西部～西台烟遺跡の北部・東部、西台烟遺跡の中央部の2ヶ所である。西台烟遺跡の北東部では郡山II期官衙外溝(SD13)に沿って密集しており、そのうち、郡山II期官衙外郭大溝と郡山II期官衙外溝の中間に立地するものもある。前段階に比べ堅穴住居跡は減少する傾向が認められる。



第333図 郡山遺跡・西台烟遺跡集落変遷図（郡山II期官衙期）

郡山遺跡第 167・180・196 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位	カマド	備考
	長軸×短軸	方位	算出基準	付設位置
郡 SH12	630 × (544)	N 2° W	カマド	北壁
郡 SH13	(354) × (160)	N 15° W	西壁	—

西台烟遺跡第 1・2 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位	カマド	備考
	長軸×短軸	方位	算出基準	付設位置
西 SH3	600 × (502)	N 10° W	カマド	北壁
西 SH13	550 × 515	N 2° E	カマド	北壁
西 SH17	405 × (193)	N 5° E	西壁	II 区
西 SH18	634 × (320)	N 0° W	カマド	北壁
西 SE23	(450) × (85)	N 4° E	カマド	北壁
西 SE24	555 × 477	N 10° W	カマド	北壁
西 SE27	420 × (235)	N 5° E	カマド	北壁
西 SE38	145.2 × 428	N 0°	東壁	II 区

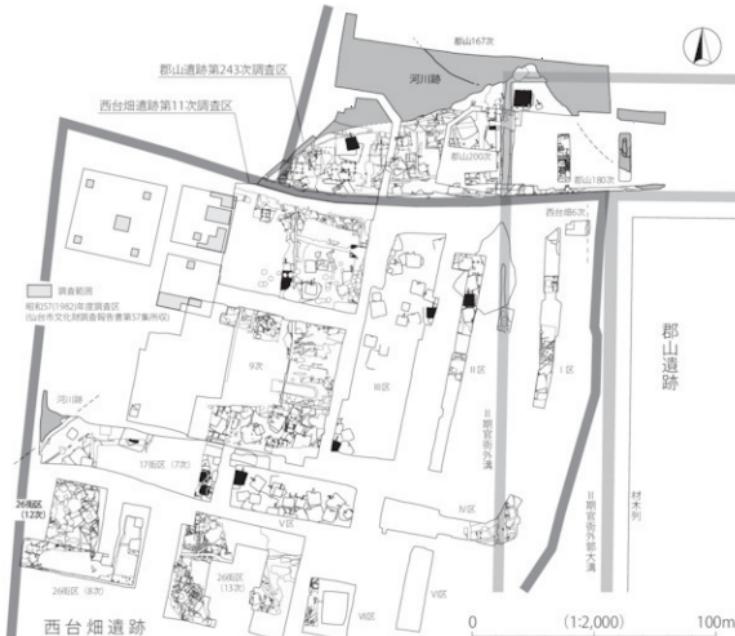
西台烟遺跡第 6 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位	カマド	備考
	長軸×短軸	方位	算出基準	付設位置
西 SH1	(350) × (340)	N 5 ~ 6° W	東壁	—

※ ( ) は既存値

5bii 期（奈良時代以降）

当該期の竪穴住居跡は、カマドの主軸が大きく東方向に傾くものもみられるが、真北方向を指向するものが大半を占め、規模は 400 ~ 750cm 前後のものが認められる。分布は郡山遺跡及び西台烟遺跡全体に及ぶが、空白域が多くみられ、点在するようになる。官衙の機能が郡山 II 期官衙から多賀城へ移転したのを機に集落が衰退していく様相が窺える。



第 334 図 郡山遺跡・西台煙遺跡集落変遷図（奈良時代）

郡山遺跡第 167・180・196 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
郡 SA19	73.0 × (70.3)	N 4° E	東壁	北壁	

郡山遺跡第 243 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
郡 SA49	52.2 × 45.5	N 13° W	カマド	北壁	

西台烟遺跡第 4・5・7 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
西 SH48	47.0 × (40.5)	N 0°	カマド	北壁	Ⅳ区
西 SH65	(45.5) × (37.1)	N 21° E	カマド	北壁	延びて斜 面区

西台烟遺跡第 11 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
西 SH193	53.2 × 51.8	N 11° E	西壁	北壁	
西 SH212	76.8 × (50.4)	N 1° W	カマド	北壁	

郡山遺跡第 200 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
郡 SA4	42.4 × (40.3)	N 7° E	西壁	—	

西台烟遺跡第 1・2 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
西 SH22	50.5 × 46.3	N 0°	カマド	北壁	Ⅴ区

西台烟遺跡第 4・5・7 次調査区

住居番号	面積 (m <sup>2</sup> )	輪方位		カマド	備考
		長軸×短軸	方位		
内 SB2	60.6 × (45.3)	N 10° E	カマド	北壁	Ⅳ区
内 SH22	40.5 × (32.2)	N 76° W	南壁	—	
郡 SH109	51.9 × (41.9)	N 104° E	カマド	北壁	
郡 SH110	40.5 × 39.6	N 109° E	カマド	北壁	

※( )は現存地

註 1：西台烟遺跡 9・13 次調査については、現在報告書作成中のため各遺構の時期区分は保留とし、遺構配置図のみを図示した。

詳細は各報告書を参照していただきたい。

### 第 3 節 西台烟遺跡集落の区画施設について（付図①・②）

郡山遺跡官衙や西台烟遺跡集落の区画施設となる可能性がある遺構とその変遷については、第 1・2 次調査報告書や第 4・5・7 次調査報告書で述べているが、ここでは特に、SD11 溝跡と SD82 溝跡、SA3 材木列について検討する。

SD11 溝跡は、郡山遺跡第 167 次調査で確認し、第 180 次調査でⅡ期官衙外溝との重複部分を確認しているが、この部分での溝跡の方向は、N - 88° - W で、外郭大溝北西コーナー部からほぼ真東西方向に伸びている。外溝との重複部分については検出時に検討を行ない、外溝に先行する遺構と考えた。その後、西台烟遺跡第 6 次調査で確認した SD1 溝跡を、規模や断面形状・堆積土から同一遺構の折り返しと考え、北辺と東辺で構成される方形の区画を想定し、時期については、外溝や堅穴住居跡との重複関係から、Ⅰ期官衙後半からⅡ期官衙に先行する時期と位置づけていた。

今回、郡山遺跡第 243 次調査で SD11 溝跡の延長部（北辺）を確認し、新たに西台烟遺跡第 9・11 次調査で確認された SD82 溝跡についても、規模や断面形状・堆積土から、SD11 溝跡と構成される区画施設の西辺や南辺となる可能性を考えた。さらに、東に隣接する 3 次調査で確認されていた SD50 溝跡も、位置的に SD82 と同一遺構となる可能性がある。

調査では SD11 溝跡と SD82 溝跡の接続が想定された北西コーナー部は、攪乱等があり確認出来なかつたが、SD11 溝跡の北側では SD82 溝跡は確認されていない。二つの溝跡の規模や断面形状・堆積土はよく似ており、同一遺構と考えた場合、構成される区画は、東西約 120m、南北約 85m で、東西に長い方形区画となる。これは、Ⅱ期官衙外郭大溝（芯々）の南北長 438m の約五分の一の大きさとなる。SD11 溝跡の時期については、これまでⅡ期官衙に先行する時期と考えてきたが、郡山遺跡第 243 次調査では堆積土上層からⅡ期官衙期の遺物が出土している（第 88 図）。しかし、断面の検討から、この部分では掘り直しの痕跡や人為的な埋戻しの可能性があることから、これらの遺物はその際に混入したとも考えられる。また、SD82 溝跡は、西台烟遺跡第 9 次調査での堅穴住居跡との重複関係から、Ⅱ期官衙期の SI144 堅穴住居跡より新しい溝跡となるが、SD11 溝跡同様に掘り直しの痕跡がある（仙台市教委 2016）。SD11 溝跡が、Ⅱ期官衙に先行する時期の遺構であることは外溝との重複関係から明らかであるが、SD82 溝跡との交点を確認していないため開削時期に時間差があることも考えられる。

SA3 材木列は、西台烟遺跡第 11 次調査で確認したが搅乱のため検出長は僅か 3m 程度で、時期も不明であるが、位置的に河川跡の東側を同方向に伸びていた可能性がある（第 282 図）。西台烟遺跡第 7 次調査で確認された SA1 材木列が、同様に西側約 7 m に位置する河川跡（広瀬川）の方向とほぼ同方向に伸びていたことから、この周辺

が集落の西端となっている可能性も考えられる。河川跡と小規模な材木列が並走する同様の状況は、長町駅東遺跡集落の南端部の調査でも確認されている。

長町駅東遺跡では、集落の初期の段階から外周を区画する施設が造られており、造り替えられる際にその位置や方向が踏襲されていることや、区画施設が集落の立地する自然地形に合わせて造られたことが確認されている。一方、官衙の西に接している西台畠遺跡では、集落の外周を区画する施設が造られた可能性は低く、SA3 材木列のような小規模な施設が存在した可能性はあるが、なお検討を要する。

#### 第4節　まとめ

##### 郡山遺跡第243次調査

###### 縄文時代

(1) 基本層X層から縄文土器が出土している。いずれも破片資料ではあるが、縄文時代後期末葉に比定される。

###### 弥生時代

(1) 今回の調査区では、弥生時代の遺物包含層や遺構は確認できなかった。

###### 古墳時代後期～古代

(1) 検出された遺構は、竪穴住居跡 25 軒、掘立柱建物跡 8 棟、区画溝 1 条、土坑 4 基、ピット 145 基、河川跡である。

(2) 竪穴住居跡や区画施設である SD11 溝跡などから、6世紀末葉から 8世紀代に比定される土師器・須恵器が出土している。このうち、SI50 竪穴住居跡の掘り方から出土した土師器环（C-049）は、色調や胎土、調整が在地産の土師器環とは異なり、畿内系土師器と考えられる。

(3) 検出された竪穴住居跡は、詳細な帰属時期が不明なものが多いが、住社式期新段階から郡山Ⅱ期官衙期が主体で、奈良時代のものも認められる。

###### 中世以降

(1) 検出された遺構は、小溝状遺構群 4 群、溝跡 10 条である。

##### 西台畠遺跡第11次調査

###### 縄文時代

(1) 基本層X層から縄文土器が出土している。いずれも破片資料で、帰属時期を明確に出来なかった。

###### 弥生時代

(1) 基本層IV d 及びV層で、弥生時代の遺物包含層を検出した。

(2) 出土遺物には、弥生時代中期中葉の楕形壺式に比定される弥生土器や剥片石器が出土している。

###### 古墳時代後期～古代

(1) 検出された遺構は、竪穴住居跡 45 軒、掘立柱建物跡 2 棟、区画溝 1 条、材木列跡 1 条、溝跡 1 条、土坑 16 基、性格不明遺構 1 基、ピット 205 基、河川跡である。

(2) 竪穴住居跡や区画施設である SD82 溝跡などから、6世紀末葉から 8世紀代に比定される土師器・須恵器が出土している。

(3) 検出された竪穴住居跡は、詳細な帰属時期が不明なものが多いが、住社式期新段階から郡山Ⅱ期官衙期が主体で、奈良時代のものも認められる。

###### 中世以降

(1) 検出された遺構は、溝跡 9 条、井戸跡 25 基である。井戸跡から陶器と曲物が出土している。陶器は、常滑産、白石窯産、八郎窯産、在地産があり、時期は 13世紀中頃から 14世紀前半を主体とするものである。

#### 引用・参考文献

- 吾妻俊典  
石川日出志  
植松曉彦  
加藤道男  
菊池佳子  
北見一弘  
木本元治  
工藤信一郎  
斎野裕彦  
櫻井友祥  
佐藤隆  
仙台市教育委員会  
東北古代土器研究会  
東北古代土器研究会  
奈良佳子  
奈良文化財研究所  
奈良文化財研究所  
村田晃一  
村田晃一
- 2004 「多賀城とその周辺におけるクロコ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第 6 号 宮城県考古学会  
2005 「2. 仙台平野における弥生中期土器編年の再検討」『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』  
(課題番号 14310189) 平成 14 年度～16 年度科学研究費補助金（基礎研究 B (2)）研究成果報告  
2008 「山形県の 7・8 世紀の金属製品（刀劍・鐵劍）について」『出羽国ができるころー出羽建国期における南出羽の  
考古学ー』山形県うきたむ風土記の丘考古資料館  
1983 「宮城県における上源器研究の現状」『考古学論叢』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会  
1994 「多賀城以前の陸奥國と須恵器」『歴史』第 82 号 東北史学会  
2003 「刀子小考 I」『市原市文化財センター研究紀要 IV』財團法人市原市文化財センター  
1990 「南東北地方における歴史時代の須恵器編年 I」『伊東信雄先生追悼 考古学古代史論叢』伊東信雄先生追悼  
論文集刊行会  
2010 「長町駅東道路・西台烟道跡の集落について」『宮城考古学』第 12 号 宮城県考古学会国士館大学考古学会  
2009 「古代社会と地域間交流」六一書房  
2011 「東北地域」『講座日本の考古学 5 弥生時代（上）』青木書店  
2011 「古墳時代終末期から多賀城創建後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第 13 号 宮城県考古学会  
2007 「7・8 世紀陶器編年の再構築と都城出土資料の様相」『財團法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館  
大阪府立弥生博物館・大阪府立近づ飛鳥博物館 2005 年度 共同研究成果報告書』財團法人大阪府文化財センター  
1994 「南小泉道路第 22・23 次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第 192 集  
2005 「郡山道路発掘調査報告書一括括編一」仙台市文化財調査報告書第 283 集  
2007 「長町駅東道路第 4 次調査」仙台市文化財調査報告書第 315 集  
2008 「長町駅東道路第 1・2 次調査」仙台市文化財調査報告書第 324 集  
2008 「西台烟道跡第 6 次」『南小泉道路他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 326 集  
2009 「長町駅東道路第 3 次調査」仙台市文化財調査報告書第 340 集  
2010 「郡山道路第 144 次調査」仙台市文化財調査報告書第 358 集  
2010 「西台烟道跡第 1・2 次調査」仙台市文化財調査報告書第 359 集  
2010 「酒門道路第 4 ~ 34 次調査（第 9 分冊）」仙台市文化財調査報告書第 360 集  
2011 「西台烟道跡第 3 次調査」仙台市文化財調査報告書第 388 集  
2011 「郡山道路第 200 次調査」仙台市文化財調査報告書第 391 集  
2013 「西台烟道跡第 8 次調査」仙台市文化財調査報告書第 409 集  
2013 「西台烟道跡第 4・5・7 次調査」仙台市文化財調査報告書第 411 集  
2013 「郡山道路第 167・180・196 次調査」仙台市文化財調査報告書第 412 集  
2014 「西台烟道跡第 10 次」『山内 C 遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第 427 集  
2015 「西台烟道跡第 12 次調査」仙台市文化財調査報告書第 433 集  
2010 「カマドを有する堅穴住居の床面に埋め込まれた遺物」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2010』  
公益財團法人 福島県文化振興財团  
2005 「東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編一」<宮城> 研究報告 2  
2008 「東北古代土器集成—須恵器・窯跡編」<陸奥> 研究報告 3  
2003 「宮城県境の 7 世紀の須恵器」『古代東北北海道研究会資料』古代東北北海道研究会  
2003 「古代の官衙道路 I 道構編」  
2004 「古代の官衙道路 II 遺物・道路編」  
2000 「飛鳥・奈良時代の陸奥國北辺」『宮城考古学』第 2 号 宮城県考古学会  
2007 「v. 宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部